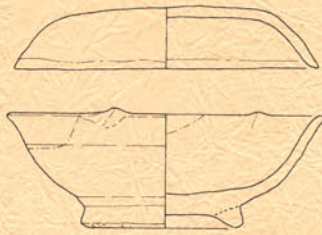


近畿自動車道(勢和～伊勢)

# 埋蔵文化財発掘調査報告

—— 第 6 分 冊 ——

蚊 山 遺 跡 左 郡 地 区



1993・3

三重県教育委員会  
三重県埋蔵文化財センター

近畿自動車道(勢和～伊勢)

# 埋蔵文化財発掘調査報告

————— 第 6 分 冊 —————





遺跡全景（西方上空から）



中世土器

# 序

近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる遺跡の現地発掘調査は昭和63年度後半期に開始され、平成3年度内に終了いたしました。

第9次区間の道路建設は、平成5年に予定されている伊勢神宮の式年遷宮、翌年の世界祝祭博覧会などを契機とした伊勢・志摩地方の経済と観光の基幹として実施されたもので、発掘調査の対象となったのは、伊勢市・多気郡多気町・度会郡玉城町の1市2町に所在する30遺跡であります。

調査後やむなく破壊された多くの遺跡について、わたくしどもに課せられた重要な責務の一つは、その膨大な記録を整理し、報告書という目に見える形で一日も早く世に公開することであると考えます。

近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる遺跡の発掘調査報告書は、第1分冊から第8分冊までの計8冊に分けて刊行する計画をたて、平成3年度に現地調査と並行して本格的な整理・報告書作成業務を開始いたしました。そして、既に第1分冊から第5分冊・第7分冊の計6冊の報告書を刊行しております。

今回は第6分冊ということで、平成元年度に発掘調査を実施しました蚊山遺跡左郡地区の報告をいたします。この報告書が地域の歴史と文化に対する理解の深まりの一助になることを期待しております。

なお、調査に際しましては、日本道路公団、県土木部近畿道対策室、伊勢市・多気町・玉城町の各関係機関はもとより、三重県土地開発公社及び地元の多くの方々に多大なるご理解とご協力を得ることができました。文末となりましたが、ここに心からのお礼を申し上げる次第でございます。

平成5年（1993）3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 久保富子



# 例 言

1. 本書は、平成4年度に三重県教育委員会が日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した、近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地内に所在する埋蔵文化財発掘調査（整理・報告書作成業務）にかかる報告書（第6～8分冊）のうち、蚊山（かやま）遺跡左郡（さこり）地区の報告書（第6分冊）である。

2. 当遺跡は度会郡玉城町岩出字左郡・塚名（つかな）に所在し、平成元年1月から2月に第1次調査（試掘調査）を、同年5月から翌年3月に第2次調査（本調査）を実施した。調査にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。

3. 調査は次の体制で行った。

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第2課第1係

[平成元年度]

主幹兼調査第2課長 山 澤 義 貴 主査 新 田 洋

第1係

主事 田 村 陽 一 主事 河 北 秀 実

主事 小 坂 宜 広 主事 山 崎 恒 哉

主事 江 尻 健 主事 伊 藤 裕 偉

主事 角 谷 泰 弘（伊勢市教育委員会より派遣）

主事 稲 本 賢 治（多気町教育委員会より派遣）

主事 前 川 嘉 宏（玉城町教育委員会より派遣）

(室内整理員)

反 町 瑩 子 谷久保 美知代 采 野 妙 子 吉 村 道 子

白 石 みよこ 山 分 孝 子 竹 内 由 美 田 中 智 子

反 町 有 子 山 中 学

[平成4年度]

調査第2課長 新 田 洋

第1係

主事 齋 藤 直 樹

主事 小 谷 定 男（伊勢市教育委員会より派遣）

主事 前 川 嘉 宏（玉城町教育委員会より派遣）

4. 現地調査については、試掘調査を小坂宜広・野田修久が、本調査を小坂宜広・稲本賢治・角谷泰弘・前川嘉宏が担当した。

5. 本書作成にあたっては、三辻利一（奈良教育大学）、水野正好（奈良大学）、亀井明德（専修大学）、菅原正明（財和歌山県文化財センター）、中野晴久（常滑市民俗資料館）、藤澤良祐（財瀬戸市埋蔵文化財センター）、橋本久和（高槻市埋蔵文化財センター）、岩中淳之（伊勢市教育委員会）、磯部 克（三重県立津西高等学校）、

奥 義次（三重県立松阪高等学校）の各氏をはじめ、多くの方々の助言を頂いた。記して感謝の意を表したい。  
〈順不同・敬称略〉

6. 本書の執筆者は目次に示した。三辻利一氏からは中世陶器の胎土分析についての報文をいただいた。本書に掲載した遺構写真は小坂・稲本・角谷・前川が、遺物写真は田村・前川がそれぞれ撮影した。挿図の作成および全体の編集は前川が担当した。

7. 当発掘調査については、既に刊行の『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報』VI（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1990.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告とする。なお、概報では単に「蚊山遺跡」と呼称していたが、発掘調査を実施した範囲が広大な面積をもつ蚊山遺跡の一部にすぎないことから、本書では調査区が所在する主な小字名をとり、「蚊山遺跡左郡地区」とした。

8. 蚊山遺跡左郡地区の調査の記録類および出土遺物は三重県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

9. 当調査区の位置は国土座標第VI系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。真北は座標北のN 0° 21′ W、磁北は座標北のN 6° 41′ Wである。

10. 当遺跡で使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。

S B	掘立柱建物	S A	柵	S E	井戸	S X	墓（古墳・中世墓）
S K	土坑	S D	溝	S R	道路	S Z	性格不明

11. 本書では、用語の漢字表記を次のように統一した。

どこう……………「土壙」「土塚」「土坑」があるが、墓と認識できるものについては「土壙」や「墓壙」を用い、それ以外のものないしは墓と確定・推定できないものについては「土坑」とした。

つ き……………「坏」「杯」があるが、「杯」を用いている。

わ ん……………「埴」「碗」「椀」があるが、「椀」を用いている。

な べ……………「埧」「鍋」があるが、「鍋」を用いている。

12. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、原則として土器が1/4、その他の遺物は1/2あるいは1/3とした。また、遺物写真は概ね1/3である。

**13. スキャニングによるデーヤー取り込みのため、若干のひずみが生じています。  
各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。**



# 目 次

I. 前 言 .....	1
1. 近畿自動車道第9次区間の調査経過 .....	新 田 … 1
2. 蚊山遺跡の範囲と地区名 .....	前 川 … 5
3. 蚊山遺跡左郡地区の調査経過と調査方法 .....	前 川 … 5
II. 位置と歴史的環境 .....	前 川 … 15
1. 位置・地形・地質 .....	15
2. 歴史的環境 .....	15
III. 調査の成果 .....	前 川 … 20
1. 層 序 .....	20
2. 弥生時代以前の遺物 .....	20
1. 縄文時代の遺物 .....	20
2. 弥生時代の遺物 .....	20
3. 古墳時代の遺構と遺物 .....	27
1. 古墳と古墳出土の遺物 .....	27
2. その他の遺構と出土遺物 .....	36
3. 中世遺構出土の遺物 .....	41
4. 包含層出土の遺物 .....	41
4. 中世の遺構と遺物 .....	41
1. 掘立柱建物 .....	42
2. 柵 .....	72
3. 井 戸 .....	72
4. 中世墓 .....	78
5. 土 坑 .....	92
6. 溝・道路 .....	105
7. その他の遺構 .....	110
8. 包含層・ピット出土の遺物 .....	110
IV. 出土遺物の観察 .....	前 川 … 111
V. 中世陶器の産地推定 .....	191
1. 蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の蛍光X線分析 .....	三 辻 利 一 … 191
2. 肉眼観察と胎土分析 .....	前 川 … 201
VI. 調査のまとめ .....	前 川 … 209

# 図版目次

- |      |  |      |              |
|------|--|------|--------------|
| 図版 1 | 調査区遠景<br>調査区全景   | 図版21 | 掘立柱建物出土遺物    |
| 図版 2 | S X53 (9号墳) 周辺<br>S X61 (11号墳), S X72 (12号墳) 周辺              | 図版22 | 掘立柱建物出土遺物    |
| 図版 3 | S B76・85・93・98周辺<br>S X215 (21号墳), S B158周辺                  | 図版23 | 掘立柱建物出土遺物    |
| 図版 4 | S X196 (20号墳), S B128周辺<br>調査区西部                             | 図版24 | 掘立柱建物出土遺物    |
| 図版 5 | S D43付近<br>S B 2   | 図版25 | 掘立柱建物・井戸出土遺物 |
| 図版 6 | S X53 (9号墳)<br>S X61 (11号墳) 付近                               | 図版26 | 掘立柱建物・井戸出土遺物 |
| 図版 7 | S B68<br>S X37 (7号墳), S B51・54                               | 図版27 | 井戸出土遺物       |
| 図版 8 | S B74, S X82 (14号墳)<br>S X82 (14号墳)                          | 図版28 | 井戸出土遺物       |
| 図版 9 | S B76・85・93・98<br>S X215 (21号墳)                              | 図版29 | 井戸出土遺物       |
| 図版10 | S B24<br>S K153付近  | 図版30 | 井戸出土遺物       |
| 図版11 | S R87, S D118付近<br>S D 8 付近                                  | 図版31 | 井戸出土遺物       |
| 図版12 | S B131・133・136・137<br>S B100・125・126・127・128                 | 図版32 | 井戸出土遺物       |
| 図版13 | S X196 (20号墳)<br>S E 3, S E56, S E134, S E172                | 図版33 | 井戸出土遺物       |
| 図版14 | S X 5, S X38, S X46, S X70                                   | 図版34 | 井戸出土遺物       |
| 図版15 | S X94, S X96, S X140, S X152<br>S X167, S X189               | 図版35 | 井戸出土遺物       |
| 図版16 | S X88, S X223, S X224, S X225<br>S K26, S K81, S K89, S K129 | 図版36 | 井戸出土遺物       |
| 図版17 | 弥生時代以前・古墳時代の遺物   | 図版37 | 井戸出土遺物       |
| 図版18 | 古墳時代の遺物  | 図版38 | 井戸出土遺物       |
| 図版19 | 古墳時代の遺物  | 図版39 | 井戸・中世墓出土遺物   |
| 図版20 | 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物  | 図版40 | 中世墓出土遺物      |
|      |  | 図版41 | 中世墓出土遺物      |
|      |  | 図版42 | 中世墓出土遺物      |
|      |  | 図版43 | 中世墓出土遺物      |
|      |  | 図版44 | 中世墓出土遺物      |
|      |  | 図版45 | 中世墓出土遺物      |
|      |  | 図版46 | 中世墓・土坑出土遺物   |
|      |  | 図版47 | 中世墓・土坑出土遺物   |
|      |  | 図版48 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版49 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版50 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版51 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版52 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版53 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版54 | 土坑出土遺物       |
|      |  | 図版55 | 土坑出土遺物       |



図版56	土坑出土遺物
図版57	土坑・溝出土遺物
図版58	土坑・溝出土遺物
図版59	溝出土遺物
図版60	溝出土遺物
図版61	溝出土遺物
図版62	溝出土遺物
図版63	溝出土遺物

図版64	溝出土遺物
図版65	溝出土遺物
図版66	溝出土遺物
図版67	溝出土遺物
図版68	溝・集石遺構出土遺物
図版69	溝・包含層・ピット出土遺物
図版70	包含層・ピット出土遺物

## 挿 図 目 次

第1図	近畿自動車道第9次区間（勢和～伊勢）内 遺跡位置図	2	第25図	S B 51・54実測図	49
第2図	遺跡地形図および遺跡周辺字切り図	9	第26図	S B 68・74実測図	50
第3図	小地区設定図	10	第27図	S B 76・85実測図	52
第4図	位置図	15	第28図	S B 93・97実測図	53
第5図	蚊山遺跡と周囲の遺跡位置図	16	第29図	S B 98実測図	54
第6図	遺構配置図	21～22	第30図	S B 100・112・125実測図	55
第7図	調査区平面図（1）	23～24	第31図	S B 126・127・128実測図	56
第8図	調査区平面図（2）	25～26	第32図	S K 129実測図	57
第9図	調査区北壁土層断面図（1）	28	第33図	S B 131実測図	59
第10図	調査区北壁土層断面図（2）	29	第34図	S B 133実測図	60
第11図	S X 49・53・60・75・95実測図	31	第35図	S B 136・137実測図	61
第12図	S X 75実測図	32	第36図	S B 141・142・143実測図	62
第13図	S X 37・61・72・82実測図	33	第37図	S B 145, S A 213実測図	63
第14図	S X 82実測図	34	第38図	S B 158実測図	65
第15図	S X 32・33実測図	35	第39図	S B 159実測図	66
第16図	S X 14・15実測図	37	第40図	S B 160・164・179実測図	67
第17図	S X 215実測図	37	第41図	S B 184・191・199実測図	68
第18図	S X 113・180・196実測図	38	第42図	S B 201・205・206実測図	69
第19図	S X 4・7・182・186実測図	39	第43図	S E 3・56・57・79・90実測図	74
第20図	S B 2実測図	43	第44図	S E 134・172・192実測図	75
第21図	S B 9・16・19実測図	44	第45図	S E 157・193・194・707実測図	76
第22図	S B 20・21・23実測図	45	第46図	S X 5・28・38・40・41・44実測図	80
第23図	S B 24・25実測図	46	第47図	S X 46・58・59・63・64・67・70実測図	81
第24図	S B 27・34実測図	48	第48図	S X 77・78・88・92・94・224実測図	84
			第49図	S X 96・106・120・138・139・170実測図	

.....	85	第75図	中世墓出土遺物実測図	.....	173
第50図	S X 140・149・151・152・162・165・168 実測図	第76図	中世墓出土遺物実測図	.....	174
第51図	S X 166・167・171・175・188・189・223・ 225実測図	第77図	中世墓出土遺物実測図	.....	175
第52図	S X 168周囲中世墓配置図	第78図	中世墓・土坑出土遺物実測図	.....	176
第53図	S K 45・81・83・84・86・89実測図	第79図	土坑出土遺物実測図	.....	177
第54図	S K 104・123・130・148・173・174・181 実測図	第80図	土坑出土遺物実測図	.....	178
第55図	S K 144・153・155A・155B・156・161・ 208実測図	第81図	土坑出土遺物実測図	.....	179
第56図	S K 204・209・214・221・222, S Z 132実 測図	第82図	土坑出土遺物実測図	.....	180
第57図	S K 153周囲土坑配置図	第83図	土坑出土遺物実測図	.....	181
第58図	S K 108・111実測図	第84図	土坑出土遺物実測図	.....	182
第59図	S D 8・17・35A・39土層断面実測図 .....	第85図	土坑・溝出土遺物実測図	.....	183
第60図	土師器小皿・皿分類図	第86図	溝出土遺物実測図	.....	184
第61図	土器細部の名称と計測位置図	第87図	溝出土遺物実測図	.....	185
第62図	弥生時代以前・古墳時代の遺物実測図 .....	第88図	溝出土遺物実測図	.....	186
第63図	古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物実測 図	第89図	溝出土遺物実測図	.....	187
第64図	掘立柱建物出土遺物実測図	第90図	溝出土遺物実測図	.....	188
第65図	掘立柱建物出土遺物実測図	第91図	溝出土遺物実測図	.....	189
第66図	掘立柱建物・井戸出土遺物実測図	第92図	溝・包含層等出土遺物実測図	.....	190
第67図	井戸出土遺物実測図	第93図	瀬戸群と猿投群の相互識別	.....	192
第68図	井戸出土遺物実測図	第94図	猿投群と知多群の相互識別	.....	193
第69図	井戸出土遺物実測図	第95図	渥美群と知多群の相互識別	.....	193
第70図	井戸出土遺物実測図	第96図	瀬戸産と推定された中世陶器のRb-Sr分 布図	.....	194
第71図	井戸出土遺物実測図	第97図	猿投・知多産と推定された中世陶器のRb-Sr分 布図	.....	194
第72図	井戸出土遺物実測図	第98図	渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分 布図	.....	194
第73図	井戸・中世墓出土遺物実測図	第99図	猿投・知多、渥美・湖西産と推定された中 世陶器のRb-Sr分布図	.....	194
第74図	中世墓出土遺物実測図	第100図	産地不明となった中世陶器のRb-Sr分布 図	.....	195
		第101図	主な遺構出土の土師器小皿・皿・鍋	.....	212
		第102図	I期・II期の遺構配置図	.....	216
		第103図	III期・IV期の遺構配置図	.....	217



# 表 目 次

第1表	近畿自動車道第9次区間（勢和～伊勢）内 発掘調査遺跡一覧 ……………	3～4	第10表	試料の分析データ ……………	196～200
第2表	遺構番号一覧 ……………	11～14	第11表	肉眼観察と胎土分析の整合率 ……………	202
第3表	古墳一覧 ……………	40	第12表	中世陶器の推定産地一覧 ……………	203～208
第4表	掘立柱建物一覧 ……………	70～71	第13表	時期別古墳一覧 ……………	209
第5表	井戸一覧 ……………	77	第14表	主な遺構出土の土師器皿・小皿平均計測値 一覧 ……………	211
第6表	中世墓一覧 ……………	90～71	第15表	時期別掘立柱建物規模一覧 ……………	214
第7表	土坑一覧 ……………	102～103	第16表	B型中世墓の底部規模一覧 ……………	214
第8表	溝一覧 ……………	109	第17表	時期別中世遺構一覧 ……………	215
第9表	出土遺物観察表 ……………	113～159			

# I. 前 言

## 1. 近畿自動車道第9次区間の調査経過

近畿自動車道関・伊勢線（伊勢自動車道）は三重県鈴鹿郡関町を起点とし伊勢市に至る全長68.7kmの高速自動車道である。この路線は、三重県中南勢地域と近畿・中京両経済圏を結ぶ重要幹線道路として、一般国道23号線・42号線の交通混雑の緩和を図るとともに伊勢湾沿岸および内陸部の産業開発、伊勢志摩、紀州方面への膨大な観光交通に対するサービス等重要な使命をもつといわれている。

全ルートのうち、関ジャンクションから久居インターチェンジ間は昭和50年10月に、久居インターチェンジから勢和多気インターチェンジ間（第8次区間）は平成2年12月に供用が開始されている。

第9次区間（勢和～伊勢）は、第8次区間（久居～勢和）の延長路線で、勢和多気インターチェンジから勢和村、多気町、玉城町、伊勢市をほぼ東西に横断して伊勢インターチェンジに至る延長21.5kmの区間である。この建設区間については、昭和47年に基本計画、同57年に整備計画が、そして同60年2月に建設大臣から日本道路公団に施行命令が出されている。また、翌3月には実施計画認可と路線発表がなされている。

さて、第9次区間建設にかかる埋蔵文化財の保護、調整協議については、昭和50年段階に建設省名阪国道工事事務所、県土木部道路建設課と県教育委員会文化課との協議と現地立会い調査というかたちで開始された。また、事業地内にかかる埋蔵文化財の分布調査については、県教育委員会文化課が県文化財調査員等の協力のもと昭和53・55・56年度に3次にわたって実施し、昭和56年3月14日付の教文第429号文書で県道路建設課長あてに「近畿自動車道伊勢線関係遺跡分布調査結果報告について」として公文書通知を行っている。

その後については、第8次区間の埋蔵文化財発掘調査の体制作りと諸準備に追われたかたちとなり、昭和59年度末には第8次区間の現地発掘調査を実施するに至った。この第8次区間の現地発掘調査は昭和59年度を皮切りに開始され、昭和63年度前半までの足かけ5年余りの期間が費やされた。

第9次区間の遺跡取り扱いについては、昭和61年度になって具体的に浮上し、試掘計画等について日本道路公団と調整・協議するに至った。また、昭和62年度初めには、再度第9次区間建設予定地についての遺跡確認と分布調査を実施した。この段階で公団あてに提示した遺跡は合計26件、面積にして114,200㎡である。

なお、この第9次区間については、その後の新発見遺跡等についての協議を経て、多気町で1件（佐奈水銀鉱山跡）、玉城町で1件（泉貢窯跡）、伊勢市で2件（大谷古墳、古市・中之地藏町遺跡）の合計4件の遺跡が追加された。

以上のような経過を経て、第9次区間の現地における埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年度の後半に開始され、3年余りの期間を費やして平成3年度末に終了した（第1図、第1表）。

なお、調査の円滑推進にあたっては、日本道路公団松阪工事事務所、県土木部近畿道対策室、伊勢市建設部近畿自動車道対策室他、伊勢市・多気町・玉城町の各教育委員会に、現地にあたっては各地元自治会をはじめ、多くの方々のご援助・ご協力を得ました。加えて、発掘調査業務については三重県土地開発公社のご協力をいただきました。文末となりましたが、ここに記して厚くお礼申し上げます。

（新田 洋）

第1図 近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)内遺跡位置図(1:100,000)





番号	遺 跡 名	所 在 地	調査面積 (㎡)		調 査 期 間	担 当 者	概 要	分冊
1	王子谷遺跡	多気町前村	48	計192	1989. 2. 6～ 2. 7	小坂宜広・山崎恒哉	(試掘) 遺構なし、遺物細片	1
			144		1990. 1.12～ 1.18	伊藤裕偉	(試掘) 遺構なし、遺物細片	
2	桃谷 (古墳)	多気町前村・五桂	27	27	1990. 1.18～ 1.22	伊藤裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	
3	ツツジ (古墳)	多気町五桂	20	20	1990. 1.22～ 1.23	伊藤裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	
4	牛バサマA遺跡	多気町野中	304	3,304	1989. 1. 9～ 2. 7	山崎恒哉	(試掘)	
			3,000		1989.11.17～1990. 1.11	山崎恒哉	縄文時代以降の土器出土	
5	牛バサマB遺跡	多気町野中	336	5,836	1988.12.12～1989. 1.19	山崎恒哉	(試掘)	
			5,500		1989. 5.22～ 8. 8	江尻 健	鎌倉時代の掘立柱建物検出	
6	ヒジヤ口遺跡	玉城町原	288	288	1988.11.28～12. 1	小坂宜広・野田修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量	
7	のせんじ遺跡	玉城町積良	96	96	1988.12. 2～12. 7	小坂宜広・野田修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量	
8	浦ノ内遺跡	玉城町積良	192	2,692	1989. 2.22～ 3. 3	小坂宜広・野田修久	(試掘)	
			2,500		1990. 2. 8～ 3.22	江尻 健	縄文時代以降の土器出土	
9	上ノ垣内遺跡	玉城町山神	208	208	1988.12.20～12.26	小坂宜広・野田修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量	
10	山神城跡西老谷地区 (富ヶ城跡)	玉城町山神	286	2,466	1990. 5.15～ 6. 1	稲本賢治	(試掘)	
			2,180		1990. 7.20～12.27	稲本賢治・大川勝宏	中世の堀切などを検出	
11	山神城跡ベト谷地区 (山神東城跡)	玉城町山神	441	4,363	1990. 5.15～ 6. 1	稲本賢治	(試掘)	
			3,922		1990. 7.20～12.27	稲本賢治・大川勝宏	中世の堀切・墓などを検出	
12	里山 (古墳)	玉城町山神	30	30	1990. 2.13～ 2.14	江尻 健	(試掘) 遺構・遺物なし	
13	楠ノ木遺跡	玉城町勝田	2,032	8,922	1990. 5.16～ 6. 5	田村陽一	(試掘)	
			6,890		1990. 6.29～11.17	伊藤裕偉	平安時代末～室町時代後半の 屋敷地や墓地などを検出	
14	矢倉戸前 (古墳)	玉城町宮古	20	20	1989. 9. 1～ 9. 6	伊藤裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	
15	蚊山遺跡左郡地区 (蚊山遺跡)	玉城町岩出	587	12,087	1989. 1. 6～ 2. 7	小坂宜広・野田修久	(試掘)	
			11,500		1989. 5.16～1990. 3.20	小坂宜広・稲本賢治 角谷泰弘・前川嘉宏	古墳、中世の掘立柱建物跡・ 墓などを多数検出	
16	蚊山遺跡所り垣地区 (宮地遺跡)	玉城町岩出	144	3,344	1989. 1.26～ 2. 2	小坂宜広・野田修久	(試掘)	
			3,200		1989. 5.22～ 9.21	山崎恒哉・稲本賢治	平安時代末の墓、鎌倉時代の 掘立柱建物などを検出	
17	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町	400	2,500	1989. 9.18～10. 3	田村陽一	(試掘)	
			2,100		1989.11.13～12.23	前川嘉宏	平安時代末葉の掘立柱建物な どを検出	

第1表 近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)内発掘調査遺跡一覧

番号	遺 跡 名	所 在 地	調査面積 (㎡)		調 査 期 間	担 当 者	概 要	分冊
18	寺原B遺跡	伊勢市佐八町	224	724	1989. 9.18~10. 3	田村陽一	(試掘)	5
			500		1989.11.14~1990. 1.14	角谷泰弘	鎌倉時代前半の掘立柱建物などを検出	
19	ハノカ遺跡	伊勢市津村町	208	3,739	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	7
			147		1990. 5.31~ 6.11	角谷泰弘	(試掘)	
	2,100	1990. 5.31~ 8. 1	角谷泰弘		縄文時代・鎌倉時代の遺物出土			
	口山田遺跡	伊勢市津村町 佐八町	584		1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	
			700		1990. 5.31~ 8. 1	角谷泰弘	集石遺構を検出	
20	落合古墳群	伊勢市津村町	151	3,316	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	
			3,165		1990. 5.11~ 9.21	伊藤裕偉	4世紀末頃~6世紀前葉の群集墳	
21	井戸谷遺跡	伊勢市前山町	336	336	1990. 3.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘) 明確な遺構なし	8
22	河原谷遺跡	伊勢市前山町	100	100	1990.10.11~10.17	角谷泰弘・川崎正幸	遺物少量出土	
23	亀谷郡C遺跡 (世義寺跡)	伊勢市前山町	312	2,507	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	
			2,195		1990. 5. 7~ 7. 9	齋藤直樹・前川嘉宏	経文が記された陶経筒片出土	
24	中起遺跡	伊勢市勢田町	257	257	1990.10.16~10.23	伊藤裕偉	(試掘) 遺構なし	
25	蝮尾遺跡	伊勢市久世戸町	32	32	1991. 8.19	河瀬信幸	(試掘) 遺構・遺物なし	
26	奥遺跡	伊勢市楠部町	494	494	1990.10.23~11. 1 1991. 1. 4~ 1.16	齋藤直樹	(試掘) 遺 構なし、遺物少量	
27	泉貢窯跡	玉城町積良	330	2,886	1989. 5.22~ 5.29	伊藤裕偉	(試掘)	
			2,556		1990. 8.28~11.20	前川嘉宏・川崎正幸	10世紀前半頃の須恵器窯1基検出	
28	佐奈水銀鉱山跡	多気町前村	400	400	1990. 1.16~ 3.30	田村陽一	2基の採掘坑口周辺を調査	1
29	大 谷 (古 墳)	伊勢市佐八町	120	120	1990. 7. 2~ 7. 7	前川嘉宏	(試掘) 遺物・遺物なし	8
30	古市・中之地藏町遺跡	伊勢市中之町 桜木町	127	2,287	1990.10.22~11. 5	角谷泰弘	(試掘)	
			850		1991. 6.22~ 8.31	角谷泰弘・河北秀実	近世以降の町並の遺構を検出	
			420		1991. 8.20~ 9.16	前川嘉宏・角谷泰弘		
			220		1991.11.18~12. 8	角谷泰弘		
			670		1992. 1.10~ 3.31	河北秀実		

## 2. 蚊山遺跡の範囲と地区名

昭和55年（1980）8月、近畿自動車道建設予定地内の遺跡分布調査が度会郡玉城町岩出で実施された。その時、字蚊山（かやま）から字宮地（みやじ）にわたる約10,000㎡の範囲で中世の土器片が表面採取されたことから、県道伊勢・大宮線を境として西側を「蚊山遺跡」、東側を「宮地遺跡」と呼称するようになった。（小字の位置は第2図を参照）

昭和62年（1987）、近畿自動車道第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地についての遺跡確認と分布調査が再度実施された。この時点で、中世の遺物が岩出字塚名（つかな）・左郡（さこり）・所り垣（しよりがき）でも採取されたことから、「蚊山遺跡」と「宮地遺跡」の範囲はそれぞれ北方へ大きく広げて考えられるようになった。

平成元年（1989）度に近畿自動車道建設予定地内の発掘調査を実施した際には、従来の遺跡名を踏襲して、県道の西側の調査区（字左郡・塚名）を「蚊山遺跡」、東側の調査区（字所り垣・塚名）を「宮地遺跡」と呼称していた。しかし、その後の検討により、この2つの調査区を一連の遺跡としてとらえ、

それぞれの調査区名を「蚊山遺跡左郡地区」、「蚊山遺跡所り垣地区」と改称した。この時点で「宮地遺跡」という遺跡名は使用しなくなり、県道を挟んだ遺跡範囲約50,000㎡全てを「蚊山遺跡」と呼ぶことになった。

平成2年（1990）9月から12月にかけて、左郡地区の北側に隣接する地域で県道改良事業に伴う発掘調査（約3,500㎡）が三重県埋蔵文化財センターによって実施された。この調査でも左郡地区や所り垣地区と一連のものと考えられる多数の遺構が検出されことから、この調査区を「蚊山遺跡ケカノ辻・角垣内（すみがいと）地区」と呼称することにした。現在のところ、岩出集落の南側に広がる段丘面のほぼ全域にわたる約150,000㎡を蚊山遺跡と呼ぶようになっている。

なお、平成4年（1992）10月から11月に、蚊山遺跡蚊山地区でも県道改良事業に伴う発掘調査（約1,050㎡）が実施され、鎌倉時代の掘立柱建物2棟、18世紀から19世紀頃のものと思われる瓦窯などの遺構が検出されている。

## 3. 蚊山遺跡左郡地区の調査経過と調査方法

### 1. 調査経過

近畿自動車道第9次区間の埋蔵文化財発掘調査が開始された昭和63年（1988）度の冬、主事小坂広広と野田修久を担当として蚊山遺跡左郡地区の第1次調査（試掘調査）が実施された。調査期間は平成元年（1989）1月6日から同年2月7日までで、調査面積は587㎡であった。その結果、第1次調査の対象となった範囲のほぼ全域を本調査（第2次調査）することとなった。

第2次調査（本調査）は、平成元年（1989）5月16日に開始した。発掘作業は、自動車道建設工事の都合で全面を一気に行うことができず、まず、調査区の北縁に建設される側道部分幅8m（以下、北縁部と呼ぶ）の調査、次に調査区の南縁に建設される側道部分幅10m（以下、南縁部と呼ぶ）の調査、最

後に本線部分の調査という作業能率のきわめて悪い工程をとらざるを得なくなった。現地での調査は平成2年（1990）3月20日に終了し、最終調査面積は11,500㎡となった。

なお、第2次調査の現地調査担当者は小坂が全期間を通じて、角谷と前川が5月から10月まで、稲本が9月から翌年3月までである。

### 2. 現地調査の方法

蚊山遺跡左郡地区の発掘調査における調査及び整理の方法は、原則として近畿自動車道関・伊勢線第8次区間（久居～勢和）の調査方法に則って行った。

#### 地区割（第3図）

調査に際しては、調査区全域に4×4mの小地区を設定した。小地区割りの基本軸は、道路センター

測点 S T A 603+20を原点とし、S T A 601+80を視準したラインである。各小地区には基本軸に直交してアルファベット、基本軸に沿って数字を与え、各小地区の南西隅の杭を小地区の名称とした。

#### 遺構カード

遺構カードは小地区毎に作成し、遺構の位置、形態、重複関係等の略図を遺構検出後、掘り下げまでに記入することにした。遺構番号は全遺構を通した通し番号を与えた。ただし、多数あるピットについては小地区別に通し番号を与えた。

#### 写真撮影

遺構等の写真撮影は原則として6×7cm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）及び35mm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）による。また、35mmデータカメラ（カラーネガ）でも同一カットの撮影をするほか、作業進捗状況を記録する撮影も行った。使用したカメラはアサヒペンタックス67（6×7cm版）・ニコンF-501AF（35mm版）である。

#### 遺構実測

遺構実測は国土座標（第Ⅵ座標系）に基づいて行った。なお、測量方法は空中写真測量を導入したが、北縁部と南縁部では遣り方実測を実施した。

### 3. 資料整理の方法

#### 遺構実測図・遺物実測図

本遺跡の遺構実測図の整理番号は「遺跡番号－図面通し番号」とし、15-0001から15-0214まで存在する。遺物実測図の整理番号は「遺構番号－遺構別遺物実測図通し番号」とした。たとえば、S E 172から出土した遺物の整理番号は172-001から172-179までである。また、包含層やピットから出土したものは000-001からとした（第2表）。これらの図面はファイルに収納し、整理番号、図面の内容、縮尺等を記入した一覧表を2部作成し、1部を各図面ファイルに貼付、他の1部を図面台帳とし。なお、各図面ともマイクロ撮影した。

#### 遺構写真・遺物写真

モノクロ写真はベタ焼きとともにネガアルバムに貼付整理し、各コマ毎に地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した。35mm版のカラーライドは各コマの枠毎に15-0001～15-0989の整理番号を付

し、地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した一覧表を2部作成した。一覧表は、1部をスライドファイルへ貼付し、1部を台帳として保管した。

#### 拓本

拓本は、報告書挿図等に使用する時はコピーを使い、原本は台紙に貼り付けてファイルに保管した。

### 4. 調査日誌抄

#### 第1次調査（小坂・野田）

－1月－

6日(金)・7日(土) 試掘グリッド設定。

10日(火)～13日(金) S 25とR 29から掘削開始。試掘坑合計9箇所掘削。S 25から中世の土師器片多数出土。R 44・S T 44でピット検出。

17日(火)～19日(木) 試掘坑7箇所掘削。P 40・T 47でピット検出。

26日(木)・27日(金) 試掘坑20箇所掘削。多数の試掘坑で溝・ピット等の遺構検出。

－2月－

1日(水) Q 78掘削。

7日(火) Q 21・N 24・N 28・M 44掘削。遺物少量出土。第1次調査終了。

#### 第2次調査

－5月－（小坂・前川・角谷）

16日(火) 現地にて三重県土地開発公社と土木業者（(株)宮本組）との打合せ。北縁部から発掘調査を開始することを説明。

17日(水) 北縁部の調査範囲確定の杭打ち。

18日(木) 北縁部東端よりバックフォーによる表土除去作業開始。

19日(金) 表土除去作業と並行して小地区杭設定。

20日(土) 発掘用具搬入。

22日(月) 人力による包含層掘削と遺構検出開始。

23日(火) ベルトコンベアー10台搬入。

24日(水) ベルトコンベアーの設置。

26日(金) 北縁部の包含層掘削

29日(月) S D 6・S X 7を検出。S E 3の掘削中にS X 5を検出。

30日(火) 北縁部にかかるS D 8の掘削開始。完形に近い土師器皿・鍋等の土器が多量に出土。

31日(水) S D 8がかなり深いことが判明。

－ 6 月－ （小坂・前川・角谷）

- 1 日(木) S D 8 付近の遺構掘削。S X 15 から須恵器杯身・杯蓋出土。S X 15 は古墳の周溝である可能性が大きいことから、S X 4 ・ S X 7 も古墳であろうと判断。
- 2 日(金) S D 8 の続きを確認するため、作業計画に大きな影響を及ぼさない程度で本線部分へ向かって調査範囲を広げる。
- 5 日(月) S D 8 の掘削。79～76 ラインの遺構輪郭が不明瞭なため、検出作業を繰り返す。S E 3 の掘削完了。調査区北壁土層断面図の一部作成。
- 6 日(火)～ 8 日(木) 北縁部 91～81 ラインの写真撮影。S D 8 の掘削。
- 12 日(月) S D 8 ・ 10 ・ 17、S K 12、S X 14 ・ 15 等の遺構検出と掘削。これらの遺構が複雑に絡み合っているため作業遅れる。
- 14 日(水) 北縁部 68～59 ラインの遺構検出。
- 19 日(月)～21 日(水) 北縁部 58～40 ラインの遺構検出。S X 32 の掘削完了。S D 8 の掘削完了。
- 26 日(月) 北縁部 79～58 ラインの写真撮影と 91～81 ラインの遺構実測実施。
- 27 日(火) S X 49 ・ S D 39 付近の遺構検出。包含層が薄く、遺構も複雑なものが少ないため、作業はハイペースで進み始める。
- 29 日(木)・30 日(金) 29～19 ラインの遺構検出。S D 39 ・ S D 43 ・ S K 45 の掘削。

－ 7 月－ （小坂・前川・角谷）

- 1 日(土) 北縁部 80～59 ラインの遺構実測準備。
- 3 日(火)～ 6 日(木) 北縁部 39～19 ラインの遺構検出。S D 43 の掘削は、湧水のためにペースダウン。S X 37 ・ S X 38 の掘削ほぼ完了。S X 38 からほぼ完形の鍋が出土したことから中世墓と判断。
- 7 日(金) 北縁部 80～59 ラインの遺構実測（1/20）開始（15 日に完了）。S D 43 の掘削ほぼ完了。
- 10 日(月) 北縁部の遺構掘削ほぼ完了。これまでは北縁部の東端から西端へ作業を進めてきたが、これからは、本線部分の西端から東方向へと進める。
- 12 日(月)～14 日(金) 28～39 ラインの遺構検出。西側ほど遺構が薄く、調査はハイペースで進む。
- 17 日(月)～20 日(木) 35～40 ラインの遺構検出。S X 53 の掘削。S E 56 ・ 57 検出。北縁部 56～23 ラインの

写真撮影。

- 21 日(金)・21 日(土) 北縁部 58～40 ラインの遺構実測
- 24 日(月)～27 日(木) 雨天続きで、現場での作業は全く進まず。北縁部の道路公園への引き渡し期限は 7 月中であったが、引き渡し要求面積がやや増えたかわりに期限が 8 月末に延びる。
- 28 日(金) 北縁部 39～19 ラインの遺構実測開始（8 月 4 日に完了）。
- 31 日(月) 40～53 ラインの遺構検出。
- － 8 月－ （小坂・前川・角谷）
- 1 日(火) 40～59 ラインの遺構検出。玉城町立下外城田小学校 5 ・ 6 年生約 60 名の体験発掘。
- 4 日(金) 51～52 ラインの遺構検出。S D 36 ・ S X 72 付近の遺構掘削。
- 5 日(土) 32～41 ラインの遺構実測（1/20）開始（25 日に完了）。
- 7 日(月)・ 8 日(火) 調査区北壁土層断面図作成完了。S B 68 付近の遺構検出と掘削。
- 9 日(水)～17 日(木) 9 日～11 日は悪天候のため、12 日～17 日は盆休みのため作業なし。
- 18 日(金) 46～55 ラインの遺構検出と掘削。玉城町立下外城田小学校 5 ・ 6 年生約 20 名の体験発掘。
- 19 日(土) 作業が遅れてきたため土曜日にも現場実施。
- 21 日(月)～24 日(木) S D 35 B 付近の遺構掘削。S X 82 は横穴式石室であると判明。
- 28 日(月) 北縁部の調査を全て完了し、日本道路公園へ引き渡す。北縁部埋め戻し開始。

- 29 日(火) S D 35 A 付近の遺構検出。南縁部の南縁に沿った幅 10 m を 11 月中に日本道路公園に引き渡すことになったため、本線部分の調査と並行して、南縁部の包含層掘削を急遽開始する。
- 30 日(水)～31 日(木) 54～57 ラインの遺構掘削。S E 56 ・ 57 の掘削。

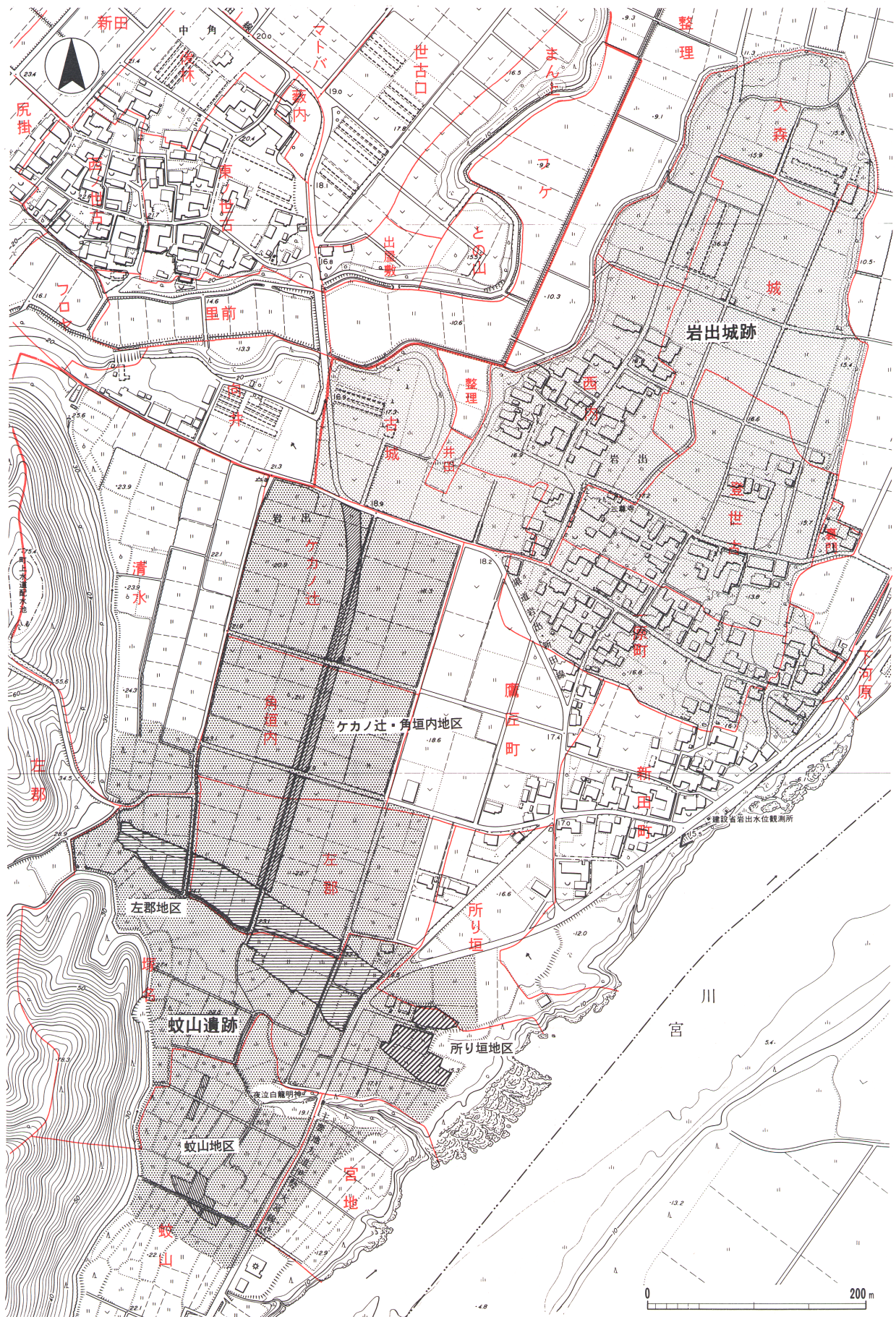
－ 9 月－ （小坂・前川・角谷・稲本）

- 1 日(金) S D 35 A 付近の遺構掘削。
- 4 日(月)～ 7 日(木) 悪天候のため作業遅れる。
- 11 日(月)～14 日(木) 南縁部 66～68 ラインの遺構検出と掘削。S D 35 A 付近の遺構掘削。
- 18 日(月) 南縁部 70 ライン付近の遺構検出。S D 35 A 付近の遺構掘削。
- 20 日(水)～22 日(金) 南縁部 71～73 ラインの遺構検出と



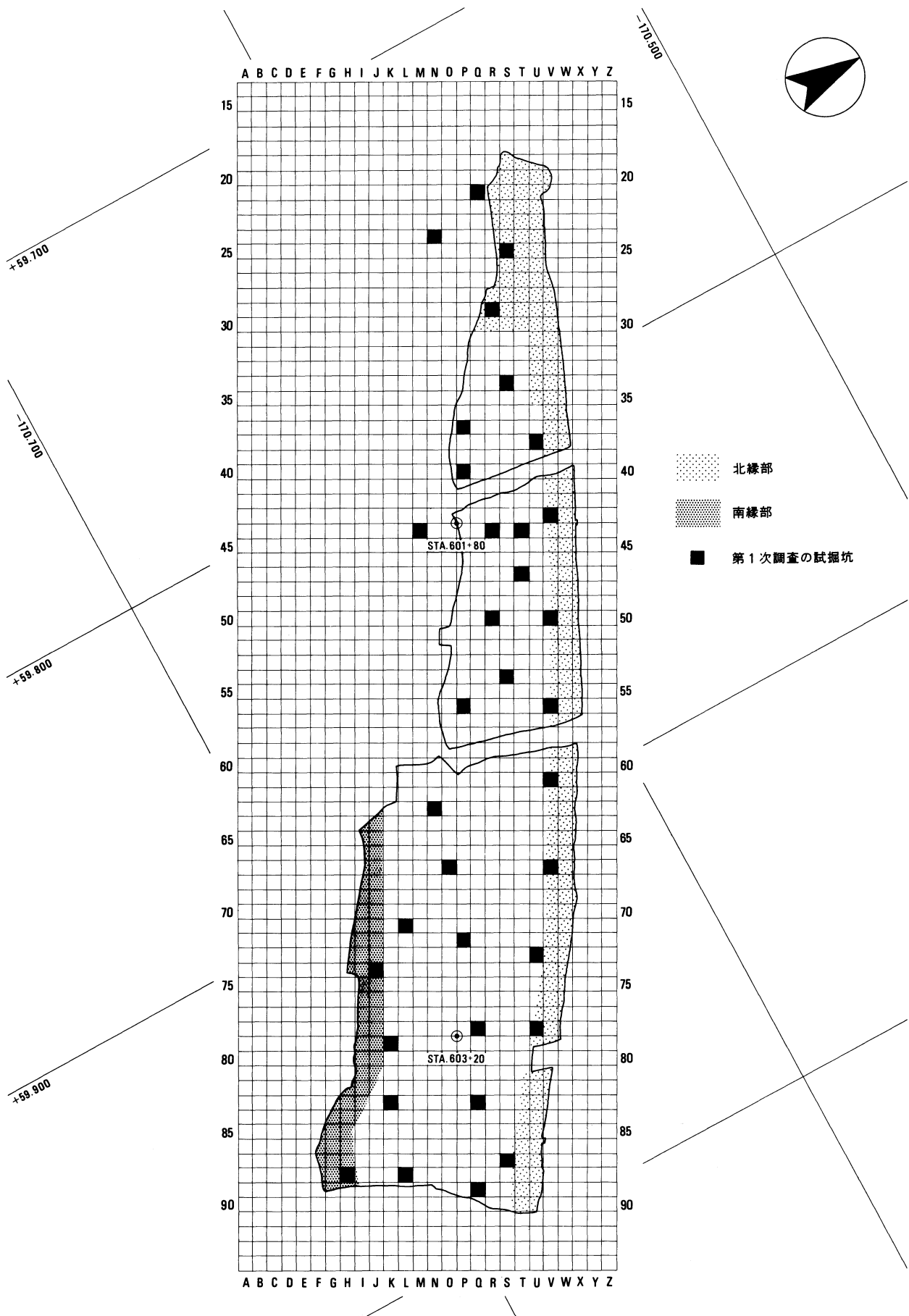
- 掘削。S D35Aの掘り下げがようやく完了したため、点在する掘り残しの遺構掘削と図面作成を急ピッチで進める。
- 25日(月)～29日(金) 南縁部の遺構掘削をほぼ完了。本線部分南半(L～Nライン)の包含層掘削と遺構検出を東端から開始。
- －10月－ (小坂・前川・角谷・稲本)
- 2日(月)～5日(木) 本線部分南半78～66ラインの遺構検出と掘削。好天が続いたことと作業員の出が良いことから、作業は順調に進む。
- 6日(金) リフト車による写真撮影(40～58ライン全域と南縁部)。
- 9日(月)・12日(木) 本線部分南半74～62ラインの遺構検出と掘削。S K153から土師器多量に出土。
- 13日(金) 南縁部の遺構実測(1/20)開始(19日に完了)。ヘリコプターによる調査区斜め写真撮影。
- 16日(月) 本線部分南半の遺構掘削ほぼ完了。
- 20日(金)・21日(土) 本線部分北半(O～S)80～70ライン遺構検出と掘削。このところ雨天が多い。
- 23日(月)～26日(木) 90～88ライン全体の遺構検出と掘削。礫が多いため作業はかどらず。
- 30日(月) 南縁部と本線部分南半の個別遺構写真撮影。
- －11月－ (小坂・稲本)
- 1日(水) 本線部分87～85ラインの遺構検出と掘削。南縁部を日本道路公団に引き渡す。
- 6日(月)・9日(木) 本線部分85～83ラインの遺構検出と掘削。S E193の掘削開始。
- 14日(火)～17日(金) 本線部分82～73ラインの遺構検出と掘削。S E193から土器多量に出土。包含層掘削が終わりに近づいたため、以後、作業員の人数を20人程度に削減。
- 20日(月)～22日(水) 本線部分72～68ラインの遺構検出。S D8の残りの部分の検出と掘削。
- 24日(金) 調査区全体の包含層掘削ほぼ完了。
- 27日(月)～30日(木) 調査区全体の遺構検出がほぼ完了したため、以後は掘り残してある遺構の掘削と図面作成が主な作業となる。
- －12月－ (小坂・稲本)
- 1日(金) S E172から土師器皿多数出土。
- 4日(月)～7日(木) 主に井戸の掘削。
- 11日(月)～14日(木) 主に井戸の掘削。
- 15日(金) 現地説明会の準備。
- 16日(土) 午前中現地説明会の準備。午後2時から現地説明会実施。約120人が参加。
- 18日(月) 現地説明会の後片付け。
- 19日(火)～22日(金) 主にS E172・S E193・S E207の掘り下げ。22日にベルトコンベアを全て撤去。
- 25日(月) S E172の掘削。年末年始休みに入るため、調査区全面にシートをかける。
- －1月－ (小坂・稲本)
- 8日(月)～12日(金) 空中写真測量(18日に予定)に向けての遺構の掘削と清掃を進める。
- 18日(木) 例年にない大雪が降り、作業が遅れ、遺構面も荒れたため空中写真測量を20日に延期。調査区の清掃を再度実施。
- 20日(土) 天候が悪く空中写真測量を再び延期。26日を実施予定日とする。
- 22日(月)～25日(木) 空中写真測量に向けての清掃をするが、雪や霜柱のために遺構面がかなり荒れる。S E172の掘削を続ける
- 26日(金) ようやく空中写真測量を実施。
- 30日(火)・31日(水) 掘立柱建物の柱穴断ち割り。遺構の個別写真撮影。
- －2月－ (小坂・稲本)
- 2日(金) このところ天候悪く、作業あまり進まず。
- 5日(月)～8日(木) 遺構の個別写真撮影。作業員の仕事は8日で終わり。
- 26日(月)～28日(水) バックフォアを使い、人力で完掘できなかった井戸の断ち割りとS X82の南端部の検出を実施。
- －3月－ (小坂・稲本)
- 1日(木)～7日(火) 51ライン以西の個別遺構実測図の作成。掘立柱建物の柱穴断ち割りと実測。
- 8日(木) 51ライン以西を日本道路公団へ引き渡す。
- 9日(金)～19日(月) 51ライン以东の個別遺構実測図の作成。掘立柱建物の柱穴断ち割りと実測。
- 20日(火) 調査区全てを日本道路公団へ引き渡し、現地での調査を終了する。

(前川)



第2図 遺跡地形図および遺跡周辺字切り図 (1 : 5,000)

※字界線は、昭和20年頃のものであり、現行と異なる部分もある。



第3図 小地区設定図 (1:1,500)



遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
包含層 他	000-001~049	43	54.0	土坑 SK29	029-001~002	2	0.5
溝 SD1	001-001	1	0.2	土坑 SK30	030-001	1	0.1
建物 SB2	002-001~002	2	0.1	土坑 SK31	031-001~002	2	0.2
井戸 SE3	003-001~007	7	0.5	5号墳 SX32	032-001~007	7	1.0
1号墳 SX4	004-001	1	0.5	6号墳 SX33	—	—	0.1
中世墓 SX5	005-001~005	5	1.0	建物 SB34	—	—	0.1
溝 SD6	006-001	1	0.2	溝 SD35	035-001~038	36	10.0
2号墳 SX7	—	—	—	溝 SD36	036-001~003	3	0.5
溝 SD8	008-001~191	85	41.0	7号墳 SX37	037-001~005	5	1.5
建物 SB9	009-001~002	2	0.1	中世墓 SX38	038-001~005	4	1.0
溝 SD10	011-001~018	18	5.0	溝 SD39	039-001~030	30	6.0
溝 SD11	011-001~006	5	2.5	中世墓 SX40	040-001~007	7	0.5
土坑 SK12	012-001~018	16	3.0	中世墓 SX41	041-001~009	8	1.0
溝 SD13	013-001~002	2	0.2	溝 SD42	042-001~003	3	0.2
3号墳 SX14	—	—	—	溝 SD43	043-001~054	29	9.0
4号墳 SX15	015-001~005	6	1.0	中世墓 SX44	044-001~002	2	0.5
建物 SB16	—	—	—	土坑 SK45	045-001~013	10	4.0
溝 SD17	017-001~005	5	0.5	中世墓 SX46	046-001~013	13	2.5
溝 SD18	018-001~005	5	1.0	溝 SD47	047-001	1	0.1
建物 SB19	—	—	0.1	土坑 SK48	048-001~008	8	2.0
建物 SB20	—	—	—	8号墳 SX49	—	—	0.1
建物 SB21	—	—	0.1	溝 SD50	050-001~002	2	0.1
土坑 SK22	022-001~009	5	0.5	建物 SB51	051-001~002	2	0.1
建物 SB23	023-001	1	0.1	9号墳 SX53	053-001~004	4	1.5
建物 SB24	024-001~004	4	0.2	建物 SB54	054-001	1	0.1
建物 SB25	—	—	—	溝 SD55	—	—	—
土坑 SK26	026-001~006	4	0.5	井戸 SE56	056-001~031	25	5.0
建物 SB27	027-001~005	5	0.1	井戸 SE57	057-001~016	14	1.0
中世墓 SX28	028-001	1	1.0	中世墓 SX58	—	—	—

第2表 遺構番号一覧

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
中世墓 S X 5 9	059-001~002	2	0.2	中世墓 S X 8 8	—	—	—
10号墳 S X 6 0	—	—	—	土坑 S K 8 9	089-001	1	0.2
11号墳 S X 6 1	061-001	1	0.2	井戸 S E 9 0	090-001~031	24	5.0
溝 S D 6 2	062-001~002	2	0.1	道路 S R 9 1	—	—	—
中世墓 S X 6 3	063-001~002	2	0.2	中世墓 S X 9 2	092-001	1	0.2
中世墓 S X 6 4	064-001~002	2	1.5	建物 S B 9 3	093-001~005	3	0.2
土坑 S K 6 5	065-001~003	3	0.1	中世墓 S X 9 4	—	—	—
土坑 S K 6 6	066-001~002	2	0.1	15号墳 S X 9 5	—	—	0.1
中世墓 S X 6 7	067-001~003	3	1.5	中世墓 S X 9 6	096-001	1	1.5
建物 S B 6 8	—	—	—	建物 S B 9 7	097-001~003	3	0.1
土坑 S K 6 9	069-001	1	0.1	建物 S B 9 8	098-001~007	7	0.2
中世墓 S X 7 0	070-001~004	4	0.5	土坑 S K 9 9	—	—	—
溝 S D 7 1	—	—	—	建物 S B 100	—	—	0.1
12号墳 S X 7 2	072-001~002	2	0.2	土坑 S K 101	101-002	2	0.1
溝 S D 7 3	073-001	1	0.1	土坑 S K 102	—	—	0.1
建物 S B 7 4	—	—	—	土坑 S K 103	103-001~045	36	12.0
13号墳 S X 7 5	—	—	0.2	土坑 S K 104	104-001~027	16	4.0
建物 S B 7 6	076-001~009	9	0.5	土坑 S K 105	105-001~003	3	0.2
中世墓 S X 7 7	077-001	1	0.2	中世墓 S X 106	106-001~005	5	1.0
中世墓 S X 7 8	078-001~002	2	0.5	土坑 S K 107	—	—	0.1
井戸 S E 7 9	079-001~002	2	0.5	土坑 S K 108	—	—	0.1
土坑 S K 8 0	—	—	0.1	土坑 S K 111	111-001~002	2	0.2
土坑 S K 8 1	081-001~009	7	0.5	建物 S B 112	112-001~001	1	0.1
14号墳 S X 8 2	082-001	1	0.2	16号墳 S X 113	—	—	0.1
土坑 S K 8 3	083-001~003	3	0.2	土坑 S K 114	114-001~005	4	0.5
土坑 S K 8 4	084-001	1	0.1	土坑 S K 115	115-001~003	3	0.5
建物 S B 8 5	085-001~002	2	0.1	溝 S D 116	116-001	1	0.5
土坑 S K 8 6	086-001~003	2	0.2	溝 S D 117	117-001~002	2	0.2
道路 S R 8 7	—	—	—	溝 S D 118	118-001~015	14	5.0

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
溝 S D 119	—	—	—	土坑 S K 148	—	—	—
中世墓 S X 120	120-001~008	7	1.0	中世墓 S X 149	149-001~012	12	2.0
溝 S D 121	—	—	0.1	土坑 S K 150	150-001~004	4	0.5
土坑 S K 122	122-001~011	8	2.5	中世墓 S X 151	151-001~008	7	1.0
土坑 S K 123	123-001~004	4	0.2	中世墓 S X 152	152-001	1	0.1
土坑 S K 124	—	—	0.1	土坑 S K 153	153-001~084	57	13.0
建物 S B 125	125-001	1	0.1	土坑 S K 154	154-001~005	4	0.5
建物 S B 126	126-001~003	3	0.1	土坑 S K 155	155-001~027	15	3.0
建物 S B 127	127-001	1	0.1	土坑 S K 156	156-001~003	3	0.2
建物 S B 128	128-001	1	0.1	井戸 S E 157	157-001~034	24	5.0
土坑 S K 129	129-001~026	26	3.0	建物 S B 158	158-001~005	5	0.2
土坑 S K 130	130-001~011	8	2.0	建物 S B 159	159-001~007	7	0.2
建物 S B 131	131-001~003	3	0.1	建物 S B 160	—	—	—
不明 S Z 132	132-001	1	0.1	土坑 S K 161	161-001~043	10	4.0
建物 S B 133	133-001~003	3	0.1	中世墓 S X 162	162-001~007	7	0.1
井戸 S E 134	134-001~029	20	5.0	土坑 S K 163	—	—	0.1
土坑 S K 135	135-001	1	0.1	建物 S B 164	164-001	1	0.1
建物 S B 136	136-001	1	0.1	中世墓 S X 165	165-001~008	8	1.0
建物 S B 137	—	—	0.1	中世墓 S X 166	166-001~013	14	1.0
中世墓 S X 138	138-001~002	2	0.2	中世墓 S X 167	167-001~004	4	0.5
中世墓 S X 139	—	—	—	中世墓 S X 168	168-001~020	19	2.0
中世墓 S X 140	140-001~006	4	2.0	土坑 S K 169	—	—	0.1
建物 S B 141	141-001	1	0.1	中世墓 S X 170	170-001~004	4	1.0
建物 S B 142	142-001~004	4	0.1	中世墓 S X 171	—	—	0.1
建物 S B 143	143-001	1	0.1	井戸 S E 172	172-001~179	54	15.0
土坑 S K 144	144-001~024	22	3.0	土坑 S K 173	173-001~004	4	1.5
建物 S B 145	145-001	1	0.1	土坑 S K 174	174-001	1	0.5
土坑 S K 146	146-001~004	4	0.5	中世墓 S X 175	175-001~004	4	1.0
土坑 S K 147	147-001~002	2	0.1	土坑 S K 176	—	—	0.2



遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
土坑 S K 177	177-001~002	2	0.1	土坑 S K 203	203-001	1	0.2
土坑 S K 178	178-001~012	10	2.0	土坑 S K 204	204-001~016	15	5.0
建物 S B 179	—	—	—	建物 S B 205	205-001	1	0.1
17号墳 S X 180	180-001~002	2	0.1	建物 S B 206	—	—	—
土坑 S K 181	181-001~004	4	0.5	井戸 S E 207	207-001~014	11	1.5
18号墳 S X 182	—	—	0.2	土坑 S K 208	208-001	1	0.1
土坑 S K 183	183-001~004	4	0.2	土坑 S K 209	209-001~003	3	0.5
建物 S B 184	184-001	1	0.1	溝 S D 210	210-001	1	0.1
土坑 S K 185	—	—	0.1	溝 S D 211	—	—	—
19号墳 S X 186	—	—	0.1	土坑 S K 212	212-001~007	5	1.0
土坑 S K 187	187-001	1	0.2	柵 S A 213	—	—	0.1
中世墓 S X 188	188-001~004	4	0.5	土坑 S K 214	214-001~009	8	1.5
中世墓 S X 189	189-001~003	3	0.1	21号墳 S X 215	—	—	0.1
土坑 S K 190	190-001~009	5	0.2	溝 S D 217	—	—	—
建物 S B 191	—	—	—	溝 S D 218	218-001~005	5	1.0
井戸 S E 192	192-001	1	0.1	土坑 S K 219	219-001~005	5	0.5
井戸 S E 193	193-001~108	85	31.0	土坑 S K 220	220-001~004	4	0.1
井戸 S E 194	194-001~011	10	3.0	土坑 S K 221	221-001~007	7	1.5
土坑 S K 195	195-001~003	2	0.2	土坑 S K 222	222-001~004	4	2.5
20号墳 S X 196	196-001	1	0.2	中世墓 S X 223	223-001~003	3	0.1
土坑 S K 197	197-001~005	4	1.0	中世墓 S X 224	224-001~008	7	0.5
土坑 S K 198	198-001~004	4	1.0	中世墓 S X 225	225-001~007	6	0.5
建物 S B 199	199-001	1	0.1	土坑 S K 228	—	—	0.2
溝 S D 200	200-001~005	5	0.4	土坑 S K 229	—	—	0.1
建物 S B 201	—	—	—	溝 S D 230	230-001~003	3	0.2
溝 S D 202	202-001	1	0.2	合計	1773	1265	335.5

※ 遺構番号・遺物整理番号には、欠番もある。

※ 遺物総量は、三重県埋蔵文化財センターが使用している標準タイプの整理用コンテナ（内法で33.5cm×14.0cm×53.5cm）に収納したと想定した場合の箱数であり、あくまで概数である。

## II. 位置と歴史的環境

### 1. 位置・地形・地質

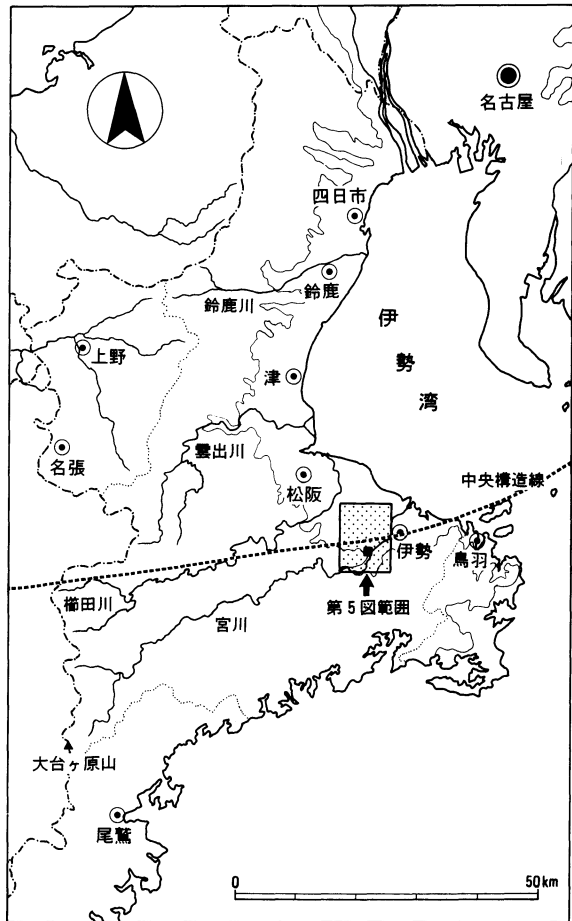
三重県には、旧国の伊勢国、志摩国、伊賀国、そして紀伊国の東部が含まれている。第4図の上野市・名張市は伊賀国、鳥羽市は志摩国、尾鷲市は紀伊国に入り、伊勢湾西岸一帯の広い地域は伊勢国である。伊勢国内は、現在、一般的に鈴鹿市以北を北勢、津市周辺を中勢、松阪市以南を南勢というように呼び分けることが多い。

南勢地方には紀伊半島南部を東西に横断する紀伊山地が延びてきており、その前面には谷底平野が発達した丘陵が接続している。主要河川の榑田川と宮川は紀伊山地の間を縫うようにほぼ並行して流れ、河岸段丘や氾濫平野を形成しながら伊勢湾へと注いでいる。

三重県と奈良県との県境にある大台ヶ原山（1,696 m）に源を発する宮川は、多気・度会両郡の山間部を南西から北東方向へとゆるく蛇行しながら流れ、度会郡玉城町岩出（いわで）付近で伊勢平野の南端部に出る。岩出は宮川左岸の河岸段丘上に形成された戸数80戸程の農村集落である。集落の南側には、宮川と丘陵とに挟まれた標高15～24mの南北に細長い段丘面が続いており、そのほぼ全域が蚊山遺跡となっている。

蚊山遺跡付近は西南日本を東西に走る大断層である中央構造線の南側に近接している。基盤は外帯に属する三波川結晶片岩類の緑色片岩や黒色片岩で、開析された谷や河岸段丘には基盤の上に礫を含む粘

性土・黒色の砂質シルト（黒ボク）等が堆積している。近畿自動車道第9次区間（勢和～伊勢）の路線は中央構造線に沿って東西に走り、蚊山遺跡のほぼ中央部を横切っている。



第4図 位置図

### 2. 歴史的環境

蚊山遺跡（1）の南方は平坦地が狭く、確認されている遺跡の数は多くないが、蚊山遺跡付近を境として北方へ一歩足を踏み出すと、県内でも有数の遺跡密集地域が広がっている。ここでは、第5図の範囲内に入る遺跡を中心にとりあげ、この地域の歴史

的環境を時代別に概観してみる。

#### 旧石器時代

県内の旧石器時代の遺跡は約100か所知られており、その半数近くが榑田川と宮川とに挟まれた地域に集中している。蚊山遺跡でも字角垣内で16点のナ



第5図 蚊山遺跡と周囲の遺跡位置図 (1:50,000)

イフ形石器が、左郡地区の西端付近で細石刃核1点が採集されている。ナイフ形石器を出土している遺跡に限っても蚊山遺跡周囲には、東海地方屈指の大規模な遺跡とされる玉城町カリコ遺跡(2)、国府型ナイフをはじめ70点以上のナイフ形石器が採集されている小俣町ママ田遺跡(3)の他、度会町上ノ垣外遺跡(4)、伊勢市元新田遺跡(5)、玉城町アレキリ遺跡(6)・上地山遺跡(7)・鉄砲塚遺跡(8)・東のび遺跡(9)・仲野遺跡(10)・西世古遺跡(11)・ミドロ遺跡(12)・波瀬B遺跡(13)、小俣町六軒屋遺跡(14)・との藪遺跡(15)・石川遺跡(16)・一ノ岡遺跡(17)・新池西遺跡(18)、明和町新池東遺跡(19)・シンゲ池遺跡(20)・鞍追間池遺跡(21)・須磨ヶ広遺跡(22)・明星牛場A遺跡(23)・明星牛場B遺跡(24)、明星牛場C遺跡(25)・明星1号墳周溝(26)・水池B遺跡(27)・北野遺跡(28)・堀田遺跡(29)など多くの遺跡が分布している。これらの遺跡については、低地に面する段丘上や台地縁辺に偏在しており山間地域よりも平地に対する進出傾向が目立つ、という立地上の特徴が指摘されている。

#### 縄文時代

県下では600か所を越える遺跡で縄文土器の出土が確認されている。蚊山遺跡北方の平野部には大規模な遺跡はみられないが、南方の宮川沿いには県内を代表する遺跡が分布している。

草創期の遺跡には、有舌尖頭器を出土した度会町森添遺跡(30)・上ノ垣外遺跡(4)、玉城町茶白山遺跡(31)、小俣町石川遺跡(16)、明和町斎宮跡(32)があるが、この時期の土器は確認されていない。早期の遺跡には調理施設の集石炉が検出された度会町上ノ垣外遺跡の他、玉城町明豆遺跡(33)・楠ノ木遺跡(34)、小俣町石川遺跡・百町遺跡(35)、明和町打越遺跡(36)・発シB遺跡(37)がある。

前期あるいは中期の遺跡数は少なく、度会町上ノ垣外遺跡・森添遺跡、伊勢市佐八藤波遺跡(38)・ハノカ遺跡(39)、明和町金剛坂遺跡(40)などがあげられるのみで、まとまった量の遺物が出土している遺跡はみられない。蚊山遺跡からも中期末葉と思われる土器の小片が出土している。

後期・晩期になると遺跡数が増加する。多量の土

器や石鏃をはじめ石棒・岩偶などが採集されている伊勢市佐八藤波遺跡は後期の代表的な遺跡であり、発掘調査により水銀朱の全国的な供給センターであったことが明らかになった度会町森添遺跡は後期後葉から晩期にかけて隆盛した大規模な遺跡である。その他、後期あるいは晩期の土器を出土した遺跡には度会町上ノ垣外遺跡、伊勢市中ノ垣外遺跡(41)・元新田遺跡(5)、玉城町明豆遺跡・蚊山遺跡・東村遺跡(42)・上の山遺跡(43)・山神城跡(44)・酒屋遺跡(45)、明和町斎宮池遺跡(46)・戸峰1号墳(47)・斎宮跡・金剛坂遺跡がある。

#### 弥生時代

伊勢湾西岸における弥生文化の受容は前期中段階にみられるが、南勢地域では新段階以降の遺跡しか確認されていない。蚊山遺跡周囲の前期の遺跡には玉城町狼谷遺跡(48)・上の山遺跡(43)・仲垣内遺跡(49)・山殿西遺跡(50)・西世古遺跡(11)、明和町大道A遺跡(51)・金剛坂遺跡(40)がある。まとまった資料が少ない中、上の山遺跡では前期のものとしては県下で6例目の竪穴住居が検出されている。

中期の遺跡も少ないが、発掘調査例はやや増加し、伊勢市中ノ垣外遺跡(41)、玉城町上地山遺跡(7)で竪穴住居が、玉城町上の山遺跡・波瀬B遺跡(13)、明和町金剛坂遺跡・寺垣内遺跡(52)で方形周溝墓が検出されている。蚊山遺跡では中期の壺の小片が1点出土している。

後期になると遺跡数は急激に増加し、竪穴住居あるいは方形周溝墓が検出された遺跡のみに限っても、伊勢市野垣内遺跡(53)・中楽山遺跡(54)、玉城町小社遺跡(55)・仲垣内遺跡(49)・月よべ遺跡(56)・赤垣外遺跡(57)、小俣町掛橋遺跡(58)・六軒屋遺跡(14)、明和町金剛坂遺跡・寺垣内遺跡といった遺跡をあげることができる。特に、宮川左岸の段丘中位面には、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての集落遺跡が帯状に並んでおり、当時、かなりの規模の集落が形成されていたと考えられている。

#### 古墳時代

弥生時代後期の集落の中には古墳時代初頭まで引き続き営まれていたものもあるが、その後の足どりはわからなくなり、蚊山遺跡の周囲では前期の古墳

も確認されていない。しかし、玉城町小社遺跡（55）からは4世紀代のS字状口縁台付甕や4世紀後半のものと思われる石銅片が採集されていることから、この地域に集落が存在し、前期古墳も築かれていたということが十分想定できる。

5世紀前半になると櫛田川以南でも明確な墳丘をもった古墳が確認されるようになり、5世紀後半には全長約75mの帆立貝式古墳である高塚1号墳（59）が築かれる。この古墳は櫛田川以南一帯を治めていた首長の墓と考えられている。6世紀前半にはユブミ2号墳（60）、斎宮池12号墳（61）、野田古墳（62）、大仏山10号墳（63）といった全長30～45mの前方後円墳がみられる。これらの古墳の分布をみると、あたかも、5世紀後半に1つにまとめられていた地域が6世紀前半に櫛田川右岸と宮川左岸の2つの地域に分かれたかのように思える。

小規模な古墳は、丘陵部を中心に数百基確認されている。現在古墳分布の薄い段丘中位面でも、蚊山古墳群（蚊山遺跡）のように発掘調査により発見されるものが増加していくと思われる。小規模古墳の多くは10数基があつまって1つの古墳群を形成している。宮川右岸にある落合古墳群（64）は4世紀末ないし5世紀初頭という早い時期に群の形成が始まっており、13基の方墳のまわりに28基の円墳が築かれている朝久田古墳群（65）も5世紀代に盛行した古墳群と考えられる。蚊山古墳群の形成も5世紀末葉に始まっている。その他、5世紀末葉あるいは6世紀前半から始まると思われる古墳群もいくつかあるが、ほとんどの古墳群は6世紀後半から7世紀前半にかけて形成されたものと考えられている。

#### 歴史時代

飛鳥時代から鎌倉時代にかけて、伊勢国内の櫛田川以南のほとんどの地域は神宮領となっており、神宮の強い影響下におかれていた。蚊山遺跡周囲のこの時期の遺跡にも神宮に関係すると思われるものが多くみられる。その中でも特筆すべきものに明和町の国史跡斎宮跡（32）がある。

斎宮は伊勢神宮の祭祀を司るために天皇の即位ごとに遣わされた斎王の御所とその事務運営にあたる斎宮寮とよばれていた官衙および官人の住居などで構成されていた。皇室の祖先神を祭るという特別の

地位を確保した伊勢神宮の起源や斎宮の成立については今なお不明な点が多いが、昭和40年代から続けられている発掘調査によって飛鳥時代以降の斎宮の姿が徐々にあきらかになってきている。

伊勢神宮の神事に使用する土器は、多気郡有爾郷で製作されていたことが知られている。斎宮跡の南に位置する明和町有爾中是有爾郷の遺称地である。有爾中の近辺には明和町水池土器製作遺跡（66）・黒土遺跡（67）・北野遺跡（28）・堀田遺跡（29）・発シA遺跡（68）・発シB遺跡（37）・垣場遺跡（69）・戸峰A遺跡（70）・大道A遺跡（51）・川原口遺跡（71）・金剛坂遺跡（40）・斎宮跡、玉城町世古遺跡（72）など、飛鳥・奈良時代の土師器窯である土器焼成坑が検出された遺跡が集中して分布しており、その検出総数は300基近くにのぼる。有爾郷の範囲や起源については不明な点が多いが、これらの遺跡の分布範囲が有爾郷の中心部分であり、斎宮が設置された飛鳥時代末には神宮の土器を作りはじめていたと考えられる。有爾郷には須恵器を製作する集団もいたことが知られている。多気町の東部から玉城町南西部にかけての丘陵部には奈良時代を中心とする須恵器窯が30基ほど確認されている。外城田窯跡群と総称されるこれらの須恵器窯についても神宮との強い関係を想定することが可能である。

伊勢神宮とは皇大神宮（内宮）・豊受大神宮（外宮）および別宮と撰社・末社などの総称である。内宮の禰宜・権禰宜を世襲していた荒木田氏は、平安時代には城田郷・田辺郷・湯田郷を本拠地としていた。これらの3郷は有爾郷と宮川とに挟まれた一帯にあったと考えられており、玉城町内には荒木田氏の氏神である荒木田二門氏神社跡（73）や氏寺である田宮寺（74）がみられる。

玉城町岩出には平安時代後半から中世にかけて神宮祭主の大中臣氏の祭主館があったとされている。また、宮川の対岸にある伊勢市佐八にも大中臣氏（後に藤波氏）の居館があったとされ、国指定重要文化財『伊勢新名所絵歌合』（鎌倉後期作）にも共に“岩波の郷”“藤波の郷”として登場している。

伊勢市佐八町とその南に隣接する津村町には、中世の建物跡が検出された佐八藤波遺跡（38）・中ノ垣外遺跡（41）・寺原B遺跡（75）・中新田遺跡（76）、



鎌倉時代以降の土器が多数採集されている土畑遺跡(77)・西垣内遺跡遺跡(78)・北垣内遺跡遺跡(79)など中世の集落跡と考えられる遺跡が多数分布している。蚊山遺跡がこれらの遺跡と密接な関係にあったであろうことは容易に想像できる。

室町時代になると、伊勢国司として入ってきた北畠氏により神宮領は次第に浸食され、伊勢神宮の力は急速に衰えていった。一方、南勢地方に本拠地を置いた北畠氏は領国支配を進めて戦国大名として成長し、織田信長に滅ぼされるまで南勢地方の支配者としての地位を保ち続けた。

蚊山遺跡の周囲には、玉城町岩出城跡(80)・山岡城跡(81)・山神城跡(44)・田丸城跡(82)、伊勢市寺山城跡(83)、明和町有爾中城跡(84)・池村城跡(85)などの中世城館がみられる。これらの城館については不詳な点が多いが、北畠氏に対抗する

山神周辺諸郷の軍事的拠り所であったとされる山神城跡を除き、ほとんどが北畠氏関係のものと考えられる。田丸城は延元元年(1336)に北畠氏が築城して以来、北畠氏の拠点の一つとなっていた。天正3年(1575)に織田信長の次男である信雄が城主となり田丸城を拡張、整備し、その城下は紀州和歌山藩領になってからも南勢地方の要所として栄えた。岩出城も規模の大きなもので城下町も形成されていたらしいが、慶長5年(1600)に廃城となっている。昭和20年代まで、本丸やそれを囲む内堀・外堀の跡が残っていた。

室町時代以降の遺跡の発掘調査では、玉城町楠ノ木遺跡(34)・波瀬B遺跡(31)で集落跡が、同町城廻場遺跡(岡村遺跡)(86)で中近世墓群が検出されており、この時代に関する考古学からのアプローチが始まったところである。

## 【参考文献】

- 『三重の中世城館』三重県良書出版会 1972
- 奥義次「三重県の遺跡」『日本の旧石器文化3』雄山閣出版 1976
- 奥義次「旧石器・縄文時代」『図説伊勢・志摩の歴史(上巻)』郷土出版社 1992
- 『三重県伊勢市遺跡分布地図』伊勢市教育委員会1981
- 岩中淳之『佐八藤波遺跡発掘調査報告』伊勢市教育委員会 1990
- 奥義次・御村精治・大西素行『上地山遺跡発掘調査報告書』玉城町教育委員会 1985
- 奥義次・御村精治『森添遺跡発掘調査概報Ⅱ』度会町遺跡調査会 1988
- 御村精治『上ノ垣外遺跡発掘調査概報』度会町遺跡調査会 1991
- 『三重県多気郡明和町遺跡地図』明和町 1988
- 山澤義貴・谷本鋭次『金剛坂遺跡発掘調査報告』明和町郷土文化を守る会 1971
- 奥義次「旧石器時代」「縄文時代」『多気町史 通史』多気町 1992
- 『玉城町南部の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1982
- 『小俣町の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1985
- 『明和町の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1987
- 瀬古吉久他「岩出の遺跡」『歩跡 第3号』皇學館大學考古学研究会1976
- 上村安生「土器焼成坑について その① 薫痕跡のある粘土について予察」三重歴史文化研究会 勉強会発表資料1993
- 『三重県遺跡台帳』三重県教育委員会
- 下村登良男「中楽山遺跡」『昭和47年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1973
- 小玉道明「仲垣内遺跡」「赤垣内遺跡」、小玉道明・長谷川博「月よべ遺跡」、下村登良男「野垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1979
- 新田洋「中新田遺跡」『昭和56年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1982
- 高見宜雄・岩中淳之「中ノ垣外遺跡」『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1984
- 小林秀「中世後期における土師器工人集団の一形態—伊勢国有尔郷を素材として—」、森田幸伸「大仏山丘陵とその周辺のナイフ形石器について」『研究紀要 第1号』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 『三重の縄文時代』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 大川勝宏・稲本賢治他「山神城跡」、前川嘉宏「泉貢窯跡」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第2分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 伊藤裕偉「楠ノ木遺跡」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第3分冊』三重県埋蔵文化財センター1991
- 角谷泰弘「寺原B遺跡」「ハノカ遺跡」、前川嘉宏「中ノ垣外遺跡」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第5分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 伊藤裕偉「落合古墳群」『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第7分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 上村安生『一般県道度会玉城線道路改良事業に伴う上の山遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 上村安生『一般県道田丸停車場明線道路改良事業に伴う波瀬B遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1992

# Ⅲ. 調査の成果

## 1. 層 序

調査区北壁の土層断面（第9・10図）を詳しく観察すると層序は単純で、上から順に、耕作土である粗砂が若干混じる褐灰色土層、次に粗砂がほとんど混じらない黒色あるいは黒褐色の黒ボク層、その下が細礫混じりの明黄褐色からにぶい黄橙色をした粘性土層となる。

耕作土の厚さは平均20cm程度で、細片となった土器片が混入している。耕作土下の黒ボク層の厚さも平均20cm程度であるが、田畑一枚の中でみると、東側（宮川側）は比較的厚く、西側（山側）はかなり薄い全くみられなくなる。これは、大正から昭和初期にかけて行われたという耕地整理による削平が深くまで及んだためと思われる。黒ボク層には中世の土器を中心とした遺物がかかなり含まれている。その下の粘性土層中には遺物が認められなかったためこの層の上面を遺構検出面とした。ただし、調査区

の西端近くでは粘性土層中にチャートのフレイクラしき石片が若干みられたことから、旧石器時代の遺構遺物の存在を想定して精査を試みたが、はっきりとした成果は得られなかった。黒ボク層と地山との間には、部分によっては黒ボクと地山崩壊土とが混じり合った灰黄褐色の土層が薄くみられる。遺構の埋土は時代を問わずほとんどが同一にみえる黒ボクで、地山の色調と明瞭に異なるため遺構検出は比較的容易であったが、その反面、遺構間の切り合い関係の判断は非常に困難であった。

標高は、調査区西端付近では耕作土上面が約26.8m、遺構検出面が約26.6m、調査区東端では耕作土上面が約20.0m、遺構検出面が19.5mである。地形は、数か所で比高50cm前後の段をつくりながら西から東へと緩やかに傾斜しており、調査区西端から東端までの距離約290mに対して比高は約7mとなる。

## 2. 弥生時代以前の遺物

調査区内からは整理用コンテナで300箱以上の遺物が出土した（第2表）が、弥生時代以前のは縄文土器片3点、弥生土器片1点、磨製石斧1点が確認できたのみである。弥生時代以前の遺構は検出できなかった。

なお、本書に実測図を掲載した遺物の出土位置や観察結果については第9表出土遺物観察表にまとめられている。

### 1. 縄文時代の遺物（第62図）

**縄文土器（1～3）** いずれも深鉢片で、器壁はかなり荒れており調整等は不明瞭である。1は調査区東端の包含層から出土した口縁部片で、口縁端部に沿って一条の沈線がはしる。中期か後期のものと思われる。2は中世の遺構であるS E 157の埋土か

ら出土した口縁部片で、縦方向に太い沈線が2条認められる。中期末葉から後期初頭ののものであろう。3は調査区西よりの包含層から出土した体部片で、2条の沈線の間にかろうじて縄文が認められる。後期前半のものである。

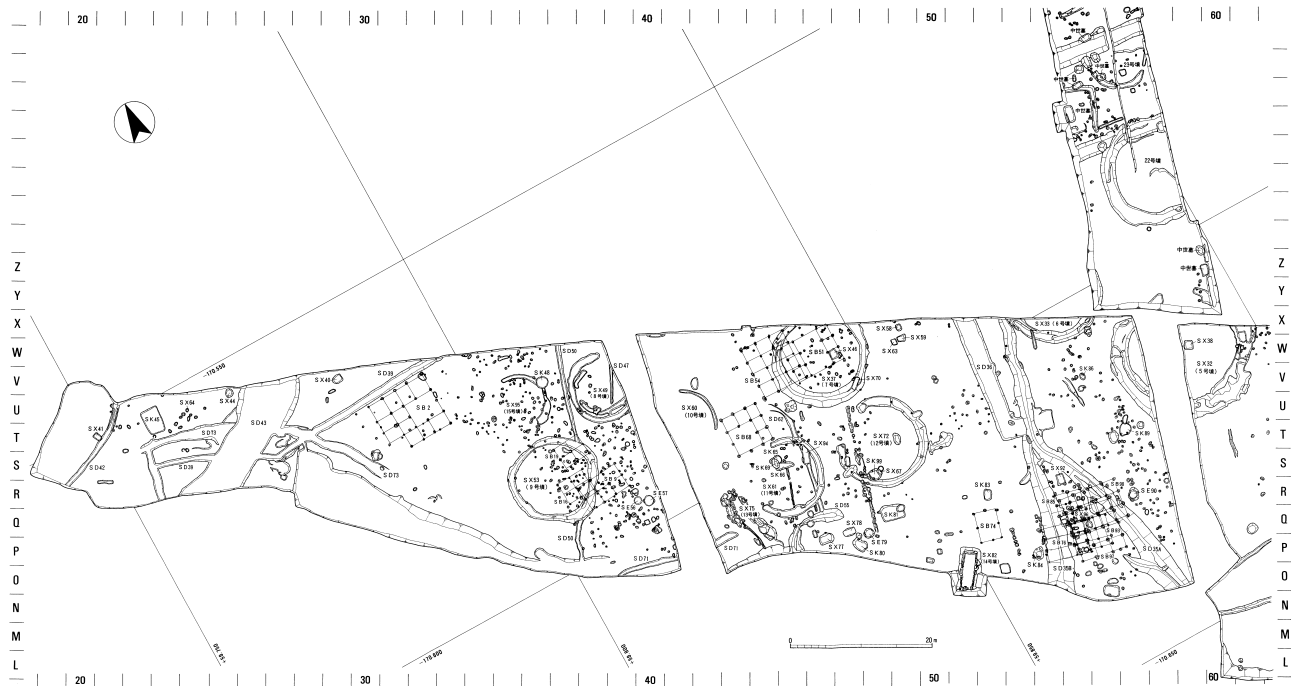
### 2. 弥生時代の遺物（第62図）

**磨製石斧（4）** 調査区中央付近の包含層から出土した緑泥片岩製のもので、基部近くがくびれている。弥生時代のものであろう。

**弥生土器（5）** 調査区の東端付近で出土した中期の壺の口頸部片である。頸部に櫛描横線文が1段認められる。



第6図 遺構配置図（1：1,000）



第7图 调查区平面图1 (1:400)



第8图 调查区平面图(2) (1:400)



### 3. 古墳時代の遺構と遺物

#### 1. 古墳と古墳出土の遺物

古墳時代の遺構としたものには古墳の残骸と思われるもの21基、土坑2基、ピット1か所がある。古墳時代の遺物は須恵器を中心に整理用コンテナに10箱程度である。古墳の周溝埋土から出土したものもあるが、ほとんどが包含層出土で、中世の遺構埋土にも混入していた。

古墳は発掘調査によって始めてその存在が確認されたものである。各古墳には遺構表示略記号をSXとして遺構通し番号を付したが、それとは別に「蚊山古墳群」というとらえかたで、1号墳から21号墳までの名称も与えた。なお、蚊山遺跡ケカノ辻・角垣内地区の調査でも新たに2基の古墳(22号墳・23号墳)が検出されている。

古墳の周溝からは古墳時代の遺物の他に中世の遺物も出土している。これは開墾等の攪乱によるものと思われるが、周溝内に検出できなかった中世の遺構が重複していた場合も考えられる。

各古墳の築造時期は主に、出土した須恵器から推定した。須恵器の編年は中村浩氏の陶邑編年<sup>①</sup>を用いている。

SX4(1号墳)(第19・62図) 調査区の西端近くにある円墳で、検出されたのは周溝のみである。周溝は北側が幅約1.5m、深さ約0.6m、南西側が幅約1.8m、深さ約0.5mである。周溝内側の下端を基底線とすると、墳丘規模は約13mとなる。周溝内から整理用コンテナに約半分の土器が出土しているが、そのほとんどは中世のものである。古墳時代の土器は同一個体のもと思われる土師器碗片が数点と、土師器の台付甕底部(6)がみられる。台付甕は周溝が比較的深く残っている北側部分の底近くから出土しており、この古墳に伴うものと断定できる。台部は大きく、古い様相をとどめているが、底部外面のハケ目は細かく、6世紀代の甕にみられるものに類似している。ここでは、この台付甕の時期を6世紀初頭とし、1号墳の築造時期もほぼそのころとしておく。

SX7(2号墳)(第19図) 1号墳の北西約5

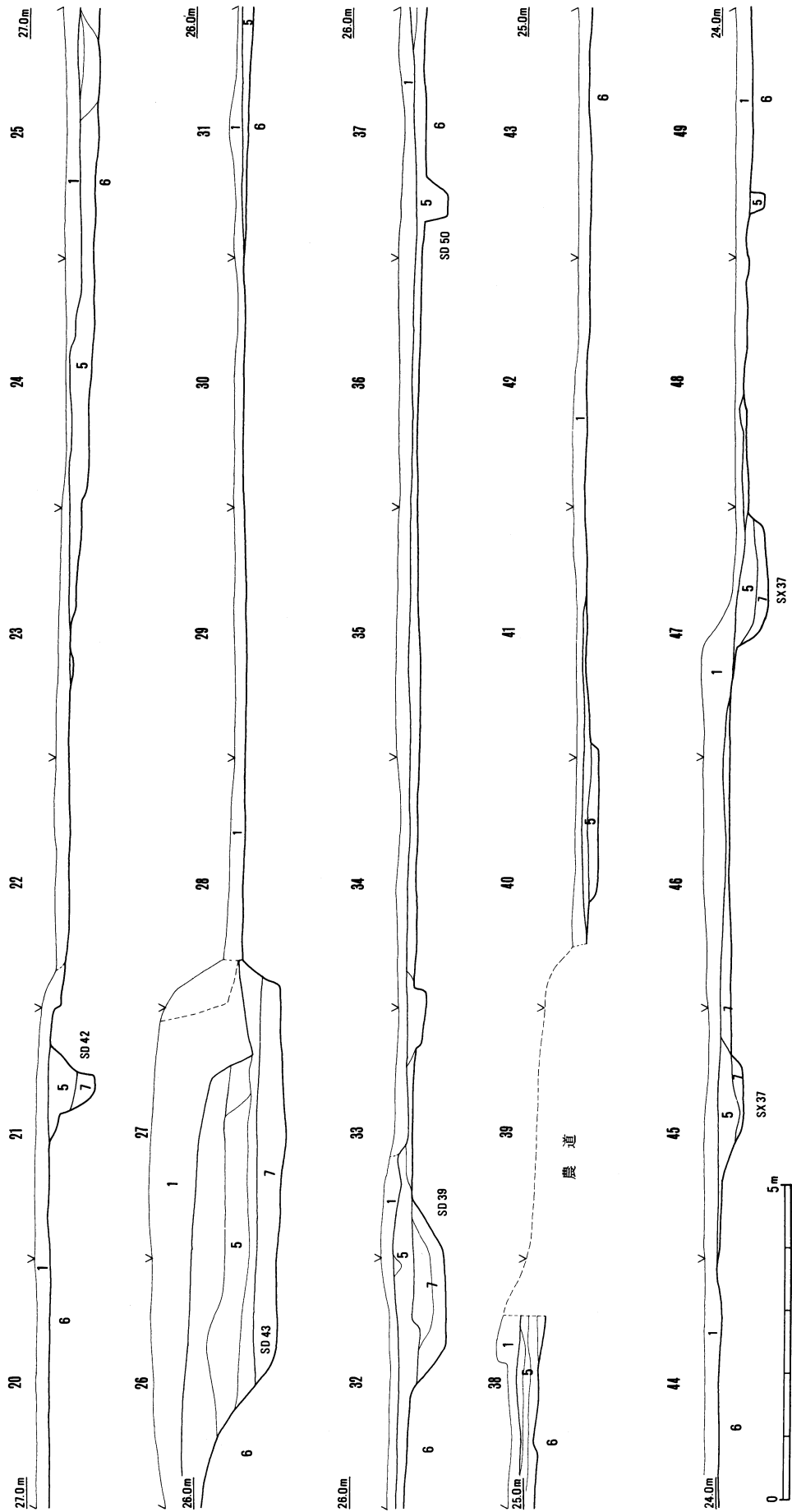
mに位置する円墳で、周溝の西側半分がころうじて検出された。周溝は最も残りの良い部分でも幅約0.8m、深さ約0.1mである。墳丘規模は10.5m程度と推測できる。出土遺物は全くない。

SX14(3号墳)(第16図) 2号墳の北西約12mに位置している。一辺が7.5m程度の方墳と考えられるが、SD8やSD10によってかなり破壊されているため断定はできない。周溝は北東側で幅約0.8m、深さ約0.2mある。出土遺物は全くなく築造時期は特定できないが、墳形・規模などから4号墳とほぼ同じ7世紀前半のものと考えられる。

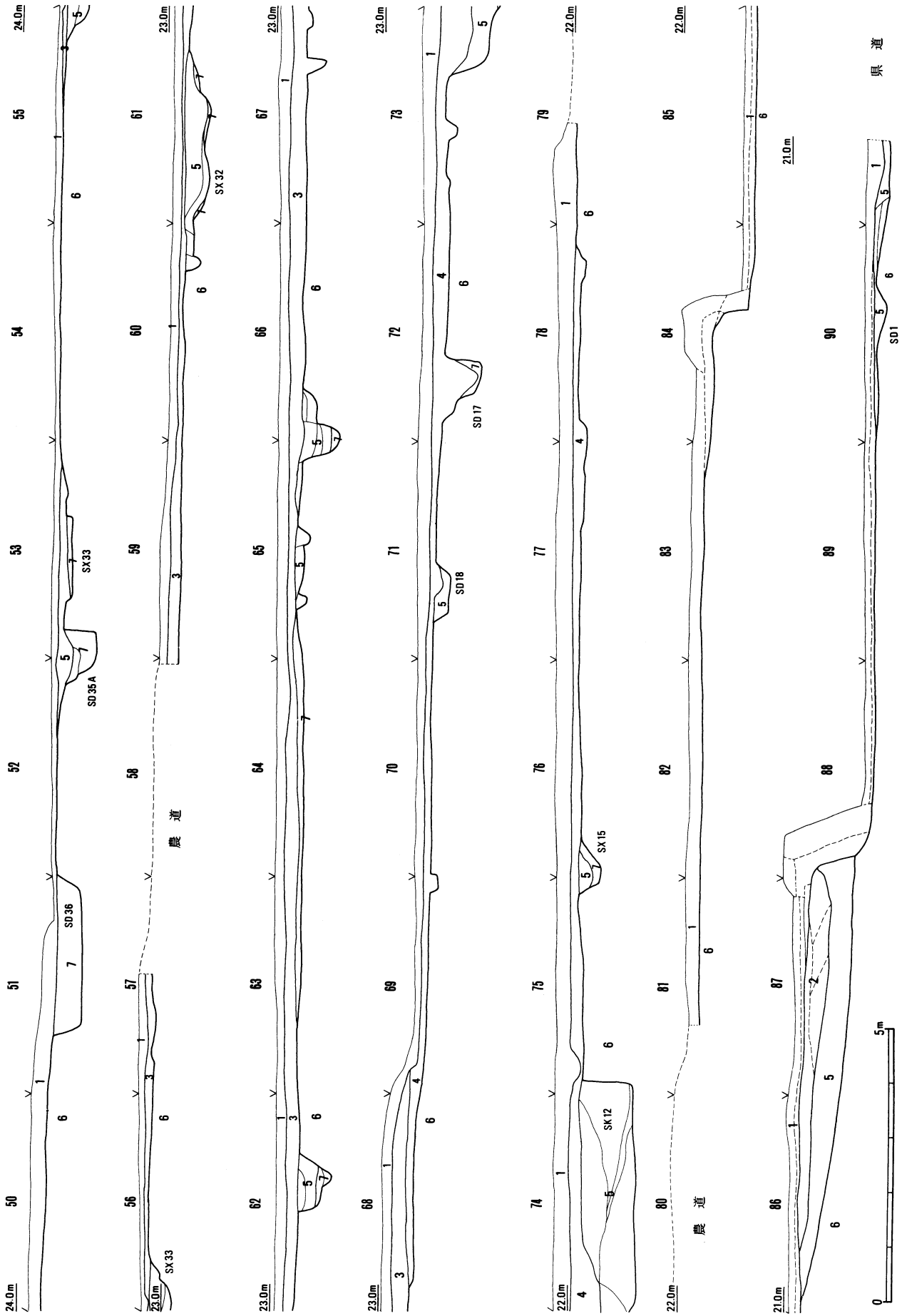
SX15(4号墳)(第16・62図) 3号墳の北西約4mに位置している。周溝は南東側で幅約1m、深さ約0.4m、北西側で幅約0.7m、深さ約0.3mで、調査区外にものびている。3号墳と同じく一辺が7.5m程度の方墳であろう。遺物は、周溝内から古墳時代の須恵器(7・8・10・11)と中世の土師器皿・小皿・鍋、山茶碗の破片が出土した。また、包含層出土の須恵器杯蓋(9)と土師器ミニチュア鉢(12)も出土位置から15号墳に伴うものと判断した。7と8は口径が小さいこと、ヘラケズリ調整が施されていないことなどからⅡ型式6段階(7世紀前半)のものと思われる。10の高杯も脚部の透かしが2段みられるものの完全に形骸化しており、同じくⅡ型式6段階のものである。他の古墳時代の遺物も同時期と考えて全く問題がない。これらのことから4号墳の築造時期を7世紀前半とすることができる。

SX32(5号墳)(第15・62図) 調査区の中央付近で検出された円墳で、一部ケカノ辻・角垣内地区にかかっている。周溝は西側が幅約2.5m、深さ約0.4m、南東側が幅約3m、深さ約0.3mである。東から南にかけての周溝が乱れているのは後世の攪乱によるものと思われるが、周溝内埋葬が行われていた可能性も残る。墳丘規模は東西約15.5m、南北約14mで、蚊山古墳群中では最大の規模をもつ。周溝内からは、須恵器提瓶(15)・甕(16)、土師器ミニチュア高杯(17)の他、古墳時代の土師器碗・甕の小片や中世の土器片が出土した。また、墳域のほ

- 1. 耕作土・攪乱土層
- 2. 円礫（拳大の河原石）層
- 3. 10YR 3/2黒褐色粗砂混土（黒ボク）層
- 4. 10YR 3/2黒褐色土（黒ボク）層（遺物を多く含む）
- 5. 10YR 1.7黒～10YR 2/3黒褐色土（黒ボク）層（遺物を多く含む）
- 6. 10YR 6/6 明黄褐～10YR 7/4 にぶい黄橙色土層（地山）
- 7. 地山崩壊土（地山崩壊土と黒ボクの混成土）層



第9図 調査区北壁土層断面図(1) (1:100)



第10図 調査区北壁土層断面図(2) (1 : 100)

ほ中央にある中世墓S X38からは、本来5号墳に伴っていたと考えられる須恵器杯蓋(13)・杯身(14)、土師器ミニチュア高杯(19)が出土している。13と接合できる破片は包含層からも出土している。17のミニチュア高杯は試掘調査時に黒ボク層から出土したもので、試掘坑の位置から考えると5号墳の周溝埋土出土として間違いないと思われる。須恵器をみると、蓋杯(13・14)の口径が大きいこと、13にはロクロヘラケズリが施されているが口縁部と天井部との境の稜がみられないこと、提瓶(15)が大型でしっかりしていることなどからⅡ型式4段階(6世紀後半)のものと考えられる。他の古墳時代の土器についても概ねその時期のものと考えて問題ない。これらのことから5号墳の築造時期を6世紀後半とすることができる。

S X33(6号墳)(第15図) 5号墳の北西約3mに位置する円墳である。今回の調査区内では周溝の南西側が検出され、ケカノ辻・角垣内地区の調査では東側の一部が確認されている。周溝は南西側が幅約1.5m、深さ約0.4mである。墳丘規模は11m程度であろう。遺物は周溝内から中世の土師器皿の小片が数点出土したのみである。

S X37(7号墳)(第13・62図) 5号墳の北西約34mに位置する径約11.5mの円墳で、北東側が調査区外にのびる。周溝は西側が幅約2m、深さ約0.7m、東側が幅約1.2m、深さ約0.3mである。遺物は周溝内から古墳時代の須恵器杯蓋(20・21)・甕(22)・甕(23)、土師器椀(24)、中世の土師器皿・小皿、山茶椀が出土した。須恵器杯蓋(20・21)は共にヘラケズリが比較的丁寧に施されており、天井部と口縁部との境の稜も残っている。しかし、20は小振り、21は口径が大きいことから、20をⅠ型式5段階、21をⅡ型式1段階とすることができる。須恵器甕(22)もⅠ型式5段階あるいはⅡ型式1段階のもの、須恵器甕(23)はⅠ型式5段階のものと思われることから、7号墳の築造時期を6世紀前半とすることができる。

S X49(8号墳)(第11図) 7号墳の北西約20mに位置する径約8mの円墳である。周溝は南側が幅約0.8m、深さ約0.3m、北側が幅約1m、深さ約0.1mである。東側は農道のため確認できなかった。

遺物は周溝から中世の土師器皿・鍋の破片が少量出土したのみである。

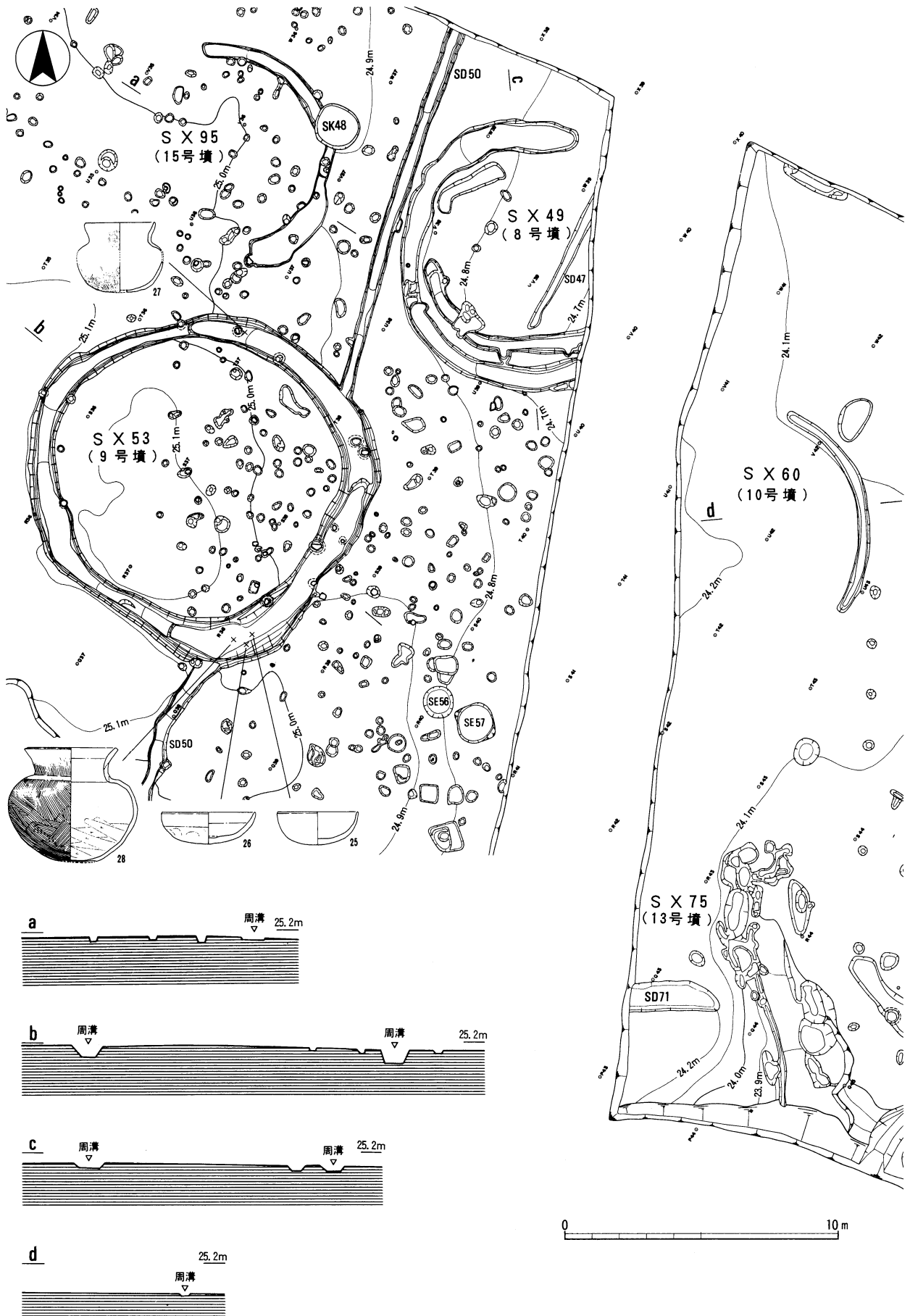
S X53(9号墳)(第11・63図) 8号墳の南西約3mに位置する円墳である。周溝は南側が幅約1.8m、深さ約0.5m、北側が幅約0.5m、深さ約0.3mで、墳丘規模は東西約10m、南北約11mである。遺物は周溝内から古墳時代の土師器椀(25・26)・壺(27・28)、中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が出土している。土師器椀・壺から、9号墳の築造時期を6世紀代とすることができる。

S X60(10号墳)(第11図) 7号墳と9号墳とのほぼ中間に位置する円墳である。削平によって大部分が消滅しており、北東部分の周溝の痕跡がかるうじて検出できた。周溝は幅約0.5m、深さ約0.1mである。墳丘規模は9m程度と推定できる。出土遺物は全くない。

S X61(11号墳)(第13・63図) 7号墳の南西5mに位置する径約9.5mの円墳である。周溝は削平によって西側が消滅しているが、東側では幅約1m、深さ約0.4mある。周溝内から古墳時代の土師器椀(29)1点と、中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が少量出土した。29は口縁部の形態から、5世紀末葉あるいは6世紀前半のものと思われる。11号墳の築造時期もそのころであろう。

S X72(12号墳)(第13・63図) 7号墳のすぐ南に築かれた径約11mの円墳である。周溝は東側が幅約1.5m、深さ0.5m、西側が幅約1m、深さ約0.2mあり、北西側は削平によるためか途切れている。周溝内から古墳時代の須恵器無蓋高杯(31)、土師器椀(30)・台付甕、中世の皿・小皿・鍋の小片が出土している。31は脚部が失われているが、3方透かしの痕跡が認められる。Ⅱ型式の2段階か3段階(6世紀中頃)のものであろう。12号墳の築造時期もそのころにおくことができる。

S X75(13号墳)(第11・12図) 11号墳の西側で検出された土坑群を石材が全て抜き取られた横穴式石室の痕跡と判断したが、古墳時代の遺物が全く出土していないこと、想定される墳丘の範囲が11号墳と大きく重複してしまうことなど問題も多い。ここに横穴式石室があったとすれば、主軸をN11°Wにとり、ほぼ南に開口するものを想定することがで



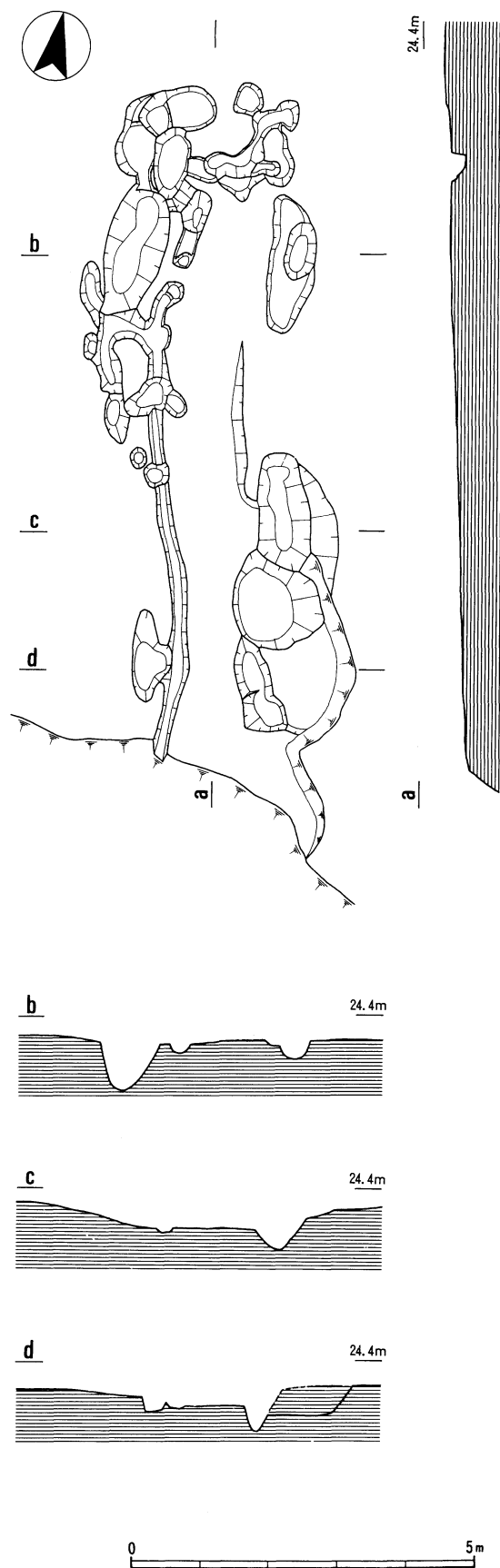
第11图 S X 49 · 53 · 60 · 75 · 95 実測図 (1 : 200)

きる。石室規模は南端部分が攪乱されているため不明瞭であるが、全長8m程度、玄室幅1.5m程度と推定される。

S X 82 (14号墳) (第13・14・63図) 12号墳の南約12mで検出された横穴式石室で、墳丘や周溝は確認できなかった。石室は段丘斜面に向かって築かれており、羨道部分は自然崩壊あるいは削平によって完全に破壊されていた。残存する玄室から、主軸をN35°Eにとり南南西に開口していたことがわかる。石室掘形は玄室部分の平面形が長方形で、検出長約6.3m、幅3.0m前後である。石室の石材は近くで容易に入手できる結晶片岩を使用している。基底石は左側壁が比較的良く残っているが、右側壁は南端の1つを除いて全て石室床面上に倒れていた。奥壁の基底石も石室内に向かって倒れかかっている。2段目以上の石材は両側の側壁にわずかに残っていたが、右側壁のものは基底石の倒壊にともなって内側にせり出していたため、石室内の埋土除去とともに全て取り外さざるを得なかった。玄室の平面形は長方形で、規模は南端にあるピット列が玄門部の石材抜き取り痕であるとすれば、長さ約5.0m、幅約1.5mとなる。奥壁と右側壁とが接する部分に、径1m程の範囲で地山崩壊土と黒ボク土が混じり合った攪乱土がみられた。この攪乱土は石室の検出面から床面まで続いており、その中から中世の土師器皿片やⅡ型式5段階の須恵器杯蓋(32)が出土した。おそらくこの部分の中世以降に掘られた盗掘坑で、玄室右側壁の倒壊は、この盗掘によって石材間のバランスが崩されたために引き起こされたものと思われる。石室床面には遺物が全くみられないことから、盗掘によって全て持ち去られ、32のみが盗掘坑内へ置き捨てられたと考えられる。14号墳の築造時期は32の時期、つまり6世紀末葉から7世紀初頭にかけてと思われる。石室の形態もその時期のものとして問題ない。

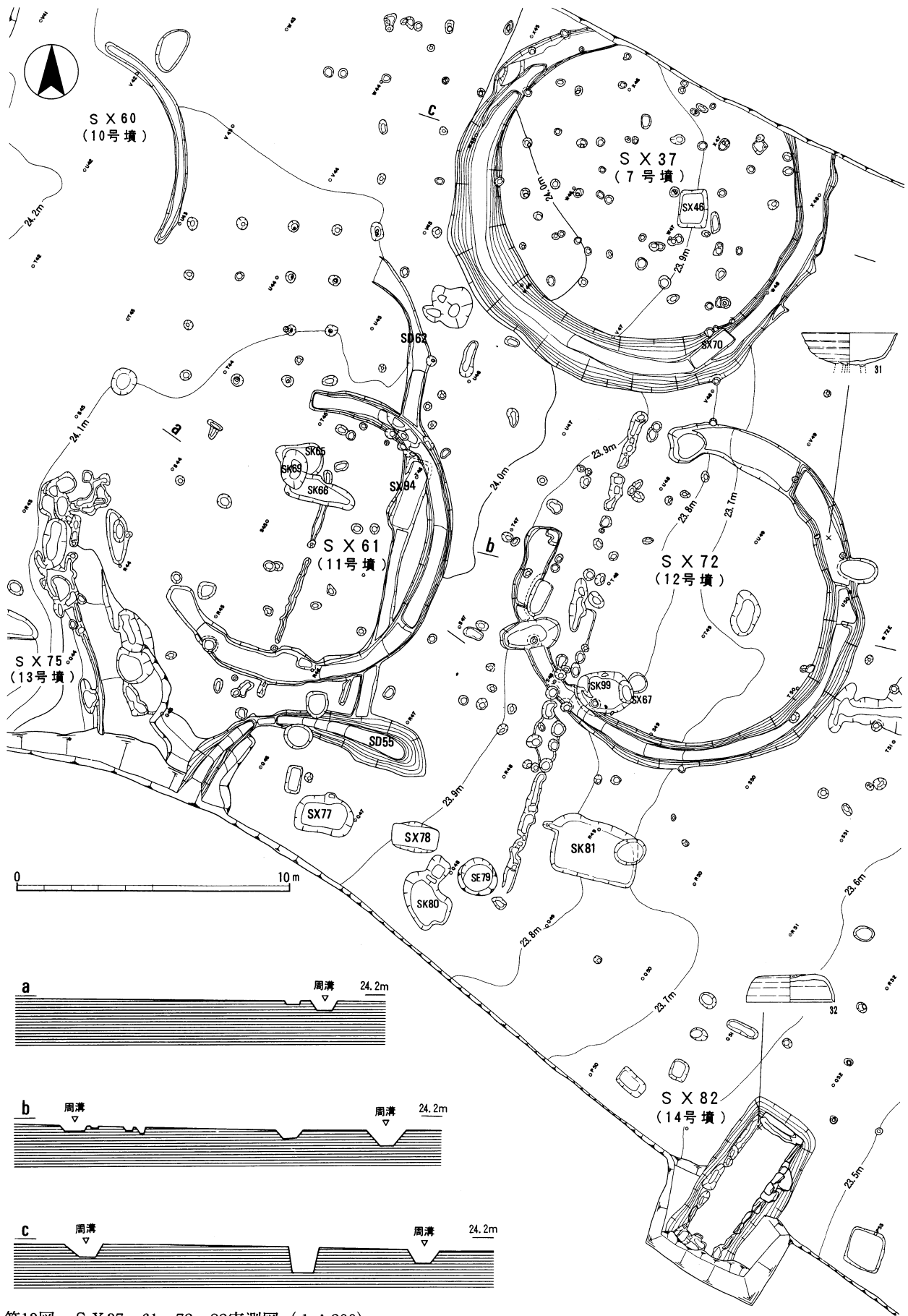
S X 95 (15号墳) (第11図) 9号墳のすぐ北に築かれた円墳である。周溝は東側部分しか残っておらず、幅約0.8m、深さ約0.2mである。墳丘規模は7m程度と推定できる。周溝内から中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が少量出土した。

S X 113 (16号墳) (第18図) 調査区の東端近く

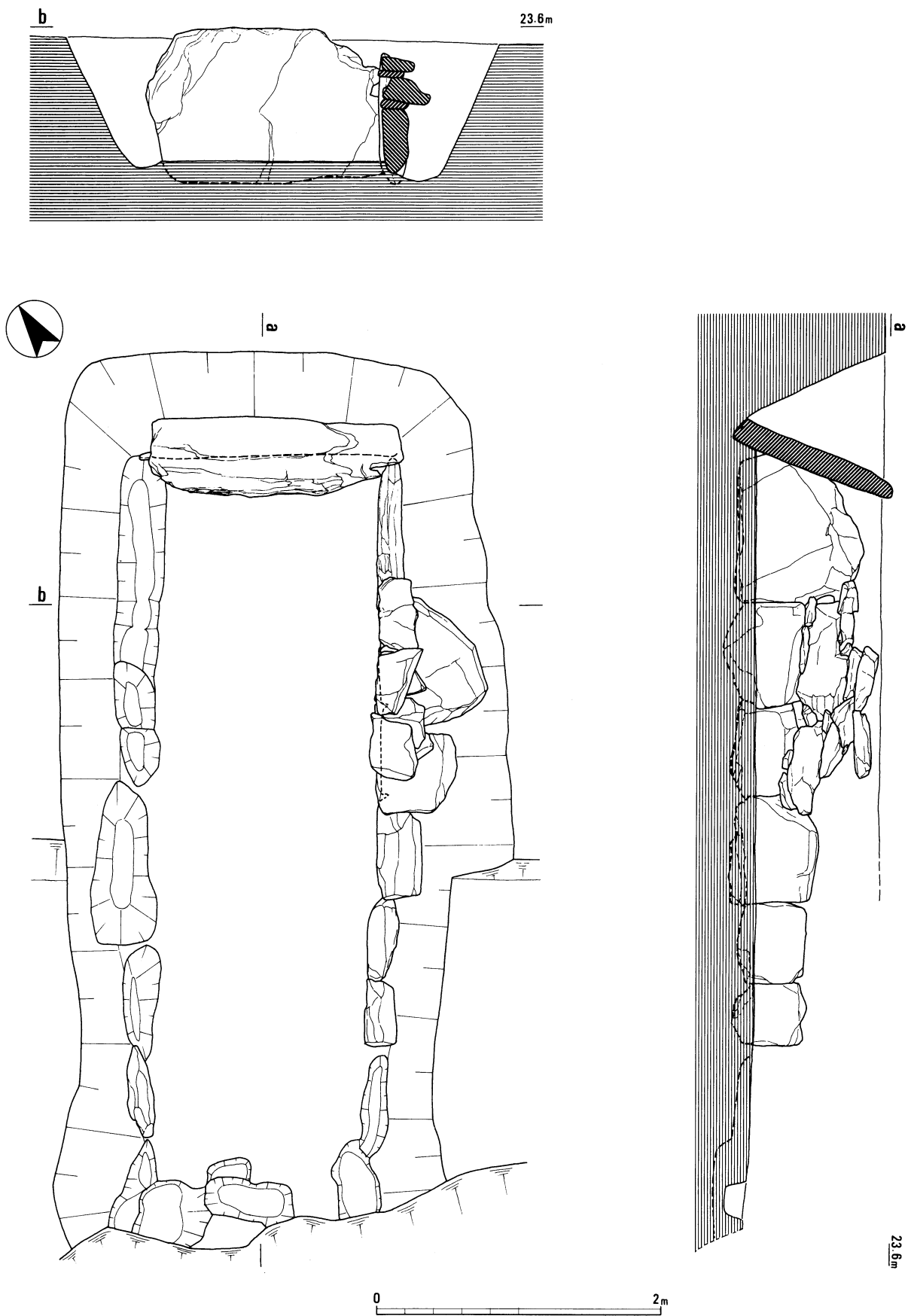


第12図 S X 75実測図 (1:100)

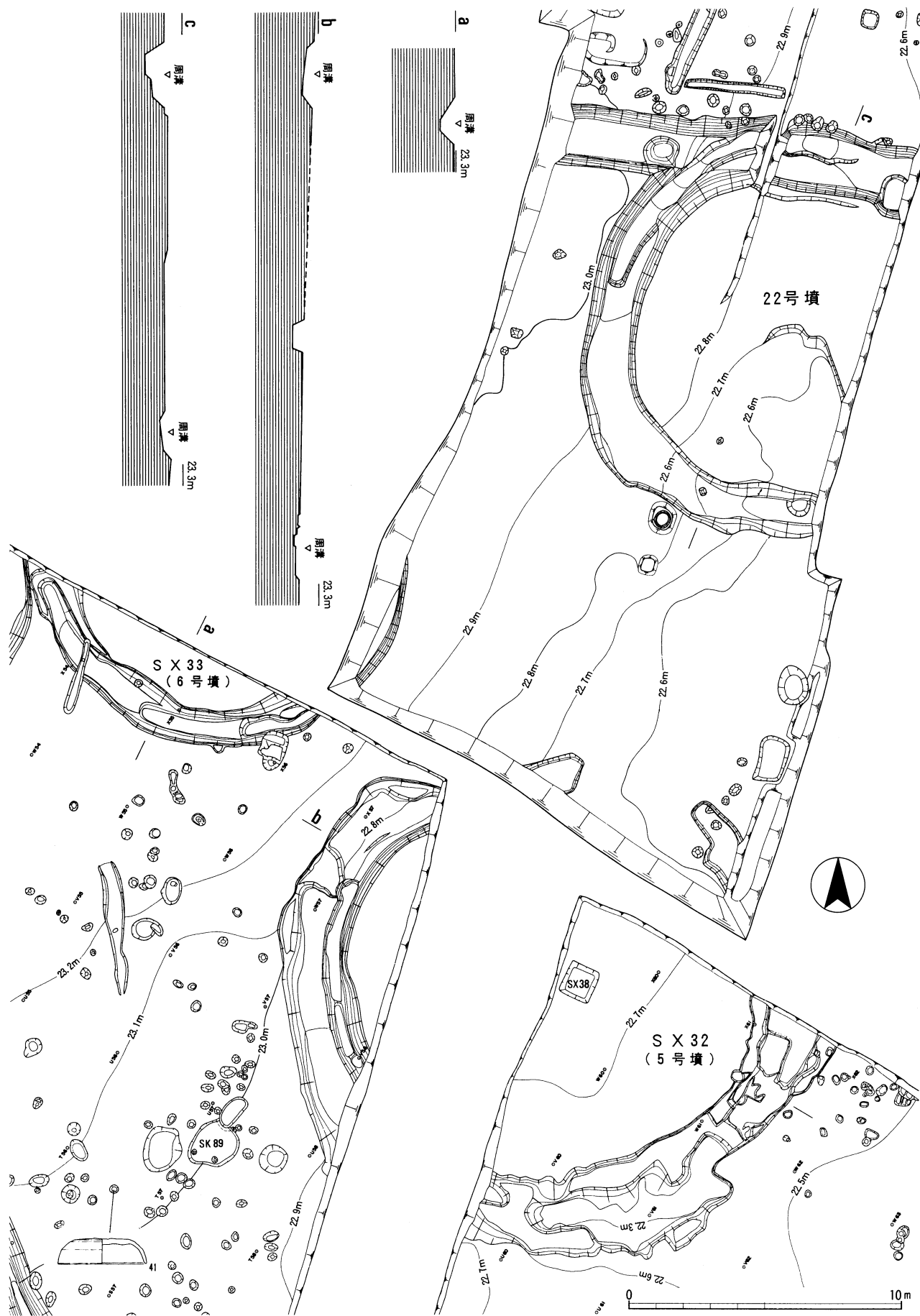




第13図 SX 37・61・72・82実測図 (1:200)



第14図 SX82実測図 (1 : 40)



第15图 SX 32·33实测图 (1:200)

で検出された周溝である。東側が失われているため墳形はよくわからないが、一辺の長さが6 m程度の方墳であろう。周溝は南西側で幅約0.9m、深さ約0.1mである。周溝内から同一個体のもと思われる土師器甕の体部片が8点出土している。この甕の時期は確定しがたく、体部片内外面に施されているハケ目調整から7世紀代あるいは8世紀代のものと推定できるのみである。16号墳の築造時期は、墳形や規模が類似している4号墳・17号墳とほぼ同じ7世紀前半頃と考えられる。

**S X 180 (17号墳) (第18・63図)** 16号墳の北約8 mで検出された方墳である。東側が失われているため規模は確定出来ないが、一辺の長さが6 m程度であろうと思われる。周溝は南西側が幅約0.6m、深さ約0.1m、北西側が幅約0.8m、深さ約0.2mである。周溝内から中世の土師器皿の小片1点と古墳時代の須恵器高杯(33・34)が出土している。33・34は同一個体と思われ、II型式6段階(7世紀前半)の特徴をもっている。17号墳の築造時期もそのころであろう。

**S X 182 (18号墳) (第19図)** 調査区の東端で検出された周溝で、一辺が約9.5mの方墳と思われる。周溝は西側が幅約0.8m、深さ約0.3m、南側が幅約1.2m、深さ約0.2mである。遺物は周溝内から中世の土師器皿・小皿・鍋、青磁碗の破片が少量出土したのみで、古墳時代のものは全くみられなかった。

**S X 186 (19号墳) (第19図)** 調査区の東端で検出された周溝で、大部分が調査区外になり、しかもS K 187によって大きく壊されている。周溝は幅約1 m、深さ約0.3mで、一辺の長さが6.5m以上の方墳と思われる。遺物は周溝内から中世の土師器皿・小皿、山茶碗の破片が少量したが、古墳時代のものはみられなかった。ただし、S K 187出土の須恵器杯身(36)は本来19号墳のものであった可能性も考えられる。そうだとすれば、19号墳の築造時期を7世紀前半とすることができる。

**S X 196 (20号墳) (第18・63図)** 3号墳と17号墳の間に位置する径約9 mの円墳である。周溝は北西側が幅約1.4m、深さ約0.2m、南側が幅約1 m、深さ約0.1mで、東側が途切れている。周溝内から須恵器杯身(35)、中世の土師器小皿・鍋の破片が

少量出土した。35は小型で、立ち上がりが短く、底部にはロクロヘラケズリがみられないことなど、II型式6段階(7世紀前半)の特徴をもつ。20号墳の築造時期もそのころであろう。

**S X 215 (21号墳) (第17図)** 15号墳の西約22 mに位置する。長辺の長さ約7.5m、短辺の長さ約6.5 mの方墳の周溝と思われるが、出土遺物は中世の土師器皿・小皿・鍋の破片のみである。周溝は北西側が幅約0.8m、深さ約0.3mで、南東側が幅約0.5m、深さ約0.2mである。墳域のほぼ中央に、あたかも古墳の主体部のような形状のS K 229があるが、この土坑からは中世の土師器片が少量出土したのみで、21号墳との関係は不明である。

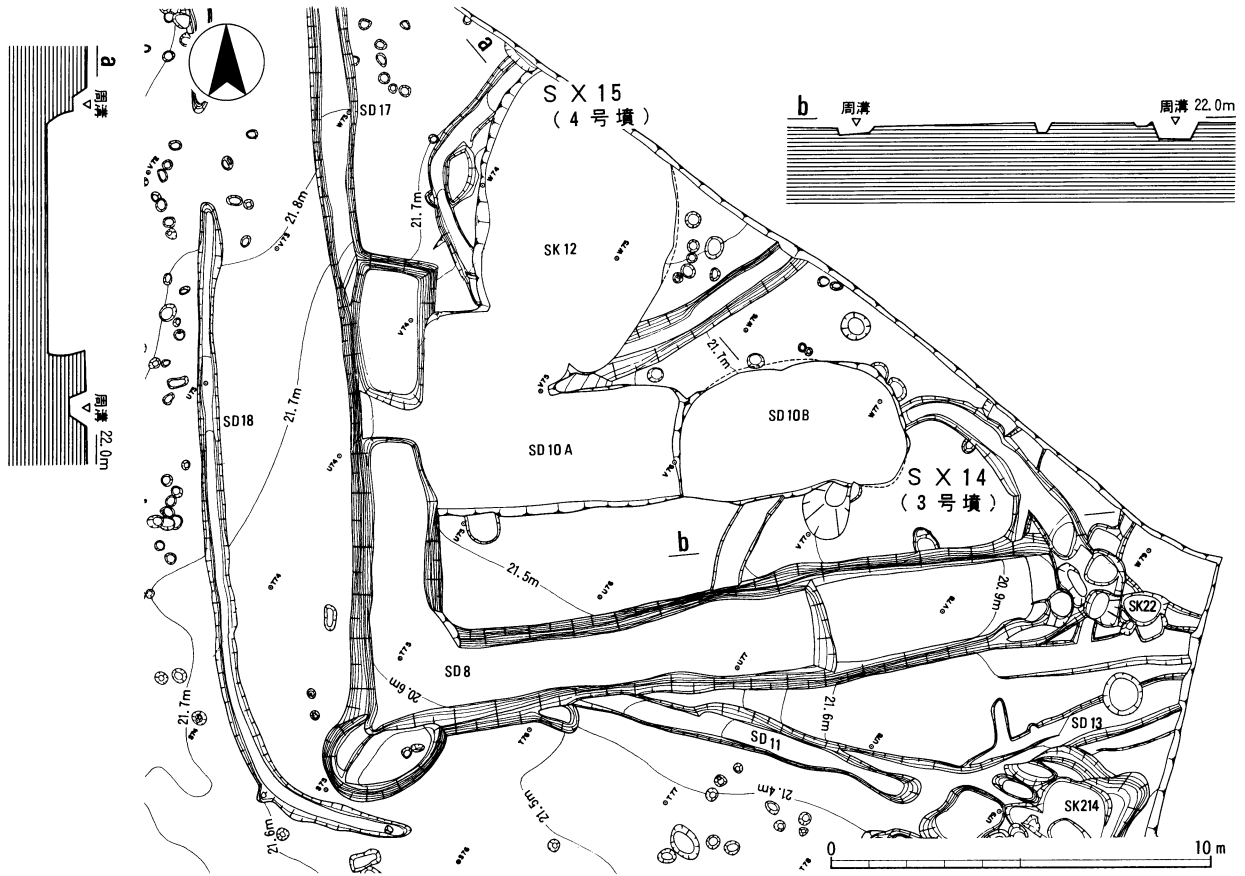
**22号墳 (第15図)** ケカノ辻・角垣内地区で検出された径約12mの円墳で、5号墳の北北東約10mに位置する。周溝は北側が幅約2.3m、深さ約0.6m、南側が幅約1.8m、深さ約0.2mである。周溝から6世紀初頭と思われる須恵器杯蓋が出土している。

**23号墳** ケカノ辻・角垣内地区で検出された円墳で、22号墳の北約5 mに位置する。墳丘規模は径7.5 m程度と推定される。周溝の幅は約1 mで、深さは西側で約0.6m、南側で約0.2mである。周溝から遺物は出土していないが、墳域の北東側を断ち切っている中世の大溝から出土している6世紀前半頃の土師器碗は23号墳のものである可能性が高い。

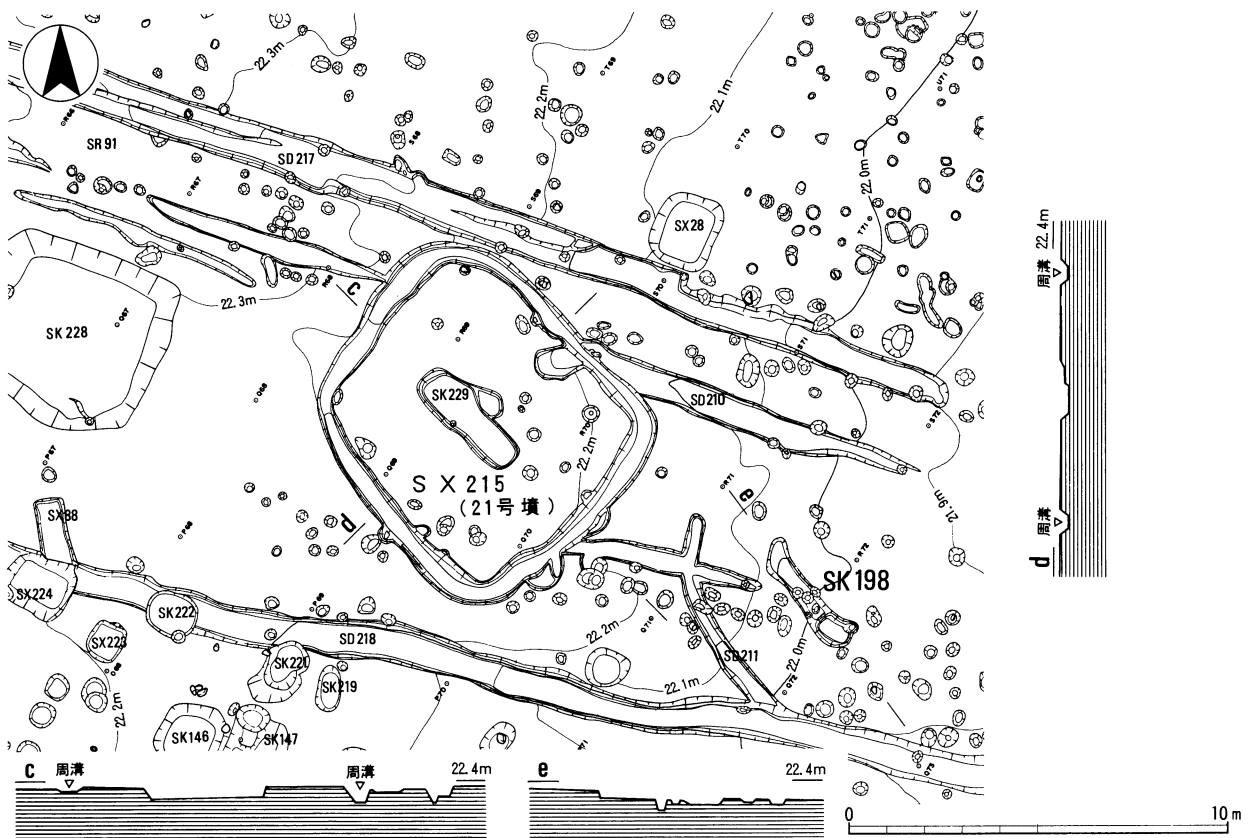
## 2. その他の遺構と出土遺物

**S K 187 (第18・63図)** 調査区の西端、19号墳と重複する位置にある土坑で、調査区外にもものびており全体の形状は不明である。深さは最も深い所で約1 mある。II段階6型式(7世紀前半)の須恵器杯身(36)が出土したため古墳時代の遺構としたが、中世の土師器皿・小皿、山茶碗、知多産と渥美産の甕、青磁碗などの破片も出土している。36は19号墳からの混入とも考えられ、S K 187は中世の遺構とすべきかもしれない。

**S K 198 (第16・63図)** 21号墳の南東約4 mにある土坑で、長さ約3.3m、幅約0.7mの短い溝状のものである。深さは約0.1mで、かなり浅い。土坑内からはIII型式3段階(7世紀後半)の須恵器杯蓋(37・38)・杯身(39・40)や中世の土師器皿・小皿・



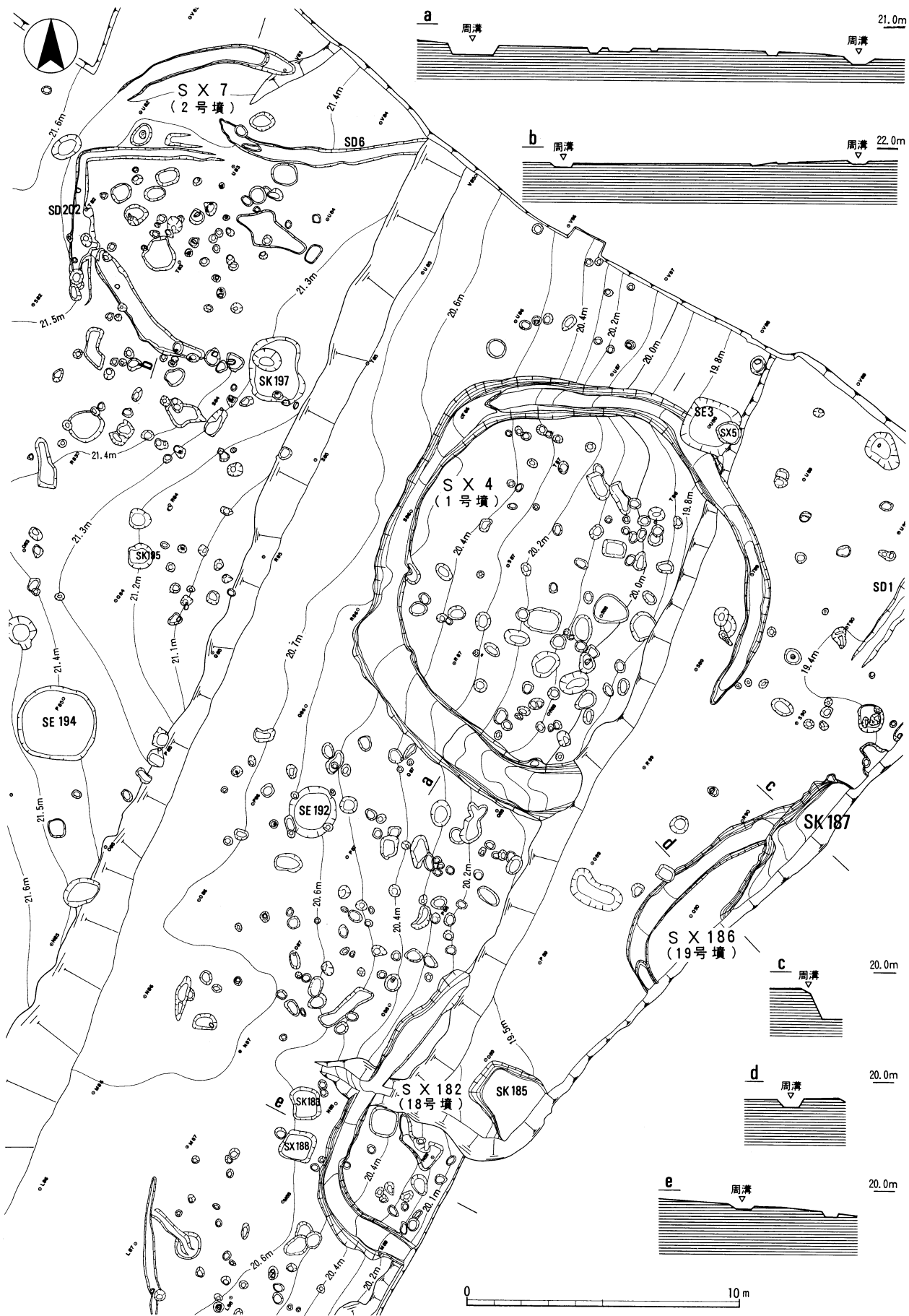
第16图 S X 14・15実測図 (1 : 200)



第17图 S X 215実測図 (1 : 200)



第18图 SX 113・180・196実測図 (1 : 200)



第19図 SX 4・7・182・186実測図 (1 : 200)



遺構名	位置	外形	規模	出土遺物(古墳時代の遺物)	時期	備考
SX 4 (1号墳)	Q~U 85~89	円墳	墳丘=径約13m 周溝=幅0~1.8m、深さ0~0.6m	土師器台付甕1・椀1	6世紀初頭	
SX 7 (2号墳)	S~V 81~83	円墳	墳丘=径約10.5m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.1m	—	—	
SX 14 (3号墳)	U~W 76~79	方墳	墳丘=一辺約7.5m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	—	7世紀前半?	
SX 15 (4号墳)	V・W 73~76	方墳	墳丘=一辺約7.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.4m	須恵器杯身1・杯蓋2・高杯1・埴1 土師器ミニチュア鉢1	7世紀前半	調査区外にのびる
SX 32 (5号墳)	U~Y 56~61	円墳	墳丘=東西約15.5m、南北約14m 周溝=幅0~3.0m、深さ0~0.4m	須恵器杯身1・杯蓋1・提瓶1・甕1 土師器ミニチュア高杯3	6世紀後半	調査区外とケカノ辻・ 角垣内地区にのびる
SX 33 (6号墳)	W~Z 53~56	円墳	墳丘=径約11m 周溝=幅0~1.5m、深さ0~0.4m	—	—	調査区外とケカノ辻・ 角垣内地区にのびる
SX 37 (7号墳)	U~X 44~48	円墳	墳丘=径約11.5m 周溝=幅1.0~2.0m、深さ0.3~0.7m	須恵器杯蓋2・甕1・甕1 土師器椀1	6世紀前半	調査区外にのびる
SX 49 (8号墳)	U~W 37~39	円墳	墳丘=径約8m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.3m	—	—	
SX 53 (9号墳)	Q~T 35~38	円墳	墳丘=東西約10m、南北約11m 周溝=幅0.5~1.8m、深さ0.3~0.5m	土師器椀2・壺2	6世紀	
SX 60 (10号墳)	T~V 41・42	円墳	墳丘=径約9m 周溝=幅0~0.5m、深さ0~0.1m	—	—	
SX 61 (11号墳)	Q~T 44~46	円墳	墳丘=径約9.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.4m	土師器椀1	5世紀末葉 ~6世紀前半	
SX 72 (12号墳)	R~U 47~50	円墳	墳丘=径約11m 周溝=幅0~1.5m、深さ0~0.5m	須恵器高杯1 土師器椀1・台付甕1	6世紀中頃	
SX 75 (13号墳)	P~R 43・44	不明	—	—	—	横穴式石室の石材抜き 取り痕と推定
SX 82 (14号墳)	O・P 51・52	不明	石室=玄室長約5.0m、玄室幅約1.5m	須恵器杯蓋1	6世紀末葉 ~7世紀初頭	
SX 95 (15号墳)	T~V 35~37	円墳	墳丘=径約7m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	—	—	
SX 113 (16号墳)	I~K 83・84	方墳?	墳丘=一辺約6m 周溝=幅0~0.9m、深さ0~0.1m	土師器甕1	7世紀前半?	
SX 180 (17号墳)	L~N 81・82	方墳	墳丘=一辺約6m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	須恵器高杯1	7世紀前半	
SX 182 (18号墳)	L~O 88・89	方墳	墳丘=一辺約9.5m 周溝=幅0~1.2m、深さ0~0.3m	—	—	調査区外にのびる
SX 186 (19号墳)	P~R 89・90	方墳?	墳丘=一辺6.5m以上 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.3m	須恵器杯身?	7世紀前半?	調査区外にのびる
SX 196 (20号墳)	0~R 78~81	円墳	墳丘=径約9m 周溝=幅0~1.4m、深さ0~0.2m	須恵器杯身1	7世紀前半	
SX 215 (21号墳)	P~R 68~70	方墳	墳丘=長辺7.5m、短辺6.5m 周溝=幅0.5~0.8m、深さ0.1~0.3m	—	—	
22号墳	ケカノ辻・ 角垣内地区	円墳	墳丘=径約12m 周溝=幅1.7~2.3m、深さ0.2~0.6m	須恵器杯蓋	6世紀初頭	調査区外にのびる
23号墳	ケカノ辻・ 角垣内地区	円墳	墳丘=径約7.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.6m	土師器椀?	6世紀前半?	調査区外にのびる

第3表 古墳一覽

鍋の小片などが出土している。

S56ピット1（第14・63図） 円形のピットで、径約0.3m、深さ約0.1mである。出土遺物はⅡ型式5段階（6世紀末葉～7世紀初頭）の須恵器杯蓋(41)のみである。近くに関連すると思われる遺構はなく、このピットの性格は不明である。

### 3. 中世遺構出土の遺物（第63図）

中世の遺構から、整理用コンテナに約1箱の古墳時代の土器が出土している。SX38出土のものは5号墳の記述中に触れたので、ここでは除く。

SD8 須恵器杯蓋天井部？片1点・甕頸部？片1点・甕体部片11点（数個体）。

SD10A 須恵器瓶？体部片5点・甕体部片3点。

SD10B 須恵器壺？体部片1点・甕頸部片1点・甕体部片4点（2個体）。

SK12 須恵器甕口頸部片1点。

SX28 須恵器提瓶？口縁部片1点。

SD36 Ⅱ型式2段階（6世紀中頃）の須恵器杯身2点（42・43）。

SX40 須恵器壺底部片1点。

SK45 葉臘石製紡錘車1点（44）。5世紀末葉以前のものであろう。

SX67 須恵器甕？片1点。

SX78 6世紀中頃の須恵器杯蓋片1点。

SK122 須恵器甕片2点（2個体）。

SX149 須恵器甕体部片25点（同一個体）。

SX151 須恵器甕体部片16点（同一個体）。

SE193 6世紀代の須恵器杯蓋天井部片1点・杯身口縁部片1点・高杯脚部片1点・甕体部片2点（同一個体）。

### 4. 包含層出土の遺物（第63図）

土師器と須恵器が出土している。量は少ない。

Q21 土師器甕1点（50）。

V53 須恵器杯身片2点。

V54 須恵器杯身片1点。

O76 Ⅲ型式3段階（7世紀後半）の須恵器長頸壺頸部1点（48）。

U77 Ⅱ型式6段階（7世紀前半）の須恵器杯身口縁部片1点。

Q78 Ⅱ型式5段階～Ⅱ型式6段階（6世紀末葉～7世紀前半）の須恵器高杯脚部1点（46）。

T78 Ⅱ型式4段階（6世紀後半）の須恵器高杯柱状部1点（47）。

T79 須恵器蓋1点（45）。6世紀代の有蓋高杯の蓋であろう。

Q84 土師器ミニチュア高杯1点（49）。中世のものとも考えられる。

T89 同一個体の須恵器甕体部片2点。

S89 須恵器甕体部片1点。

## 4. 中世の遺構と遺物

今回の調査区からは2,000を越えるピットや300近い土坑・溝等の遺構が検出されている。その中である程度性格あるいは時期が推測できる227の遺構に遺構番号を付した。そのうち古墳時代のものを除く204が中世のものと考えられる。中世の遺構には掘立柱建物45棟、柵1条、井戸12基、中世墓40基、土坑70基、溝33条、道路2条、集石遺構1基がある。

遺構の時期は蚊山遺跡左郡地区Ⅰ期（12世紀中葉～13世紀初頭）、Ⅱ期（13世紀前葉～中葉）、Ⅲ期（13世紀後葉～14世紀前葉）、Ⅳ期（14世紀中葉～15世紀中葉）に分けた。その基準についてはⅥ章で述べる。

中世の遺物は、整理用コンテナに約320箱出土している。ほとんどが在地産の土師器類と渥美・知多・猿投・瀬戸産の陶器類で、13世紀代のものが最も多くみられる。中世陶器については、瀬戸産と思われるものは藤澤良祐氏の瀬戸編年<sup>②</sup>、知多産と思われるものは中野晴久氏の知多編年<sup>③</sup>、渥美産と思われるものは斎藤孝正氏の渥美編年<sup>④</sup>を参考にし、在地産の土師器鍋については伊藤裕偉氏の型式分類<sup>⑤</sup>に従った。また、貿易陶磁については亀井明德氏の指導<sup>⑥</sup>をうけた。なお、土師器皿・小皿の分類については、Ⅳ章を参照していただきたい。

## 1. 掘立柱建物

今回の調査では45棟の掘立柱建物が確認された。そのほとんどは束柱をもつ建物で、柱穴が基盤目状に並んでいる。このような建物跡は、庇の有無や配置をどう想定するかによって身舎の規模や棟方向が数通り考えられる場合が往々にしてある<sup>②</sup>。ここでは庇の有無について敢えてこだわらなかった。

なお、柱間の長さは、鎌倉時代に普及していたと考えられる曲尺（1尺＝約30.3cm）で測り、建物面積は便宜的に坪（1坪＝6尺平方）で表した。

**S B 2**（第20・63図） 調査区の西端近くに位置する。西から1列目柱列の柱掘形が小さく浅いことからここを庇と考える。桁行4間（南から6.5尺＋5.75尺×2＋8尺＝26尺）×梁行3間（東から8尺＋6.5尺×2＝21尺）の身舎の西面に3間（南から5.75尺×2＋8尺＝19.5尺）×1間（8尺）の庇が付く南北棟（棟方向N2°W、身舎面積約15.2坪、総面積19.5坪）である。確認された23か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。遺物は庇の柱掘形から出土した土師器小皿C（51）と皿C（52）の2点のみである。52は口径が12cm前後でB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

**S B 9**（第21・63図） S B 2の南東約20mに位置する。南西隅の柱位置が確認できなかったのは古墳の周溝上にあたるため見逃したか、既に削平されていたためと思われる。桁行3間（東から7尺＋6.5尺×2＝20尺）×梁行2間（6尺×2＝12尺）の東西棟（棟方向N84°E、面積約6.7坪）であろう。確認された11か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。東面中央の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>（53）、東から2列目柱列中央の柱掘形から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>（54）が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

**S B 16**（第21図） S B 9と一部重複している。東面と西面の中央の柱位置が確認されなかったが、桁行2間（6尺×2＝12尺）×梁行2間（5.25尺×2＝10.5尺）の東西棟（棟方向N87°E、面積3.5坪）と思われる。確認された7か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は決め難いがⅢ期かⅣ期の建物と思われる。

**S B 19**（第21図） S B 16のすぐ北側に位置して

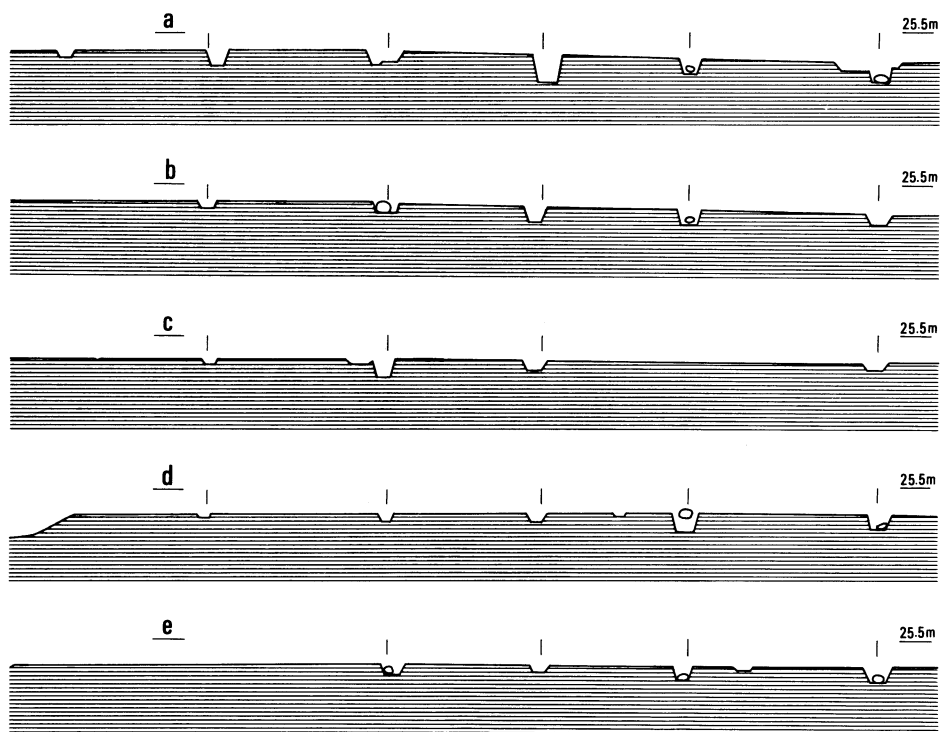
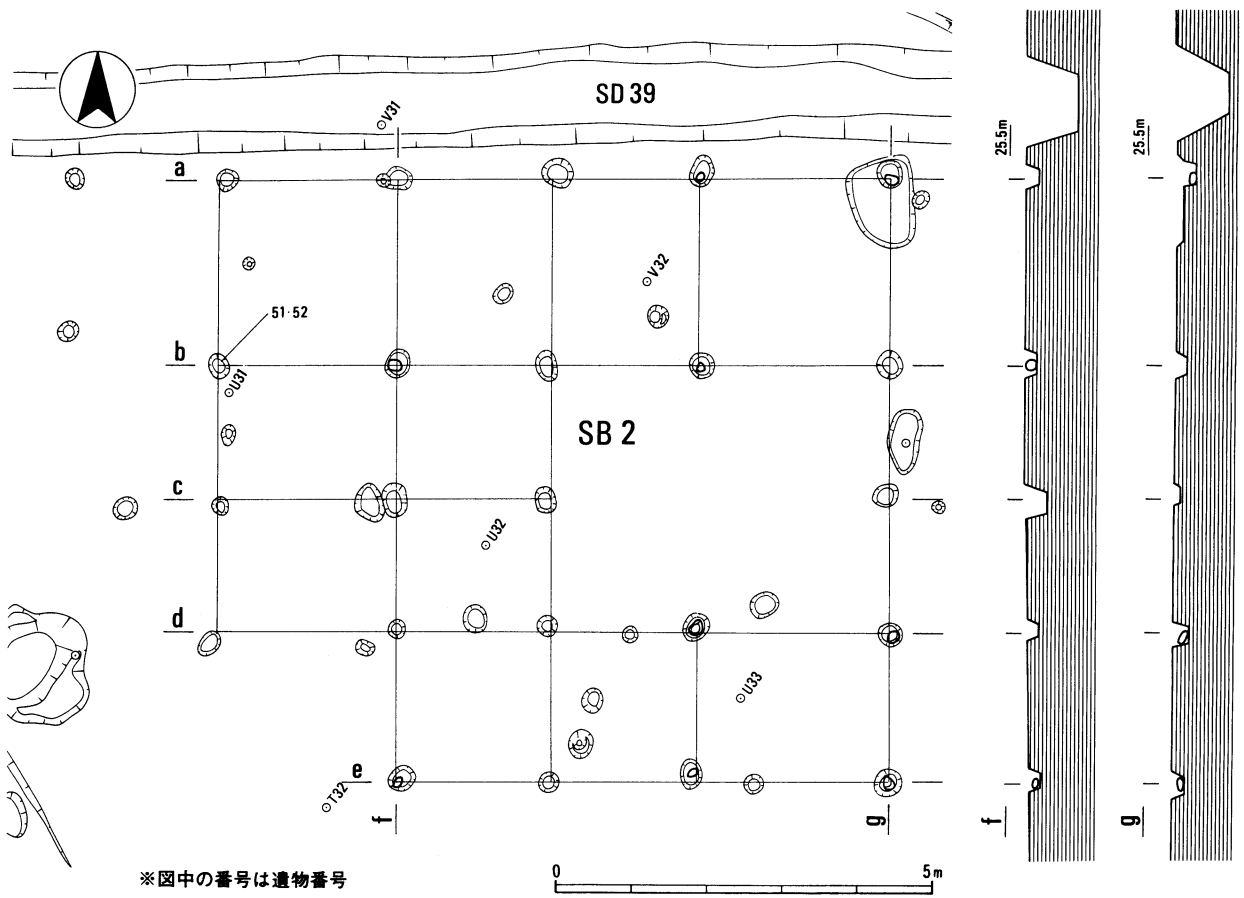
いる。柱位置が3か所確認されなかったため建物の設定にはやや無理があるが、このあたりには根石らしき石をもつピットがいくつかみられることから、何らかの建物が存在していたことは確かである。ここでは桁行2間（6.5尺×2＝13尺）×梁行2間（5.25尺×2＝10.5尺）の東西棟（棟方向N85°E、面積約3.8坪）としておく。確認された5か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。建物中央の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋の小片が出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

**S B 20**（第22図） 調査区の中央からやや東に寄った所に位置する。南面がS D 217により攪乱されており、東面の柱列も不確かである。ここでは桁行4間（6.5尺×4＝26尺）×梁行2間（6.25尺×2＝12.5尺）の南北棟（棟方向N19°E、面積約9坪）としておく。確認された10か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。出土遺物はないが、北から2列目柱列中央の柱掘形が切り勝っているピットから土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>が出土していることから、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

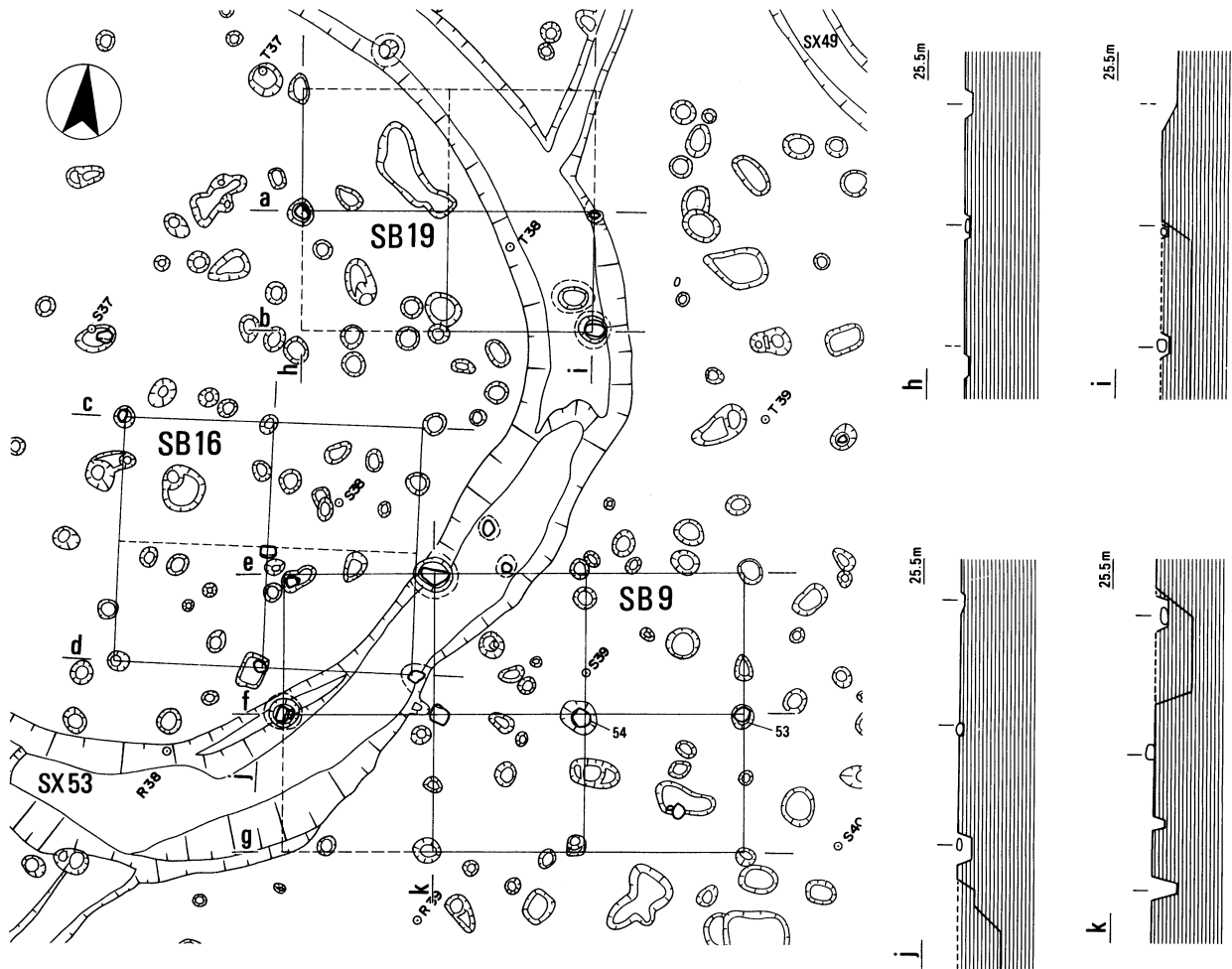
**S B 21**（第22図） S B 20の南東約3mに位置する。西面中央の柱穴はS D 217によって削り取られている。桁行2間（7尺×2＝14尺）×梁行2間（南から6.5尺＋6尺＝12.5尺）の東西棟（棟方向N81°W、面積約4.9坪）である。確認された8か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。北面東端の柱掘形から土師器小皿C・皿C、北面中央の柱掘形から土師器皿B<sub>2</sub>・鍋が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

**S B 23**（第22・63図） S B 20の北東約10mに位置する。調査区外へのびるため、西面2間（6.5尺×2）、東面1間（6.5尺）、南面2間（東から6尺＋7尺＝13尺）しかわからない。2間以上×2間の南北棟（棟方向N8°E）と思われる。束柱はなく根石もみられない。西面南から2番目の柱掘形から土師器皿B<sub>1</sub>（55）・鍋、渥美産の山茶碗が出土している。Ⅰ期の建物であろう。

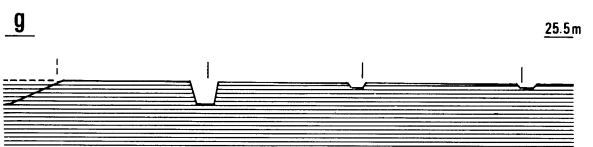
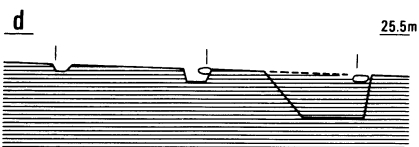
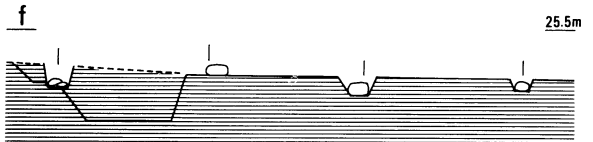
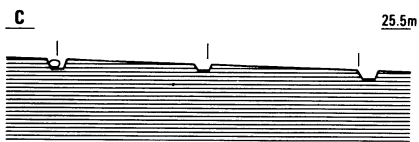
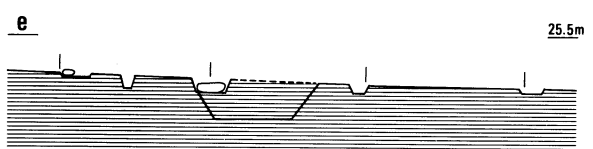
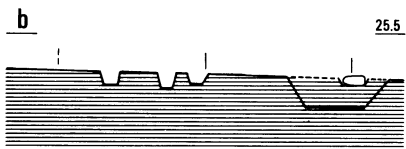
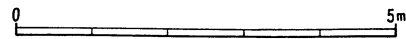
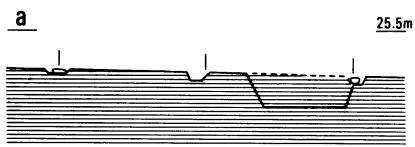
**S B 24**（第23・63図） S B 21の東約5mに位置する。束柱をもつ建物であるが根石はみられない。桁行3間（6尺×3＝18尺）×梁行2間（7.5尺×2＝15尺）の身舎の北面に1間（5尺）×1間（7.5



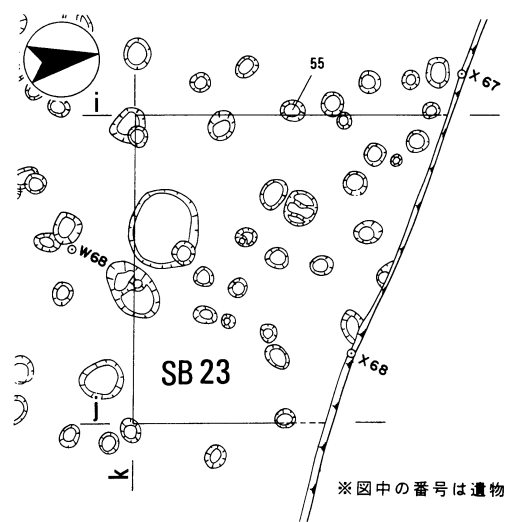
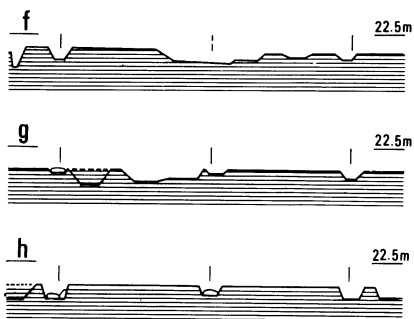
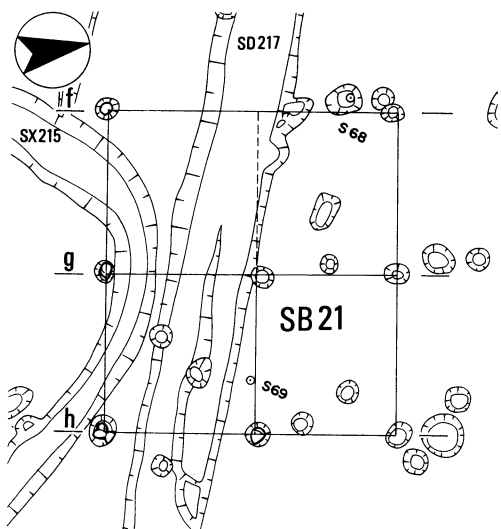
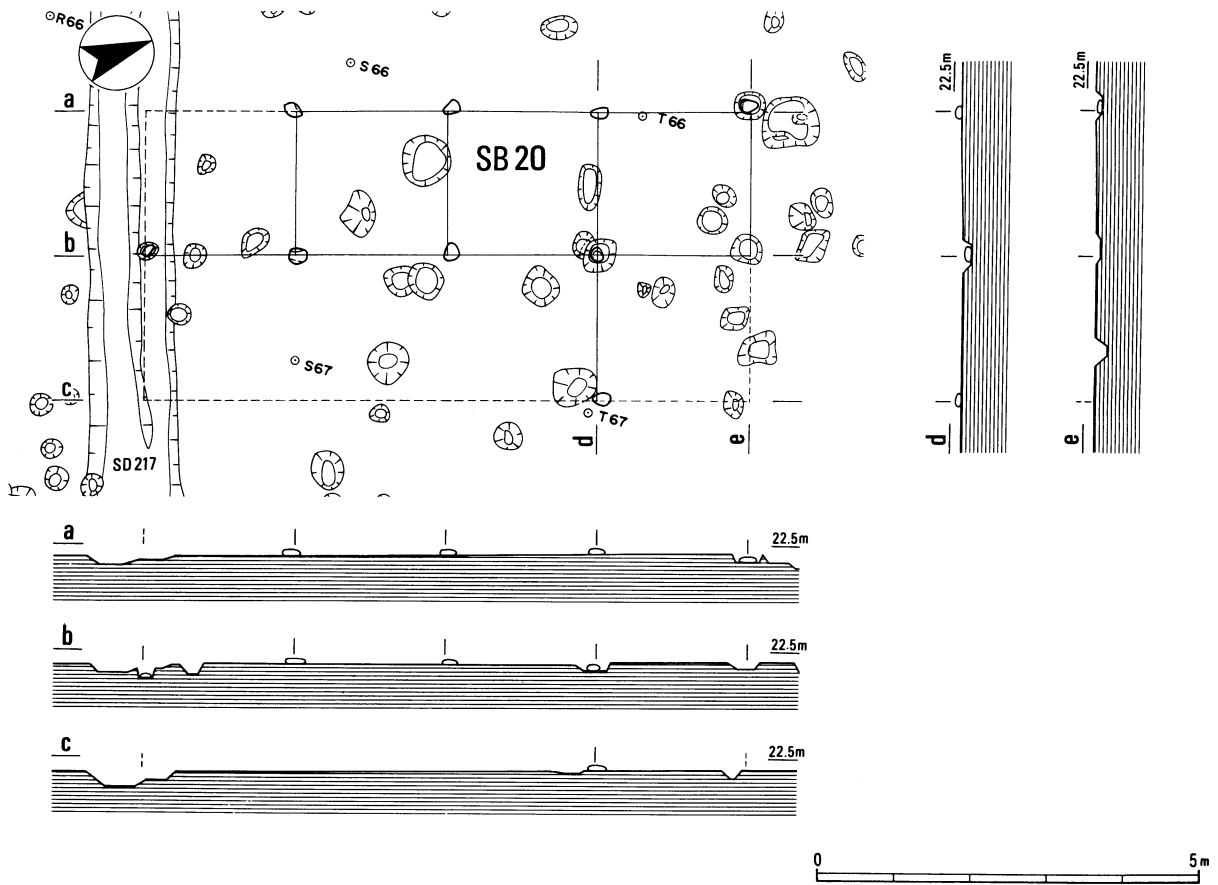
第20図 SB 2 実測図 (1 : 100)



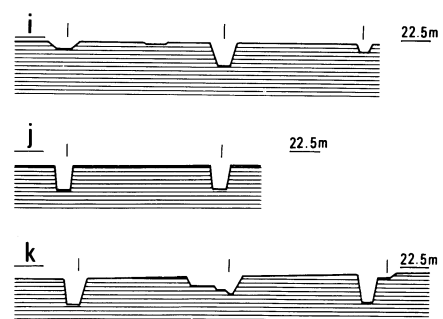
※図中の番号は遺物番号



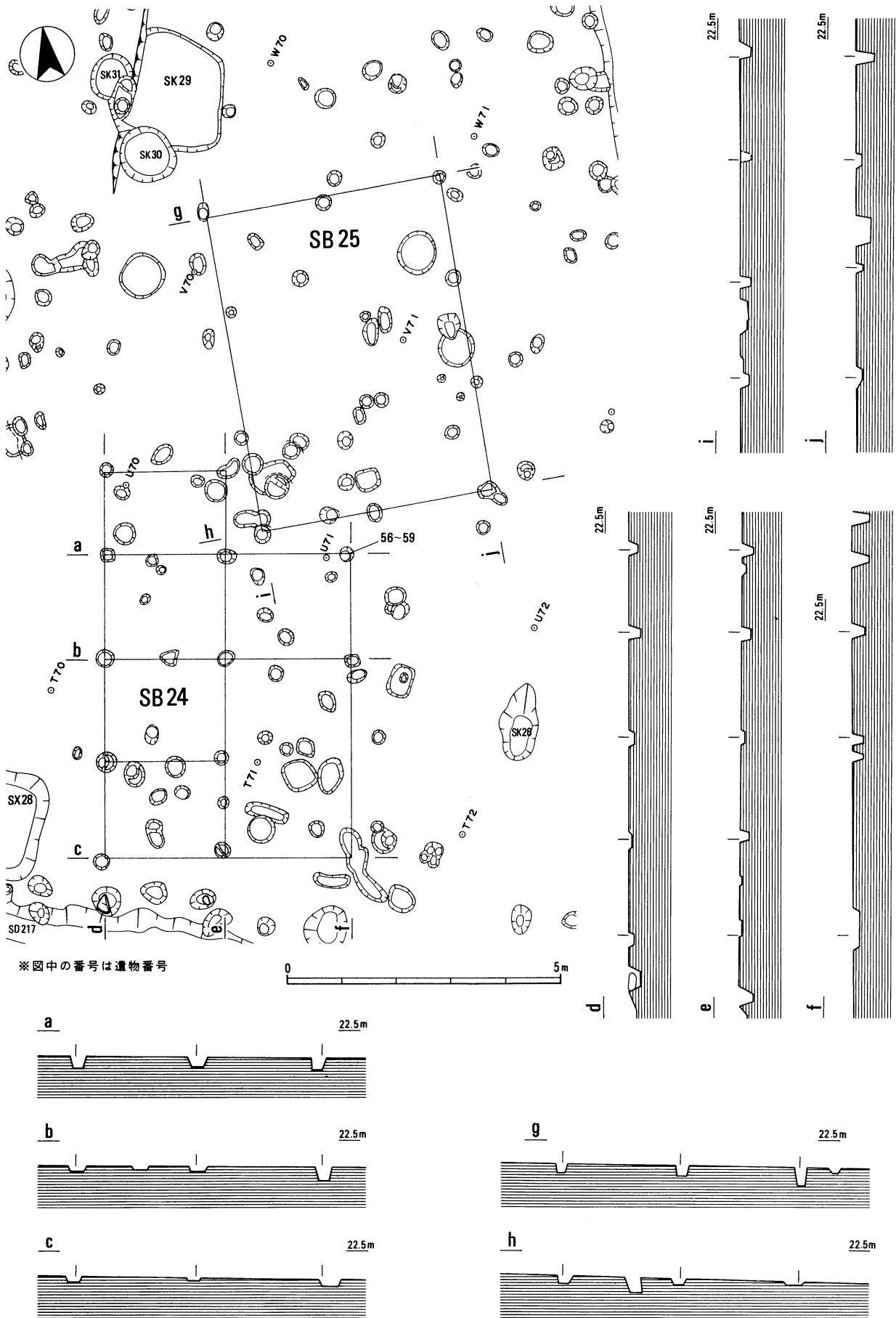
第21図 SB9・16・19実測図 (1:100)



※図中の番号は遺物番号



第22図 SB20・21・23実測図 (1:100)



第23図 SB24・25実測図 (1:100)



尺)の庇をもつ南北棟(棟方向N9°E、身舎面積7.5坪、総面積約8.5坪)である。東面北端の柱掘形から土師器小皿B<sub>1</sub>(57~59)・皿B<sub>1</sub>(56)・鍋、南面中央の柱掘形から土師器皿B<sub>1</sub>、南から2列目柱列中央の柱掘形から土師器小皿B<sub>1</sub>が出土している。I期の建物と思われる。

**S B 25**(第23図) S B 24と接するような位置にある。桁行3間(東面は南から6.5尺×2+6尺=19尺、西面は南から5.5尺+7.5尺+6尺=19尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の南北棟(棟方向N0°E、面積約7.4坪)である。出土遺物がないため時期は不確定であるが、束柱がなく根石もみられないことから、I期の可能性が考えられる。

**S B 27**(第24・63図) S B 24の南約2mに位置する。束柱をもつが根石はみられない。桁行4間(5.75尺×4=23尺)×梁行3間(6.5尺×3=19.5尺)の東西棟(棟方向N77°W、面積約12.5坪)である。南面東から2番目の柱掘形から渥美編年で12世紀後葉から末葉とされる山茶椀(63)、南から2列目柱列東端の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>(60)・皿B<sub>1</sub>(61)・器台(64)、南から2列目柱列の中央柱掘形から土師器皿B<sub>1</sub>・鍋頸部、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶椀(62)が出土している。I期の建物と思われる。

**S B 34**(第24図) S B 27と一部重複する。北から3列目の柱列はS D 218により全て削り取られて消滅している。桁行3間(東から8尺+7尺×2=22尺)×梁行3間(6.5尺×3=19.5尺)の身舎の南面に2間(7尺×2=14尺)×1間(6.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N89°W、身舎面積約11.9坪、総面積約14.5坪)であろう。確認された15か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。北面西から2番目の柱掘形から土師器皿B<sub>2</sub>が出土している。II期の建物と思われる。

**S B 51**(第25・63図) S B 2の南東約50mに位置する。北東隅が調査区外にのびると思われる。南北方向の柱列の内、中央のものが全く検出されなかったが、桁行4間(東から5.5尺+6尺×2+6.5尺=24尺)×梁行3間(6尺×3=18尺)の東西棟(棟方向N89°W、面積12坪)とする。確認された15か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。南面

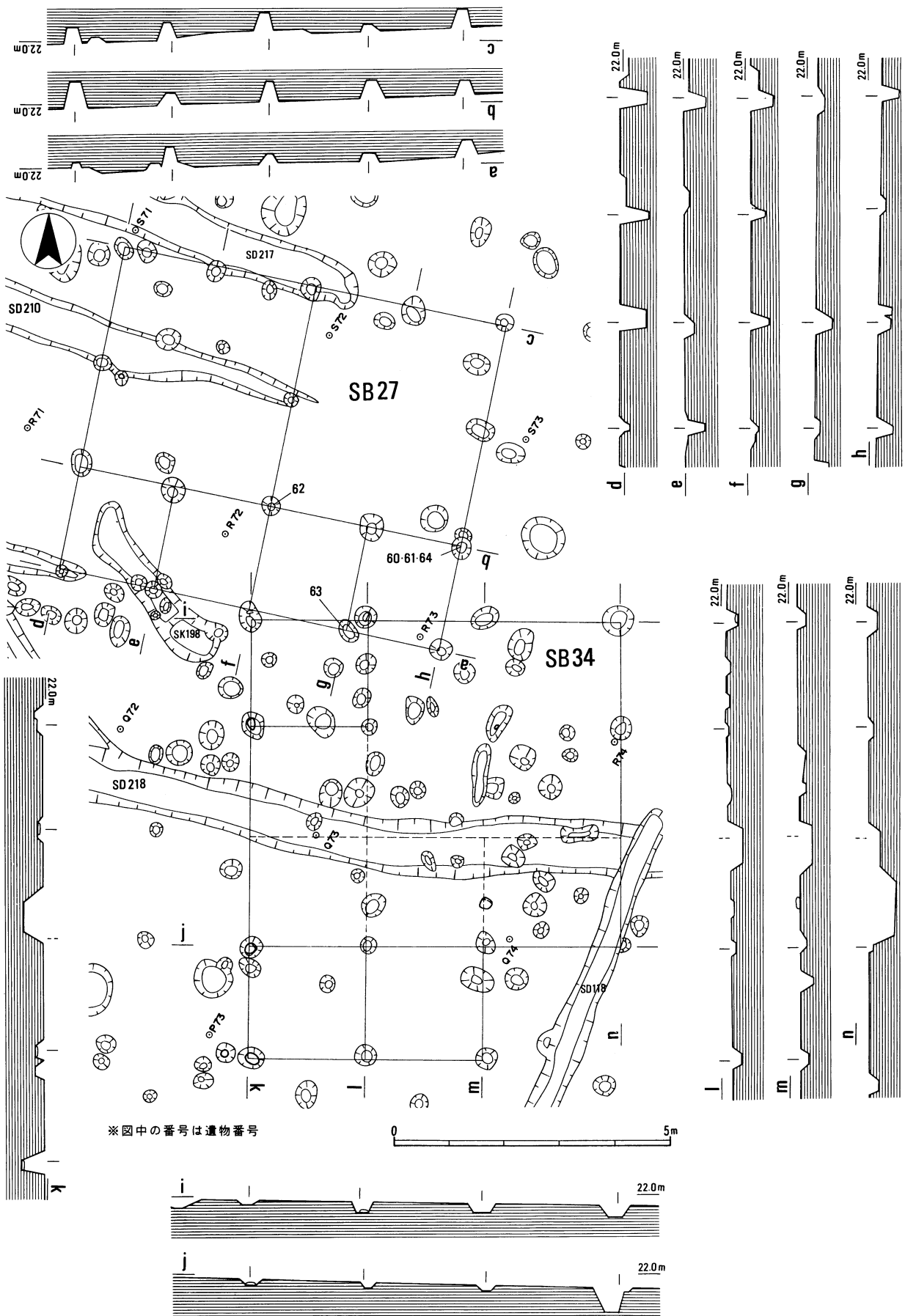
東から2番目の柱掘形としたピットからは土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>(66)が、このピットの東に隣接するピットからも土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>が出土している。どちらのピットがS B 51のものか決め難いが、いずれにしろほぼ同時期のピットである。また、西から2列目柱列北から2番目の柱掘形から土師器小皿B(65)・鍋体部片、他の2か所の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>が出土している。II期の建物と思われる。

**S B 54**(第25・63図) 南東側でS B 51と重複する。柱が3か所欠けているのは、古墳の周溝上にあたるため見逃してしまったと思われる。桁行4間(6尺×4=24尺)×梁行3間(7尺×3=21尺)の南北棟(棟方向N3°E、面積14坪)である。確認された17か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。西面中央の柱掘形から土師器小皿C(67)、北面東から2番目と3番目の柱掘形からB<sub>2</sub>またはCと思われる土師器小皿が出土している。III期の建物と思われる。

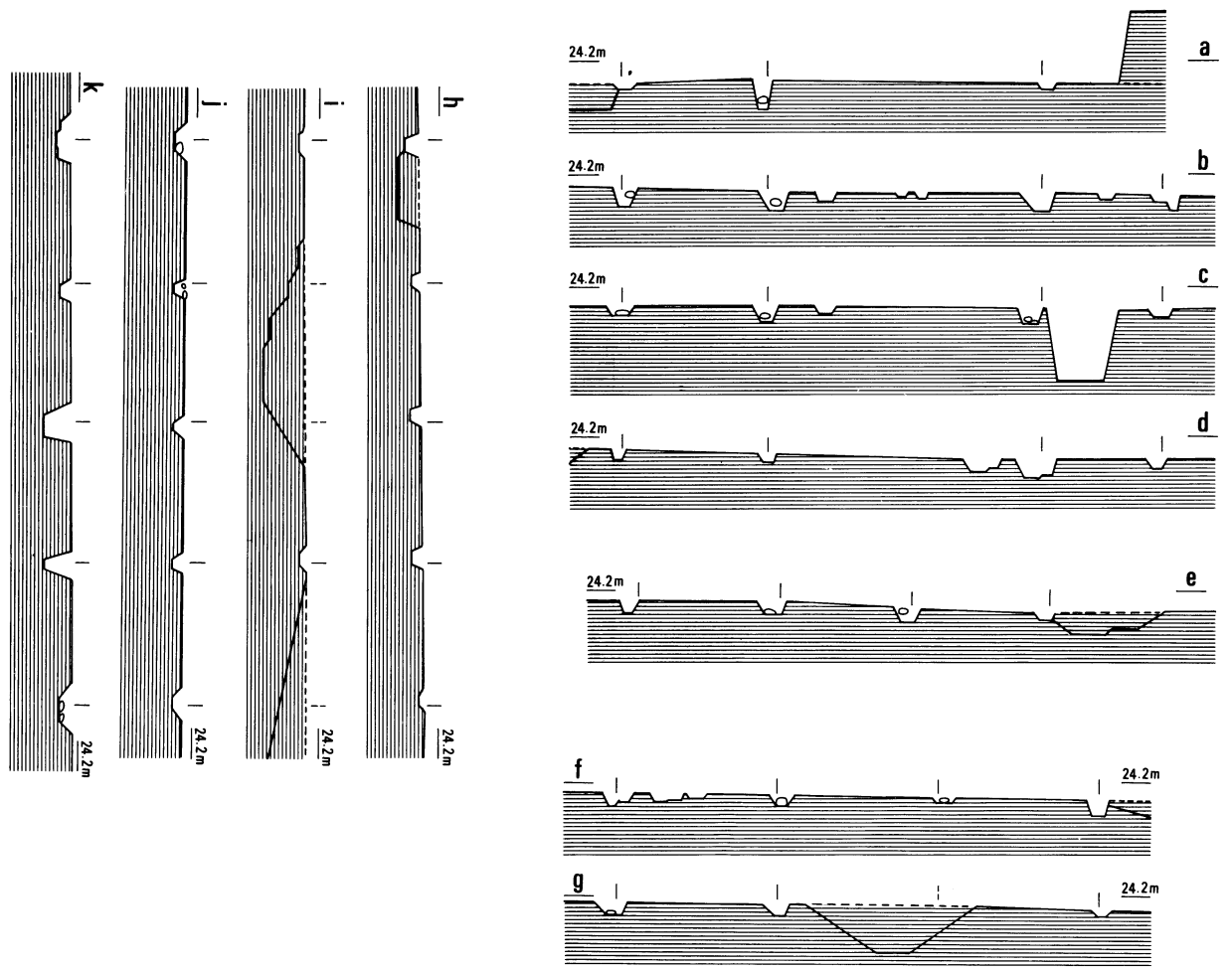
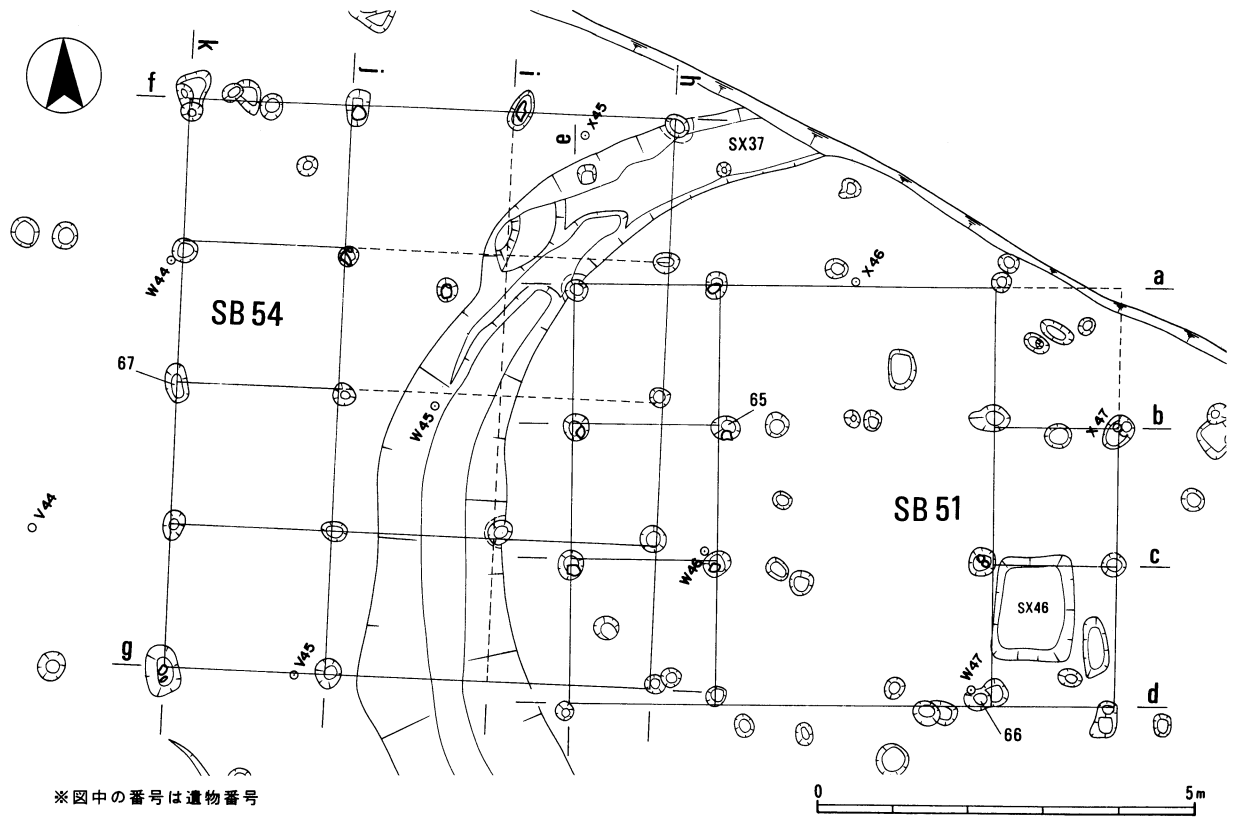
**S B 68**(第26図) S B 54の南西に位置する。桁行3間(6尺×3=18尺)×梁行3間(東から5尺+6尺+6尺=17尺)の南北棟(棟方向N3°E、面積8.5坪)である。束柱はない。確認された15か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。出土遺物は全くない。S B 68の北面柱列とS B 54の南面柱列とは5尺の間をおいて一直線上に並ぶことから、両者は強い結びつきをもって同時期に存在していた可能性が高い。III期の建物であろう。

**S B 74**(第26図) S B 68の南東約30mに位置する。桁行2間(東面は南から7尺+6.5尺=13.5尺、西面は7尺×2=14尺)×梁行2間(北面は5尺×2=10尺、南面は東から4.5尺+5.5尺=10尺)の南北棟(棟方向N15°E、面積約3.8坪)である。確認された8か所の柱位置のうち7か所に根石が残っていた。出土遺物は全くない。S B 74の南面柱列とS B 76の北面柱列とがほぼ一直線上に並ぶことから、S B 76と同時に存在していた建物と思われる。

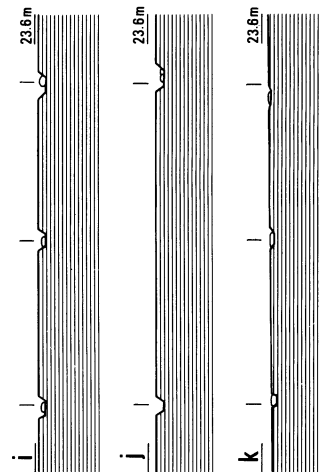
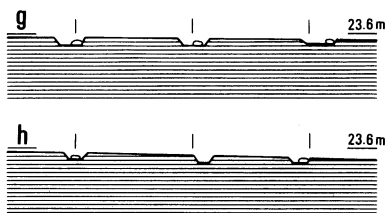
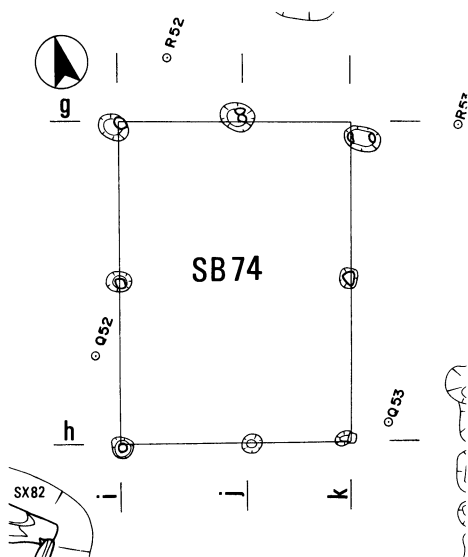
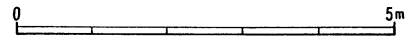
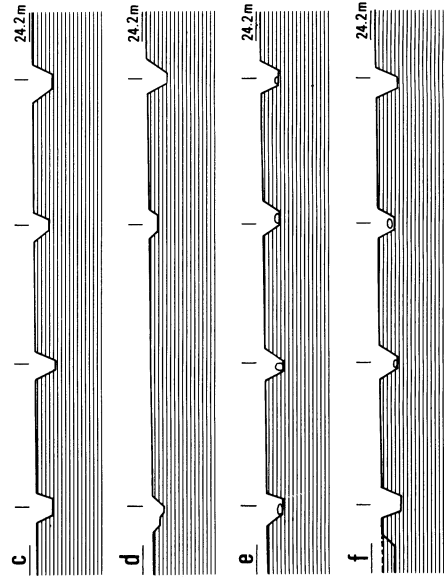
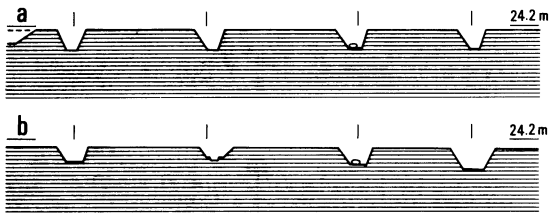
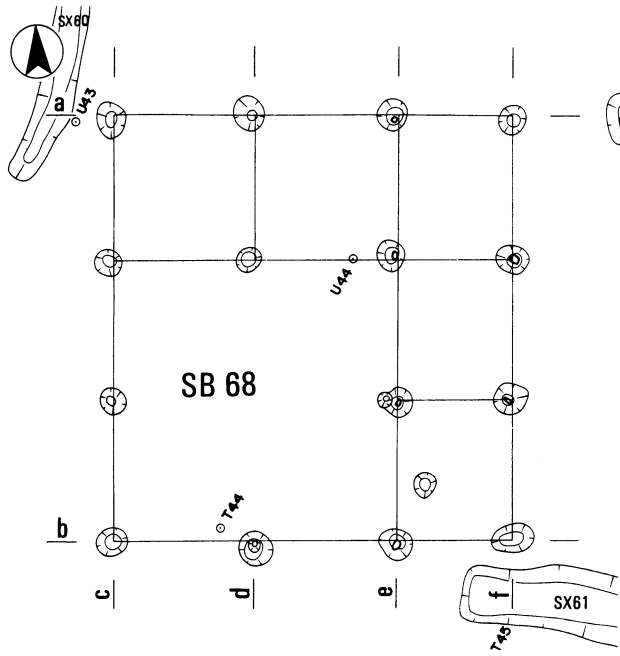
**S B 76**(第27・63図) S B 74の南東約5mに位置する。西から2列目の柱列はS D 35Bに削り取られて消滅している。桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行3間(5尺×3=15尺)の東西棟(棟方向N



第24図 SB27・34実測図 (1:100)



第25図 S B51・54実測図 (1 : 100)



第26図 S B68・74実印図 (1 : 100)

75°W、面積約8.1坪)である。確認された12か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。西面北から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>・伊藤分類第1段階b型式の鍋(74)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀、西面北から3番目の柱掘形から青磁椀、東面北端の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>(70)・皿B<sub>2</sub>・鍋、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶椀(76)、東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>(71)・皿C・伊藤分類第2段階a型式かb型式の鍋(73)、東から2列目柱列北から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>(68・69)・小皿C・皿B<sub>2</sub>(72)・皿C、知多編年第4型式か第5型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の山茶椀(75)、東から2列目柱列北から3番目の柱掘形から土師器小皿C・皿Cが出土している。柱掘形の切り合い関係からS B93より古いことがわかる。Ⅱ期の建物と思われる。

S B85(第27・64図) S B76と一部重複する。桁行3間(5尺×3=15尺)×梁行2間(6.5尺×2=13尺)の南北棟(棟方向N14°E、面積約5.4坪)であるが、西側へさらに1間のびていた可能性も考えられる。もしそうだとすれば桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行3間(5尺×3=15尺)の東西棟(棟方向N76°W、面積約8.1坪)となり、S B76と全く同じ規模、ほとんど同じ棟方向となる。確認された11か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C(77)・皿C・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式の鍋、西面北から3番目の柱掘形から土師器皿C(78)、他の2か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。78は口径が12cm前後でB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B93(第28・64図) S B76・S B85と一部重複する。桁行3間(5.5尺×3=16.5尺)×梁行3間(南から4尺+5尺×2=14尺)の東西棟(棟方向N76°W、面積約6.4坪)である。根石は1か所で確認された。東面北端の柱掘形から土師器小皿C・皿C(79)、西面北から2番目の柱掘形から土師器皿C(80)・鍋(81)、他の3か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。柱掘形の切り合い関係からS B76・S B98より新しいことがわか

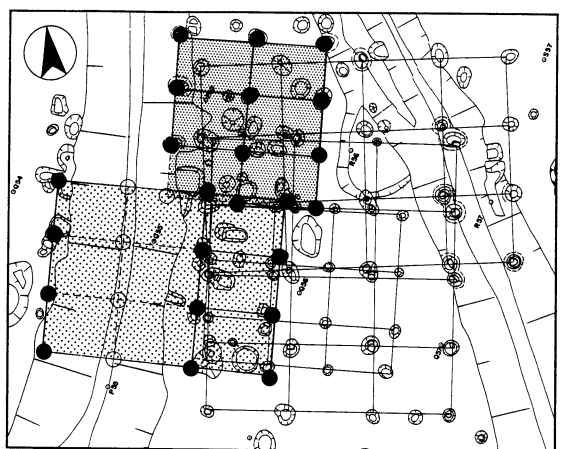
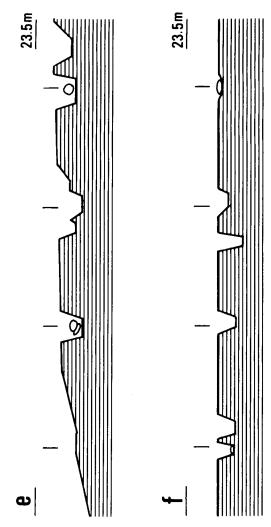
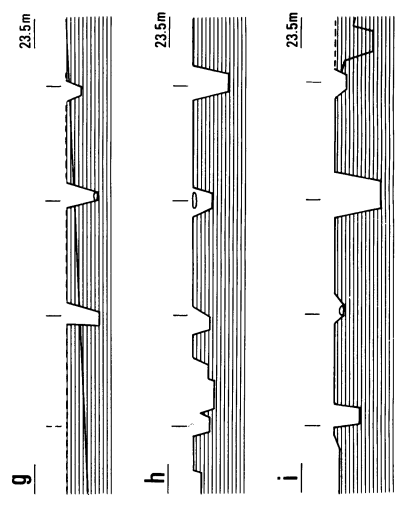
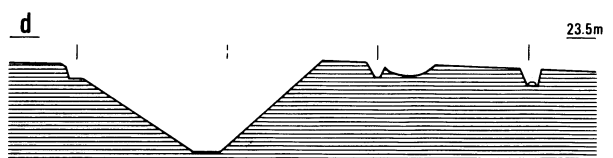
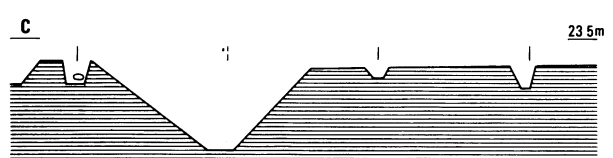
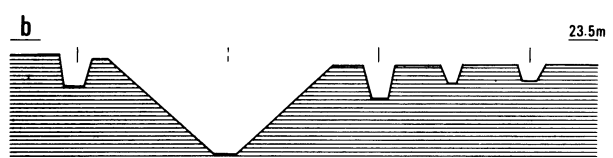
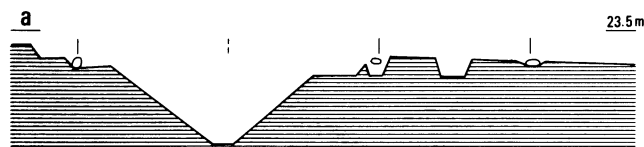
る。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B97(第28・64図) S B76・S B85・S B93と重複する。桁行4間(6尺×4=24尺)×梁行3間(7尺×3=21尺)の南北棟(棟方向N10°E、面積14坪)である。確認された20か所の柱位置のうち17か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器皿C(82)、知多編年第5型式か第6型式(13世紀中葉～後葉)の山茶椀(84)、東から2列目柱列南から2番目の柱掘形から土師器皿C・伊藤分類第2段階b型式の鍋(83)、他の3か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

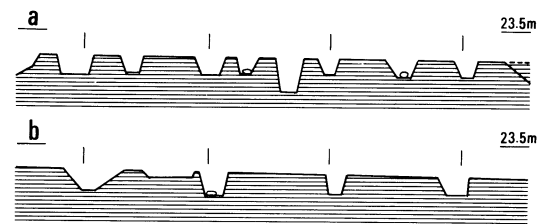
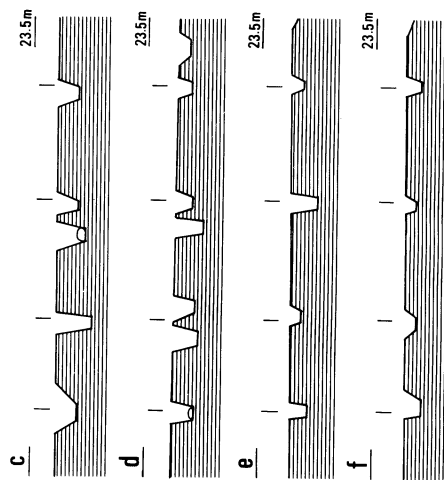
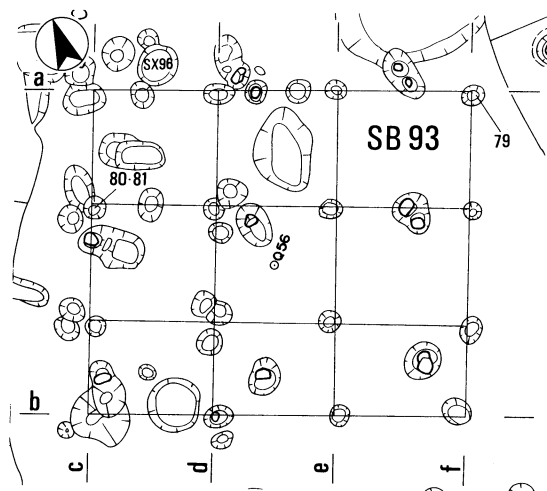
S B98(第29・64図) S B76・S B85・S B93・S B97と重複する。桁行4間(東から6尺+7尺×3尺=27尺)×梁行3間(6尺×3=18尺)の東西棟(棟方向N83°W、面積13.5坪)である。確認された20か所の柱位置のうち13か所に根石が残っていた。北面東から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>1</sub>(85～87)・皿B<sub>1</sub>(88～91)・鍋、渥美産と思われる山茶椀体部片が出土しているが、S D35Aの遺物が混入している可能性が高い。柱掘形の切り合い関係からS B93・S B97より古く、S D35Aより新しいことがわかる。Ⅱ期の建物と思われる。

S B100(第30図) 調査区の東より部分に位置する。東柱をもたず根石もみられない。桁行3間(東から7尺+5.5尺+4.5尺=17尺)×梁行2間(5.75尺×2=11.5尺)の東西棟(棟方向N59°W、面積約5.4坪)である。出土遺物は全くない。柱掘形の切り合い関係からS B125より古いことがわかる。Ⅰ期の建物と思われる。

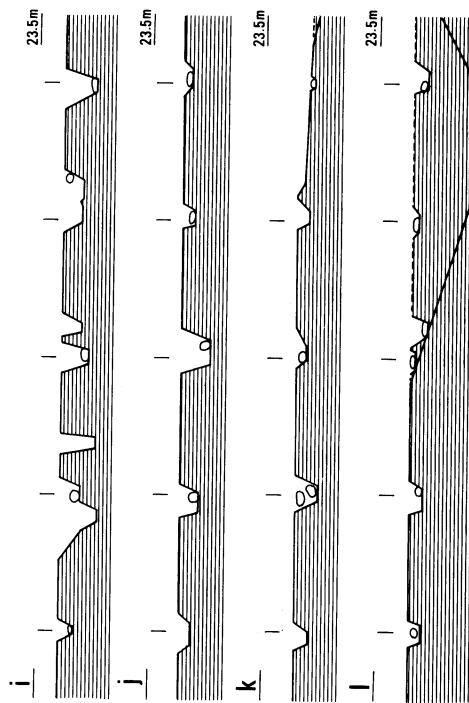
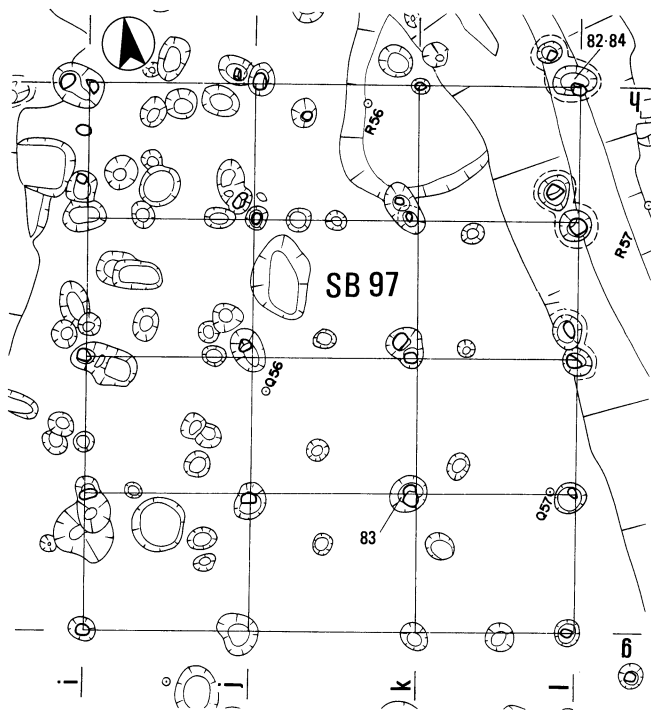
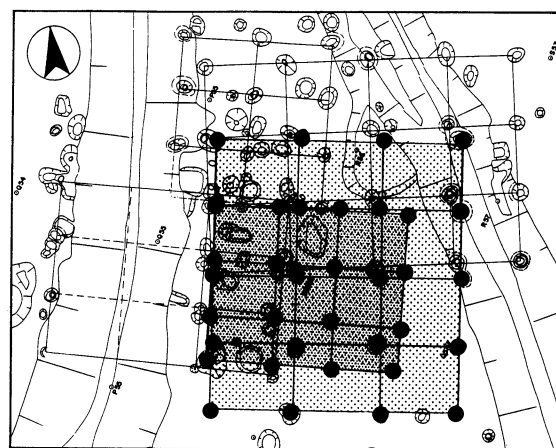
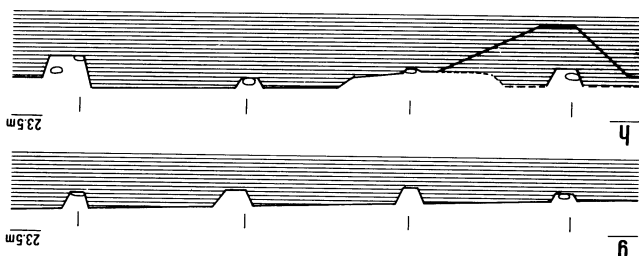
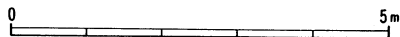
S B112(第30・64図) S B100と重複する。南東側の柱位置が2か所確認されていないが、桁行3間(東から7尺×2+6尺=20尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約5.6坪)とする。根石は1か所で確認された。西面中央の柱掘形から土師器皿B<sub>2</sub>(92)、西から2列目柱列中央の柱掘形から知多編年第4型式か第5型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の片口鉢、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>、知多編年第5型式(13世紀前葉)の片口鉢が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。



第27図 SB76・85実測図 (1:100)

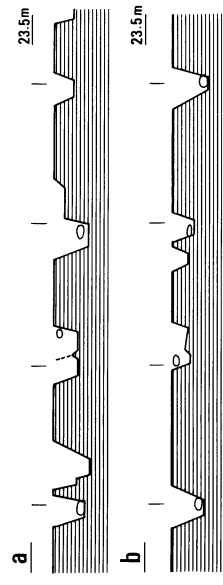
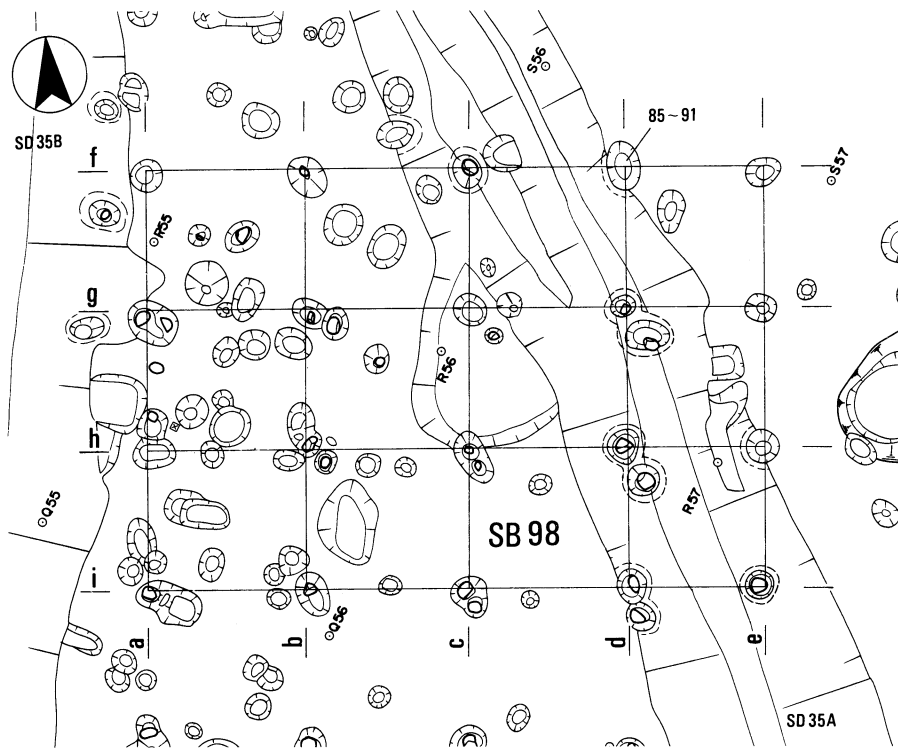


※図中の番号は遺物番号

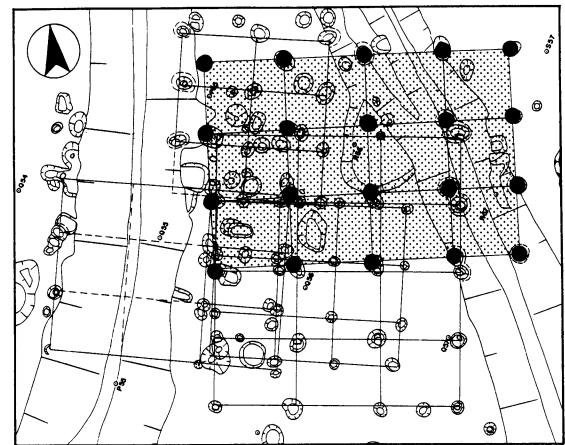
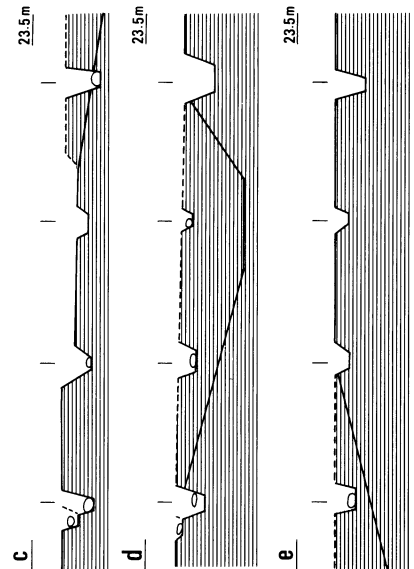
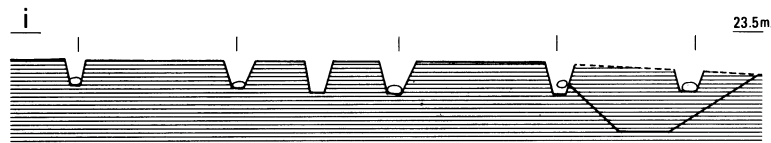
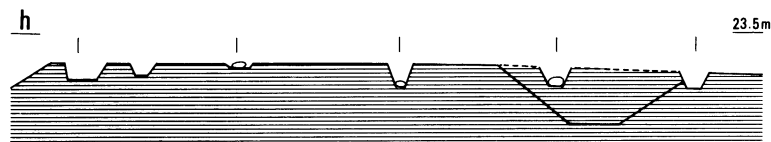
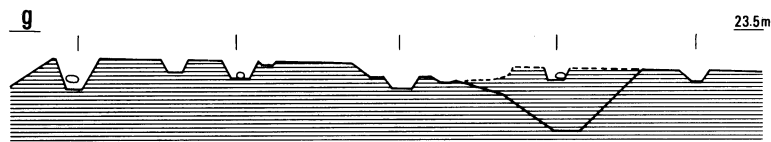
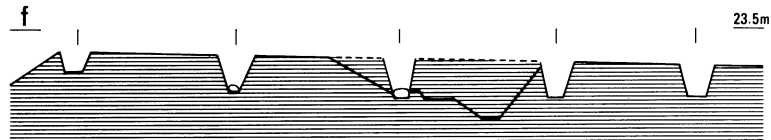
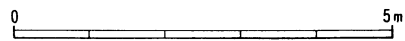


第28図 S B 93・97実即図 (1 : 100)

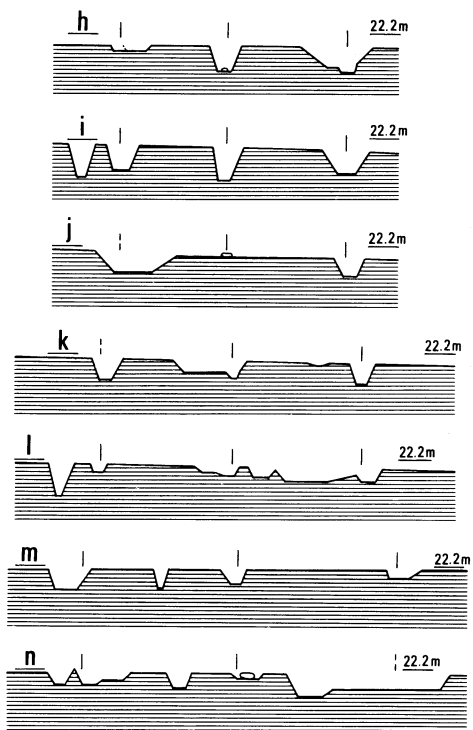
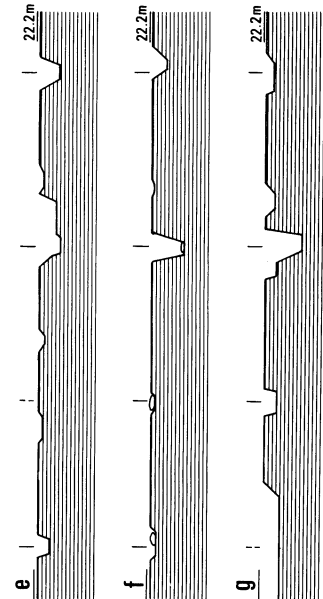
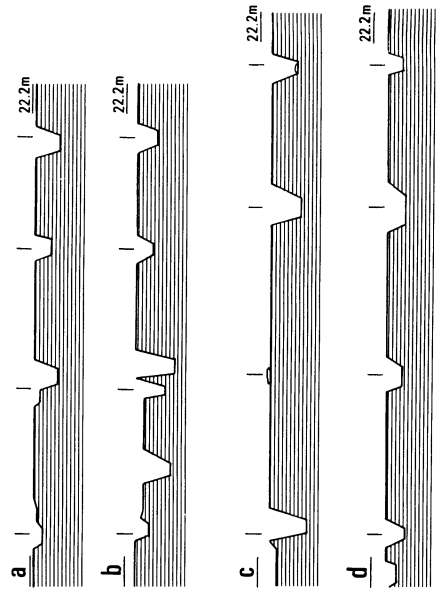
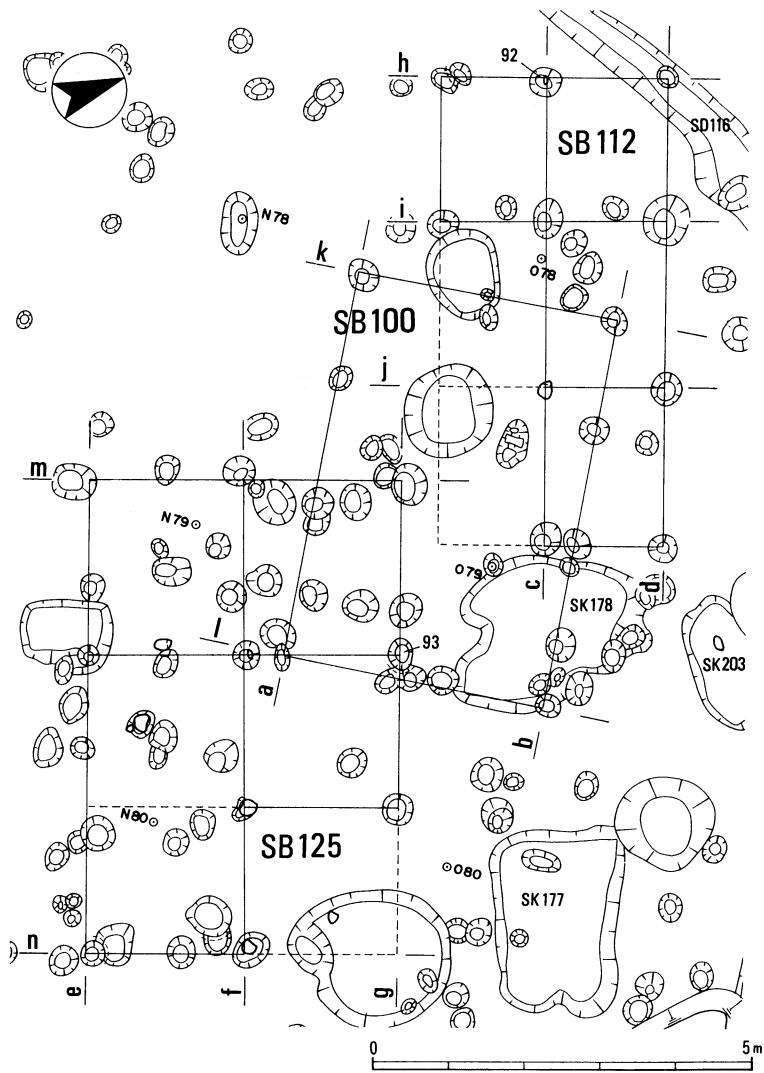




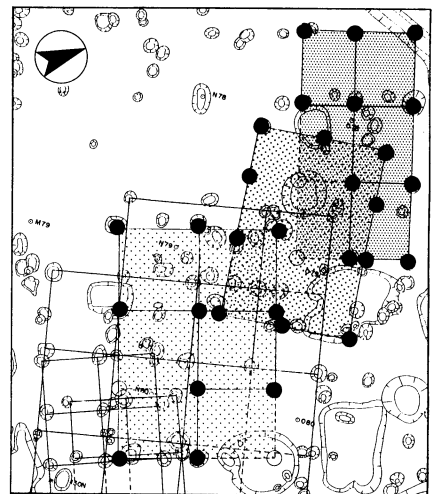
※図中の番号は遺物番号



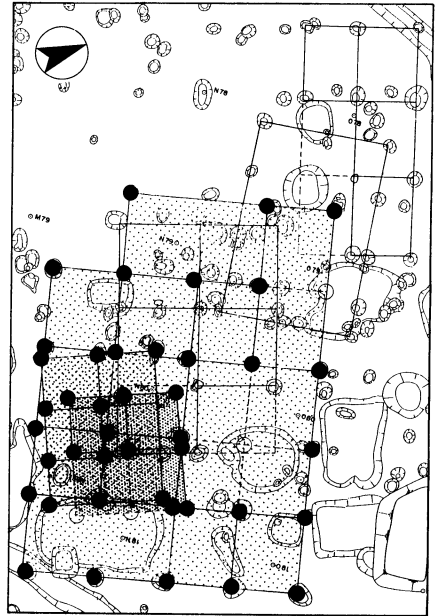
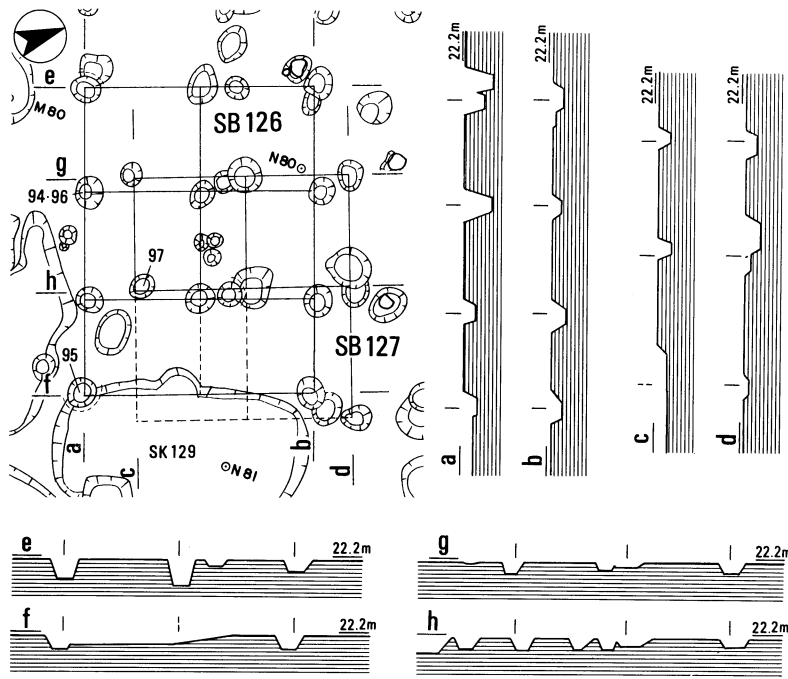
第29図 S B 98実測図 (1 : 100)



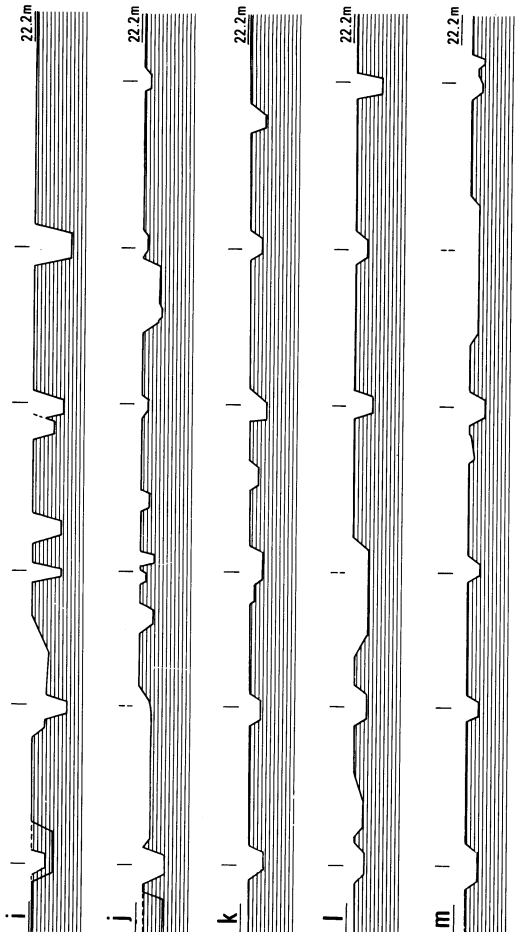
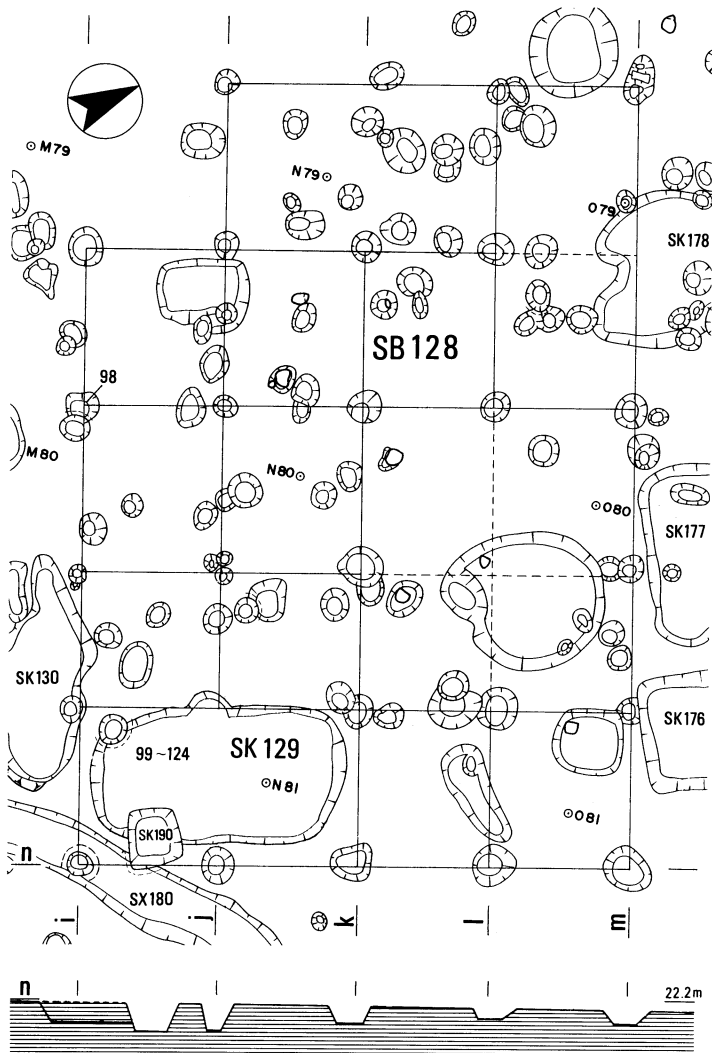
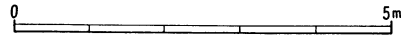
※図中の番号は遺物番号



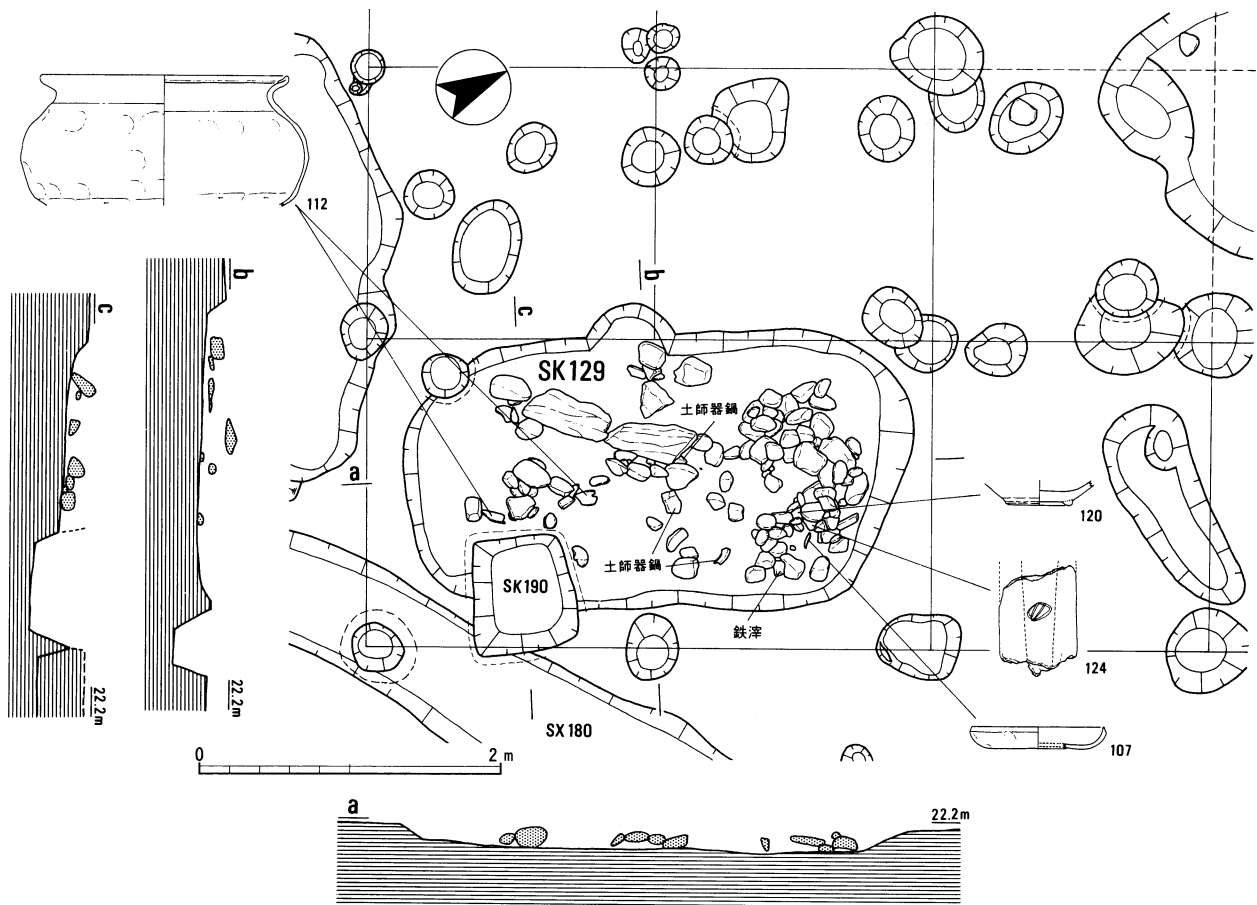
第30図 S B100・112・125実測図 (1:100)



※図中の番号は遺物番号



第31図 S B126・127・128実測図 (1:100)



第32図 SK129 (SB128) 実測図 (1:50)

SB125 (第30・64図) SB100と重複する。東隅の柱位置が確認されていないが、桁行3間(東から6.5尺×2+7.5尺=20.5尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約8坪)とする。確認された10か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。北面西端の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>・伊藤分類第1段階b型式の鍋、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(93)、北面西から3番目の柱掘形から土師器・小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

SB126 (第31・64図) SB125と重複する。東面中央の柱は見逃したためか検出されなかった。東柱をもつ建物であるが根石はみられない。桁行3間(4.5尺×3=13.5尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N72°W、面積約3.8坪)である。南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C(94)・鍋、土錘(96)、南面東端の柱掘形から土師器小皿C・皿C、白磁碗(95)、その他3か所の柱

掘形からそれぞれ土師器小皿C・皿Cが出土している。94は口径が12cm近くでB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

SB127 (第31・64図) SB125・SB126と重複する。東面の2か所の柱位置が確認されなかったが、桁行2間(東から5.5尺+5尺=10.5尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N73°W、面積約2.9坪)とする。根石はみられない。南面中央の柱掘形から土師器小皿C(97)・皿Cが出土した。Ⅲ期あるいはⅣ期の建物と思われる。

SB128 (第31・64図) SB100・SB112・SB125・SB126・SB127と重複している。桁行4間(東から7尺+6尺+7尺×2=27尺)×梁行4間(6尺×4=24尺)の身舎の西面に1間(7尺)×3間(6尺×3=18尺)の庇が付く東西棟(棟方向N66°W、身舎面積18坪、総面積18.5坪)である。根石はみられなかった。南面西から2番目の柱掘形から土師器ミニチュア鍋(98)が出土した。SB128の南東隅には、SB128に伴うと考えられる土坑S

K129 (第32・64図)がある。この土坑は1間×2間の範囲に収まる隅丸方形のもので、上部では長辺約3.4m、短辺約1.8m、底部では長辺約3.0m、短辺約1.6m、検出面からの深さ0.1~0.2mである。土坑内には径10cm程度から長さ60cmほどの結晶片岩が多くみられたが、意図的に積んだり並べたりした形跡は認められなかった。遺物は土師器小皿A (103)・小皿B<sub>1</sub> (99~102)・皿B<sub>1</sub> (104~108)・台付小皿 (109)・伊藤分類第1段階a型式の鍋 (110~113)・羽釜 (114)、渥美編年で12世紀末葉あるいは13世紀前葉とされる山茶椀 (115~123)、フイゴ羽口 (124)などが石とともに廃棄されたような状態で出土した。I期の建物である。

S B131 (第33・65図) S B128の南西約5mに位置する。桁行4間 (南から6.5尺×2+6尺×2=25尺)×梁行3間 (東から8尺+7尺×2=22尺)の身舎の東面に1間 (6.5尺)×1間 (7尺)の庇が付く南北棟 (棟方向N27°E、身舎面積約15.3坪、総面積約16.5坪)である。確認された21か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub> (125)・皿B<sub>2</sub>・鍋、東面北から2番目の柱掘形から土師器皿B<sub>2</sub>・皿C (127)・鍋・渥美産の甕、東面南から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub> (126)・皿B<sub>2</sub>、他の2か所の柱掘形からB<sub>2</sub>あるいはCの土師器小皿・皿が出土している。127は口径が13cmを越えていることからB<sub>2</sub>とも考えられる。II期の建物と思われる。

S B133 (第34・65図) S B131と重複する。桁行4間 (南から6.5尺+5.5尺×3=23尺)×梁行3間 (南から7尺+6.5尺×2=20尺)の身舎の東面に1間 (6.5尺)×1間 (8尺)の庇が付く南北棟 (棟方向N25°E、身舎面積約12.3坪、総面積約14.2坪)で、S B131をひとまわり小さくしたような平面形をしている。確認された21か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。南面北端の柱掘形から土師器小皿C、南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C (128・129)・鍋・知多産の山茶椀、北面東端の柱掘形から土師器小皿C・鍋、北から2列目柱列東から2番目の柱掘形から土師器小皿C・鍋 (130)が出土している。III期の建物と思われる。

S B136 (第35・65図) S B131・S B133と重

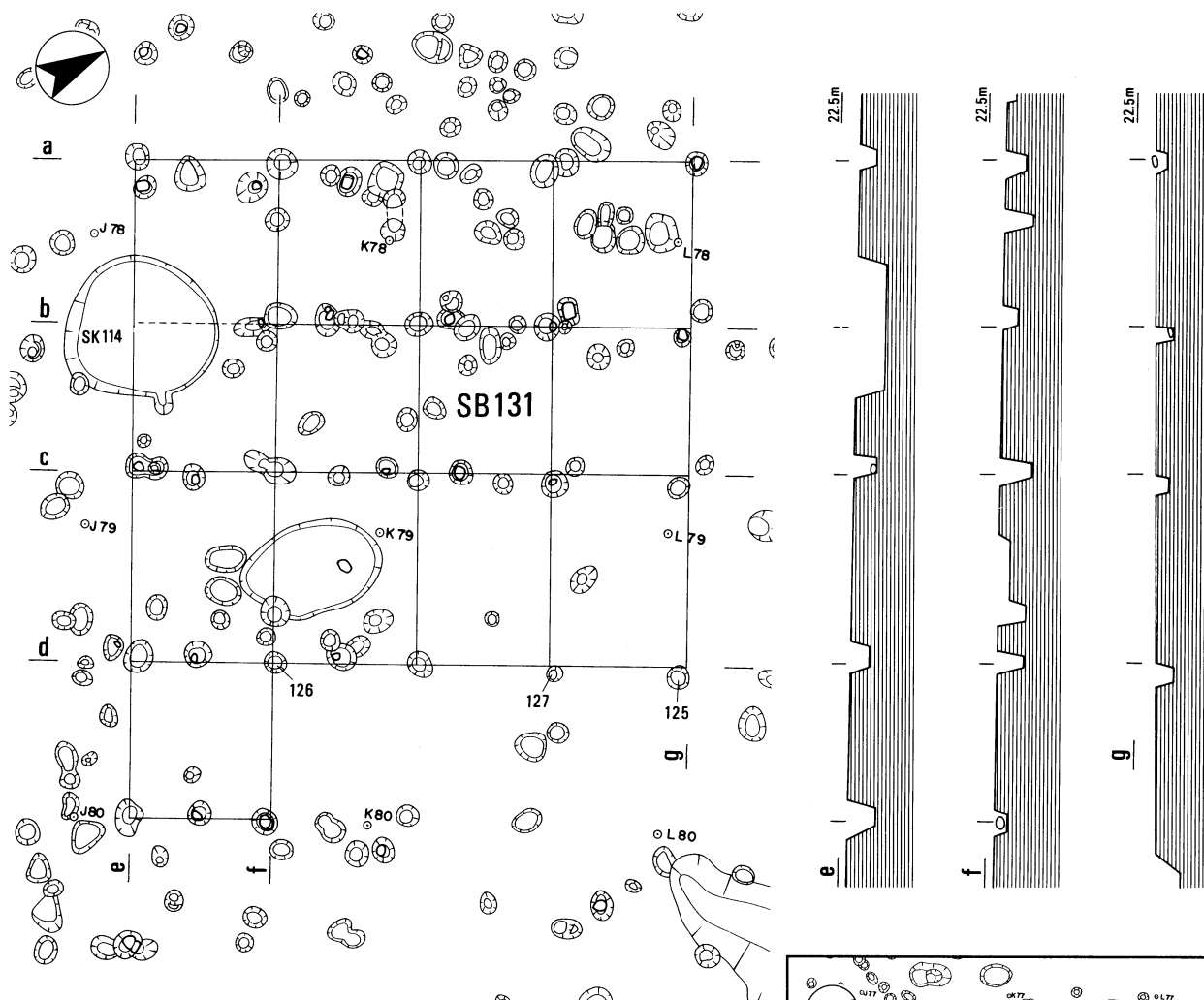
複する。桁行3間 (東から5.5尺×3=16.5尺)×梁行3間 (南から5尺×3=15尺)の身舎の東面に1間 (5.5尺)×1間 (5尺)の庇が付く東西棟 (棟方向N62°W、身舎面積約6.9坪、総面積約7.6坪)である。根石は1か所で確認された。東面南から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C (131)、東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿Cが出土している。131はB<sub>2</sub>に近い。III期の建物と思われる。

S B137 (第35図) S B136の南約3mに位置する。調査区外へのびるため、北面2間 (7尺×2=14尺)、東西面それぞれ1間 (6尺)しかわからない。2間×2間の東西棟の建物とすると、棟方向はN58°Wとなる。根石はみられない。北面中央の柱掘形からB<sub>2</sub>と思われる土師器皿底部と渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀の口縁部が出土している。II期の建物であろう。

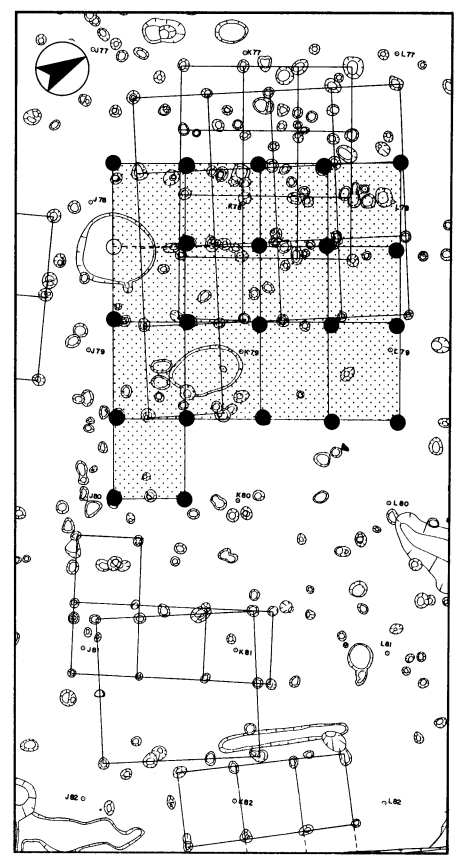
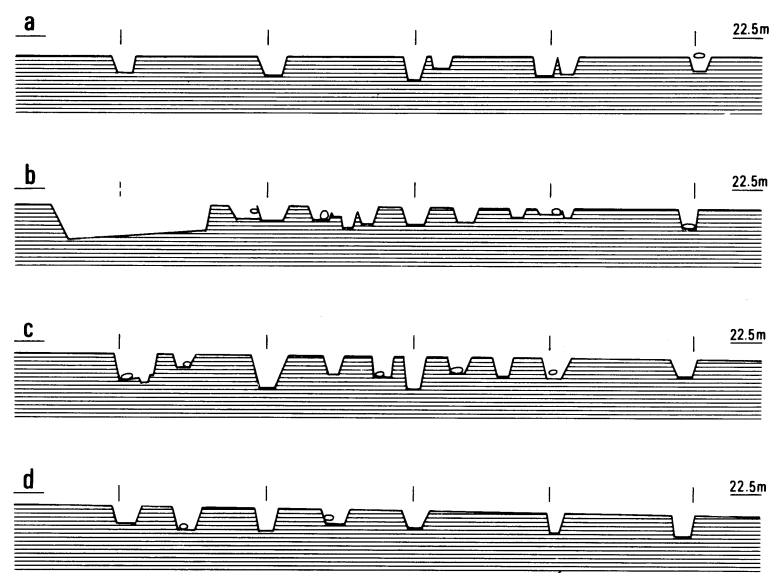
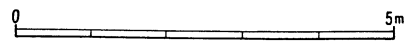
S B141 (第36・65図) S B131のすぐ東に位置する。3間×2間の南北棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行3間 (6尺×3=18尺)×梁行1間 (6尺)の身舎の西面に1間 (6尺)×1間 (5尺)の庇が付く南北棟 (棟方向N30°E、身舎面積3坪、総面積4坪)とする。根石はみられない。庇の南西端の柱掘形から土師器鍋、庇の北西端の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub> (132)、他の3か所の柱掘形からそれぞれ土師器小皿Cが出土している。III期の建物と思われる。

S B142 (第36・65図) S B141と重複する。桁行3間 (南から4尺+5尺×2=14尺)×梁行2間 (6.5尺×2=13尺)の南北棟 (棟方向N24°E、面積約5.1坪)である。東柱はみられない。根石は1か所で確認された。東面南端の柱掘形から土師器小皿C (133)、東面北端の柱掘形から土師器小皿C・皿C (134)・伊藤分類第1段階b型式 (135)と第3段階b型式 (136)の鍋が出土した。IV期の建物と思われる。

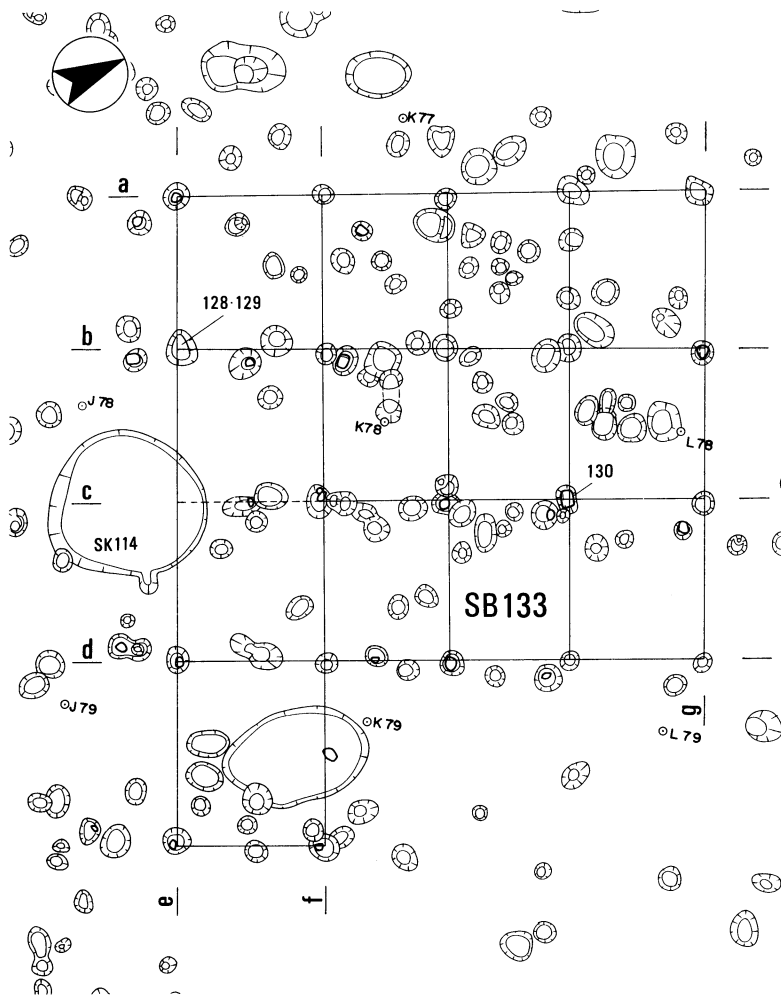
S B143 (第36・65図) S B142のすぐ東に位置する。西面3間 (南から5尺+5.5尺+4.5尺=15尺)、南北面それぞれ1間 (6.5尺)しかわからない。桁行3間の南北棟の建物とすると、棟方向はN20°Eとなる。根石はみられない。西面北端の柱掘形から



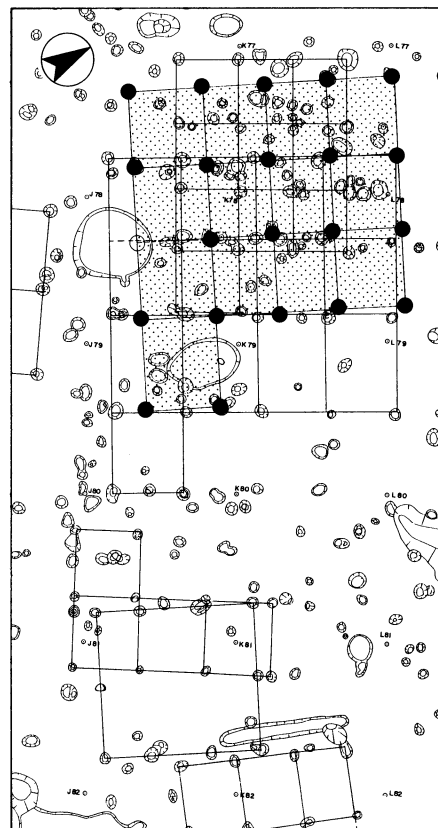
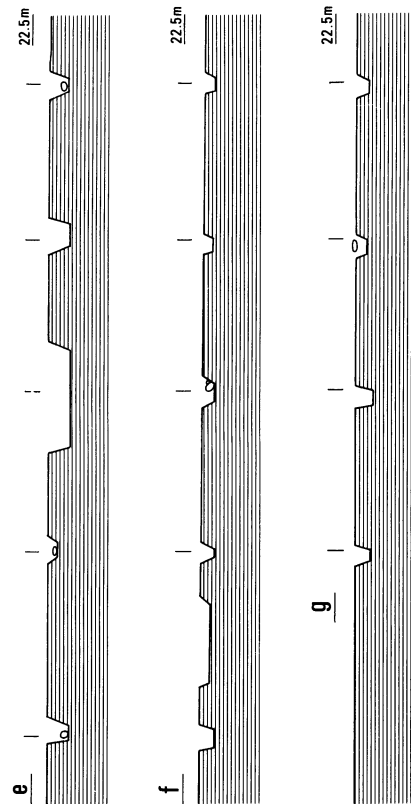
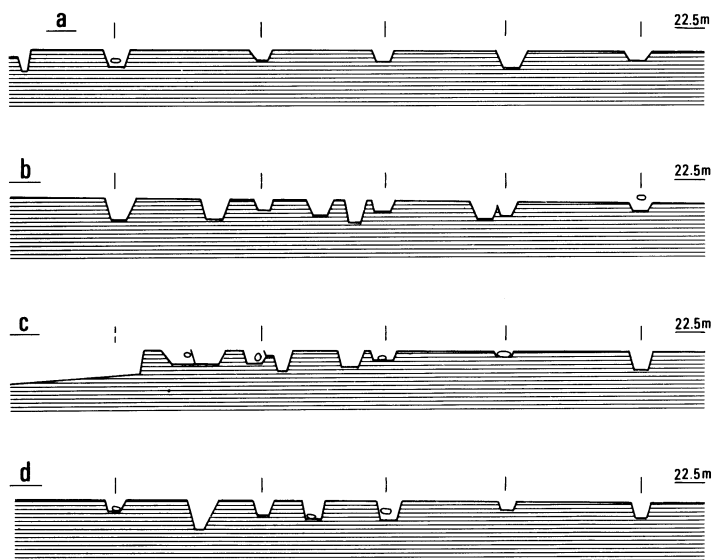
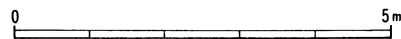
※図中の番号は遺物番号



第33図 SB131実測図 (1:100)

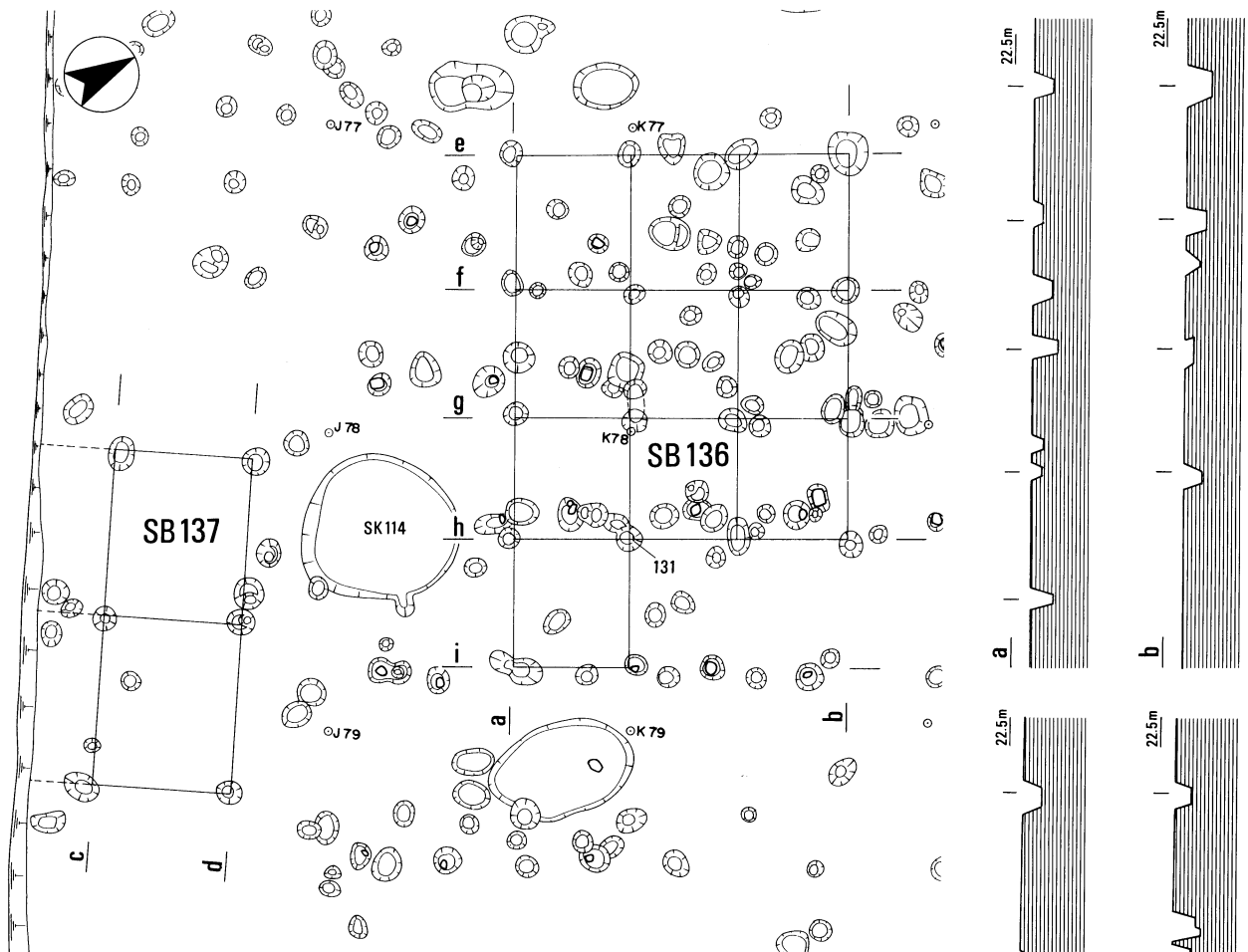


※図中の番号は遺物番号

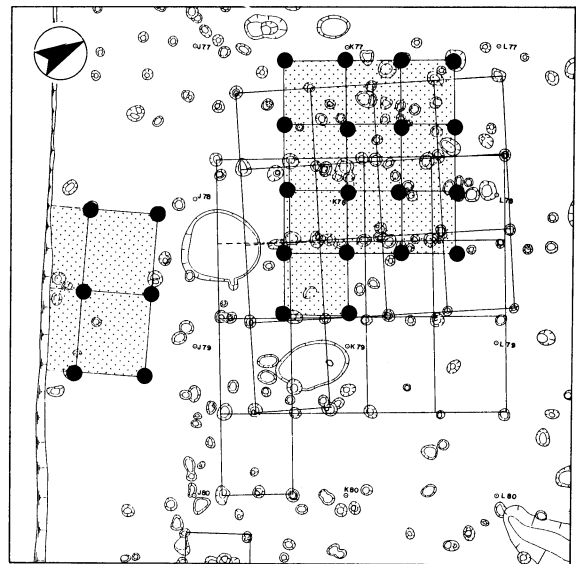
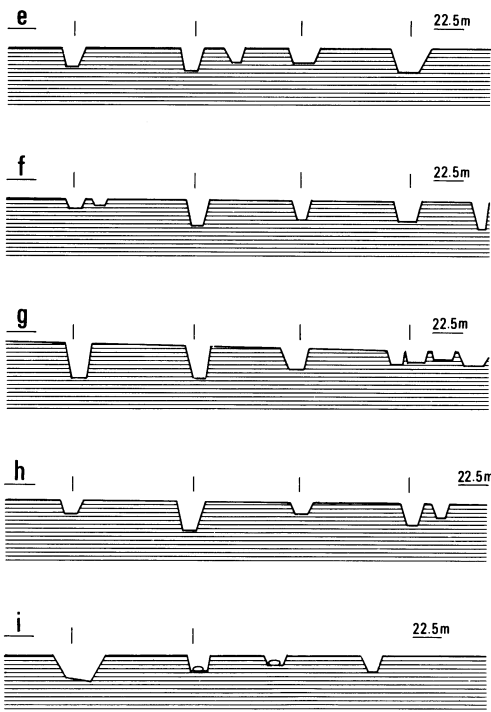
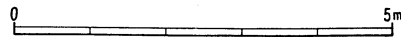


第34図 SB133実測図 (1:100)

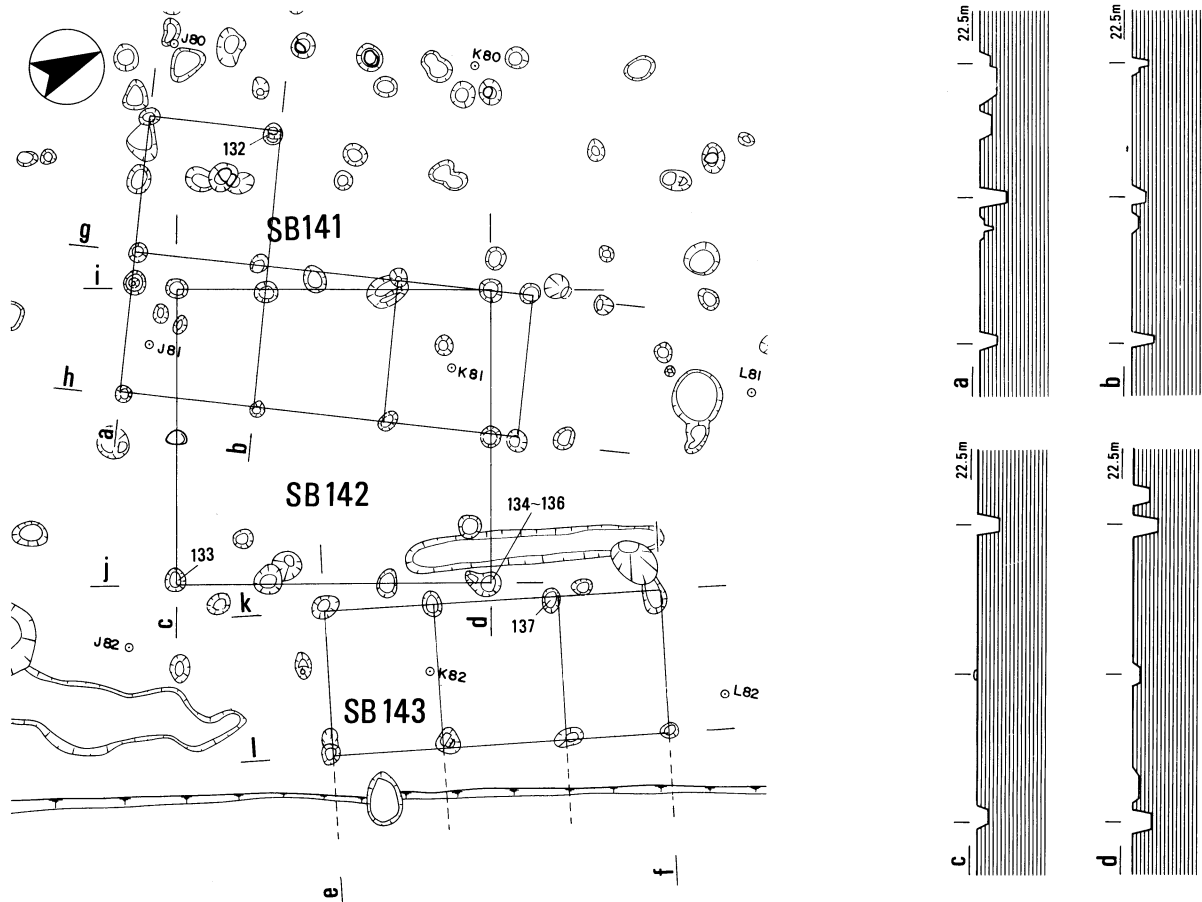




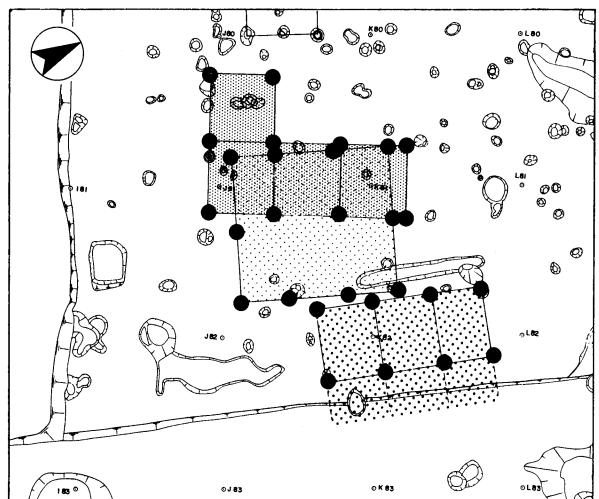
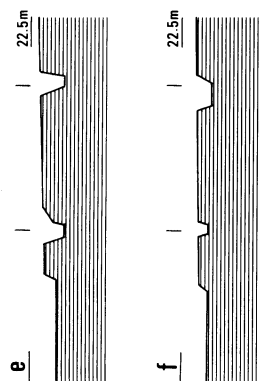
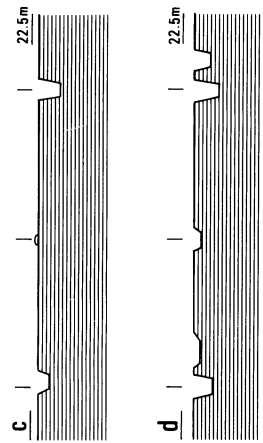
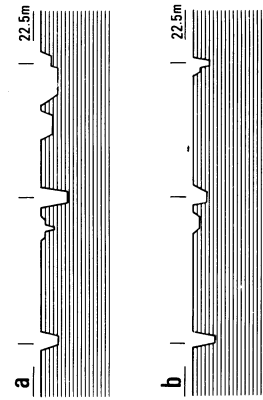
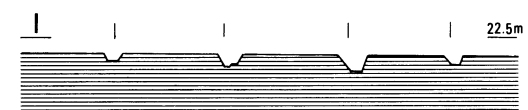
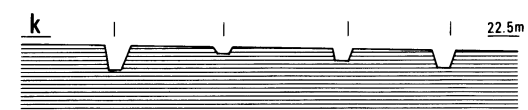
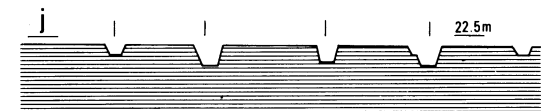
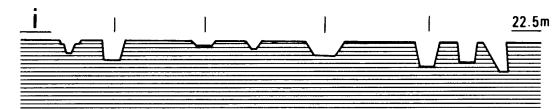
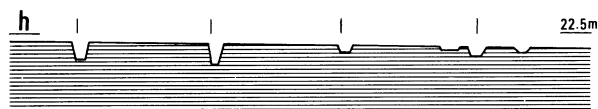
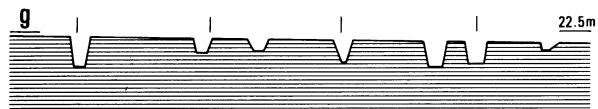
※図中の番号は遺物番号



第35図 S B136・137実測図 (1:100)



※図中の番号は遺物番号



第36図 S B141・142・143実測図 (1 : 100)



第37図 SB 145・SA 213実測図 (1 : 100)

器壁がかなり薄い土師器鍋の体部片、西面北から2番目の柱掘形から土師器皿C(137)、他の2か所の柱掘形から土師器皿Cが出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B 145(第37・65図) S B 133の北約2mに位置する。北西隅の柱が確認されていないが、桁行2間(東から7尺+6.5尺=13.5尺)×梁行2間(南から6尺+7尺=13尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積4.9坪)と思われる。根石は1か所で確認された。建物中央の柱掘形から渥美産と思われる山茶碗、北面中央の柱掘形から土師器皿B<sub>1</sub>(138)が出土している。Ⅰ期の建物と思われる。

S B 158(第38・65図) S B 131の北西約20mに位置する。桁行5間(東から8尺+7尺×4=36尺)×梁行4間(5.75尺×4=23尺)の身舎の南面に4間(東から8尺+7尺×3=29尺)×1間(5尺)、北面に5間(東から8尺+7尺×4=36尺)×1間(5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N70°W、身舎面積23坪、総面積約32坪)である。確認された33か所の柱位置のうち15か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器皿C(142)、東面北から3番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>(139)、南面東から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>(140)・小皿C(141)、西から2列目柱列南から2番目の柱掘形から知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)と思われる山茶碗(143)が出土している。S B 158の南東隅には、S B 158に伴うと考えられる土坑S K 153(第55・65図)がある。この土坑は1間×3間の範囲に収まる方形のもので、上部では長辺約4.5m、短辺約2.2、底部では長辺約4.25m、短辺約1.6m、検出面からの深さ0.1~0.3mである。土坑の床面は全面にわたって叩き締められたように硬くなっており、土坑内には土師器小皿B<sub>2</sub>(159~163)・小皿C(144~158)・皿B<sub>2</sub>(179~184)・皿C(164~178)・鍋(185~189)、山皿(190)、山茶碗(191~195)・同安窯系青磁皿(196)・竜泉窯系青磁碗(197)、土錘(198~200)などの遺物が一括廃棄された状態でびっしりと詰まっていた。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿A=1点、小皿B<sub>1</sub>=1点、小皿B<sub>2</sub>=37点(平均口径7.9cm、器高1.2cm)、小皿C=166点(平均口径7.6

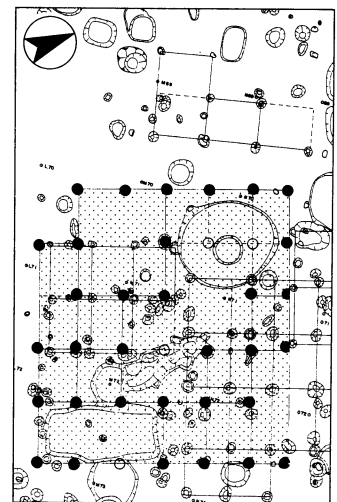
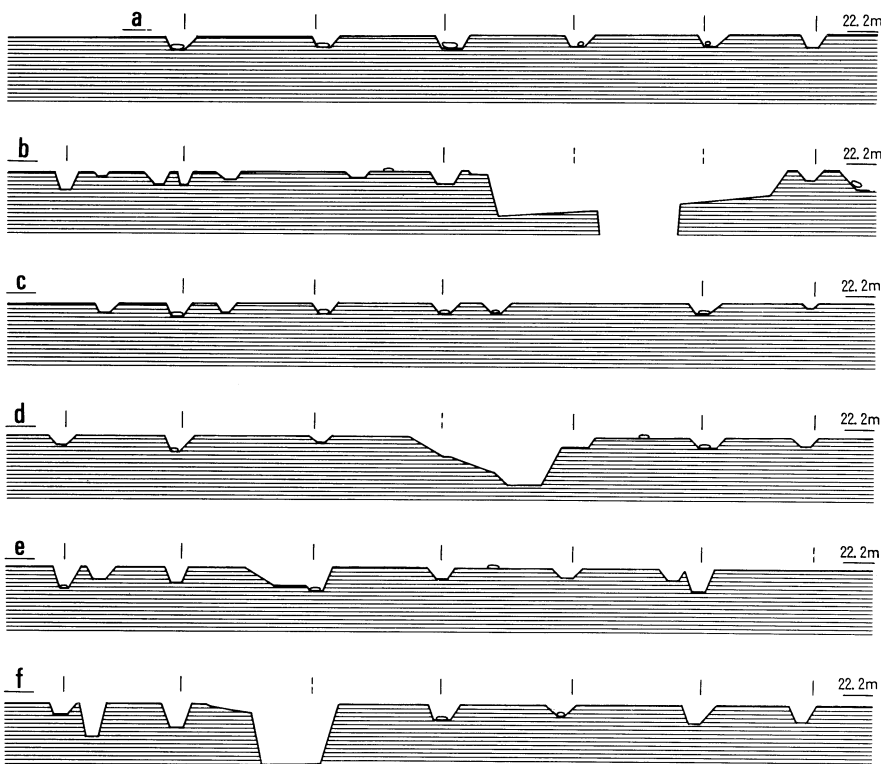
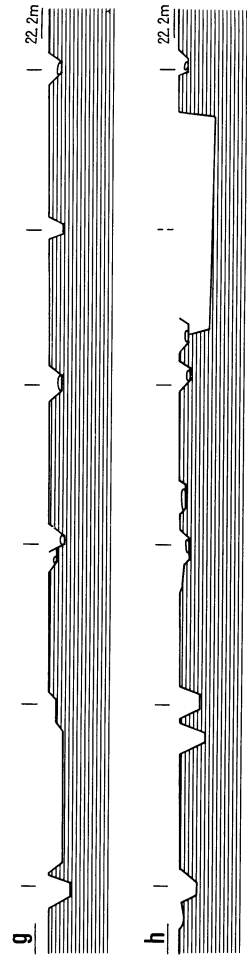
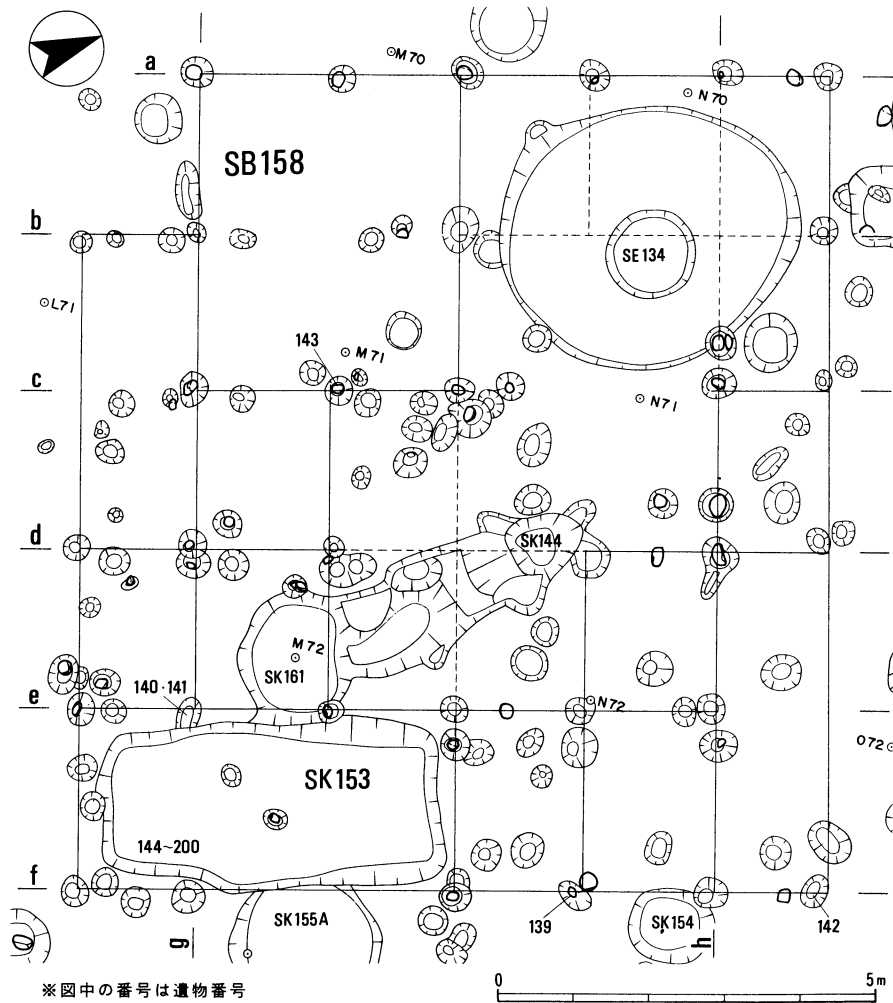
cm、器高1.1cm)の計205点、皿では、皿B<sub>2</sub>=18点(平均口径12.7cm、器高2.6cm)、皿C=66点(平均口径11.4cm、器高2.6cm)の計84点である。小皿・皿ともB<sub>2</sub>よりCの数が圧倒的に多い。鍋は完形のもののみ見られない。185は伊藤分類の第1段階a型式、186・188・189は第1段階b型式である。山皿・山茶碗(190~195)は知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉~13世紀後葉)のものと思われる。S B 158はⅢ期の建物である。

S B 159(第39・66図) S B 158と重複している。桁行4間(5.75尺×4=23尺)×梁行3間(東から8尺+7尺×2=22尺)の身舎の東面に2間(5.75尺×2=11.5尺)×1間(6尺)の庇が付く南北棟(棟方向N21°E、身舎面積約14.1坪、総面積約16坪)である。身舎部分の規模はS B 158の身舎の東から3間分と全く同じ規模である。いいかえれば、S B 159の身舎の西側をもう1間延長し、南面と北面に幅5尺の庇を付ければS B 158と同じ規模になる。確認された22か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。西面中央の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>(201・202)・皿B<sub>2</sub>(203・204)、北から2列目柱列東から2番目の柱掘形から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿C(205)、庇の中央柱掘形から土師器皿B<sub>2</sub>・伊藤分類第1段階a型式の鍋(206)、庇北端の柱掘形から渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(207)が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

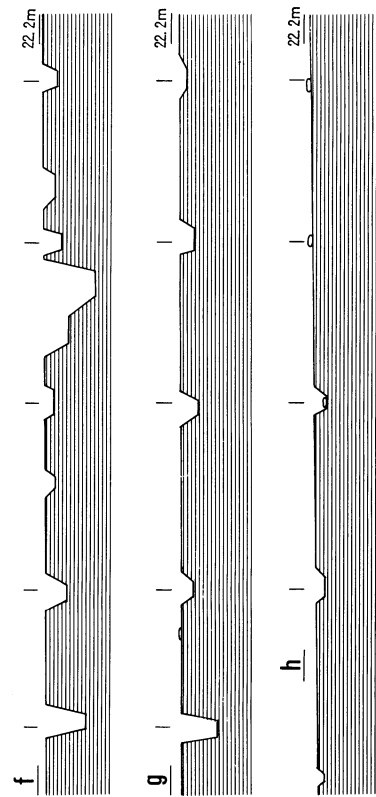
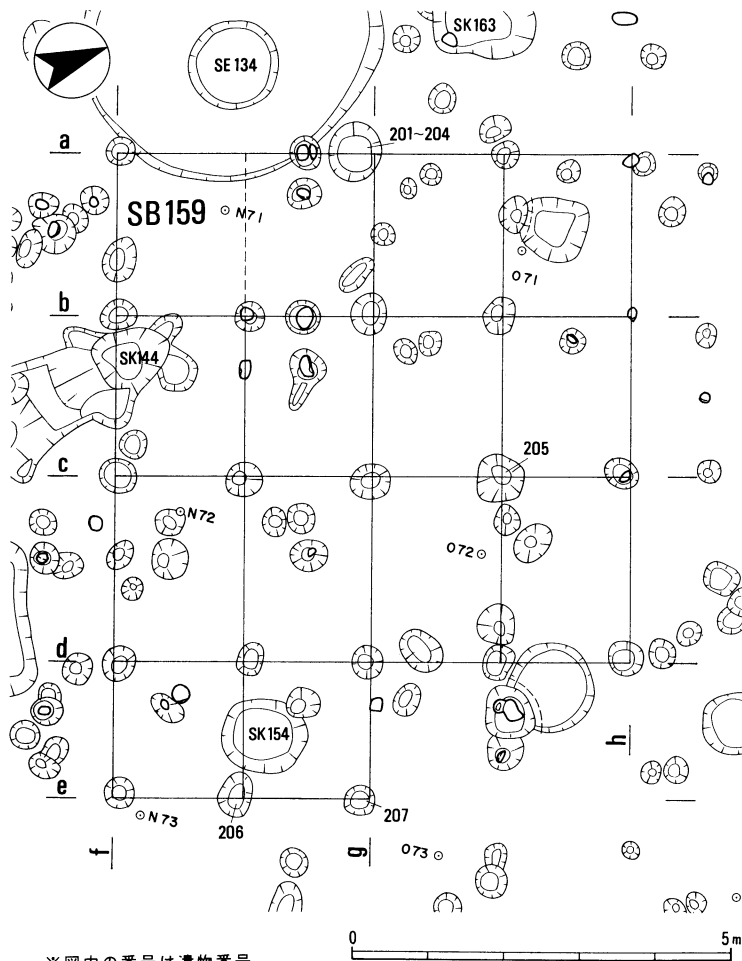
S B 160(第40図) S B 159と重複している。桁行2間(7.5尺×2=15尺)×梁行2間(6尺×2=12尺)の東西棟(棟方向N70°W、面積5坪)である。確認された8か所の柱位置のうち2か所に根石が残っていた。遺物がないため時期は確定できないが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B 164(第40・66図) S B 158と重複している。桁行3間(5.5尺×3=16.5尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の南北棟(棟方向N21°E、面積約6.4坪)である。根石は見られない。西面北端の柱掘形から渥美編年で12世紀末葉か13世紀前葉とされる山茶碗(208)が出土している。Ⅰ期の建物と思われる。

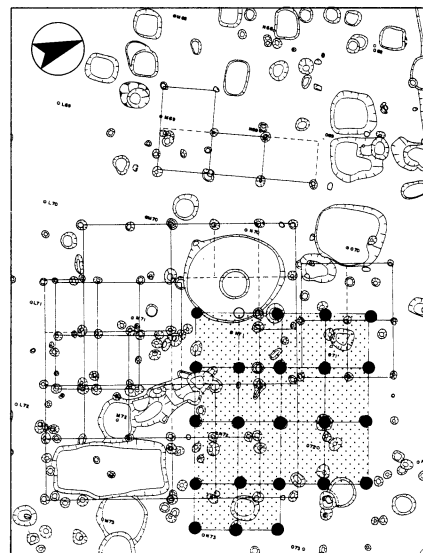
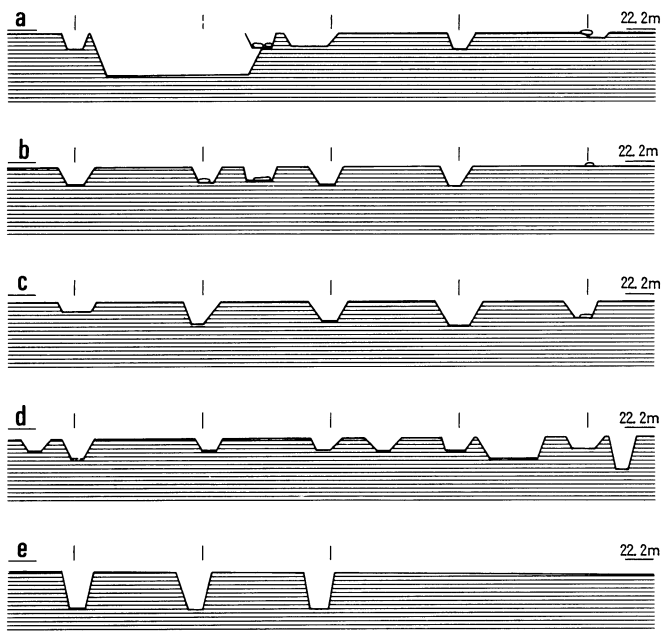
S B 179(第40図) S B 158の北西約2mに位置する。確認できなかった柱位置が多いため建物規模



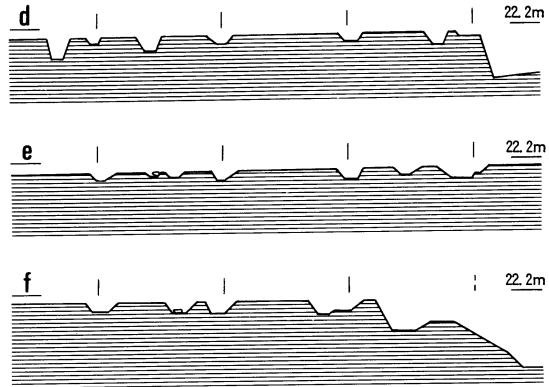
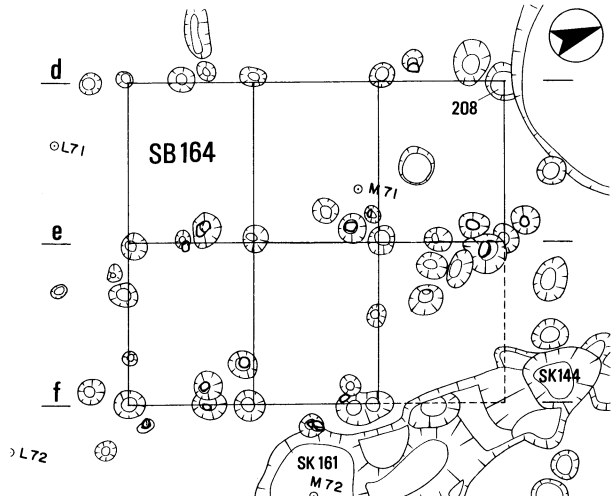
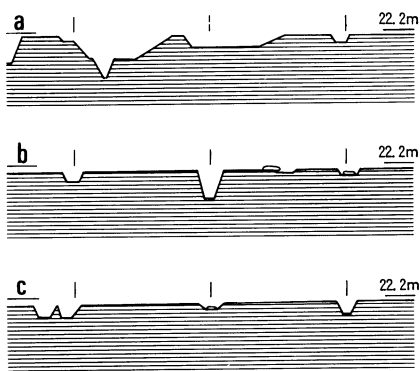
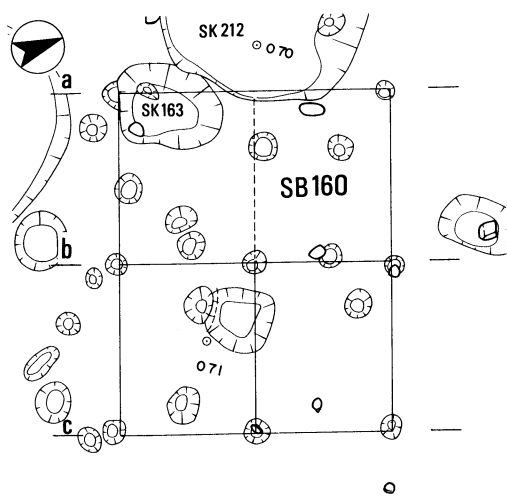
第38図 SB158実測図 (1 : 100)



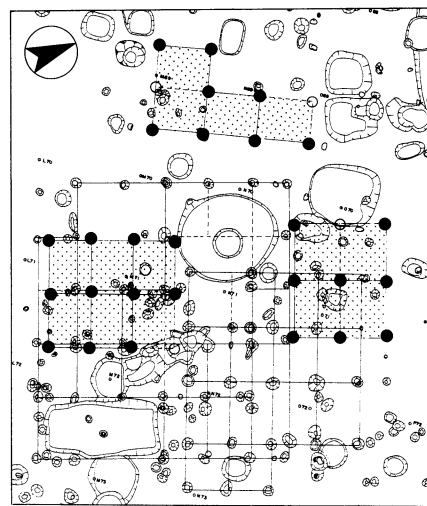
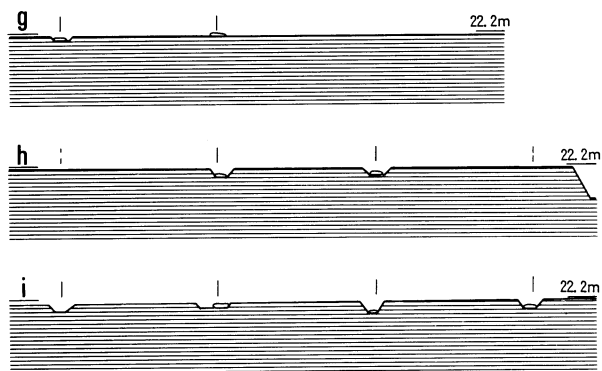
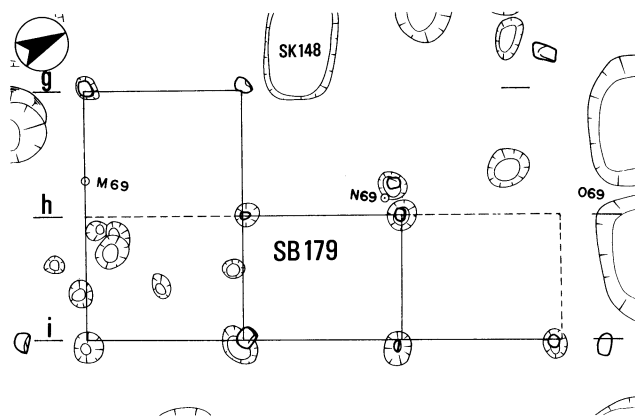
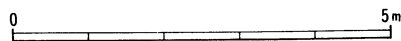
※図中の番号は遺物番号



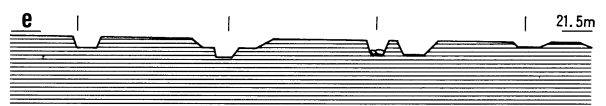
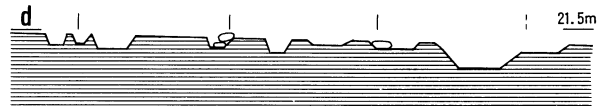
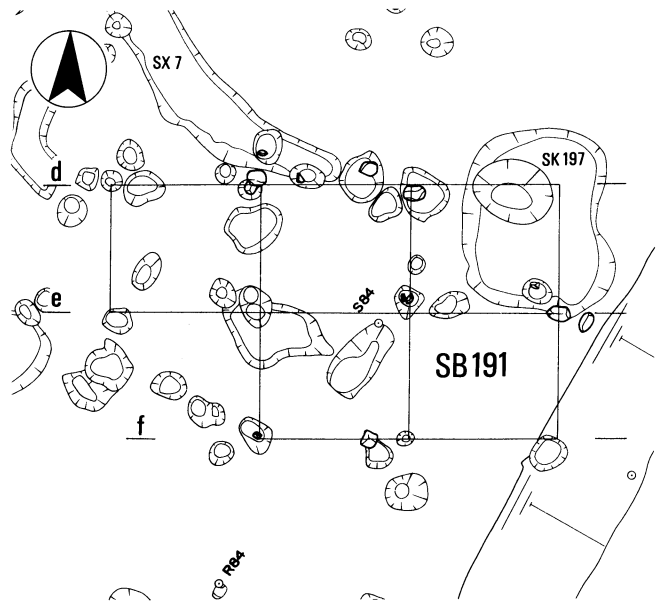
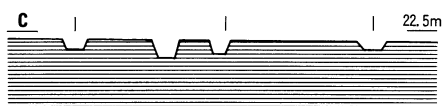
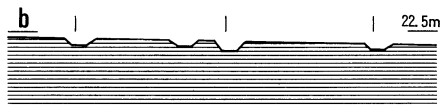
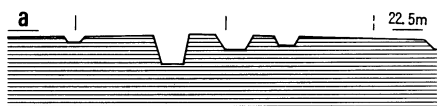
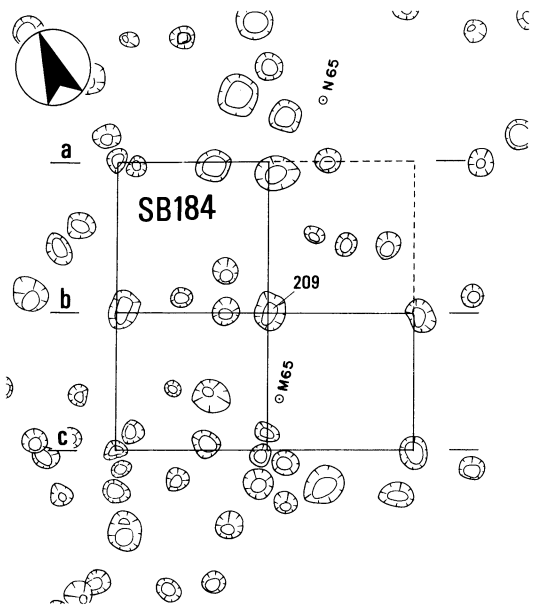
第39図 SB159実測図 (1:100)



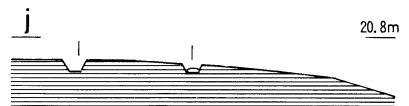
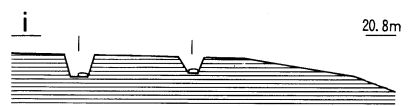
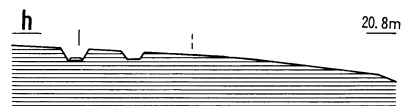
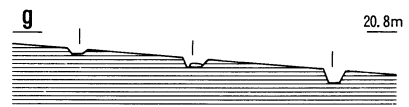
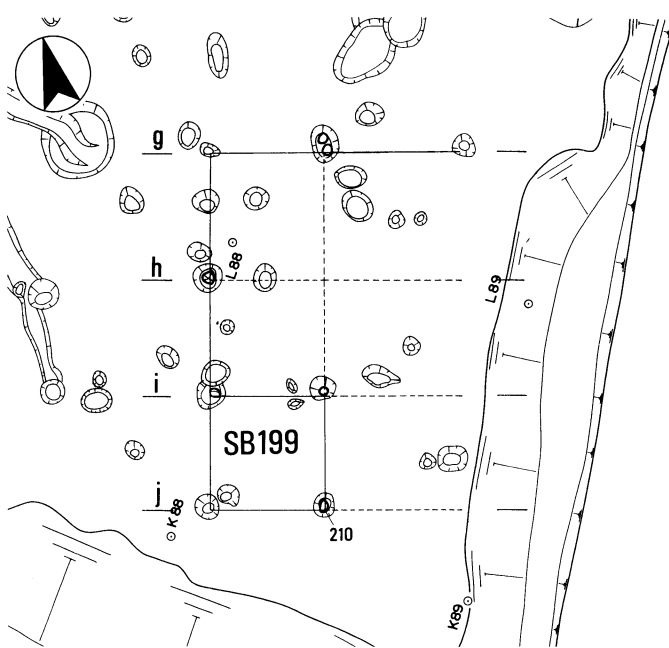
※図中の番号は遺物番号



第40図 SB160・164・179実測図 (1:100)

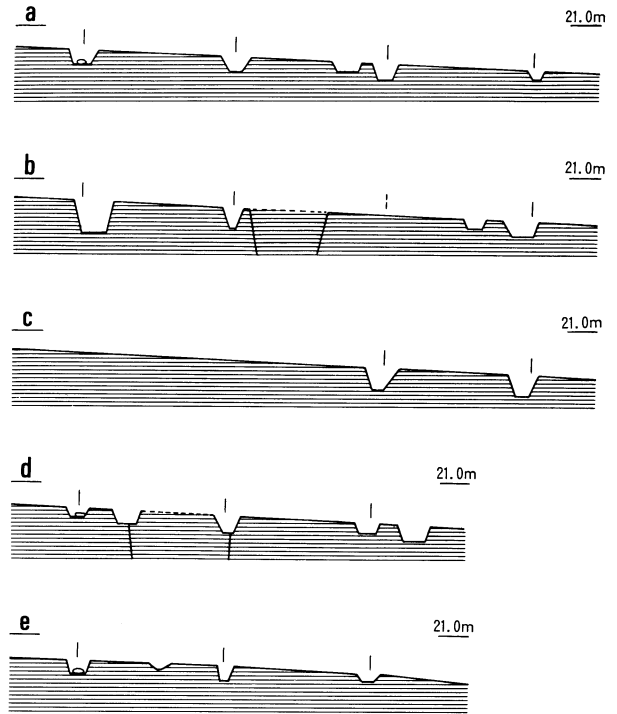
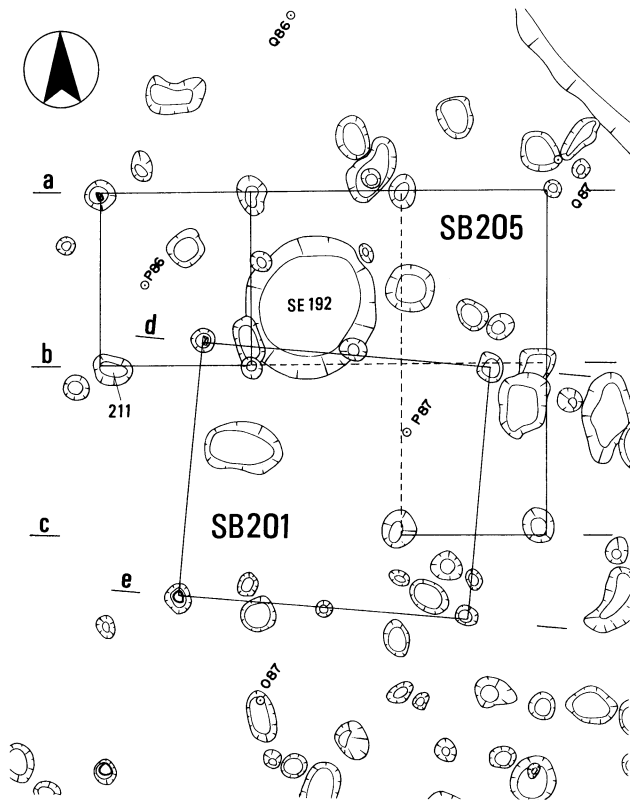


※図中の番号は遺物番号

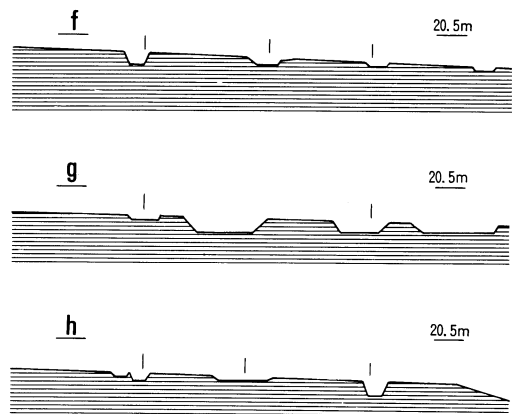
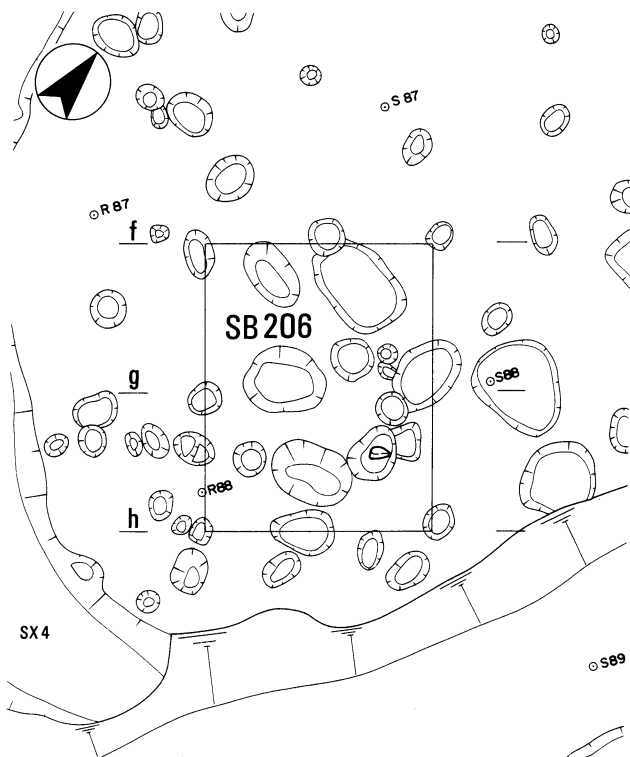


第41図 S B184・191・199実測図 (1:100)





※図中の番号は遺物番号



第42図 S B 201・205・206実測図 (1 : 100)

遺構名	位置	棟方向	規 模		面 積		根石	束柱	時 期	備 考
			桁 行 × 梁 行		身舎面積	総面積				
SB 2	T~V 30~33	南北棟 N 2° W	身舎 4間(26尺)×3間(21尺) 西面庇 3間(19.5尺)×1間(8尺)		約15.2坪	約19.5坪	有	有	Ⅲ期	
SB 9	Q~S 38・39	東西棟 N 84° E	身舎 3間(20尺)×2間(12尺)		約6.7坪		有	有	Ⅱ期	
SB 16	R・S 37・38	東西棟 N 87° E	身舎 2間(12尺)×2間(10.5尺)		3.5坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期?	
SB 19	S・T 37・38	東西棟 N 85° E	身舎 2間(13尺)×2間(10.5尺)		約3.8坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB 20	R~T 65~67	南北棟 N 19° E	身舎 4間(26尺)×2間(12.5尺)		約9坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB 21	R・S 68・69	東西棟 N 81° W	身舎 2間(14尺)×2間(12.5尺)		約4.9坪		有	有	Ⅲ期	
SB 23	W・X 67・68	南北棟? N 8° E	身舎 2間(13尺)以上×2間(13尺)		約4.7坪以上		無	無	Ⅰ期	調査区外にのびる
SB 24	S~U 69~71	南北棟 N 9° E	身舎 3間(18尺)×2間(15尺) 北面庇 1間(5尺)×1間(7.5尺)		7.5坪	約8.5坪	無	有	Ⅰ期	
SB 25	U・V 69~71	南北棟 N 0° E	身舎 3間(19尺)×2間(14尺)		約7.4坪		無	無	Ⅰ期?	
SB 27	Q~S 71~73	東西棟 N 77° W	身舎 4間(23尺)×3間(19.5尺)		約12.5坪		無	有	Ⅰ期	
SB 34	P~R 72~74	東西棟 N 89° W	身舎 3間(22尺)×3間(19.5尺) 南面庇 2間(14尺)×1間(6.5尺)		約11.9坪	約14.5坪	有	有	Ⅱ期	
SB 51	V~X 45~47	東西棟 N 89° W	身舎 4間(24尺)×3間(18尺)		12坪		有	有	Ⅱ期	一部調査区外にのびる
SB 54	U~X 43~46	南北棟 N 3° E	身舎 4間(24尺)×3間(21尺)		14坪		有	有	Ⅲ期	
SB 68	S~U 43・44	南北棟 N 3° E	身舎 3間(18尺)×3間(17尺)		8.5坪		有	無	Ⅲ期?	
SB 74	P・Q 51・52	南北棟 N 15° E	身舎 2間(13.5か14尺)×2間(10尺)		約3.8坪		有	無	Ⅱ期?	
SB 76	P・Q 54・55	東西棟 N 75° W	身舎 3間(19.5尺)×3間(15尺)		約8.1坪		有	有	Ⅱ期	
SB 85	Q・R 54・55	南北棟 N 14° E	身舎 3間(15尺)×2間(13尺)		約5.4坪		有	有	Ⅲ期	3間×3間の建物か
SB 93	P・Q 55・56	東西棟 N 76° W	身舎 3間(16.5尺)×3間(14尺)		約6.4坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB 97	P~R 55~57	南北棟 N 10° E	身舎 4間(24尺)×3間(21尺)		14坪		有	有	Ⅲ期	
SB 98	P~R 54~57	東西棟 N 83° W	身舎 4間(27尺)×3間(18尺)		約13.5坪		有	有	Ⅱ期	
SB 100	N・O 78・79	東西棟 N 59° W	身舎 3間(17尺)×2間(11.5尺)		約5.4坪		無	無	Ⅰ期?	
SB 112	N・O 77・78	東西棟 N 69° W	身舎 3間(20尺)×2間(10尺)		約5.6坪		有	有	Ⅱ期	
SB 125	M・N 78~80	東西棟 N 69° W	身舎 3間(20.5尺)×2間(14尺)		約8坪		有	有	Ⅱ期	

第4表 掘立柱建物一覧

遺構名	位置	棟方向	規 模		面 積		根石	束柱	時 期	備 考
			桁 行	× 梁 行	身舎面積	総面積				
SB126	M・N 79・80	東西棟 N 72° W	身舎	3間 (13.5尺) × 2間 (10尺)	約3.8坪		無	有	Ⅲ期	
SB127	M・N 79・80	東西棟 N 73° W	身舎	2間 (10.5尺) × 2間 (10尺)	約2.9坪		無	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB128	M～O 78～81	東西棟 N 66° W	身舎	4間 (27尺) × 4間 (24尺)	18坪	18.5坪	無	有	Ⅰ期	南東隅に土坑SK129を伴う
SB131	J～L 77～80	南北棟 N 27° E	身舎	4間 (25尺) × 3間 (22尺)	約15.3坪	約16.5坪	有	有	Ⅱ期	
SB133	J～L 77～79	南北棟 N 25° E	身舎	4間 (23尺) × 3間 (20尺)	約12.3坪	約14.2坪	有	有	Ⅲ期	
SB136	J・K 77・78	東西棟 N 62° W	身舎	3間 (16.5尺) × 3間 (15尺)	約6.9坪	約7.6坪	有	有	Ⅲ期	
SB137	I 78・79	東西棟? N 58° E	身舎	2間 (17尺) × 2間?	2.7坪以上		無	有	Ⅱ期	調査区外へのびる
SB141	I～K 80・81	南北棟 N 30° E	身舎	3間 (18尺) × 1間 (6尺)	3坪	4坪	無	有?	Ⅲ期	3間×2間の建物か
SB142	J・K 80・81	南北棟 N 24° E	身舎	3間 (14尺) × 2間 (13尺)	約5.1坪		有	無	Ⅳ期	
SB143	J・K 81・82	南北棟 N 20° E	身舎	3間 (15尺) × 1間 (6.5尺) 以上	2.7坪以上		無	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB145	L・M 77・78	東西棟 N 69° E	身舎	2間 (13.5尺) × 2間 (13尺)	約4.9坪		有	有	Ⅰ期	
SB158	L～N 69～72	東西棟 N 70° W	身舎	5間 (36尺) × 4間 (23尺)	23坪	約32坪	有	有	Ⅲ期	南東隅に土坑SK153を伴う
SB159	M～O 70～72	南北棟 N 21° E	身舎	4間 (23尺) × 3間 (22尺)	約14.1坪	約16坪	有	有	Ⅱ期	
SB160	N～O 70・71	東西棟 N 70° E	身舎	2間 (15尺) × 2間 (12尺)	5坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期?	
SB164	L・M 70・71	南北棟 N 21° E	身舎	3間 (16.5尺) × 2間 (14尺)	約6.4坪		無	有	Ⅰ期	
SB179	L～N 68・69	南北棟 N 25° E	身舎	3間 (21尺) × 1間 (5.5尺)	約3.2坪	約4.3坪	有	有?	Ⅲ期かⅣ期?	3間×2間の建物か
SB184	L・M 64・65	東西棟 N 69° W	身舎	2間 (13尺) × 2間 (12.5尺)	約4.5坪		無	有	Ⅲ期	
SB191	R・S 82～84	東西棟 N 87° E	身舎	2間 (13尺) × 2間 (11尺)	約4坪	約5坪	有	有	Ⅲ期かⅣ期?	3間×2間の建物か
SB199	K・L 87・88	南北棟? N 16° E	身舎	3間 (15.5尺) × 2間 (11尺) 以上	4.7坪以上		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB201	O・P 86・87	東西棟 N 86° W	身舎	2間 (12.5尺) × 1間 (11尺)	約3.8坪		有	無	不明	
SB205	O・P 85～87	東西棟 N 89° E	身舎	3間 (19.5尺) × 1間 (7.5尺)	約4.1坪	約5.4坪	有	有?	Ⅲ期	3間×2間の建物か
SB206	Q～S 87・88	南北棟 N 41° E	身舎	2間 (12.5尺) × 2間 (10尺)	約3.5坪		無	無	Ⅰ期?	

は不確定である。3間×2間の南北棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行3間(7尺×3=21尺)×梁行1間(5.5尺)の身舎の西面に1間(7尺)×1間(5.5尺)の庇が付く南北棟(棟方向N25°E、身舎面積約3.2坪、総面積約4.3坪)とする。確認された8か所の柱位置のうち7か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は不確定であるが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B184 (第41・66図) S B158の北西約18mに位置する。東隅の柱位置が確認できなかったが、桁行2間(6.5尺×2=13尺)×梁行2間(南から6尺+6.5尺=12.5尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約4.5坪)と思われる。根石はみられない。建物中央の柱掘形から土師器小皿C・皿C(209)・鍋が出土している。209は器壁がやや厚く、B<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B191 (第41図) S B128の北東約15mに位置する。3間×2間の東西棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行2間(6.5尺×2=13尺)×梁行2間(5.5尺×2=11尺)の身舎の西面に1間(6.5尺)×1間(5.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N87°E、身舎面積約4坪、総面積約5坪)とする。確認された10か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は確定できないが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B199 (第41・66図) S B128の南東約25mに位置する。西面3間(南から5尺×2+5.5尺=15.5尺)、南面1間(5尺)、北面2間(東から6尺+5尺=11尺)しかわからない。桁行3間の南北棟の建物とすると、棟方向はN16°Eとなる。確認された8か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。南面西から2番目の柱掘形から土師器皿Cが出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B201 (第42図) S B128の南東約27mに位置する。桁行2間(6.25尺×2=12.5尺)×1間(11尺)の東西棟(棟方向N86°W、面積約3.8坪)である。東柱は検出されなかった。根石は2か所で確認された。遺物が全く出土していないため建物の時期は不明である。

S B205 (第42・66図) S B201と重複する。桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行1間(7.5尺)

の身舎の南面に1間(6.5尺)×1間(7.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N89°W、身舎面積約4.1坪、総面積約5.4坪)である。根石は1か所で確認された。南面西端の柱掘形から土師器小皿C・皿C(211)、南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C・鍋、渥美産と思われる山茶碗が出土している。211は口径が12cmを越えておりB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B206 (第42図) S B205の北東約5mに位置する。桁行2間(南から6尺+6.5尺=12.5尺)×梁行2間(南面は東から5.5尺+4.5尺=10尺、北面は東から4.5尺+5.5尺=10尺)の南北棟(棟方向N41°W、面積約3.5坪)である。出土遺物がないため時期は不確定であるが、東柱がなく根石もみられないことから、Ⅰ期の可能性が考えられる。

## 2. 柵

3ないし4か所のピットが一行に並ぶかのように思える場所はいくつかあるが、柵と断定したのは1条のみである。

S A213 (第37図) S B125・S B128などが重複してみられる範囲とS B131・S B133などが重複してみられる範囲とのほぼ中間に、西北西から東南東方向へ約15mにわたってピットが密集して並んでいる。特定のピットを結んで柵を示すのは困難であるが、2つの範囲(屋敷地)の境を明示するための柵が数度作り替えをされながら存在していたと思われる。遺物はいくつかのピットから土師器皿B<sub>1</sub>の破片が少量出土しているのみで、柵の存続期間は不明である。Ⅰ期以降の柵と思われる。

## 3. 井戸

井戸としたものは12基ある。石組みや井戸枠が確認されたものはなく、いずれも素掘りのものである。また、底までの深さが浅いものについては、中世墓である可能性も考えられる。

S E3 (第43・66図) 調査区の東端近くに位置する。長辺約1.9m×短辺約1.8mの方形の平面形をもつ素掘りの井戸で、検出面から約2.3mの深さで湧水し、完掘はできなかった。埋土は黒ボクと地山

崩壊土とが混じり合った土で、その比率の違いで層を細かく分けることができる。また、底近くでは礫層も確認できた。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>1</sub> (212・213)・皿B<sub>2</sub> (214)・皿C (215)・伊藤分類第1段階の鍋、渥美編年で12世紀中葉とされる小椀 (216) と12世紀末葉とされる山茶椀 (217・218) がある。215はあまりにも細片であるため混入と思われる。切り合い関係から中世墓SX5 (Ⅲ期) より古いことがわかる。Ⅰ期の井戸であろう。

SE56 (第43・66図) SB9の南東約2mに位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.5mと浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、上部では径約1.1m、底部では径約0.9mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub> (219～224)・皿B<sub>1</sub> (225～232)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (236～243)、渥美編年で12世紀末葉か13世紀前葉とされる山皿と山茶椀 (235)、知多編年第4型式あるいは第5型式 (12世紀末葉～13世紀前葉) の山茶椀 (233・234) がある。Ⅰ期の遺構と思われる。

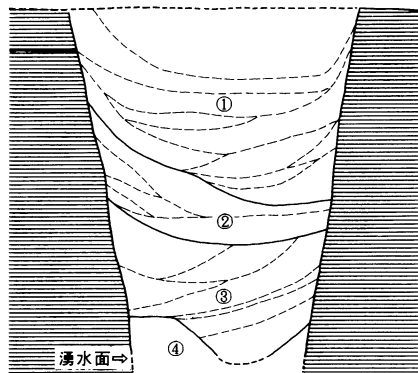
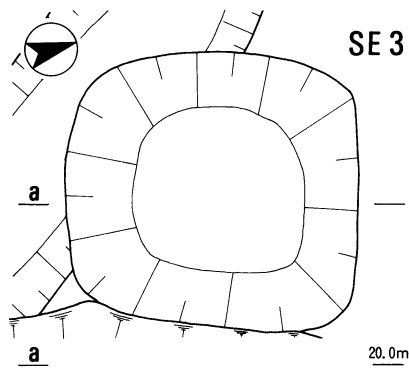
SE57 (第43・67図) SE56のすぐ南東に位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.5mと浅く、湧水もみられなかったことからSE56と同じく中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、上部では径約1.4m、底部では径約1.3mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub> (244・245)・皿B<sub>2</sub> (246～248)・皿C (249～251)・伊藤分類第1段階 (252～254) と第2段階a型式かb型式 (255) の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿・山茶椀 (256・257) がある。Ⅱ期の遺構と思われる。

SE79 (第43・67図) SB68の南南東約20mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約1.2mであるが、深さ1.8m付近から径約0.9mに狭まる。検出面からの深さ約3.1mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿C・皿C・伊藤分類第4段階a型式かb型式の鍋 (259)、知多編年第4型式 (12世紀末葉～13世紀初頭) と思われる山茶椀 (258)、渥美産と思われる片口鉢、知多産と思われる甕、青磁皿がある。259を除き小片が多い。Ⅳ期の井戸と思われる。

SE90 (第43・67図) SB98のすぐ東に位置する。平面形が円形の素掘りの井戸で、上部の径は約1.1mである。検出面からの深さ約2.7mで湧水し、深さ約2.8mで礫層が確認できた。出土遺物には土師器小皿C (260～263)・皿C (264～269)・鍋 (270～276)・羽釜、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山皿・山茶椀 (277)・片口鉢 (279)・甕 (282)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀 (278)、瀬戸編年の古瀬戸前Ⅱ期かⅢ期 (13世紀中葉) の折縁深皿 (281)、瓦質火鉢 (280)、青磁椀 (283)、鉄釘がある。土師器鍋270は伊藤分類第1段階a型式、271・272・274はb型式、273は第2段階c型式のものである。Ⅲ期の井戸と思われる。

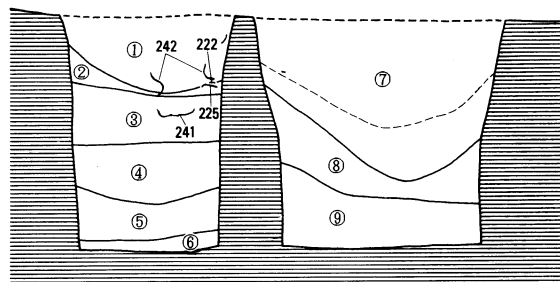
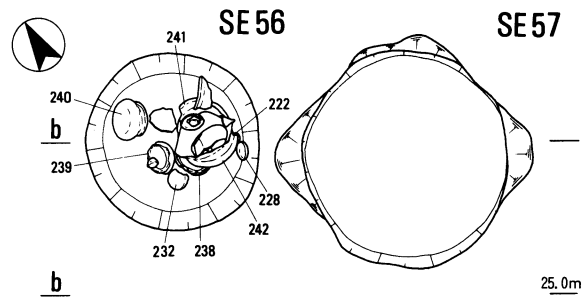
SE134 (第44・67・68図) SB158と重複する位置にある平面形が円形の素掘りの井戸である。検出面付近は径が約3.8mの大きな土坑状となっているが、深さ0.6m付近から下は径約1.2mである。深さ約3mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿C (284～287)・台付小皿 (288)・皿B<sub>2</sub> (292)・皿C (289～291)・盤 (293)・鍋 (294～298)・火鉢 (299)、知多産と渥美産の13世紀代の山茶椀、知多編年第8段階 (14世紀後半) の片口鉢 (300)、知多産と渥美産の甕、信楽産と思われる甕 (301)、瀬戸産の折縁深皿、青磁椀、石鍋 (302)、砥石 (303) がある。土師器鍋294・295は伊藤分類の第1段階b型式、296は第3段階b型式のものである。Ⅳ期の井戸と思われる。

SE157 (第45・68図) SE158の東南東約10mに位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.6mと浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は方形で、上部では長辺約1.3m、短辺約1.1m、底部では長辺約0.8m、短辺約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C (304～309)・皿B<sub>2</sub> (310)・皿C (311～315)・三足付盤 (320)・伊藤分類第3段階b型式の鍋 (316～319)・瓦質火鉢 (321・322)、知多産の山茶椀・片口鉢、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の甕 (324)、瀬戸編年の古瀬戸前Ⅱ期かⅢ期 (13世紀中葉) の四耳壺 (323)・竜泉窯系青磁椀 (325)・石鍋 (326)、砥石、鉄釘 (327)、縄文土器 (2) がある。325は13世紀後葉から14世紀初頭にか



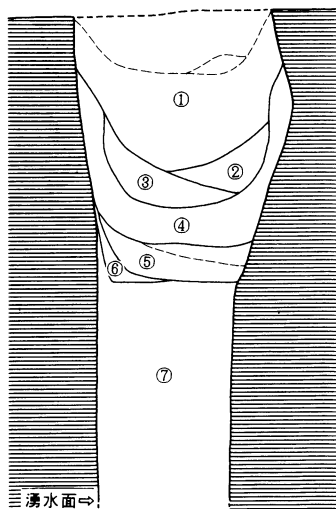
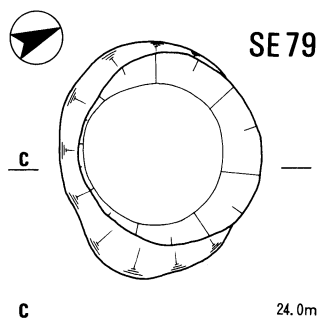
SE 3埋土

- ① 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ② ①に似るがより砂質
- ③ ①に似るが地山崩壊土の量が多い
- ④ 拳大の礫



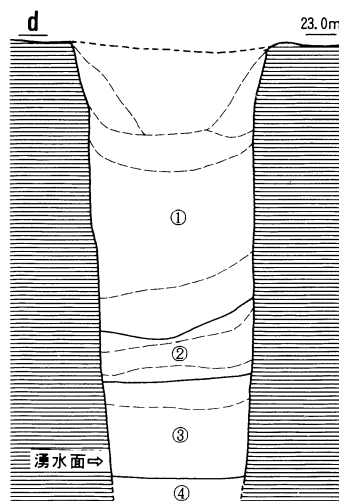
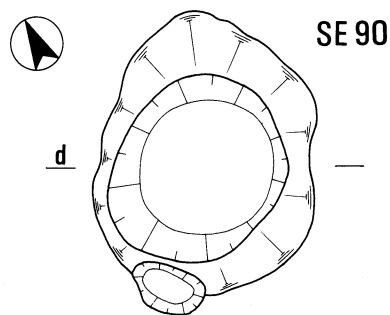
SE 56・57埋土

- ① 黒ボク
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ③ ①に似るが細砂混じる
- ④ ②に似るが細砂混じる
- ⑤ ②に似るが地山崩壊土の量が多い
- ⑥ ②に似るが黒ボクの量が多い
- ⑦ ①に似るが色調がやや明るい
- ⑧ ⑦に似るが色調がより明るい
- ⑨ ①に似るが泥質



SE 79埋土

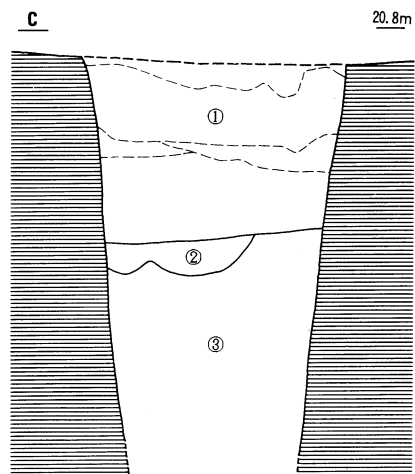
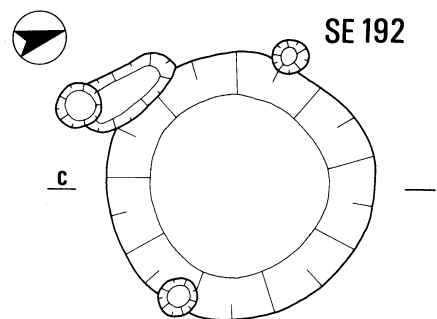
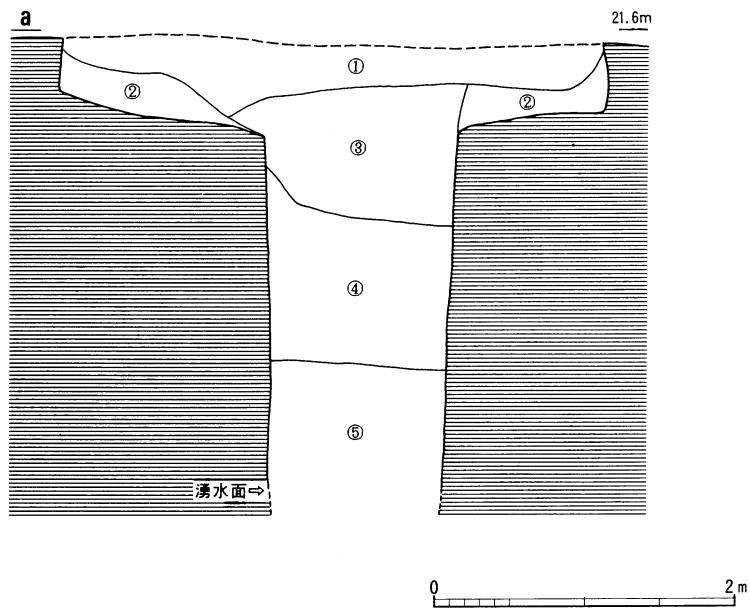
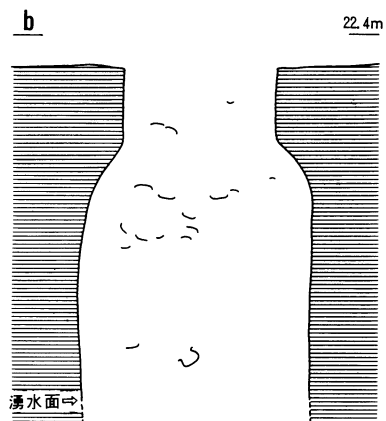
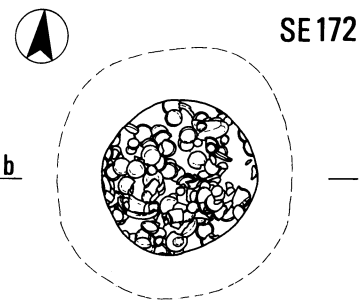
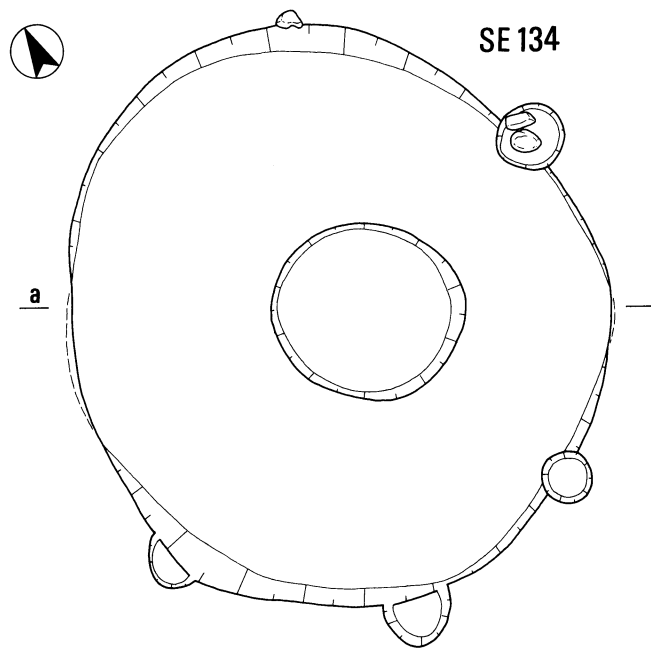
- ① 黒ボク
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ③ ①に似るが粗砂混じる
- ④ 地山崩壊土
- ⑤ 黒ボクに地山崩壊土少し混じる
- ⑥ ④に似るが粗砂混じる
- ⑦ ⑤に似るが粗砂混じる



SE 90埋土

- ① 黒ボク
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ③ ①に似るが色調がより黒い
- ④ ③に礫多く混じる

第43図 SE 3・56・57・79・90実測図 (1:50)



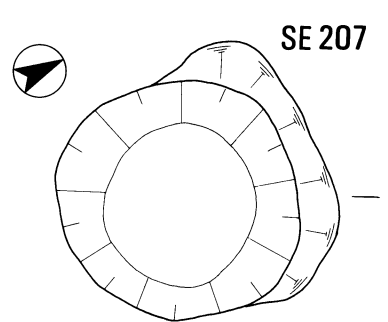
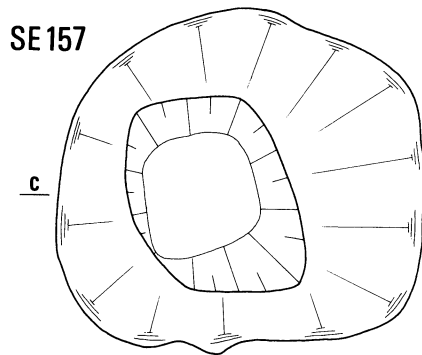
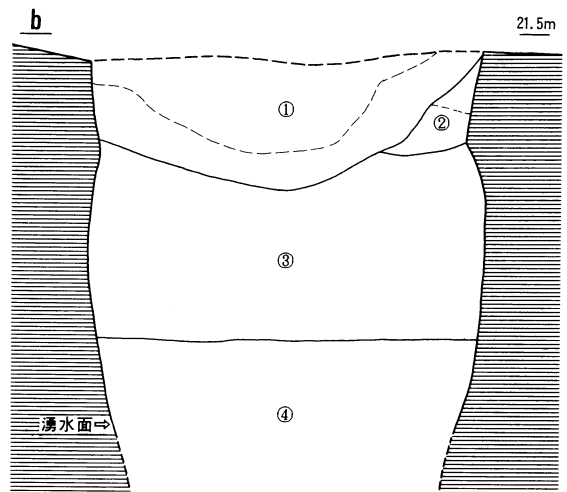
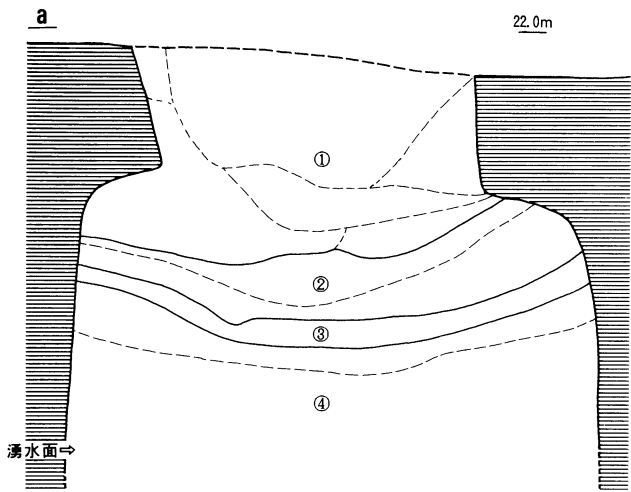
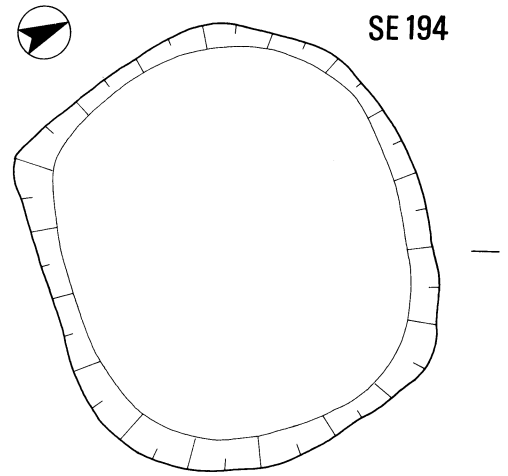
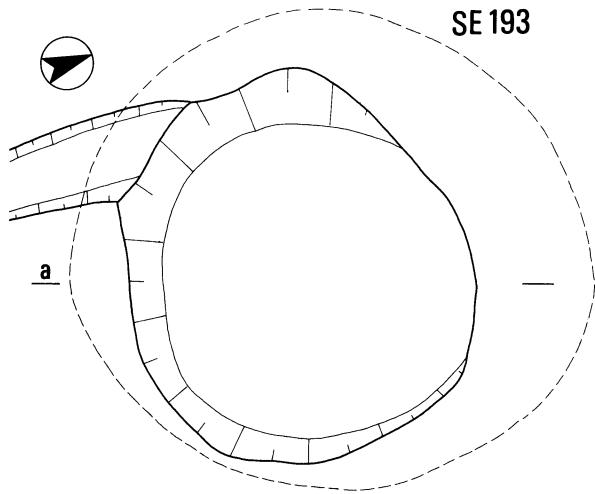
**SE 134 埋土**

- ① 黒ボクに拳大の礫混じる
- ② 黒ボクと地山崩壊土の混成土に拳大の礫混じる
- ③ ①に似るが礫がより多い
- ④ 地山崩壊土
- ⑤ 黒ボクと地山崩壊土の混成土

**SE 192 埋土**

- ① 黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ② ①に似るが粘質
- ③ ①に似るがより砂質

第44図 SE 134・172・192実測図 (1:50)

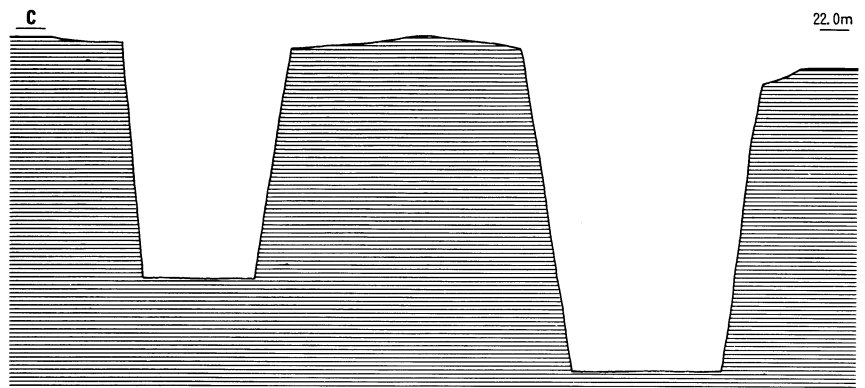


**SE 193 埋土**

- ① 黒ボクに拳大の礫混じる
- ② ①に似るが粗砂多い
- ③ 地山崩壊土
- ④ ②に似るが礫少ない

**SE 194 埋土**

- ① 黒ボクに人頭大の礫多く混じる
- ② 黒ボクに拳大の礫多く混じる
- ③ 黒ボクと地山崩壊土の混成土に人頭大の礫混じる
- ④ 粗砂に拳大の礫混じる



第45図 SE 157・193・194・207実測図 (1:50)



けてのものである。陶磁器類はⅢ期のものが多いが、完形のを多く出土した土師器鍋はⅣ期のものと考えられる。Ⅳ期の井戸であろう。

SE172 (第44・69・70図) SB24の北西約5mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約1mであるが、深さ0.5m付近からは径約1.5mとなる。検出面付近から深さ1.3m付近まで土器がびっしりと埋まっていた。深さ約2.2mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>・小皿B<sub>2</sub> (328~341)・皿B<sub>1</sub>・皿B<sub>2</sub> (342)~356)、伊藤分類第1段階a型式 (357~360)、第1段階b型式 (361~365)、第2段階a型式 (366)の土師器鍋、知多編年第5型式か第6型式 (13世紀前葉~後葉)の山皿 (367・368)・山茶碗 (369~372・374~376)・片口鉢 (379)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗 (373)、猿投産の四耳壺 (377)

と三筋壺 (378)、竜泉窯系青磁碗 (380)、口縁端部が露胎の景德鎮産白磁碗、土製支脚 (381) などがある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿B<sub>1</sub>=5点 (平均口径8.3cm、器高1.3cm)、小皿B<sub>2</sub>=142点 (平均口径7.7cm、器高1.2cm) の計147点、皿では、皿B<sub>1</sub>=6点 (平均口径13.6cm、器高2.9cm)、皿B<sub>2</sub>=139点 (平均口径12.9cm、器高2.6cm) の計145点である。Ⅱ期の井戸である。

SE192 (第44・70図) SE201・205と重複する。平面形が円形の素掘りの井戸で、上部の径は約1.8mである。検出面からの深さ約2.6mまで掘り下げた時点で危険になったため完掘はしなかった。出土遺物は景德鎮産の白磁碗 (382) 1点のみであるため、13世紀代の井戸と思われるが断定できない。

SE193 (第45・70~72図) SB128の北東約2

遺構名	位置	平面形	規模	出土遺物	時期	備考
SE 3	T・U 87・88	方形	上部=長辺1.9m×短辺1.8m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>1</sub> ・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器小碗・山茶碗	Ⅰ期	素掘り。未完掘。
SE 56	R 39・40	円形	上部=径1.1m、深さ=1.5m 底部=径0.9m	土師器小皿B <sub>1</sub> ・皿B <sub>1</sub> ・鍋、陶器山皿、山茶碗	Ⅰ期	素掘り。湧水せず。中世墓か。
SE 57	R 40	円形	上部=径1.4m、深さ=1.5m 底部=径1.3m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器山皿・山茶碗	Ⅱ期	素掘り。湧水せず。中世墓か。
SE 79	Q 48	円形	上部=径1.2m 下部=径0.9m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢・甕、青磁皿	Ⅳ期	素掘り。未完掘。
SE 90	R 57	円形	上部=径1.1m	土師器小皿C・皿C・鍋・羽釜、陶器山皿・山茶碗・片口鉢・甕・折縁深皿、瓦質火鉢、青磁碗、鉄釘	Ⅲ期	素掘り。未完掘。
SE134	M・N 70	円形	上部=径1.2m	土師器小皿C・台付小皿・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋・盤・火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・甕・折縁深皿、青磁碗、石鍋、砥石	Ⅳ期	素掘り。未完掘。
SE157	N 75	方形	上部=長辺1.3m×短辺1m 底部=長辺0.8m×0.7m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋・三足付盤、瓦質火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・四耳壺・甕、青磁碗、石鍋、砥石、鉄釘	Ⅳ期	素掘り。湧水せず。中世墓か。
SE172	T 68	円形	上部=径1m 下部=径1.5m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub> ・鍋、陶器山皿・山茶碗・片口鉢・四耳壺・三筋壺、青磁碗、白磁碗、土製支脚	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE192	P 86	円形	上部=径1.8m	白磁碗	不明	素掘り。未完掘。
SE193	O・P 81	円形	上部=径2.5m 下部=径3.3m	土師器小皿A・小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・台付小皿・皿B <sub>2</sub> ・皿C・羽釜・鍋、陶器山皿・片口小皿・山茶碗・片口鉢・三筋文系壺・甕、青磁碗・皿、白磁碗、刀子、鉄釘、須恵器杯身・杯蓋・高杯・甕	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE194	O・P 83・84	楕円形	上部=長軸3m×短軸2.5m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器山皿・山茶碗・片口鉢・壺、青磁碗、鉄釘	Ⅱ期	素掘り。未完掘。
SE207	O 75	円形	上部=径1.6m、深さ=2m 底部=径1m	土師器小皿C・皿C・鍋、山茶碗、青磁碗、鉄釘	Ⅲ期か Ⅳ期	素掘り。湧水せず。中世墓か。

第5表 井戸一覧

mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約2.5mであるが、深さ0.8m付近からは径約3.3mと大きく広がる。検出面からの深さ約2.5mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿A(383)・小皿B<sub>1</sub>・小皿B<sub>2</sub>(384~395)・小皿C(396~404)・台付小皿(405)・皿B<sub>2</sub>(407~417)・皿C(418~427)・羽釜(428)・鍋(429~448)、渥美編年で12世紀中葉とされる三筋文系壺(459)・12世紀後葉とされる甕(460)・12世紀末葉とされる片口小皿(449)・13世紀前葉とされる山皿(450・451)・山茶椀(453・456)、知多編年第4型式あるいは第5型式(12世紀末葉~13世紀前葉)の山茶椀(452・457・458)、猿投産の山茶椀(454・455)、渥美産と知多産の片口鉢、竜泉窯系の青磁皿(461・462)・椀(465~467)、同安窯系青磁皿(463)、白磁椀(464)、刀子、鉄釘、古墳時代の須恵器杯蓋・杯身・高杯・甕などがある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿A=2点、小皿B<sub>1</sub>=1点、小皿B<sub>2</sub>=53点(平均口径7.5cm、器高1.2cm)小皿C=23点(平均口径7.5cm、器高1.1cm)の計79点、皿では皿B<sub>2</sub>=34点(平均口径12.6cm、器高2.6cm)、皿C=19点(平均口径12.0cm、器高2.5cm)の計53点である。SE172より若干新しい要素がみられるが、II期の井戸と思われる。

SE194(第45・73図) SB128の東約10mに位置する素掘りの井戸で、平面形は長軸約3m、短軸約2.5mの楕円形である。埋土には人頭大から拳大の礫が多数混じっていた。検出面付近からの深さ約2.5mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>(468)・皿B<sub>2</sub>(469)・皿C・伊藤分類第1段階b型式(470~472)と第2段階a型式の鍋、渥美編年で12世紀末葉あるいは13世紀前葉とされる山皿・山茶椀(473~475)・片口鉢(476)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の片口鉢、渥美産と知多産の壺、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。II期の井戸と思われる。

SE207(第45・73図) SE157の隣に位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約2mと比較的浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、

上部では径約1.6m、底部では径約1mである。出土遺物には土師器小皿C(478)・皿C(479~481)、伊藤分類第1段階b型式(482)・第2段階b型式(483)・第2段階c型式(484)・第3段階a型式(485)の土師器鍋、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶椀(486・487)、竜泉窯系青磁椀(488)、鉄釘などがある。III期かIV期の遺構と思われる。

#### 4. 中世墓

中世墓としたものは40基であるが、中世墓の可能性が考えられるものが井戸としたものの中に4基、土坑としたものの中に5基ある。いずれにしても石組み、盛土等の外部施設は全くみられず、明確な蔵骨器や人骨も確認されていない。また、土壌分析等の化学分析を実施する余裕がなかったため、人が葬られていたという確証もない。それでもなおかつ墓と考えた理由はいくつかあるが、最も端的な理由は、単なる土坑にしては遺構の形態が方形あるいは円形に整っているということである。中世墓と考えられる遺構については、その形態から次の5つの型に分けた。A型=細長い長方形の平面形をもつ墓壇で、遺体を横に寝かせて葬ったと考えられる。B型=方形の平面形をもち、本来の深さか1m近く、あるいはそれ以上あったと想定できる墓壇である。遺体を座らせて葬ったと考えられる。C型=円形の平面形をもつ深い墓壇で、B型と同じく遺体を座らせて葬ったと考えられる。A型~C型は確証はないが、棺桶を使用した土葬墓の可能性が考えられる。D型=方形あるいは円形に近い平面形をもつ浅い墓壇である。さらにいくつかの型に分けられるが、煩雑になることから一つにまとめた。屈葬、あるいは火葬が想定できる。E型=ピット状の小規模な墓壇の中に完形の土師器鍋が納まっているもので、火葬墓と考えられる。

SX5(第46・73図) 調査区の東端近くに位置し、SE3と重複する。墓壇は平面形が楕円形のもので、上部では長軸約0.95m、短軸約0.8m、底部では長軸約0.85m、短軸0.7m、検出面からの深さ約0.3mである。D型に近いがE型とする。墓壇の中には完形の土師器鍋(492)が納まっており、墓

墳埋土や鍋の中には炭が認められた。出土遺物には伊藤分類第1段階b型式の土師器鍋(492)の他、土師器小皿C(489)・皿C(490・491)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀(493)がある。490・491は口径が12cm前後あり皿B<sub>2</sub>に近い。切り合い関係からSE3(I期)より新しいことがわかる。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 28(第46・73図) S B 24のすぐ西に位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約2m、短辺約1.6m、底部では長辺約1.65m、短辺約1.2m、検出面からの深さ約0.3mである。墓壇内の北よりには拳大から人頭大の石が積み重ねられており、石の間から知多編年第6型式(13世紀後葉)の甕(494)の破片が出土した。甕以外の出土遺物には土師器小皿C・皿C・伊藤分類第2段階c型式の鍋、竜泉窯系青磁椀、古墳時代の須恵器片などがある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 38(第46・73図) S X 32(5号墳)の墳域のはば中央に位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約1.2m、底部では長辺約0.95m、短辺約0.85m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壇内には拳大の石がびっしりと詰められており、石の間から知多編年第4型式(12世紀末葉～13世紀初頭)と思われる甕(495)、渥美産と思われる須恵質壺(496)、渥美編年で12世紀後葉か末葉とされる山茶椀(497)・片口鉢、瓦質火鉢、竜泉窯系青磁椀、白磁四耳壺(498)、土製支脚、平瓦、古墳時代の須恵器杯蓋(13)・杯身(14)・土師器ミニチュア高杯(19)が出土した。I期の墓と思われる。

S X 40(第46・74図) S B 2の北西約5mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.1m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.7mである。墓壇内から土師器小皿B<sub>2</sub>(500)・小皿C(499)・皿B<sub>1</sub>(503)・皿C(501・502)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(504)、知多編年第4型式か第5型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の山皿(505)、古墳時代の須恵器壺が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 41(第46・74図) 調査区の西端近くに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では

長辺約1.2m、短辺約0.75m、底部では長辺約1m、短辺約0.55m、検出面からの深さ約0.1mである。墓としたが根拠は薄い。出土遺物には土師器小皿C(506～508)・皿C(509～511)・伊藤分類第2段階c型式の鍋(513)と第5段階の焙烙(512)がある。Ⅳ期末以降の遺構と思われる。

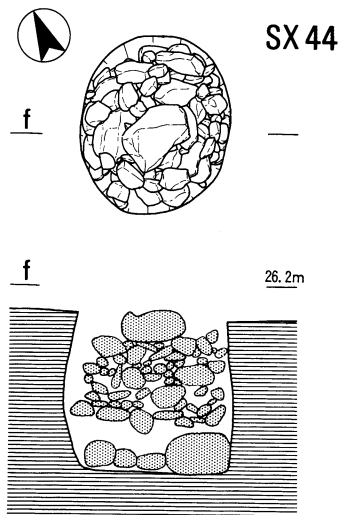
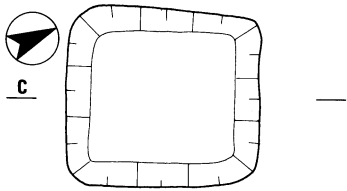
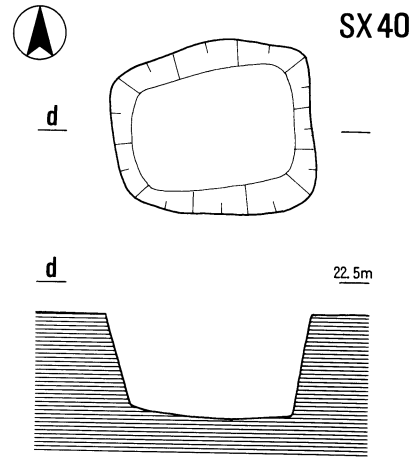
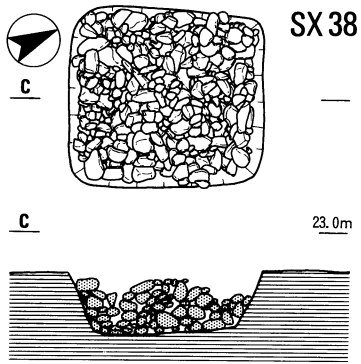
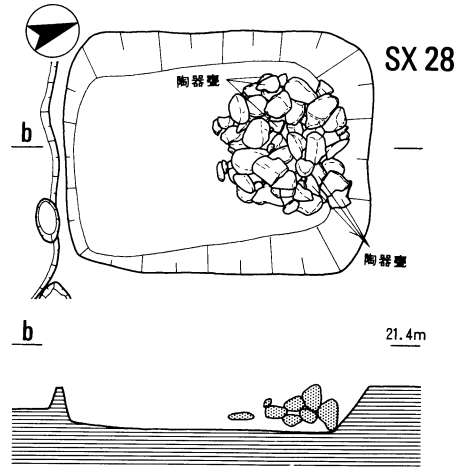
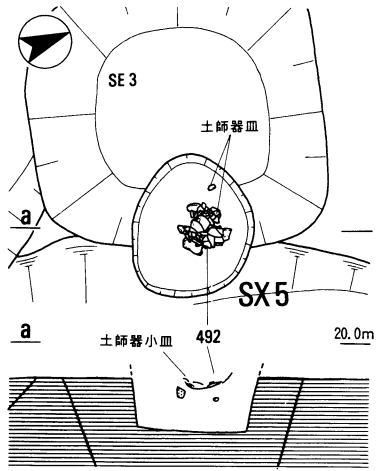
S X 44(第46・74図) S X 40の西北西約15mに位置するC型のもので、長軸約1.15m、短軸約1mの楕円形の平面形をもつ。検出面からの深さ約1mである。墓壇内には拳大から人頭大の石が詰められていた。出土遺物には土師器小皿C・小皿B<sub>2</sub>(514)・皿C、知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉～後葉)の山茶椀(515)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀、知多産と渥美産の甕、瀬戸産の折縁深皿、竜泉窯系青磁椀がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 46(第47・74図) S B 51と重複する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.4m、短辺約1m、底部では長辺約1.1m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.9mである。墓壇内から土師器小皿A(516)・小皿B<sub>2</sub>・小皿C(517～521)・皿B<sub>2</sub>・皿C(522～525)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(526・527)、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(528)・山茶椀が出土している。522～523は皿B<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

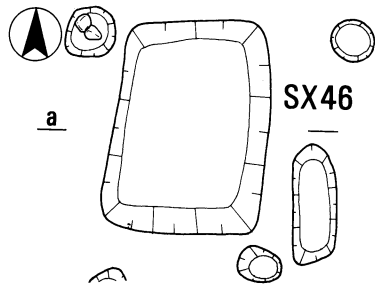
S X 58(第47図) S X 46の東約9mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約0.95m、短辺約0.75m、底部では一辺約0.6m、検出面からの深さ約1.2mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X 59(第47・74図) S X 58のすぐ南に位置する。平面形は方形で、深さは比較的浅いがB型としておく。上部では長辺約1.15m、短辺約0.9m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.6mである。墓壇内から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C(529)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式の鍋(530)が出土している。529は口径が12cm前後で皿B<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 63(第47・74図) S X 59のすぐ西に位置する。平面形は方形で、比較的小規模で深さも浅いがB型としておく、上部では長辺約0.85m、短辺約0.7m、底部では長辺約0.8m、短辺約0.65m、検出面

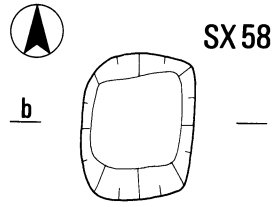
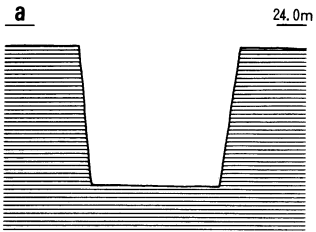


第46図 SX 5・28・38・40・41・44実測図 (1:50)



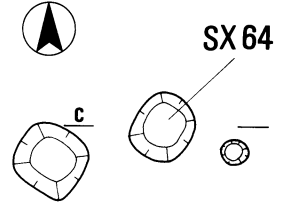
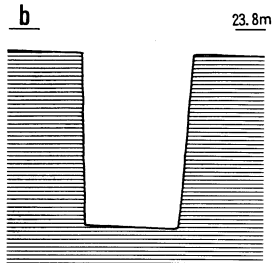
a

SX46



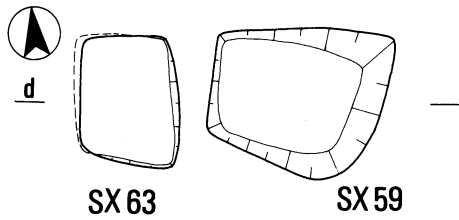
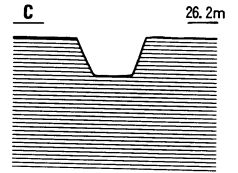
b

SX58



c

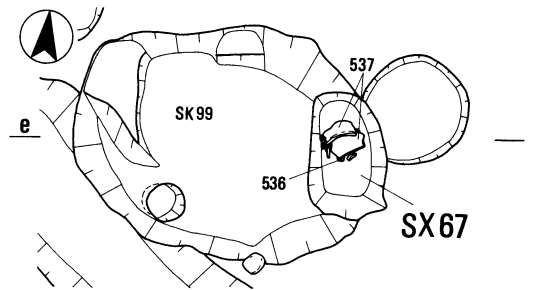
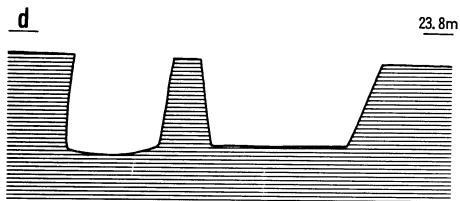
SX64



d

SX63

SX59



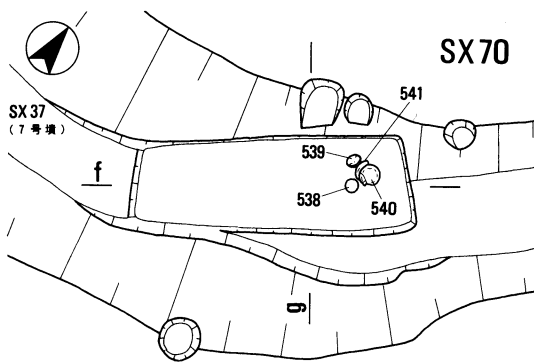
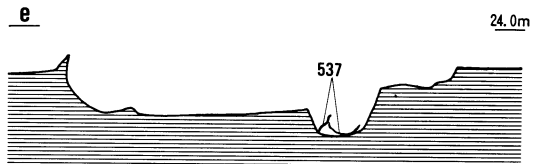
e

SK99

537

536

SX67



f

SX70

SX37  
(7号墳)

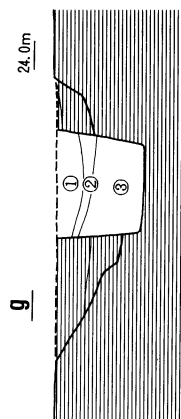
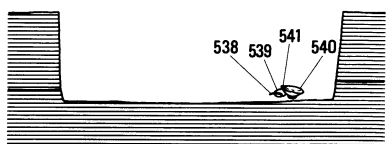
541

539

538

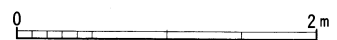
540

f



SX70 埋土

- ① 暗褐色の黒ボク
- ② 黒褐色の黒ボク
- ③ 粗砂をやや多く含む黒褐色の黒ボク



第47図 SX46・58・59・63・64・67・70実測図 (1:50)

からの深さ約0.65mである。墓壙内から土師器小皿B<sub>2</sub>・小皿C・皿B<sub>2</sub> (532)・皿C (531)・伊藤分類第1段階b型式の鍋が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 64 (第47・74図) S X 44の西約6mに位置する。E型のもので、径約0.45m、検出面からの深さ約0.25mのピット状の墓壙の中に完形の土師器鍋(534)が納まっていた。この鍋は伊藤分類の第1段階b型式に相当する。他に、土師器小皿C (533)・皿C、知多編年第5型式か第6型式(13世紀前葉～後葉)の片口鉢、竜泉窯系青磁椀が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 67 (第47・74図) S X 46の南約17mに位置する。S K 99によって上部がかなり削り取られている。平面形は方形で、現存の上部では長辺約0.8m、短辺約0.5m、底部では長辺約0.6m、短辺約0.3m、検出面からの深さ約0.45mである。B型に近いが小規模であることからE型としておく。墓壙の中には完形の土師器皿B<sub>2</sub> (535・536)とほぼ完形の土師器鍋(537)が納まっていた。鍋は伊藤分類の第1段階a型式に相当するものである。他に古墳時代の須恵器片も出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 70 (第47・75図) S X 46の南約4m、S X 37(7号墳)の周溝の内に位置する。長方形の平面形をもつA型のもので、上部では長辺約1.8m、短辺約0.65m、底部では長辺約1.75m、短辺約0.55m、検出面からの深さ約0.6mである。墓壙内の東端には土師器皿B<sub>1</sub> (540)を蓋とした渥美編年で12世紀中葉とされる山茶椀(541)が据えられており、その前には土師器小皿B<sub>1</sub>が2枚(538・539)が並べられていた。これらの土器は明らかに供え物を入れた容器として遺体と共に埋納されたものである。Ⅰ期の墓である。

S X 77 (第48・75図) S X 67の西南西約11mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約2.1m、短辺約1.3m、底部では長辺約1.65m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.85mである。墓壙内から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub> (542)・鍋が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 78 (第48・75図) S X 77のすぐ東に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長

辺約1.65m、短辺約0.9m、底部では長辺約1.2m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.8mである。墓壙内から土師器小皿B<sub>1</sub> (543)・皿B<sub>1</sub> (544)・鍋、知多産と渥美産の山茶椀、古墳時代の須恵器杯蓋が出土している。Ⅰ期の墓と思われる。

S X 88 (第48図) S X 28の南西約17mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。南端付近がS X 224によって壊されているため墓壙の全長は不明である。上部では長辺1.8m以上、短辺約0.75m、底部では長辺1.6m以上、短辺約0.6m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はないが、切り合い関係からS D 218(Ⅰ期)より新しく、S X 224(Ⅲ期)より古いことがわかる。Ⅱ期の墓としておく。

S X 92 (第48・75図) S B 85のすぐ北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.5m、短辺約1m、底部では長辺約1.3m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.75mである。墓壙北西隅の底近くから完形の竜泉窯系青磁椀(545)が1点出土した。Ⅱ期かⅢ期の墓と思われる。

S X 94 (第48図) S X 70の南西約10mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。上部では長辺約2.6m、短辺約0.9m、底部では長辺約2.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X 96 (第49・75図) S X 92の南約5mに位置する。円形の平面形をもつE型のもので、径約0.5m、検出面からの深さ約0.2mのピット状の墓壙の中に体部が完形の土師器鍋(546)が納まっていた。この鍋は口頸部が欠けているが、伊藤分類の第1段階か第2段階のものと思われる。他に遺物は出土していない。Ⅱ期かⅢ期の墓と思われる。

S X 106 (第49・75図) S X 88の南西約18mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約0.9m、底部は上部よりやや広がり長辺約1.3m、短辺約1.0m、検出面からの深さ約1.1mである。墓壙内の中央付近の埋土がかなりやわらかく、棺桶の使用が想定できるような状況であった。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub> (548)・小皿C (547)・皿C (549・550)・伊藤分類第1段階b型式の鍋と第2段階c型式の鍋(551)、知多産

の山茶碗と片口鉢、竜泉窯系青磁碗がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 120 (第49・75図) S X 106の南東約30mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。上部では長辺約2.8m、短辺約1.2m、底部では長辺約2.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壙内から土師器小皿C (552)・皿C (553～555)・杯 (556)・ミニチュア羽釜 (557)・器台柱状部・鍋体部、知多編年第5型式 (13世紀前葉) の山茶碗、竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 138 (第49・75図) S X 106の北約2mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.1m、底部では一辺約1m、検出面からの深さ約0.8mである。墓壙内は後世に掘られた土坑によりかなり下まで攪乱されている。出土遺物には土師器小皿C・皿C (559・560)・鍋がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 139 (第49図) S X 138の南南西約4mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.3m、底部では一辺約1.15m、検出面からの深さ約0.75mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X 140 (第50・75図) S X 139の南東約1mに位置する。長方形の平面形をもつがA型ほど細長くないことからB型としておく。上部では長辺約1.95m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.75m、短辺約0.9mである。S K 103と重複しているため、壁の高さは0.25mしか検出されなかったが、S K 103の検出面から測ると深さは約1mとなる。出土遺物には土師器小皿C・皿C (561・562)・伊藤分類第1段階b型式の鍋がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 149 (第50・75・76図) S X 106の東北東約8mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約0.95m、底部では長辺約0.85m、短辺約0.65m、検出面からの深さ約0.85mである。墓壙内から土師器小皿B<sub>2</sub> (566)・小皿C (565)・皿B<sub>2</sub> (577)・皿C (568～572)・鍋・盤・三足付盤、知多編年第4段階 (12世紀末葉～13世紀初頭) の山茶碗、古墳時代の須恵器甕体部片が出土している。568～572はB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の墓と思わ

れる。

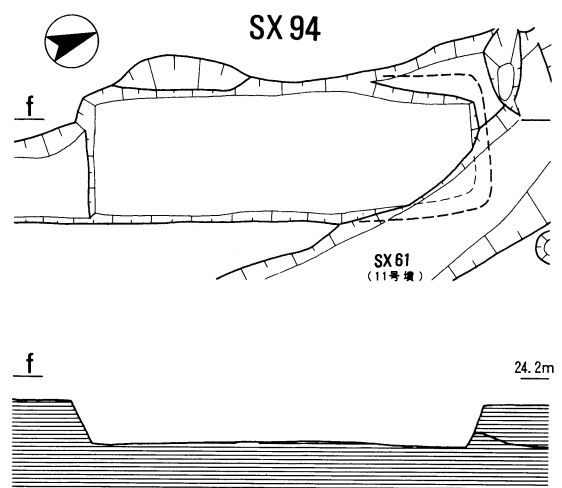
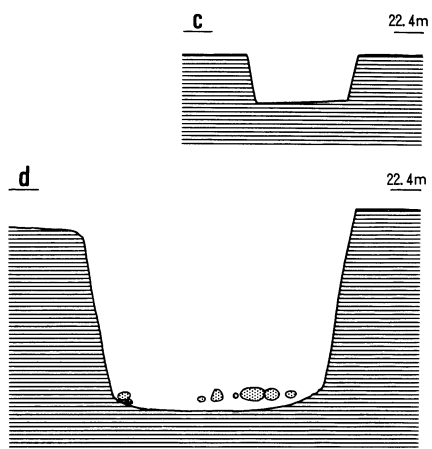
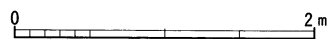
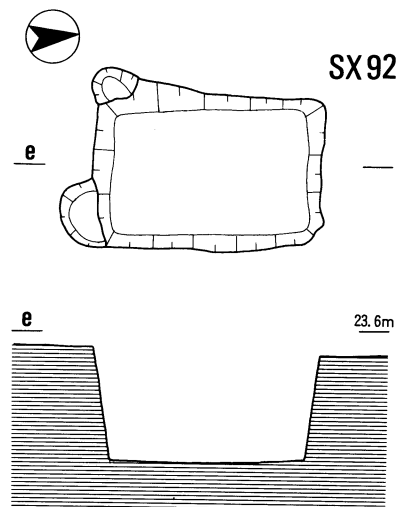
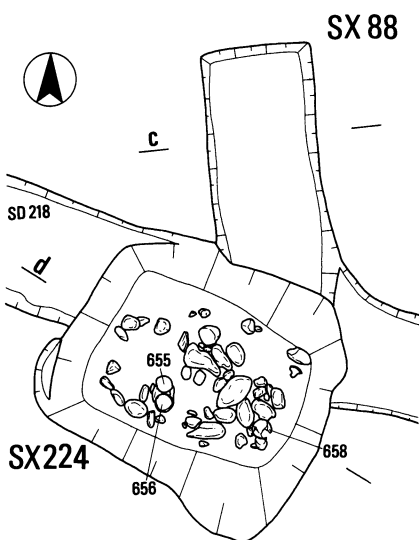
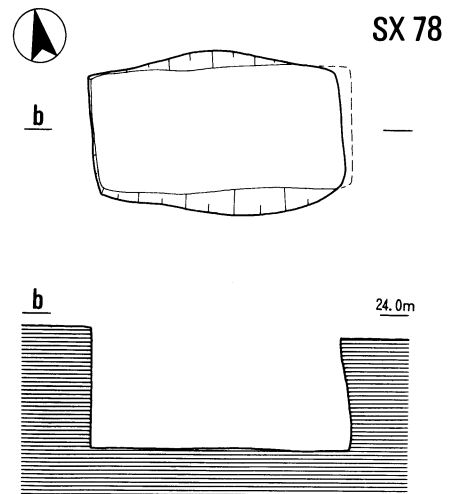
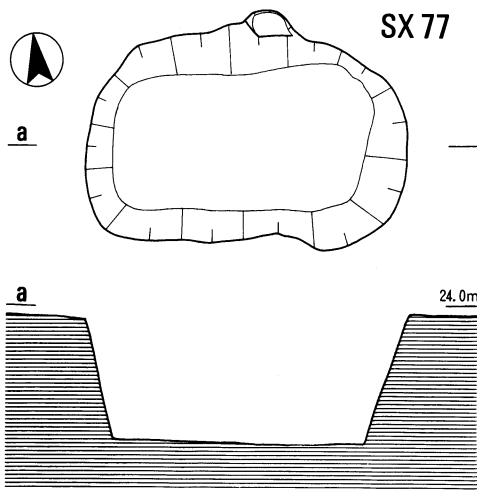
S X 151 (第50・76図) S X 149のすぐ北に位置し、西側に深さ0.15cm程の浅い土坑が重複している。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約1m、底部では長辺約1m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.35mである。墓壙内から土師器小皿 (577)・小皿B<sub>2</sub>・小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C (578)・盤・三足付盤、伊藤分類第1段階a型式 (579)、第1段階b型式 (580)、第2段階a型式の土師器鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗 (583)、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の須恵器甕体部片が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 152 (第50・76図) S X 151の北約3mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.85m、底部では長辺約0.85m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.75mである。墓壙内から土師器小皿C (584)・皿C・伊藤分類第1段階に相当すると思われる鍋が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 162 (第50・76図) S E 157の西約3mに位置する。上部の平面形は崩壊のためか不定型であるが、方形の平面形をもつB型と思われる。底部では長辺約0.8m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約1.2mである。墓壙内から土師器小皿C (585～588)・皿B<sub>2</sub>・皿C (589・590)・伊藤分類 (仮) A段階 (591) と第1段階a型式の鍋、知多産の山茶碗と渥美産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

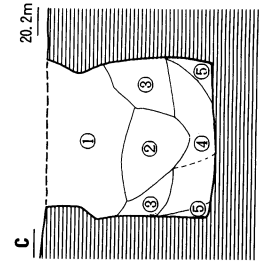
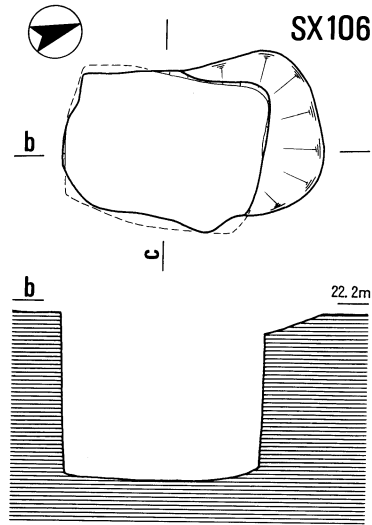
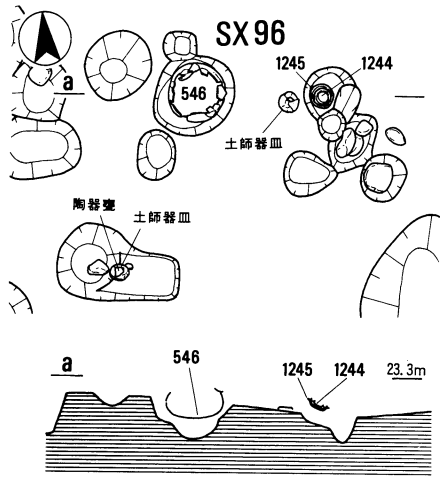
S X 165 (第50・76図) S X 151のすぐ西北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1.05m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.85m、検出面からの深さ約1mである。墓壙内から土師器小皿B<sub>2</sub> (592)・小皿C (593・皿B<sub>2</sub>・皿C (594・595)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (596)、瓦器ミニチュア碗 (598)、知多産の山茶碗、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の片口鉢 (597)、景德鎮産の白磁皿、鉄釘が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 166 (第51図・76図) S X 152の東北約1mに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1m、底部では長辺約1.1



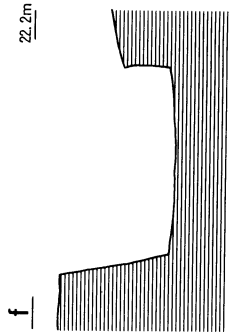
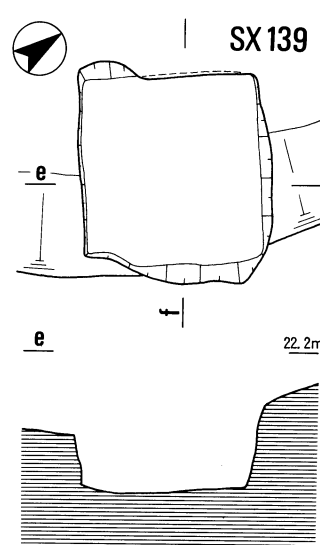
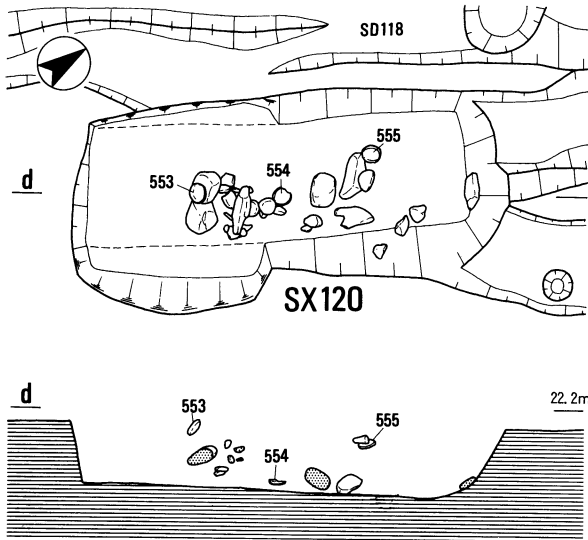
第48图 SX 77 · 78 · 88 · 92 · 94 · 224实测图 (1 : 50)





SX106埋土

- ① 黒褐色の黒ボク
- ② 黒褐色の黒ボク（かなりやわらかい）
- ③ 黒褐色の黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ④ 暗褐色の黒ボク
- ⑤ 地山崩壊土

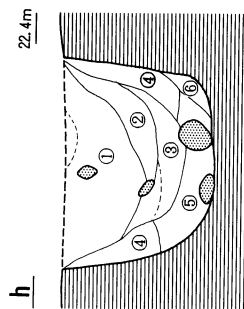
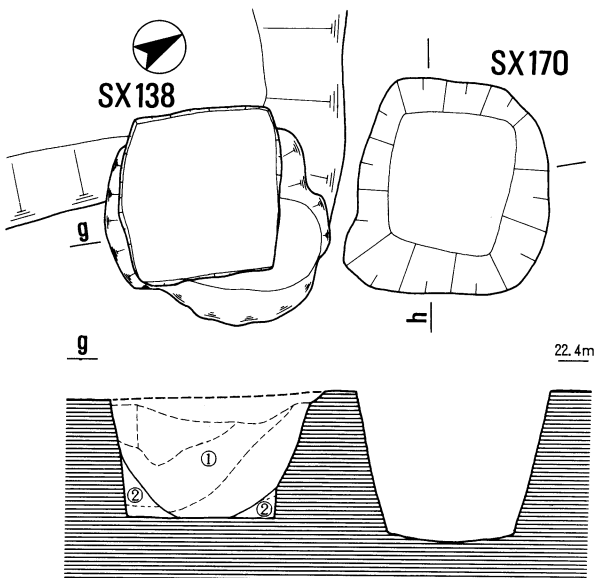


SX138埋土

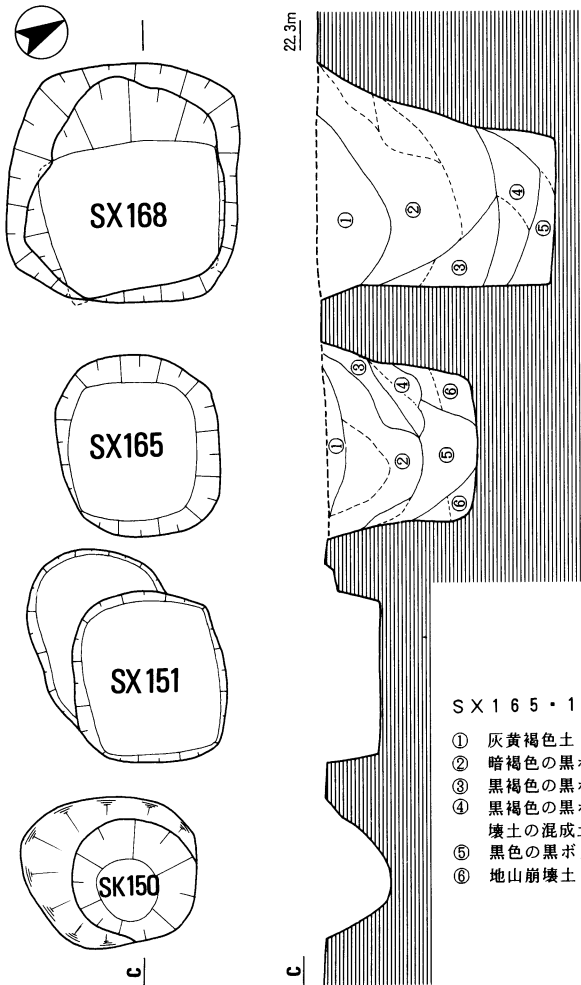
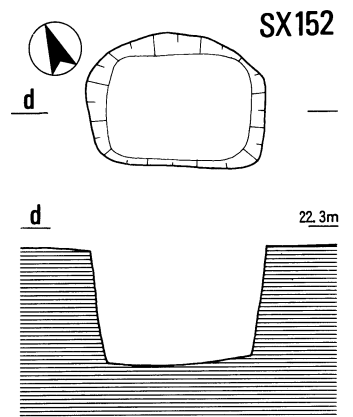
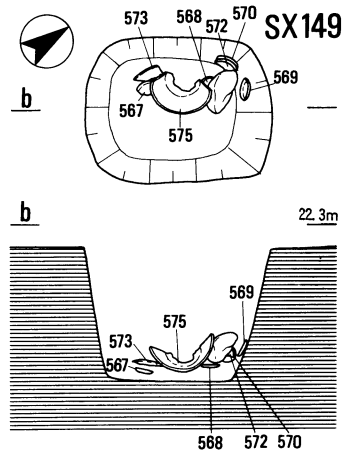
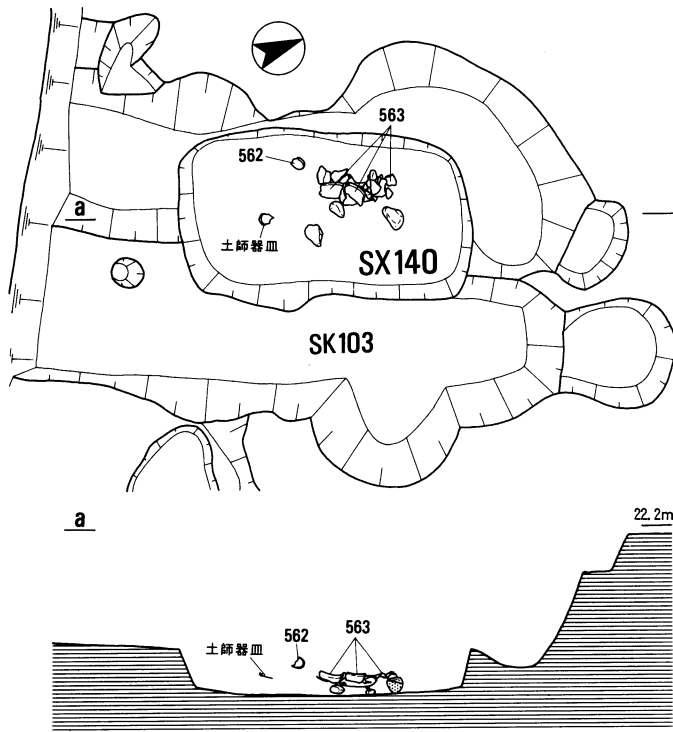
- ① 攪乱土（黒ボクと地山崩壊土の混成土）
- ② 地山崩壊土

SX170埋土

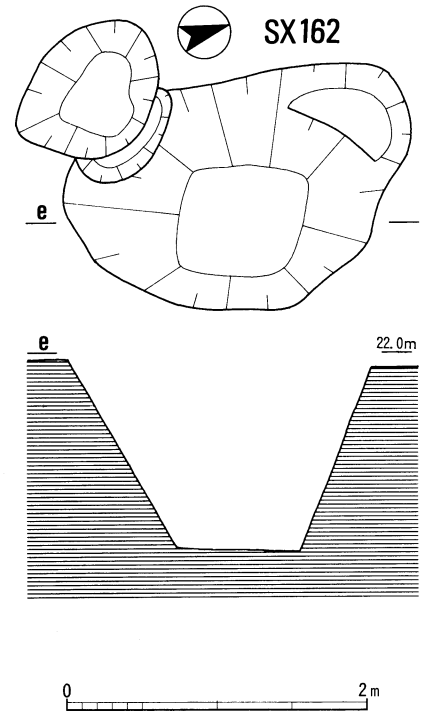
- ① 黒色の黒ボク
- ② 細砂が混じる黒褐色の黒ボク
- ③ 黒色の黒ボクと地山崩壊土の混成土
- ④ 地山崩壊土
- ⑤ 黒褐色の黒ボク
- ⑥ 粗砂が混じる暗褐色の黒ボク



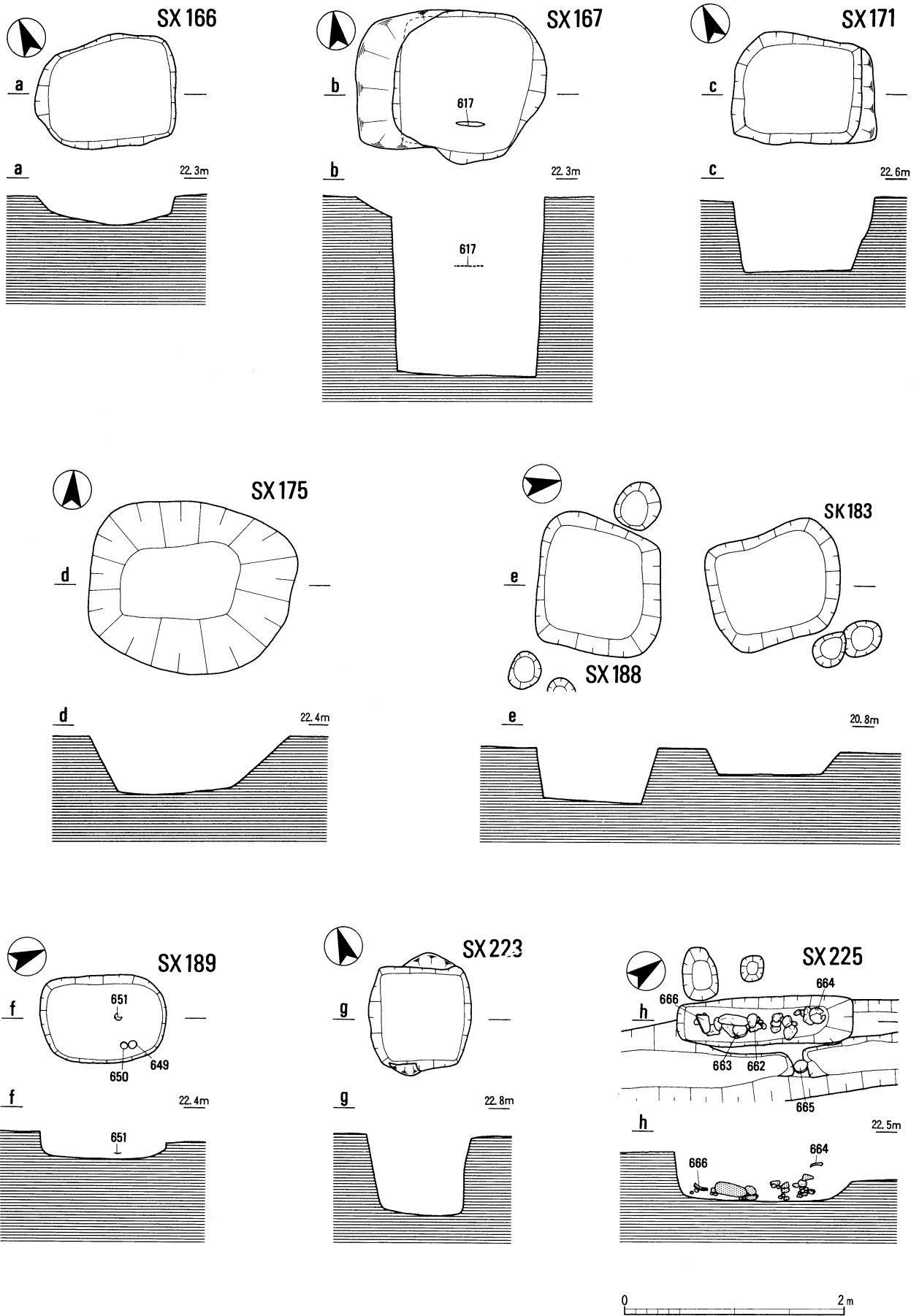
第49図 SX96・106・120・138・139・170実測図（1：50）



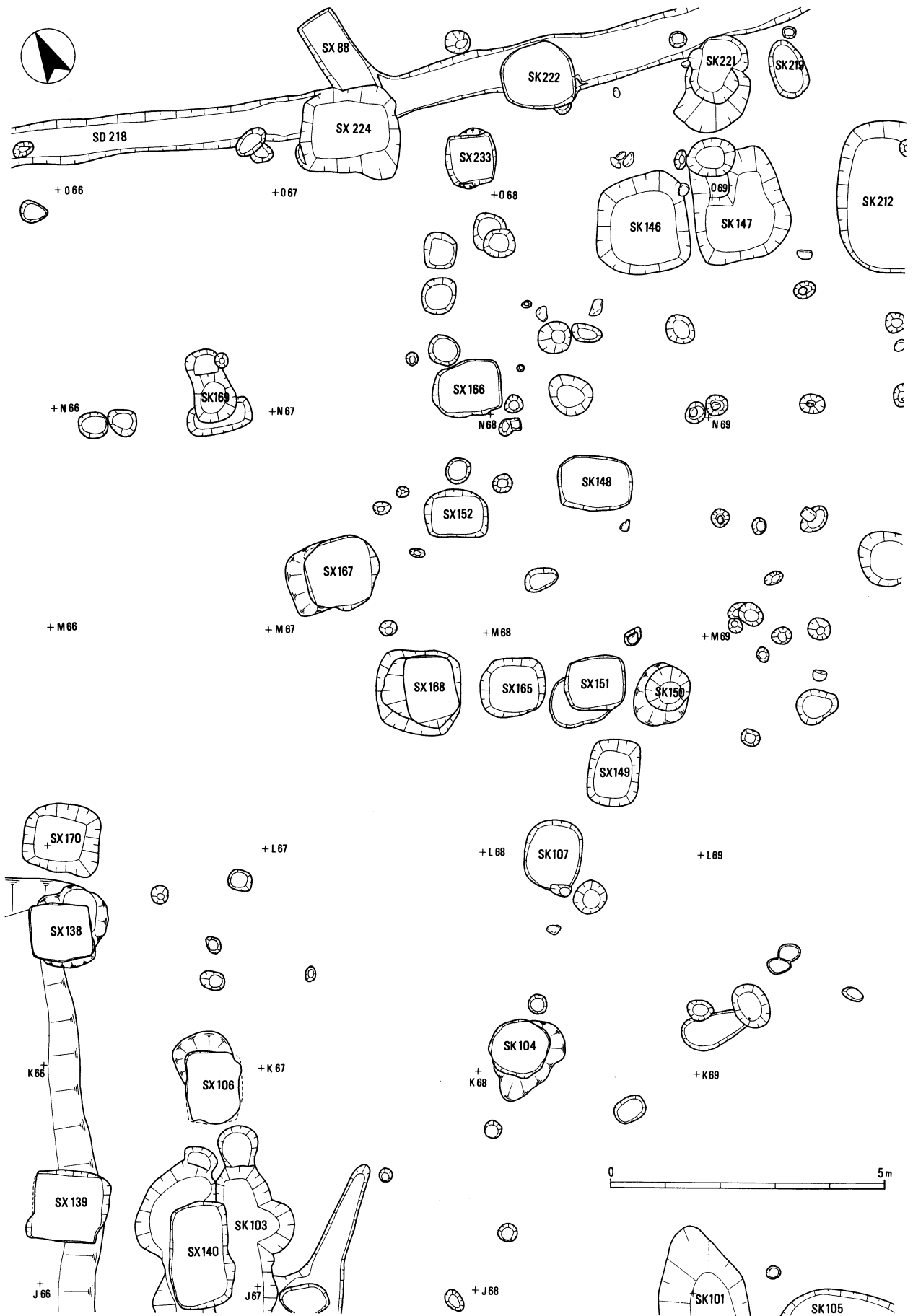
- SX165・168埋土
- ① 灰黄褐色土（黒ボク質）
  - ② 暗褐色の黒ボク
  - ③ 黒褐色の黒ボク
  - ④ 黒褐色の黒ボクと地山崩壊土の混成土
  - ⑤ 黒色の黒ボク
  - ⑥ 地山崩壊土



第50図 SX140・149・151・152・162・165・168実測図（1：50）



第51图 SX166·167·171·175·188·189·223·225实测图(1:50)



第52图 S X 168周围中世墓配置图 (1 : 100)

m、短辺約0.95、検出面からの深さ約0.25mである。墓壇埋土には炭が多く混じっていた。墓壇内から土師器小皿C・皿C(600)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の甕、鉄釘、銅銭が出土した。銅銭は開元通寶2枚(600・601)、真書体の天聖元寶1枚(603)・篆書体の天聖元寶1枚(604)・篆書体の景祐元寶1枚(605)・篆書体の治平元寶2枚(606・607)・真書体の熙寧元寶1枚(608)・真書体の元豐通寶1枚(609)・篆書体の元豐通寶2枚(610)・真書体の元符通寶2枚(611)・篆書体の聖宋元寶と思われるもの1枚(612)、篆書体の政和通寶1枚(613)、文字が解読不明のもの1枚あるいは2枚の合計16枚か17枚ある。Ⅳ期の墓と思われる。

S X 167 (第51・76図) S X 152の西約1mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.35m、底部では一辺約1.15m、検出面からの深さ約1.6mである。墓壇内から土師器小皿C(614)・皿C(615・616)、伊藤分類第1段階b型式の鍋(598)、知多産と思われる山茶碗と甕、竜泉窯系青磁碗、鉄製の小刀(617)、鉄釘が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 168 (第50・77図) S X 165のすぐ北西に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部は崩壊によるものか不定型であるが、底部では長辺約1.15m、短辺約0.95m、検出面からの深さ約1.6mである。墓壇内から土師器小皿B<sub>2</sub>(618~620)・小皿C・皿B<sub>2</sub>(621~626)・皿C(627~630)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(631)と第2段階a型式の鍋、瓦器ミニチュア羽釜(632)、渥美産と思われる入子(633)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶碗(634)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(635)、知多産の甕、竜泉窯系青磁碗、鉄製の小刀(636)がある。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 170 (第49・77図) S X 138のすぐ北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.4m、短辺約1.25m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.95mである。墓壇内から土師器小皿C・皿C(637)・羽釜(638・639)・盤、知多編年第6型式(13世紀後葉)の片口鉢(640)、青磁皿が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 171 (第51図) S X 120の東南東約25mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.95m、底部では長辺約0.95m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.65mである。墓壇内から土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>、知多産の山茶碗が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X 175 (第51・77図) S X 28の北西約20mに位置する。上部の平面形は崩壊のためか不定型であるが、方形の平面形をもつと思われる。B型とも考えられるがD型としておく。底部では長辺約1m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.5mである。墓壇内から土師器皿C(641・642)・伊藤分類第1段階a型式(643)と第1段階b型式(644)の鍋、知多産の片口鉢が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 188 (第51・77図) 調査区の東端近くに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1.1m、底部では一辺約0.9m、検出面からの深さ約0.45mである。墓壇内から土師器小皿C(645・646)・皿C(647)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式と思われる鍋、知多産の山茶碗、鉄釘、砥石(648)が出土している。Ⅳ期の墓と思われる。

S X 189 (第51・77図) S X 171の北北東約16mに位置する。楕円形に近い隅丸方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.75m、底部では長辺約1.05m、短辺約0.65m、検出面からの深さ約0.2mである。墓壇内から土師器小皿C(649~651)が出土した。Ⅲ期かⅣ期の墓と思われる。

S X 223 (第51・77図) S X 88の南南東約1.5mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約0.9m、底部では一辺約0.75m、検出面からの深さ約0.7mである。墓壇内から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>(653)・皿C(652)・鍋、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶碗、13世紀後半とされる竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 224 (第48・78図) S X 88の南西に重複する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.8m、短辺約1.5m、底部では長辺約1.4m、短辺約1m、検出面からの深さ約1.3mである。底面

遺構名	位置	平面形	型	規 模	出 土 遺 物	時 期	備 考
SX 5	T・U 88	楕円形	E	上部=長軸0.95m×短軸0.8m 底部=長軸0.85m×短軸0.7m 深さ=0.3m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗	Ⅲ期	
SX 28	S 69・70	方形	D	上部=長辺2m×短辺1.6m 底部=長辺1.65m×短辺1.2m 深さ=0.3m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器甕、青磁碗、須恵器提瓶?	Ⅲ期	墓壇内に集石
SX 38	W 59	方形	D	上部=長辺1.3m×短辺1.2m 底部=長辺0.95m×短辺0.85m 深さ=0.4m	陶器山茶碗・片口鉢・甕、須恵質壺、瓦質火鉢、青磁碗、白磁四耳壺、土製支脚、平瓦、須恵器杯蓋・杯身・土師器ミニチュア高杯	I期	墓壇内に集石
SX 40	V 29	方形	B	上部=長辺1.3m×短辺1.1m 底部=長辺1.1m×短辺0.8m 深さ=0.7m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿B <sub>1</sub> ・皿C・鍋、陶器山皿、須恵器壺	Ⅱ期	
SX 41	T 20・21	方形	D	上部=長辺1.2m×短辺0.75m 底部=長辺1m×短辺0.55m 深さ=0.1m	土師器小皿C・皿C・鍋・焙烙	Ⅳ期末以降	
SX 44	U・V 25	楕円形	C	上部=長軸1.15m×短軸1m 底部=長軸1.15m×短軸1m 深さ=1m	土師器小皿C・小皿B <sub>2</sub> ・皿C、陶器山茶碗・甕・折縁深皿、青磁碗	Ⅲ期	墓壇内に集石
SX 46	W 46・47	方形	B	上部=長辺1.4m×短辺1m 底部=長辺1.1m×短辺0.8m 深さ=0.9m	土師器小皿A・小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器山皿・山茶碗	Ⅲ期	
SE 56	R 39・40	円形	C	上部=径1.1m 底部=径0.9m 深さ=1.5m	土師器小皿B <sub>1</sub> ・皿B <sub>1</sub> ・鍋、陶器山皿・山茶碗	I期	井戸としたが中世墓か
SE 57	R 40	円形	C	上部=径1.4m 底部=径1.3m 深さ=1.5m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器山皿・山茶碗	Ⅲ期	井戸としたが中世墓か
SX 58	X 49	方形	B	上部=長辺0.95m×短辺0.75m 底部=一辺0.6m 深さ=1.2m	—	不明	
SX 59	W 49	方形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.9m 底部=長辺0.9m×短辺0.7m 深さ=0.6m	土師器小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋	Ⅲ期	
SX 63	W 49	方形	B	上部=長辺0.85m×短辺0.7m 底部=長辺0.8m×短辺0.65m 深さ=0.65m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋	Ⅱ期	
SX 64	U 24	円形	E	上部=径0.45m 深さ=0.25m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器片口鉢、青磁碗	Ⅲ期	
SX 67	S 48	方形	E	上部=長辺0.8m×短辺0.5m 底部=長辺0.6m×短辺0.3m 深さ=0.45m	土師器皿B <sub>2</sub> ・鍋・須恵器甕?	Ⅱ期	
SX 70	V 47	長方形	A	上部=長辺1.8m×短辺0.65m 底部=長辺1.75m×短辺0.55m 深さ=0.6m	土師器小皿B <sub>1</sub> ・皿B <sub>1</sub> 、陶器山茶碗	I期	
SX 77	P・Q 46	方形	B	上部=長辺2.1m×短辺1.3m 底部=長辺1.65m×短辺0.9m 深さ=0.85m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub> ・鍋	Ⅱ期	
SX 78	Q 47	方形	B	上部=長辺1.65m×短辺0.9m 底部=長辺1.2m×短辺0.8m 深さ=0.8m	土師器小皿B <sub>1</sub> ・皿B <sub>1</sub> 、陶器山茶碗、須恵器杯蓋	I期	
SK 83	R 52	方形	D	上部=長辺1.5m×短辺1.1m 底部=長辺1.5m×短辺0.75m 深さ=0.35m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub>	Ⅱ期	土坑としたが中世墓か
SX 88	O 67	長方形	A	上部=長辺1.8m以上×短辺0.75m、 底部=長辺1.6m以上×短辺0.6m 深さ=0.3m	—	Ⅱ期?	
SX 92	R・S 54・55	方形	B	上部=長辺1.5m×短辺1m 底部=長辺1.3m×短辺0.8m 深さ=0.75m	青磁碗	Ⅱ期かⅢ期	
SX 94	S・T 45・46	長方形	A	上部=長辺2.6m×短辺0.9m 底部=長辺2.5m×短辺0.3m 深さ=0.3m	—	不明	
SX 96	Q 55	円形	E	上部=径0.5m 深さ=0.2m	土師器鍋	Ⅱ期かⅢ期	
SK 104	K 68	円形	C	上部=径1.1m 底部=径1m 深さ=1.5m	土師器小皿A・小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・台付小皿・皿C・三足付盤・羽釜・鍋、陶器山茶碗・片口鉢、青磁碗、白磁合子、細粒砂岩製四葉硯	Ⅲ期	土坑としたが中世墓か
SX 106	J・K 66	方形	B	上部=長辺1.3m×短辺0.9m 底部=長辺1.3m×短辺1.0m 深さ=1.1m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢、青磁碗	Ⅲ期	
SX 120	I 74	長方形	A	上部=長辺2.3m×短辺1.2m 底部=長辺2.5m×短辺0.75m 深さ=0.4m	土師器小皿C・皿C・杯・ミニチュア羽釜・器台・鍋、陶器山茶碗、青磁碗	Ⅲ期	

第6表 中世墓一覽

遺構名	位置	平面形	型	規 模	出 土 遺 物	時 期	備 考
SX138	K 65・66	方 形	B	上部=一辺1.1m 底部=一辺1m 深さ=0.8m	土師器小皿C・皿C・鍋	Ⅲ期	
SX139	J 66	方 形	B	上部=一辺1.3m 底部=一辺1.15m 深さ=0.75m	—	不明	
SX140	I・J 66	方 形	B	上部=長辺1.95m×短辺1.1m 底部=長辺1.75m×短辺0.9m 深さ=1m	土師器小皿C・皿C・鍋	Ⅲ期	
SK148	M 68	方 形	D	上部=長辺1.35m×短辺1m 底部=長辺1.25m×短辺0.9m 深さ=0.1m	—	不明	土坑とした が中世墓か
SX149	L 68	方 形	B	上部=長辺1.2m×短辺0.95m 底部=長辺0.85m×短辺0.65m 深さ=0.85m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋・盤・ 三足付盤、陶器山茶碗、須恵器甕	Ⅲ期	
SX151	L 68	方 形	D	上部=長辺1.15m×短辺1m 底部=長辺1m×短辺0.9m 深さ=0.35m	土師器小皿・小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・盤・ 三足付盤・鍋、陶器山茶碗、青磁碗、須恵器甕	Ⅲ期	
SX152	M 67	方 形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.85m 底部=長辺0.85m×短辺0.7m 深さ=0.75m	土師器小皿C・皿C・鍋	Ⅲ期	
SE157	N 75	方 形	B	上部=長辺1.3m×短辺1m 底部=長辺0.8m×0.7m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋・三足付盤、瓦 質火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・四耳壺・甕、青磁 碗、石鍋、砥石、鉄釘	Ⅳ期	井戸とした が中世墓か
SX162	N 73・74	方 形	B	底部=長辺0.8m×短辺0.7m 深さ=1.2m	土師器小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器山茶碗・ 片口鉢、青磁碗	Ⅲ期	
SX165	L 68	方 形	B	上部=長辺1.2m×短辺1.05m 底部=長辺0.9m×短辺0.85m 深さ=1m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、瓦器 ミニチュア碗、陶器山茶碗・片口鉢、白磁皿、鉄 釘	Ⅲ期	
SX166	N 67	方 形	D	上部=長辺1.2m×短辺1m 底部=長辺1.1m×短辺0.95m 深さ=0.25m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器甕、鉄釘、銅銭	Ⅳ期	
SX167	M 67	方 形	B	上部=一辺1.35m 底部=一辺1.15m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・甕、青磁 碗、小刀、鉄釘	Ⅲ期	
SX168	L 67・68	方 形	B	底部=長辺1.15m×短辺0.95m 深さ=1.6m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・小皿C・鍋、瓦器ミニチュア羽 釜、陶器入子・山茶碗・甕、青磁碗、小刀	Ⅱ期	
SX170	K・L 65・66	方 形	B	上部=長辺1.4m×短辺1.25m 底部=長辺0.9m×短辺0.8m 深さ=0.95m	土師器小皿C・皿C・羽釜・盤、陶器片口鉢、青 磁皿	Ⅲ期	
SX171	I 81	方 形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.95m 底部=長辺0.95m×短辺0.8m 深さ=0.65m	土師器小皿B <sub>2</sub> ・皿B <sub>2</sub> 、陶器山茶碗	Ⅱ期	
SX175	V 64・65	方 形	D	底部=長辺1m×短辺0.7m 深さ=0.5m	土師器皿C・鍋、陶器片口鉢	Ⅲ期	
SK183	M 87	方 形	D	上部=長辺1.2m×短辺1m 底部=長辺1m×短辺0.75m 深さ=0.2m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢、 砥石	Ⅳ期	
SX188	M 87・88	方 形	D	上部=長辺1.2m×短辺1.1m 底部=一辺0.9m 深さ=0.45m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗、鉄釘、砥 石	Ⅳ期	
SX189	M 82	方 形	D	上部=長辺1.15m×短辺0.75m 底部=長辺1.05m×短辺0.65m 深さ=0.2m	土師器小皿C	Ⅲ期かⅣ期	
SE207	O 75	円 形	C	上部=径1.6m 底部=径1m 深さ=2m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗、青磁碗、 鉄釘	Ⅲ期かⅣ期	井戸とした が中世墓か
SK221	O 68・60	楕円形	D	上部=長軸1.25m×短軸0.9m 底部=長軸1m×短軸0.6m 深さ=0.3m	土師器小皿C・皿C・鍋、槍?	Ⅳ期	土坑とした が中世墓か
SX223	O 67・68	方 形	B	上部=一辺0.9m 底部=一辺0.75m 深さ=0.7m	土師器小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器山茶碗、 青磁碗	Ⅲ期	
SX224	O 67	方 形	B	上部=長辺1.8m×短辺1.5m 底部=長辺1.4m×短辺1m 深さ=1.3m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗	Ⅲ期	
SX225	M・N 74	長方形	A	上部=長辺1.6m×短辺0.45m 底部=長辺1.3m×短辺0.35m 深さ=0.4m	土師器小皿C・皿B <sub>2</sub> ・皿C・鍋、陶器片口鉢、 鉄釘	Ⅲ期	

には小石と灰混じりの砂層が約0.1mの厚さでみられ、その直上から拳大から人頭大の石が多く検出された。出土遺物には土師器小皿C・皿C(655~658)・伊藤分類第1段階a型式の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀(660)、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶椀が出土している。土師器小皿・皿はいずれもB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

S X 225(第51・78図) S X 162のすぐ南東に位置する。長方形の平面形をもつA型と思われるが小規模である。上部では長辺約1.6m、短辺約0.45m、底部では長辺約1.3m、短辺約0.35m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壙内から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>(665)・皿C(662~664)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、12世紀末葉頃の渥美産片口鉢(666)、鉄釘(667)が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

## 5. 土坑

調査区内には土坑として遺構番号を付したものが72基ある。そのうちの70基を出土遺物から中世のものとしたが、少量の土器片が出土しただけの土坑については時期は確定しがたい。

S K 12(第16・78図) S X 15(4号墳)と重複する。平面形は楕円形で、長軸約8m、短軸約5m、検出面からの深さ約1mである。北側が調査区外へのびる。四周の壁の上部が内側へオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>(670)・小皿B<sub>2</sub>(668・669)・皿B<sub>2</sub>(671・674)・伊藤分類第1段階b型式(676)と第2段階b型式(677)の鍋・鍋蓋のつまみか椀の高台(675)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)と思われる山皿(678)・山茶椀(682)・片口鉢(683)、渥美編年で12世紀後葉から末葉とされる山茶椀(680・681)、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(679)、竜泉窯系青磁椀、古墳時代の須恵器甕がある。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 22(第16・78図) S D 8東端の土坑群の中の1つである。平面形は楕円形で、長軸約1.2m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約0.6mである。土師器小皿C(684・685)と皿C(686~688)が出土した。いずれも完形あるいはほぼ完形で、形態の特徴はB<sub>2</sub>に近い。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 26(第23・78図) S B 24の東約3mに位置する。長軸約1.4m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.3mの楕円形に近い平面形をもつ土坑で、底部は船底状になっている。土坑内からは完形あるいは完形に近い土師器小皿B<sub>2</sub>(689)・皿B<sub>2</sub>(690・691)・皿C(692)の他、土師器小皿C・鍋、山茶椀、片口鉢の小片が出土した。Ⅱ期の土坑である。

S K 29(第23・78図) S K 26の北北西約12mに位置する。平面形はやや形の崩れた一辺約2mの方形で、検出面からの深さは約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C、皿C(693)・羽釜・鍋(694)がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 30(第23・78図) S K 29の南端に重複する。平面形は円形で、径約1m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は全て小片で、土師器皿・鍋、渥美産の山皿・山茶椀(695)、知多産と思われる山茶椀がある。Ⅰ期かⅡ期の土坑であろう。

S K 31(第23・78図) S K 29の西端に重複する。平面形は円形で、径約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿C(696)・皿B<sub>2</sub>(697)・皿C・陶器壺がある。Ⅱ期かⅢ期の土坑と思われる。

S K 45(第53・63・78図) 調査区の西端近くに位置する。平面形は方形で、長辺約3.6m、短辺約2.5m、検出面からの深さ約1.8mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>(698~700)・皿A(702)・皿B<sub>1</sub>(701)・鍋(703~705)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀初頭とされる山皿(706・9)・山茶椀(707)、渥美産と知多産の片口鉢、竜泉窯系青磁椀、古墳時代の葉臘石製紡錘車(44)がある。土師器鍋は伊藤分類第1段階a型式のものがほとんどである。Ⅰ期の土坑と思われる。

S K 48(第11・79図) S X 95(15号墳)の周溝と重複する円形の平面形をもつ土坑で、径約1.6m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>(708)・皿B<sub>1</sub>(709~711)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(712)・渥美編年で12世紀末葉か13世紀前葉とされる山皿(713)・山茶椀(714)、渥美産の壺、土製支脚(715)がある。Ⅰ期の土坑と思われる。

S K 65(第13・79図) S X 61(11号墳)の墳域



内に位置する土坑である。平面形は長軸約1.7m、短軸約1.2mの不定形で、検出面からの深さは約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub> (716・717)、知多編年第4型式 (12世紀末葉～13世紀前葉) の山皿 (718) がある。I期の土坑と思われる。

S K 66 (第13・79図) S K 65の南に隣接する土坑である。平面形は東西に長い楕円形で、長軸約2.6m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub> (719)・皿B<sub>1</sub> (720) がある。I期の土坑と思われる。

S K 69 (第13・79図) S K 65・S K 66と重複する平面形が楕円形の土坑で、長軸約1.4m、短軸約1m、検出面からの深さ約0.6mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>・皿B<sub>1</sub> (721) がある。I期の土坑と思われる。

S K 80 (第13図) S X 78のすぐ南に位置する土坑である。平面形は長軸約2m、短軸約1.3mの不定形で、検出面からの深さは約0.2mである。出土遺物は土師器小皿C・皿C・鍋の細片のみである。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K 81 (第53・79図) S X 78の東約7.5mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約3.3m、短辺約2m、底部では長辺約3m、短辺約1.7m、検出面からの深さ約0.2mである。底面には人頭大の結晶片岩が散乱した状態でみられた。出土遺物には土師器小皿C (722～724)・皿B<sub>2</sub>・皿C (725・726)、伊藤分類第1段階a型式 (727)、第2段階a型式 (728)・第2段階c型式の土師器鍋、知多産の山茶碗・片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 83 (第53・79図) S K 81の東南東約8mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.5m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.35mである。D型の中世墓としたほうがよいかもしれない。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub> (729～730)・皿B<sub>2</sub> (731) がある。Ⅱ期の遺構と思われる。

S K 84 (第53・79図) S K 83の南約10mに位置する楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約1.7m、短軸約1.3m、検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>・皿B<sub>1</sub> (732)、渥美産の壺がある。I期の土坑と思われる。

S K 86 (第53・79図) S K 84の北東約24mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1m、短軸約0.7m、検出面からの深さは約0.15mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub> (733)・皿C (734)・鍋、知多産の片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 89 (第53・79図) S K 86の南約8mに位置する楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約1.5mである。底面には集石がみられた。出土遺物には土師器小皿C・皿C (735)・鍋、渥美産の山茶碗、知多産の甕がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 99 (第47図) S X 67と重複する。平面形はほぼ楕円形で、長軸約2.1m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約0.3mである。四周の壁の上部が内側へオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物はない。切り合い関係からS X 67 (Ⅱ期) より新しいことがわかる。

S K 101 (第57・79図) S X 40の南東約8mに位置する溝状の土坑で、南側が調査区内へのびる。長さは4m以上、幅は約1.7m、検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C (736)・皿C (737) がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K 102 (第57図) S K 101のすぐ南東に位置する。南西側は調査区外へのびるが平面形は円形と思われる。径約1.8m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は細片ばかりで、土師器小皿C・皿C・鍋がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K 103 (第50・79・80図) S X 40と重複する土坑で、南西側は調査区外へのびる。平面形は不定形で、長さ約3.5m以上、幅約2m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物は多く、土師器小皿C (738～742)・皿B<sub>2</sub>・皿C (743～758)・盤 (768)・三足付盤・羽釜 (767)・伊藤分類第1段階b型式 (761～766) と第2段階a型式 (759・760) に相当する鍋、知多編年第4型式 (12世紀末葉～13世紀初頭) の山茶碗 (769)、渥美編年で12世紀代とされる三筋文系壺 (772) と13世紀前葉とされる山茶碗 (770)・片口鉢 (771)、13世紀後葉から14世紀初頭とされる竜泉窯系青磁碗 (773)、鉄釘がある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では小皿C=13点 (平均口径7.6cm、器高

1.1cm)、皿では皿B<sub>2</sub> = 1点、皿C = 26点（平均口径11.6cm、器高2.6cm）の計27点である。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 104（第54・80図） S K 103の東約5mに位置する。C型の中世墓とすべき円形の平面形をもつ深い土坑で、上部では径約1.1m、底部では径約1m、検出面からの深さ約1.5mである。出土遺物には土師器小皿A（774）・小皿B<sub>2</sub>（775）・小皿C（776・777）・台付小皿（778）・皿C（779～782）・三足付盤（786）・羽釜（784・785）・伊藤分類第1段階b型式の鍋（783）、知多編年第4型式（12世紀末葉～13世紀初頭）の片口鉢、知多編年第6型式（13世紀後葉）の山茶椀（787）、竜泉窯系青磁椀（788）、景德鎮産の牡丹文平形白磁合子、細粒砂岩製四葉硯（789）がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 105（第57・81図） S K 101のすぐ東に位置する。平面形は円形で、径約2.5m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C（790～792）、知多産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 107（第52図） S K 104の北東約2.5mに位置する。楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約1.3m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器皿B<sub>2</sub>の小片と鉄釘1本のみである。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 108（第58図） 調査区の南東端近くに位置する溝状の土坑で、南西側が調査区外へのびる。長さ2.5m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は土師器小皿C・皿Cの細片のみである。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K 111（第58・81図） S K 108の北約4mに位置する溝状の土坑で、南側が調査区外へのびる。長さ3m以上、幅約1.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C（793・794）・鍋がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K 114（第35・81図） S B 131と重複する。平面形は円形で、径約2m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物は小片ばかりで、土師器小皿C・皿C（795）・伊藤分類第1段階a型式（796）と第2段階c型式（797）の鍋、知多編年第5型式から第6型式（13世紀前葉～後葉）の山皿（798）・山茶

椀・片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 115（第57・81図） S K 114の西約7.5mに位置する。平面形はややいびつな楕円形で、長軸約1.6m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C（799）・伊藤分類第1段階a型式の鍋（800）、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶椀（801）、渥美産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 122（第57・81図） S K 115の西南西約11mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約2.8m、短軸約2.3m、検出面からの深さ約0.8mである。底部には約0.2mの厚さで地山崩壊土が堆積しており、その上は単純な黒ボク層である。四周の壁の上部が内側に大きくオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>（802）・小皿C（803・804）・皿C（805）・伊藤分類第1段階b型式（806）と第2段階b型式（807）の鍋、知多編年第5型式と第6型式（12世紀末葉～13世紀前葉）の山茶椀（808・809）、瀬戸産卸皿、竜泉窯系青磁椀、福建省産白磁椀、鉄釘、古墳時代の甕がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 123（第57・81図） S K 122の北約5mに位置する。平面形はいびつな円形で、径約1.7m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C（810）・皿B<sub>2</sub>（811・812）・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の山茶椀・13世紀後葉から14世紀初頭とされる竜泉窯系青磁椀（813）、土製支脚、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 124（第57図） S K 123のすぐ北に位置する。平面形は円形で、径約1.6m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿C・盤・鍋、知多産の甕、竜泉窯系青磁椀がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K 129（57頁） 掘立柱建物S B 128に伴う土坑である。

S K 130（第54・81図） S K 129のすぐ南西に位置する。平面形はやや細長い不定形で、長軸約2.9m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.35mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>（814・815）・皿B<sub>2</sub>（816）・皿C・盤（818）・器台柱状部・伊藤分類第1段階a型式（817）と第1段階b型式の鍋、

渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(819)・山茶椀、知多編年第5型式(13世紀前葉)と第6型式(13世紀後葉)の山茶椀(820・821)、竜泉窯系青磁椀があるⅡ期の土坑と思われる。

S K 135(第57・81図) S E 57の南約3mに位置する。平面形は細長い楕円形で、長軸約2m、短軸約0.8m、深さ約0.3mである。出土遺物は土師器皿の細片と伊藤分類第1段階a型式の鍋(822)のみである。Ⅰ期かⅡ期の土坑と思われる。

S K 144(第55・81・82図) S E 134の南東約2mに位置する長軸約1m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.5mの土坑から遺物が集中して出土した。出土遺物は土師器小皿C(823~828)・皿C(829~836)・伊藤分類第1段階b型式と思われる鍋(837)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿(838)・山茶椀(839~841)・片口鉢(843)・知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の片口鉢(842)・壺・軒丸瓦(844)、竜泉窯系青磁椀がある。これらの遺物の中にはS K 144とS K 161との間にある土坑状の窪みから出土したのも多数混入してしまった。

S K 146(第52・82図) S E 134の北約6mに位置する。平面形は方形で、一辺約1.7m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>(845)・小皿C・皿B<sub>2</sub>(846)・皿C(847)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式(848)の鍋がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 147(第52・82図) S E 146のすぐ東に位置する。平面形はややいびつな方形で、長辺約2m、短辺約1.6mである。底部は2段になっており、検出面からの深さは約0.35mと約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C(849)・皿C(850)・鍋、知多産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 148(第54図) S E 146の南西約3.5mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.35m、短辺約1m、底部では長辺約1.25m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.1mである。埋土には炭が多く認められた。D型の中世墓である可能性も考えられる。出土遺物はない。

S K 150(第50・82図) S X 151のすぐ南東に位置する。平面形は円形で、径約0.8m、検出面から

の深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C(851・852)・皿C(853)・盤・ミニチュア器台柱状部・伊藤分類1段階b型式の鍋(854)、渥美産の壺、知多産の甕、瀬戸産の灰釉平椀、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

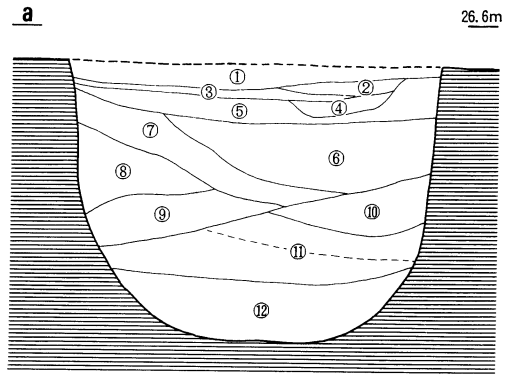
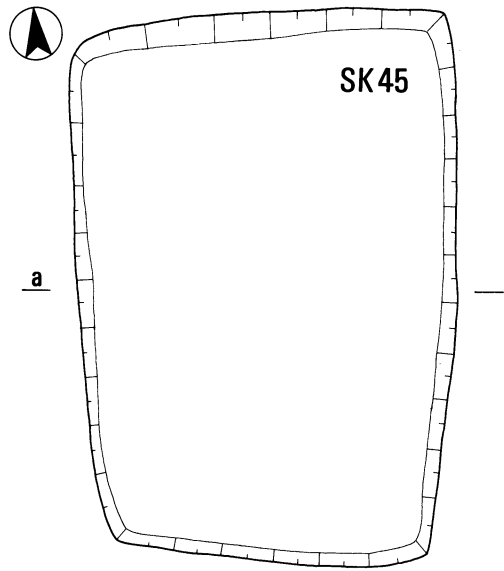
S K 153(64頁) 掘立柱建物S B 159に伴う土坑である。

S K 154(第38・82図) S K 153の北東約2.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.1m、短軸約0.95m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>(855)・小皿C・皿B<sub>2</sub>・伊藤分類第1段階b型式の鍋(856)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶椀(857・858)が出土している。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 155A・S K 155B(第55・82図) S K 153の東側に位置する。検出当初は1つの遺構と思われたが、土層断面を観察した結果、2つの土坑が重複していたことが判明した。S K 155Aは平面形がややいびつな円形で、径約2.1m、検出面からの深さ約0.75mである。S K 155B平面形が楕円形で、長軸約2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約0.5mである。切り合い関係ではS K 155BよりS K 155Aの方が古いことがわかる。遺物はほとんどがS K 155A出土のものであるが、厳密な分離は不可能である。出土遺物には土師器小皿C(859~862)・皿C(863~868)・盤(871)・ミニチュア鍋・伊藤分類第1段階a型式の鍋(869・870)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶椀(873)、知多産の甕、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。土師器小皿・皿はB<sub>2</sub>に近い。ともにⅢ期の土坑と思われる。

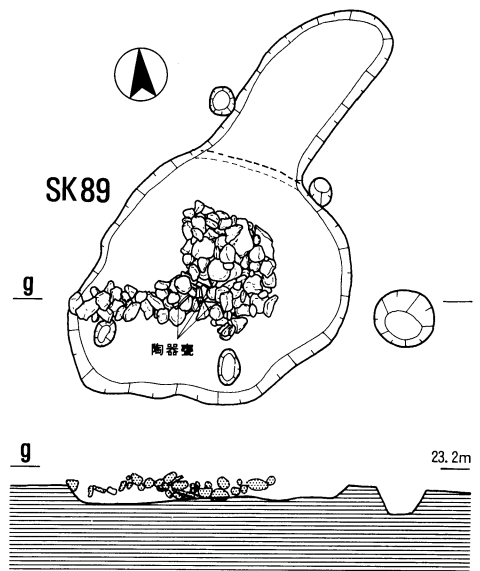
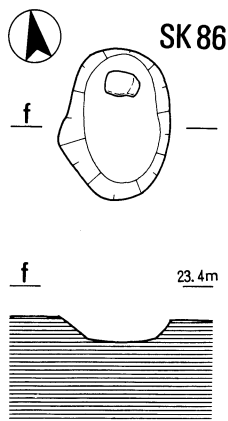
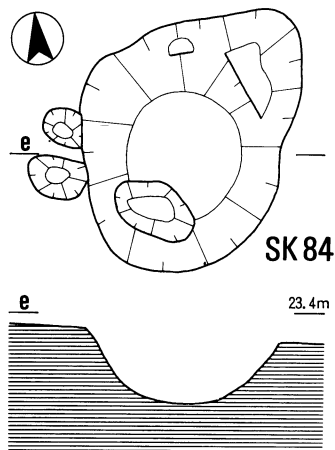
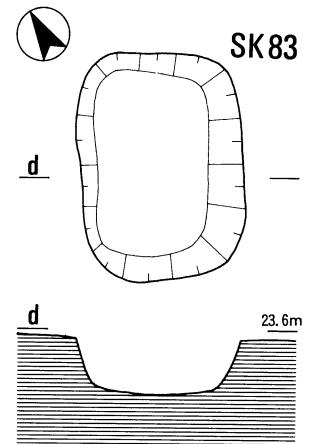
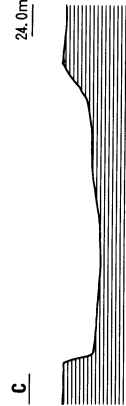
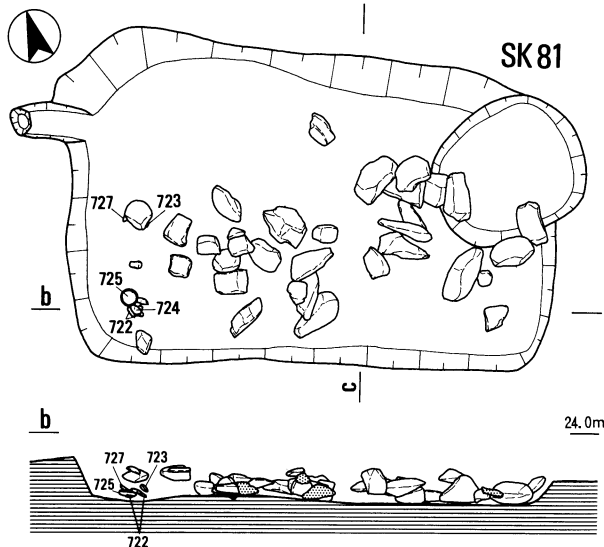
S K 156(第55・82図) S K 155Bのすぐ南東に位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.6m、短軸約1.1m、底部は2段になっており検出面からの深さ0.5mと0.6mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>・小皿C(874)・皿B<sub>2</sub>・皿C(875)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿(876)、知多産の山茶椀・甕がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 161(第55・82図) S K 153の西側に接する。平面形はややいびつな円形で、径約1.6m、検出面からの深さ0.4mである。出土遺物には土師器小皿

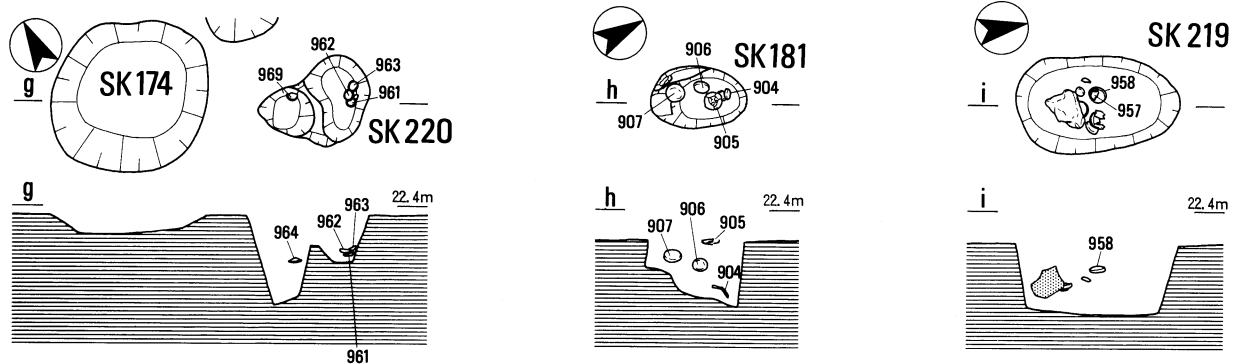
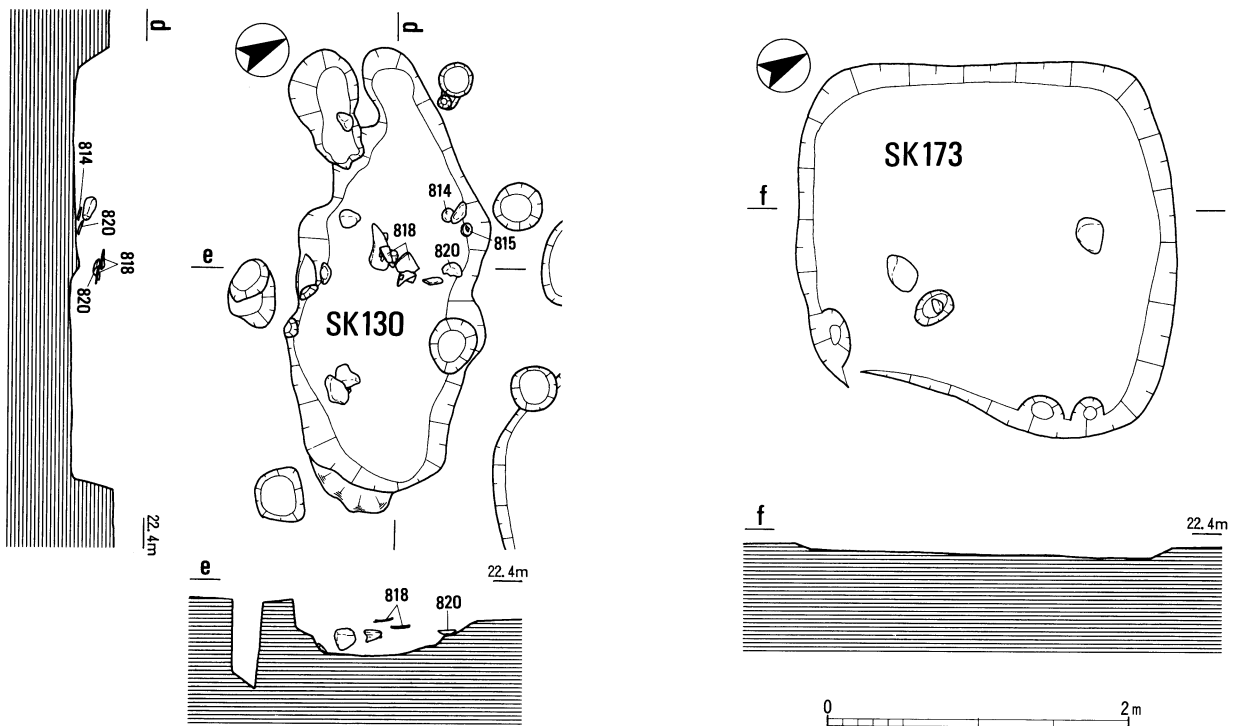
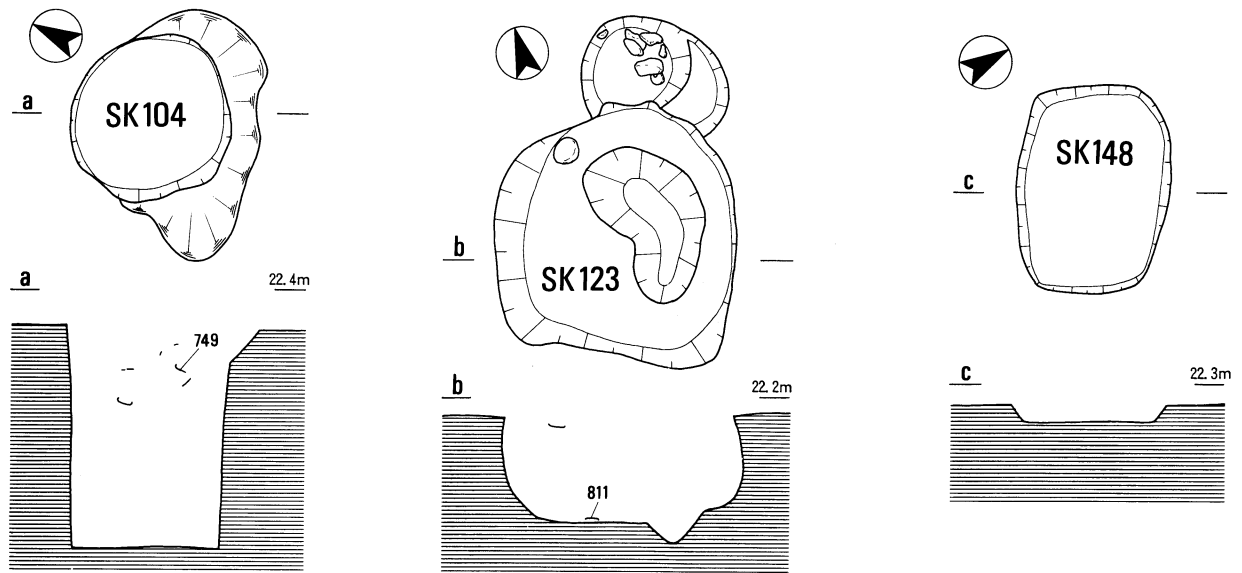


SK45埋土

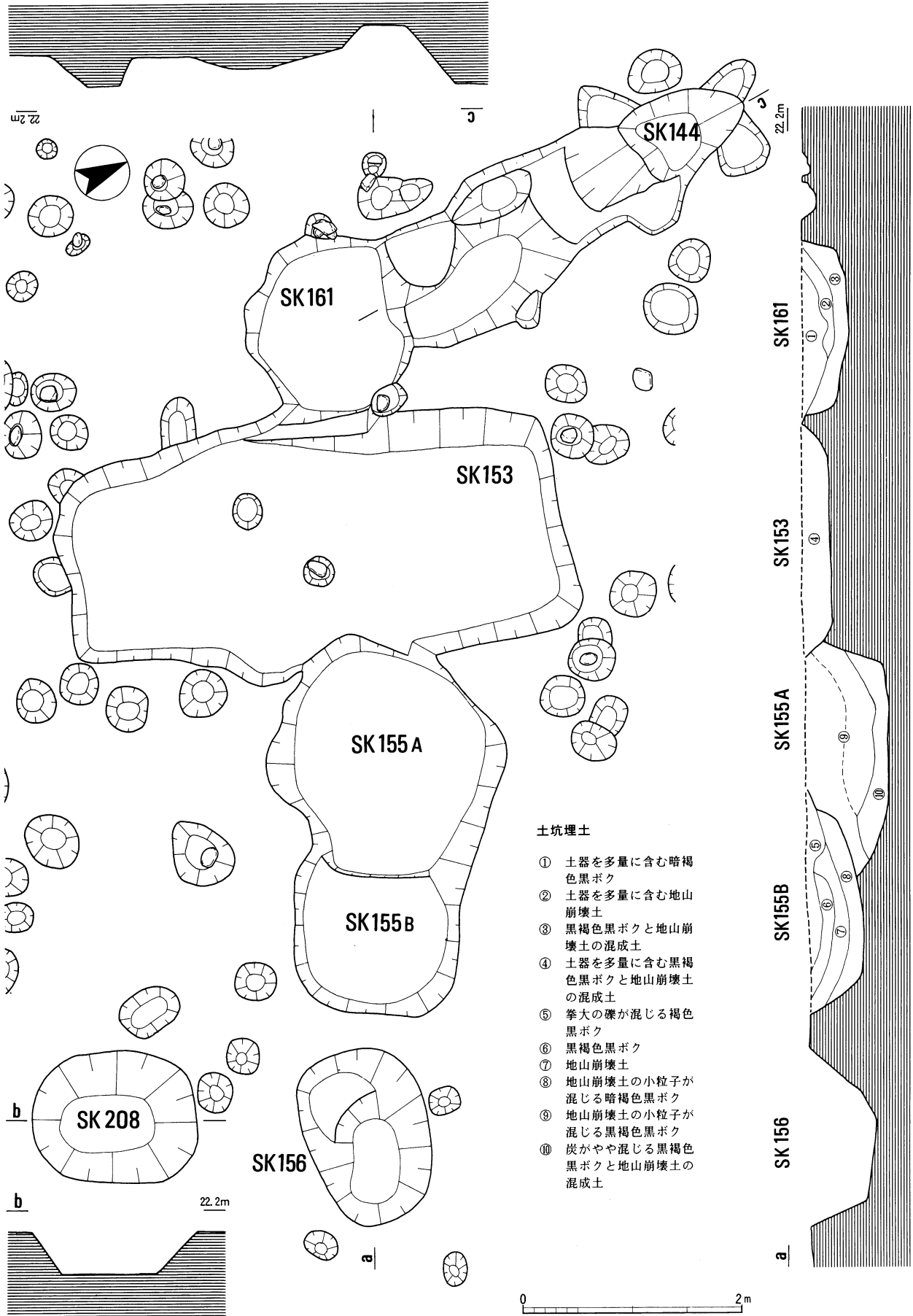
- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| ① 粗砂が混じる暗褐色黒ボク   | ⑦ 暗褐色黒ボクと地山崩壊土の混成土  |
| ② 粗砂が混じる黒褐色黒ボク   | ⑧ 泥状の暗褐色黒ボク         |
| ③ ②と地山崩壊土の混成土    | ⑨ 粗砂が多く混じる地山崩壊土     |
| ④ 粗砂が多く混じる褐色黒ボク  | ⑩ 泥状の黒褐色黒ボク         |
| ⑤ 土器を多量に含む暗褐色黒ボク | ⑪ 粗砂が多く混じる泥状の地山崩壊土  |
| ⑥ 地山崩壊土          | ⑫ 粗砂が多く混じる泥状の黒褐色黒ボク |



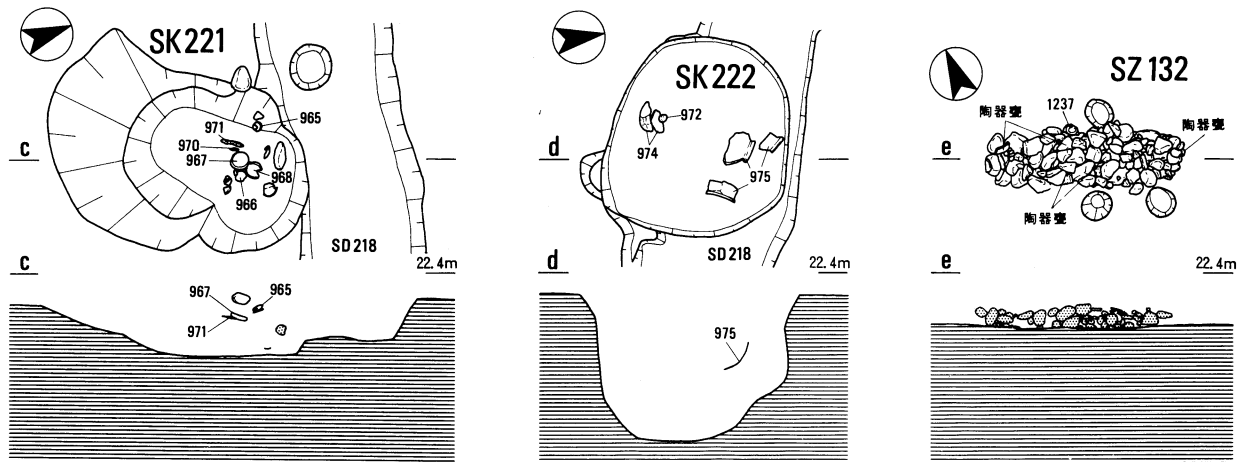
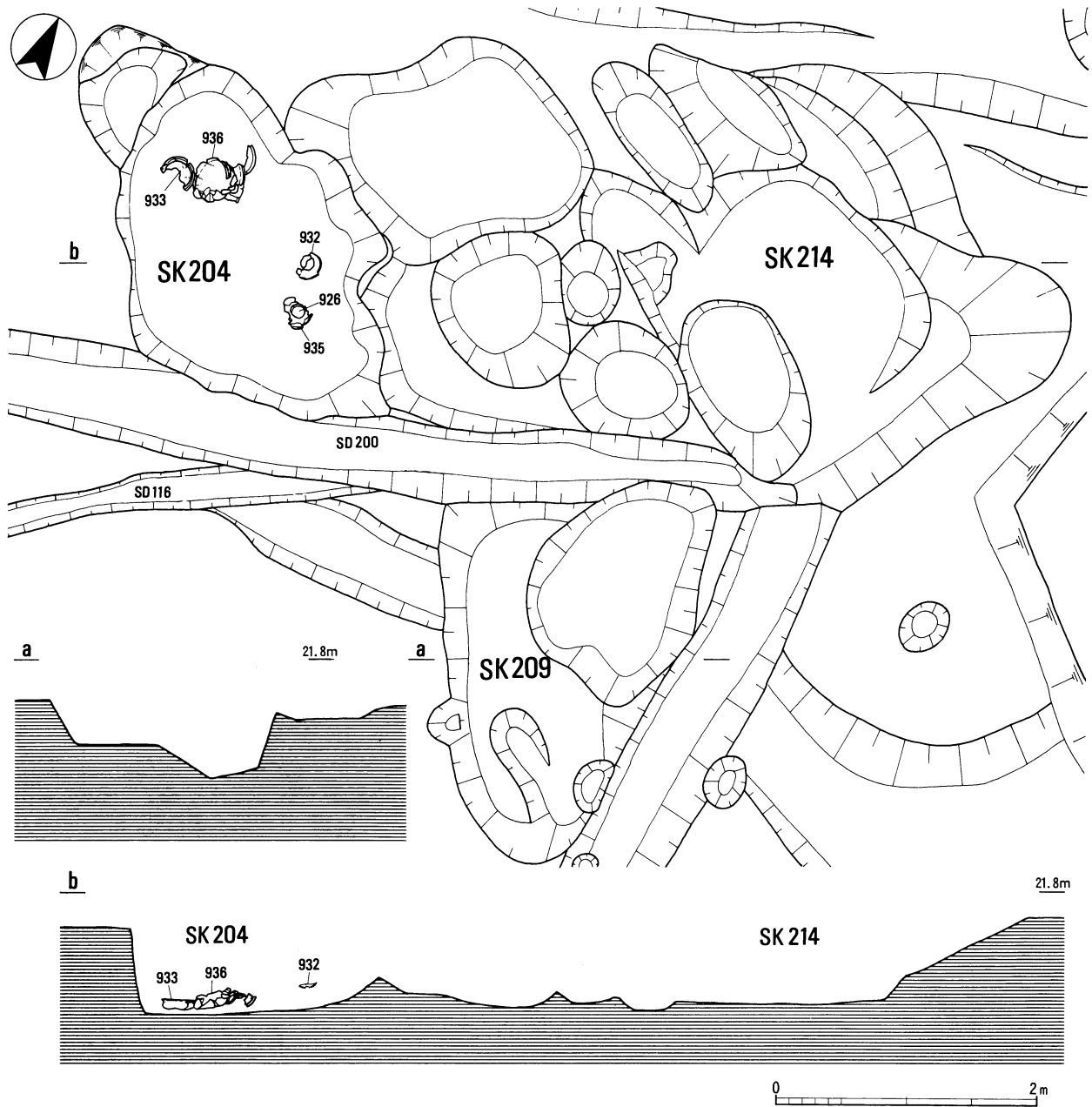
第53図 SK45・81・83・84・86・89実測図 (1:50)



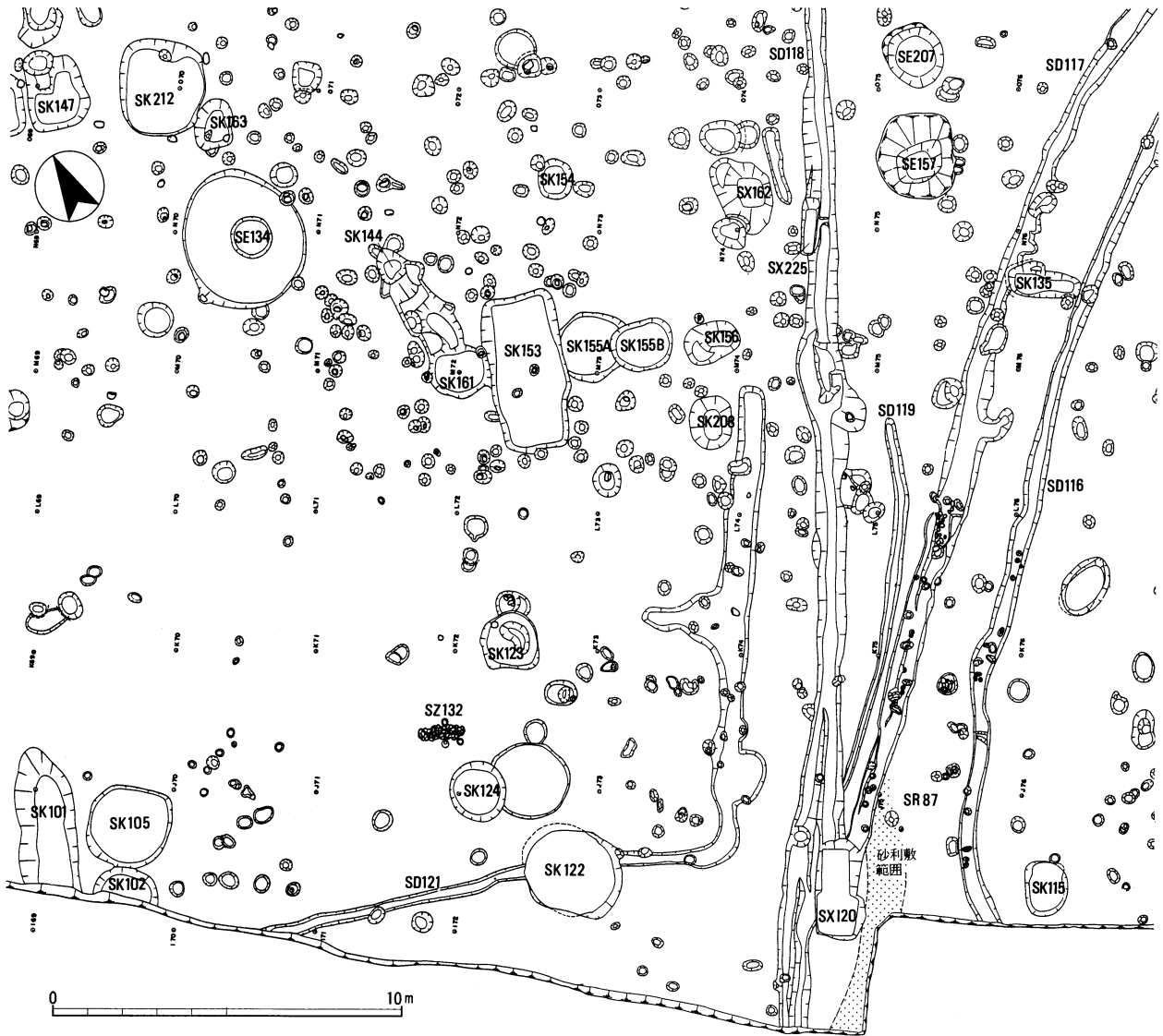
第54图 SK104 · 123 · 130 · 148 · 173 · 174 · 181 · 219 · 220实测图 (1 : 50)



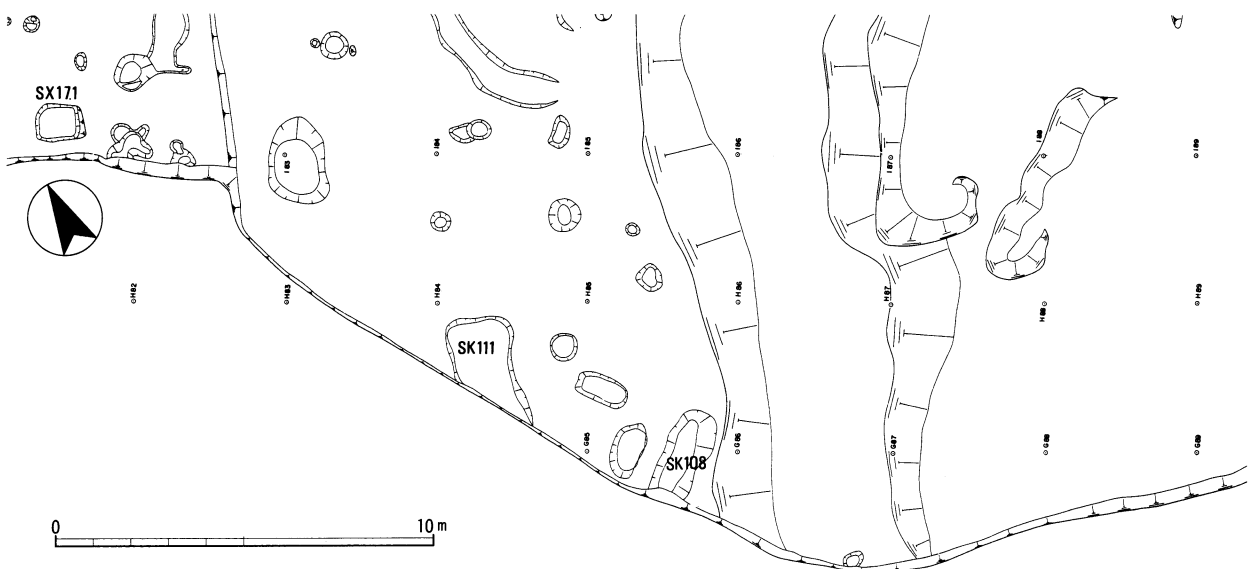
第55図 S K144・153・155A・155B・156・161・208実測図 (1:50)



第56図 S K 204・209・214・221・222, S Z 132実測図 (1 : 50)



第57図 S K153周围 土坑配置図 (1 : 200)



第58図 S K108・111実測図 (1 : 200)



B<sub>2</sub> (880)・小皿C (877~879)・皿C (881~884)・盤・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (886)、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山茶椀 (885)、知多産の片口鉢・甕・壺などがある。881には内外面に墨書が認められるが判読できない。土師器小皿・皿で口径が1/3以上残存しているものは小皿では小皿B<sub>2</sub>=2点、小皿C=40点 (平均口径7.5cm、器高1.0cm) の計42点、皿では皿C=29点 (平均口径11.5cm、器高2.5cm) である。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 163 (第40図) S E 134のすぐ北に位置する。楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸1.4m、短軸約1m、検出面からの深さ0.3mである。出土遺物はすべて小片で、土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋・知多編年第5型式 (13世紀前葉) と思われる山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 169 (第52図) S X 167の北約2.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸1.3m、短軸約0.7m、底部は2段になっており、検出面からの深さ0.25mと約0.65mである。2つのピットが重複しているとも考えられる。遺物は土師器皿の細片が少量出土したのみで、遺構の時期は不明である。

S K 173 (第54・83図) S E 172の北約5mに位置する。平面形は方形で、一辺約2.5m、深さ0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C (887・888)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多編年第5型式 (13世紀前葉) か第6型式 (13世紀後葉) の片口鉢 (890)、知多産の山茶椀・壺、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 174 (第54・83図) S K 173の西約4.5mに位置する。平面形は円形に近い隅丸方形で、一辺約1m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>・小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C・鍋、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の片口鉢 (891) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 176 (第18図) S K 129の北約4mに位置する。方形の平面形をもつ土坑と思われるが、北側が確認できなかった。長辺2m以上、短辺約1.5m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産と渥美産の山茶椀がある。Ⅲ期の

土坑と思われる。

S K 177 (第30・83図) S K 176のすぐ西に位置する。平面形は方形で、長辺約2.4m、短辺約1.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C (892・893)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 178 (第30・83図) S K 177の西約1.5mに位置する。平面形は不定形で、長軸約2.8m、短軸約2m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿C (894・895)・皿C (897~899)・杯 (896)・伊藤分類第1段階b型式 (900) と第2段階a型式の鍋 (901)、知多編年第5型式 (第13世紀前葉) の片口鉢 (903) と第6型式の山茶椀 (902) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 181 (第54・83図) S K 129の南約2mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約6.5m、短軸約0.4m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C (904)・皿B<sub>2</sub> (907)・皿C (905~906) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 183 (第51・83図) S X 188のすぐ北に位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.2m、短辺約1m、底部では長辺約1m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.2mである。D型の中世墓とも考えられる。出土遺物には土師器小皿C (908)・皿C (9097・910)・伊藤分類第3段階の鍋、渥美産の山茶椀、知多産片口鉢、砥石 (911) がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 185 (第19図) 調査区の東端、S K 183の東約5.5mに位置する。平面形は方形と思われるが南東側が調査区外へのびる。長辺2.5m以上、短辺約2m、深さ約0.3mである。遺物には土師器甕の細片と中世あるいは近世の陶器小皿の小片が出土したのみである。遺構の時期は中世とは断定できない。

S K 187 (36頁) 古墳時代の土坑とした。

S K 190 (第32・83図) S K 129の南端と重複する。平面形は方形で、上部では長辺約0.75m、短辺約0.65m、底部では長辺約0.55m、短辺約0.45m、検出面からの深さ約0.35mである。土坑埋土には炭が含まれていた。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub> (912・913)・皿B<sub>2</sub> (914)・伊藤分類第1段階b型式の鍋

遺構名	位置		平面形	規模		時期	実測図			備考
				上面	深さ		1/50	1/100	1/200	
SK 1 2	V・W	73~75	楕円形	長軸8m×短軸5m	1m	Ⅱ期			第16図	
SK 2 2	V	79	楕円形	長軸1.2m×短軸0.8m	0.6m	Ⅲ期			第16図	
SK 2 6	T	72	楕円形	長軸1.4m×短軸0.7m	0.3m	Ⅱ期		第23図		
SK 2 9	V	69	方形	一辺2m	0.1m	Ⅳ期		第23図		
SK 3 0	V	69	円形	径1m	0.4m	Ⅰ期かⅡ期		第23図		
SK 3 1	V	69	円形	径0.8m	0.2m	Ⅱ期かⅢ期		第23図		
SK 4 5	T・U	22・23	方形	長辺3.6×短辺2.5m	1.8m	Ⅰ期	第53図			
SK 4 8	V	36	円形	径1.6m	0.2m	Ⅰ期			第11図	
SK 6 5	S	44・45	不定形	長軸1.7m×短軸1.2m	0.1m	Ⅰ期			第13図	
SK 6 6	S	45	楕円形	長軸2.6m×短軸0.9m	0.2m	Ⅰ期			第13図	
SK 6 9	S	44・45	楕円形	長軸1.4m×短軸1m	0.6m	Ⅰ期			第13図	
SK 8 0	P	47・48	不定形	長軸2m×短軸1.3m	0.2m	Ⅲ期かⅣ期			第13図	
SK 8 1	Q・R	48・49	方形	長辺3.3m×短辺2m	0.2m	Ⅲ期	第53図		第13図	
SK 8 3	R	52	方形	長辺1.5m×短辺1.1m	0.35m	Ⅱ期	第53図			中世墓か
SK 8 4	P	54	楕円形	長軸1.7m×短軸1.3m	0.5m	Ⅰ期	第53図			
SK 8 6	V	55	楕円形	長軸1m×短軸0.7m	0.15m	Ⅲ期	第53図			
SK 8 9	T	57	楕円形	長軸2m×短軸1.5m	1.5m	Ⅲ期	第53図		第15図	
SK 9 9	R・S	48	楕円形	長軸2.1m×短軸1.5m	0.3m	Ⅱ期以降	第47図		第13図	
SK 1 0 1	I・J	68・69	溝状	長さ4m以上×幅1.7m	0.5m	Ⅲ期かⅣ期			第57図	
SK 1 0 2	I	69	円形	径1.8m	0.4m	Ⅲ期かⅣ期			第57図	
SK 1 0 3	I・J	66・67	不定形	長さ3.5m以上×幅2m	0.7m	Ⅲ期	第50図	第52図		
SK 1 0 4	K	68	円形	径1.1m	1.5m	Ⅲ期	第54図	第52図		中世墓か
SK 1 0 5	I	69	円形	径2.5m	0.4m	Ⅲ期			第57図	
SK 1 0 7	K・L	68	楕円形	長軸1.3m×短軸1.1m	0.1m	Ⅱ期		第52図		
SK 1 0 8	F・G	85	溝状	長さ2.5m以上×幅1m	0.4m	Ⅲ期かⅣ期			第58図	
SK 1 1 1	G	84	溝状	長さ3m以上×幅1.6m	0.1m	Ⅲ期かⅣ期			第58図	
SK 1 1 4	I・J	78	円形	径2m	0.3m	Ⅲ期		第35図		
SK 1 1 5	I	76	楕円形	長軸1.6m×短軸1.2m	0.5m	Ⅲ期			第57図	
SK 1 2 2	I	72・73	楕円形	長軸2.8m×短軸2.3m	0.8m	Ⅲ期			第57図	
SK 1 2 3	J・K	72	円形	径1.7m	0.7m	Ⅲ期	第54図		第57図	
SK 1 2 4	I・J	71・72	円形	径1.6m	0.4m	Ⅲ期かⅣ期			第57図	
SK 1 2 9	M・N	80・81	方形	長辺3.4×短辺1.8m	0.2m	Ⅰ期	第32図	第31図	第18図	S B 128に伴う
SK 1 3 0	M	80・81	不定形	長軸2.9m×短軸1.2m	0.35m	Ⅱ期	第54図	第37図	第18図	
SK 1 3 5	M	75・76	楕円形	長軸2m×短軸0.8m	0.3m	Ⅰ期かⅡ期			第57図	
SK 1 4 4	M	71	不定形	長軸1m×短軸0.7m	0.5m	Ⅲ期?	第55図	第38図	第57図	
SK 1 4 6	N・O	68	方形	一辺1.7m	0.4m	Ⅲ期		第52図	第17図	

第7図 土坑一覧

遺構名	位置		平面形	規模		時期	実測図			備考
				上面	深さ		1/50	1/100	1/200	
SK147	N・O	68・69	方形	長辺2m×短辺1.6m	0.5m	Ⅲ期		第52図	第57図	
SK148	M	68	方形	長辺1.35m×短辺1m	0.1m	不明	第54図	第52図		中世墓か
SK150	L	68	円形	径0.8m	0.4m	Ⅳ期	第50図	第52図		
SK153	L・M	72	方形	長辺4.5m×短辺2.2m	0.3m	Ⅲ期	第55図	第38図	第57図	S B158に伴う
SK154	N	72	楕円形	長軸1.1m×短軸0.95m	0.25m	Ⅱ期		第38図		
SK155A	L・M	72・73	円形	径2.2m	0.75m	Ⅲ期	第55図			
SK155B	M	73	楕円形	長軸2m×短軸1.5m	0.5m	Ⅲ期	第55図			
SK156	M	73	楕円形	長軸1.6m×短軸1.1m	0.6m	Ⅲ期	第55図		第57図	
SK161	L・M	71・72	円形	径1.6m	0.4m	Ⅲ期	第55図	第38図	第57図	
SK163	N	70	楕円形	長軸1.4m×短軸1m	0.3m	Ⅲ期		第40図	第57図	
SK169	M・N	66	楕円形	長軸1.3m×短軸0.7m	0.65m	不明		第52図		
SK173	U・V	67	方形	一辺2.5m	0.1m	Ⅲ期	第54図			
SK174	U	65・66	方形	一辺1m	0.1m	Ⅲ期	第54図			
SK176	O	80	方形	長辺2m以上×短辺1.5m	0.2m	Ⅲ期			第18図	
SK177	O	79・80	方形	長辺2.4m×短辺1.6m	0.1m	Ⅲ期		第30図	第18図	
SK178	N・O	78・79	不定形	長軸2.8m×短軸2m	0.25m	Ⅲ期		第30図	第18図	
SK181	L・M	81	楕円形	長軸6.5m×短軸0.4m	0.4m	Ⅲ期	第54図		第18図	
SK183	M	87	方形	長辺1.2m×短辺1m	0.2m	Ⅳ期	第51図		第19図	中世墓か
SK185	N・O	89	方形	長辺2.5m以上×短辺2m	0.3m	不明			第19図	
SK187	Q・R	90	不明	長さ6.8m以上	1m	古墳時代?			第19図	
SK190	M	81	方形	長辺0.75m×短辺0.65m	0.35m	Ⅱ期	第32図	第31図	第18図	
SK195	Q	83・84	円形	径0.9m	0.25m	Ⅲ期			第19図	
SK197	S	84	方形	長辺2.5m×短辺1.8m	0.1m	Ⅲ期		第41図	第19図	
SK198	Q	71・72	溝状	長さ3.3m×幅0.7m	0.1m	古墳時代		第24図	第17図	
SK203	O	79	楕円形	長軸1.8m×短軸1.2m	0.1m	Ⅲ期			第18図	
SK204	T	78	不定形	長軸3m×短軸2m	0.7m	Ⅳ期	第56図			
SK208	L	73	楕円形	長軸1.5m×短軸1.2m	0.4m	Ⅲ期	第55図		第57図	
SK209	T	79	不明	長軸2.7m×短軸1.7m	3.5m	Ⅲ期	第56図			
SK212	N・O	69・70	方形	長辺2.7m×短辺2.4m	1.5m	Ⅱ期かⅢ期			第57図	
SK214	U	79	方形	一辺2m	0.6m	Ⅲ期	第56図		第16図	
SK219	O	69	楕円形	長軸1.1m×短軸0.6m	0.45m	Ⅳ期	第54図	第52図	第17図	
SK220	U	66	円形 円形	径0.4m 径0.3m	0.3m 0.6m	Ⅱ期 Ⅰ期	第54図	第52図	第17図	2つのピットが隣接
SK221	O	68・69	楕円形	長軸1.25m×短軸0.9m	0.3m	Ⅳ期	第56図	第52図	第17図	中世墓か
SK222	O	68	楕円形	長軸1.4m×短軸1.2m	0.95m	Ⅱ期	第56図	第52図	第17図	
SK228	P・Q	66・67	方形	長辺5.3m×短辺4.5m	0.4m	Ⅳ期			第17図	
SK229	Q	68・69	長方形	長辺3.3m×短辺1m	0.2m	不明			第17図	

(915)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶椀(916)、渥美産の山茶椀、土製支脚がある。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 195(第19・83図) S E 194の北東約5mに位置する。平面形はややいびつな円形で、径約0.9m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(917・918)・鍋、渥美産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 197(第41・83図) S K 195の北東約7mに位置する。平面形は方形で、長辺約2.5m、短辺約1.8m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C(919)・伊藤分類第1段階b型式(921)と第2段階b型式(922)の鍋、知多産の山茶椀と片口鉢、鉄釘が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 198(36頁) 古墳時代の土坑とした。

S K 203(第18・83図) S K 178のすぐ北東に位置する。平面形は楕円形に近いものと思われるが、北側が確認できなかった。長軸約1.8m、短軸約1.1m以上、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C(923)・伊藤分類第1段階b型式の鍋・知多産の山茶椀、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 204(第56・83・84図) S K 196(20号墳)の北約7mに位置する。平面形は不定形で、長軸約3m、短軸約2m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C(924・925)・皿B<sub>2</sub>(928)・皿C(926・927)・羽釜(937)、伊藤分類第1段階a型式(930)・第1段階b型式(929)・第3段階b型式(931~936)の土師器鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀(938)、平瓦がある。S K 204付近は遺構の重複が激しく出土遺物にも混入がみられるが、Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 208(第55・84図) S K 153の南東約3.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.5m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>・小皿C・皿B<sub>2</sub>(939)・皿Cがある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 209(第56・84図) S K 204の南東約1mに位置する。他の遺構がかなり重複しているために平面形はよくわからないが、長軸約2.7m、短軸約1.7

m、検出面からの深さ約3.5mとしておく。出土遺物には土師器小皿C(940)・皿C(941)・鍋(942)、渥美産の甕、知多産の山茶椀が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 212(第57・84図) S E 134の北約1.5mに位置する。平面形は方形で、長2.7m、短辺約2.4m、検出面からの深さ約1.5mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>(943・944)・小皿C・皿B<sub>2</sub>(945)・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋(948)・羽釜、景德鎮産の白磁皿である。Ⅱ期かⅢ期の土坑と思われる。

S K 214(第56・84図) S K 204の東約2mに位置する。他の遺構が重複しているために平面形はよくわからないが、一辺約2mの方形と思われる。検出面からの深さは約0.6mである。出土遺物には土師器小皿C(948)・皿B<sub>1</sub>(952)・皿C(949~952)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、渥美編年で12世紀後葉から12世紀末葉とされる山茶椀(953・954)、土錘(955)が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K 219(第54・84図) S K 212の北約1mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.1m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.45mである。出土遺物には土師器小皿C(956・957)・皿(958)・伊藤分類第3段階a型式の鍋、瀬戸編年の古瀬戸後Ⅰ期あるいは後Ⅱ期(14世紀末葉~15世紀初頭)の灰釉平椀がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 220(第54・85図) S K 174のすぐ南東に位置する。検出当初は平面形が楕円形の土坑と思われたが、平面形が円形の2つのピットが隣合っていると考えたほうがよさそうである。東側のピットは径約0.4m、検出面からの深さ約0.3m、出土遺物は土師器小皿B<sub>2</sub>(961~963)、西側のピットは径約0.3m、検出面からの深さ約0.6m、出土遺物は土師器小皿B<sub>1</sub>(964)である。時期は、東側ピットがⅡ期、西側のピットがⅠ期と思われる。

S K 221(第56・81図) S K 174のすぐ北に位置する。平面形はかなり乱れているが楕円形と思われる。上部では長軸約1.25m、短軸約0.9m、底部では長軸約1m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.3mで、埋土には炭が認められた。D型の中世墓とも考えられる。出土遺物には土師器小皿C(965・

966)・皿C (967・968)・伊藤分類第3段階a型式かb型式の鍋、槍と思われる両刃の鉄器(971)、用途不明の鉄製品(970)、鉄釘がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 222 (第56・85図) S K 221の西約2mに位置する。平面形は円形に近い楕円形で、長軸約1.4m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.95mである。出土遺物には土師器小皿C(972)・皿B<sub>2</sub>(973)・鍋(974・975)・知多産の山茶碗がある。974は伊藤分類第1段階b型式の鍋である。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K 228 (第17図) S X 215 (21号墳)の西約4mに位置する。平面形が方形の大きな土坑で、長辺約5.3m、短辺約4.5m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は小片ばかりで、土師器小皿C・皿C・鍋、知多産の山茶碗と片口鉢、瀬戸産の灰釉平碗がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K 229 (第17図) S X 215 (21号墳)の墳域のほぼ中央に位置する。平面形はやや乱れているが隅丸の長方形で、上部では長辺約3.3m、短辺約1m、底部では長辺約2.95m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物は土師器小皿C・皿Cの細片のみである。

## 6. 溝・道路

調査区内には、古墳の周溝を除いて、溝と思われる遺構は40数条みられる。そのうちの33条に遺構番号を付した。また、溝には、2条一組で道路の側溝と考えられるものが計4条含まれている。

S D 1 (第85図) 調査区の北東端に位置する延長8m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mの溝である。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C・鍋(976)、山茶碗、青磁、白磁などがある。Ⅳ期の溝と思われる。

S D 6 (第19・85図) S D 1の北西約23mに位置する。東側は崖によって切れているが、調査区外へのびていたと思われる。延長8m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器皿C・伊藤分類第3段階b型式の鍋(977)のみで、いずれも小片である。Ⅳ期の溝と思われる。

S D 8 (第16・59・85～88図) S D 6の北西約

16mに位置する。平面でみるとL字形になっており、東西方向に約19m、ほぼ直角に曲がって南北方向に12mある。東端と北端は完全に終わっており、それ以上は続かない。幅は2mから3m、検出面からの深さは0.9mから1.3mで、壁面は急傾斜となっている。底面はほぼ平坦であるが東西部分に1か所、南北部分に2か所、0.2m程の段がみられる。かなりの計画性をもった堀ともいべき大きな溝であるが、この溝で囲まれた部分が他の遺構によって大きく攪乱されているため、その性格はよくわからない。溝埋土から土師器小皿A(991・992)・小皿B<sub>1</sub>(990)・小皿B<sub>2</sub>(978～989)・台付小皿(993)・皿B<sub>2</sub>(996～1011)・伊藤分類第1段階と第2段階の鍋(10121024)・羽釜(1025・1026)・器台の柱状部(1028)・器種不明の高台部(1027)、瓦器碗(1029)、知多産の山皿(1030～1034)・山茶碗(1035～1045・1047・1048)・片口鉢(1049・1050)・甕、渥美産の小杯(1052)・山茶碗(1046・1051)・片口(1053)、竜泉窯系青磁皿(1055)・碗(1054)、景德鎮産白磁皿(1056)、土製支脚(1059)、土錘(1062)、刀子(1060・1061)、鉄釘、古墳時代の須恵器杯蓋・甕など多量の遺物が出土した。Ⅱ期の溝と思われる。

S D 10A・S D 10B (第16・88図) S D 8に接している。検出当初は一つの溝と思われたため溝として報告するが、2基の大きな土坑が並んでいると考えたほうがよいと思われる。S D 10Aは延長約6.5m、幅約3m、検出面からの深さ約0.9mで、出土遺物には土師器小皿A(1063)・小皿B<sub>2</sub>(1062)・小皿C・皿B<sub>2</sub>(1065)・皿C(1066～1068)・羽釜(1070・1071)・鍋(1072)、渥美産の山茶碗(1069)・片口鉢、知多産の山茶碗、古墳時代の須恵器片がある。S D 10Bは延長約6m、幅約3.5m、検出面からの深さ約0.9mで、出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>(1073)・皿B<sub>2</sub>(1074・1075)・鍋、渥美産の山皿(1076)・山茶碗、知多産の山茶碗、竜泉窯系青磁碗(1077)、土錘(1078～1080)、鉄釘、古墳時代の須恵器片がある。S D 10AはⅢ期、S D 10BはⅡ期の遺構で、両遺構とも土取り穴と思われる。

S D 11 (第16・88図) S D 8の南側と重複する延長9.5m以上、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.4mの溝である。出土遺物には小皿C・皿C(1081・

1082)・鍋(1084・1085)、渥美産の山茶椀(1083)、知多産の山茶椀と甕が出土している。Ⅳ期の溝と思われる。

**S D 13**(第16・88図) S D 8のすぐ南東に位置する延長6m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.3mの溝である。出土遺物には小皿B<sub>1</sub>・皿B<sub>1</sub>(1086)・鍋(1087)、渥美産の山茶椀、鉄釘がある。Ⅰ期の溝と思われる。

**S D 17**(第59・88図) S D 8の北端と重複している延長10m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には小皿C(1088)・皿C(1089・1090)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(1091)、渥美産の山茶椀(1092)、竜泉窯系青磁椀、丸瓦がある。切り合い関係からS D 8より新しいことがわかる。Ⅳ期の溝と思われる。

**S D 18**(第16・88図) S D 8の西約3mにある。S D 8の南北部分にはほぼ並行して走り、南端近くはS D 8のコーナー部分に沿うように東へ曲がっている。途中で一部途切れているが、この部分は溝の深さの変化をみるかぎり削平によって消滅したのではなく、陸橋を意識していると思われる。幅は約0.6m、検出面からの深さ約0.3m、延長は陸橋の北側部分が7.5m以上、南側部分が約19mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>・小皿B<sub>2</sub>(1093・1094)・皿B<sub>1</sub>・皿B<sub>2</sub>(1095・1096)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(1097)がある。Ⅱ期の溝と思われ、S D 8との強い関係が想定される。

**S D 35A**(第59・88・89図) 調査区の中央付近をほぼ南北に横切る大きな溝で、総延長46m以上、北側では幅約1.5m、検出面からの深さ約0.6m、南側では幅約3.5m、検出面からの深さ約1.6mである。北から南へと水が流れていたと思われる。出土遺物には土師器小皿C(1102・1103)・小皿B<sub>2</sub>(1098～1101)・皿B<sub>1</sub>(1105～1107)・皿B<sub>2</sub>(1104)・皿C(1109～1111)・盤・ミニチュア羽釜(1116)・伊藤分類第1段階a型式の鍋、渥美産の小杯(1117)・山茶椀(1118・1119・1121・1122)・片口鉢(1124)、知多産の山茶椀(1120)・片口鉢(1123)・甕、土製支脚(1125)がある。切り合い関係からS B 97(Ⅲ期)・S B 98(Ⅱ期)より古いことがわかる。Ⅰ期からⅡ期にかけての溝と思われる。

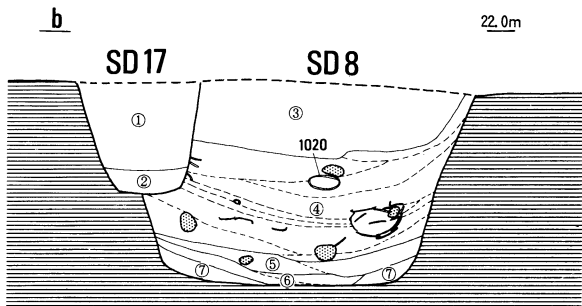
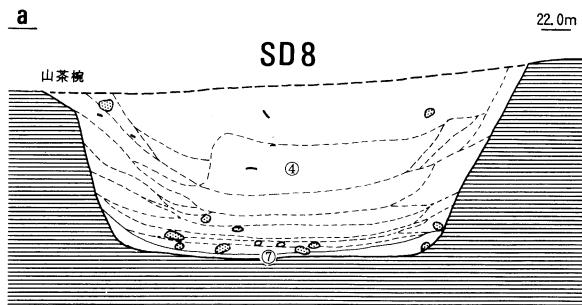
**S D 35B**(第89図) S D 35Aが屈曲する部分から派生する溝で、S D 35Aの流れを直線的に変更するために新たに作られたと思われる。S D 35Aから派生する部分のみをみると、幅1.2～1.5m、検出面からの深さ0.5～1.3m、延長21m以上であるが、S D 35Aと共有する部分を含めると総延長37m以上となる。出土遺物には土師器小皿C(1126)・皿B<sub>2</sub>・皿C(1127～1129)・鍋、渥美産の山茶椀(1131)、竜泉窯系青磁椀(1132)・鉄釘(1133)がある。切り合い関係からS B 76(Ⅱ期)より新しく、S B 85(Ⅲ期)より古いことがわかる。Ⅱ期からⅢ期にかけての溝と思われる。

**S D 36**(第89図) S D 35の中央部分と重複する延長25m以上、幅約3mの溝で、検出面からの深さは北側で約0.5m、南側で約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C(1134)・皿C(1135)・鍋、知多産の甕、古墳時代の須恵器杯身(42・43)がある。Ⅲ期かⅣ期の溝と思われる。

**S D 39**(第59・90図) 調査区の西端近くから東へ流れる溝で、延長43m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.3mである。西側部分は自然流路的な様相をしているが、東側はほぼ一直線に流れ、掘形もかなりしっかりしている。遺物は土師器小皿B<sub>1</sub>(1137～1144)・皿A(1156)・皿B<sub>1</sub>(1145～1155)・鍋、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿・山茶椀(1162～1165)、土製支脚(1166)があり、溝の東端近くから多く出土した。1157は伊藤分類第1段階b型式、1158～1160は第1段階a型式の鍋である。Ⅰ期の溝と思われる。

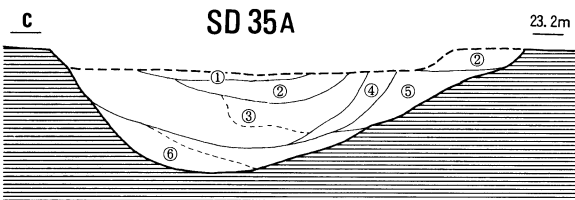
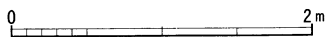
**S D 42**(第90図) 調査区の西端近くに位置する延長13m以上、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.3mの溝である。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>(1167)・小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>1</sub>(1168)・皿B<sub>2</sub>・鍋がある。Ⅰ期かⅡ期の溝と思われる。

**S D 43**(第9・91図) 調査区の西端近くを南西から北東方向へ横切る大きな溝で、自然流路と思われる。延長23m以上、幅6～8m、検出面からの深さ0.4～1.2mである。遺物は土師器小皿B<sub>1</sub>(1170～1179)・皿B<sub>1</sub>(1180～1186)・盤・伊藤分類第1段階a型式の鍋(1197・1198)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿(1187・1190)・



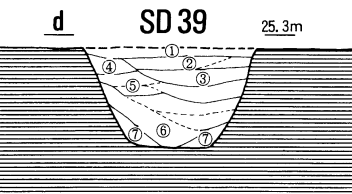
**SD 8・17埋土**

- ① 粗砂が混じる暗褐色黒ボク
- ② 粘質の暗褐色黒ボク
- ③ 地山崩壊土
- ④ 土器を多量に含む暗褐色黒ボク
- ⑤ 拳大の礫層
- ⑥ 細砂層
- ⑦ 暗褐色黒ボクと地山崩壊土の混成土



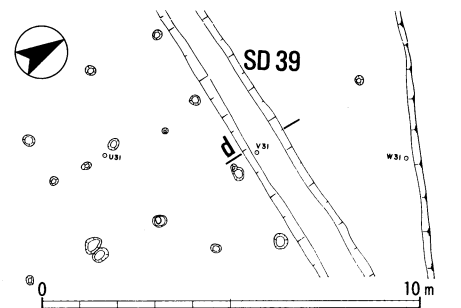
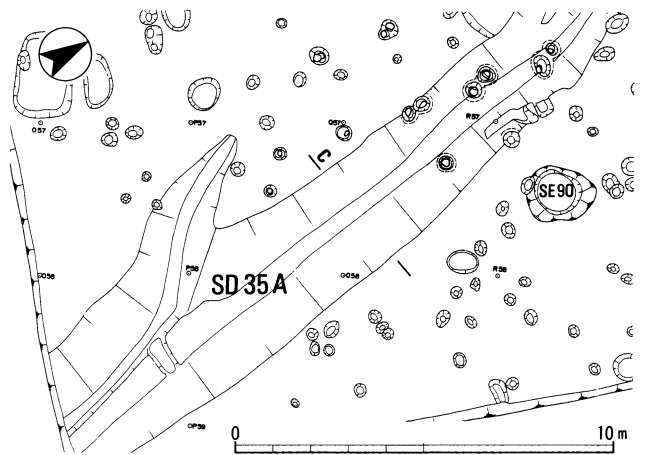
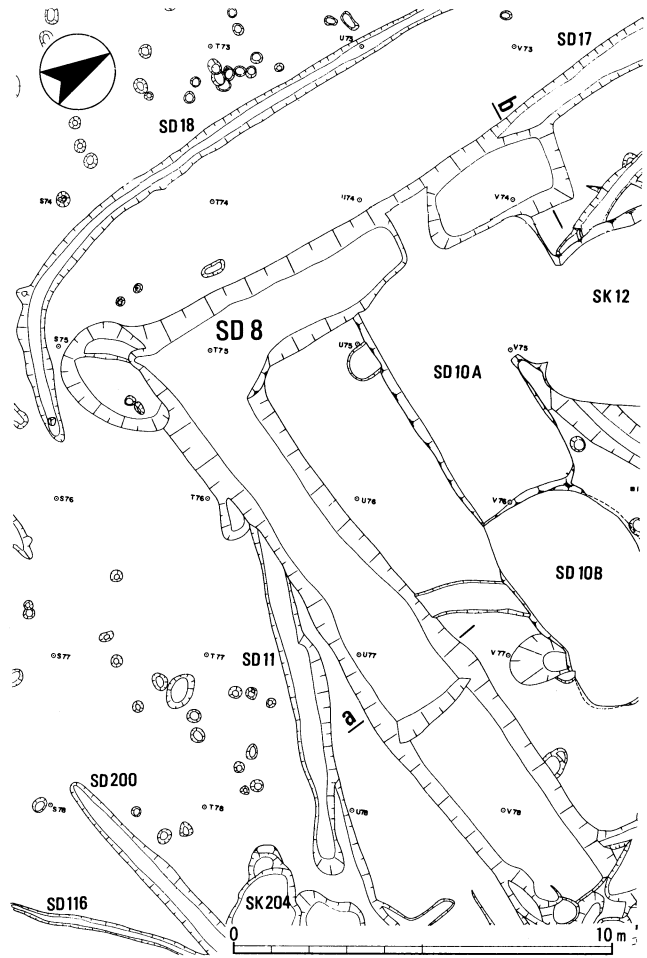
**SD 35A埋土**

- ① 黒褐色黒ボク
- ② 地山崩壊土
- ③ 黒色黒ボク
- ④ 粗砂を含む地山崩壊土
- ⑤ やや粘質の黒褐色黒ボク
- ⑥ やや粘質の地山崩壊土



**SD 39埋土**

- ① 黒色黒ボク
- ② 粗砂を多く含む黒褐色黒ボク
- ③ 黒褐色の粗砂層
- ④ 褐色黒ボク
- ⑤ 褐色の粗砂層
- ⑥ 粗砂を多く含む暗褐色黒ボク
- ⑦ 暗褐色黒ボクと地山崩壊土の混成土



第59図 SD 8・17・35A・39土層断面実測図 (1:50)

※平面図は1:200

山茶碗（1191～1196）、竜泉窯系青磁碗などがあり、溝の東端近くから多く出土した。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿B<sub>1</sub>=70点（平均口径8.4cm、器高1.4cm）、皿B<sub>1</sub>=51点（平均口径14.5cm、器高2.7cm）である。I期の溝と思われる。

SD47（第11・91図） SX49（8号墳）の墳域内に位置する延長5.5m以上、幅約0.3m、深さ約0.1mの小規模な溝である。遺物は伊藤分類第4段階の土師器鍋の小片が出土したのみである。IV期末以降の溝と思われる。

SD50（第11・91図） SD47の西側に位置する溝である。SX53（9号墳）を横切る部分は溝が途切れているようにみえるが、SX53の周溝に沿って若干曲がっていたのを見逃したのかもしれない。延長30m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>（1200）・小皿C・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋がある。III期の溝と思われる。

SD55（第13図） SX61（11号墳）のすぐ南に位置する周溝状の溝である。細長い土坑が2基つながっているとも考えられる。延長10m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.5mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

SD62（第13・91図） SX61（11号墳）の東部分を横切ってほぼ南北に流れる細く浅い溝で、延長約17m、幅約0.5m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>・皿B<sub>2</sub>・皿C・鍋（1202）、渥美産の山茶碗（1203）がある。II期かIII期の溝と思われる。

SD71 SD62の西方に位置する東西に流れる溝で、延長18m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

SD73（第91図） SD43を横切る溝で、自然流路と思われる。延長約36m、幅約1.2m、検出面からの深さ約0.3mで、遺物は土師器皿B<sub>1</sub>（1204）が1点出土したのみである。I期の溝と思われる。

SD116・SD117・SR87（第57・91図） SX120付近から北東方向へ流れる2条の溝とその溝を側溝とする1条の道路である。SD116は東側の側

溝で、延長47m以上、幅0.6m、検出面からの深さ約0.1m、SD117は西側の側溝で、延長36m以上、幅0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。この2条の溝を側溝とするSR87は幅約2mで、調査区を南西から北東方向へ横切っていたと考えられる。SX120付近では数cm程の大きさの砂利が敷かれているのが確認できた。遺物はSD116から土師器皿B<sub>1</sub>・皿B<sub>2</sub>・皿C・鍋（1205）、渥美産の山茶碗、SD117から土師器皿B<sub>2</sub>・皿C（1206）・鍋（1207）、渥美産の山茶碗が出土している。II期からIII期にかけての道路と思われる。

SD118（第57・91図） SX120付近から北北東へ直線的に流れる延長38m以上、幅約0.7m、深さ約0.5mの溝である。出土遺物には土師器小皿B<sub>2</sub>（1208）・小皿C・皿B<sub>2</sub>（1209～1213）・皿C・盤・火鉢・伊藤分類第1段階a型式（1214・1216）と第1段階b型式（1215・1217）の鍋、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶碗（1218・1219・1221）と渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗（1220）、知多産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗などがある。II期の溝と思われる。

SD119（第57図） SD117とSD118との間にある小規模な溝で、延長約11m、幅約0.3m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

SD121（第57図） SD118の西にある溝で、L字形に屈曲している。総延長は28m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。遺物は土師器皿B<sub>2</sub>と皿Cの小片が出土したのみである。III期の溝と思われる。

SD200（第92図） SD8の南に位置する小規模な溝で、延長約10m、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B<sub>1</sub>（1223）・小皿B<sub>2</sub>（1222）・皿A（1224）・鍋、知多編年第4型式（12世紀末葉～13世紀初頭）の山茶碗がある。I期の溝と思われる。

SD202（第19・92図） SD6のすぐ西に位置する。L字形に屈曲している小規模な溝で、総延長は約10m、幅約0.5m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器小皿B<sub>1</sub>・小皿C・皿C（1227）がある。III期の溝と思われる。



遺構名	位置	規 模	時期	備 考	遺構名	位置	規 模	時期	備 考
SD 1	S~U 90	延長=8m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	Ⅳ期		SD 50	P~W 37・38	延長=30m以上 幅=0.6m、深さ=0.3m	Ⅲ期	
SD 6	U・V 82~84	延長=8m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅳ期		SD 55	P・Q 45~47	延長=10m以上 幅=1m、深さ=0.5m	不明	2基の土 坑か？
SD 8	S~V 73~78	延長=19m+12m 幅=2~3m 深さ=0.9~1.3m	Ⅱ期	堀か？ L字形に 曲がる	SD 62	Q~U 44~46	延長=17m 幅=0.5m、深さ=0.1m	Ⅱ期か Ⅲ期	
SD10A	U・V 74~76	延長=6.5m 幅=3m、深さ=0.9m	Ⅲ期	土取り穴 か？	SD 71	O~Q 39~43	延長=18m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	不明	
SD10B	U~W 75~77	延長=6m 幅=3.5m、深さ=0.9m	Ⅱ期	土取り穴 か？	SD 73	S・T 22~31	延長=36m 幅=1.2m、深さ=0.3m	Ⅰ期	自然流路
SD 11	T 76~78	延長=9.5m以上 幅=0.7m、深さ=0.4m	Ⅳ期		SD116	I~T 75~79	延長=47m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅱ期か Ⅲ期	SR87の 側溝
SD 13	U・V 78・79	延長=6m以上 幅=1m、深さ=0.3m	Ⅰ期		SD117	H~P 74~77	延長=36m以上 幅=0.7m、深さ=0.2m	Ⅱ期か Ⅲ期	SR87の 側溝
SD 17	V・W 72・73	延長=10m以上 幅=1m、深さ=0.7m	Ⅳ期		SD118	H~Q 74	延長=38m以上 幅=0.7m、深さ=0.5m	Ⅱ期	
SD 18	R~W 71~75	延長=19m+7.5m以上 幅=0.6m、深さ=0.3m	Ⅱ期	中断部分 あり	SD119	J~L 74・75	延長=11m 幅=0.3m、深さ=0.1m	不明	
SD35A	O~X 52~59	延長=30m以上+16m以上 幅=1.5m~3.5m 深さ=0.6m~1.6m	Ⅰ期 ~Ⅱ期		SD121	H~L 70~74	延長=14m以上+14m 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅲ期	L字形に 曲がる
SD35B	O~T 53~55	延長=21m以上+16m以上 幅=1.2m~3.5m 深さ=0.5~1.3m	Ⅱ期 ~Ⅲ期	SD35A の流路改 修溝	SD200	S~T 77~79	延長=10m 幅=0.7m、深さ=0.4m	Ⅰ期	
SD 36	T~X 51~54	延長=7m+18m以上 幅=3m、深さ=0.1~0.5m	Ⅲ期か Ⅳ期	L字形に 曲がる	SD202	S・T 81・82	延長=10m 幅=0.5m、深さ=0.1m	Ⅲ期	L字形に 曲がる
SD 39	S~W 23~32	延長=43m以上 幅=1m、深さ=0.6m	Ⅰ期		SD210	O~Q 60~65	延長=46m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅳ期末 以降	SR91の 側溝
SD 42	R~U 19~21	延長=13m以上 幅=0.7m、深さ=0.3m	Ⅰ期か Ⅱ期		SD211	P・Q 70・71	延長=6m 幅=0.4m、深さ=0.1m	不明	
SD 43	R~V 24~28	延長=23m以上 幅=6~8m、 深さ=0.4~1.2m	Ⅰ期	自然流路	SD217	Q~S 63~71	延長=36m 幅=1m、深さ=0.2m	Ⅳ期末 以降	SR91の 側溝
SD 47	U・V 39	延長=5.5m以上 幅=0.3m、深さ=0.1m	Ⅳ期末 以降		SD218	N~R 60~76	延長=77m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	Ⅰ期	
					SD230	L~N 62	延長=10m以上 幅=0.4m、深さ=0.1m	Ⅲ期か Ⅳ期	

第8表 溝 一 覧

S D 210・S D 217・S R 91 (第92図) S X 215 (21号墳) の北端をかすめて走る1条の道路とその両側の側溝である。S D 210は南側の側溝で、延長46m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1m、S D 217は北側の側溝で、延長約36m、幅約1m、検出面からの深さ約0.2m、S R 91の幅は約1.5mである。遺物はS D 210から土師器皿・盤の細片と土錘(1228)、S D 217から土師器小皿C・皿B<sub>2</sub>・皿C・鍋、知多産の山茶碗、瀬戸産の天目茶碗、青磁碗などの細片が出土している。IV期末以降の道路と思われる。

S D 211 (第17図) S X 215T (21号墳) のすぐ南東に位置する周溝状の溝である。延長約6m、幅約0.4m、検出面から約0.1mの小規模なもので、出土遺物はない。

S D 218 (第92図) S R 91の南約10mに位置しほぼ東西に流れる溝で、延長77m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。遺物は土師器小皿B<sub>1</sub>(1229)・皿B<sub>1</sub>(1230)・伊藤分類(仮)A段階(1231)と第1段階a型式の鍋、渥美編年で12世紀中葉とされる山茶碗などが出土している。I期の溝と思われる。

S D 230 (第92図) S D 218の西端近くに位置し、

ほぼ南北に流れる小規模な溝である。幅約0.4m、検出面からの深さ約0.1mで、延長は10m以上であるが、S X 32(5号墳)の南にある長さ約4mの溝状の遺構がS D 230の続きだとすれば総延長約35m以上となる。遺物は土師器小皿C(1234~1236)が出土している。Ⅲ期かⅣ期の溝と思われる。

## 7. その他の遺構

S Z 132 (第56・92図) S K 124のすぐ北に位置する性格不明の集石遺構である。拳大から人頭大の石が1.4m×0.4mの範囲に集められており、その下には遺構らしいものは認められなかった。石と石の間から渥美産の山茶碗(1237)、知多産の片口鉢・甕の破片が出土している。Ⅱ期かⅢ期の遺構と思われる。

## 8. 包含層・ピット出土の遺物

包含層・ピット・遺構番号を付さなかった遺構から出土した中世の遺物は整理用コンテナで50箱程ある。第92図に掲載したのはその一部で、観察結果は第9表に記載した。また、陶器類は第11表にも記載されている。なお、1244・1245は第49図、1258は第37図に出土位置を示した。

## 【註】

- ① 中村浩『陶邑Ⅲ』(財大阪府埋蔵文化財センター1978)
- ② a 藤澤良祐「長野県出土の古瀬戸について」『信濃』第31巻 第11号 信濃史学会 1979
- b 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- c 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅱ』瀬戸市歴史民俗資料館 1991
- d 藤澤良祐「山茶碗と中世集落」『尾呂』瀬戸市教育委員会 1990
- ③ 中野晴久「常滑窯」『東日本における古代・中世窯業の諸問題』大戸古窯跡群検討会・会津若松市教育委員会 1992
- ④ 『愛知県古窯跡群分布調査報告(V)』愛知県教育委員会 1986

- ⑤ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」[Mie history] vol. 1 三重歴史文化研究会 1990  
伊藤裕偉氏は、中世南伊勢系の鍋の分類を行うにあたっては口縁部の形態とともに頸部の形態も重視しているが、蚊山遺跡左郡地区出土のものを伊藤分類にあてはめるにあたっては、やむをえず口縁部の形態のみで判断したものもあった。
- ⑥ 亀井明德氏に直接指導していただいたが、個々の遺物の産地や時期については指導にもとづいて前川が解釈したものである。
- ⑦ 小坂宜広「掘立柱建物に関する一考察」[Mie history] vol. 5 三重歴史文化研究会 1993. 2

## Ⅳ. 出土遺物の観察

蚊山遺跡左郡地区出土遺物のうち実測図を掲載した1265点の観察結果を「第9表 出土遺物観察表」に以下の要領でまとめた。

### 1. 遺物番号

上段には報告書内に実測図を掲載した遺物の通し番号（遺物番号）を、下段には遺物収蔵に関する遺物整理番号を示した。

### 2. 器種

上段に縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・石器・鉄製品等の区別を、下段に小皿・皿・杯・椀・鉢・鍋・壺・甕等の器形を示した。なお、土師器小皿・皿についてはさらに細分を行った。

#### 土師器小皿

- A 口縁部の内外面にヨコナデが幅広く施されている。口径は9cm前後である。
- B<sub>1</sub> 口縁端部の内外面にヨコナデが施されている。ヨコナデ幅は狭く、外面のみのものもある。胎土には砂粒を多く含み、器壁はやや厚い。口径は8cm前後である。
- B<sub>2</sub> 口縁端部の外面のみにヨコナデが認められる。ヨコナデ幅は狭く、その有無の判断が困難なものもある。胎土にはあまり砂粒を含まない。器壁は薄い。口径は7.5～8cmのものが多い。
- C ヨコナデは認められない。外面にはオサエ痕が目立つが内面は平滑である。胎土にはあまり砂粒を含まず、色調は白っぽい。器壁はかなり薄く、口縁端部が尖る。口径は7.5～8cmのものが多い。

#### 土師器皿

- A 口縁部の内外面にヨコナデが幅広く施されている。口径は15cm前後である。
- B<sub>1</sub> 口縁端部の内外面にヨコナデが施されている。ヨコナデ幅は狭く、外面のみのものもある。胎土には砂粒を多く含み、器壁はやや厚い。口径は14cm前後である。

B<sub>2</sub> 口縁端部の外面のみにヨコナデが認められる。ヨコナデ幅は狭く、その有無の判断が困難なものもある。胎土にはあまり砂粒を含まないが、個体によってはかなり多いものもある。器壁は薄い。口径は12.5～13cmのものが多い。

C ヨコナデは認められない。外面にはオサエ痕が目立つが内面は平滑である。胎土にはあまり砂粒を含まず、色調は白っぽい。器壁はかなり薄く、口縁端部が尖る。口径は11～12cmのものが多い。

### 3. 出土位置

主に遺物が出土した小地区を示した。

### 4. 計測値と残存度

口径＝口縁部径、台径＝高台端部径、底径＝平底の土器の底部径、体径＝体部最大径のことである。数値はmm単位まで表したが、残存度が低く復元数値が不確かなものについては含みをもたせた。また、完存に近いものでも歪みが大きいものについては最小と最大の計測値を併記した。残存度は各部位の計測値の後ろに大まかな数値を分数で示した。口径のところに完存と示してあっても底部が欠損している場合があるので注意願いたい。

### 5. 形態・技法・調整等の特徴

調整の特徴を主に示し、最小限の記述にとどめた。

### 6. 色調

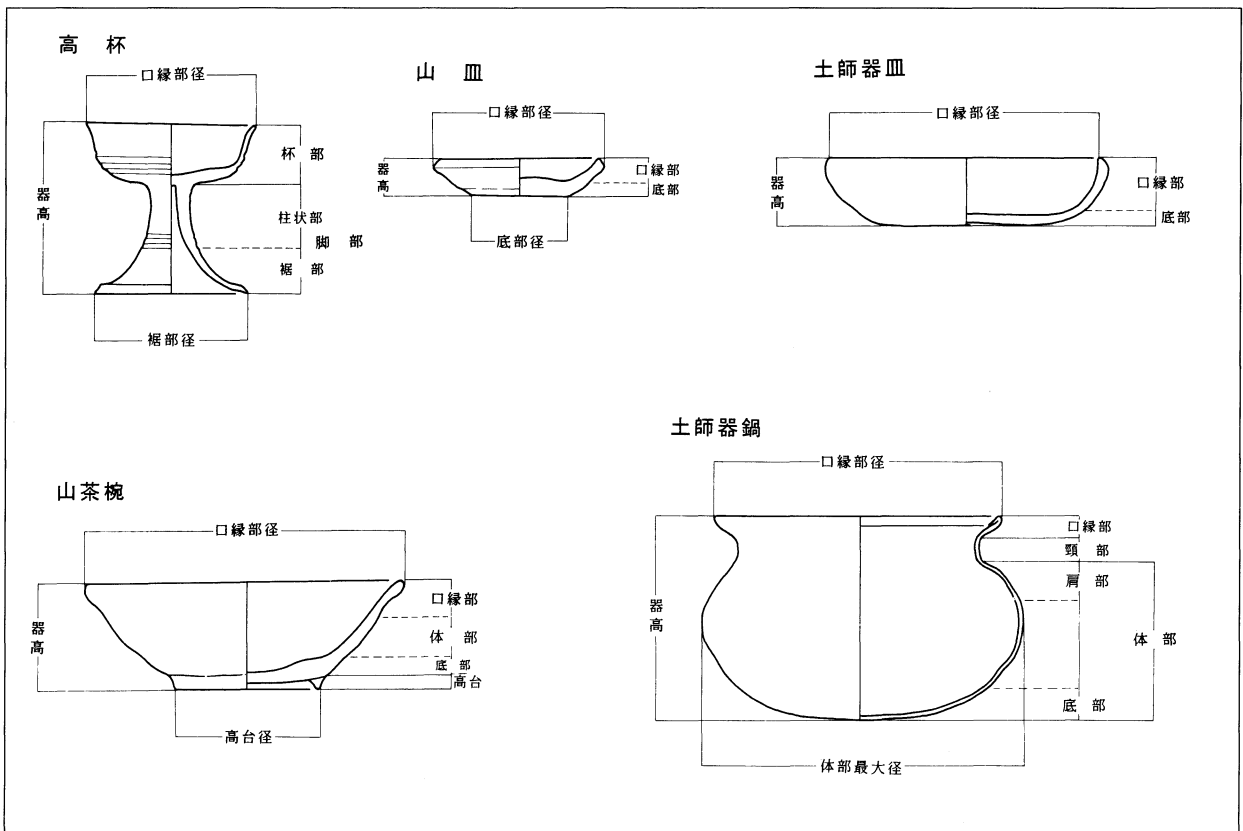
色調の名称は日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帳』（1987年版）による。

### 7. 胎土

胎土に含まれる砂粒の大きさは「砂粒・細砂粒・微砂粒」、砂粒の量は「多含・含・少含」のそれぞれ3区分とした。また、砂粒がほとんど認められないものについては「精良」とした。

	小皿	皿
A		
B <sub>1</sub>		
B <sub>2</sub>		
C		

第60図 土師器小皿・皿分類図 (1 : 3)



第61図 土器細部の名称と計測位置図

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

《弥生時代以前の遺物》

1 000-002	縄文土器鉢	T86 包含層		(口縁部片)	外面に口縁部に沿う沈線1条。器壁の磨減激しく調整不明。	5YR 6/6 橙	砂粒多含
2 000-013	縄文土器鉢	N75 SE157		(口縁部片)	外面に縦方向の沈線2条。器壁の磨減激しく調整不明。	10YR 6/4 にぶい黄橙	砂粒多含
3 000-001	縄文土器鉢	O38 包含層		(体部片)	外面は磨消縄文。器壁の磨減激しく調整不明瞭。	10YR 6/4 にぶい黄橙	砂粒多含
4 000-004	石器 磨製石斧	W56 包含層	長11.9cm、幅 5.0cm、厚 3.0cm、重量 243.7g (完存)				緑泥片岩製
5 000-003	弥生土器壺	G85 包含層	口径：14.4	(1/9)	内外面ヨコナデ。外面に櫛描横線文。内面は磨減進む。	外：10YR 7/3 にぶい黄橙 内：10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含

《古墳時代の遺物》

S X 4 (蚊山1号墳)

6 004-001	土師器甕	T88 周溝		(底部1/2) (台部欠損)	体部下外面ハケ目、内面ナデ。台付甕。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
--------------	------	-----------	--	-------------------	--------------------	---------------	------

S X 1 5 (蚊山4号墳)

7 015-003	須恵器杯身	W75 周溝	口径：11.8 器高：3.5	(3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り未調整。焼成不良のため器壁の磨減激しい。	10GY 7/1 明緑灰	細砂粒含
8 015-002	須恵器杯蓋	W75 周溝	口径：11.6 器高：4.7	(完存)	内外面ロクロナデ。天井部外面ヘラ切り後オサエ、内面ナデ。ロクロ右回転。	10BG 6/1 青灰	砂粒多含
9 015-005	須恵器杯蓋?	V75 包含層	口径：11.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。	5BG 7/1 明青灰	微砂粒含
10 015-001	須恵器高杯	V74 周溝	口径：11.0前後 器高：11.0 裾径：9.7	(1/8) (1/2)	内外面ロクロナデ。杯底部外面ロクロケズリ。柱状部に極めて簡略化された2方2段透かし。ロクロ右回転。	10BG 6/1 青灰	砂粒含
11 015-004	須恵器罎	W75 周溝	口径：8.5 器高：4.3	(3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り未調整。一部焼成不良。	5BG 6/1 青灰	微砂粒含
12 000-044	土師器ミニチュア鉢	V74 包含層	口径：7.3	(1/5)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含

S X 3 2 (蚊山5号墳)

13 032-006	須恵器杯蓋	W59 S X 38 包含層	口径：14.8 器高：4.0前後	(1/4)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロケズリ、内面に同心円状当て具痕。ロクロ左回転。	7.5GY 8/6 明緑灰	微砂粒含
14 032-007	須恵器杯身	W59 S X 38	口径：14.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
15 032-002	須恵器提瓶	V61・W61 周溝		(体部片)	外面カキ目、内面ロクロナデ。	10BG 7/1 明青灰	細砂粒含
16 032-001	須恵器甕	W61 周溝	口径：13.2	(2/5)	口頸部内外面ロクロナデ。肩部外面擬格子状叩き具痕、内面同心円状当て具痕。	5BG 6/1 青灰	砂粒多含
17 032-003	土師器ミニチュア高杯	U60 周溝		(杯底部～裾部上半)	外面オサエ。杯部内面ナデ。裾部内面未調整。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
18 032-005	土師器ミニチュア高杯	V61 包含層		(杯底部～柱状部)	外面ハケ目。杯部内面ナデ。器壁の磨減進む。	10YR 6/6 明黄褐	細砂粒含
19 032-004	土師器ミニチュア高杯	W59 S X 38	口径：8.6～8.8	(1/2)	外面雑なハケ目。口縁部内外面と裾部内外面ヨコナデ。杯部内面ナデ。器壁の磨減進む。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒含

S X 3 7 (蚊山7号墳)

20 037-005	須恵器杯蓋	V47 周溝		(天井部1/8)	内外面ロクロナデ。天井部外面丁寧なロクロケズリ。ロクロ右回転。	外：5BG 5/1 青灰 内：N 7/1 灰白	細砂粒含
21 037-002	須恵器杯蓋	W48 周溝	口径：14.6 器高：5.0	(1/2)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロケズリ。ロクロ右回転。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
22 037-004	須恵器甕	W48 周溝	口径：12.0前後 体径：10.0前後	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ロクロケズリか。口縁部、頸部、体部に櫛描波状文1段ずつ。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
23 037-001	須恵器甕	W48 周溝	口径：23.0	(1/6) (頸部3/4)	口縁部内外面ロクロナデ。頸部外面に櫛描波状文。体部外面平行叩き具痕後部分的にカキ目、内面同心円状叩き具痕ナデ消し。	外：5BG 6/1 青灰 ～N 3/ 暗灰 内：7.5Y 6/1 灰	砂粒含
24 037-003	土師器碗	U47 周溝	口径：10.6	(2/5)	外面オサエ、内面ナデか。外面は器壁の剝離や磨減激しく調整不明瞭。	10YR 6/8 明黄褐	微砂粒含

第9表 出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S X 5 3 (蚊山9号墳)

25 053-004	土師器 碗	R38 周溝	口径: 11.6 器高: 4.9	(7/8)	器壁の磨減激しく調整不明。	10YR 7/6 明黄褐	細砂粒含
26 053-003	土師器 碗	R38 周溝	口径: 13.5~12.5 器高: 4.7	(4/6)	外面オサエ後ナデ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒含
27 053-002	土師器 壺	T36・T37 周溝	口径: 10.0 (体部下半1/6)	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目。器壁の磨減激しく調整不明瞭。	2.5YR 6/8 橙	細砂粒少含
28 053-001	土師器 壺	Q38 周溝	口径: 12.8 器高: 17.0前後 体径: 19.0	(3/4) (7/8)	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ハケ目後ヨコナデ、内面ナデ。体部外面ハケ目。体部内面上半ナデ、下半ケズリ	2.5YR 6/8 橙	細砂粒少含

S X 6 1 (蚊山11号墳)

29 061-001	土師器 碗	S46 周溝	口径: 14.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 6/8 橙	微砂粒含
---------------	----------	-----------	------------	-------	-------------------------------------	-------------	------

S X 7 2 (蚊山12号墳)

30 072-002	土師器 碗	U48 周溝	口径: 11.0前後 器高: 4.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減激しく調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
31 072-001	須恵器 高杯	U49 周溝	口径: 13.5~13.8	(3/4)	内外面ロクロナデ。杯底部外面ロクロケズリ。ロクロ左回転。透かしは3方。	外: 10BG 4/1 暗青灰 内: 5BG 6/1 青灰	砂粒多含

S X 8 2 (蚊山14号墳)

32 082-001	須恵器 杯蓋	P51 盗掘坑	口径: 12.8 器高: 3.8~4.1	(1/4)	内外面ロクロナデ。天井部外面中央ヘラ切り未調整、周囲ヘラ切り後ナデ。ロクロ右回転。	5BG 6/1 青灰	砂粒含
---------------	-----------	------------	-------------------------	-------	---	------------	-----

S X 1 8 0 (蚊山17号墳)

33 180-001	須恵器 高杯	L81 周溝	口径: 11.0前後	(1/3)	内外面ロクロナデ。34と同一個体か。	10Y 6/1 灰	細砂粒含
34 180-002	須恵器 高杯	L81 周溝	裾径: 9.7	(1/8)	内外面ロクロナデ。33と同一個体か。	10Y 6/1 灰	細砂粒含

S X 1 9 6 (蚊山20号墳)

35 196-001	須恵器 杯身	P79 周溝	口径: 10.0 器高: 3.2	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り未調整、内面ナデ。	外: 5BG 4/1 暗青灰 内: 5PB 6/1 青灰	砂粒含
---------------	-----------	-----------	---------------------	------	----------------------------	---------------------------------	-----

S K 1 8 7 (土坑)

36 187-001	須恵器 杯身	R90 周溝?	口径: 10.5	(1/4)	内外面ロクロナデ。	10Y 5/1 灰	砂粒多含
---------------	-----------	------------	----------	-------	-----------	-----------	------

S K 1 9 8 (土坑)

37 198-001	須恵器 杯蓋	Q71 周溝?	口径: 12.2 器高: 3.3	(7/8)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロケズリ、内面ナデ。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
38 198-003	須恵器 杯蓋	Q71 周溝?	口径: 12.8 器高: 4.0	(4/5)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロケズリ、内面ナデ。ロクロ右回転。	10Y 6/1 灰	細砂粒少含
39 198-002	須恵器 杯身	Q71 周溝?	口径: 12.1 器高: 3.9	(3/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り後オサエ、内面ナデ。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
40 198-004	須恵器 杯身	Q71 周溝?	口径: 11.8 器高: 3.3	(4/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ヘラ切り未調整、周囲ロクロケズリ。	7.5Y 5/1 灰	砂粒多含

ビット

41 000-009	須恵器 杯蓋	S56 ビット1	口径: 13.0前後 器高: 3.7前後	(1/10)	内外面ロクロナデ。天井部外面中央ヘラ切り未調整、周囲ロクロケズリ。内面中央に同心円状当て具痕。	5BG 6/1 青灰	細砂粒含
---------------	-----------	-------------	-------------------------	--------	---	------------	------

中世遺構

42 000-010	須恵器 杯身	T53 SD36	口径: 10.2 器高: 4.5前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面ロクロケズリ。内面中央に同心円状当て具痕。	5BG 6/1 青灰	微砂粒含
43 000-011	須恵器 杯身	T54 SD36	口径: 12.0 器高: 4.8前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面ロクロケズリ。ロクロ右回転。	外: 5BG 6/1 青灰 内: 5BG 5/1 青灰	細砂粒少含
44 000-012	石製品 紡錘車	U23 SK45	径 4.8~5.1 cm、高 1.5cm、孔径 7.5cm、重量40.4g (完存)			10Y 6/1 灰	葉臘石製

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
包含層							
45 000-007	須恵器 蓋	T79 包含層		(天井部)	内外面ロクロナデ。天井部外面ロクロケズリ	10Y 7/1 灰白	砂粒含
46 000-008	須恵器 高杯	Q78 包含層	裾径：12.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。透かしは1方1段が残るのみ(3方2段透かし)。	5BG 6/1 青灰	微砂粒少含
47 000-006	須恵器 高杯	T78 包含層		(杯底部～柱状部)	杯底部内外面ロクロナデ。柱状部外面カキ目。3方2段透かし。	2.5GY 6/1 オリーブ灰	微砂粒少含
48 000-005	須恵器 長頸壺	O76 包含層		(頸部)	頸部内外面ロクロナデ。頸部外面に雑な沈線2条、内面にシボリ痕。	N 7/ 灰白	砂粒多含
49 000-034	土師器 ミニチュア高杯	Q84 包含層	口径：6.5前後 底径：3.8	(1/20) (1/4)	外面オサエ後軽いナデ。内面雑なナデ。手捏ね。	10YR 6/1 褐灰	微砂粒含
50 000-019	土師器 甕	Q21 包含層	口径：23.0	(1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面に煤付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含

《中世の遺物》

S B 2 (掘立柱建物)

51 002-002	土師器 小皿C	U30 ビット1	口径：8.4 器高：1.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	精良
52 002-001	土師器 皿C	U30 ビット1	口径：12.0前後 器高：2.4	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含

S B 9 (掘立柱建物)

53 009-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	S39 ビット1	口径：11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒含
54 009-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	R39 ビット1	口径：12.5前後 器高：2.3	(1/7)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含

S B 2 3 (掘立柱建物)

55 023-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	W67 ビット10	口径：14.5前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒少含
---------------	------------------------	--------------	-----------	--------	------------------------------	----------------	-------

S B 2 4 (掘立柱建物)

56 024-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	U71 ビット9	口径：14.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	外：10YR 4/1 褐灰 内：10YR 6/2 灰黄褐	砂粒多含
57 024-003	土師器 小皿B <sub>1</sub>	U71 ビット9	口径：8.0 器高：1.1~1.5	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
58 024-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	U71 ビット9	口径：7.9~8.4 器高：1.0~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
59 024-004	土師器 小皿B <sub>1</sub>	U71 ビット9	口径：8.0 器高：1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒多含

S B 2 7 (掘立柱建物)

60 027-004	土師器 小皿B <sub>2</sub>	R72 ビット1	口径：7.5前後 器高：1.4	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒含
61 027-005	土師器 皿B <sub>1</sub>	R72 ビット1	口径：10.5前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	精良
62 027-002	陶器 山茶碗	R72 ビット2	口径：15.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。知多産か。	7.5Y 6/1 灰	細砂粒含
63 027-001	陶器 山茶碗	Q72 ビット3	台径：7.8	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面煤付着、外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10Y 6/1 灰	砂粒少含
64 027-003	土師器 器台	R72 ビット1		(柱状部)	外面ナデ。柱状部の中心に径5mmの円孔。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含

S B 5 1 (掘立柱建物)

65 051-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	W45 ビット1	口径：7.5前後 器高：11.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒含
66 051-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	W47 ビット4	口径：12.0前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/1 明黄褐	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S B 5 4 (掘立柱建物)

67 054-001	土師器 小皿C	V44 ピット1		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒含
---------------	------------	-------------	--	--------	-------------	----------------	------

S B 7 6 (掘立柱建物)

68 076-006	土師器 小皿B <sub>2</sub>	Q55 ピット3	口径: 7.5前後 器高: 1.0前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒少含
69 076-005	土師器 小皿B <sub>2</sub>	Q55 ピット3	口径: 7.2 器高: 1.0前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
70 076-008	土師器 小皿B <sub>2</sub>	Q55 ピット16	口径: 8.5	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
71 076-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	Q55 ピット1	口径: 12.2	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
72 076-004	土師器 皿B <sub>2</sub>	Q55 ピット3	口径: 11.5前後 器高: 2.4	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
73 076-002	土師器 鍋	Q55 ピット1		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。傾き不確定。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
74 076-003	土師器 鍋	P54 ピット2		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
75 076-007	陶器 山茶碗	Q55 ピット3	口径: 15.5前後	(1/7)	内外面クロコナデ。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	砂粒多含
76 076-009	陶器 山茶碗	Q55 ピット16	口径: 15.0前後	(1/12)	内外面クロコナデ。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含

S B 8 5 (掘立柱建物)

77 085-002	土師器 小皿C	R55 ピット2	口径: 8.0前後 器高: 1.0前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
78 085-001	土師器 皿C	R54 ピット3	口径: 12.0前後 器高: 2.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含

S B 9 3 (掘立柱建物)

79 093-003	土師器 皿C	Q56 ピット3	口径: 10.6 器高: 2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	精 良
80 093-005	土師器 皿C	Q55 ピット2	口径: 11.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
81 093-004	土師器 鍋	Q55 ピット2		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含

S B 9 7 (掘立柱建物)

82 097-002	土師器 皿C	R56 ピット2		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。	5YR 8/3 淡橙	精 良
83 097-001	土師器 鍋	P56 ピット1		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
84 097-003	陶器 山茶碗	R56 ピット2	台径: 6.4	(1/3)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部切痕。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含

S B 9 8 (掘立柱建物)

85 098-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 8.1 器高: 1.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。内外面油煙付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
86 098-007	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 7.8 器高: 1.3	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙 ~10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
87 098-006	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 8.2 器高: 2.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
88 098-005	土師器 皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 13.7	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙 ~10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
89 098-003	土師器 皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 14.5前後 器高: 2.5前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
90 098-004	土師器 皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 13.6 器高: 2.5前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
91 098-002	土師器 皿B <sub>1</sub>	R56 ピット1	口径: 14.0前後 器高: 2.5前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁端部一部油煙付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙 ~10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂粒少含



遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
SB112 (掘立柱建物)							
92 112-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	N77 ピット3	口径: 12.5前後 器高: 1.6	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
SB125 (掘立柱建物)							
93 125-001	陶器 山茶碗	N79 ピット1	口径: 15.0前後 器高: 4.9 台径: 7.7	(1/7) (1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面油煙付着、外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒含
SB126 (掘立柱建物)							
94 126-001	土師器 皿C	M80 ピット2	口径: 11.8 器高: 2.5	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
95 126-003	磁器 白磁碗	M80 ピット3	台径: 4.8	(1/2)	高台端部~高台内面露胎。福建省産。	釉: 10YR 8/1 灰白 胎土: 10YR 8/1 灰白	精良
96 126-002	土製品 土鉢	M80 ピット2	長 3.8cm、径 1.2cm、孔径 0.5cm、重量 4.8g (完存)			2.5YR 6/8 橙	微砂粒少含
SB127 (掘立柱建物)							
97 127-001	土師器 小皿C	M80 ピット4	口径: 7.7~7.9 体径: 1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
SB128 (掘立柱建物)							
98 128-001	土師器 ミニチュア鍋	M79 ピット6	口径: 8.0前後 体径: 10.0	(1/16) (1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
SK129 (掘立柱建物SB128に伴う土坑)							
99 129-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 7.5 器高: 1.4~1.5	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒含
100 129-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 7.3 器高: 1.4	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
101 129-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M80 土坑	口径: 7.2 器高: 1.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒含
102 129-004	土師器 小皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 8.0 器高: 1.5前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
103 129-005	土師器 小皿A	M80 土坑	口径: 10.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
104 129-008	土師器 皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 12.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒少含
105 129-006	土師器 皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 13.5前後 器高: 2.4	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。傾き不確定。	10YR 6/2 灰黄褐	微砂粒少含
106 129-009	土師器 皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 12.8	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
107 129-010	土師器 皿B <sub>1</sub>	N81 土坑	口径: 14.2 器高: 2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。内外面油煙付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒少含
108 129-007	土師器 皿B <sub>1</sub>	M80 土坑	口径: 14.4 器高: 3.0前後	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
109 129-011	土師器 台付小皿	M81 土坑	台径: 4.5	(完存)	内外面ナデ。皿部内面布目痕。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
110 129-024	土師器 鍋	M80 土坑	口径: 25.0前後 体径: 27.0前後	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
111 129-022	土師器 鍋	M80 土坑	口径: 37.0前後	(1/18)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
112 129-021	土師器 鍋	M80・M81 土坑	口径: 27.0前後 体径: 30.5	(1/2) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
113 129-023	土師器 鍋	M80 土坑	口径: 33.0前後	(1/12)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
114 129-025	土師器 羽釜	M80 土坑	口径: 22.5~24 器高: 12.4 銚径: 25.8~27.4	(5/6) (5/6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ。底部外面オサエ一部ケズリ、内面は器壁の剝離進み調整不明。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
115 129-018	陶器 山茶碗	M81 土坑	口径: 15.8 器高: 5.2 台径: 6.8	(1/3) (1/6)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
116 129-016	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径: 15.5前後	(1/7)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
117 129-017	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径：15.0前後	(1/6)	内外面クロコナデ。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
118 129-020	陶器 山茶碗	N81 土坑	口径：6.8	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。底部外面に墨書「×」か。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
119 129-013	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径：7.3~7.6	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
120 129-019	陶器 山茶碗	N81 土坑	口径：7.0	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
121 129-014	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径：7.1~7.8	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	7.5Y 7/1 灰白	砂粒少含
122 129-012	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径：8.0	(1/4)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
123 129-015	陶器 山茶碗	M80 土坑	口径：6.6	(2/5)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部粗粒痕。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
124 129-026	土製品 フイゴ羽口	N81 土坑		(破片)	一方の端は溶解。外面にへら記号あり。		砂粒多含

S B 1 3 1 (掘立柱建物)

125 131-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L79 ビット1	口径：6.5前後 器高：0.9前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
126 131-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	J79 ビット2	口径：6.5前後 器高：0.8前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
127 131-001	土師器 皿C	K79 ビット1	口径：13.4	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含

S B 1 3 3 (掘立柱建物)

128 133-001	土師器 皿C	J77 ビット1	口径：10.5前後 器高：2.5前後	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
129 133-002	土師器 皿C	J77 ビット1	口径：11.0前後 器高：2.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒含
130 133-003	土師器 鍋	K78 ビット6		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含

S B 1 3 6 (掘立柱建物)

131 136-001	土師器 皿C	K78 ビット4		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
----------------	-----------	-------------	--	--------	-----------------------	-------------	-------

S B 1 4 1 (掘立柱建物)

132 141-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	J80 ビット3	口径：7.4 器高：1.2	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
----------------	-------------------------	-------------	------------------	-------	-----------------------------	-------------	-------

S B 1 4 2 (掘立柱建物)

133 142-001	土師器 小皿C	J81 ビット1	口径：7.4 器高：1.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
134 142-002	土師器 皿C	K81 ビット3	口径：11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒含
135 142-004	土師器 鍋	K81 ビット3		(口頸部片)	口頸部内外面ヨコナデ。傾き不確定。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
136 142-003	土師器 鍋	K81 ビット3	口径：32.0前後	(1/7)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。傾き不確定。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含

S B 1 4 3 (掘立柱建物)

137 143-001	土師器 皿C	K81 ビット1	口径：10.5前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
----------------	-----------	-------------	-----------	-------	-------------	-------------	------

S B 1 4 5 (掘立柱建物)

138 145-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	M77 ビット2	口径：12.4 器高：2.5前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。傾き不確定	10YR 7/5 にぶい黄橙	細砂粒含
----------------	------------------------	-------------	---------------------	-------	------------------------------	----------------	------

S B 1 5 8 (掘立柱建物)

139 158-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N72 ビット6	口径：7.5 器高：1.1	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
----------------	-------------------------	-------------	------------------	-------	----------------------------	--------------	------

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
140 158-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L72 ビット5	口径：6.8 器高：1.5前後	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
141 158-004	土師器 小皿C	L72 ビット5	口径：7.0 器高：1.2	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 8/1 灰白	精良
142 158-002	土師器 皿C	N72 ビット2	口径：12.2 器高：2.8	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
143 158-005	陶器 山茶碗	M71 ビット2	口径：16.0前後	(1/14)	内外面クロコナデ。知多産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SK153 (掘立柱建物SB158に伴う土坑)

144 153-040	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.0 器高：0.8~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
145 153-032	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4 器高：0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
146 153-030	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.2~7.9 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
147 153-039	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4~7.7 器高：0.7~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
148 153-055	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：8.0 器高：0.7~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
149 153-062	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.8 器高：0.4~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油煙付着。	外：5YR 8/4 淡橙 内：7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
150 153-066	土師器 小皿C	L72 土坑	口径：7.4~8.0 器高：0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
151 153-034	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：8.0~8.7 器高：0.8~1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
152 153-067	土師器 小皿C	L72 土坑	口径：7.6~7.9 器高：0.9~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
153 153-068	土師器 小皿C	L72 土坑	口径：7.8 器高：0.7~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
154 153-052	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.2~7.6 器高：1.0~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
155 153-026	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4~7.8 器高：0.8~1.2	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
156 153-028	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.3~7.6 器高：0.8~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒多含
157 153-031	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.4~7.9 器高：0.9~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
158 153-042	土師器 小皿C	M72 土坑	口径：7.2~7.8 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/2 灰白	砂粒多含
159 153-038	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：7.6~7.9 器高：0.8~1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒含
160 153-041	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：7.3~7.8 器高：1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	外：7.5YR 5/1 褐灰 内：7.5YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒含
161 153-049	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：7.1~7.5 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
162 153-063	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L72 土坑	口径：7.7~8.1 器高：1.0~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。内面油煙付着。	7.5YR 4/1 褐灰 ~7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
163 153-065	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L72 土坑	口径：7.6~8.1 器高：1.1~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
164 153-001	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.1 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
165 153-002	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.6 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
166 153-004	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.7 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
167 153-005	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.8 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
168 153-006	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
169 153-009	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
170 153-008	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.6 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
171 153-010	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.8 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
172 153-012	土師器 皿C	M72 土坑	口径：10.1~11.3 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
173 153-013	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
174 153-017	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
175 153-015	土師器 皿C	M72 土坑	口径：12.0 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
176 153-003	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.4 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
177 153-018	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減激しく調整不明瞭。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
178 153-020	土師器 皿C	M72 土坑	口径：11.0 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
179 153-025	土師器 皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：12.4 器高：3.0	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減激しく調整不明瞭。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒含
180 153-007	土師器 皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：12.3~13.5 器高：2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	外：2.5Y 8/2 灰白 内：10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
181 153-014	土師器 皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：12.8 器高：3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
182 153-023	土師器 皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：12.2 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
183 153-022	土師器 皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：13.0 器高：2.7	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
184 153-024	土師器 皿B <sub>2</sub>	M72 土坑	口径：14.0 器高：2.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
185 153-076	土師器 鍋	M72 土坑	口径：18.9 (肩部 1/6)	(1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ナデ、内面ナデ。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
186 153-074	土師器 鍋	M72 土坑	口径：27.0前後 (肩部 1/10)	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙 ~7.5YR 7/2 明褐灰	砂粒多含
187 153-073	土師器 鍋	M72 土坑	口径：26.5 (肩部 1/12)	(2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
188 153-077	土師器 鍋	M72 土坑	口径：29.7 (肩部 1/6)	(1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
189 153-075	土師器 鍋	M72 土坑	口径：34.0前後 (1/9)	(1/9)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄橙 ~7.5YR 6/2 灰褐	砂粒多含
190 153-084	陶器 山皿	L72 土坑	口径：9.2 器高：1.6 底径：6.9	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	5 Y 8/1 灰白	細砂粒多含
191 153-078	陶器 山茶碗	L72 土坑	口径：15.0 器高：4.9 台径：6.7	(完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部靱殻痕多い。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒含
192 153-079	陶器 山茶碗	M72 土坑	口径：14.9 台径：6.2 器高：5.1	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒含
193 153-080	陶器 山茶碗	M72 土坑	口径：15.0前後 器高：5.2 台径：5.9	(1/12)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒含
194 153-082	陶器 山茶碗	L72 土坑	口径：15.0前後 (底部 1/4)	(1/12)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕、煤付着。高台剥落。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒含
195 153-081	陶器 山茶碗	M72 土坑	口径：15.0	(1/4)	内外面ロクロナデ。内面煤付着。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒含
196 153-070	磁器 青磁皿	M72 土坑	底径：5.2	(3/5)	底部外面露胎。底部外面ロクロケズリ。内面にヘラ描文と雷光文。同安窯系。	釉：10Y 6/2 オリーブ灰 胎土：2.5Y 8/1 灰白	精 良
197 153-069	磁器 青磁碗	M72 土坑	口径：16.0前後	(1/8)	内外面施釉。体部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉：2.5GY 6/1 オリーブ灰 胎土：5 Y 6/1 灰	精 良
198 153-071	土製品 土鉢	L72 土坑	径 1.9cm、孔径 0.6cm、重量18.0g	(一部欠損)		2.5Y 7/2 灰黄 ~10YR 3/1 黒褐	砂粒含
199 153-083	土製品 土鉢	M72 土坑	長 5.8cm、径 2.1cm、孔径 0.7cm、重量18.0g	(完存)		7.5YR 7/2 明褐灰	細砂粒含
200 153-072	土製品 土鉢	M72 土坑	長 5.7cm、径 2.2cm、孔径 0.8cm、重量25.3g	(完存)		7.5YR 8/4 浅黄橙 ~10YR 8/3 浅黄橙	砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S B 1 5 9 (掘立柱建物)

201 159-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N70 ビット1	口径：8.5 器高：1.1	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
202 159-005	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N70 ビット1	口径：8.5前後	(1/9)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒含
203 159-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	N70 ビット1	口径：13.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒含
204 159-004	土師器 皿B <sub>2</sub>	N70 ビット1	口径：13.0前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。傾き不確定。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
205 159-001	土師器 皿C	O71 ビット1	口径：12.0前後 器高：2.5前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
206 159-006	土師器 鍋	N72 ビット1	口径：21.0前後	(1/8)	内外面ヨコナデ。外面に煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
207 159-007	陶器 山茶碗	N72 ビット3	台径：7.8	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデか。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

S B 1 6 4 (掘立柱建物)

208 164-001	陶器 山茶碗	M70 ビット1	口径：14.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	N 7/ 灰白	微砂粒含
----------------	-----------	-------------	-----------	--------	----------------	---------	------

S B 1 8 4 (掘立柱建物)

209 184-001	土師器 皿C	M64 ビット2	口径：11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。傾き不確定。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
----------------	-----------	-------------	-----------	-------	-------------------	--------------	------

S B 1 9 9 (掘立柱建物)

210 199-001	土師器 皿C	K88 ビット2	口径：12.0前後	(1/14)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
----------------	-----------	-------------	-----------	--------	-------------	--------------	------

S B 2 0 5 (掘立柱建物)

211 205-001	土師器 皿C	O86 ビット2	口径：12.2 器高：2.6	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/1 灰白	細砂粒含
----------------	-----------	-------------	-------------------	-------	-------------	-------------	------

S E 3 (井戸)

212 3-004	土師器 皿B <sub>1</sub>	U88	口径：14.0前後	(1/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
213 3-006	土師器 皿B <sub>1</sub>	U88	口径：15.0前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/5 浅黄橙	砂粒含
214 3-007	土師器 皿B <sub>2</sub>	U88		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
215 3-005	土師器 皿C	U88		(口縁部片)	器壁の磨滅激しく調整不明。	7.5Y 8/1 灰白	砂粒多含
216 3-003	陶器 小碗	U88	口径：9.4	(1/6)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
217 3-002	陶器 山茶碗	U88	口径：15.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
218 3-001	陶器 山茶碗	U88	口径：16.5前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	5 Y 8/1 灰白	微砂粒少含

S E 5 6 (井戸・中世墓?)

219 56-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R40	口径：7.9 器高：1.0~1.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
220 56-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R40	口径：7.2~7.5 器高：1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。口縁端部靱殻痕。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
221 56-003	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R40	口径：7.8 器高：1.2~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
222 56-004	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R40	口径：7.7 器高：1.3~1.5	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
223 56-021	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R40	口径：7.5~8.2 器高：1.0~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
224 56-022	土師器 小皿B <sub>1</sub>	R40	口径：8.0 器高：1.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
225 56-007	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：13.2 器高：3.0 (ほぼ完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
226 56-009	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：13.7 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
227 56-026	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：12.6 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
228 56-006	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：13.2~13.5 器高：3.1 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁内部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
229 56-025	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：12.0前後 器高：2.5前後 (1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
230 56-010	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：13.0前後 器高：2.5前後 (1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
231 56-008	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：14.0前後 器高：2.5前後 (1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
232 56-005	土師器 皿B <sub>1</sub>	R40	口径：13.7 器高：2.9 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
233 56-011	陶器 山茶碗	R40	口径：15.6 器高：5.2 台径：7.1 (1/2) (3/4)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕、高台端部粗殺痕。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒含
234 56-013	陶器 山茶碗	R40	口径：16.5前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。知多産か。	10Y 7/1 灰白	細砂粒含
235 56-012	陶器 山茶碗	R40 最下層	台径：7.5 (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
236 56-028	土師器 鍋	R40	口径：16.0前後 器高：2.5 (1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
237 56-015	土師器 鍋	R40	口径：20.6 (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
238 56-016	土師器 鍋	R40	口径：18.7 器高：10.6 体径：19.2 (7/8) (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
239 56-017	土師器 鍋	R40	口径：20.2~20.4 器高：10.8 体径：20.0 (7/8) (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
240 56-018	土師器 鍋	R40	口径：23.8 器高：17.0前後 体径：27.8 (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
241 56-019	土師器 鍋	R40	口径：27.8 器高：19.4 体径：30.0 (1/2) (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
242 56-020	土師器 鍋	R40	口径：8.0 体径：37~38 (1/4) (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ、体部外面オサエナデ、内面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
243 56-027	土師器 鍋	R40	口径：26.0前後 (1/10)	口頸部内外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含

SE 57 (井戸・中世墓?)

244 57-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	R40	口径：7.5~8.0 器高：1.3 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
245 57-016	土師器 小皿B <sub>2</sub>	R40	口径：8.0 器高：1.2 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
246 57-004	土師器 皿B <sub>2</sub>	R40	口径：12.5前後 器高：2.3前後 (1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒多含
247 57-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	R40	口径：12.5前後 器高：2.3 (1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
248 57-015	土師器 皿B <sub>2</sub>	R40	口径：11.6 器高：2.3 (1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。内面に油煙付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
249 57-005	土師器 皿C	R40	口径：12.0前後 器高：2.2 (1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
250 57-003	土師器 皿C	R40	口径：12.0 器高：2.5 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒多含
251 57-014	土師器 皿C	R40	口径：11.5前後 器高：2.6 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
252 57-012	土師器 鍋	R40	口径：15.0 (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
253 57-013	土師器 鍋	R40	口径：21.6 (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面に煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
254 57-006	土師器 鍋	R40	(口頸部片)	内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
255 57-007	土師器 鍋	R40	(口頸部片)	内外面ヨコナデ。	5YR 7/4 にぶい橙 ~2.5YR 7/8 橙	砂粒多含
256 57-010	陶器 山茶碗	R40	口径: 16.5前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	N7/ 灰白	砂粒少含
257 57-011	陶器 山茶碗	R40	台径: 7.2 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面ナデ。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SE79 (井戸)

258 79-002	陶器 山茶碗	Q48	台径: 8.0 (1/7)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデか。知多産か。	N 7/ 灰白	細砂粒含
259 79-001	土師器 鍋	Q48	口径: 33.0前後 (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ハケ目ナデ消し。外面煤付着。	外: 2.5Y 7/3 浅黄橙 内: 10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含

SE90 (井戸)

260 90-001	土師器 小皿C	R57	口径: 7.5~7.9 器高: 1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
261 90-003	土師器 小皿C	R57	口径: 7.9 器高: 1.3 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
262 90-004	土師器 小皿C	R57	口径: 7.5前後 器高: 1.0 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
263 90-008	土師器 小皿C	R57	口径: 7.8 器高: 0.9~1.3 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
264 90-007	土師器 皿C	R57	口径: 10.6 器高: 2.4 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒少含
265 90-009	土師器 皿C	R57	口径: 11.7 器高: 2.3 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
266 90-010	土師器 皿C	R57	口径: 12.0 器高: 2.3 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
267 90-011	土師器 皿C	R57	口径: 11.6 器高: 2.4 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
268 90-012	土師器 皿C	R57	口径: 12.0 器高: 2.4 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。外面の磨減激しく調整不明瞭。	10YR 7/2 にぶい黄橙	細砂粒多含
269 90-014	土師器 皿C	R57	口径: 12.3 器高: 2.7 (1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
270 90-015	土師器 鍋	R57	口径: 16.8 (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面薄いハケ目、内面オサエ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
271 90-017	土師器 鍋	R57	口径: 23.0前後 (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
272 90-016	土師器 鍋	R57	口径: 27.0前後 (1/10)	口頸部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目ナデ消し。外面に煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
273 90-018	土師器 鍋	R57	口径: 30.0前後 (1/12)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
274 90-020	土師器 鍋	R57	口径: 32.0前後 (1/6)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
275 90-022	土師器 鍋	R57	口径: 22.0前後 (1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。	外: 10YR 6/2 灰黄褐 内: 10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
276 90-021	土師器 鍋	R57	口径: 21.0前後 (1/16)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。	外: 10YR 5/2 灰黄褐 内: 10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
277 90-026	陶器 山茶碗	R57	台径: 6.5 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部切痕多い。渥美産か。	5 Y 6/1 灰	砂粒含
278 90-024	陶器 山茶碗	R57	台径: 7.8 (3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部切痕多い。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒多含
279 90-025	陶器 片口鉢	R57	台径: 11.0前後 (1/4)	外面ケズリ、内面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
280 90-031	瓦質土器 火鉢	R57	(底部片)	内外面ナデ。脚部1箇所残存。三脚か。	断面: 7.5Y 8/1 灰白	砂粒少含
281 90-030	陶器 折縁深皿	R57	口径: 30.0前後 器高: 7.1 底径: 22.0前後 (1/26) (1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面オサエ後軽いナデ。全面施釉。瀬戸産。	釉: 7.5Y 7/2 灰白 胎土: 10YR 8/2 灰白	砂粒少含
282 90-028	陶器 甕	R57	口径: 31.0前後 (1/8)	内外面回転ナデ。知多産。	釉: 7.5Y 4/2 灰オリーブ 胎土: 10Y 7/1 灰白	細砂粒含
283 90-032	陶器 青磁碗	R57	台径: 5.0 (完存)	高台端部~高台内面露胎。体部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉: 10Y 7/1 灰白 胎土: 10Y 5/2 オリーブ灰	砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

SE134 (井戸)

284 134-001	土師器 小皿C	M70	口径:7.6 器高:1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
285 134-002	土師器 小皿C	M70	口径:7.6 器高:1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
286 134-004	土師器 小皿C	M70	口径:7.9 器高:1.3	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
287 134-003	土師器 小皿C	M70	口径:9.2 器高:1.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
288 134-017	土師器 台付小皿	M70	口径:9.7 器高:2.6 台径:4.7	(1/2) (1/3)	内外面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
289 134-008	土師器 皿C	M70	口径:11.4 器高:2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
290 134-011	土師器 皿C	M70	口径:11.7 器高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
291 134-010	土師器 皿C	M70	口径:11.8 器高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
292 134-012	土師器 皿B <sub>2</sub>	M70	口径:12.8 器高:2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
293 134-026	土師器 盤	M70・N70	口径:35.0前後	(1/7)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
294 134-024	土師器 鍋	M70	口径:33.0前後	(1/8)	口頸部内面～口縁部外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
295 134-020	土師器 鍋	M70	口径:22.0前後	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
296 134-021	土師器 鍋	M70	口径:27.0	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	外:10YR 6/2 灰黄褐 内:10YR 8/2 灰白	細砂粒含
297 134-023	土師器 鍋	M70	口径:29.2	(1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	外:10YR 7/3 にぶい黄橙 内:10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
298 134-022	土師器 鍋	M70	口径:22.8 体径:26.9	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。体部外面下半は軽いケズリか。外面煤厚く付着。	外:10YR 6/2 灰黄褐 内:10YR 8/2 灰白	砂粒多含
299 134-016	土師器 火鉢	M70		(口縁部片)	外面は縦方向ハケ目後印花文、内面ナデ。口縁部横方向ヘラミガキ。	2.5YR 7/6 橙	砂粒含
300 134-019	陶器 片口鉢	M70	口径:29.0前後	(1/6)	外面ハケ目後粗いナデ。口縁部内外面ヨコナデ。知多産。	外:2.5YR 5/4 にぶい赤褐 内:2.5YR 4/3 にぶい赤褐	砂粒多含
301 134-018	陶器 甕	M70	口径:42.0前後	(1/8)	内外面回転ナデ。信楽産か。	2.5Y 6/4 にぶい橙	砂粒含
302 134-029	石製品 鍋	M70		(体部片)	内面平滑、外面にケズリ痕残る。径4mmの孔有り。外面に煤付着。		葉臘石製
303 134-028	石製品 砥石	M70	残存長7.3cm、幅3.5cm、厚1.0cm				細粒砂岩製

SE157 (井戸・中世墓?)

304 157-001	土師器 小皿C	N75	口径:7.0~7.9 器高:1.4~1.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
305 157-002	土師器 小皿C	N75	口径:7.5 器高:1.4	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
306 157-003	土師器 小皿C	N75	口径:7.5 器高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部油煙付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
307 157-004	土師器 小皿C	N75	口径:7.5 器高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部油煙付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
308 157-005	土師器 小皿C	N75	口径:7.6~7.9 器高:1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
309 157-007	土師器 小皿C	N75	口径:7.1 器高:1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
310 157-014	土師器 皿B <sub>2</sub>	N75	口径:11.9~12.1 器高:2.4~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
311 157-009	土師器 皿C	N75	口径:11.2 器高:2.4~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に指頭ナデ。	10YR 8/1 灰白	細砂粒含
312 157-010	土師器 皿C	N75	口径:11.3 器高:2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒含



遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
313 157-011	土師器 皿C	N75	口径: 11.0~12.0 器高: 2.4~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
314 157-012	土師器 皿C	N75	口径: 11.0~11.4 器高: 2.3~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ。外面に板状圧痕。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒含
315 157-015	土師器 皿C	N75	口径: 11.2~11.5 器高: 2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒少含
316 157-026	土師器 鍋	N75	口径: 20.3 体径: 21.3	(1/3) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目。体部外面ナデとハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/1 灰白	砂粒多含
317 157-025	土師器 鍋	N75	口径: 22.2 器高: 2.7 体径: 21.7	(1/2) (完存)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤薄く付着。	10YR 8/1 灰白	細砂粒多含
318 157-028	土師器 鍋	N75	口径: 21.5前後 体径: 18.7	(1/12) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面板ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	7.5YR 7/2 灰白	細砂粒多含
319 157-027	土師器 鍋	N75	口径: 23.7 体径: 24.0	(2/5) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/2 灰白	細砂粒多含
320 157-029	土師器 三足付盤	N75	口径: 37.2 底径: 25.5	(1/3) (1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面粗いハケ目、内面ハケ目ナデ消し。底部外面粗いハケ目後部分的にケズリ。底部外面に足部の剝離痕1か所残存。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
321 157-033	瓦質土器 火鉢	N75		(口縁部片)	内外面横方向ミガキ。外面に印花文。	7.5Y 6/1 灰	微砂粒含
322 157-034	瓦質土器 火鉢	N75		(口縁部片)	内外面横方向ミガキ。外面に印花文。	2.5Y 7/2 灰黄	微砂粒含
323 157-016	陶器 四耳壺	N75	口径: 12.4	(1/4)	口頸部内外面ロクロナデ後灰釉を施軸。瀬戸産。	釉: 10YR 7/6 明黄褐	微砂粒少含
324 157-030	陶器 甕	N75		(口縁部片)	内外面回転ナデ。肩部に釉厚く付着。知多産。	外: 10YR 5/2 灰黄褐 内: 10YR 6/3 にぶい黄橙	砂粒含
325 157-017	磁器 青磁碗	N75	台径: 6.2	(1/4)	高台端部露胎。外面に蓮弁文。内面に双鱼貼付文。竜泉窯系。	釉: 7.5GY 明黄褐 胎土: 10Y 7/1 灰白	精 良
326 157-018	石製品 鍋	N75	口径: 22.0前後 鏝径: 23.0前後	(1/12) (1/12)	内面は平滑、外面にケズリ痕明瞭に残る。外面に煤付着。底部内面に炭化物付着。		葉臘石製
327 157-023	鉄製品 釘	N75	全長6.3cm。断面方向。(完存)				鉄 製

SE172 (井戸)

328 172-078	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 8.0 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒多含
329 172-076	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 8.0 器高: 1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	砂粒多含
330 172-079	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.5~8.0 器高: 1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	砂粒少含
331 172-082	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.5~8.0 器高: 1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	砂粒含
332 172-080	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.0 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒含
333 172-029	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.2~8.0 器高: 0.9~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
334 172-024	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 6.9~7.4 器高: 0.6~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	5 YR 7/6 橙	細砂粒含
335 172-048	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.7~8.0 器高: 0.7~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 8/4 淡橙	砂粒含
336 172-028	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 8.4~8.7 器高: 0.5~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
337 172-071	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 6.9 器高: 0.4~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。外面油煙付着。	5 YR 8/4 淡橙	砂粒含
338 172-020	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.2~7.8 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
339 172-025	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.5 器高: 1.2~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
340 172-063	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 7.2~7.5 器高: 0.7~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	5 YR 7/6 橙 ~2.5YR 6/6 にぶい橙	砂粒多含
341 172-102	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 8.0 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
342 172-114	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.9 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。内面油煙付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
343 172-119	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.2~12.7 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。内外面油煙付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
344 172-117	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 13.1~13.8 器高: 3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
345 172-124	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 13.2 器高: 2.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。内外面油煙付着。	10YR 7/2 にぶい黄橙	細砂粒含
346 172-128	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.4 器高: 2.0~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状庄痕。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
347 172-129	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.5~13.0 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 7/6 橙	微砂粒少含
348 172-139	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.8~13.5 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。内面油煙付着。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒少含
349 172-132	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.4 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5Y 7/6 橙	微砂粒少含
350 172-142	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.4 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 6/4 にぶい黄橙	砂粒含
351 172-146	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 13.0 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状庄痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒少含
352 172-150	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 11.7~12.1 器高: 2.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状庄痕。	7.5YR 7/6 橙	砂粒少含
353 172-151	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 13.0~13.8 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 6/8 橙	砂粒含
354 172-158	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.8~13.1 器高: 2.3~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
355 172-164	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 12.5~13.2 器高: 2.3~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。内面油煙付着。	5 YR 7/6 橙	細砂粒含
356 172-155	土師器 皿B <sub>2</sub>	T68	口径: 13.8 器高: 3.0~3.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
357 172-167	土師器 鍋	T68	口径: 18.1 器高: 9.1 体径: 17.6	(5/6) (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙 ~7.5YR 6/2 灰褐	砂粒多含
358 172-175	土師器 鍋	T68	口径: 16.9~18.0 器高: 9.6 体径: 17.6	(5/6) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙 ~10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
359 172-168	土師器 鍋	T68	口径: 18.7 器高: 10.5前後 体径: 19.3	(1/4) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄橙 ~7.5YR 5/2 灰褐	砂粒多含
360 172-165	土師器 鍋	T68	口径: 23.0 体径: 25.7	(1/2) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部内外面ケズリ。外面煤付着。器壁の磨滅進み調整不明瞭。	5 YR 6/2 灰褐	砂粒多含
361 172-170	土師器 鍋	T68	口径: 23.4 器高: 14.7 体径: 25.5	(5/6) (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面軽いケズリ。外面煤付着。	7.5YR 6/2 灰褐	砂粒多含
362 172-173	土師器 鍋	T68	口径: 23.0 体径: 25.5	(1/2) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
363 172-176	土師器 鍋	T68	口径: 24.8 体径: 26.7	(完存) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部内外面ケズリ。外面に煤付着。	7.5YR 7/6 明褐灰	砂粒多含
364 172-174	土師器 鍋	T68	口径: 27.4 体径: 30.5	(1/5) (5/6)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部外面ケズリとナデ、内面軽いケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙 ~10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
365 172-172	土師器 鍋	T68	口径: 27.2	(1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目とナデ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 6/2 灰黄褐 ~10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
366 172-171	土師器 鍋	T68	口径: 24.8 器高: 17.3 体径: 26.6	(1/2) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面板ナデ状の薄いハケ目、内面ナデ。底部内外面軽いケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
367 172-009	陶器 山皿	T68	口径: 8.0 器高: 1.7 底径: 4.4	(5/6) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	10Y 7/1 灰白	細砂粒含
368 172-010	陶器 山皿	T68	口径: 7.9 器高: 1.9 底径: 5.0~5.5	(1/3) (2/3)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	N7/ 灰白	砂粒含
369 172-001	陶器 山茶碗	T68	口径: 15.1 器高: 4.8 台径: 6.8~7.0	(3/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面ナデ。高台端部靱殻痕。知多産か。	7.5Y 7/1 明褐灰	砂粒多含
370 172-002	陶器 山茶碗	T68	口径: 15.4 器高: 5.2 台径: 6.5	(3/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	7.5Y 7/1 明褐灰	砂粒多含
371 172-003	陶器 山茶碗	T68	口径: 14.8 器高: 4.8 台径: 6.4~6.7	(3/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
372 172-004	陶器 山茶碗	T68	口径: 14.3 器高: 4.7 台径: 5.9	(1/3) (1/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
373 172-005	陶器 山茶碗	T68	口径: 15.2 器高: 5.2 台径: 7.4	(1/6) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕、湿美産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
374 172-006	陶器 山茶椀	T68	口径：15.0 (3/7) 器高：4.8 台径：6.5 (3/5)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面ナデ。高台端部刳殻痕多い。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
375 172-007	陶器 山茶椀	T68	口径：15.8 (2/5) 器高：4.8 台径：7.3 (2/5)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部刳殻痕。知多産か。	N7/ 灰白	砂粒多含
376 172-008	陶器 山茶椀	T68	口径：15.0前後 (1/4) 器高：5.0前後 台径：8.0前後 (1/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
377 172-013	陶器 壺	T68	口径：10.0前後 (1/12)	内外面ロクロナデ。猿投産四耳壺か。	N7/ 灰白	細砂粒含
378 172-012	陶器 壺	T68	底径：7.2~7.9 (底部のみ完存)	内外面ロクロナデ。底部外面オサエ。猿投産三筋壺か。	N7/ 灰白	砂粒少含
379 172-011	陶器 片口鉢	T68	台径：30.0 (1/3)	内外面ロクロナデ。外面下位ロクロケズリ。内面の器壁荒れる。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
380 172-014	陶器 青磁椀	T68	口径：15.8 (1/4)	内外面施釉。内面にヘラ描文。竜泉窯系。	釉：7.5GY 6/1 褐灰 胎土：7.5Y 6/1 灰	精 良
381 172-177	土製品 支脚	T68	台径：10.9 (1/2)	台部内外面オサエ、台端部ナデ。	7.5YR 7/6 橙	砂粒含

SE192 (井戸)

382 192-001	磁器 白磁椀	P86	口径：15.0 (1/16)	内外面施釉。内面に櫛描文。景德鎮産。	釉：10Y 7/1 灰白 胎土：10Y 7/1 灰白	精 良
----------------	-----------	-----	----------------	--------------------	-------------------------------	-----

SE193 (井戸)

383 193-068	土師器 小皿A	O81	口径：8.8 (2/5) 器高：1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
384 193-055	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：6.5~7.0 (完存) 器高：0.8~1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒少含
385 193-056	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.8 (完存) 器高：1.4~1.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	砂粒少含
386 193-057	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：6.5~6.8 (完存) 器高：0.8	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
387 193-051	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.6~7.9 (5/6) 器高：1.3~1.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。外面に藁痕多い。	7.5YR 6/6 橙	細砂粒含
388 193-062	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：8.0~8.3 (完存) 器高：1.1~1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
389 193-064	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.4~7.6 (完存) 器高：1.0~1.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 6/4 にぶい橙	細砂粒多含
390 193-065	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.3~8.0 (完存) 器高：1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	細砂粒含
391 193-067	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.2 (1/2) 器高：0.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒含
392 193-069	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.1 (1/2) 器高：1.2~1.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 6/8 橙	微砂粒含
393 193-070	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.0~7.4 (1/2) 器高：1.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	2.5YR 7/8 橙	微砂粒含
394 193-071	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.2~7.9 (1/2) 器高：1.0~1.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	2.5YR 7/8 橙	微砂粒含
395 193-074	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O81	口径：7.0~7.4 (1/2) 器高：0.9~1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。内面油煙付着。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒少含
396 193-049	土師器 小皿C	O81	口径：7.2~7.7 (1/2) 器高：0.9~1.1	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
397 193-060	土師器 小皿C	O81	口径：7.2~7.4 (1/2) 器高：1.1~1.3	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
398 193-052	土師器 小皿C	O81	口径：7.7~8.0 (9/10) 器高：1.4	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
399 193-053	土師器 小皿C	O81	口径：7.0~7.4 (3/4) 器高：1.5	外面オサエ、内面ナデ。外面藁痕。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒含
400 193-058	土師器 小皿C	O81	口径：7.7~8.3 (完存) 器高：1.2~1.4	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
401 193-059	土師器 小皿C	O81	口径：7.8~8.5 (完存) 器高：1.5	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
402 193-061	土師器 小皿C	O81	口径：7.5~7.7 (3/5) 器高：0.8~1.0	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/6 橙	細砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
403 193-066	土師器 小皿C	O81	口径: 8.1 (9/10) 器高: 1.1~1.3	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
404 193-078	土師器 小皿C	O81	口径: 7.4~7.5 (完存) 器高: 1.0	外面オサエ、内面ナデ。内面油煙付着。	10YR 7/4 にぶい橙	砂粒少含
405 193-084	土師器 台付小皿	O81	口径: 8.8 (2/3) 器高: 4.4 (3/4) 台径: 7.5~7.8	内外面ナデ。皿部端部ヨコナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
406 193-083	土師器 ?	O81	台径: 4.5 (完存)	高台のみ残存。鍋蓋のツمامिका。	7.5YR 7/4 にぶい橙	精 良
407 193-024	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.2~12.6 (完存) 器高: 2.4~2.8	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒少含
408 193-025	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.4~12.6 (完存) 器高: 2.4~3.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
409 193-027	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.2~13.0 (完存) 器高: 2.3~2.8	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
410 193-047	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 13.5 (3/5) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
411 193-033	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.7~13.2 (完存) 器高: 3.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
412 193-039	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 13.5~13.7 (完存) 器高: 2.6~3.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。内外面に油煙付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
413 193-046	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.7~12.9 (完存) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
414 193-038	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.3 (完存) 器高: 2.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
415 193-040	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.7 (9/10) 器高: 3.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
416 193-041	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.4 (5/6) 器高: 3.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。器壁の磨減進む。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
417 193-042	土師器 皿B <sub>2</sub>	O81	口径: 12.8 (2/5) 器高: 2.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒含
418 193-043	土師器 皿C	O81	口径: 12.2~12.4 (完存) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/1 灰白	砂粒少含
419 193-044	土師器 皿C	O81	口径: 11.6~12.4 (完存) 器高: 2.3	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
420 193-028	土師器 皿C	O81	口径: 11.6~12.4 (完存) 器高: 2.3~2.8	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒少含
421 193-030	土師器 皿C	O81	口径: 11.9~12.5 (完存) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
422 193-026	土師器 皿C	O81	口径: 12.7 (完存) 器高: 2.1~2.7	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少含
423 193-031	土師器 皿C	O81	口径: 11.8~12.0 (完存) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
424 193-032	土師器 皿C	O81	口径: 12.0 (2/3) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
425 193-036	土師器 皿C	O81	口径: 12.1~12.5 (3/4) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
426 193-037	土師器 皿C	O81	口径: 11.7 (2/3) 器高: 2.0~2.5	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
427 193-034	土師器 皿C	O81	口径: 12.1 (3/5) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
428 193-096	土師器 羽釜	O81	口径: 24.6 (1/4) 鍔径: 29.4 (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ケズリ。外面に煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
429 193-097	土師器 鍋	O81	口径: 28.7 (3/4) 体径: 26.3 (1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
430 193-100	土師器 鍋	O81	口径: 16.0 (1/4) 体径: 14.9 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
431 193-103	土師器 鍋	O81	口径: 18.0 (1/6) 体径: 17.6 (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
432 193-102	土師器 鍋	O81	口径: 17.2 (1/5) 体径: 17.4 (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
433 193-101	土師器 鍋	O81	口径: 20.0 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面板ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
434 193-104	土師器 鍋	O81	口径: 19.0 体径: 19.2	(1/5) (1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	10YR 7/2 にぶい黄橙	細砂粒多含
435 193-105	土師器 鍋	O81	口径: 20.8 体径: 20.4	(1/3) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒含
436 193-108	土師器 鍋	O81	口径: 23.0 体径: 26.4	(1/4) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/3 淡黄 ~10YR 5/2 灰黄褐	砂粒含
437 193-090	土師器 鍋	O81	口径: 25.2 体径: 27.6	(1/3) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
438 193-091	土師器 鍋	O81	口径: 24.8 体径: 24.8	(1/6) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。器壁煤付着せず。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
439 193-096	土師器 鍋	O81	口径: 24.7	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
440 193-087	土師器 鍋	O81	口径: 23.7 器高: 14.0前後 体径: 23.7	(1/3) (7/8)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面軽イケズリ。外面煤付着。	7.5YR 6/2 灰褐	砂粒多含
441 193-099	土師器 鍋	O81	口径: 27.8 体径: 27.2	(1/6) (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
442 193-098	土師器 鍋	O81	口径: 29.4	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
443 193-106	土師器 鍋	O81	口径: 26.2 体径: 30.6	(1/5) (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙 ~10YR 6/3 にぶい黄橙	砂粒多含
444 193-107	土師器 鍋	O81	口径: 27.8 体径: 30.5	(2/3) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 6/4 にぶい黄橙 ~10YR 4/4 にぶい褐色	砂粒多含
445 193-088	土師器 鍋	O81	口径: 36.8 体径: 37.6	(1/5) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
446 193-092	土師器 鍋	O81	口径: 39.0 体径: 35.0前後	(2/5) (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面薄く雑なハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
447 193-085	土師器 鍋	O81	口径: 38.7 体径: 41.0	(7/8) (3/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ後半雑なハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
448 193-086	土師器 鍋	O81	口径: 40.8 器高: 29.0前後 体径: 41.6	(2/3) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
449 193-011	陶器 片口小皿	O81	口径: 7.0 器高: 2.2 底径: 3.5	(1/4) (1/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	N7/ 灰白	微砂粒含
450 193-012	陶器 山皿	O81	口径: 8.2 器高: 1.2~1.4 底径: 5.1	(1/3) (1/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
451 193-013	陶器 山皿	O81	口径: 8.8 器高: 1.9 底径: 5.4	(1/6) (1/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
452 193-001	陶器 山茶碗	O81	口径: 15.9 器高: 5.0 台径: 6.8	(1/5) (1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部靱殻産。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒含
453 193-002	陶器 山茶碗	O81	口径: 15.3 器高: 4.6 台径: 7.4	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。口縁部に自然釉厚く付着。渥美産か。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒含
454 193-003	陶器 山茶碗	O81	口径: 16.4 器高: 5.3 台径: 6.8	(1/10) (7/8)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。猿投産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
455 193-005	陶器 山茶碗	O81	口径: 14.4 器高: 5.0 台径: 5.6	(1/3) (1/8)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台の剥落激しい。猿投産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
456 193-006	陶器 山茶碗	O81	口径: 15.8 器高: 4.9 台径: 8.0	(1/4) (3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10Y 6/1 灰	細砂粒少含
457 193-009	陶器 山茶碗	O81	口径: 14.7 器高: 4.6~5.1 台径: 7.0	(1/6) (1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
458 193-004	陶器 山茶碗	O81	口径: 15.2 器高: 4.9 (高台は完全に剥落)	(3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。外面に梅花?の墨書。知多産か。	7.5Y 6/1 灰	砂粒多含
459 193-015	陶器 三筋文鉢	O81	口径: 14.6	(1/8)	内外面回転ナデ。口頸部内外面に灰釉を施釉。渥美産。	N7/ 灰白	細砂粒含
460 193-023	陶器 甕	O81	口径: 56.7	(1/4)	内外面回転ナデ。口縁部内外面と肩部外面に灰釉を施釉。体部片も出土。渥美産。	5Y 5/1 灰	微砂粒多含
461 193-018	磁器 青磁皿	O81	口径: 9.2 器高: 2.0 底径: 5.2	(1/3) (完存)	外面下半ロクロケズリ。外面下半露胎。竜泉窯系。	釉: 7.5Y 7/3 浅黄 胎土: 7.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
462 193-016	磁器 青磁皿	O81	口径: 9.2 器高: 2.0 底径: 4.8	(1/8) (1/3)	外面下半ロクロケズリ。外面下半露胎。竜泉窯系。	釉: 10GY 7/1 明緑灰 胎土: 10Y 7/1 灰白	微砂粒含
463 193-021	磁器 青磁皿	O81	口径: 11.0 器高: 2.4 底径: 5.0	(1/6) (1/6)	外面下半面ロクロケズリ。内面にヘラ描文と櫛描文。底部外面露胎。同安窯系。	釉: 5GY 6/1 オリーブ灰 胎土: N7/ 灰白	微砂粒少含
464 193-020	磁器 白磁碗	O81	口径: 9.9 器高: 5.0 台径: 4.6	(2/5) (1/4)	外面下半面ロクロケズリ。口縁部内外面に各1条の沈線。高台部露胎。	釉: 2.5Y 8/1 灰白 胎土: 10Y 8/1 灰白	精 良

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
465 193-017	磁器 青磁碗	○81	台径：15.0	(1/4)	口縁端部内面に1条の沈線。内外面施釉。竜泉窯系。	釉：5GY 7/1 明オリブ灰 胎土：7.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
466 193-022	磁器 青磁碗	○81	口径：15.6	(1/5)	口縁端部内面に1条の沈線。内外面施釉。竜泉窯系。	釉：7.5Y 5/3 灰オリブ 胎土：N6/ 灰	微砂粒少含
467 193-019	磁器 青磁碗	○81	口径：16.3	(1/4)	内外面施釉。体部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉：10Y 5/2 オリブ灰 胎土：10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SE194 (井戸)

468 193-004	土師器 小皿B <sub>2</sub>	○84	口径：8.2 器高：1.9	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙 ~10YR 6/1 褐灰	砂粒少含
469 194-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	○84	口径：11.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒少含
470 194-009	土師器 鍋	○84	口径：22.8	(2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
471 194-011	土師器 鍋	○84	口径：28.0前後	(1/7)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
472 194-010	土師器 鍋	○84	口径：29.0前後	(1/16)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
473 194-004	陶器 山茶碗	○84	口径：16.8前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
474 194-006	陶器 山茶碗	○84	台径：7.8	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部稜波痕。渥美産か。	2.5Y 8/1 灰白 ~2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
475 194-005	陶器 山茶碗	○84	台径：8.0	(完存)	内外面ロクロナデ。高台端部砂粒痕。底部外面に墨書「〇」。渥美産か。	5Y 7/1 灰白 ~5Y 6/1 灰白	微砂粒含
476 194-007	陶器 片口鉢	○84	口径：31.4	(1/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ロクロヘラケズリ。渥美産か。	5Y 6/1 灰白	細砂粒少含
477 194-008	陶器 片口鉢	○84	口径：30.0 器高：15.5 台径：13.5	(1/6) (1/4)	内外面ロクロナデ。外面下半ロクロケズリ。知多産か。	5Y 7/1 灰白	砂粒多含

SE207 (井戸・中世墓?)

478 207-005	土師器 小皿C	○75	口径：7.0~7.5 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒少含
479 207-002	土師器 皿C	○75	口径：12.0 器高：2.2	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
480 207-001	土師器 皿C	○75	口径：11.6 器高：2.4	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
481 207-004	土師器 皿C	○75	口径：11.7 器高：2.7	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
482 207-007	土師器 鍋	○75	口径：22.5前後	(1/10)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
483 207-010	土師器 鍋	○75	口径：22.5前後	(1/12)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
484 207-013	土師器 鍋	○75	口径：22.0前後	(1/16)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5Y 8/1 灰白	細砂粒多含
485 207-012	土師器 鍋	○75	口径：26.0前後	(1/14)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒含
486 207-014	陶器 山茶碗	○75	口径：14.0前後	(1/14)	内外面ロクロナデ。知多産か。	N8/ 灰白	細砂粒多含
487 207-008	陶器 山茶碗	○75	台径：5.5前後	(2/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台はかなり雑。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
488 207-009	磁器 青磁碗	○75	口径：11.2前後	(1/6)	内外面施釉。外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉：N7/ 灰 胎土：10Y 5/1 灰	微砂粒少含

SX5 (中世墓)

489 005-003	土師器 小皿C	U88	口径：7.8 器高：1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
490 005-001	土師器 小皿C	U88	口径：11.7 器高：2.2	(7/10)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
491 005-002	土師器 小皿C	U88	口径：12.4 器高：2.6	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
492 005-005	土師器 鍋	U88	口径：29.2 器高：16.7 体径：34.0	(1/4) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ後ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面軽いケズリ。底部に径3mm程の穿孔4か所(焼成後)。器壁煤付着せず。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
493 005-006	陶器 山茶碗	U88	台径:7.0前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	5Y 7/1 灰白	砂粒含

SX28 (中世墓)

494 028-001	陶器 甕	S70・T69		(口頸部1/5)	内外面回転ナデ。体部と底部片も出土。知多産。	5YR 4/4 にぶい赤褐 ~5Y 5/3 灰オリーブ	砂粒含
----------------	---------	---------	--	----------	------------------------	--------------------------------	-----

SX38 (中世墓)

495 038-002	陶器 甕	W59		(口頸部片)	内外面回転ナデ。知多産か。	2.5YR 5/4 にぶい赤褐 ~5Y 4/4 暗オリーブ	砂粒含
496 038-001	須恵質 壺	W59	口径:14.6	(1/6)	内外面ロクロナデ。	5Y 5/1 灰	砂粒含
497 038-005	陶器 山茶碗	W59	台径:8.3	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕多い。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒含
498 038-003	磁器 白磁四耳壺	W59	台径:7.3	(完存)	高台部露胎。	釉:5GY 8/1 灰白 胎土:N8/ 灰白	精良

SX40 (中世墓)

499 040-004	土師器 小皿C	V29	口径:8.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
500 040-005	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V29	口径:8.2 器高:1.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
501 040-001	土師器 皿C	V29	口径:10.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒少含
502 040-002	土師器 皿C	V29	口径:11.0 器高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
503 040-003	土師器 皿B <sub>1</sub>	V29	口径:13.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
504 040-006	土師器 鍋	V29	口径:23.0前後 体径:24.0前後	(1/8) (1/16)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ後ナデ、内面ナデ。外面全体煤付着。	10YR 7/1 灰白	砂粒含
505 040-007	陶器 山皿	V29	口径:8.0 器高:1.2 底径:4.8	(1/5) (1/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒少含

SX41 (中世墓)

506 041-004	土師器 小皿C	T21	口径:6.6~7.0 器高:1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
507 041-006	土師器 小皿C	T21	口径:7.8 器高:0.9~1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
508 041-005	土師器 小皿C	T21	口径:7.9 器高:0.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒少含
509 041-002	土師器 皿C	T21	口径:12.0 器高:2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
510 041-001	土師器 皿C	T21	口径:10.7~11.5 器高:2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	砂粒含
511 041-003	土師器 皿C	T21	口径:10.0 器高:2.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
512 041-009	土師器 焙烙	T21		(口頸部片)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	細砂粒含
513 041-008	土師器 鍋	T21	口径:23.3	(1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含

SX44 (中世墓)

514 044-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V25	口径:8.3~9.0 器高:1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
515 044-002	陶器 山茶碗	V25	台径:6.1	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部靱殻痕。知多産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含

SX46 (中世墓)

516 046-008	土師器 小皿A	W47	口径:8.6 器高:1.0~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/1 灰白	細砂粒多含
517 046-005	土師器 小皿C	W47	口径:8.0~8.5 器高:1.4	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
518 046-006	土師器 小皿C	W47	口径: 8.4~8.7 器高: 0.9~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
519 046-007	土師器 小皿C	W47	口径: 8.1~8.6 器高: 0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
520 046-009	土師器 小皿C	W47	口径: 8.2~8.7 器高: 0.9~1.9	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	砂粒含
521 046-010	土師器 小皿C	W47	口径: 7.8 器高: 1.3	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
522 046-001	土師器 皿C	W47	口径: 12.6 器高: 2.6~2.9	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
523 046-002	土師器 皿C	W47	口径: 12.2 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒少含
524 046-004	土師器 皿C	W47	口径: 12.3~12.9 器高: 2.8~3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内外面油煙付着。	外: 10YR 3/1 黒褐色 内: 10YR 8/2 灰白	細砂粒含
525 046-003	土師器 皿C	W47	口径: 12.0~12.4 器高: 2.3~2.7	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
526 046-012	土師器 鍋	W47	口径: 22.8 器高: 14.4 体径: 25.5	(3/5) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/1 灰白	砂粒多含
527 046-013	土師器 鍋	W47	口径: 24.1 器高: 13.0 体径: 25.4	(2/5) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ、内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
528 059-046	陶器 山皿	W47	口径: 8.2 器高: 2.1 底径: 4.4	(1/12) (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕か。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒少含

S X 5 9 (中世墓)

529 059-001	土師器 皿C	W49	口径: 12.0前後 器高: 2.2	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒含
530 059-002	土師器 鍋	W49	口径: 25.0前後	(1/12)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含

S X 6 3 (中世墓)

531 063-001	土師器 皿C	W49	口径: 12.2 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部油煙付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙 ~10YR 6/2 灰黄褐	微砂粒含
532 063-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	W49	口径: 13.0前後 器高: 2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。内外面煤付着。	7.5YR 3/2 黒褐色 ~7.5YR 4/2 灰褐色	微砂粒多含

S X 6 4 (中世墓)

533 064-001	土師器 小皿C	U24	口径: 8.2 器高: 1.1	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
534 064-002	土師器 鍋	U24	口径: 37.0前後 器高: 31.0前後 体径: 38.5前後	(1/3) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。	5 YR 8/4 淡橙	砂粒含

S X 6 7 (中世墓)

535 067-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	S48	口径: 13.2 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒少含
536 067-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	S48	口径: 13.2 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	5 YR 7/6 橙	微砂粒少含
537 067-003	土師器 鍋	S48	口径: 24.2 体径: 25.4	(9/10) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面板ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒含

S X 7 0 (中世墓)

538 070-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V74	口径: 8.0~8.4 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
539 070-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V74	口径: 8.9 器高: 1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 7/6 明黄褐	細砂粒含
540 070-003	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V74	口径: 16.0 器高: 3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。山茶碗の蓋として転用。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
541 070-004	陶器 山茶碗	V74	口径: 16.5~17.0 体径: 6.0 台径: 8.5	(11/12) (完存)	内外面ロクロナデ。口縁部に灰釉の漬け掛け3か所、指押しえによる輪花4か所。底部外面糸切り痕。高台端部稜破痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒少含

S X 7 7 (中世墓)

542 077-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	P46	口径: 13.0前後 器高: 2.2	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒少含
----------------	------------------------	-----	-----------------------	-------	-------------------------	----------------	------



遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S X 7 8 (中世墓)

543 078-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	Q47	口径: 7.4 器高: 1.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁端部油煙付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒含
544 078-002	土師器 皿B <sub>1</sub>	Q47	口径: 14.8 器高: 2.4	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	細砂粒多含

S X 9 2 (中世墓)

545 092-001	磁器 青磁碗	S54	口径: 16.1 器高: 6.6 台径: 5.8	(11/12) (完存)	体部外面に蓮弁文。高台端部~高台内面露胎。高台内面にハマ痕。竜泉窯系。	釉: 5GY 6/1 オリーブ灰 胎土: N7/ 灰	精 良
----------------	-----------	-----	--------------------------------	-----------------	-------------------------------------	-------------------------------	-----

S X 9 6 (中世墓)

546 096-001	土師器 鍋	Q55	口径: 38.6	(口縁端欠損) (5/6)	体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
----------------	----------	-----	----------	------------------	----------------------------	----------------	-------

S X 1 0 6 (中世墓)

547 106-004	土師器 小皿C	K66	口径: 7.2~8.0 器高: 1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
548 106-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	K66	口径: 8.9 器高: 1.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁端油煙付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
549 106-001	土師器 皿C	J66	口径: 11.0~11.4 器高: 2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
550 106-002	土師器 皿C	J66	口径: 12.0 器高: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
551 106-005	土師器 鍋	K66	口径: 34.0前後 体径: 35.2	(1/12) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含

S X 1 2 0 (中世墓)

552 120-004	土師器 小皿C	I74	口径: 7.2~7.8 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
553 120-001	土師器 皿C	I74	口径: 11.8~12.4 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒少含
554 120-002	土師器 皿C	I74	口径: 11.6~11.8 器高: 2.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
555 120-003	土師器 皿C	I74	口径: 11.4~12.4 器高: 2.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
556 120-005	土師器 杯	I74	口径: 10.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
557 120-008	土師器 ミニチュア深釜	I74	口径: 6.5前後 鑄径: 8.0前後	(1/10) (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
558 120-006	陶器 山茶碗	I74	口径: 15.0 器高: 5.8 台径: 6.4	(3/5) (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部に靱殻痕多い。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含

S X 1 3 8 (中世墓)

559 138-002	土師器 皿C	K66	口径: 11.2 器高: 2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
560 138-001	土師器 皿C	K66	口径: 12.0 器高: 2.0	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含

S X 1 4 0 (中世墓)

561 140-001	土師器 皿C	J66	口径: 11.1 器高: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
562 140-002	土師器 皿C	J66	口径: 10.4 器高: 2.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
563 140-005	土師器 鍋	J66	口径: 31.5	(7/10)	口頸部内外面ヨコナデ。頸部内面にハケ目残る。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	外: 10YR 7/4 にぶい黄橙 内: 2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
564 140-006	土師器 鍋	J66	口径: 21.3 器高: 13.1 体径: 23.1	(2/5) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。底部内面炭化物付着。	10YR 7/2 にぶい黄橙 ~7.5YR 6/4 にぶい橙	砂粒含

S X 1 4 9 (中世墓)

565 149-007	土師器 小皿C	L68	口径: 7.3~8.0 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	細砂粒少含
----------------	------------	-----	------------------------	------	-------------	---------------	-------

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
566 149-008	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L68	口径:7.6 器高:1.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
567 149-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	L68	口径:12.6 器高:2.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
568 149-002	土師器 皿C	L68	口径:12.4 器高:2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
569 149-003	土師器 皿C	L68	口径:12.0~12.8 器高:2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
570 149-004	土師器 皿C	L68	口径:12.4~12.6 器高:2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
571 149-005	土師器 皿C	L68	口径:12.4~12.7 器高:2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
572 149-006	土師器 皿C	L68	口径:12.7 器高:2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
573 149-011	土師器 鍋	L68	口径:40.2	(1/4)	内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙 ~7.5YR 6/3 にぶい褐	砂粒多含
574 149-010	土師器 盤	L68	口径:30.0前後 器高:3.7 底径:25.5前後	(1/8) (1/8)	内外面横方向ナデ。	2.5YR 8/3 浅黄	砂粒含
575 149-009	土師器 三足付盤	L68	口径:41.8 器高:13.0 底径:29.5	(2/3) (2/3)	外面オサエ、内面ナデ。脚部1か所、脚部剥離痕2か所残る。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
576 149-012	陶器 山茶碗	L68	口径:15.5 器高:5.3 台径:7.5	(1/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部割痕多い。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含

S X 1 5 1 (中世墓)

577 151-007	土師器 小皿	L68	口径:5.0 器高:0.7 底径:5.2	(3/4) (完存)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面オサエ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒少含
578 151-001	土師器 皿C	L68	口径:12.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
579 151-002	土師器 鍋	L68	口径:26.0前後	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
580 151-003	土師器 鍋	L68	口径:29.2	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。	10YR 7/2 にぶい橙	微砂粒多含
581 151-004	土師器 盤	L68	口径:25.0前後 器高:3.4 器高:20.0前後	(1/16) (1/8)	内外面ヨコナデ。底部外面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
582 151-005 151-006	土師器 三足付盤	L68	口径:33.0 器高:8.6 器高:23.0前後	(1/4) (1/8)	内外面横方向ナデ。脚部1か所残る。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
583 151-008	陶器 山茶碗	L68	台径:8.2	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部割痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒含

S X 1 5 2 (中世墓)

584 152-001	土師器 小皿C	M67	口径:7.9~8.3 器高:1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒少含
----------------	------------	-----	----------------------	------	-------------	--------------	-------

S X 1 6 2 (中世墓)

585 162-003	土師器 小皿C	N74	口径:8.0~7.7 器高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
586 162-004	土師器 小皿C	N74	口径:7.3~7.5 器高:1.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
587 162-005	土師器 小皿C	N74	口径:7.5 器高:0.9~1.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
588 162-006	土師器 小皿C	N74	口径:7.3~8.1 器高:0.8~1.0	(5/8)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
589 162-001	土師器 皿C	N74	口径:12.0 器高:2.4	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒少含
590 162-002	土師器 皿C	N74	口径:12.5 器高:2.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
591 162-007	土師器 鍋	N74	口径:16.2	(1/5)	器壁の磨減激しく調整不明。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含

S X 1 6 5 (中世墓)

592 165-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L68	口径:9.0前後 器高:1.1	(3/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	5YR 8/4 淡橙	砂粒含
----------------	-------------------------	-----	--------------------	-------	------------------------	------------	-----

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
593 165-004	土師器 小皿C	L68	口径: 7.8 (2/3) 器高: 0.7~0.9	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
594 165-001	土師器 皿C	L68	口径: 12.0 (7/8) 器高: 2.8	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
595 165-002	土師器 皿C	L68	口径: 11.5~11.8 (15/16) 器高: 2.3	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
596 165-005	土師器 鉢	L68	口径: 27.0前後 (1/10)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/2 明褐灰	細砂粒多含
597 165-007	陶器 片口鉢	L68	口径: 13.8 (1/4)	内外面ロクロナデ。底部付近外面ロクロケズリ。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒多含
598 165-006	瓦器 ミニチュア碗	L68	口径: 6.0前後 (1/9) 器高: 2.1 底径: 3.4 (1/4)	内外面ヨコナデ。底部外面ナデ。	5Y 6/1 灰	微砂粒少含
599 165-008	磁器 白磁皿	L68	口径: 7.2 (1/3) 器高: 1.3 台径: 3.0 (1/3)	内面に花文。底部外面露胎。景德鎮産。	10GY 8/1 明緑灰	精 良

S X 1 6 6 (中世墓)

600 166-001	土師器 皿C	N67	口径: 10.0前後 (1/6) 器高: 1.8	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
601 166-013-1	銭貨	N67	開元通寶、初鑄年代 武徳4年(621) 外径: 2.40cm、穿径0.65cm、量目2.25g			銅 製
602 166-013-2	銭貨	N67	開元通寶、初鑄年代 武徳4年(621) 外径: 2.40cm、穿径0.65cm、量目2.25g			銅 製
603 166-007	銭貨	N67	天聖元寶(真)、初鑄年代 天聖元年(1023) 外径: 2.45cm、穿径0.65cm、量目2.25g			銅 製
604 166-008	銭貨	N67	天聖元寶(篆)、初鑄年代 天聖元年(1023) 外径: 2.40cm、穿径0.65cm、量目1.48g (1/4欠損)			銅 製
605 166-009	銭貨	N67	景祐元寶(篆)、初鑄年代 景祐元年(1034) 外径: 2.55cm、穿径0.70cm、量目2.38g (一部欠損)			銅 製
606 166-005	銭貨	N67	治平元寶(篆)、初鑄年代 治平元年(1064) 外径: 2.35cm、穿径0.55cm、量目2.07g (一部欠損)			銅 製
607 166-006	銭貨	N67	治平元寶(篆)、初鑄年代 治平元年(1064) 外径: 2.30cm、穿径0.55cm、量目2.52g			銅 製
608 166-013-4	銭貨	N67	熙寧元寶(真)、初鑄年代 熙寧元年(1068) 外径: 2.50cm、穿径0.70cm、量目1.96g (一部欠損)			銅 製
609 166-013-3	銭貨	N67	元豊通寶(真)、初鑄年代 元豊元年(1078) 外径: 2.45cm、穿径0.65cm、量目3.83g			銅 製
610 166-002	銭貨	N67	元豊通寶(篆)、初鑄年代 元豊元年(1078) 外径: 2.45cm、穿径0.65cm、量目(611との計4.02g)			銅 製
611 166-003	銭貨	N67	元符通寶(真)、初鑄年代 元符元年(1098) 外径: 2.50cm、穿径0.70cm、量目(1/4欠損、610との計4.02g)			銅 製
612 166-010	銭貨	N67	聖宋元寶(篆)?、初鑄年代 建中靖国元年(1101) 外径: 2.40cm、穿径0.65cm、量目2.03g			銅 製
613 166-004	銭貨	N67	政和通寶(篆)、初鑄年代 政和元年(1111) 外径: 2.45cm、穿径0.60cm、量目2.46g			銅 製

S X 1 6 7 (中世墓)

614 167-003	土師器 小皿C	M67	口径: 6.9~7.4 (完存) 器高: 0.8~1.0	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
615 167-001	土師器 皿C	M67	口径: 11.2~11.4 (完存) 器高: 2.3	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
616 167-002	土師器 皿C	M67	口径: 11.9 (2/3) 器高: 2.0	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
617 167-004	鉄器 小刀	M67	残存長20.7cm、刀身部残存長17.5cm、刀身部幅2.6cm、棟幅0.5cm、基部厚0.6cm			鉄 製

S X 1 6 8 (中世墓)

618 168-012	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 8.2 (3/4) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
619 168-013	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 8.5 (1/2) 器高: 1.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
620 168-014	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 8.9 (3/4) 器高: 1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。口縁端部油煙付着。	2.5Y 8/3 淡橙	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
621 168-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 12.4~12.8 器高: 2.7~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
622 168-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 12.0~12.2 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
623 168-005	土師器 皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 11.9~12.2 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡橙	砂粒含
624 168-006	土師器 皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 12.0~12.5 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡橙	砂粒含
625 168-007	土師器 皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 12.1~12.5 器高: 2.7~3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡橙	細砂粒含
626 168-009	土師器 皿B <sub>2</sub>	L67	口径: 11.6~13.0 器高: 2.3~2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/3 淡橙	砂粒少含
627 168-010	土師器 皿C	L67	口径: 12.8 器高: 2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
628 168-001	土師器 皿C	L67	口径: 11.6~12.2 器高: 2.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
629 168-004	土師器 皿C	L67	口径: 12.3~12.8 器高: 2.3~2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡橙	砂粒含
630 168-008	土師器 皿C	L67	口径: 12.0~12.2 器高: 2.6	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
631 168-019	土師器 鍋	L67	口径: 26.8 口径: 30.5	(1/3) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
632 168-016	瓦器 ミニチュア甌	L67	口径: 5.8 口径: 9.8	(1/3) (1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 4/1 褐灰	微砂粒少含
633 168-015	陶器 入子	L67	口径: 5.6 器高: 1.5 口径: 3.4	(3/8) (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒少含
634 168-017	陶器 山茶碗	L67	口径: 16.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。知多産か。	5Y 7/1 灰白	砂粒含
635 168-018	陶器 山茶碗	L67	口径: 6.6	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	5Y 6/1 灰	微砂粒含
636 168-020	鉄器 小刀	L67	残存長13.9cm、刀身部幅3.9cm、棟幅0.3cm、基部幅1.9cm、基部厚0.8cm				鉄製

SX170 (中世墓)

637 170-001	土師器 皿C	K66	口径: 11.2 器高: 2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
638 170-003	土師器 羽釜	K66	口径: 22.0前後 口径: 25.0前後	(1/8) (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/1 灰白	細砂粒多含
639 170-002	土師器 羽釜	K66	口径: 21.0前後 口径: 25.0前後	(1/10) (1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
640 170-004	陶器 片口鉢	K66	口径: 14.2	(3/5)	内外面ロクロナデ。底部付近外面ケズリ。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒含

SX175 (中世墓)

641 175-001	土師器 皿C	V65	口径: 11.8~11.4 器高: 2.6~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
642 175-002	土師器 皿C	V65	口径: 10.9~11.9 器高: 2.7~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
643 175-003	土師器 鍋	V65	口径: 20.3~21.0 器高: 11.6 口径: 21.1	(3/4) (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。底部内面炭化物付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
644 175-004	土師器 鍋	V65	口径: 28.0 口径: 29.2	(1/3) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。底部内面炭化物付着。	10YR 8/3 淡黄橙	細砂粒多含

SX188 (中世墓)

645 188-002	土師器 小皿C	M88	口径: 7.0 器高: 0.9	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少含
646 188-001	土師器 小皿C	M88	口径: 7.4~7.8 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒少含
647 188-003	土師器 皿C	M88	口径: 11.8 器高: 2.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含
648 188-004	石製品 砥石	M88	残存長5.4cm、幅3.6cm、厚1.6cm (欠損部分多い)				砂岩製

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S X 1 8 9 (中世墓)

649 189-001	土師器 小皿C	M82	口径：7.6~8.6 器高：1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒少含
650 189-002	土師器 小皿C	M82	口径：7.6~8.0 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
651 189-003	土師器 小皿C	M82	口径：7.8 器高：0.8	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少含

S X 2 2 3 (中世墓)

652 223-001	土師器 皿C	O67	口径：12.2 器高：2.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
653 223-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	O67	口径：11.8 器高：2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。口縁部内外面墨付着。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
654 223-003	磁器 青磁碗	O67	口径：14.0前後	(1/8)	内外面施釉。体部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉：5G6/1 緑灰	精 良

S X 2 2 4 (中世墓)

655 224-001	土師器 皿C	O67	口径：11.8 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
656 224-002	土師器 皿C	O67	口径：12.5 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油煙付着。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
657 224-004	土師器 皿C	O67	口径：11.1 器高：2.2	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 5/1 黄灰	砂粒多含
658 224-003	土師器 皿C	O67	口径：12.5 器高：2.6	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。内面油煙付着。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
659 224-005	土師器 鍋	O67	口径：24.0前後	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ、肩部外面ハケ目、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
660 224-006	陶器 山茶碗	O67	台径：7.5~8.1	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ、高台端部砂粒痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒含
661 224-007	陶器 山茶碗	O67	台径：6.5	(完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部粗粒痕多い。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒含

S X 2 2 5 (中世墓)

662 120-004	土師器 皿C	N74	口径：11.6 器高：2.3	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面油煙付着。	10YR 8/3 浅黄橙 ~7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒含
663 120-002	土師器 皿C	N74	口径：11.5~12.5 器高：3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙 ~7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
664 225-001	土師器 皿C	N74	口径：13.1 器高：2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	砂粒多含
665 120-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	N74	口径：14.0 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/8 黄橙 ~7.5YR 7/6 橙	細砂粒含
666 120-005	陶器 片口鉢	N74	台径：15.7	(2/5)	内外面ロクロナデ。底部付近外面ロクロケズリ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10Y 6/1 灰	砂粒含
667 120-006	鉄製品 釘	N74	残存長8.9cm、釘身部断面方形。(釘身先端部欠損)				鉄 製

S K 1 2 (土坑)

668 012-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	W74	口径：7.9 器高：1.1	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
669 012-004	土師器 小皿B <sub>2</sub>	W74	口径：8.0 器高：0.9	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
670 012-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V74	口径：9.3 器高：1.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
671 012-007	土師器 皿B <sub>2</sub>	W75	口径：12.7 器高：2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	5 YR 6/6 橙	砂粒多含
672 012-005	土師器 皿B <sub>2</sub>	V75	口径：13.0 器高：3.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
673 012-006	土師器 皿B <sub>2</sub>	V75	口径：13.0 器高：2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
674 012-008	土師器 皿B <sub>2</sub>	W75	口径：13.7 器高：2.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
675 012-011	土師器 ?	W74	台径：5.0	(3/5)	底部内面ナデ。上部内外面横方向ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
676 012-009	土師器 鍋	V75	口径：24.0前後	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
677 012-010	土師器 鍋	V74	口径：22.0前後	(1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
678 012-012	陶器 山皿	V74	口径：8.5 器高：1.9 底径：4.3	(2/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含
679 012-013	陶器 山皿	W74	口径：8.6 器高：1.6 底径：5.0	(4/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	5 Y 7/1 灰白	微砂粒含
680 012-015	陶器 山茶碗	V75	口径：16.0前後 器高：5.4 台径：6.7	(1/4) (3/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含
681 012-016	陶器 山茶碗	W74	口径：16.5前後 器高：5.0 台径：8.0	(1/16) (2/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
682 012-014	陶器 山茶碗	W74		(口縁部片)	内外面ロクロナデ。外面に墨書「者」か。知多産か。	5 Y 5/1 灰	砂粒含
683 012-017	陶器 片口鉢	W74	口径：29.0前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。知多産か。	5 Y 5/1 灰白	砂粒含

S K 2 2 (土坑)

684 022-006	土師器 小皿C	V79	口径：8.0 器高：1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10Y 8/2 灰白	砂粒多含
685 022-008	土師器 小皿C	V79	口径：8.2 器高：1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10Y 8/3 浅黄橙	砂粒含
686 022-001	土師器 皿C	V79	口径：13.2 器高：2.5~2.7	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
687 022-002	土師器 皿C	V79	口径：13.0 器高：2.8	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
688 022-004	土師器 皿C	V79	口径：12.4 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含

S K 2 6 (土坑)

689 026-006	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T72	口径：7.9 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
690 026-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	T72	口径：13.0 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
691 026-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	T72	口径：13.0 器高：2.6	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 8/3 淡橙	微砂粒含
692 026-003	土師器 皿C	T72	口径：12.5 器高：3.0	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含

S K 2 9 (土坑)

693 029-001	土師器 皿C	V69	口径：10.9 器高：2.4	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
694 029-002	土師器 鍋	V69	口径：20.0前後	(1/9)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒多含

S K 3 0 (土坑)

695 030-001	陶器 山茶碗	V69	台径：8.2	(3/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部粒殻痕跡。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
----------------	-----------	-----	--------	-------	--------------------------------	-------------	-------

S K 3 1 (土坑)

696 031-001	土師器 小皿C	V69	口径：6.7~7.1 器高：0.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒少含
697 031-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	V69	口径：12.3	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	砂粒含

S K 4 5 (土坑)

698 045-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	U23	口径：7.3~7.7 器高：1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
699 045-004	土師器 小皿B <sub>1</sub>	U23	口径：7.8~8.1 器高：1.2~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
701 045-005	土師器 皿B <sub>1</sub>	T23	口径: 14.2 器高: 2.5	(3/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
702 045-007	土師器 皿A	T22・T23	口径: 15.0 器高: 2.9	(5/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
703 045-009	土師器 鍋	T23	口径: 16.9 口径: 16.0前後	(1/5) (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着せず。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
704 045-011	土師器 鍋	U22	口径: 26.3	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
705 045-010	土師器 鍋	U22	口径: 35.5前後	(1/12)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
706 045-012	陶器 山皿	U22	口径: 9.0 器高: 1.9 底径: 4.4	(2/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10YR 8/1 灰白	微砂粒含
707 045-013	陶器 山茶碗	U22	口径: 16.0前後 器高: 5.2 台径: 7.1	(1/6) (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部刳殻痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含

S K 4 8 (土坑)

708 048-004	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V36	口径: 8.2 器高: 1.3	(3/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
709 048-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	V36	口径: 14.3 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
710 048-002	土師器 皿B <sub>1</sub>	V36	口径: 14.5 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
711 048-003	土師器 皿B <sub>1</sub>	V36	口径: 15.0 器高: 2.9	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒多含
712 048-007	土師器 鍋	V36	口径: 17.8	(4/5)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	7.5YR 6/6 橙	微砂粒多含
713 048-005	陶器 山皿	V36	口径: 8.6 器高: 2.1 底径: 5.0	(5/8) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒含
714 048-006	陶器 山茶碗	V36	台径: 7.7	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。体部と高台の胎土が異なる。渥美産か。	体部: 10YR 5/1 褐灰 高台: 10YR 4/1 褐灰	微砂粒多含
715 048-008	土製品 支脚	V36		(大部分欠損)	外面オサエ。	7.5YR 7/3 浅黄	砂粒多含

S K 6 5 (土坑)

716 065-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	S45	口径: 7.4 器高: 0.8~1.1	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
717 065-002	土師器 小皿B <sub>1</sub>	S45	口径: 7.0~7.2 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁部内外面油煙付着。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
718 065-003	陶器 山皿	S45	口径: 8.3 器高: 2.1 底径: 4.8	(1/8) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。外面の3か所に墨書「+」か。知多産か。	2.5Y 7/2 灰黄	砂粒多含

S K 6 6 (土坑)

719 066-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	S45	口径: 7.8~8.1 器高: 1.4~1.6	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	5 YR 7/6 橙	細砂粒含
720 066-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	S45	口径: 12.7~13.4 器高: 2.7~3.0	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。内面油煙付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒含

S K 6 9 (土坑)

721 069-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	S45	口径: 13.5~13.9 器高: 2.6~2.8	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	5 YR 7/6 橙	細砂粒多含
----------------	------------------------	-----	------------------------------	-------	-------------------------	------------	-------

S K 8 1 (土坑)

722 081-004	土師器 小皿C	Q49	口径: 7.0 器高: 0.7	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
723 081-002	土師器 小皿C	Q49	口径: 7.1 器高: 1.1	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含
724 081-001	土師器 小皿C	Q49	口径: 7.4~7.8 器高: 1.5	(8/9)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 7/3 淡黄	微砂粒含
725 081-005	土師器 皿C	Q49	口径: 11.6~12.4 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
726 081-006	土師器 皿C	Q48	口径: 12.2 器高: 2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
727 081-008	土師器 鍋	Q49		(口頸部片)	口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒他含
728 081-009	土師器 鍋	Q49		(口頸部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒含

S K 8 3 (土坑・中世墓?)

729 083-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	R52	口径: 7.2~7.6 器高: 1.2~1.5	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒少含
730 083-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	R52	口径: 7.7 器高: 1.3~1.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒含
731 083-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	R52	口径: 12.7~13.0 器高: 3.0	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/6 浅黄橙	細砂粒含

S K 8 4 (土坑)

732 084-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	P54	口径: 13.6 器高: 3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	砂粒多含
----------------	------------------------	-----	---------------------	------	-------------------------	-------------	------

S K 8 6 (土坑)

733 086-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V55	口径: 8.2 器高: 1.2	(3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
734 086-002	土師器 皿C	V55	口径: 12.6 器高: 2.7	(3/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒多含

S K 8 9 (土坑)

735 089-001	土師器 皿C	T57	口径: 13.0前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	外: 10YR 3/2 黒褐 内: 10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
----------------	-----------	-----	------------	-------	-------------	-----------------------------------	------

S K 1 0 1 (土坑)

736 101-001	土師器 小皿C	I69	口径: 8.0 器高: 0.9	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	精 良
737 101-002	土師器 皿C	I69	口径: 11.0 器高: 2.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	精 良

S K 1 0 3 (土坑)

738 103-001	土師器 小皿C	J66	口径: 7.4 器高: 0.5~1.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
739 103-002	土師器 小皿C	J66	口径: 7.6~7.9 器高: 0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/3 浅黄橙	砂粒含
740 103-004	土師器 小皿C	J66	口径: 7.9 器高: 0.8~1.4	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
741 103-005	土師器 小皿C	J66	口径: 7.8 器高: 0.9~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
742 103-028	土師器 小皿C	I66	口径: 7.5~7.9 器高: 1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
743 103-009	土師器 皿C	J66	口径: 11.3 器高: 2.8	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
744 103-010	土師器 皿C	J66	口径: 11.0 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
745 103-012	土師器 皿C	J66	口径: 11.3 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
746 103-011	土師器 皿C	J66	口径: 10.6~11.2 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
747 103-013	土師器 皿C	J66	口径: 11.1~11.6 器高: 2.4~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	7.5Y 8/3 浅黄橙	砂粒含
748 103-014	土師器 皿C	J66	口径: 11.0 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
749 103-015	土師器 皿C	J66	口径: 11.4 器高: 3.0	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。外面にヘラ状工具による刺突痕列。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
750 103-016	土師器 皿C	J66	口径: 11.3~12.0 器高: 2.5~3.0	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒含
751 103-017	土師器 皿C	J66	口径: 11.6 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含



遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
752 103-018	土師器 皿C	J 66	口径: 11.9 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。外面にヘラ状工具による刺突痕列。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
753 103-019	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。外面にヘラ状工具による刺突痕列。	10YR 8/1 灰白	砂粒含
754 103-020	土師器 皿C	J 66	口径: 11.5 器高: 2.4~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
755 103-021	土師器 皿C	J 66	口径: 10.8 器高: 2.3	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/1 灰白	砂粒含
756 103-022	土師器 皿C	J 66	口径: 12.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
757 103-023	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
758 103-024	土師器 皿C	J 66	口径: 11.6 器高: 2.3~2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
759 103-41-2	土師器 鍋	J 66	口径: 22.1	(1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
760 103-41-1	土師器 鍋	J 66	口径: 23.3	(1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/6 橙	細砂粒多含
761 103-042	土師器 鍋	J 66	口径: 22.5 器高: 11.8~12.5 体径: 23.3	(3/4) (5/6)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
762 103-043	土師器 鍋	J 66	口径: 27.5 器高: 15.2 体径: 30.0	(完存) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 7/3 浅黄橙	細砂粒多含
763 103-039	土師器 鍋	J 66	口径: 28.4 器高: 18.0 体径: 29.8	(1/2) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着せず。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
764 103-044	土師器 鍋	J 66	口径: 28.0 器高: 19.0 体径: 30.0	(完存) (11/12)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
765 103-036	土師器 鍋	J 66	口径: 28.0~28.9 器高: 17.9 体径: 30.8	(完存) (7/8)	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目、体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
766 103-038	土師器 鍋	J 66	口径: 27.2~28.4 器高: 17.0 体径: 29.8	(完存) (完存)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。体部外面に煤、底部内面炭化物付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
767 103-029	土師器 羽釜	I 66		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。内面ナデ。外面オサエ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
768 103-025	土師器 盤	I 66		(口縁部片)	内外面ナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
769 103-032	陶器 山茶碗	J 66	口径: 14.3 器高: 5.3 台径: 6.6~7.2	(4/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殺痕多い。底部外面に墨書「十」か。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒多含
770 103-033	陶器 山茶碗	J 66	口径: 16.2 器高: 4.9 台径: 8.6	(2/5) (2/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
771 103-034	陶器 片口鉢	J 66	底径: 11.5~12.0	(完存)	内外面ロクロナデ。底部付近外面ロクロケズリ。底部外面砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 4/1 黄灰	細砂粒含
772 103-031	陶器 壺	J 66	口径: 15.5	(1/6)	口頸部内外面ロクロナデ後灰釉を施釉。渥美産三筋文系陶器。	10YR 4/2 灰黄褐	微砂粒含
773 103-030	磁器 青磁碗	I 66	口径: 9.0 器高: 4.1 台径: 3.0	(1/4) (1/4)	高台端部露胎。胎部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉: 5G 7/1 明緑灰 胎土: 7.5Y 7/1 灰白	精 良

S K 1 0 4 (土坑・中世墓?)

774 104-004	土師器 小皿A	K 68	口径: 7.5 器高: 1.5	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内外面油煙付着。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
775 104-005	土師器 小皿B <sub>2</sub>	K 68	口径: 7.5~7.7 器高: 0.9	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
776 104-003	土師器 小皿C	K 68	口径: 8.0~8.3 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 浅黄橙	砂粒多含
777 104-007	土師器 小皿C	K 68	口径: 7.1~7.9 器高: 1.0	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
778 104-016	土師器 台付小皿	K 68	口径: 8.5前後 器高: 2.4 台径: 3.6	(1/4) (完存)	内外面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
779 104-011	土師器 皿C	K 68	口径: 11.0~11.2 器高: 2.5	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
780 104-009	土師器 皿C	K 68	口径: 11.2 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
781 104-010	土師器 皿C	K 68	口径: 10.8~11.0 器高: 2.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
782 104-014	土師器 皿C	K68	口径: 11.5 (3/4) 器高: 2.5~2.7	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
783 104-026	土師器 鍋	K68	口径: 28.5前後 (1/8) 体径: 30.0前後 (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	外: 10YR 8/2 灰白 内: 10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
784 104-018	土師器 羽釜	K68	(口縁部~鏝部片)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ケズリ。鏝部ナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒多含
785 104-019	土師器 羽釜	K68	(口縁部~鏝部片)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ケズリ。鏝部ナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/2 明褐灰	微砂粒多含
786 104-025	土師器 三足付盤	K68	口径: 37.0前後 (1/6) 器高: 11.9~12.3 (3/4) 底径: 14.5	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底部付近外面ケズリ。足部1か所残存。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
787 104-020	陶器 山茶碗	K68	口径: 14.8 (3/5)	内外面ロクロナデ。知多産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
788 104-022	磁器 青磁碗	K68	口径: 15.2前後 (1/8)	内外面施釉。体部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉: 5GY 6/1 オリーブ灰 胎土: 5Y 6/1 灰	精 良
789 104-024	石製品 四葉硯	K68	長10.2cm、幅7.5cm、縁部高1.5cm、海部高0.9cm (縁部以外ほぼ完存)		N3/ 暗灰	細粒砂岩製

SK105 (土坑)

790 105-001	土師器 皿C	I69	口径: 12.2~12.6 (完存) 器高: 2.7~3.5	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒含
791 105-002	土師器 皿C	I69	口径: 12.2 (2/3) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒含
792 105-003	土師器 皿C	I69	口径: 12.5~12.7 (4/5) 器高: 3.2	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒多含

SK111 (土坑)

793 111-006	土師器 皿C	G84	口径: 11.9 (3/5) 器高: 2.3	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
794 111-001	土師器 皿C	G84	口径: 12.0 (3/5) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。内外面油煙付着。	10YR 8/1 灰白	細砂粒含

SK114 (土坑)

795 114-001	土師器 皿C	J78	口径: 13.0 (3/4) 器高: 2.4	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
796 114-003	土師器 鍋	J78	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
797 114-002	土師器 鍋	J78	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
798 114-005	陶器 山皿	J78	口径: 8.3 (1/4) 器高: 1.9 (1/4) 底径: 4.6	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。知多産か。	N7/ 灰白	砂粒多含

SK115 (土坑)

799 115-001	土師器 皿C	I76	口径: 12.9 (1/4) 器高: 2.5	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
800 115-002	土師器 鍋	I76	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 にぶい橙	砂粒多含
801 115-003	陶器 山茶碗	I76	口径: 15.0 (2/3) 器高: 5.6 (1/4) 台径: 7.2	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殻痕。知多産か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒多含

SK122 (土坑)

802 122-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	I72	口径: 7.5 (3/4) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 にぶい橙	砂粒多含
803 122-001	土師器 小皿C	I72	口径: 8.0~8.4 (完存) 器高: 1.2~1.6	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
804 122-003	土師器 小皿C	I72	口径: 7.6 (3/5) 器高: 1.0~1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部油煙付着。	5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
805 122-004	土師器 皿C	I72	口径: 12.4~12.8 (3/5) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
806 122-007	土師器 鍋	I72	口径: 28.0前後 (1/12)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
807 122-005	土師器 鍋	I72	口径: 35.5前後 (完存)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着せず。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
808 122-009	陶器 山茶碗	I72	口径：15.5前後 (1/8)	内外面ロクロナデ。知多産か。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
809 122-010	陶器 山茶碗	I72	台径：5.0前後 (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殺痕多い。知多産か。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含

S K 1 2 3 (土坑)

810 123-003	土師器 小皿C	K72	口径：8.0 器高：1.0 (1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	微砂粒含
811 123-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	K72	口径：12.0 器高：2.1 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	細砂粒含
812 123-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	K72	口径：12.0 器高：2.3 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	細砂粒多含
813 123-004	磁器 青磁皿	K72	口径：13.9 器高：3.9 台径：6.5 (1/8) (2/5)	高台端部露胎。竜泉窯系。	釉：5G 7/1 明緑灰 胎土：2.5Y 7/1 灰白	精 良

S K 1 3 0 (土坑)

814 130-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M80	口径：7.4~7.7 器高：1.0~1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒含
815 130-004	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M80	口径：7.1~7.8 器高：1.4~1.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒含
816 130-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	M80	口径：12.8 器高：2.3 (3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒含
817 130-010	土師器 鍋	M80	口径：22.2 器高：24.0 (3/4) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
818 130-011	土師器 三足付盤	M80	口径：41.0 器高：8.7 底径：27.5 (2/5) (2/5)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面オサエ。足部残存せず。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
819 130-006	陶器 皿	M80	口径：9.4 器高：2.0 底径：4.8 (1/4) (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含
820 130-008	陶器 山茶碗	M80	口径：14.0 器高：5.0 台径：6.5前後 (1/5)	内外面ロクロナデ。底部内面に指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部粗殺痕多い。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒多含
821 130-009	陶器 山茶碗	M80	口径：15.0 器高：5.3 台径：6.5 (3/8) (2/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殺痕。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒含

S K 1 3 5 (土坑)

822 135-001	土師器 鍋	M76	口径：18.3 (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。器壁の磨滅進み調整不明瞭。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
----------------	----------	-----	---------------	----------------------------------	----------------	------

S K 1 4 4 (土坑)

823 144-010	土師器 小皿C	M71	口径：7.0~7.5 器高：1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙 ~10Y 6/2 灰黄橙	微砂粒多含
824 144-001	土師器 小皿C	M71	口径：7.8 器高：1.1~1.3 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
825 144-012	土師器 小皿C	M71	口径：7.0~7.5 器高：1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含
826 144-013	土師器 小皿C	M71	口径：7.0~7.9 器高：1.2~1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白 ~2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含
827 144-014	土師器 小皿C	M71	口径：7.3~7.8 器高：1.0~1.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒含
828 144-015	土師器 小皿C	M71	口径：7.5~8.1 器高：1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
829 144-001	土師器 皿C	M71	口径：10.5~11.0 器高：2.2~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
830 144-002	土師器 皿C	M71	口径：11.2~11.5 器高：2.5~2.8 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 浅黄橙	微砂粒少含
831 144-003	土師器 皿C	M71	口径：10.7~11.5 器高：2.5~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
832 144-004	土師器 皿C	M71	口径：11.0~11.3 器高：2.3~2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
833 144-005	土師器 皿C	M71	口径：10.5~11.5 器高：2.3~2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
834 144-006	土師器 皿C	M71	口径：10.5~11.5 器高：2.4~2.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
835 144-007	土師器 皿C	M71	口径: 11.3 器高: 2.6	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ。	7.5YR 8/1 浅黄橙	砂粒多含
836 144-008	土師器 皿C	M71	口径: 11.0 器高: 2.4	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
837 144-016	土師器 鍋	M71	口径: 16.5前後	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
838 144-017	陶器 山皿	M71	口径: 9.0前後 器高: 2.1 底径: 4.5	(1/5) (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10YR 6/1 褐灰	微砂粒含
839 144-019	陶器 山茶碗	M71	口径: 17.0 器高: 5.2 台径: 7.0~7.3	(1/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部剝殻痕多い。渥美産か。	5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
840 144-020	陶器 山茶碗	M71	口径: 16.8 器高: 5.0 台径: 8.0	(1/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 黄灰	微砂粒多含
841 144-018	陶器 山茶碗	M71	台径: 6.9~7.4	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕と墨書「〇」。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒少含
842 144-022	陶器 片口鉢	M71	口径: 34.0前後	(1/8)	内外面ロクロナデ。外面下半ロクロケズリ。知多産か。	5Y 6/2 灰オリーブ	砂粒多含
843 144-023	陶器 片口鉢	M71	台径: 16.0前後	(1/5)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	5Y 5/1 灰白	微砂粒少含
844 144-021	瓦 軒丸瓦	M71	瓦当径: 11.0前後	(1/2)	右巻き三巴文。丸瓦凸面ケズリ、凹面布目痕。	5Y 5/1 灰白	微砂粒多含

SK146 (土坑)

845 146-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N68	口径: 7.8 器高: 0.7	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
846 146-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N68	口径: 13.1 器高: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
847 146-002	土師器 皿C	N68	口径: 12.8 器高: 2.8	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
848 146-004	土師器 鍋	N68		(口頸部片)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 5/3 にぶい褐	細砂粒多含

SK147 (土坑)

849 147-001	土師器 小皿C	N69	口径: 7.7 器高: 1.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
850 147-002	土師器 皿C	N69	口径: 13.8 器高: 2.5	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含

SK150 (土坑)

851 150-003	土師器 小皿C	N68	口径: 7.2 器高: 0.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
852 150-002	土師器 小皿C	N68	口径: 8.0 器高: 0.9	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒含
853 150-001	土師器 皿C	N68	口径: 10.5 器高: 2.2	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
854 150-004	土師器 鍋	N68	口径: 19.0前後	(1/10)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含

SK154 (土坑)

855 154-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N72	口径: 7.2~8.3 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	外: 10YR 7/6 明黄褐 内: 10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
856 154-005	土師器 鍋	N72		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
857 154-001	陶器 山茶碗	N72	口径: 15.6 器高: 5.0 台径: 6.8	(1/2) (3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部剝殻痕。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
858 154-002	陶器 山茶碗	N72	口径: 15.2 器高: 5.3 台径: 6.8	(1/2) (2/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部剝殻痕。内面全体煤付着。知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含

SK155 (土坑)

859 155-014	土師器 小皿C	M72	口径: 7.0~7.5 器高: 1.0~1.5	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
860 155-015	土師器 小皿C	M72	口径: 7.9~8.4 器高: 0.5~1.2	(ほぼ完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
861 155-012	土師器 小皿C	M73	口径：7.0~7.3 器高：1.0~1.5	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
862 155-013	土師器 小皿C	M72	口径：8.1 器高：0.8~1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
863 155-003	土師器 皿C	L73	口径：11.0 器高：2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
864 155-006	土師器 皿C	M72	口径：12.3 器高：2.4~2.9	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
865 155-007	土師器 皿C	M73	口径：11.0~11.6(ほぼ完存) 器高：2.7		外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
866 155-008	土師器 皿C	M72	口径：11.2 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
867 155-002	土師器 皿C	L73	口径：12.4 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
868 155-001	土師器 皿C	L73	口径：11.7~12.2 器高：1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
869 155-018	土師器 鍋	M73	口径：27.0前後 (頸部1/8)	(1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
870 155-017	土師器 鍋	M73	口径：25.0前後 (わずか) (頸部1/4)		口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
871 155-021	土師器 盤	M72	口径：36.0前後	(1/12)	外面ケズリ、外面ナデ。	5 YR 8/3 淡橙	細砂粒含
872 155-020	土師器 ミニチュア鍋	M72	口径：9.0前後 器高：3.9 体径：8.5	(1/5) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
873 155-023	陶器 山茶碗	M72	台径：6.7	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含

SK156 (土坑)

874 156-002	土師器 小皿C	M73	口径：6.8 器高：0.7	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
875 156-001	土師器 皿C	M73	口径：11.6 器高：1.9	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面油煙付着。	10YR 8/1 灰白	細砂粒含
876 156-003	陶器 山皿	M73	口径：8.6 器高：1.6 底径：5.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SK161 (土坑)

877 161-019	土師器 小皿C	L71	口径：6.6~7.7 器高：0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
878 161-021	土師器 小皿C	L71	口径：7.4~7.6 器高：0.6~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
879 161-027	土師器 小皿C	L71	口径：7.2~7.9 器高：0.8~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
880 161-022	土師器 小皿B <sub>2</sub>	L71	口径：8.9~9.5 器高：0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
881 161-041	土師器 皿C	L71	口径：10.9 器高：2.3	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。内外面に墨書。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
882 161-010	土師器 皿C	L71	口径：11.4 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
883 161-011	土師器 皿C	M71	口径：11.2 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
884 161-012	土師器 皿C	M71	口径：11.6 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進む。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
885 161-043	陶器 山茶碗	L71	口径：14.0前後	(1/10)	内外面ロクロナデ。知多産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
886 161-042	土師器 鍋	M71	口径：27.0前後	(1/12)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含

SK173 (土坑)

887 173-001	土師器 皿C	U67	口径：10.4 器高：2.0~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	微砂粒少含
888 173-002	土師器 皿C	V67	口径：11.7 器高：2.4~2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
889 173-004	土師器 鍋	V67	口径: 29.4	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
890 173-003	陶器 片口鉢	U67・V67	口径: 29.0前後	(1/6)	内外面ロクロナデ。体部外面下位ケズリ。知多産か。	外: 2.5Y 4/1 黄灰 内: 2.5Y 5/1 黄灰	砂粒含

SK174 (土坑)

891 174-001	陶器 片口鉢	U66	口径: 31.6 器高: 10.5 台径: 15.2	(2/5) (1/3)	内外面ロクロナデ。底部付近外面ケズリ。高台端部砂粒痕。知多産か。	10YR 6/1 褐灰	砂粒含
----------------	-----------	-----	----------------------------------	----------------	----------------------------------	-------------	-----

SK177 (土坑)

892 177-001	土師器 皿C	O80	口径: 12.0 器高: 2.2	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒含
893 177-002	土師器 皿C	O80	口径: 12.0 器高: 2.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含

SK178 (土坑)

894 178-002	土師器 小皿C	O79	口径: 7.4~7.9 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
895 178-003	土師器 小皿C	O79	口径: 7.4~8.0 器高: 1.8	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	微砂粒多含
896 178-008	土師器 杯	O79	口径: 10.4 器高: 3.1	(3/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
897 178-005	土師器 皿C	O79	口径: 12.0 器高: 2.7	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
898 178-006	土師器 皿C	O79	口径: 13.0 器高: 2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒含
899 178-007	土師器 皿C	O79	口径: 12.4 器高: 2.6	(3/7)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒含
900 178-009	土師器 鍋	O79	口径: 26.0	(1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤厚く付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
901 178-010	土師器 鍋	O79	口径: 24.0	(1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
902 178-004	陶器 山茶碗	O79	台径: 5.5	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	2.5Y7/1 灰白	細砂粒多含
903 178-012	陶器 片口鉢	O79	口径: 32.0 器高: 12.8 底径: 14.4	(1/3) (3/5)	内外面ロクロナデ。底部付近外面雑なケズリ。高台完全に剥落。知多産か。	5Y 6/1 灰	細砂粒含

SK181 (土坑)

904 181-004	土師器 小皿C	M81	口径: 7.8~8.0 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒含
905 181-001	土師器 皿C	M81	口径: 12.4~12.7 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
906 181-002	土師器 皿C	M81	口径: 11.5~12.1 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒含
907 181-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	M81	口径: 12.1~12.8 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。内面全体煤付着。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒含

SK183 (土坑)

908 183-003	土師器 小皿C	M87	口径: 7.8 器高: 0.8	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
909 183-002	土師器 皿C	M87	口径: 10.6 器高: 2.1~2.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
910 183-001	土師器 皿C	M87	口径: 12.1 器高: 2.3	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
911 183-004	石製品 砥石	M87	残存長3.8cm、幅3.5cm、厚さ0.6cm (欠損部分多い)			5YR 6/3 にぶい橙	砂岩製

SK190 (土坑)

912 190-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M81	口径: 6.8~7.2 器高: 0.9~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
913 190-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	M81	口径: 7.1~7.3 器高: 0.8~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
914 190-007	土師器 皿B <sub>2</sub>	M81	口径：6.1 (1/4) 器高：2.4~2.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
915 190-008	土師器 鍋	M81	口径：19.0前後 (1/12)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
916 190-009	陶器 山茶碗	M81	口径：15.0前後 (1/5) 器高：4.8 台径：6.5 (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部粗殺痕。知多産か。	2.5Y 7/2 灰黄	砂粒含

SK195 (土坑)

917 195-001	土師器 皿C	Q84	口径：12.0 (1/2) 器高：2.3	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
918 195-002	土師器 皿C	Q84	口径：12.0 (1/4) 器高：2.3	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含

SK197 (土坑)

919 197-001	土師器 皿C	S84	口径：12.6 (1/8) 器高：2.3	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
920 197-002	土師器 ミニチュア鍋	S84	口径：9.0前後 (1/16)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
921 197-005	土師器 鍋	S84	口径：23.0 (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
922 197-004	土師器 鍋	S84	口径：24.0前後 (1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含

SK203 (土坑)

923 203-001	土師器 小皿C	O79	口径：11.0 (1/2) 器高：2.5	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含
----------------	------------	-----	-------------------------	-------------	-------------	------

SK204 (土坑)

924 204-001	土師器 小皿C	T78	口径：7.3~7.5 (完存) 器高：0.9	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
925 204-002	土師器 小皿C	T78	口径：7.3~7.7 (7/8) 器高：1.2	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
926 204-003	土師器 皿C	T78	口径：11.1~11.6 (7/8) 器高：2.5	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含
927 204-004	土師器 皿C	T78	口径：11.0 (1/2) 器高：2.5	外面オサエ、内面ナデ。内面油煙付着。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
928 204-005	土師器 皿B <sub>2</sub>	T78	口径：13.0 (3/8) 器高：2.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
929 204-006	土師器 鍋	T78	口径：28.5前後 (1/5)	口頸部内外面ナデ。外面煤付着。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
930 204-011	土師器 鍋	T78	口径：22.0前後 (1/8) 体径：22.0前後 (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	7.5YR 4/4 褐	細砂粒多含
931 204-009	土師器 鍋	T78	口径：21.8~22.7 (7/8) 体径：21.0 (7/8)	口頸部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
932 204-010	土師器 鍋	T78	口径：23.2 (9/10) 体径：21.8 (1/2)	口頸部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
933 204-007	土師器 鍋	T78	口径：22.4 (2/3) 体径：21.6 (2/3)	口頸部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤厚く付着。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含
934 204-013	土師器 鍋	T78	口径：22.0 (1/5) 体径：21.4 (1/3)	口頸部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
935 204-012	土師器 鍋	T78	口径：24.4 (完存) 体径：23.2 (2/5)	口頸部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙 ~10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
936 204-008	土師器 鍋	T78	口径：31.7 (1/3) 器高：16.2 体径：30.0 (3/4)	口頸部内外面ナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリとナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含
937 204-014	土師器 羽釜	T78	口径：24.3 (1/3) (鏽部剥落)	器壁の磨減激しく調整不明。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
938 204-015	陶器 山茶碗	T78	台径：7.1 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕と墨書「工」か。高台端部砂粒痕。渥美産か。	5Y 6/1 灰	微砂粒含

SK208 (土坑)

939 208-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	73	口径：12.3 (1/2) 器高：2.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
----------------	------------------------	----	-------------------------	------------------------	-------------	------

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------------	--------------	----	----

SK209 (土坑)

940 209-002	土師器 小皿C	T79	口径：7.2~7.9 器高：1.2~1.5 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
941 209-001	土師器 皿C	T79	口径：11.0 器高：2.5 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
942 209-003	土師器 鍋	T79	(口頸部片)	口頸部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含

SK212 (土坑)

943 212-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	O70	口径：7.3~7.7 器高：1.3 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
944 212-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	N70	口径：7.6~7.9 器高：1.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
945 212-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	N70	口径：12.2 器高：2.5 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
946 212-004	土師器 鍋	N70	口径：19.3 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/4 淡黄	砂粒多含
947 212-007	磁器 白磁皿	N69	口径：8.8 器高：1.7 底径：5.3 (1/8)	口縁端部露胎。景德鎮産。	釉：10YR 7/1 灰白 胎土：N 8/ 灰白	微砂粒含

SK214 (土坑)

948 214-005	土師器 小皿C	T78	口径：7.0~7.6 器高：1.3 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
949 214-003	土師器 皿C	T79	口径：11.6 器高：2.6 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
950 214-001	土師器 皿C	T79	口径：11.4~12.0 器高：2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
951 214-002	土師器 皿C	T79	口径：11.4~11.8 器高：3.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
952 214-004	土師器 皿B <sub>1</sub>	T79	口径：14.5 器高：2.7 (1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
953 214-007	陶器 山茶椀	T78	口径：16.4 (1/4)	内外面口クロナデ。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
954 214-008	陶器 山茶椀	T78	台径：7.0~7.5 (完存)	内外面口クロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
955 214-006	土製品 土錘	T79	残存長5.2cm、径0.8cm、孔径0.3cm (両端部欠損)		10YR 8/2 灰白	微砂粒少含

SK219 (土坑)

956 219-002	土師器 小皿C	O69	口径：7.5 器高：1.0 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
957 219-003	土師器 小皿C	O69	口径：7.4~7.5 器高：1.2 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	微砂粒含
958 219-001	土師器 皿C	O69	口径：10.3~11.4 器高：2.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
959 219-004	土師器 鍋	O69	口径：34.9 (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
960 219-005	陶器 灰釉平椀	O69	口径：16.0 器高：3.0 (1/5)	内面から外面上半施釉。瀬戸産。	釉：7.5Y 7/2 灰白 胎土：10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒含

SK220 (土坑)

961 220-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U66	口径：6.9~7.4 器高：1.1 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
962 220-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U66	口径：7.8 器高：1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒多含
963 220-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U66	口径：6.9~7.5 器高：1.1~1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
964 220-004	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U66	口径：7.7 器高：1.2 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含



遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S K 2 2 1 (土坑・中世墓?)

965 221-003	土師器 小皿C	O69	口径：6.6~7.2 器高：1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒多含
966 221-007	土師器 小皿C	O69	口径：7.4~7.7 器高：1.1	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
967 221-001	土師器 皿C	O69	口径：10.7~11.2 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
968 221-002	土師器 皿C	O69	口径：11.1~11.4 器高：2.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
969 221-004	土師器 鍋	O69	口径：24.0前後	(1/12)	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ハケ目。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒多含
970 221-006	鉄製品 ?	O69	残存長6.0cm	(ほぼ完存)			鉄製
971 221-005	鉄器 槍?	O69	残存長15.3cm、身部残存長11.5cm、身部最大幅2.1cm、身部厚0.4cm、基部幅1.4cm、身部厚0.35cm(鋒と基部の一部欠損)				鉄製

S K 2 2 2 (土坑)

972 222-002	土師器 小皿C	O68	口径：7.9 器高：1.1	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
973 222-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	O68	口径：13.0	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
974 222-004	土師器 鍋	O68	口径：30.4 器高：19.5 器高：32.4	(1/4) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
975 222-003	土師器 鍋	O68	口径：27.7~28.4 器高：14.4 口径：27.1 口径：27.1	(完存) (7/8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙 ~7.5YR 5/3 にぶい褐色	砂粒含

S D 1 (溝)

976 001-001	土師器 鍋	T90	(口頸部~肩部片)		口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
----------------	----------	-----	-----------	--	--------------------------------	--------------	------

S D 6 (溝)

977 006-001	土師器 鍋	U89	(口縁部)		口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒多含
----------------	----------	-----	-------	--	-------------	--------------	-------

S D 8 (溝)

978 008-036	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U76	口径：7.5~7.9 器高：1.1	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
979 008-037	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V78	口径：8.1~8.7 器高：1.0~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
980 008-039	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V78	口径：8.3~8.6 器高：1.4~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
981 008-109	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U73	口径：7.5~8.2 器高：1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。口縁端部油煙付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
982 008-107	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U73	口径：7.9~8.7 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒含
983 008-105	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U73	口径：7.8~8.0 器高：1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
984 008-110	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U73	口径：8.2 器高：1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
985 008-117	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V73	口径：7.9~8.2 器高：1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
986 008-118	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V73	口径：8.2~8.6 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒含
987 008-035	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T76	口径：7.7 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。外面油煙付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
988 008-076	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T74	口径：7.9~8.2 器高：1.2~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒少含
989 008-124	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V74	口径：7.8~8.0 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
990 008-041	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V78	口径：10.2 器高：1.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
991 008-031	土師器 小皿A	T75	口径：9.5~9.8 器高：1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 6/3 にぶい褐	砂粒含
992 008-151	土師器 小皿A	S75	口径：9.6~9.8 器高：1.4~1.7	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
993 008-159	土師器 台付小皿	S75	口径：8.7~8.8 器高：2.3~2.9 台径：5.3	(完存) (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。皿部内面にわずかに布目痕。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
994 008-012	土師器 皿C	V77	口径：12.4 器高：2.6~2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
995 008-028	土師器 皿C	T75	口径：11.2 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
996 008-081	土師器 皿B <sub>2</sub>	U73	口径：12.1~12.8 器高：3.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
997 008-086	土師器 皿B <sub>2</sub>	U73	口径：12.6~13.0 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデか。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
998 008-100	土師器 皿B <sub>2</sub>	U74	口径：12.2~12.6 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒少含
999 008-145	土師器 皿B <sub>2</sub>	S75	口径：13.0 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
1000 008-146	土師器 皿B <sub>2</sub>	S75	口径：12.2 器高：2.7	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1001 008-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	V78	口径：13.1 器高：3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデか。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1002 008-004	土師器 皿B <sub>2</sub>	V78	口径：12.6~13.2 器高：2.8~3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。わずかに口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1003 008-013	土師器 皿B <sub>2</sub>	U77	口径：12.8 器高：2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1004 008-016	土師器 皿B <sub>2</sub>	U77	口径：12.1~12.3 器高：2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
1005 008-029	土師器 皿B <sub>2</sub>	T25	口径：12.5~12.7 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
1006 008-083	土師器 皿B <sub>2</sub>	U73	口径：12.6~13.0 器高：2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1007 008-085	土師器 皿B <sub>2</sub>	U73	口径：12.3~12.5 器高：2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1008 008-096	土師器 皿B <sub>2</sub>	V73	口径：12.5~12.7 器高：3.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒少含
1009 008-097	土師器 皿B <sub>2</sub>	V73	口径：13.2 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデか。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒多含
1010 008-098	土師器 皿B <sub>2</sub>	V73	口径：12.2~12.5 器高：2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
1011 008-099	土師器 皿B <sub>2</sub>	V73	口径：12.2~12.5 器高：2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1012 008-162	土師器 鍋	S74	口径：23.6 器高：24.6	(1/3) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケ目、底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1013 008-138	土師器 鍋	U73	口径：25.6 器高：15.6 体径：28.2	(1/2) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1014 008-168	土師器 鍋	S75	口径：27.0 体径：28.0	(9/10) (5/12)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1015 008-057	土師器 鍋	V77	口径：25.4 体径：26.8	(1/3) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。底部内面炭化物付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
1016 008-136	土師器 鍋	U73	口径：23.0 体径：25.2	(9/10) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1017 008-060	土師器 鍋	T75	口径：21.6 体径：22.2	(1/5) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
1018 008-134	土師器 鍋	U74	口径：19.0~19.6 器高：10.1 体径：19.2	(5/6) (5/6)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1019 008-135	土師器 鍋	V73	口径：17.8 器高：8.5~9.6 体径：17.2	(2/3) (9/10)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1020 008-141	土師器 鍋	V73	口径：16.6 体径：16.8	(1/2) (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器壁煤付着せず。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
1021 008-137	土師器 鍋	U74・V74	口径：26.9 体径：28.8	(9/10) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1022 008-163	土師器 鍋	S74	口径: 27.8 体径: 31.4	(1/3) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ハケ目。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1023 008-047	土師器 鍋	V78	口径: 31.3 器高: 21.5 体径: 32.7	(4/5) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	2.5Y 7/3 浅黄	砂粒多含
1024 008-165	土師器 鍋	S75	口径: 40.7 体径: 42.2	(1/2) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
1025 008-078	土師器 羽釜	T74	口径: 16.0 鏝径: 19.5	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ケズリ。底部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1026 008-05	土師器 羽釜	U77	口径: 23.2 鏝径: 27.6	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ、外面煤付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1027 008-077	土師器 ?	T74	台径: 4.8	(1/2)	内外面ナデ。	5 YR 8/4 淡橙	細砂粒含
1028 008-045	土製品 器台	V78		(柱状部のみ)	器壁の磨滅激しく調整不明。柱状部中央に径3mmの円孔。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
1029 008-049	瓦器 杯	S75	口径: 10.0 器高: 2.9 体径: 6.5	(5/6) (完存)	内外面ヨコナデのうち内面から口縁部外面ヨコハマミガキ。底部内面に菊花状の暗文。ヘラ押さえによる輪花5か所。	器壁: N 3/ 暗灰 断面: 10Y 8/1 灰白	精 良
1030 008-129	陶器 山皿	U73	口径: 8.2 器高: 2.1 底径: 4.2	(完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面に糸切り痕。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒多含
1031 008-132	陶器 山皿	V73	口径: 8.2 器高: 2.1 底径: 4.0	(完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面に板目状圧痕。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒多含
1032 008-133	陶器 山皿	V74	口径: 8.6 器高: 2.1 底径: 5.0~5.3	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面に糸切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含
1033 008-160	陶器 山皿	S75	口径: 8.6 器高: 1.5~1.9 底径: 4.9~5.2	(完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含
1034 008-161	陶器 山皿	S75	口径: 7.7 器高: 1.4~1.9 底径: 4.9	(完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒多含
1035 008-061	陶器 山茶碗	U76	口径: 15.6 器高: 5.3 台径: 6.8	(5/12) (3/5)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	7.5Y 7/1 灰	砂粒多含
1036 008-065	陶器 山茶碗	V78	口径: 15.5 器高: 5.1 台径: 7.4	(4/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒多含
1037 008-079	陶器 山茶碗	T74	口径: 16.0 器高: 5.5 台径: 6.4	(1/4) (3/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕、内面に強い指頭ナデ。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒多含
1038 008-131	陶器 山茶碗	U73	口径: 15.0 器高: 5.0 台径: 6.5~6.8	(完存) (2/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒多含
1039 008-169	陶器 山茶碗	S75	口径: 16.0~16.5 器高: 4.9~5.4 台径: 6.7~7.0	(2/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含
1040 008-170	陶器 山茶碗	S75	口径: 15.0 器高: 4.6~5.3 台径: 5.4~6.3	(1/4) (7/8)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒含
1041 008-171	陶器 山茶碗	S75	口径: 15.2 器高: 5.1~5.4 台径: 6.5~7.0	(1/2) (7/8)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒多含
1042 008-172	陶器 山茶碗	S74	口径: 15.5 器高: 5.0~5.5 台径: 6.4	(完存) (2/3)	内外面ロクロナデ。内面に強い指頭ナデ、底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒多含
1043 008-185	陶器 山茶碗	S74	口径: 15.7 器高: 4.8~5.7 台径: 6.5~5.7	(完存) (7/8)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。知多産か。	10YR 6/1 褐灰 ~10YR 7/1 灰白	細砂粒多含
1044 008-186	陶器 山茶碗	S75	口径: 15.3 器高: 4.9~5.2 台径: 6.3~6.5	(2/3) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。知多産か。	10YR 6/1 褐灰 ~10YR 6/2 黄灰	細砂粒少含
1045 008-187	陶器 山茶碗	S75	口径: 15.0 器高: 4.8 台径: 5.7~6.0	(3/4) (8/9)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕と板状圧痕。高台端部に粗穀痕。知多産か。	10YR 7/1 灰白 ~10YR 6/1 褐灰	砂粒多含
1046 008-062	陶器 山茶碗	T76	台径: 6.2	(完存)	内外面ロクロナデ。高台端部砂粒痕。底部外面ナデ、墨書「十」か。渥美産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	微砂粒多含
1047 008-173	陶器 山茶碗	T75	口径: 15.0~15.4 器高: 5.2 台径: 6.5	(完存) (2/3)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。体部外面と底部外面に墨書「よね」と「×」か。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒含
1048 008-130	陶器 山茶碗	U73	口径: 15.4~15.9 器高: 5.2 台径: 6.2~6.5	(4/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕と墨書「十」か。高台端部粗穀痕多い。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒多含
1049 008-188	陶器 片口鉢	S75・W74	口径: 30.2 器高: 13.8 台径: 13.1	(1/7) (1/4)	内外面ロクロナデ。底部付近外面ロクロケズリ。底部外面と高台端部砂粒痕。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰 ~2.5Y 5/1 黄灰	砂粒多含
1050 008-063	陶器 片口鉢	V78		(底部片・高台端部欠損)	体部外面ロクロケズリ。体部内面と底部外面壁の磨滅激しく調整不明。知多産か。	10YR 6/1 褐灰	砂粒多含
1051 008-064	陶器 山茶碗?	U77	台径: 8.8	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。体部と高台の胎土が異なる。渥美産か。	体部: 10YR 7/1 灰白 高台: 10YR 6/1 褐灰	微砂粒含
1052 008-072	陶器 小杯	V77	口径: 6.0 器高: 2.0 底径: 3.6	(1/6) (1/3)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	2.5YR 5/2 暗灰黄	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1053 008-067	陶器 片口	V77	口径：14.7 (1/4)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	2.5Y 6/1 黄灰	微砂粒多含
1054 008-069	磁器 青磁碗	V79	口径：5.5 (1/3)	体部外面に蓮弁文。高台端部～高台内面露胎。竜泉窯系。	釉：7.5Y 5/2 灰オリーブ 胎土：7.5Y 6/1 灰	精 良
1055 008-070	磁器 青磁皿	V79	口径：10.0前後 (1/8)	内面に櫛描文。底部外面露胎。竜泉窯系。	釉：7.5Y 5/2 灰オリーブ 胎土：7.5Y 6/1 灰	精 良
1056 008-071	磁器 白磁皿	V78	口径：10.1 (1/3)	口縁端部露胎。景德鎮産。	釉：10GY 8/1 明緑灰 胎土：10GY 8/1 明緑灰	精 良
1057 008-044	土製品 支脚	T76	(大部分欠損)	外面ナデ。体部に径9cmの円孔。二次焼成を受け器壁もろい。	10YR 7/4 にぶい黄橙 ～10YR 6/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1058 008-175	土製品 支脚	S75		外面オサエ。(1059と同一個体か)	10YR 6/4 にぶい橙	細砂粒多含
1059 008-174	土製品 支脚	S75		外面オサエ。(1058と同一個体か)	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1060 008-068	鉄器 刀子	U77	残存長 4.4cm (刀身部片)			鉄 製
1061 008-066	鉄器 刀子	T75	残存長 9.4cm (刀身部片)			鉄 製
1062 008-184	土製品 土鉢	S75	長 5.5cm、径 2.6cm、孔径 1.2cm、重量29.6g (完存)		2.5Y 6/8 橙	砂粒多含

S D 1 0 A (溝)

1063 010-001	土師器 小皿A	U74	口径：10.0 器高：1.4 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
1064 010-006	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U74	口径：8.4 器高：1.6 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
1065 010-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	U74	口径：12.1 器高：2.2 (3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。内面煤付着。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒含
1066 010-003	土師器 皿C	U74	口径：12.1 器高：2.8 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
1067 010-004	土師器 皿C	U74	口径：12.3 器高：2.5 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
1068 010-005	土師器 皿C	U74	口径：12.6 器高：2.5 (11/12)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
1069 010-008	陶器 山茶碗	U75	口径：16.0前後 器高：5.4 口径：8.0前後 (1/6)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗穀痕。渥美産か。	5 Y 6/1 灰	微砂粒含
1070 010-019	土師器 羽釜	U75	口径：16.0 鏝径：20.7 (2/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1071 010-010	土師器 羽釜	U75	口径：20.9 鏝径：25.1 (1/2)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ。外面煤付着。	外：7.5YR 7/4 にぶい橙 内：10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1072 010-009	土師器 鍋	U75	口径：24.3 体径：26.0 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	外：5 Y 7/4 にぶい橙 内：7.5YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含

S D 1 0 B (溝)

1073 010-013	土師器 小皿B <sub>2</sub>	V76	口径：7.4～7.9 器高：1.2～1.4 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 6/8 橙	微砂粒少含
1074 010-011	土師器 皿B <sub>2</sub>	V76	口径：12.1～12.4 器高：2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/6 浅黄橙	細砂粒含
1075 010-012	土師器 皿B <sub>2</sub>	V77	口径：12.7 器高：4.1～4.3 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/6 浅黄橙	細砂粒含
1076 010-014	陶器 山皿	V76	口径：8.4 器高：2.0 底径：4.2 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
1077 010-015	磁器 青磁碗	V76・V77	口径：15.2 (1/5)	内外面施釉。内面にへら描文。竜泉窯系。	釉：10Y 5/2 オリーブ灰 胎土：7.5Y 6/1 灰	精 良
1078 010-017	土製品 土鉢	V76・V77	長 5.1cm、幅 2.2cm、孔径 0.5cm、重量22.6g (完存)		7.5YR 7/3 にぶい橙	細砂粒多含
1079 010-016	土製品 土鉢	V76・V77	長 4.8cm、幅 2.5cm、孔径 1.2cm、重量28.0g (完存)		7.5YR 7/3 にぶい橙	細砂粒多含
1080 010-018	土製品 土鉢	V76・V77	長 4.0cm、幅 1.3cm、孔径 0.5cm、重量 7.2g (一部欠損)		5 Y 6/8 橙	細砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
SD11 (溝)						
1081 011-002	土師器 皿C	T79	口径: 10.8~11.3 (9/10) 器高: 2.2	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
1082 011-003	土師器 皿C	T78	口径: 11.0~11.5 (9/8) 器高: 2.5~2.8	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒少含
1083 011-004	陶器 山茶碗	U79	口径: 16.2 (1/4) 器高: 5.8 台径: 8.2 (7/16)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部杓痕。渥美産か。	10YR 6/2 灰黄褐	微砂粒少含
1084 011-001	土師器 鍋	U79	口径: 27.4 (1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
1085 011-005	土師器 鍋	T75	口径: 23.4 (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
SD13 (溝)						
1086 013-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	U79	口径: 14.0 (1/4) 器高: 2.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 7/4 にぶい橙	細砂粒少含
1087 013-002	土師器 鍋	V79	口径: 28.0前後 (1/10)	口縁端部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
SD17 (溝)						
1088 017-001	土師器 小皿C	W74	口径: 8.0 (3/4) 器高: 1.3	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒含
1089 017-003	土師器 皿C	W72	口径: 11.0 (1/2) 器高: 2.2	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少含
1090 017-002	土師器 皿C	U73	口径: 10.9~11.0 (完存) 2.5	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
1091 017-005	土師器 鍋	W72	(口頸部片)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒含
1092 017-004	陶器 山茶碗	W72	台径: 6.5 (3/5)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含
SD18 (溝)						
1093 018-003	土師器 小皿B <sub>2</sub>	W71	口径: 7.5~7.9 (完存) 器高: 1.0~1.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒少含
1094 018-004	土師器 小皿B <sub>2</sub>	W71	口径: 7.8~8.0 (7/8) 器高: 1.4	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1095 018-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	W71	口径: 13.0 (1/4) 器高: 3.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1096 018-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	W71	口径: 13.0 (5/8) 器高: 2.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 6/6 橙	微砂粒含
1097 018-005	土師器 鍋	S73	口径: 20.0 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/4 淡黄	細砂粒多含
SD35A (溝)						
1098 035-010	土師器 小皿B <sub>2</sub>	W53	口径: 7.7 (3/4) 器高: 1.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
1099 035-011	土師器 小皿B <sub>2</sub>	U53	口径: 8.3 (3/5) 器高: 1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒多含
1100 035-012	土師器 小皿B <sub>2</sub>	P53	口径: 7.8 (完存) 器高: 1.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒多含
1101 035-013	土師器 小皿B <sub>3</sub>	P58	口径: 7.7 (3/5) 器高: 1.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	微砂粒多含
1102 035-014	土師器 小皿C	R56	口径: 7.5 (3/4) 器高: 1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
1103 035-015	土師器 小皿C	O58	口径: 8.3 (完存) 器高: 1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
1104 035-005	土師器 皿B <sub>2</sub>	R55	口径: 12.5 (完存) 器高: 2.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1105 035-007	土師器 皿B <sub>1</sub>	O58	口径: 12.9 (3/4) 器高: 3.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
1106 035-008	土師器 皿B <sub>1</sub>	O58	口径: 13.6 (3/5) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1107 035-009	土師器 皿B <sub>1</sub>	P58	口径: 13.2 器高: 2.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 5/2 灰黄褐	細砂粒多含
1108 035-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	O58	口径: 12.8 器高: 2.7	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	5 Y 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
1109 035-001	土師器 皿C	O58	口径: 11.8 器高: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
1110 035-004	土師器 皿C	Q56	口径: 11.8 器高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
1111 035-006	土師器 皿C	R55	口径: 11.7 器高: 2.4	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1112 035-028	土師器 鍋	P57	口径: 18.2 器高: 10.6 口径: 19.2 口径: 19.2	(5/12) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデヨ底部内外面ケズリとナデ。外面煤附着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1113 035-025	土師器 鍋	O58	口径: 18.2 器高: 11.8 口径: 21.2 口径: 21.2	(1/4) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤附着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1114 035-026	土師器 鍋	P57	口径: 20.8 器高: 14.8 口径: 23.3 口径: 23.3	(1/3) (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤附着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
1115 035-027	土師器 鍋	O58	口径: 31.9 器高: 10.6	(完存)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤附着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1116 035-016	土師器 ミチュア羽釜	Q57	口径: 4.0 口径: 2.7	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。器壁の摩滅進み調整不明瞭。	外: 5 YR 8/3 淡橙 内: 10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
1117 035-017	陶器 小杯	U53	口径: 2.7	(3/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
1118 035-018	陶器 山茶碗	W53	口径: 16.4 口径: 5.4 口径: 7.7	(1/4) (1/5)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
1119 035-019	陶器 山茶碗	P58	口径: 16.2 口径: 5.0 口径: 7.0	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。体部外面に墨書「一」あるいは「二」か。渥美産か。	2.5Y 6/1 黄灰	微砂粒多含
1120 035-020	陶器 山茶碗	P58	口径: 15.2 口径: 4.6~4.7 口径: 7.0	(1/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部羽紋痕多い。知多産か。	2.5Y 7/2 黄灰	細砂粒含
1121 035-021	陶器 山茶碗	O58	口径: 15.4 口径: 4.5 口径: 7.5~8.0	(1/2) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 7/2 黄灰	細砂粒含
1122 035-022	陶器 山茶碗	O58	口径: 14.8 口径: 5.2 口径: 7.5	(1/7) (7/8)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。渥美産か。	2.5Y 6/2 黄灰	微砂粒含
1123 035-023	陶器 片口鉢	P58	口径: 24.0前後 口径: 9.5 口径: 13.0	(1/12) (3/4)	内外面ロクロナデ。底部付近ロクロヘラケズリ。口縁部内面に沈線。知多産か。	5 Y 7/1 灰白	砂粒多含
1124 035-024	陶器 片口鉢	R56	口径: 31.0前後 口径: 11.8 口径: 13.7	(1/6) (3/7)	内外面ロクロナデ。底部付近ロクロヘラケズリ。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒少含
1125 035-038	土製品 支脚	O58		(下半欠損)	外面ナデ。	10YR 8/4 浅黄橙 ~7.5YR 7/6 橙	細砂粒多含

S D 3 5 B (溝)

1126 035-032	土師器 小皿C	Q55	口径: 6.9 口径: 0.8	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
1127 035-029	土師器 皿C	Q54	口径: 11.6 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
1128 035-030	土師器 皿C	Q55	口径: 10.9 器高: 2.5	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	5 Y 8/2 灰白	細砂粒多含
1129 035-031	土師器 皿C	Q55	口径: 11.0 器高: 2.2	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含
1130 035-034	土師器 鍋	Q54	口径: 26.2	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 4/4 褐	砂粒含
1131 035-035	陶器 山茶碗	O54	口径: 15.2 口径: 4.6~5.0 口径: 7.2	(1/2) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部砂粒痕。体部外面に墨書「市房」。渥美産か。	2.5Y 6/2 灰黄	細砂粒少含
1132 035-033	陶器 青磁椀	P54	口径: 5.0	(1/2)	高台端部~高台内面露胎。体部外面に蓮弁文。竜泉窯系。	釉: 5G 6/1 緑灰 胎土: 5 Y 6/1 灰	微砂粒含
1133 035-036	鉄製品 釘	Q54	全長6.4cm、身部断面方形。	(完存)			鉄製

S D 3 6 (溝)

1134 036-001	土師器 小皿C	W51	口径: 8.2 口径: 1.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部油煙附着。器壁の摩滅進み調整不明瞭。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
1135 036-002	土師器 皿C	T52	口径: 10.0 器高: 2.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1136 039-003	土師器 鍋	T53	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含

S D 3 9 (溝)

1137 039-013	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 8.0 (9/10) 器高: 1.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒含
1138 039-014	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V31	口径: 7.9~8.1 (7/8) 器高: 1.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒含
1139 039-015	土師器 小皿B <sub>1</sub>	U30	口径: 8.3~8.6 (4/5) 器高: 1.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	5 YR 8/4 淡橙	細砂粒少含
1140 039-016	土師器 小皿B <sub>1</sub>	W32	口径: 7.8~8.1 (完存) 器高: 1.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1141 039-017	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 8.2~8.4 (完存) 器高: 1.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1142 039-018	土師器 小皿B <sub>1</sub>	W33	口径: 8.3~8.5 (11/12) 器高: 1.5~1.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1143 039-019	土師器 小皿B <sub>1</sub>	W32	口径: 8.2~8.8 (完存) 器高: 0.9~1.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
1144 039-020	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V31	口径: 8.0~8.2 (11/12) 器高: 1.6	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	細砂粒含
1145 039-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 14.2 (2/3) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	外: 10YR 6/1 褐色 内: 10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
1146 039-002	土師器 皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 14.6 (9/10) 器高: 3.2	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	微砂粒少含
1147 039-003	土師器 皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 14.1 (完存) 器高: 3.0	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1148 039-004	土師器 皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 14.4 (完存) 器高: 2.8	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1149 039-006	土師器 皿B <sub>1</sub>	W32	口径: 15.2 (4/7) 器高: 2.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1150 039-005	土師器 皿B <sub>1</sub>	V32	口径: 13.6 (4/7) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒含
1151 039-007	土師器 皿B <sub>1</sub>	V31	口径: 14.4 (1/2) 器高: 2.5	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
1152 039-008	土師器 皿B <sub>1</sub>	V31	口径: 14.8 (3/4) 器高: 2.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1153 039-010	土師器 皿B <sub>1</sub>	V30	口径: 14.6 (9/10) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
1154 039-011	土師器 皿B <sub>1</sub>	V30	口径: 14.4 (1/2) 器高: 3.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
1155 039-009	土師器 皿B <sub>1</sub>	V31	口径: 13.5 (9/10) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1156 039-012	土師器 皿A	V31	口径: 14.7 (1/3) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
1157 039-028	土師器 鍋	W33	口径: 26.6 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1158 039-027	土師器 鍋	V32	口径: 34.2 (1/2) 体径: 37.2 (1/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1159 039-026	土師器 鍋	V32	口径: 17.5 (3/7) 器高: 8.7 体径: 18.1 (3/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1160 039-030	土師器 鍋	W32	口径: 20.1 (1/5) 体径: 21.3 (1/4)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1161 039-029	土師器 鍋	W33	口径: 26.0 (1/8)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部内外面ケズリ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1162 039-022	陶器 山茶碗	V30	口径: 16.0 (1/2) 器高: 5.0 台径: 6.9~7.1 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部粒殻痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒少含
1163 039-024	陶器 山茶碗	V31	口径: 16.0~16.4 (3/5) 器高: 5.7 台径: 7.1~7.3 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粒殻痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含
1164 039-025	陶器 山茶碗	V32	口径: 16.0~16.4 (7/8) 器高: 5.5~5.7 台径: 7.5~7.7 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10YR 6/1 褐灰	細砂粒少含
1165 039-023	陶器 山茶碗	V31	口径: 16.0 (3/5) 器高: 5.4 台径: 6.5~6.9 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。体部外面と底部外面に墨書「四」。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1166 039-021	土製品 支脚	V 32		(上部のみ残存)	外面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒含
SD 4 2 (溝)							
1167 042-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	T 21	口径: 8.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
1168 042-003	土師器 皿B <sub>1</sub>	T 21	口径: 12.0前後 器高: 2.3	(1/10)	外面ケズリ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	外: 2.5Y 8/2 灰白 内: 2.5Y 6/1 灰白	細砂粒含
1169 042-002	土師器 鍋	U 21	口径: 22.0前後	(1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
SD 4 3 (溝)							
1170 043-019	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.1~8.5 器高: 1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	微砂粒多含
1171 043-020	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.1 器高: 1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
1172 043-021	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.2~8.5 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 6/1 褐灰 ~2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
1173 043-022	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.6 器高: 1.6	(6/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
1174 043-023	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.2~8.4 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1175 043-024	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.2 器高: 1.3~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
1176 043-025	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 8.2~8.5 器高: 1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙 ~10YR 6/2 灰黄褐	砂粒多含
1177 043-035	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 上層	口径: 8.2 器高: 1.6	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
1178 043-036	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 上層	口径: 8.8 器高: 1.1~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
1179 043-045	土師器 小皿B <sub>1</sub>	V 26 上層	口径: 8.2 器高: 1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
1180 043-008	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 14.2~14.5 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1181 043-009	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 14.7~15.2 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
1182 043-017	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26 上層	口径: 13.5~13.8 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
1183 043-010	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26 中層	口径: 14.7~15.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	5 Y 8/3 淡黄	微砂粒含
1184 043-037	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26	口径: 14.0 口径: 3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
1185 043-042	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26	口径: 14.0~14.6 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
1186 043-041	土師器 皿B <sub>1</sub>	V 26	口径: 14.8 器高: 2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
1187 043-050	陶器 山皿	V 26 上層	口径: 9.0 器高: 2.8 底径: 4.6	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	5 YR 7/1 明褐灰	微砂粒含
1188 043-047	陶器 山皿	V 27 中層	口径: 8.9 器高: 2.4 底径: 4.6	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	5 YR 7/1 明褐灰	微砂粒含
1189 043-049	陶器 山皿	V 26 上層	口径: 8.1 器高: 2.0 底径: 4.0~4.2	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	5 YR 5/2 灰褐	微砂粒含
1190 043-048	陶器 山皿	U 27 中層	口径: 8.3 器高: 1.8 底径: 4.0	(7/8)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	5 YR 5/1 褐灰	微砂粒含
1191 043-001	陶器 山茶椀	V 26 中層	口径: 16.2 器高: 5.3 台径: 7.8	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殺痕多い。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
1192 043-002	陶器 山茶椀	V 26 上層	口径: 16.2 器高: 5.4 台径: 7.4	(1/16)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殺痕多い。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
1193 043-003	陶器 山茶椀	V 26 中層	口径: 16.0 器高: 5.0 台径: 6.5	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗殺痕多い。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
1194 043-004	陶器 山茶椀	V 26 上層	口径: 16.4 器高: 4.0 台径: 7.0	(1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。高台端部粗殺痕多い。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	細砂粒少含



遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1195 043-005	陶器 山茶椀	V26	口径: 16.2 器高: 5.5 台径: 7.3~7.6	(1/4) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	細砂粒含
1196 043-006	陶器 山茶椀	U26 中層	口径: 16.3 器高: 5.0 台径: 7.0	(1/2) (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕と墨書(花押か)。高台端部粗粒痕多い。渥美産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
1197 043-052	土師器 鍋	V26	口径: 19.2 体径: 18.6	(1/3) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
1198 043-053	土師器 鍋	U26	口径: 20.0前後 器高: 10.5 体径: 19.3	(2/5) (2/5)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着せず。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含

SD47 (溝)

1199 047-001	土師器 鍋	V39		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
-----------------	----------	-----	--	--------	-------------------	--------------	------

SD50 (溝)

1200 050-001	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T37	口径: 7.8 器高: 1.2	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデか。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
1201 050-002	土師器 鍋	T37		(口頸部片)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 5/2 灰黄褐	細砂粒多含

SD62 (溝)

1202 062-001	土師器 鍋	Q42		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
1203 062-002	陶器 山茶椀	Q42	台径: 8.0前後	(1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。渥美産か。	2.5Y 6/2 灰黄	微砂粒多含

SD73 (溝)

1204 073-001	土師器 皿B <sub>1</sub>	S30	口径: 15.0前後 器高: 2.4	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
-----------------	------------------------	-----	-----------------------	-------	-------------------------	--------------	-------

SD116 (溝)

1205 116-001	土師器 鍋	O77	口径: 33.0	(1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。肩部外面オサエ、内面ナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
-----------------	----------	-----	----------	-------	--------------------------------	--------------	------

SD117 (溝)

1206 117-002	土師器 皿C	I74		(口縁部片)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨減進み調整不明瞭。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒多含
1207 117-001	土師器 鍋	N76		(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含

SD118 (溝)

1208 118-006	土師器 小皿B <sub>2</sub>	P74	口径: 7.8 器高: 1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 橙	細砂粒少含
1209 118-002	土師器 皿B <sub>2</sub>	J74	口径: 13.4 器高: 2.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	7.5YR 5/8 明褐	細砂粒含
1210 118-004	土師器 皿B <sub>2</sub>	Q74	口径: 14.2 器高: 3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。内外面煤付着。	7.5YR 4/4 褐	細砂粒少含
1211 118-001	土師器 皿B <sub>2</sub>	O74	口径: 12.3~12.7 器高: 2.9	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒少含
1212 118-003	土師器 皿B <sub>2</sub>	O74	口径: 12.2~12.6 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	7.5YR 8/4 浅黄橙	細砂粒少含
1213 118-005	土師器 皿B <sub>2</sub>	P74	口径: 13.4 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデか。底部内面一部に強い指頭ナデ、外面に板状圧痕。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
1214 118-012	土師器 鍋	Q74	口径: 18.5 器高: 8.5 体径: 18.0	(1/4) (1/2)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	外: 7.5YR 7/6 橙 内: 5YR 6/6 橙	砂粒多含
1215 118-011	土師器 鍋	Q74	口径: 19.0 体径: 18.6	(7/8) (1/3)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/6 橙	砂粒多含
1216 118-013	土師器 鍋	Q74	口径: 21.0 体径: 21.7	(3/7) (3/7)	口頸部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤、底部内面炭化物付着。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1217 118-014	土師器 鍋	Q74	口径: 23.6 体径: 24.2	(5/6) (1/10)	口頸部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。外面煤付着。	2.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1218 118-007	陶器 山茶椀	M74	口径: 15.8 器高: 4.4 台径: 7.0	(1/4) (3/7)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部粗粒痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白 ~7.5Y 6/1 灰白	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1219 118-008	陶器 山茶碗	N74	口径：15.0 (1/3) 器高：5.1 台径：6.0 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含
1220 118-009	陶器 山茶碗	O74	口径：15.8 (3/4) 器高：4.9 台径：7.9~8.9 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白 ~7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
1221 118-010	陶器 山茶碗	P74	口径：15.6 (1/2) 器高：4.6 台径：7.6 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕と靱痕。体部外面に墨書。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含

SD200 (溝)

1222 200-002	土師器 小皿B <sub>2</sub>	T79	口径：7.9~8.4 (9/10) 器高：1.0~1.1	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
1223 200-003	土師器 小皿B <sub>1</sub>	T78	口径：8.0~8.4 (4/5) 器高：1.3~1.4	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1224 200-001	土師器 皿A	S78	口径：14.1 (1/4) 器高：2.2~2.3	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
1225 200-004	土師器 鍋	S78	(口縁部片)	口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	7.5YR 7/2 明褐灰	微砂粒含
1226 200-005	陶器 山茶碗	S78	口径：14.4 (9/10) 器高：4.6~4.8 台径：7.3 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。知多産か。	7.5Y 8/1 灰白	砂粒多含

SD202 (溝)

1227 202-001	土師器 皿C	T81	口径：12.7~13.1 器高：2.6~2.7	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
-----------------	-----------	-----	----------------------------	-------------	---------------	-------

SD210 (溝)

1228 210-001	土製品 土鏝	R71	長 4.1cm、径 2.2cm、孔径 0.8cm、重量14.4g (完存)		5 YR 7/6 橙	微砂粒含
-----------------	-----------	-----	---------------------------------------	--	------------	------

SD218 (溝)

1229 218-001	土師器 小皿B <sub>1</sub>	P70	口径：8.2 (完存) 器高：1.2~1.7	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/4 淡橙	砂粒含
1230 218-002	土師器 皿B <sub>1</sub>	P69	口径：14.4 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡橙	砂粒含
1231 218-003	土師器 鍋	P71	口径：29.0 (1/6)	口頸部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
1232 218-004	陶器 山茶碗	P71	台径：6.7 (1/2)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。渥美産か。	10YR 8/1 灰白	微砂粒含
1233 218-005	鉄器 刀子	O67	残存長 4.0cm (鋒部分のみ)			鉄製

SD230 (溝)

1234 230-001	土師器 小皿C	M62	口径：7.2~7.8 (完存) 器高：0.8~1.3	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
1235 230-002	土師器 小皿C	M62	口径：7.6~8.0 (完存) 器高：1.0~1.5	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
1236 230-003	土師器 小皿C	M62	口径：7.8 (1/2) 器高：0.9~1.4	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含

SZ132 (集石遺構)

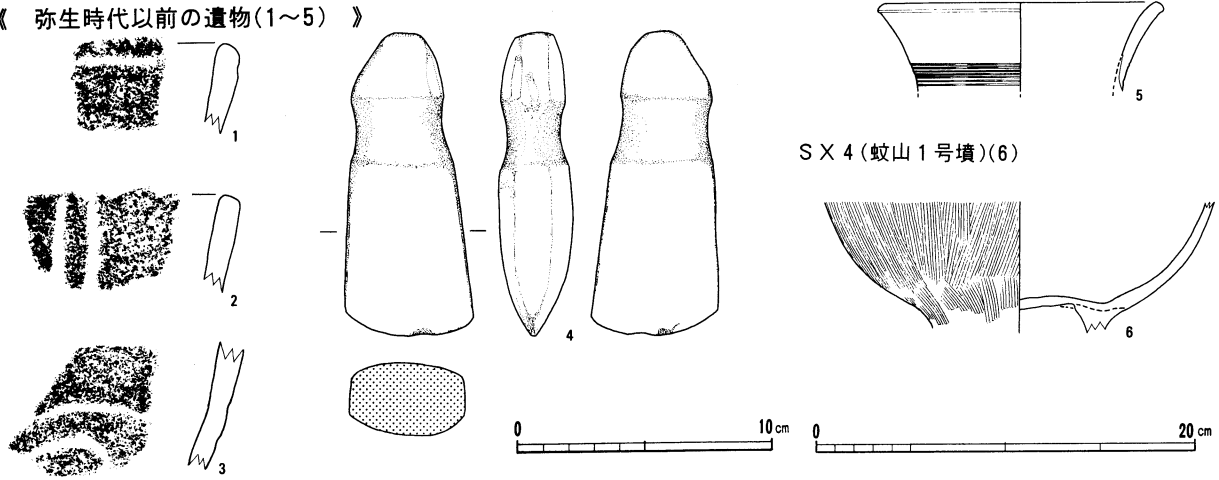
1237 132-001	陶器 山茶碗	J71	台径：7.0 (完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部靱殻痕。渥美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒少含
-----------------	-----------	-----	-------------	---------------------------------	-------------	-------

包含層・ビット

1238 000-029	ロクロ土師器 小皿	Q21 耕作土	口径：7.2 (1/4) 器高：1.7 鏝径：4.0 (1/4)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。	7.5YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒含
1239 000-049	土師器 台付小皿	Q44 包含層	口径：8.9 (1/4) 器高：2.7 台径：5.2 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。高台部分内外面ナデ。皿部内面布目痕。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒含
1240 000-033	土師器 台付小皿	O76 包含層	口径：8.2 (1/2) 器高：2.1~2.3 台径：4.4~4.7 (1/2)	外面オサエ、内面ナデ。高台部分内外面ナデ。皿部内面布目痕。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
1241 000-030	土師器 鉢	I67 包含層	台径：9.2 (3/8)	内外面ナデ。体部外面と底部外面中央部に粗いハケ目残る。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
1242 000-028	土師器 ミニチュア深鉢	N72 包含層	口径：8.7前後 (1/18) 鏝径：10.3前後 (1/18)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含

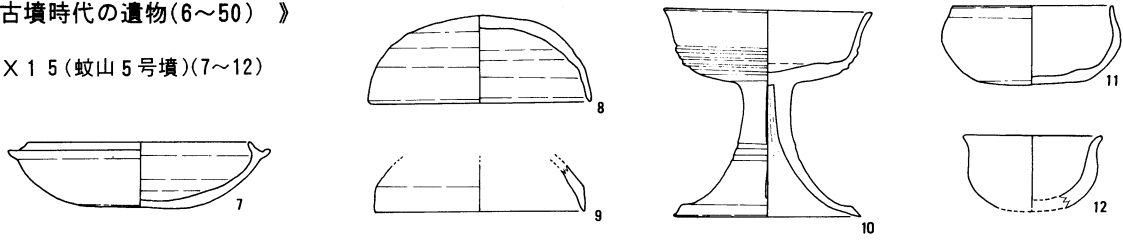
遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1243 000-018	土師器 羽釜	○66 包含層	口径：23.9～24.4 鋳径：27.5～27.8 底径：19.5～20.0	(完存) (1/4) (完存)	体部内外面ケズリ。口縁部内外面ヨコナデ。外面煤付着。	10YR 8/3 浅黄橙	細砂粒多含
1244 000-015	瓦質土器 火舎	Q55 ビット21	口径：9.2 器高：3.9 鋳径：12.7	(完存)	外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。足部分は貼り付けのちケズリ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
1245 000-014	土師器 火舎	Q55 ビット21	口径：15.3 器高：5.2 鋳径：17.3	(完存) (9/10)	内外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面軽いケズリ。足部分は貼り付けのちケズリ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
1246 000-023	土師器 火鉢	L74 包含層	口径：34.2	(1/2)	外面ハケ目、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面に印花文。	器壁：10YR 7/2 にぶい黄橙 断面：2.5Y 4/1 黄灰	細砂粒含
1247 000-021	瓦器 火椀	L68 包含層	口径：6.0	(1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/1 灰白 ～N4/ 灰	微砂粒含
1248 000-020	瓦器 椀	T76 包含層	口径：12.3前後	(1/10)	外面オサエ、内面ヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/1 灰白 ～N4/ 灰	微砂粒含
1249 000-038	陶器 山皿	U26 包含層	口径：8.8 器高：2.0 底径：4.6	(4/5) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
1250 000-037	陶器 山皿	L72 包含層	口径：7.8 器高：1.7 底径：5.4	(6/7) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	5Y 6/1 灰	微砂粒含
1251 000-039	陶器 山皿	N74 包含層	口径：8.5 器高：1.8 底径：5.0	(11/12) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含
1252 000-040	陶器 山皿	P73 包含層	口径：8.5 器高：2.2 底径：5.3	(5/6) (完存)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指頭ナデ、外面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含
1253 000-041	陶器 山茶椀	I74 包含層	口径：15.3～16.3 器高：5.0～5.2 台径：6.8	(完存)	内外面ロクロナデ。底部外面糸切り痕。高台端部砂粒痕。渥美産か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒含
1254 000-031	陶器 天目茶椀	K83 耕作土	口径：11.5 器高：6.2 台径：3.7	(1/4) (1/4)	内面から体部上半施釉。高台は削り出し。瀬戸産。	釉：10YR 1.7/1 黒 胎土：10YR 7/1 灰白	細砂粒含
1255 000-032	陶器 天目茶椀	L74 包含層	口径：9.6 器高：4.5 台径：2.8	(1/4) (1/2)	内面から体部上半施釉。高台は削り出し。ロクロ左回転。建窯産。	釉：5Y 3/3 明赤褐 胎土：7.5YR 5/1 褐灰	微砂粒含
1256 000-042	陶器 水注	W37 包含層	口径：7.2 器高：14.1 体径：12.4 底径：8.2	(2/3) (2/3) (2/3) (2/3)	内外面ロクロナデ。渥美産か。	外：2.5GY 6/1 オリーブ灰 内：N 5/ 灰	微砂粒含
1257 000-043	陶器 三筋壺	M71 包含層	口径：10.0 体径：17.0	(3/5) (1/4)	内外面ロクロナデ。肩部外面に1条の沈線。知多産。	外：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 内：2.5YR 4/2 灰赤	細砂粒多含
1258 000-016	陶器 三筋壺	L79 ビット3	口径：13.5 体径：18.8	(1/8) (1/4)	内外面ロクロナデ。体部外面下半ケズリ。知多産。	外：7.5YR 6/2 灰褐 内：7.5YR 7/4 にぶい橙	細砂粒含
1259 000-026	陶器 広口壺	N69 包含層		(体部片)	内外面回転ナデ。内面に刻字「嘉禄」(1225～1227年)。知多産。	5YR 5/2 灰褐	微砂粒含
1260 000-035	石製品 鍋	T82 包含層	口径：21.0 鋳径：23.5前後	(1/6) (1/20)	内面は平滑、外面にケズリ痕明瞭に残る。外面煤付着。		葉臘石製
1261 000-036	石製品 鍋	T82 包含層	口径：22.0前後	(1/12)	内面は平滑、外面にケズリ痕残る。外面煤付着。		葉臘石製
1262 000-045	土製品 加工円盤	P76 包含層	径：2.4～2.6		施釉陶器の体部片を転用。		
1263 000-046	土製品 加工円盤	○75 包含層	径：5.0前後		竜泉窯系青磁椀の高台部分を転用。		
1264 000-048	銭貨	K79 耕作土	熙寧元寶(真)、初鑄年代 熙寧元年(1068) 外径：2.40cm、穿径0.65cm、量目3.08g				銅製
1265 000-047	銭貨	F89 包含層	熙寧元寶(真)、初鑄年代 熙寧元年(1068) 外径：2.40cm、穿径0.65cm、量目1.24g(約1/2欠損)				銅製

《 弥生時代以前の遺物(1~5) 》

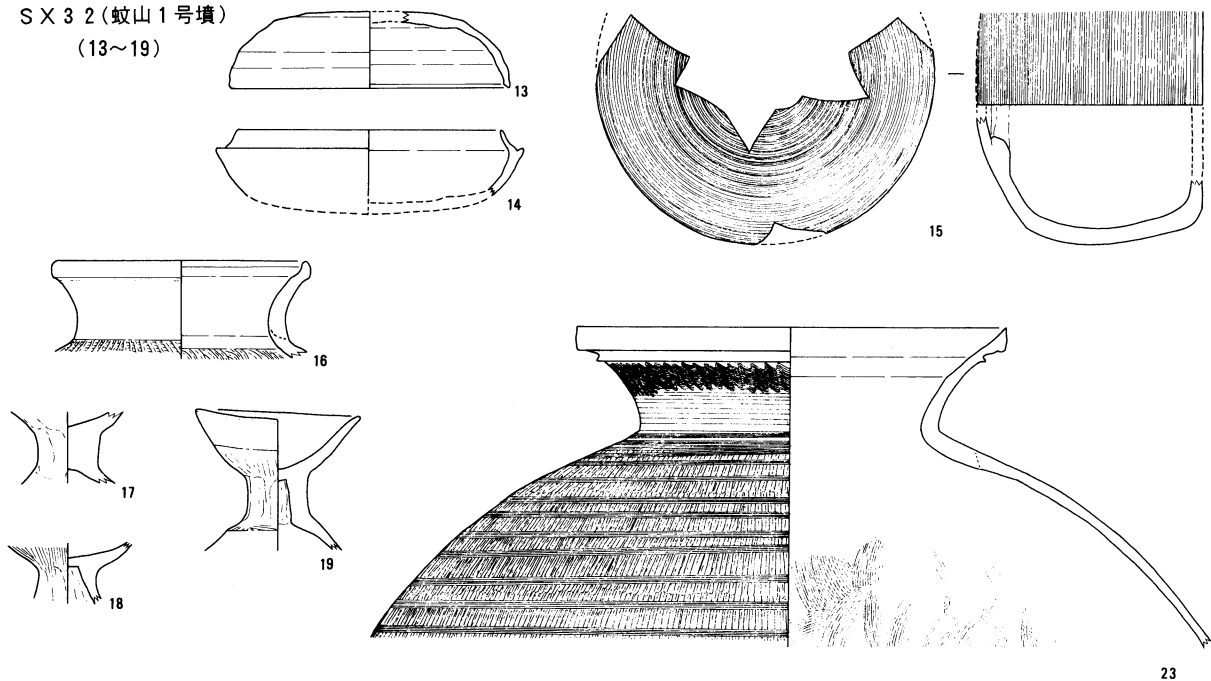


《 古墳時代の遺物(6~50) 》

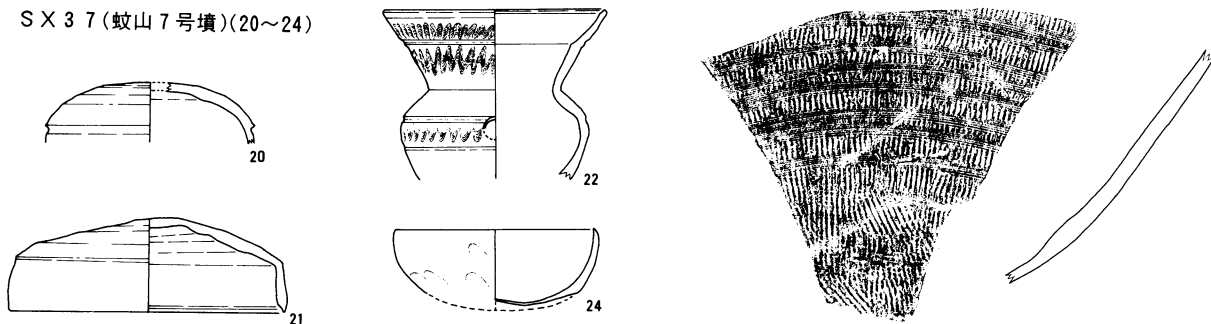
S X 1 5 (蚊山 5号墳)(7~12)



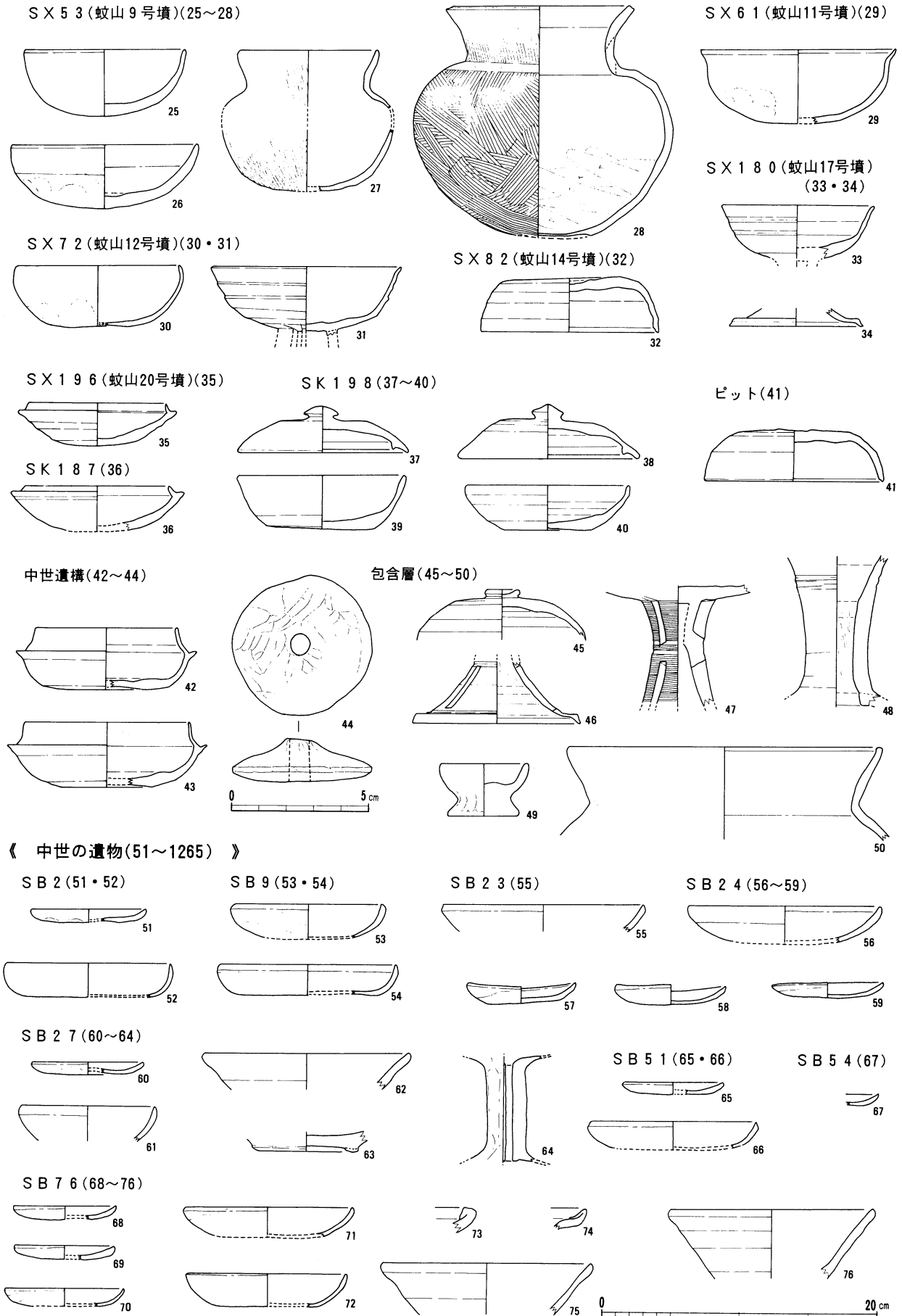
S X 3 2 (蚊山 1号墳)  
(13~19)



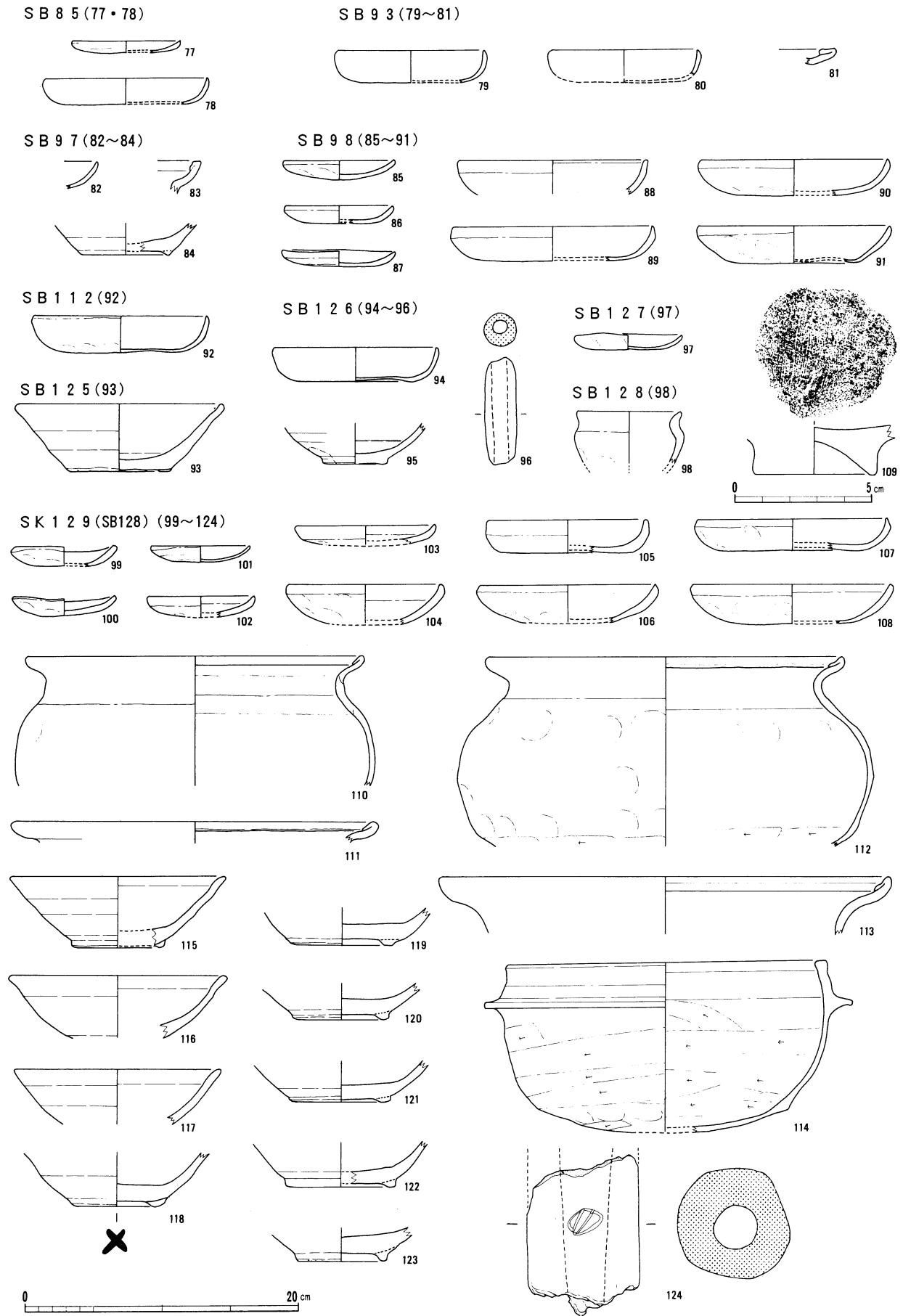
S X 3 7 (蚊山 7号墳)(20~24)



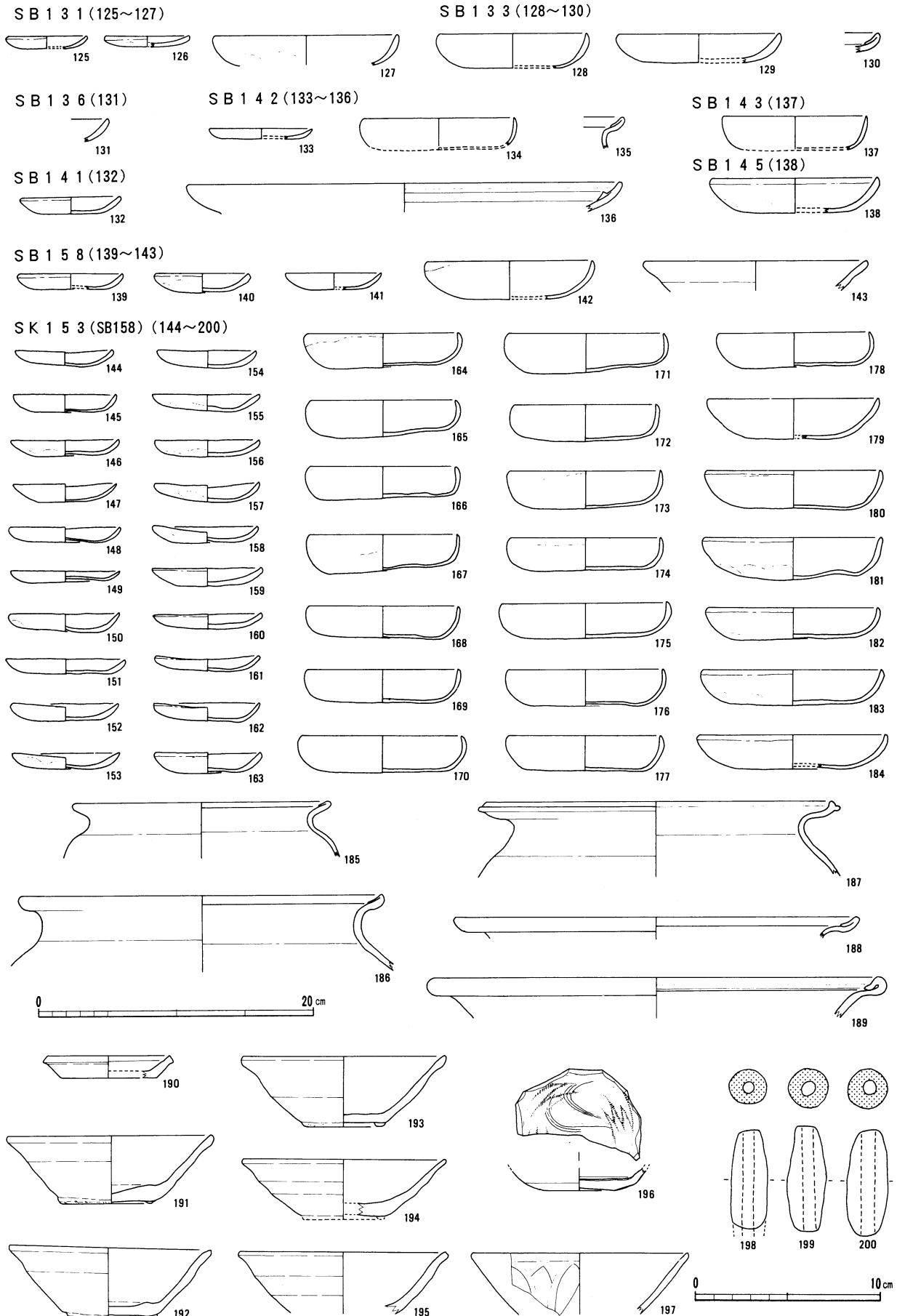
第62図 弥生時代以前・古墳時代の遺物実測図 (1~4 = 1 : 3, 5~24 = 1 : 4)



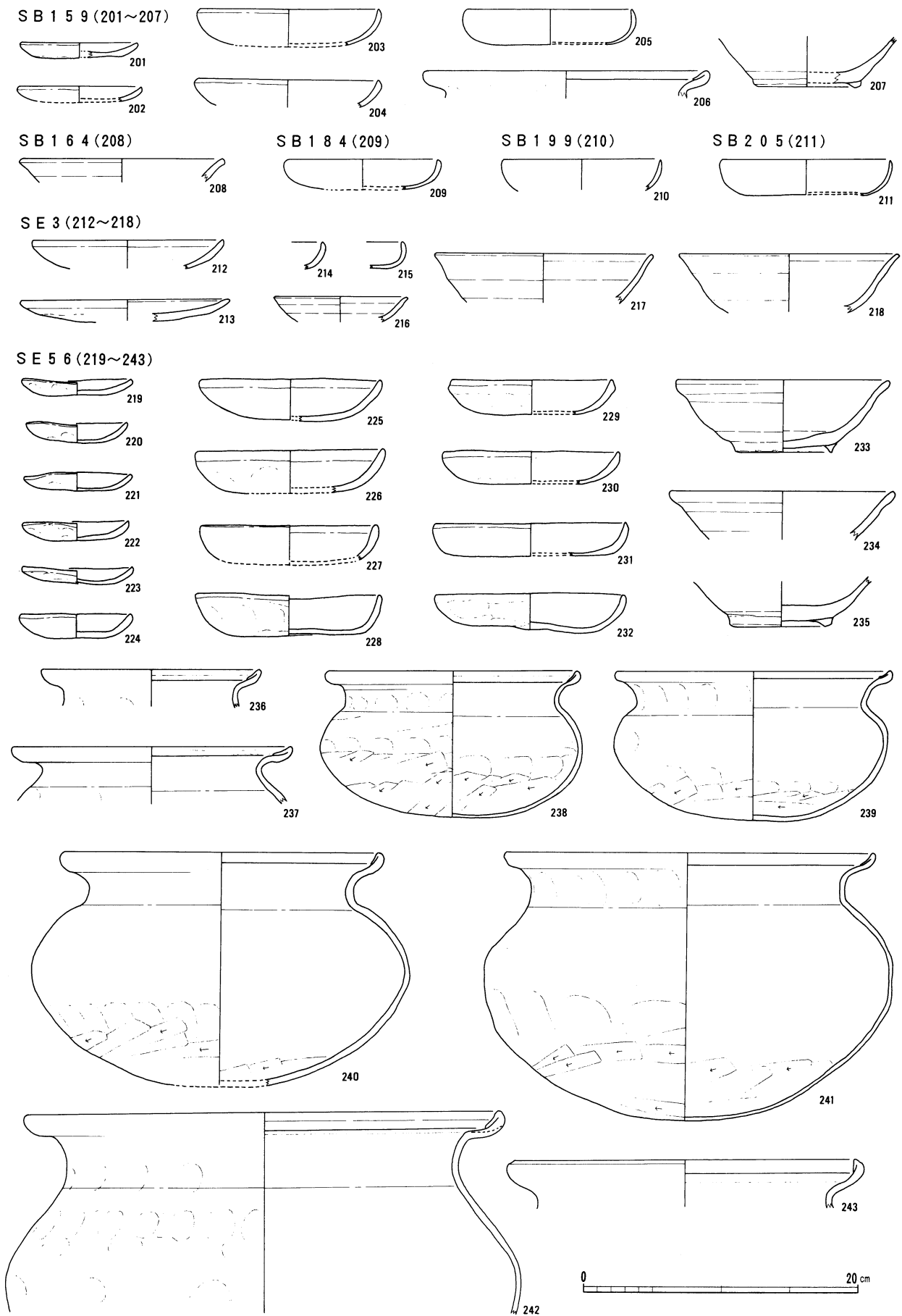
第63図 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物実測図(1:4, 44=1:2)



第64図 掘立柱建物出土遺物実測図 (1 : 4, 96・109 = 1 : 2)



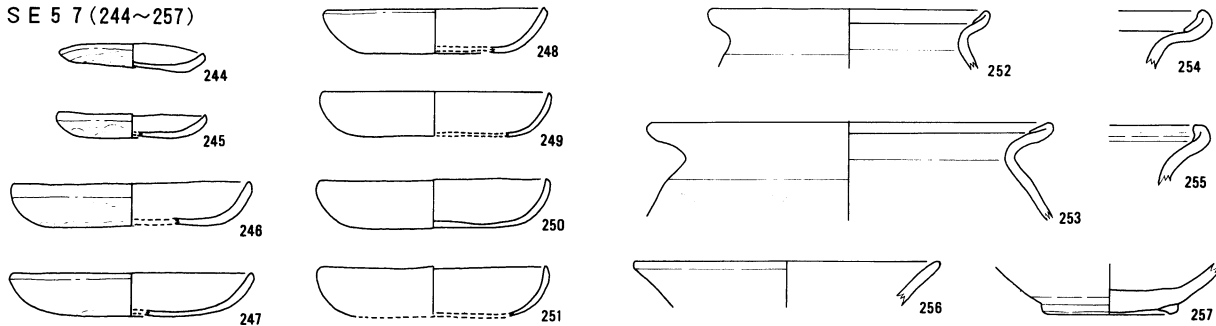
第65図 掘立柱建物出土遺物実測図 (1 : 4, 198~200= 1 : 3)



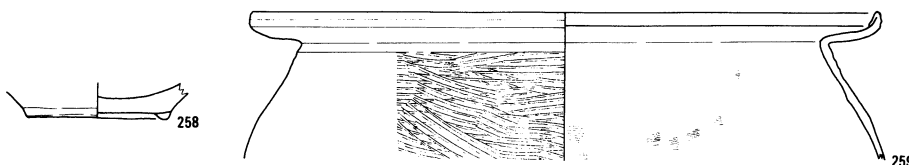
第66図 掘立柱建物・井戸出土遺物実測図 (1 : 4)



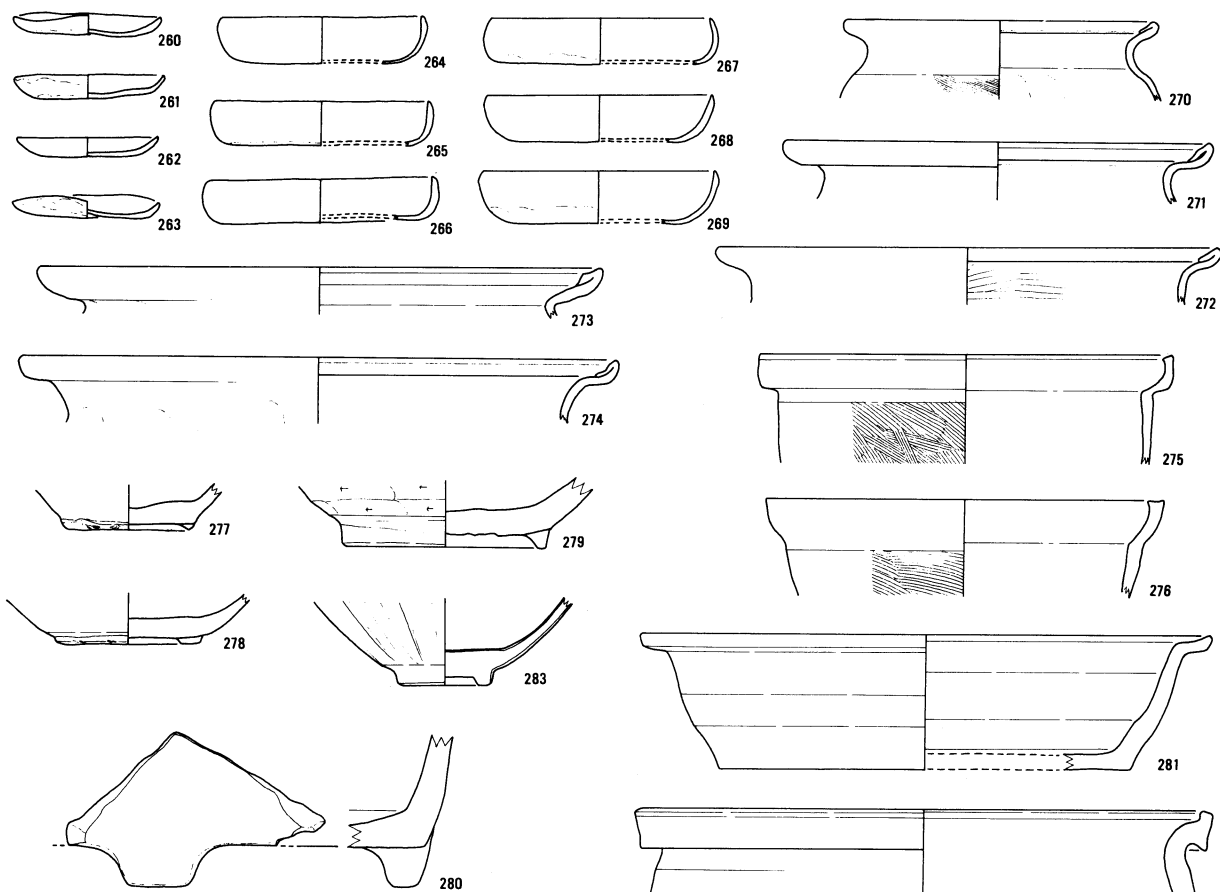
SE 5 7 (244~257)



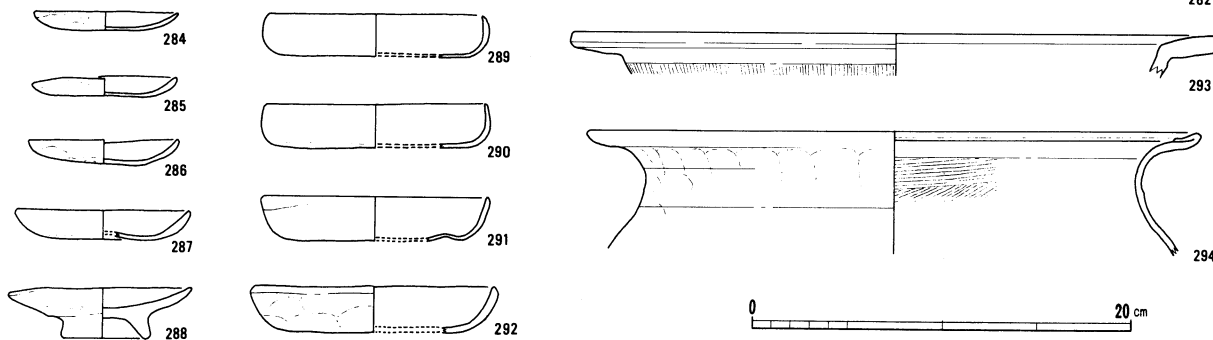
SE 7 9 (258・259)



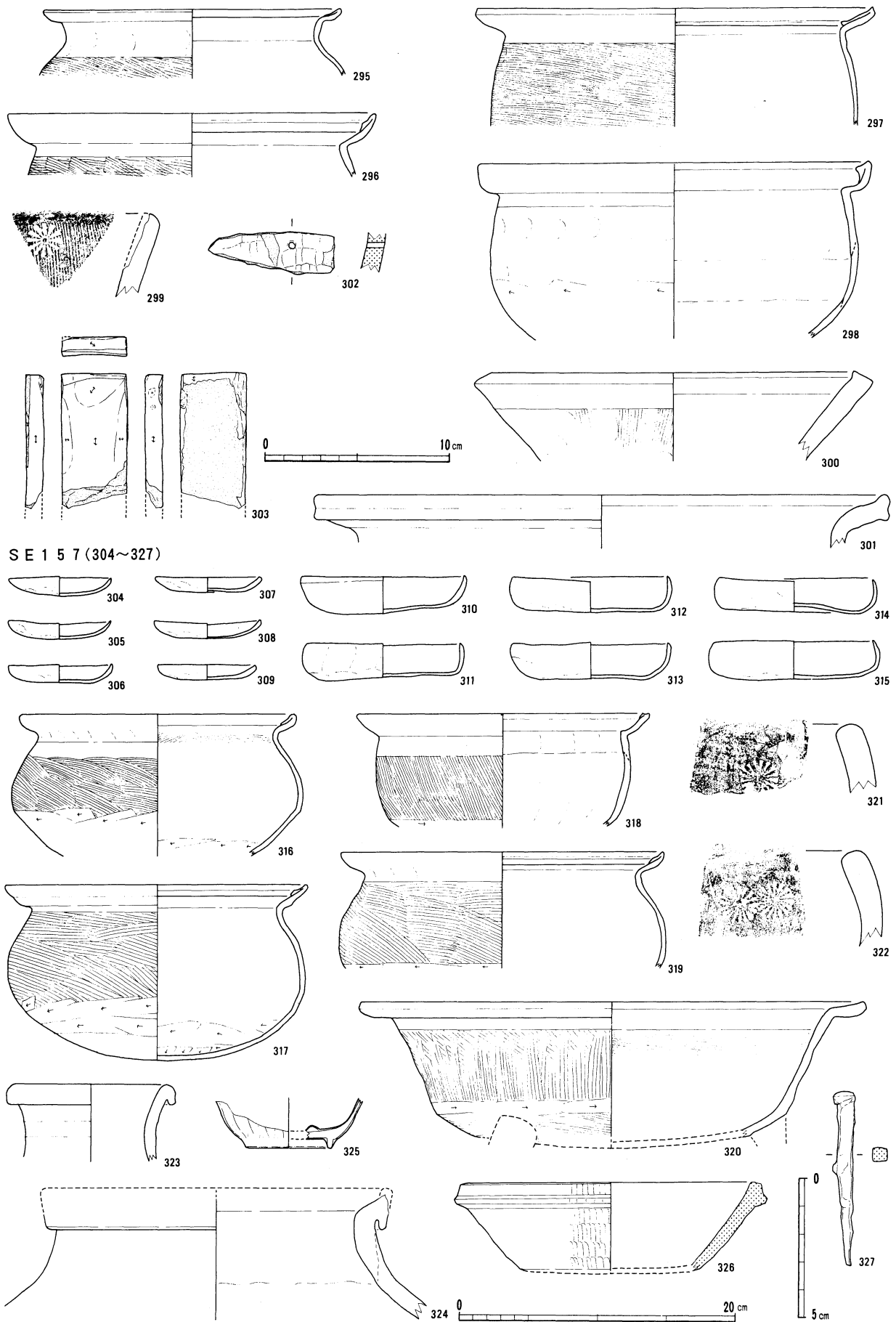
SE 9 0 (260~283)



SE 1 3 4 (284~303)

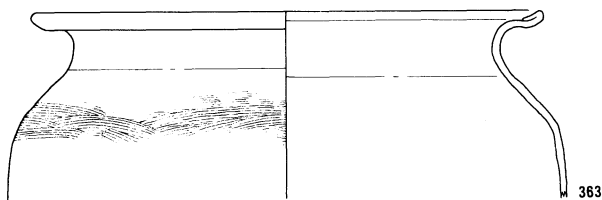
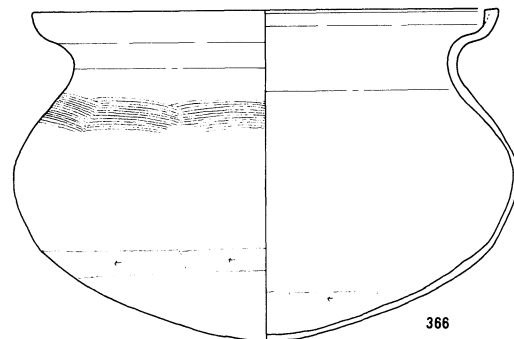
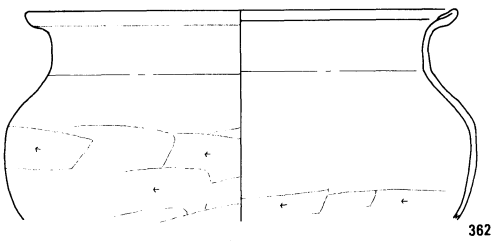
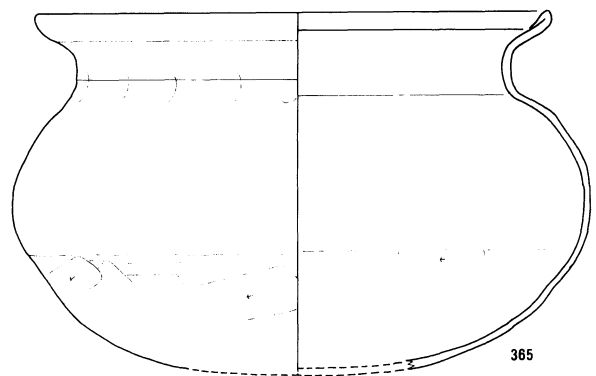
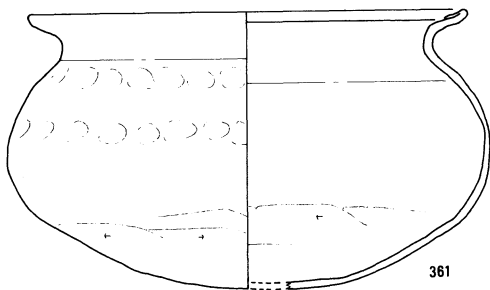
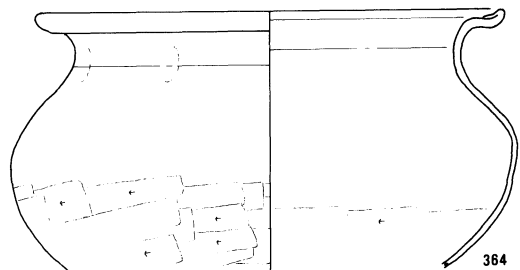
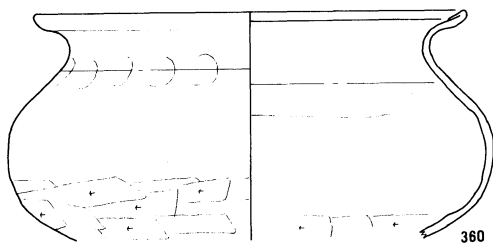
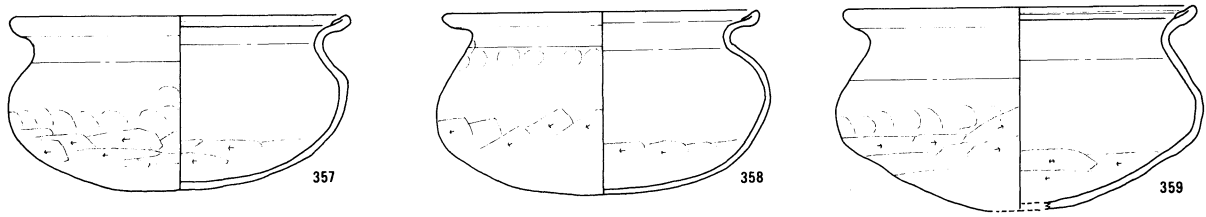
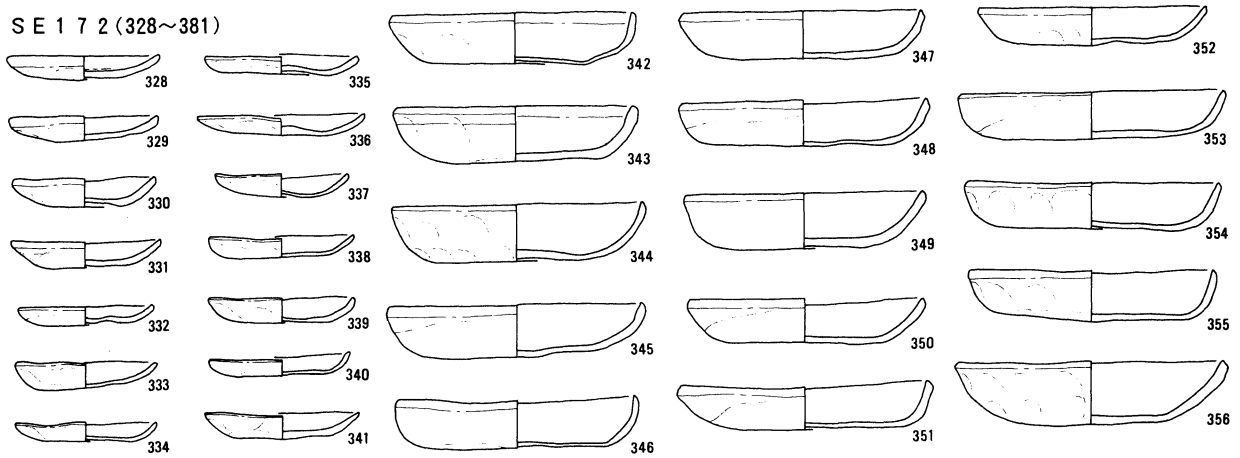


第67図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)

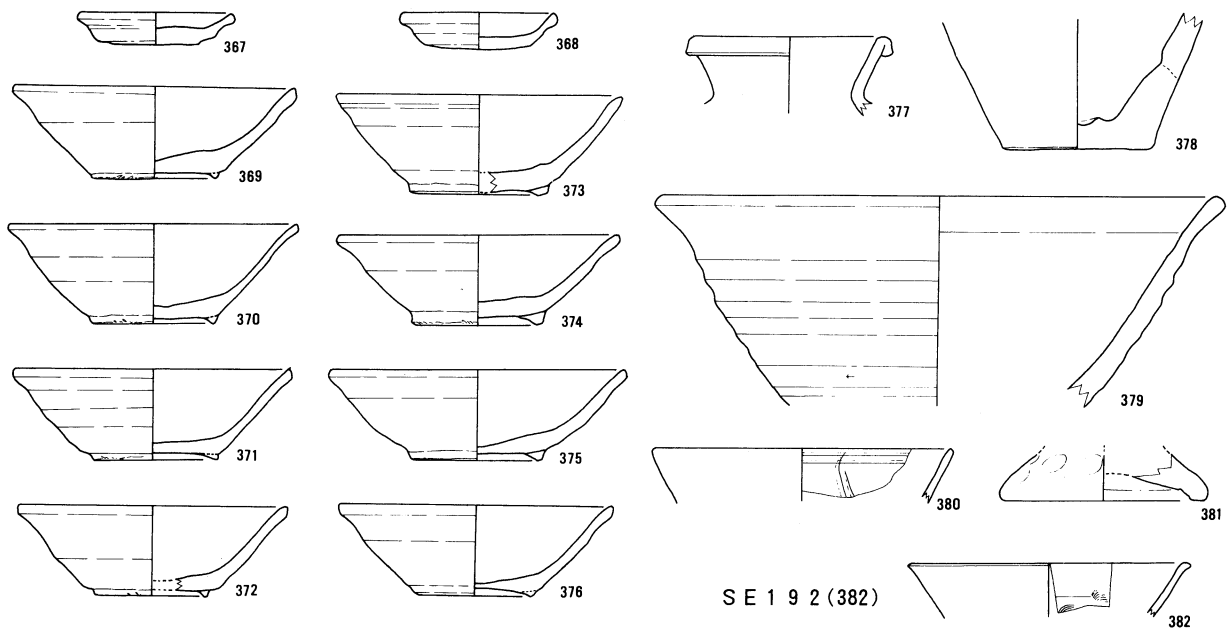


第68図 井戸出土遺物実測図 (1:4, 303=1:3, 327=1:2)

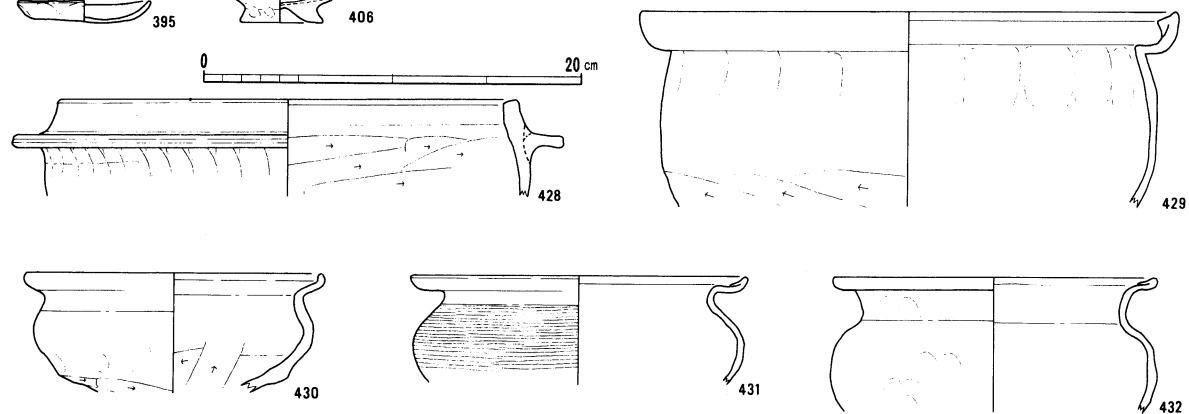
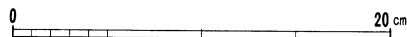
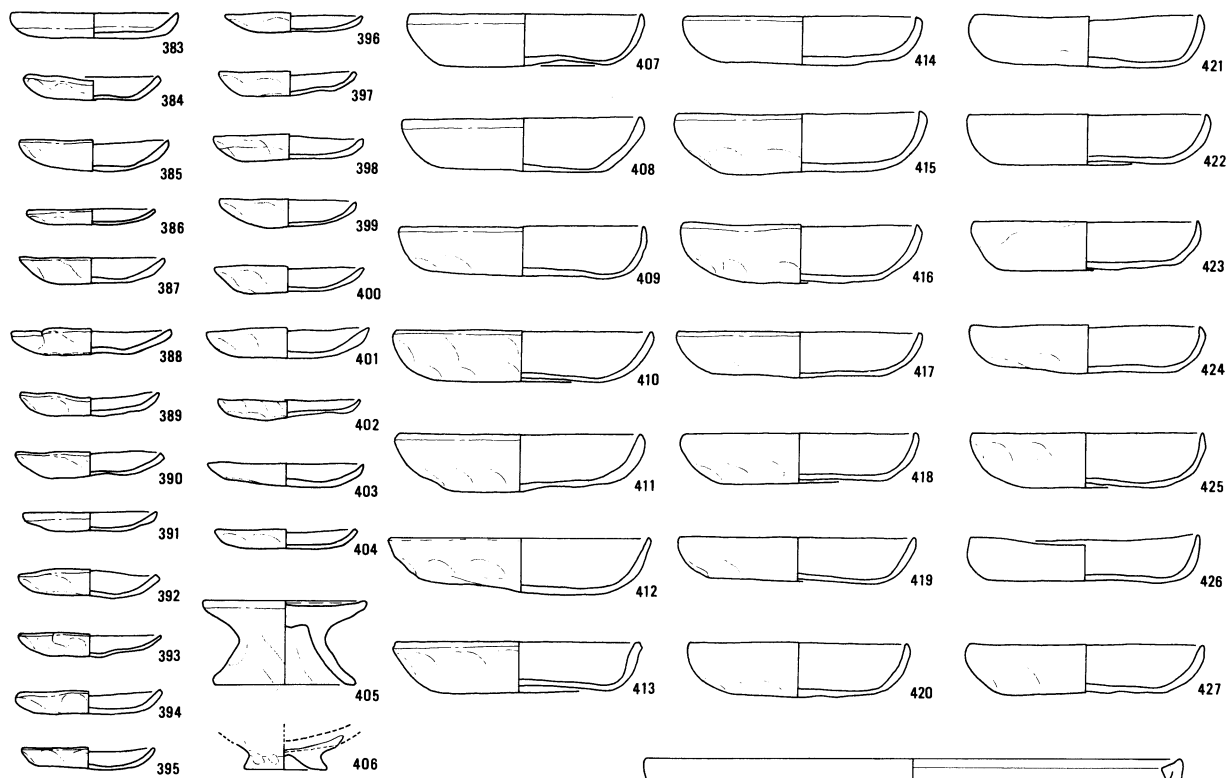
SE172 (328~381)



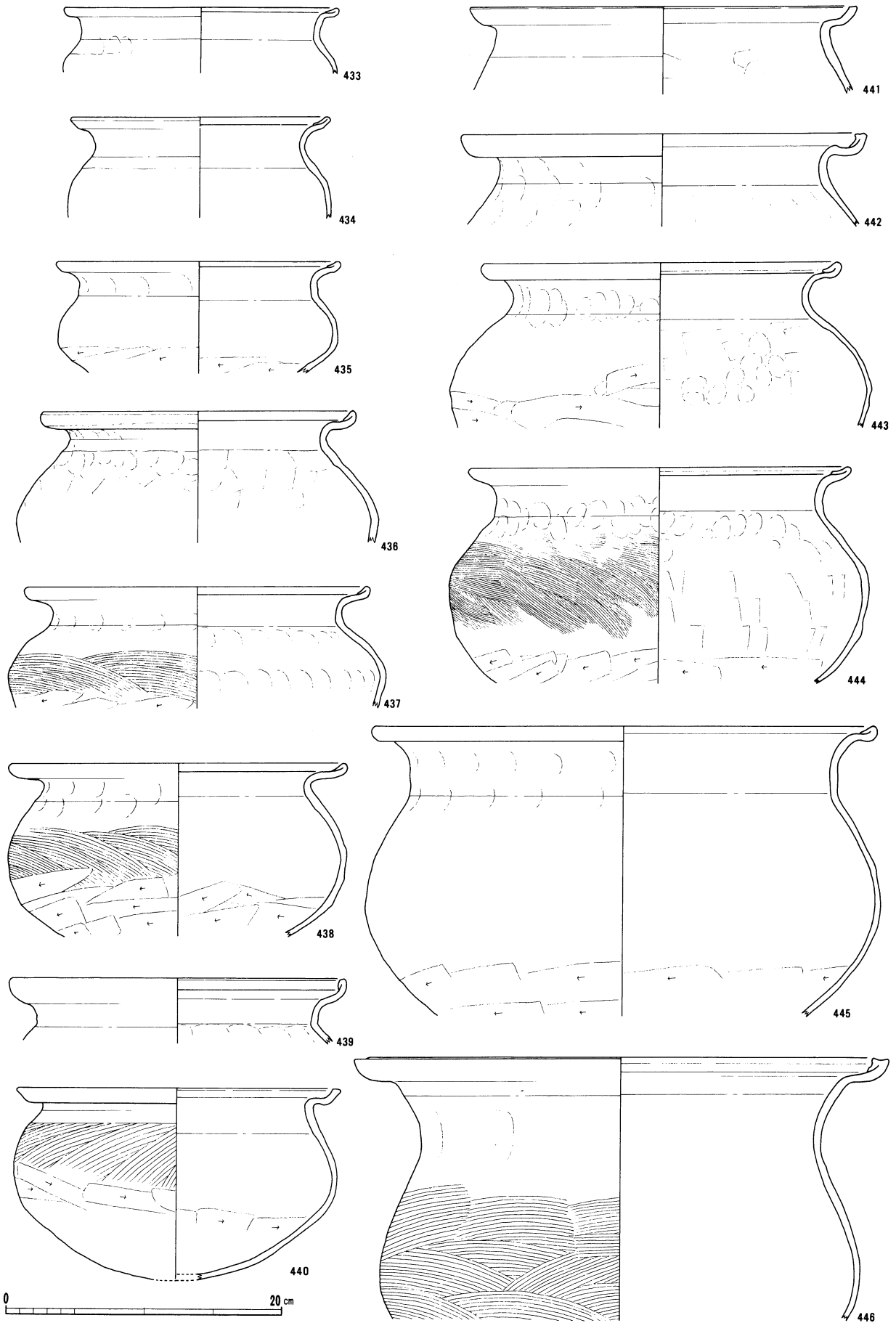
第69図 井戸出土遺物実測図 (1:4)



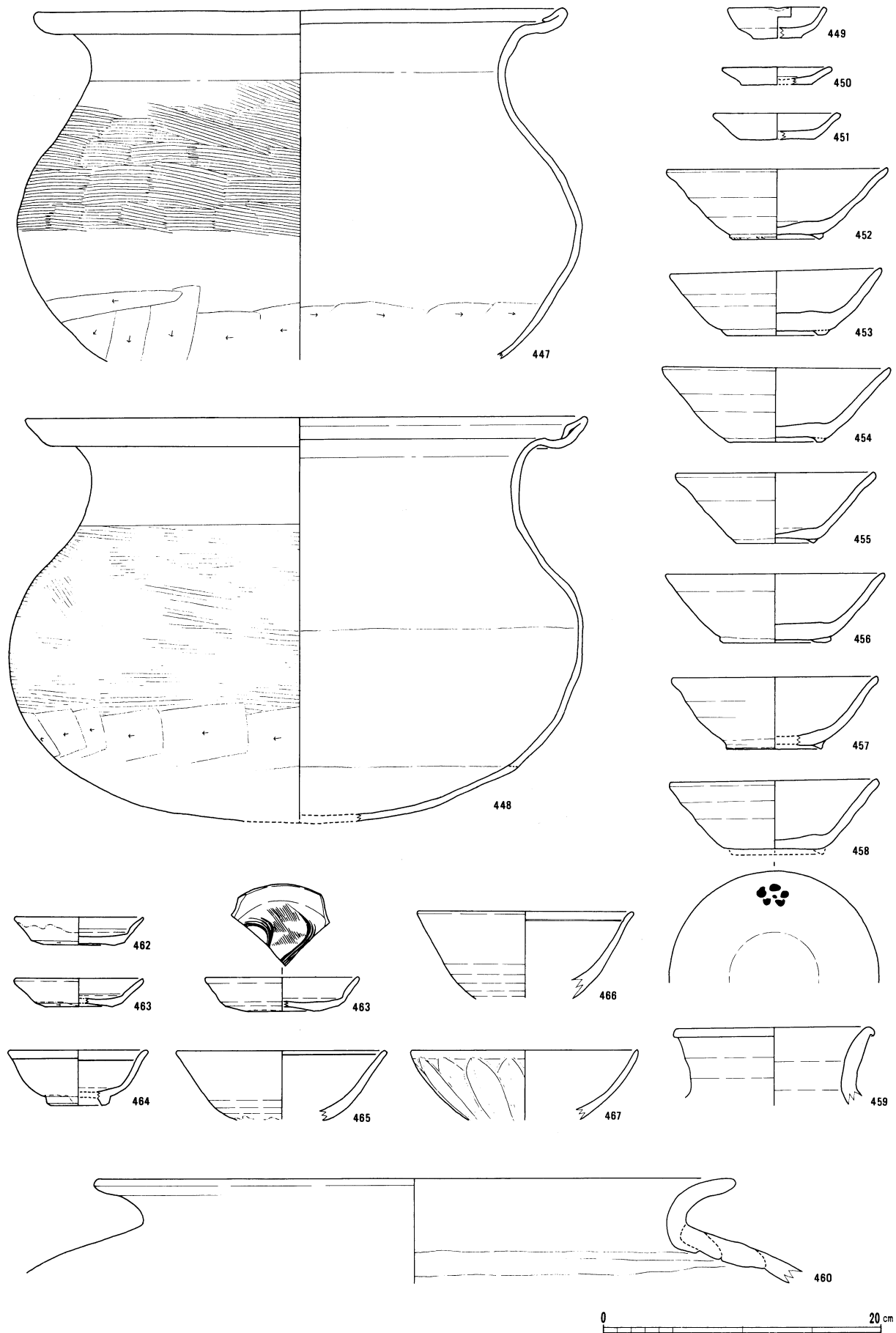
SE 1 9 3 (383~467)



第70図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)

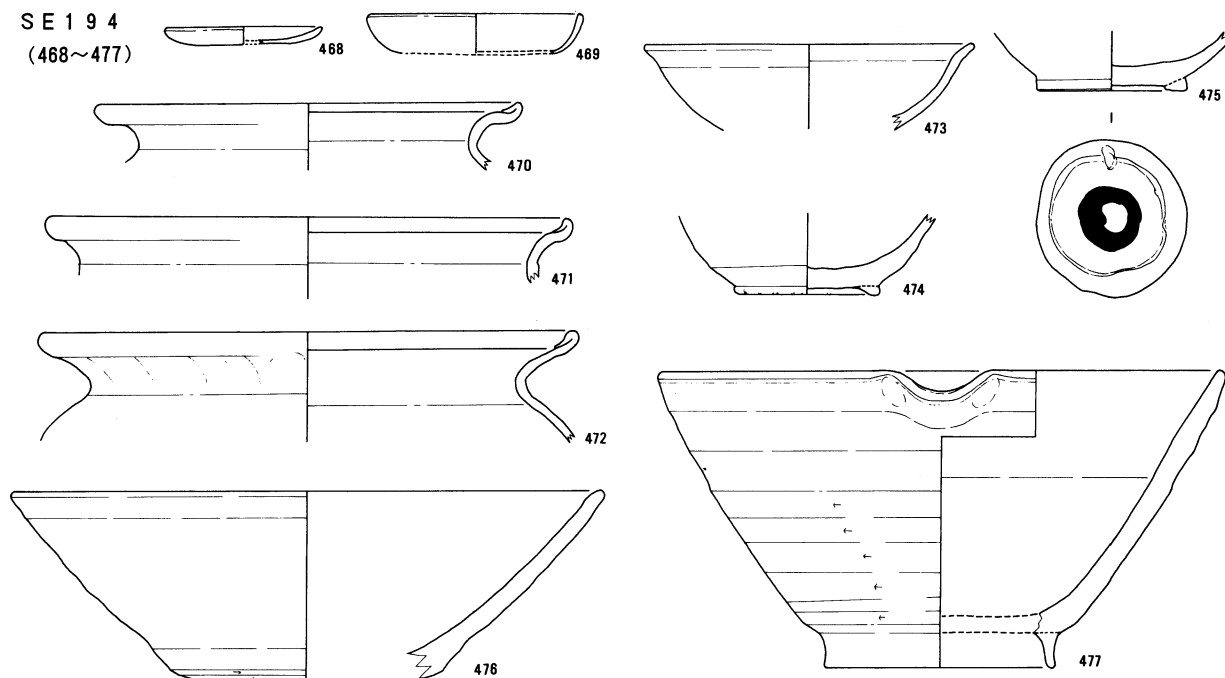


第71図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)

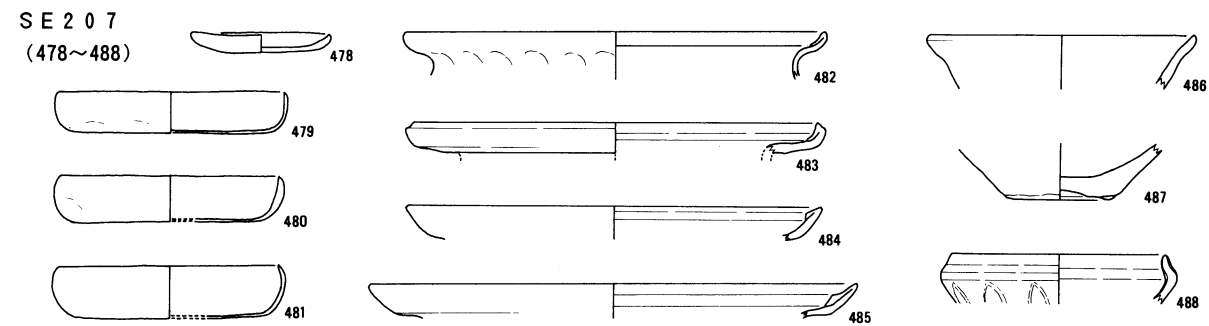


第72図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)

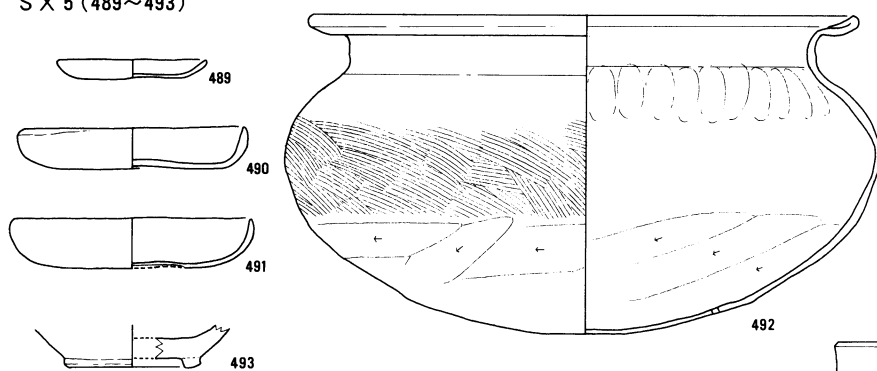
SE 194  
(468~477)



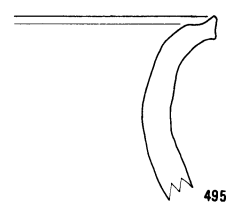
SE 207  
(478~488)



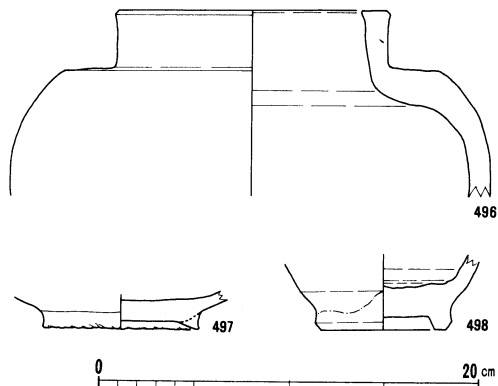
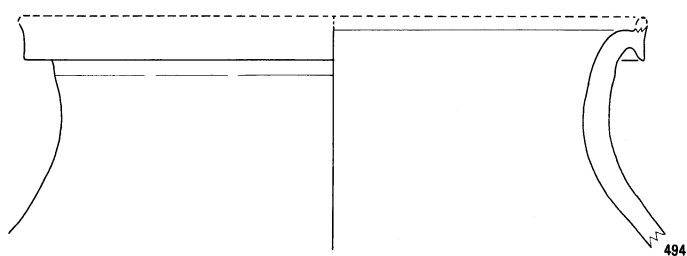
S X 5 (489~493)



S X 3 8 (495~498)

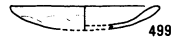


S X 2 8 (494)



第73図 井戸・中世墓出土遺物実測図 (1 : 4)

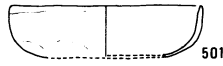
S X 4 0 (499~505)



499



500



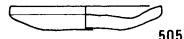
501



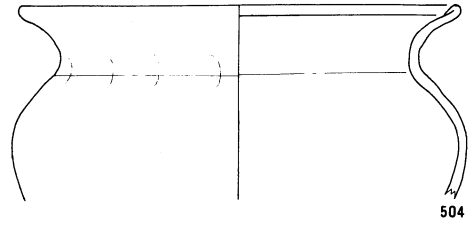
502



503

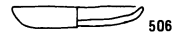


505

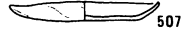


504

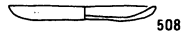
S X 4 1 (506~513)



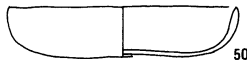
506



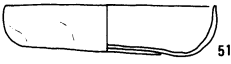
507



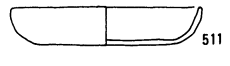
508



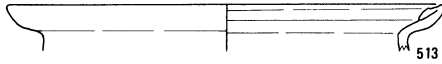
509



510



511

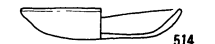


513

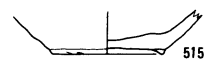


512

S X 4 4 (514 • 515)



514

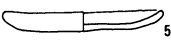


515

S X 4 6 (516~528)



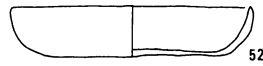
516



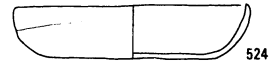
518



520



522



524



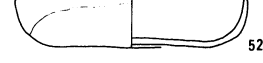
517



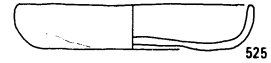
519



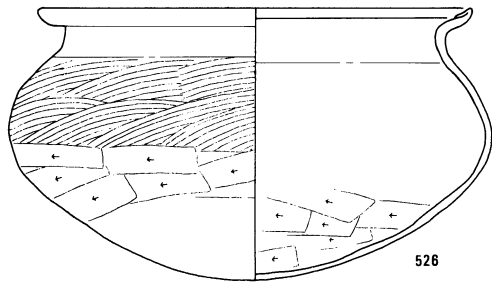
521



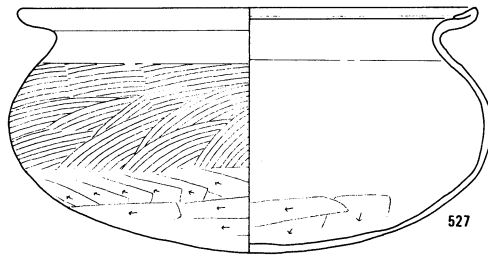
523



525



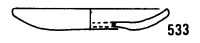
526



527



528

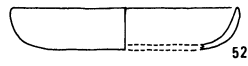


533

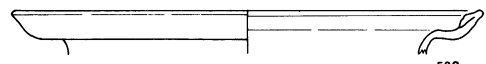
S X 6 4 (533 • 534)

S X 5 9

(529~530)



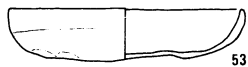
529



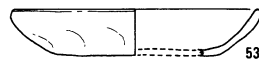
530

S X 6 3

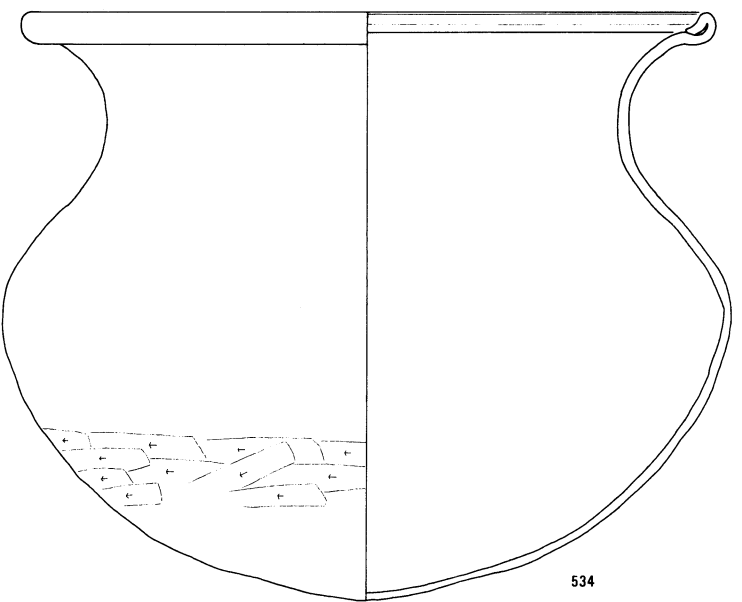
(531 • 532)



531

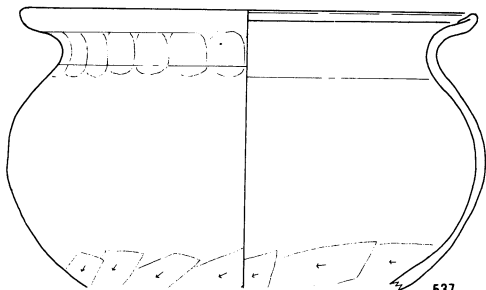


532



534

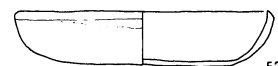
S X 6 7 (535~537)



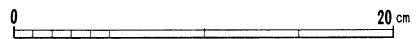
537



535



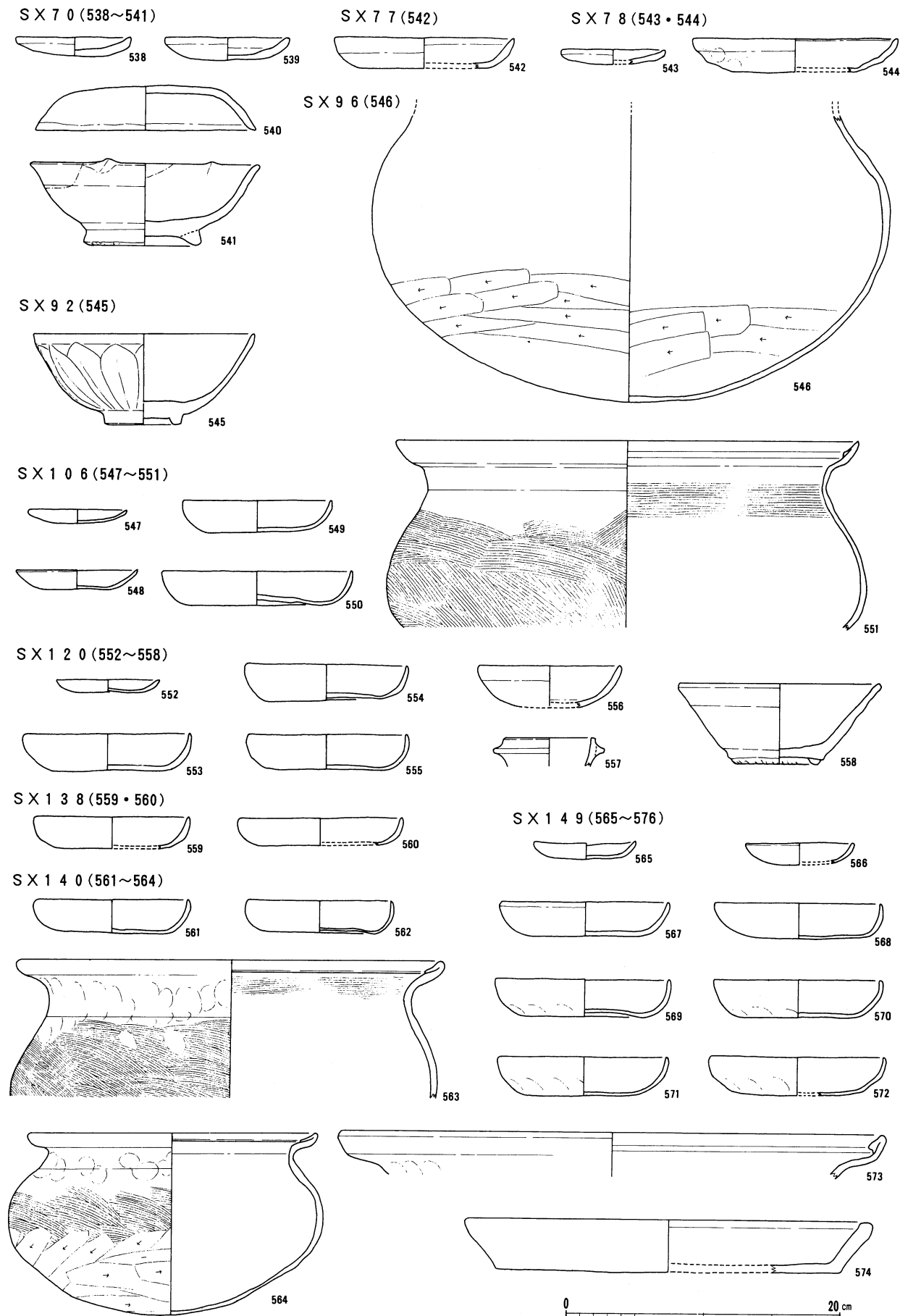
536



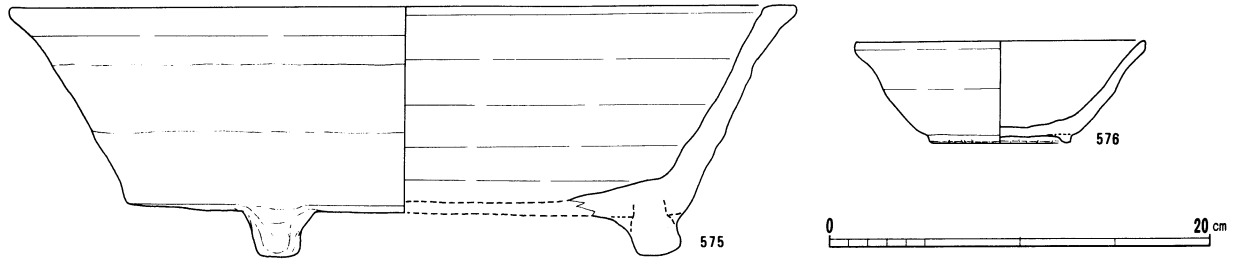
20 cm

第74図 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4)

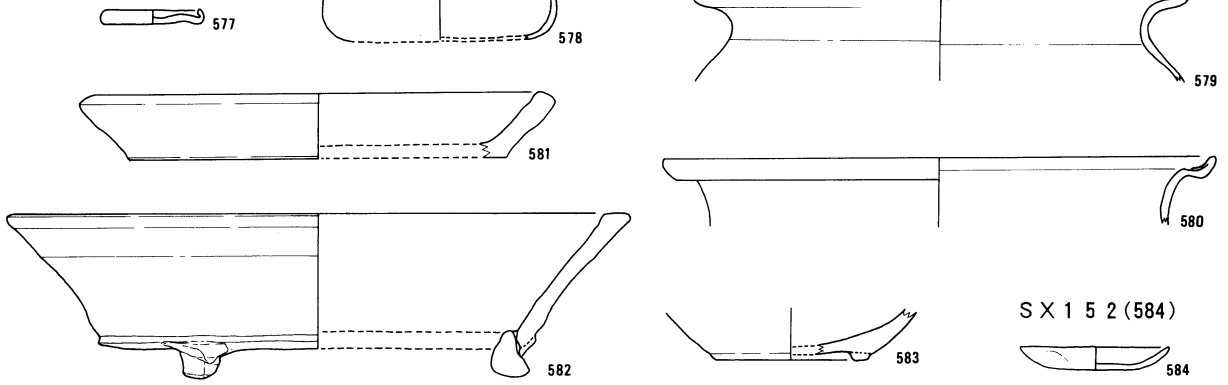




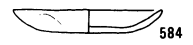
第75図 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4)



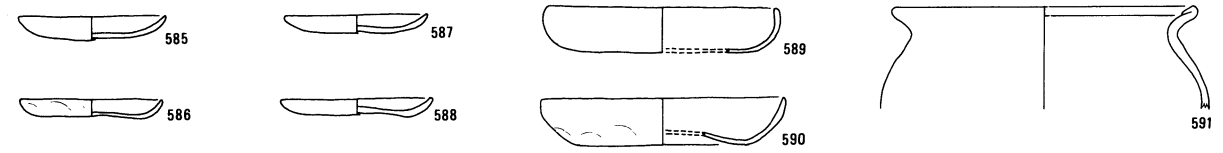
S X 1 5 1 (577~583)



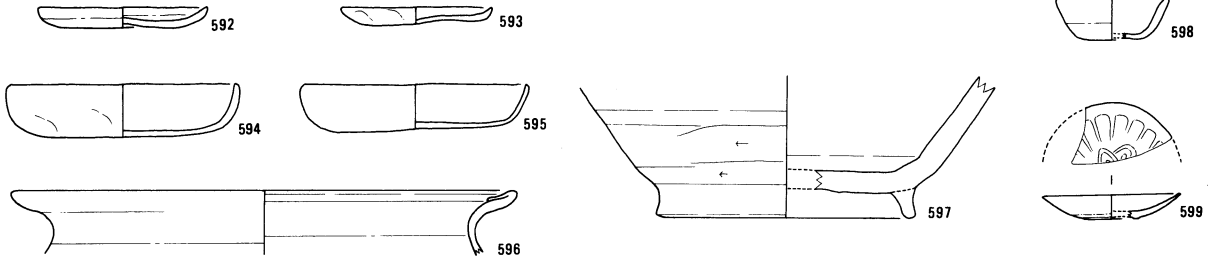
S X 1 5 2 (584)



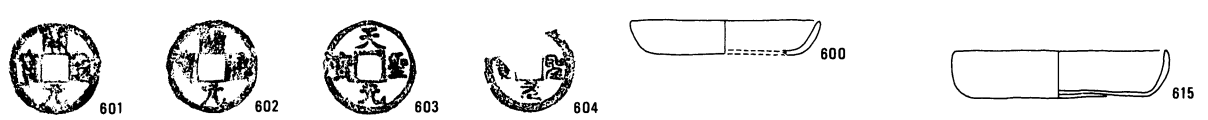
S X 1 6 2 (585~591)



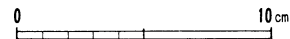
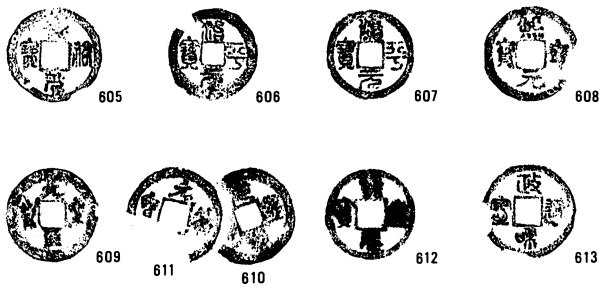
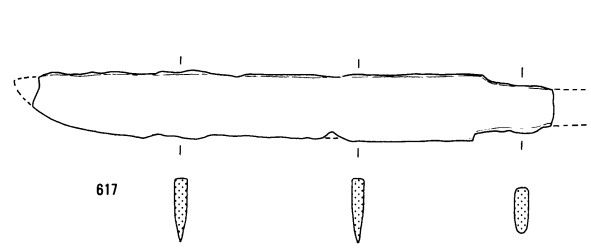
S X 1 6 5 (592~599)



S X 1 6 6 (600~613)

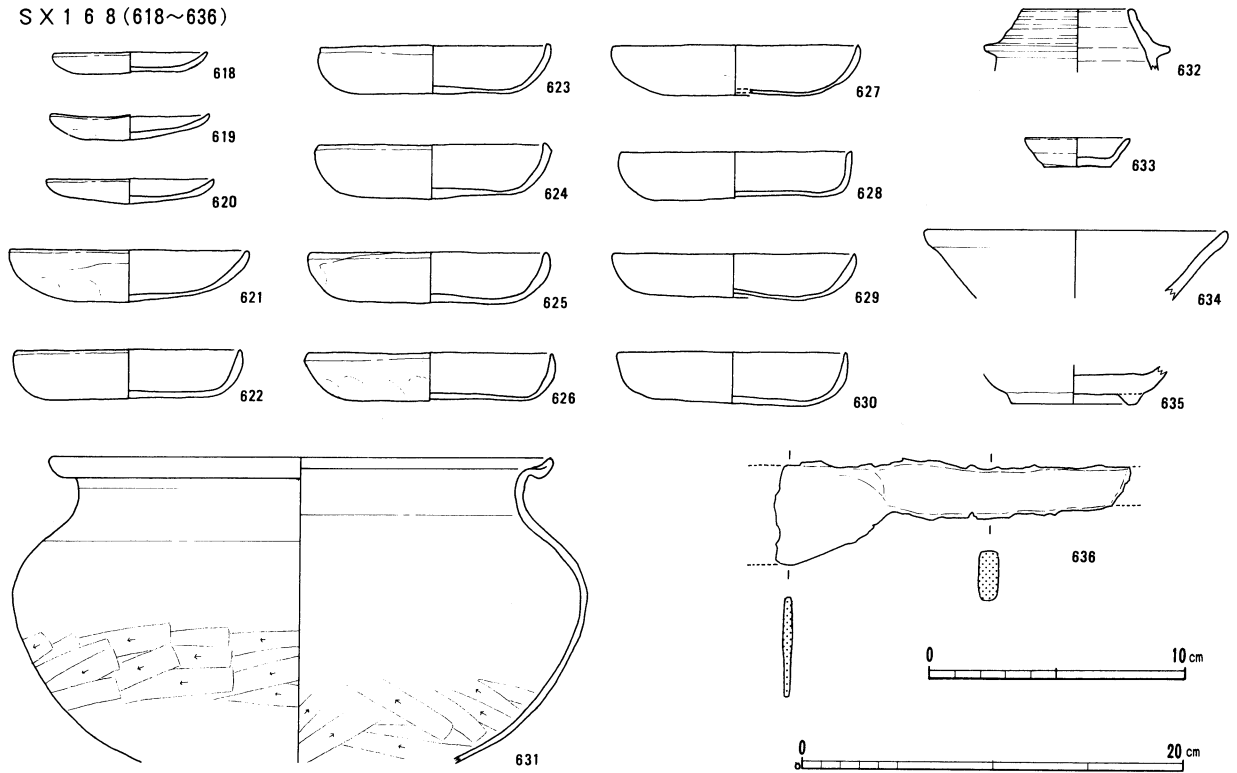


S X 1 6 7 (614~617)

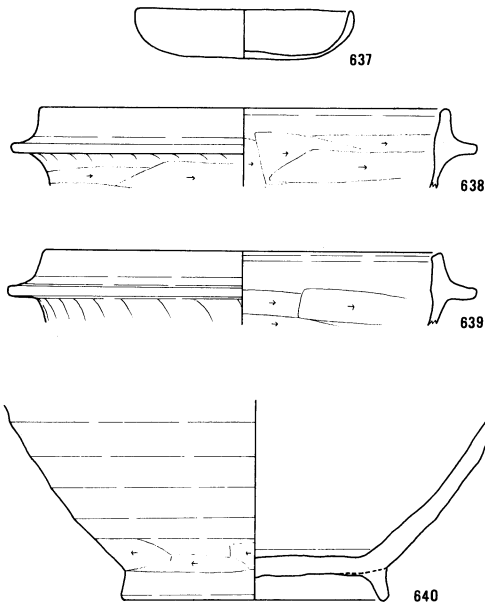


第76图 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4, 601~613= 1 : 2, 617= 1 : 3)

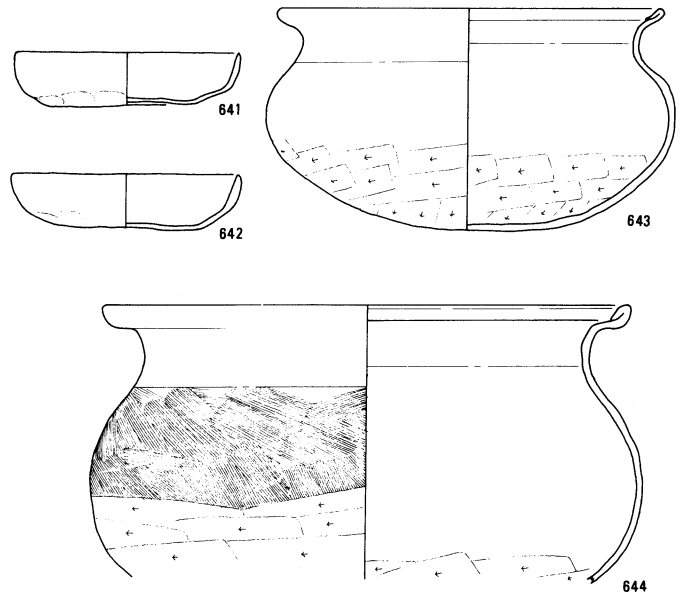
SX 1 6 8 (618~636)



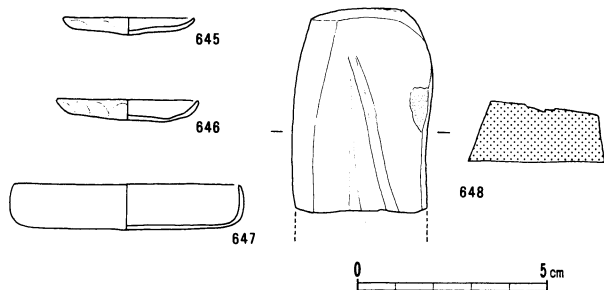
SX 1 7 0 (637~640)



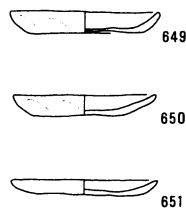
SX 1 7 5 (641~644)



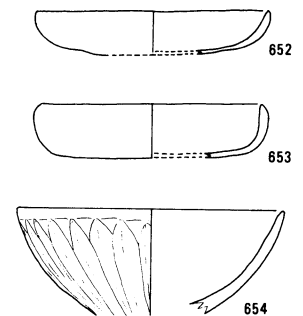
SX 1 8 8 (645~648)



SX 1 8 9 (649~651)

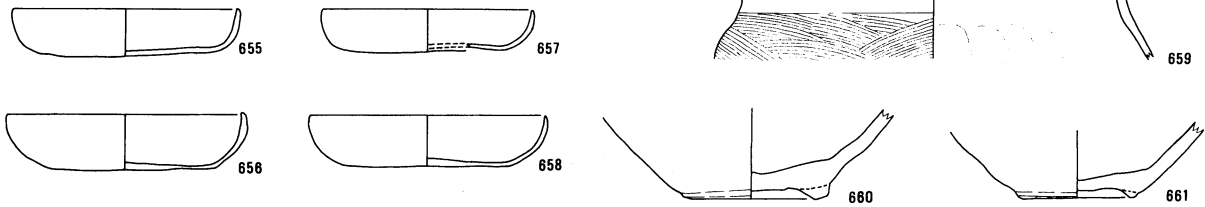


SX 2 2 3 (652~654)

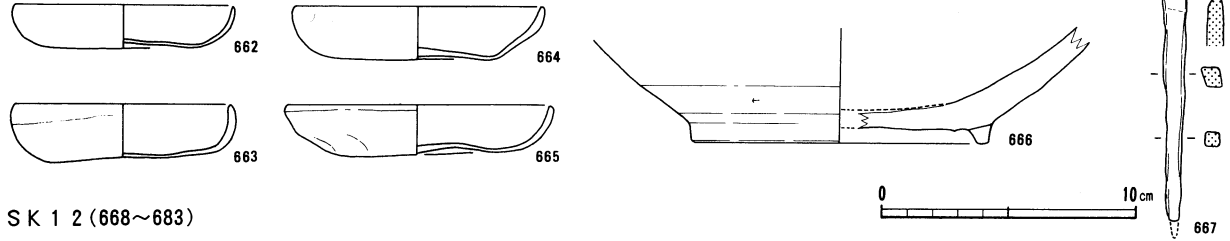


第77図 中世墓出土遺物実測図 (1:4, 636=1:3, 648=1:2)

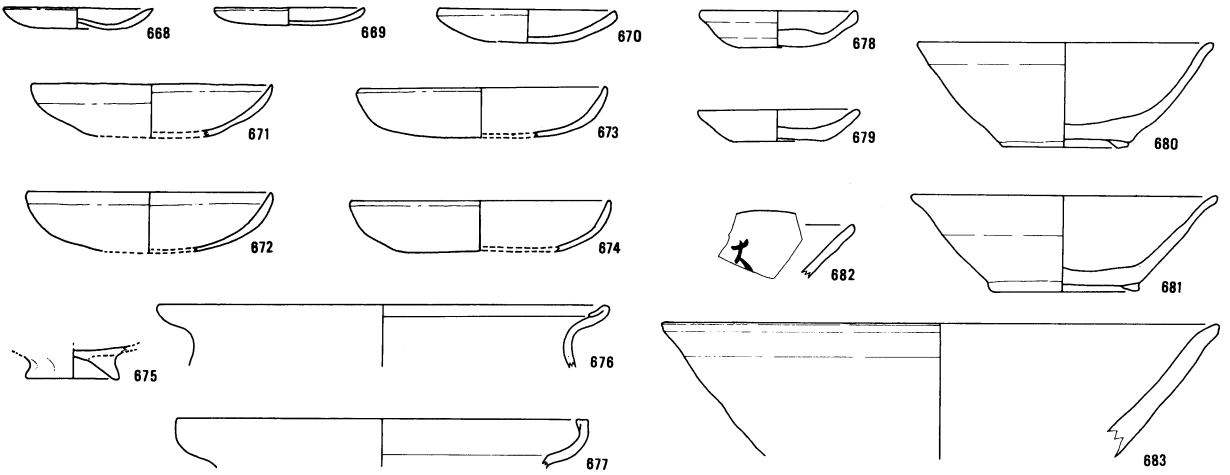
S X 2 2 4 (655~661)



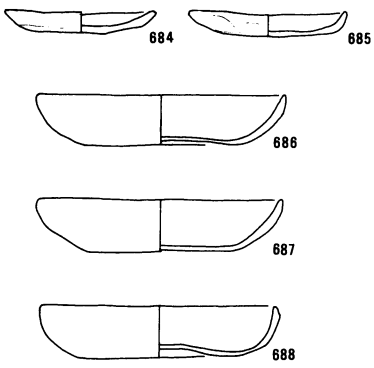
S X 2 2 5 (662~667)



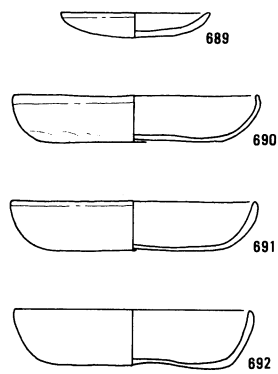
S K 1 2 (668~683)



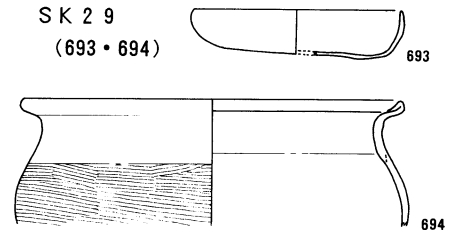
S K 2 2 (684~688)



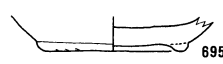
S K 2 6 (689~692)



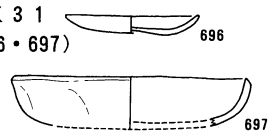
S K 2 9  
(693 • 694)



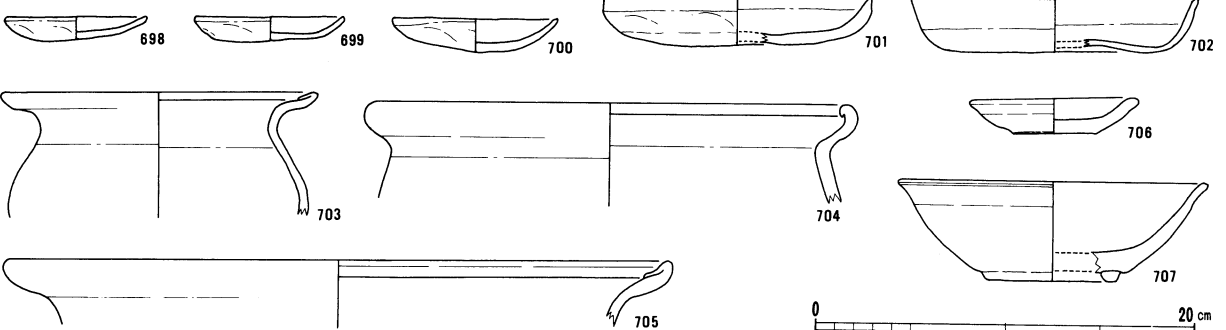
S K 3 0 (695)



S K 3 1  
(696 • 697)

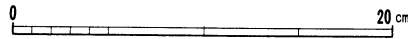
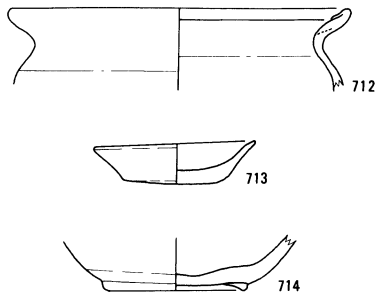
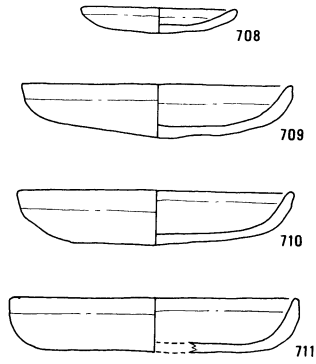


S K 4 5 (698~707)

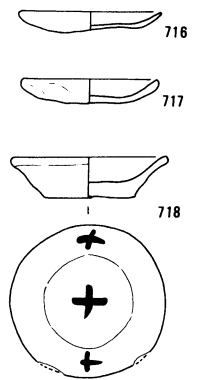


第78图 中世墓・土坑出土遺物実測図 (1 : 4, 667 = 1 : 3)

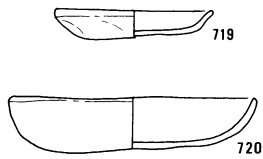
SK 4 8 (708~715)



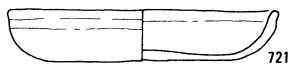
SK 6 5 (716・718)



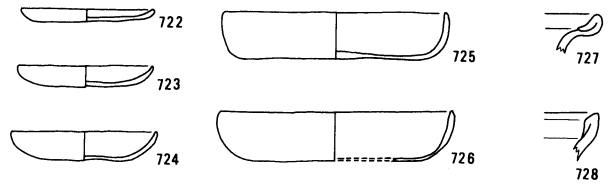
SK 6 6 (719・720)



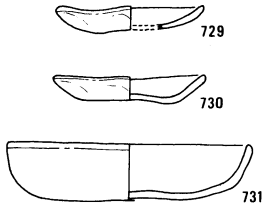
SK 6 9 (721)



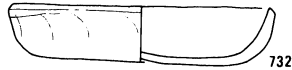
SK 8 1 (722~728)



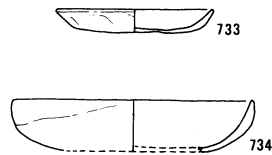
SK 8 3 (729~731)



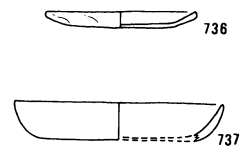
SK 8 4 (732)



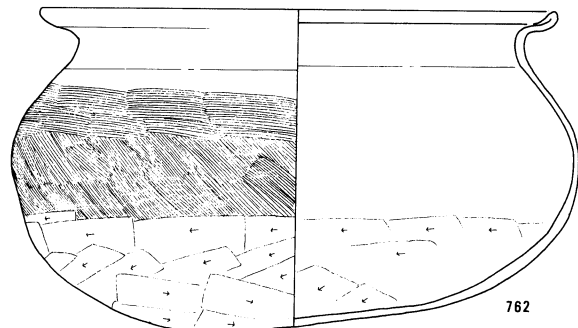
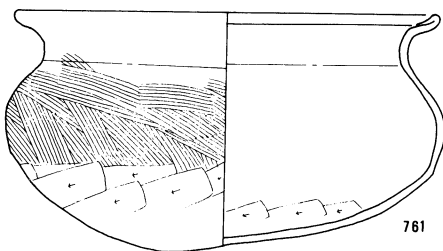
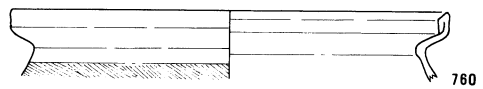
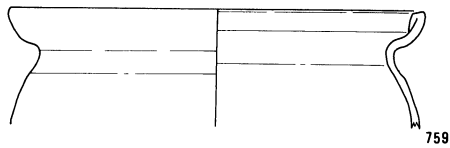
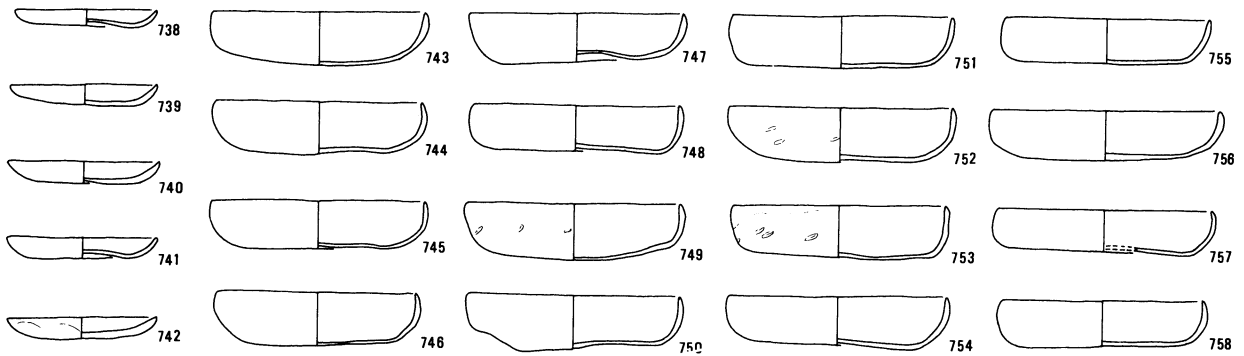
SK 8 6 (733・734)



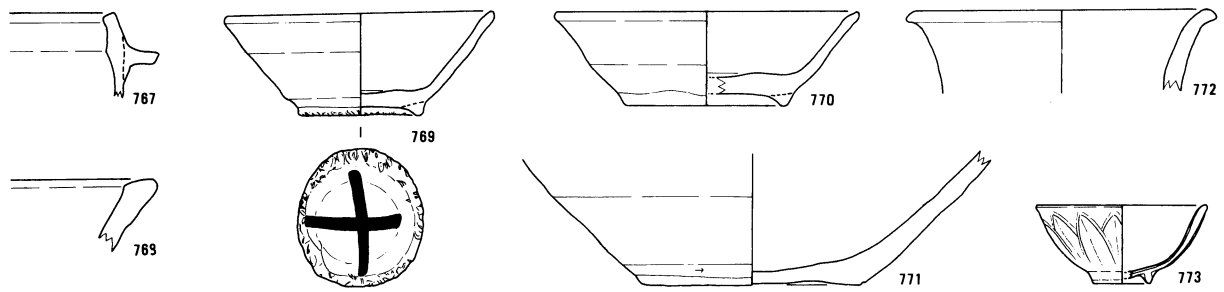
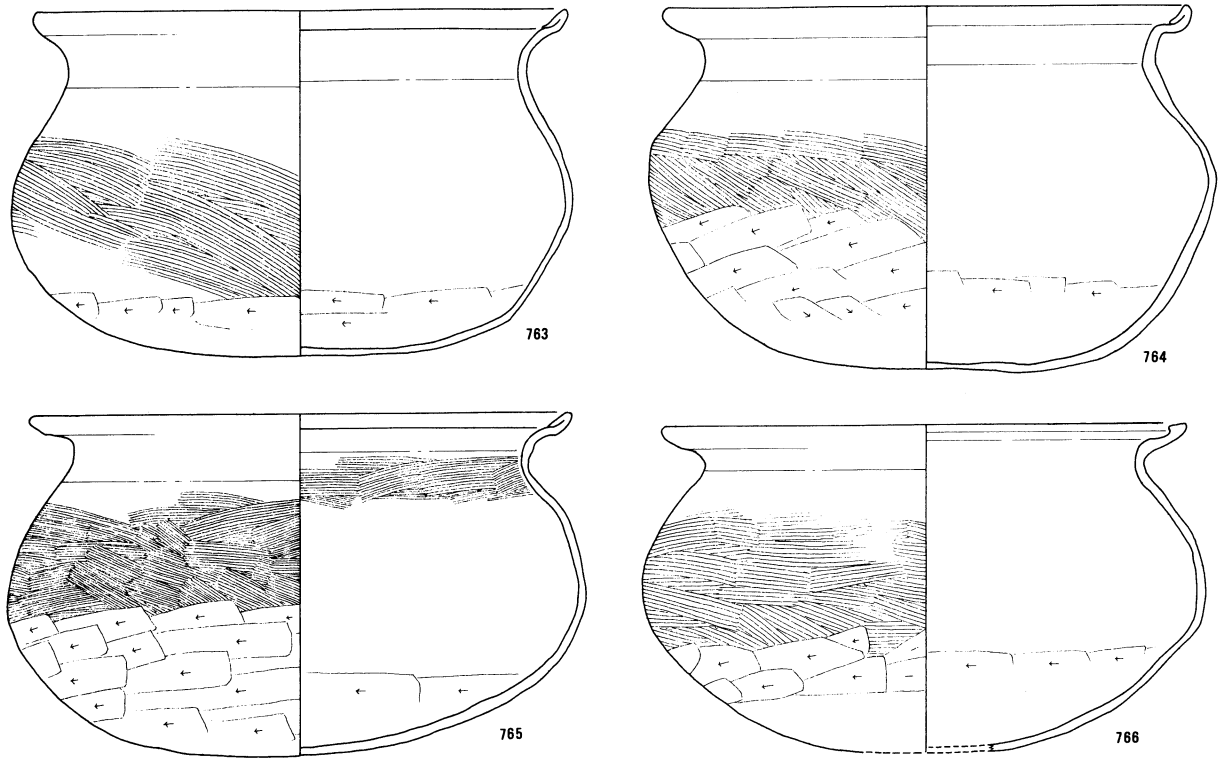
SK 1 0 1 (736・737)



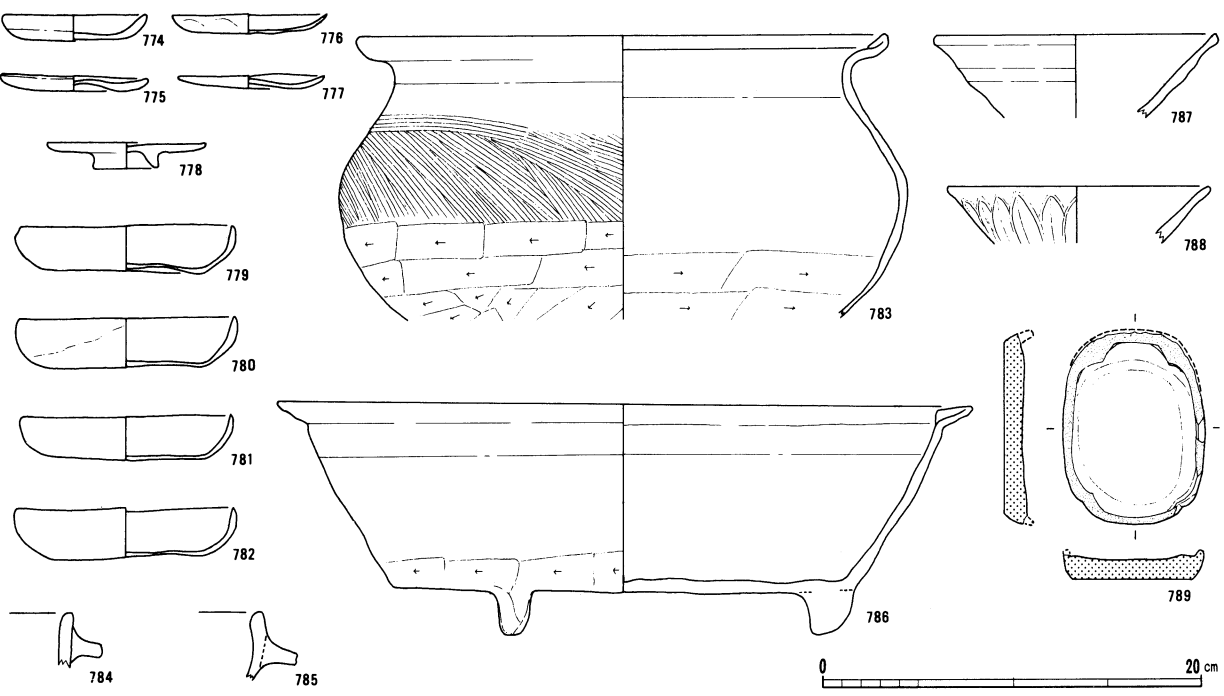
SK 1 0 3 (738~773)



第79図 土坑出土遺物実測図 (1:4)

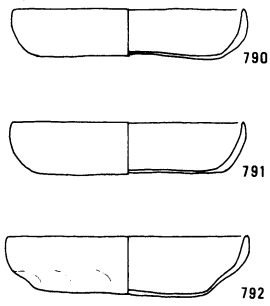


SK 1 0 4 (774~789)

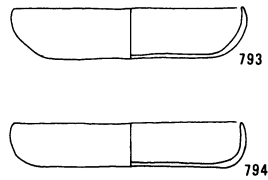


第80図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4)

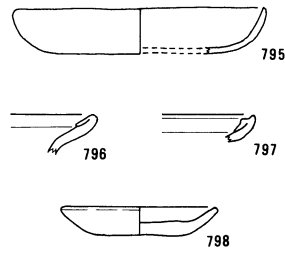
SK 1 0 5 (790~792)



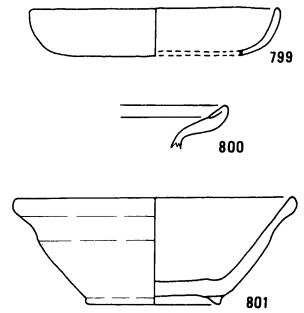
SK 1 1 1 (793・794)



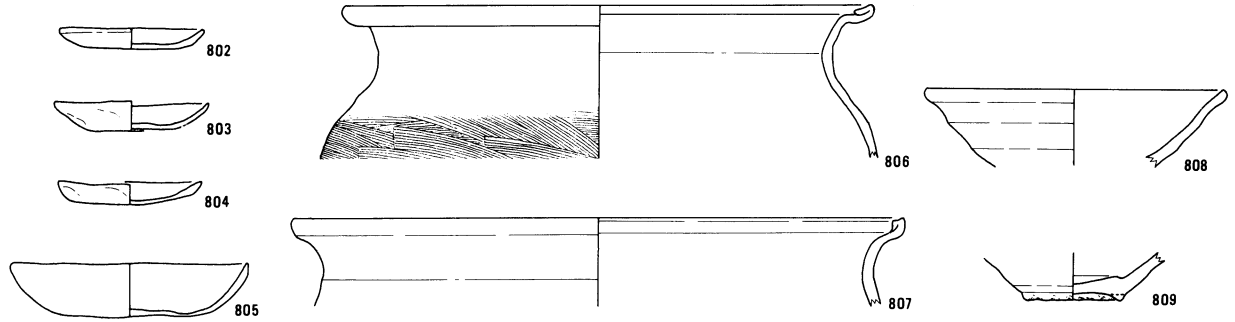
SK 1 1 4 (795~798)



SK 1 1 5 (799~801)



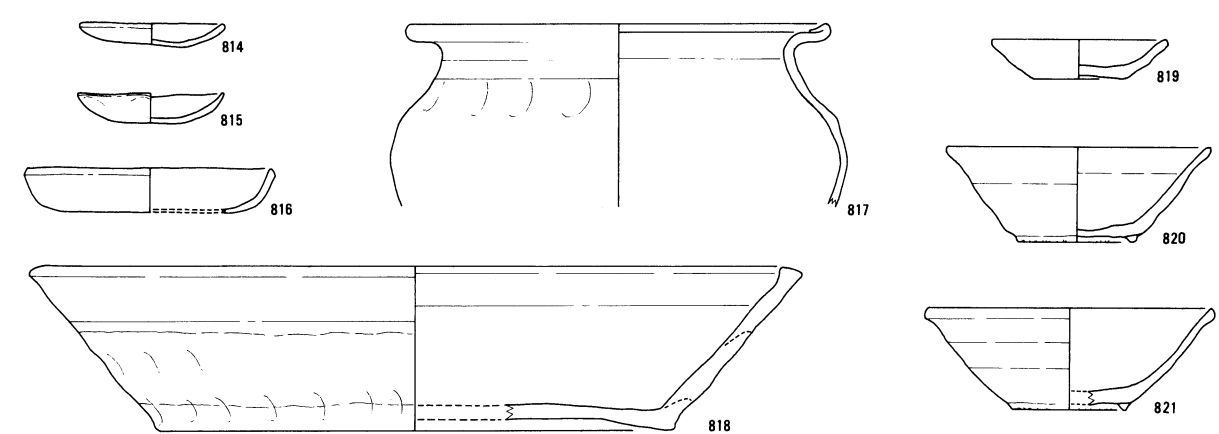
SK 1 2 2 (802~809)



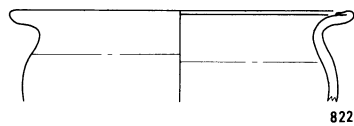
SK 1 2 3 (810~813)



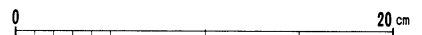
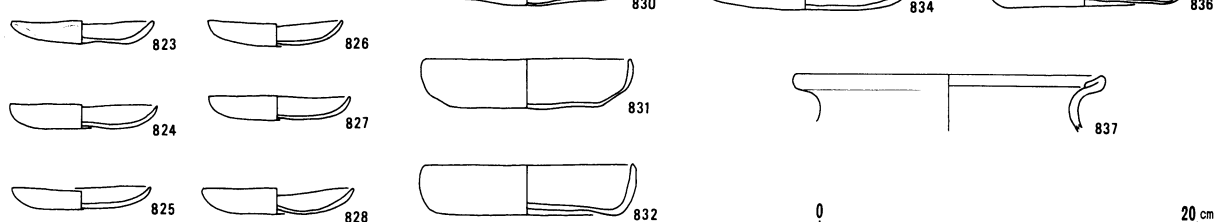
SK 1 3 0 (814~821)



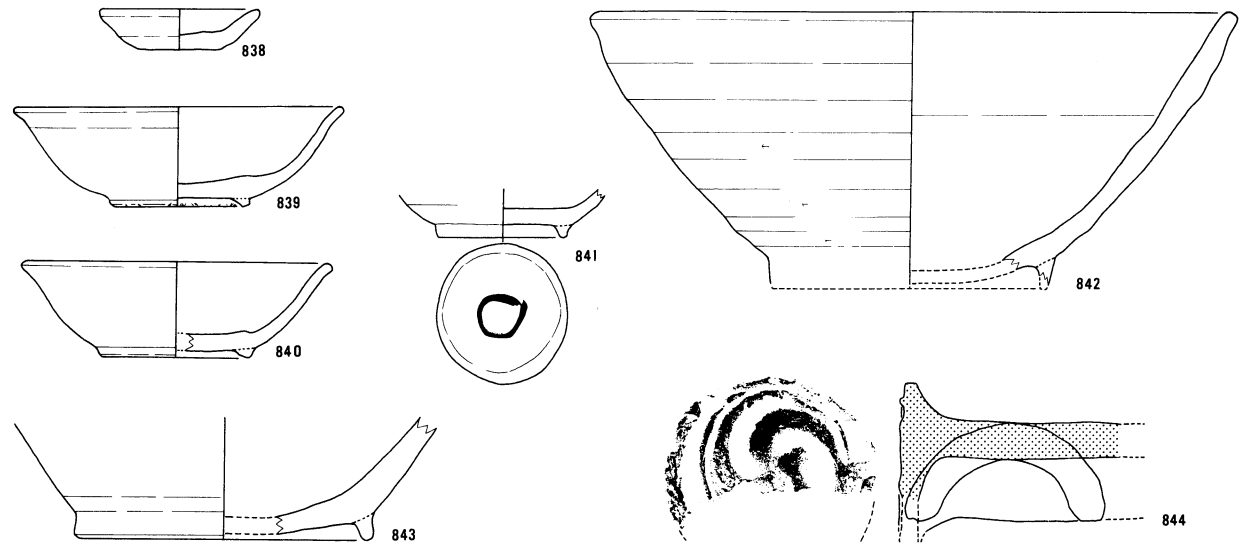
SK 1 3 5 (822)



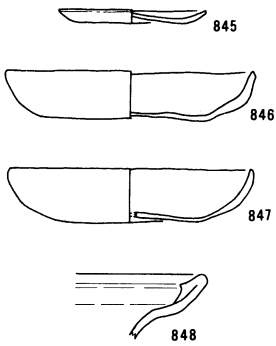
SK 1 4 4 (823~844)



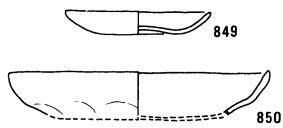
第81図 土坑出土遺物実測図(1:4)



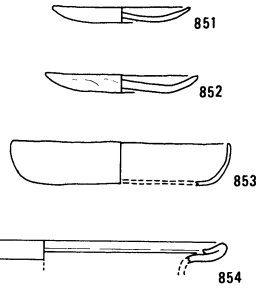
SK 1 4 6 (845~848)



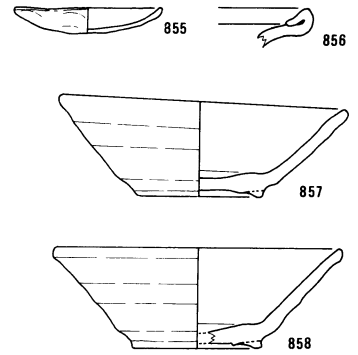
SK 1 4 7 (849・850)



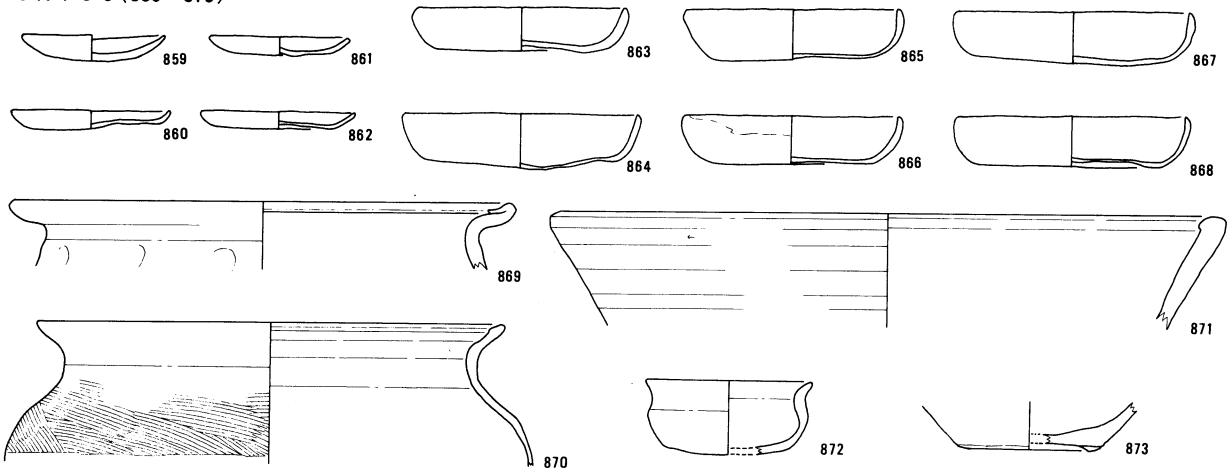
SK 1 5 0 (851~854)



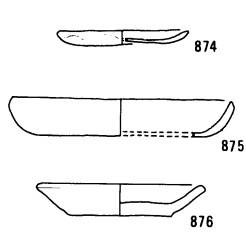
SK 1 5 4 (855~858)



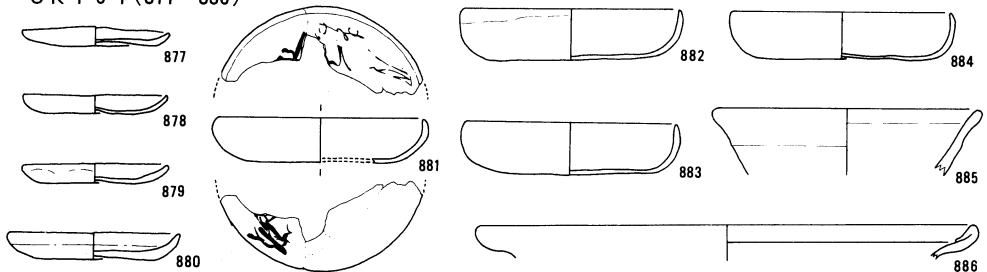
SK 1 5 5 (859~873)



SK 1 5 6 (874~876)



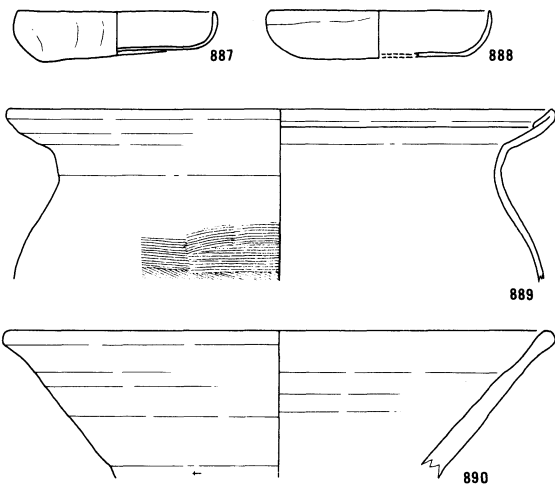
SK 1 6 1 (877~886)



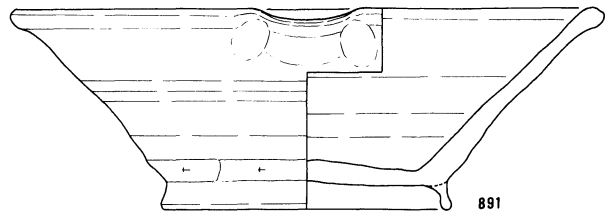
第82図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4)



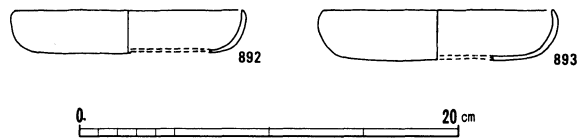
SK 1 7 3 (887~890)



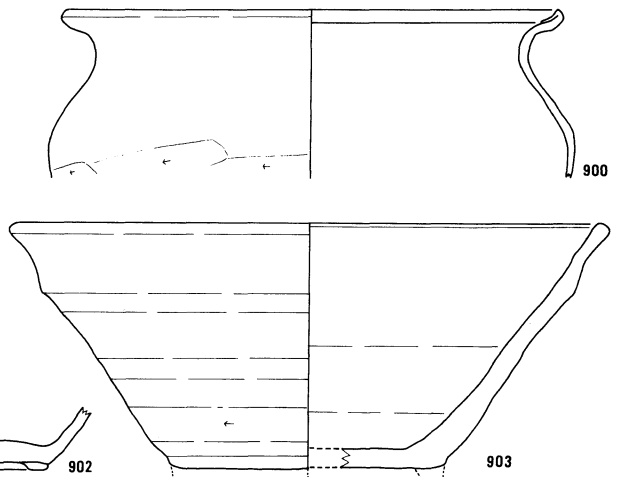
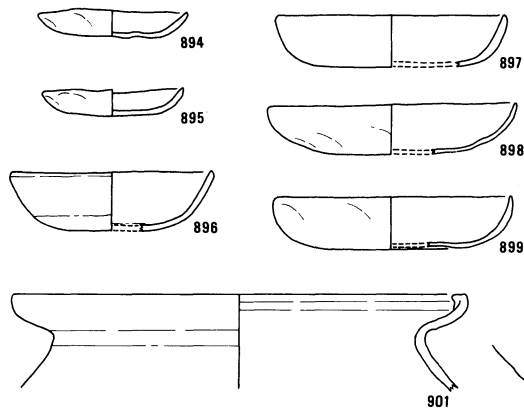
SK 1 7 4 (891)



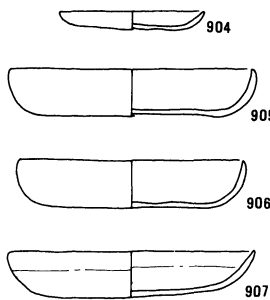
SK 1 7 7 (892・893)



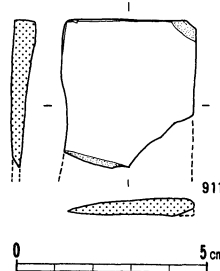
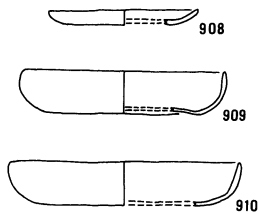
SK 1 7 8 (894~903)



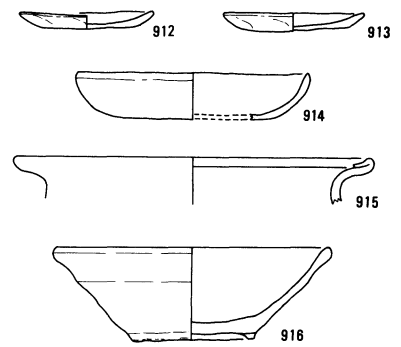
SK 1 8 1 (904~907)



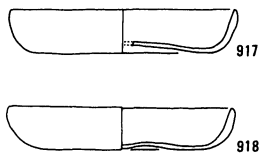
SK 1 8 3 (908~911)



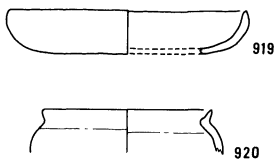
SK 1 9 0 (912~916)



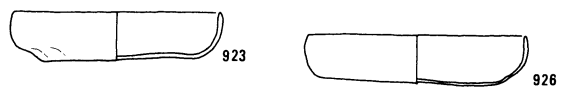
SK 1 9 5 (917・918)



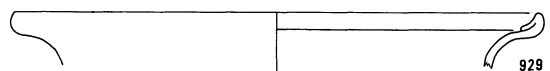
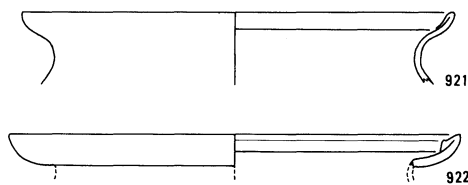
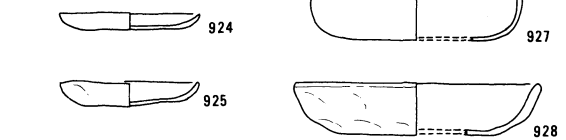
SK 1 9 7 (919~922)



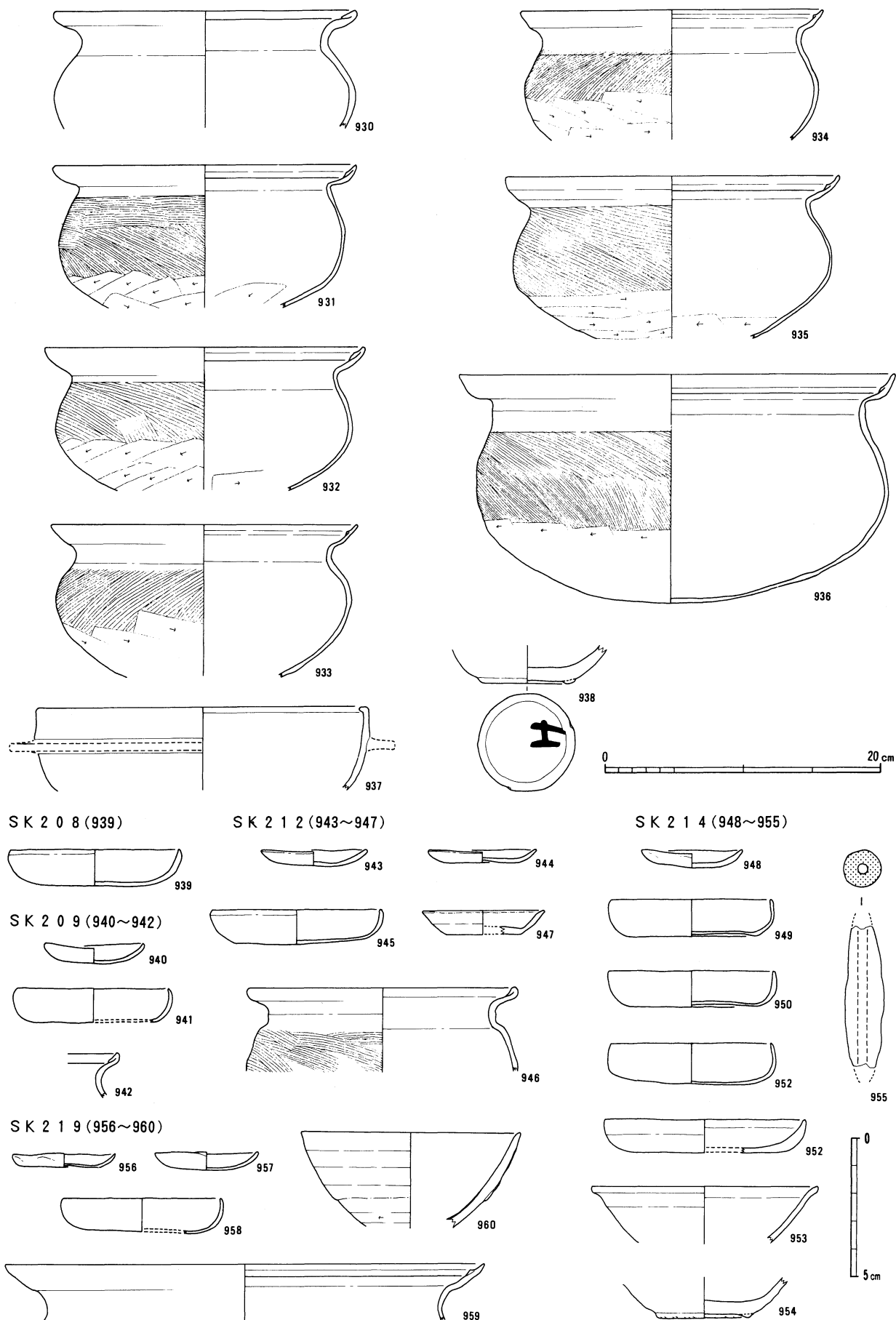
SK 2 0 3 (923)



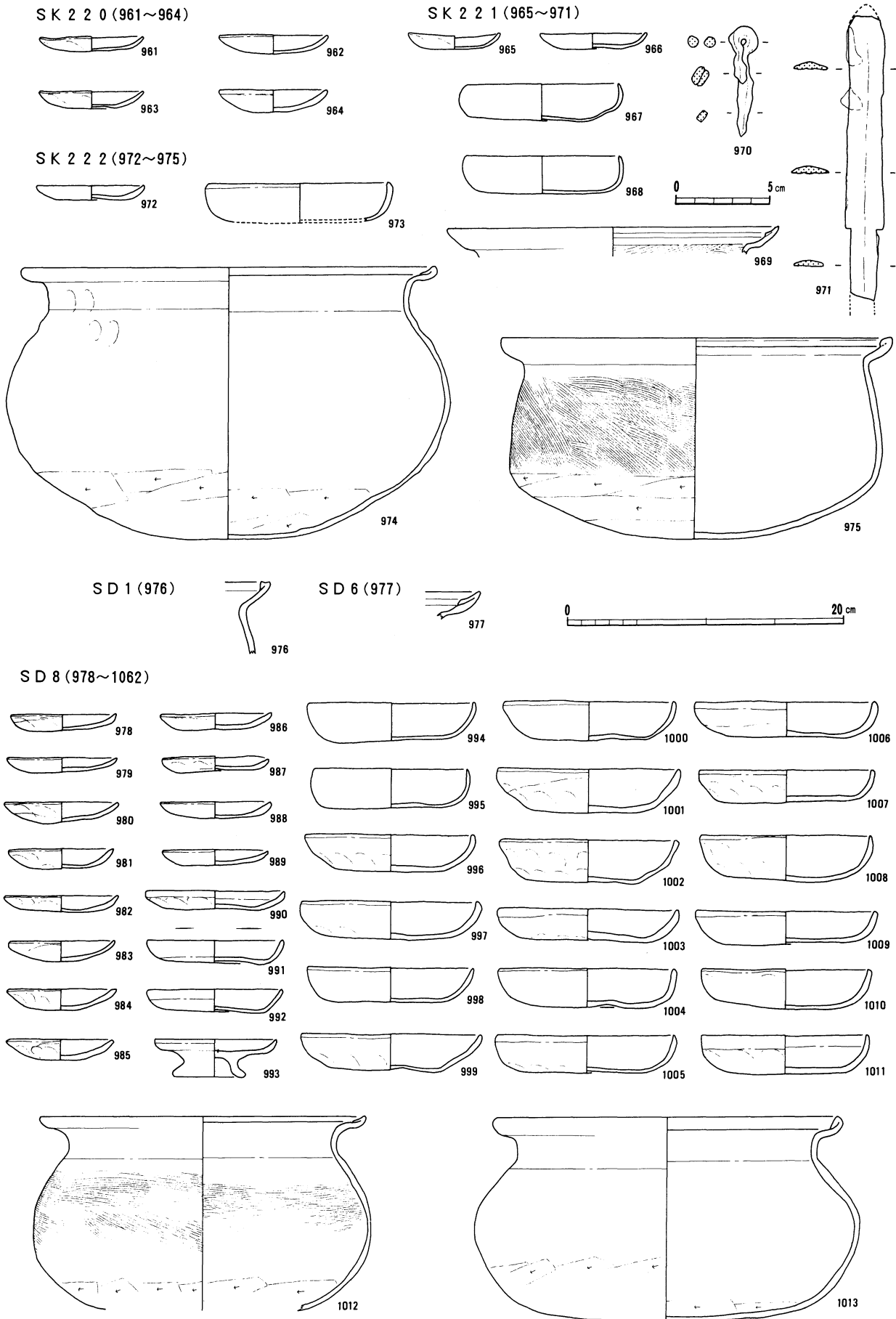
SK 2 0 4 (924~938)



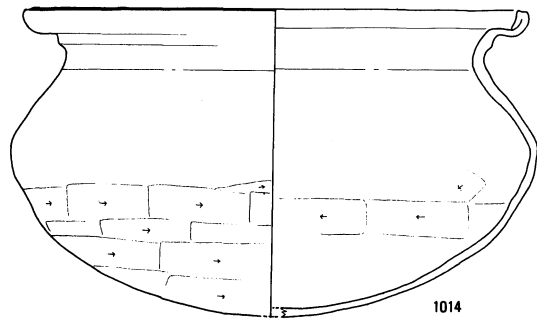
第83図 土坑出土遺物実測図 (1:4, 911=1:2)



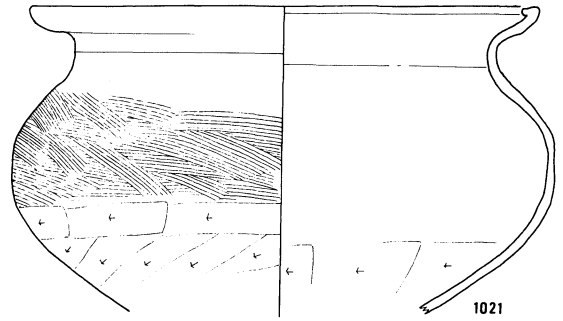
第84図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4, 955 = 1 : 2)



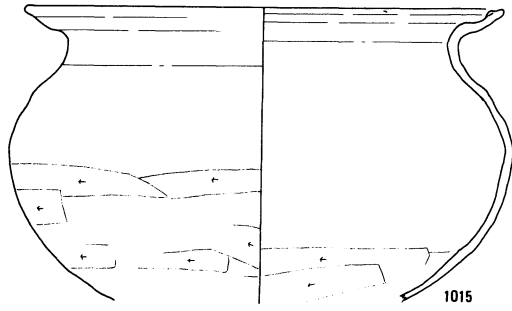
第85図 土坑・溝出土遺物実測図 (1:4, 970~971=1:3)



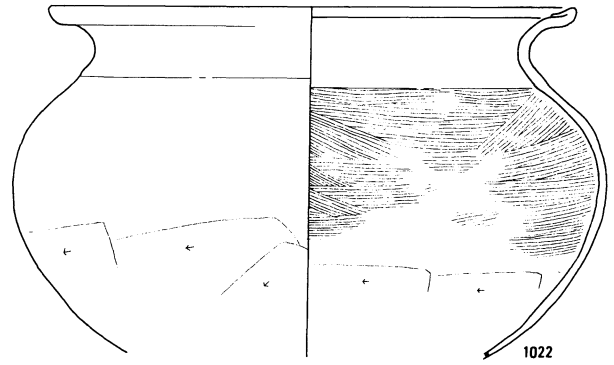
1014



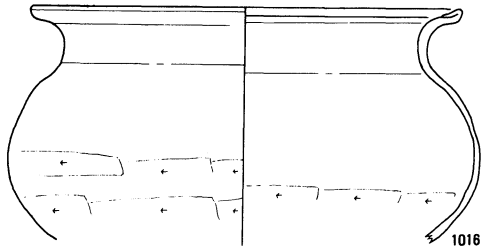
1021



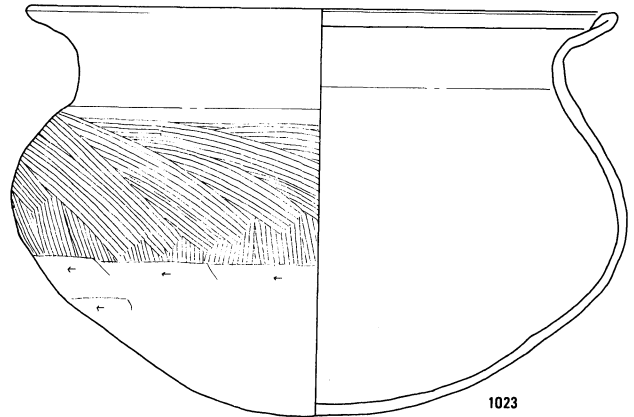
1015



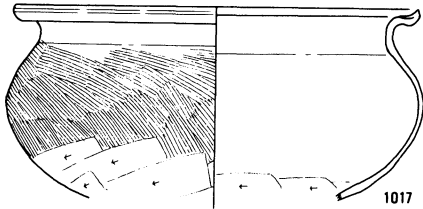
1022



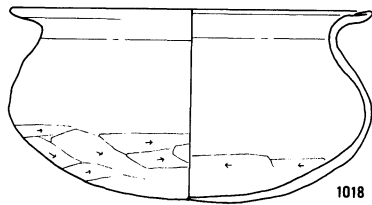
1016



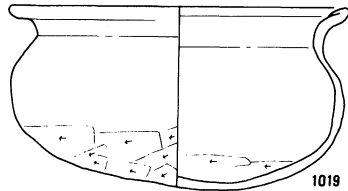
1023



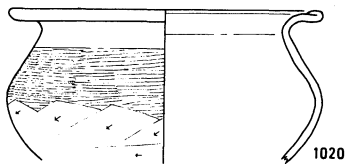
1017



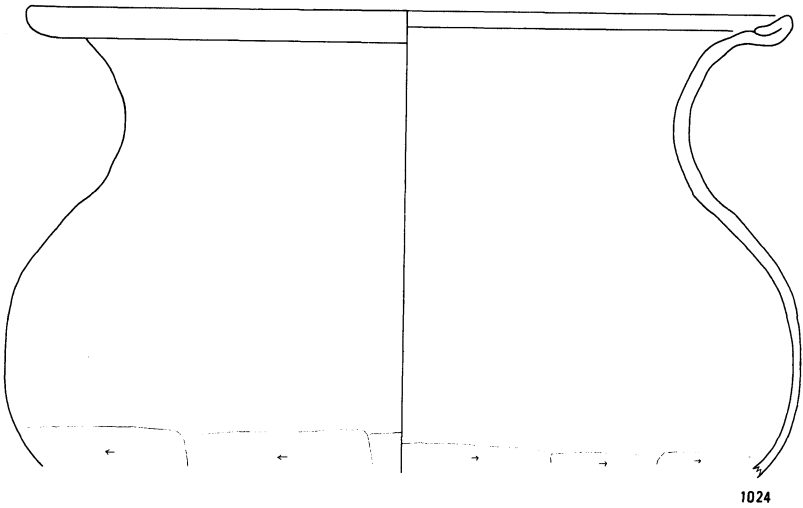
1018



1019



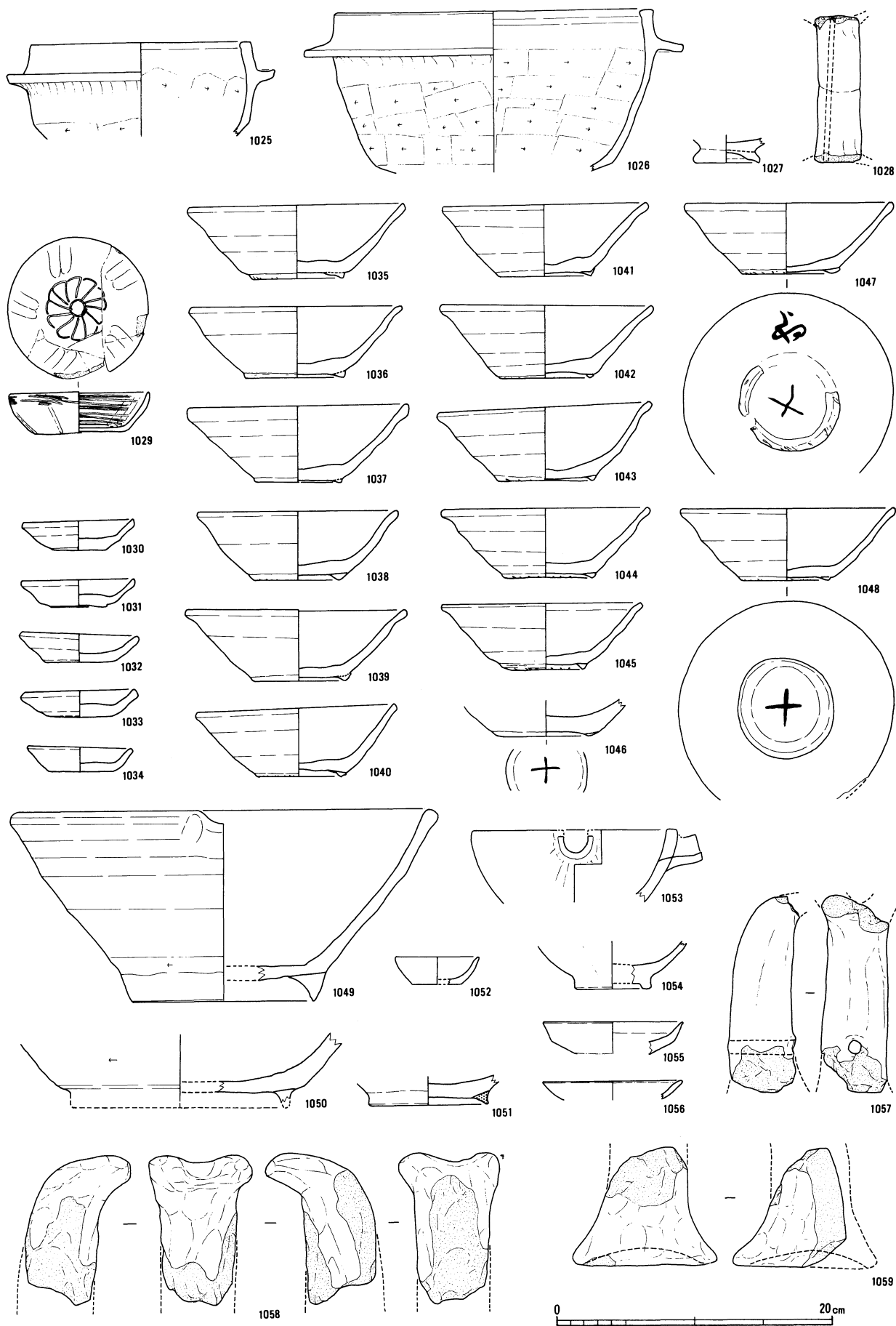
1020



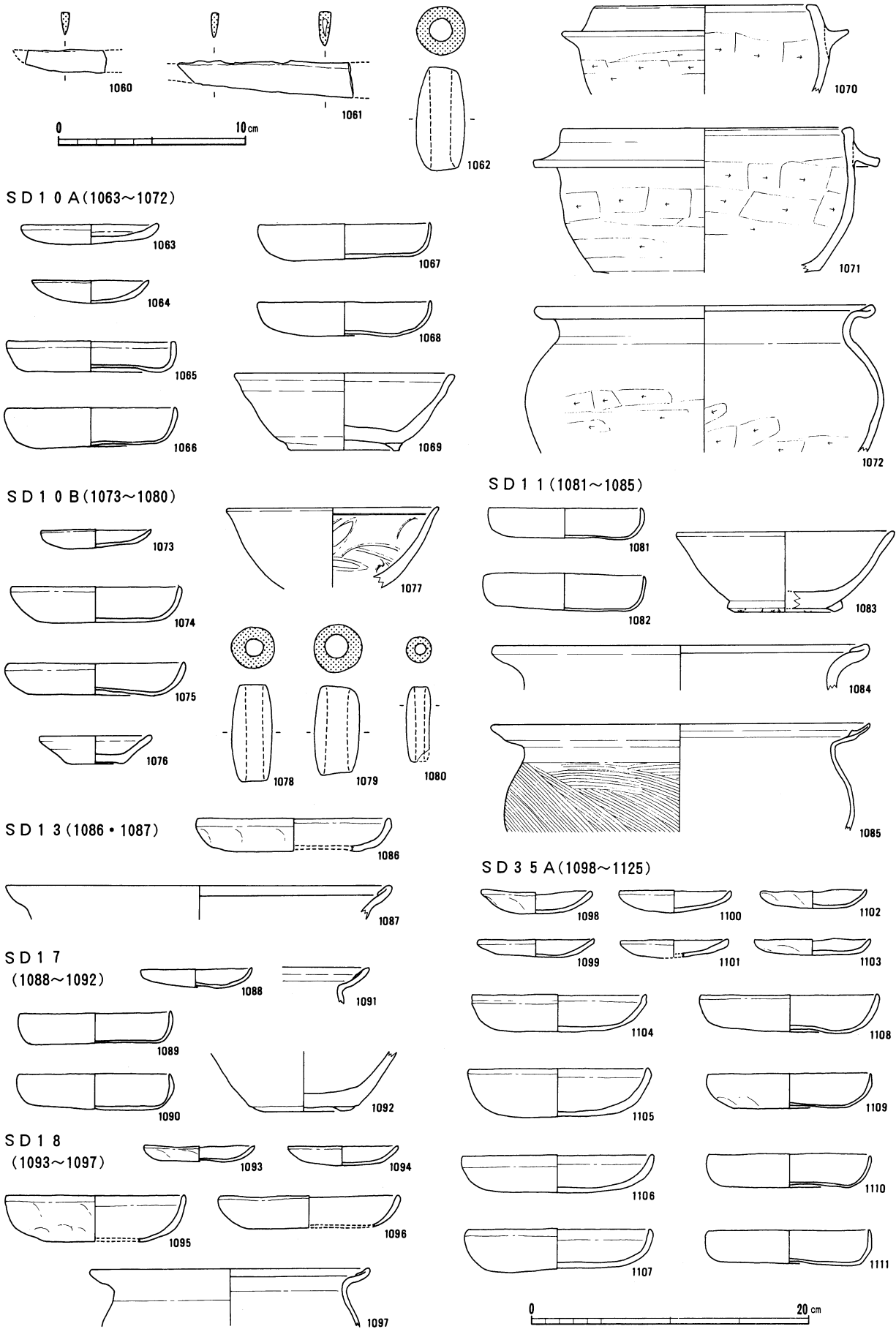
1024



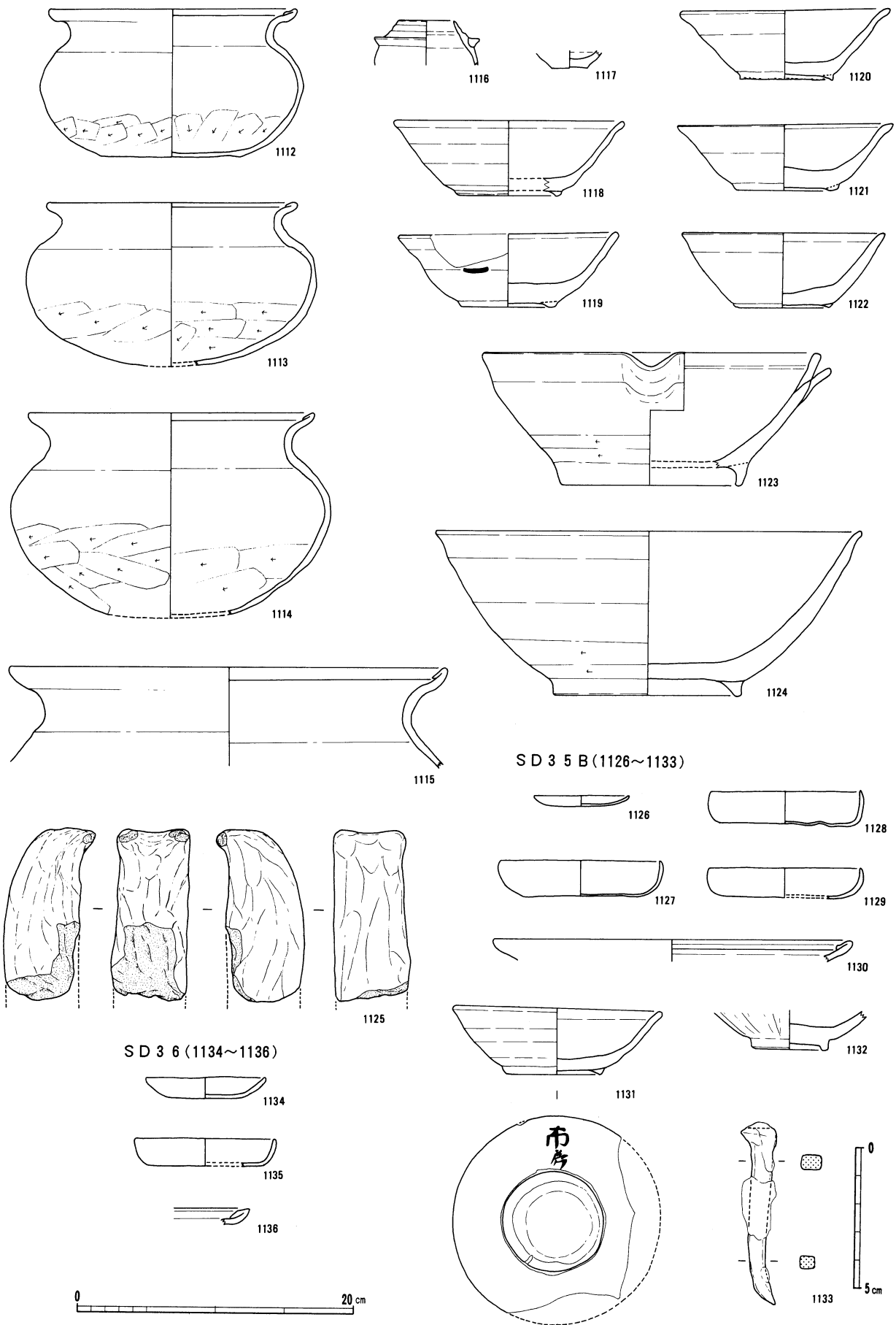
第86図 溝出土遺物実測図 (1 : 4)



第87图 溝出土遺物実測図 (1 : 4)

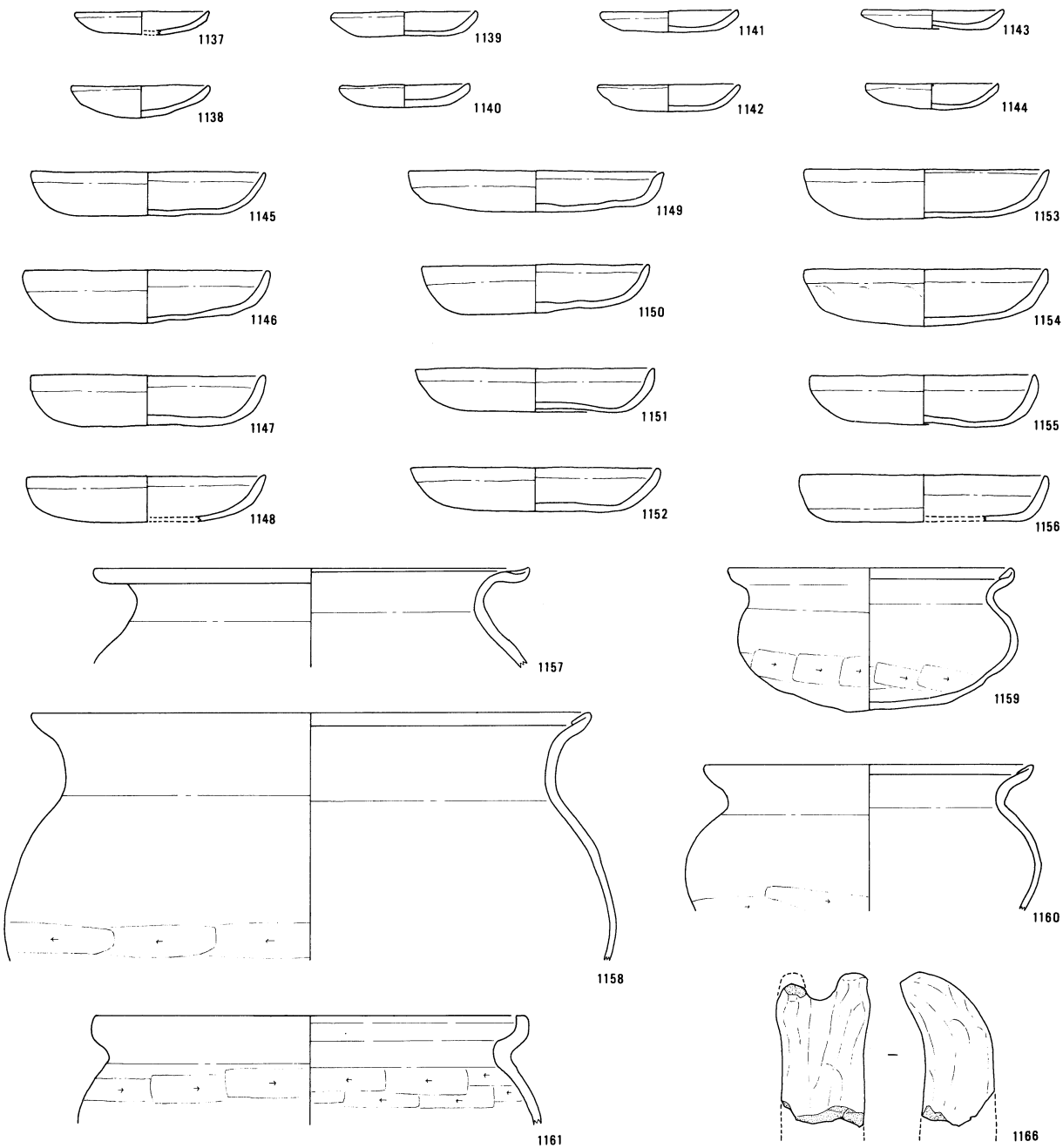


第88図 溝出土遺物実測図 (1 : 4, 1060~1062・1078~1080 = 1 : 3)

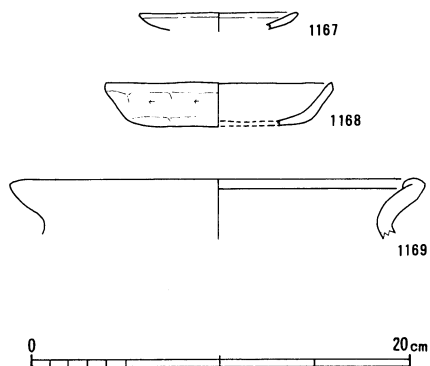


第89図 溝出土遺物実測図 (1:4, 1133=1:2)

SD 3 9 (1137~1166)



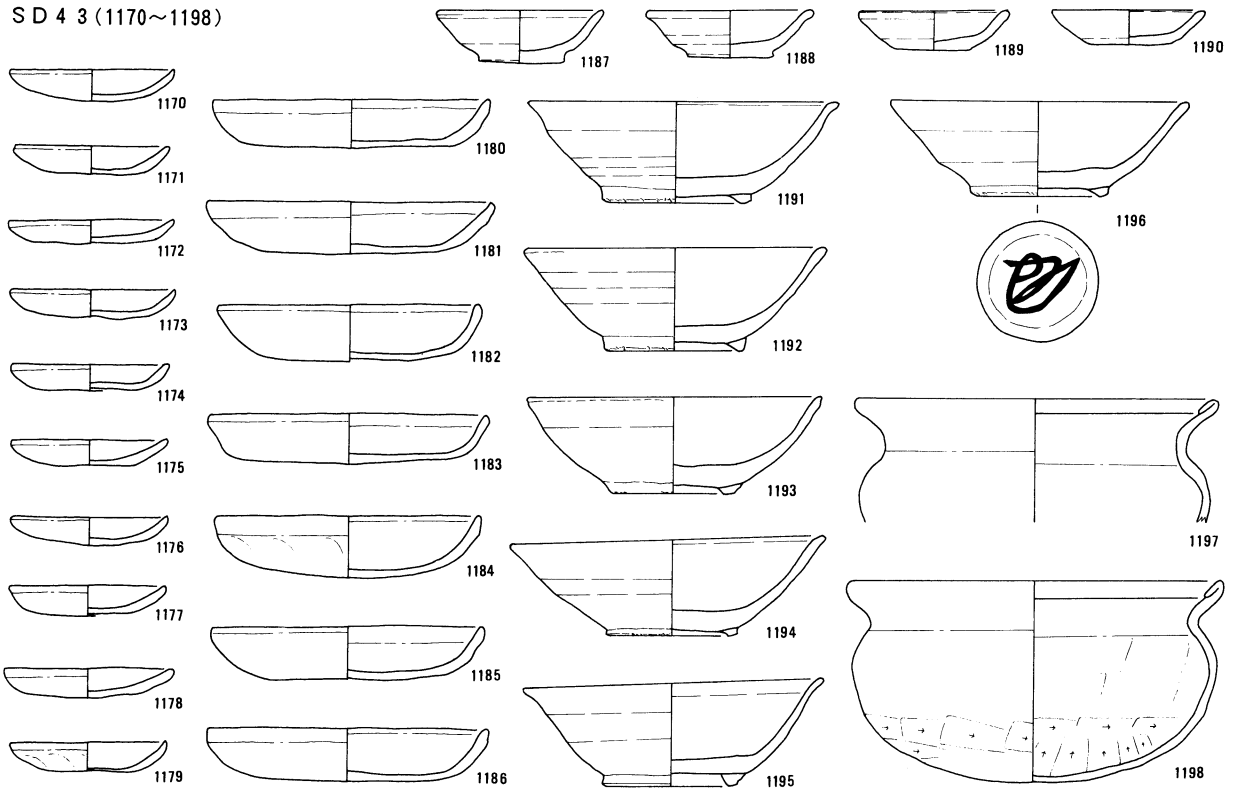
SD 4 2 (1167~1169)



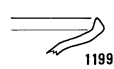
第90図 溝出土遺物実測図 (1 : 4)



SD 4 3 (1170~1198)



SD 4 7 (1199)



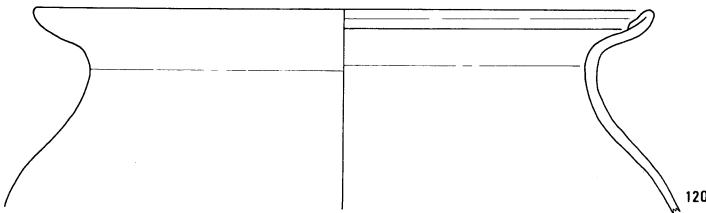
SD 5 0 (1200 • 1201)



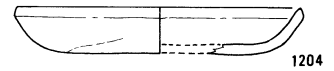
SD 6 2 (1202 • 1203)



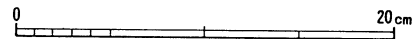
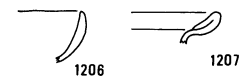
SD 1 1 6 (1205)



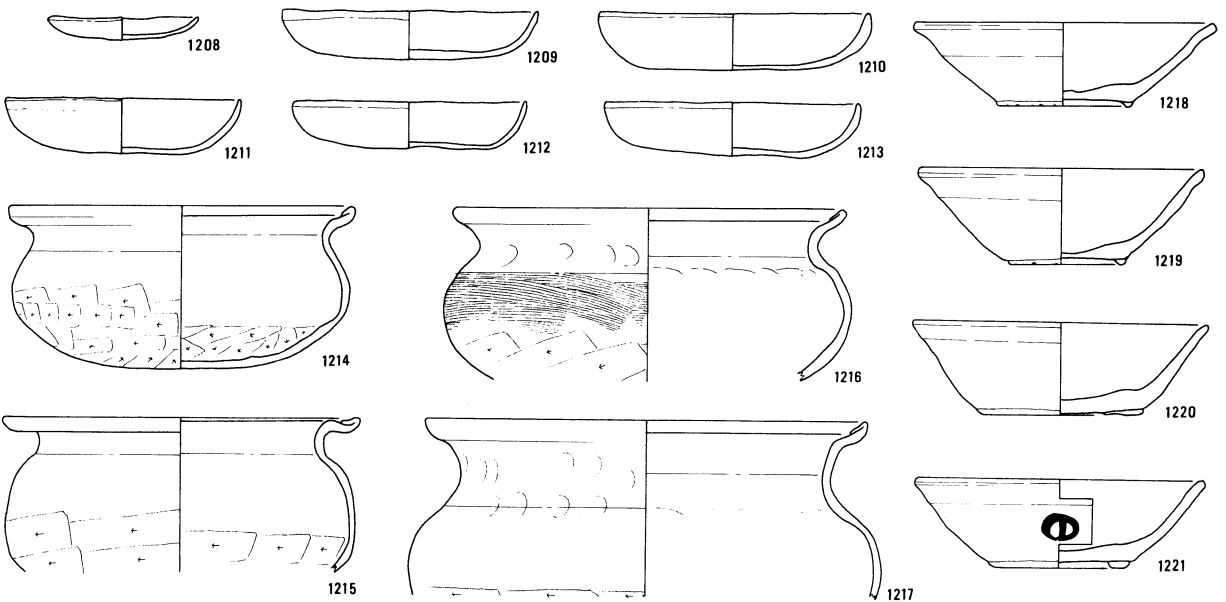
SD 7 3 (1204)



SD 1 1 7  
(1206 • 1207)

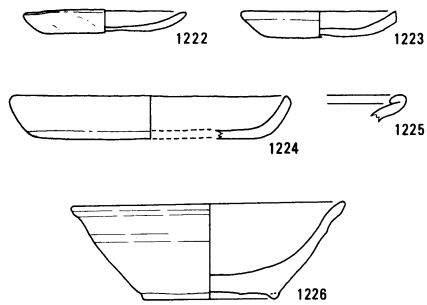


SD 1 1 8 (1208~1221)

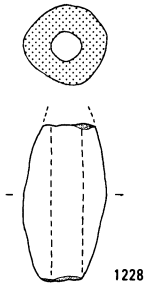


第91図 溝出土遺物実測図 (1 : 4)

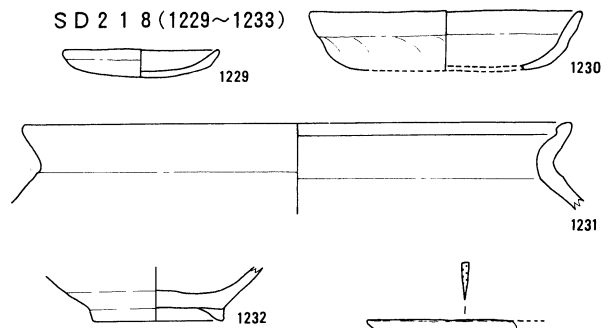
SD 2 0 0 (1222~1226)



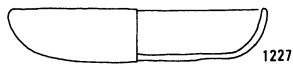
SD 2 1 0 (1228)



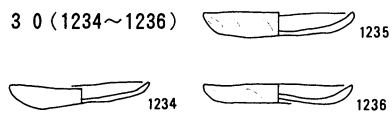
SD 2 1 8 (1229~1233)



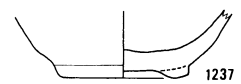
SD 2 0 2 (1227)



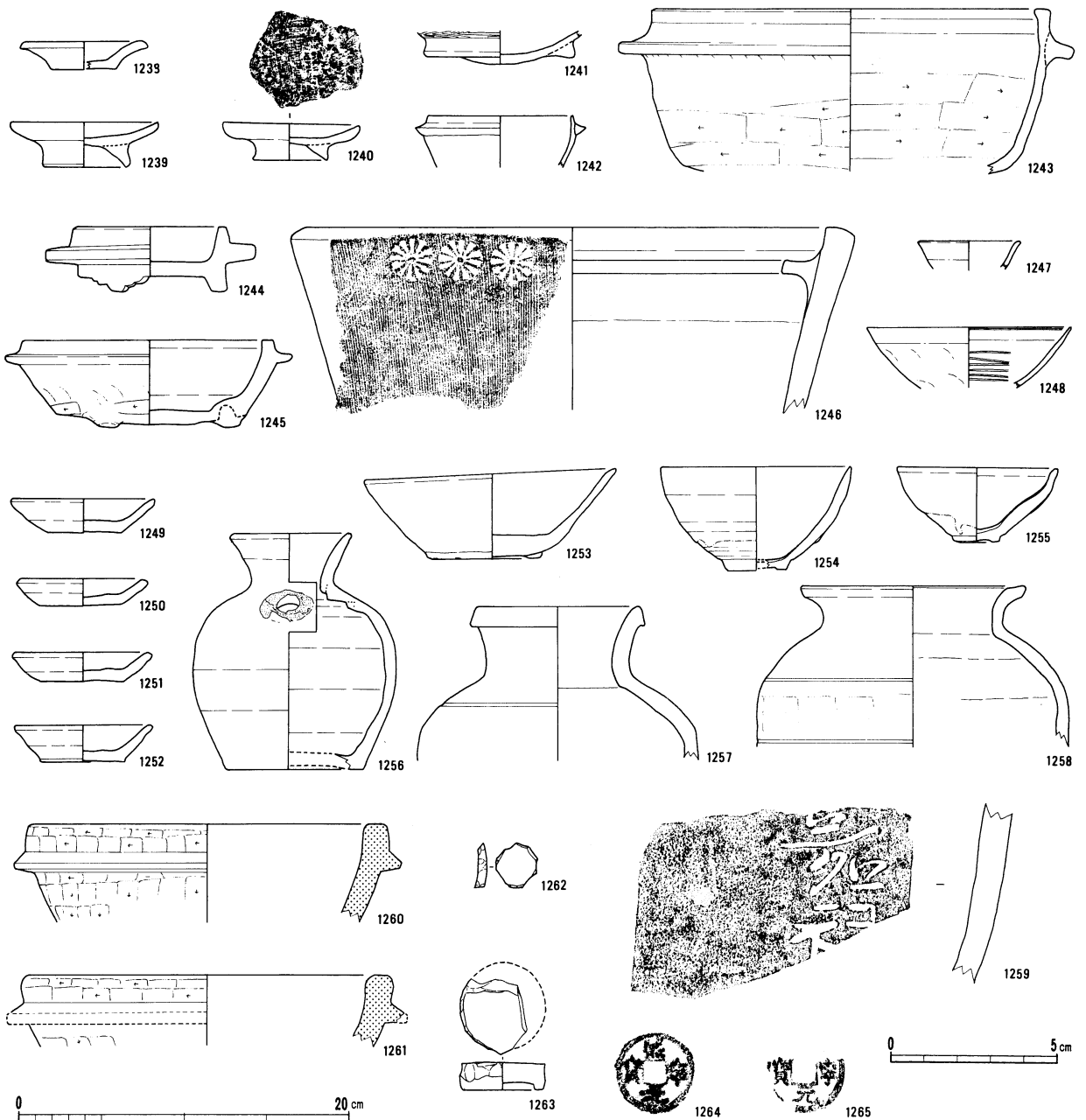
SD 2 3 0 (1234~1236)



S Z 1 3 2 (1237)



包含層・ピット(1238~1265)



第92図 溝・包含層等出土遺物実測図 (1 : 4, 1228・1233・1259・1264・1265 = 1 : 2)

# V. 中世陶器の産地推定

## 1. 蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三 辻 利 一

### 1. はじめに

東海地域は古代から須恵器、灰釉陶器を大量に生産してきた。また、中世においても山茶碗等の陶器を大量に生産した。つまり、古代から中世にいたるまで、日本における陶器の主要生産地の一つであった。それほど、陶器の素材となる良質の粘土の豊富な地域である。

この地域内の多数の窯跡から出土した須恵器、灰釉陶器、山茶碗の破片を蛍光X線分析法で分析した結果、Ca、Fe、Naの含有量が他の地域の陶器に比べて少ないという特徴があることがわかった。その他、K、Rb、Srでも類似した特徴をもっており、同じ化学特性をもった粘土が名古屋市を中心にかなり広い地域に広がっていることを示している。このことは逆にいえば、東海地域内の窯群出土陶器を相互識別することは容易ではないことを示す。

本報告では、東海地域内のいくつかのブロックの窯跡出土の山茶碗の相互識別の結果を示すとともに蚊山遺跡左郡地区から出土した山茶碗を主とする中世陶器の産地を推定した結果について報告する。

### 2. 分析結果

はじめに、山茶碗の生産を行っていた窯群間の相互識別の結果について説明しておく。

東海地方では古代から広く陶器生産が行われてきたといっても、この地域内で一様に窯跡が見つかった訳ではない。窯跡の所在地は瀬戸地域、猿投地域、知多半島、渥美半島、浜名湖周辺というように、いくつかの地域に分けることができる。東海地域内（浜名湖周辺は除く）の窯跡出土陶器はすべて、他の地域のものに比べて、Ca、Fe、Sr、Naの量が少ないという特徴をもつとはいえ、これらの小地域

内でどの程度の地域差があるのかは、これらの小地域の窯跡出土陶器を分析してみなければわからないことである。ここでは、瀬戸群、猿投群、知多群、渥美群、湖西群に分けて化学特性を比較した。

第1図には瀬戸群と猿投群の相互識別の結果を示してある。この図は2群間判別分析図といい、両軸には瀬戸群、および、猿投群からのマハラノビスの汎距離の二乗値をとってある。この値の計算には、K、Ca、Rb、Srの4因子を使用した。マハラノビスの汎距離とは母集団のもつ標準偏差を尺度として表示した、母集団の重心からの統計学上の距離のことである。正、負両方の値をとり得るので、計算処理上の不便を避けるため、二乗して負符号を消去して使用する。ここでも二乗値を使っているのはそのためである。もし、A、B両群の化学特性が明確に異なり相互識別が完全であると、A群の試料は $D^2(A) \leq 10$ 、 $D^2(B) > 10$ の領域に分布し、B群の試料は $D^2(B) \leq 10$ 、 $D^2(A) > 10$ の領域に分布する。しかし、両群の化学特性が類似してくると、両群の試料は次第に接近して分布し、遂に、 $D^2(A) \leq 10$ 、 $D^2(B) \leq 10$ の領域に混在して分布するようになる。それで、この領域を重複領域という。第1図では両群の試料の一部が重複領域に分布するが、猿投群の試料はほとんどが猿投領域に分布しており、瀬戸群の試料で猿投領域にまで分布しているものは1点もない。第93図より、両群の相互識別は完全でなくとも、十分に可能であることを示している。瀬戸群の化学特性は近接地域である猿投群にもっとも近く、渥美群や湖西群とはより明確に異なる。したがって、東海地方の諸試料の中から瀬戸群の試料を検出することは比較的容易である。

第94図には猿投群と知多群の2群間判別分析図を

示す。両群の過半数の試料が重複領域に分布しており、相互識別は困難であることを示している。それでも、猿投群の試料のうち約半数は猿投領域に分布しており、部分的には相互識別されることを示している。本報告では両群を一括して、猿投・知多群として使用した。

第95図には渥美群と知多群の相互識別の結果を示す。渥美群の試料の過半数は渥美領域に分布する。他方、知多群の試料の過半数は重複領域に分布し、相互識別の可能性はあることを示している。ただし、渥美群の試料の中に一部、重複領域に分布するものがあり、誤判別の確率が若干あることに注意を要する。

なお、渥美群と湖西群の化学特性は類似していたので、ここでは渥美・湖西群として産地推定に使用した。

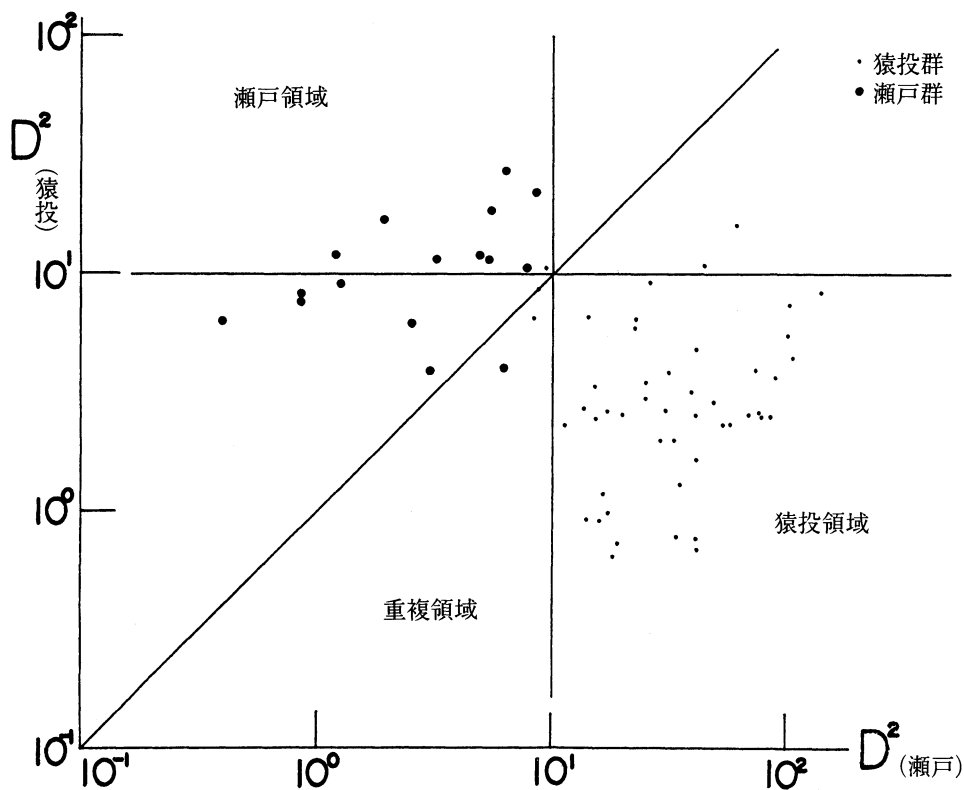
このようにして、東海地域の山茶碗の窯群はK、Ca、Rb、Srの4因子を使って、少なくとも、1) 瀬戸群、2) 猿投・知多群、3) 渥美・湖西群の3群に区別できることがわかった。勿論、猿投群内で

も一部の小窯群の試料は猿投領域の内で偏在しており、決して化学特性は一樣ではないが、これらの小地域差を無視して、猿投群として一括してある。このようなことは、分析データより、各地の窯群内で見出されている。

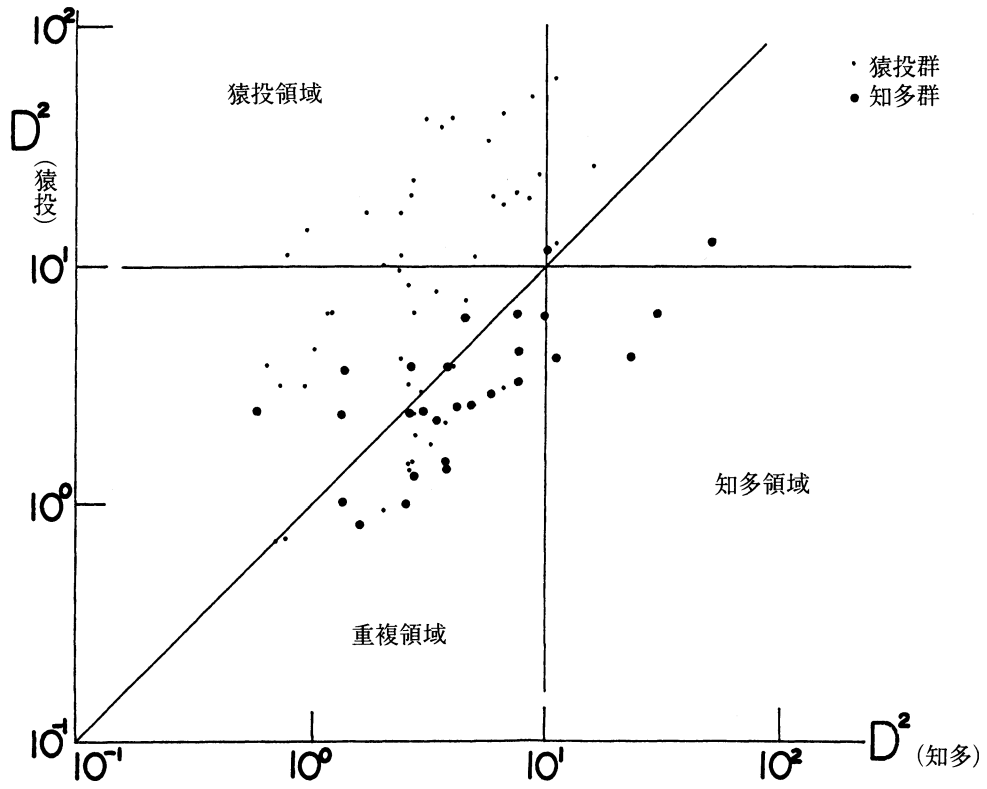
以上のことを前置きとして、蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の産地を推定した結果について説明する。

全試料の分析値を第10表にまとめてある。分析値はすべて、岩石標準試料JG-1による標準化値で表示されている。分析値を点検すると、全試料ともCa、Na、Fe量が少ない東海地域陶器の特徴をもっており、いずれも、東海産の土器であることを示している。

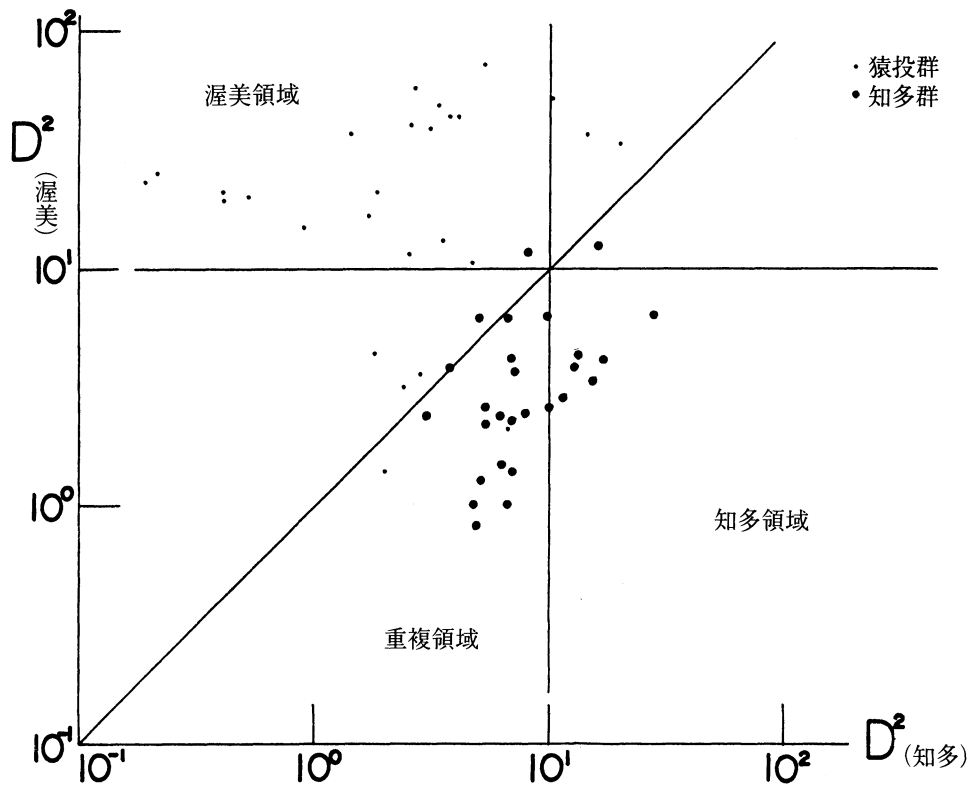
瀬戸群、猿投群、知多群、渥美群、湖西群からのマハラノビスの汎距離の二乗値をK、Ca、Rb、Srの4因子を使って計算した結果も第10表にまとめられている。5%の危険率をかけた判別分析の結果、母集団への帰属条件として、 $D^2(X) \leq 10$ を採用した。(X)は母集団名である。そうすると、瀬戸群というように単独で産地が推定された場合もある



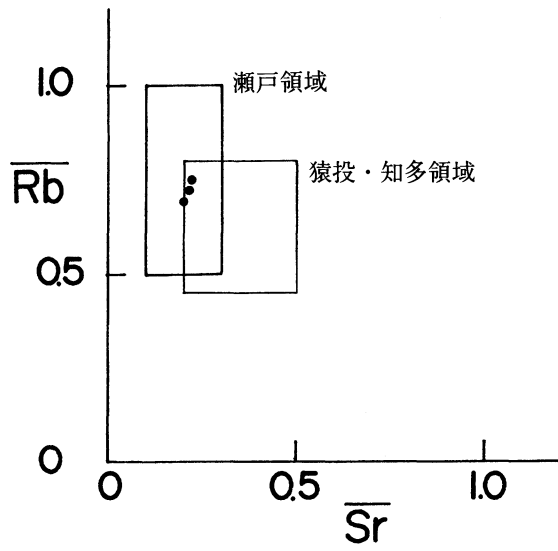
第93図 瀬戸群と猿投群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



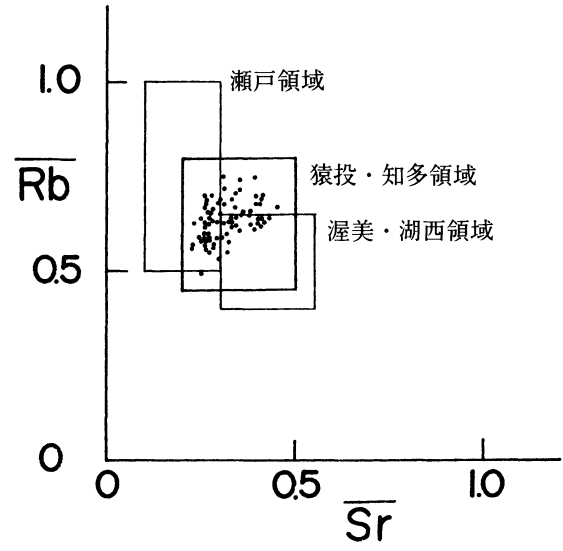
第94図 猿投群と知多群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



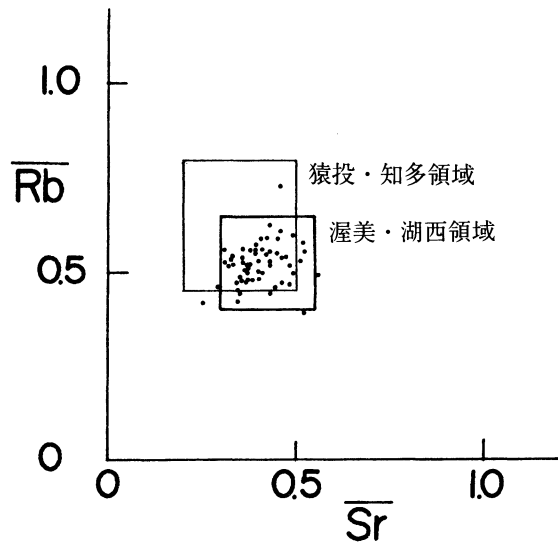
第95図 渥美群と知多群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



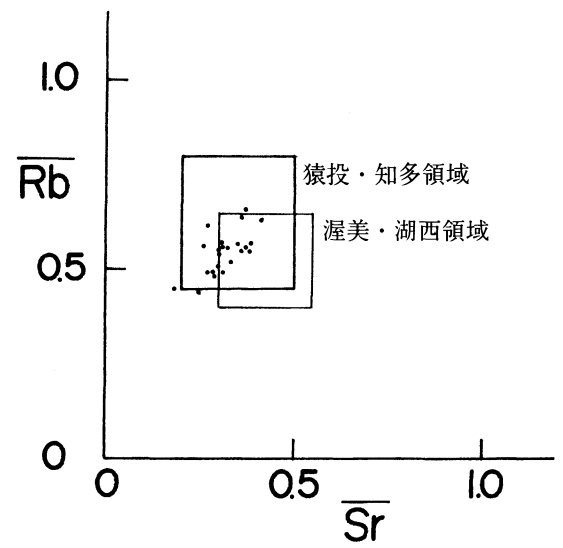
第96図 瀬戸産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



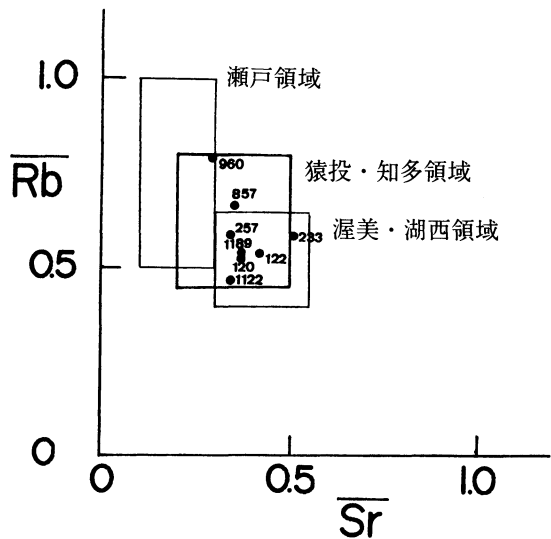
第97図 猿投・知多産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第98図 渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第99図 猿投・知多、渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第100図 産地不明となった中世陶器のRb-Sr分布図

が、何しろ化学特性が比較的類似している母集団同志の間の判別分析であるので、2つあるいはそれ以上の母集団が帰属条件を満足したことがある。その場合には、瀬戸群、猿投・知多群、渥美・湖西群の3群区分法をとり、一番距離が近い群を産地として推定した。D<sup>2</sup>に余り差がない場合には、2つの母集団群を上げておいた。

第10表の産地推定の結果は今一度、Rb-Sr分布図上での分布位置で確認してみた。第96図には瀬戸産と推定された3点(281,323,1254)のRb-Sr分布図を示す。瀬戸窯群の試料の分析データのほとんどを包含するようにして描いた瀬戸領域の中心近くに分布することが確認される。この領域の領界は定量的な意味をもっていないが、他の窯群の分布領域と比較する上には有用である。こうして、判別分析の結果はRb-Sr分布図上でも確かめられた訳である。

次に猿投・知多産と推定されたもののRb-Sr分布図を第97図に示す。ここでも、猿投・知多窯群の分析試料のほとんどを包含するようにして、猿投・知多領域を示してある。猿投・知多産と推定された

ほとんどの試料は猿投・知多領域の真中近くに分布しており、その分布位置は瀬戸領域や渥美領域には境界近くに相当する。なお、277, 279, 457, 455, 487, 678, 798, 858, 890, 903, 1040, 1252のように単独で猿投産と推定されたものがあり、逆に、771, 1035のように知多産と推定されたものもあるが、他は猿投・知多産と推定されたものである。どちらが産地であるかの決め手はない。

次に、渥美・湖西産と推定されたもののRb-Sr分布図を第98図に示す。この図でも、渥美・湖西の窯群試料の分析データのほとんどを包含するようにして渥美・湖西領域を描いてある。そうすると、渥美・湖西産と推定されたものはうまく渥美・湖西領域に分布するが、その大半はまた、猿投・知多領域にも重複して分布していることがわかる。

第99図には猿投・知多産であると同時に、渥美・湖西産の可能性もあると判別分析で推定されたもののRb-Sr分布図を示す。第97図や第98図と比較すると、より猿投・知多領域に深く分布し、渥美・湖西領域には微妙なところに分布していることがわかる。これらの多くは第99図からみて、猿投・知多産である可能性が高いと思われる。

最後に、胎土分析で産地不明となったもののRb-Sr分布図を第100図に示す。多くは渥美・湖西領域を中心に分布することがわかるが、857は猿投・知多産の可能性があり、960は瀬戸領域と猿投・知多領域の領界の微妙な位置に分布していることがわかる。960は渥美・湖西産ではないが、瀬戸産か猿投・知多産かの判別は難しい。

全体として眺めたとき、蚊山遺跡左郡地区では、瀬戸産の中世陶器はほとんどみられず、猿投・知多産と、渥美・湖西産がほとんどであった。そして、渥美・湖西産に比べて猿投・知多産が多いということも今回の胎土分析の成果に上げられよう。

遺物番号	器種	分析値						各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値					推定産地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	渥美群	湖西群	
63	山茶椀	0.467	0.066	0.862	0.522	0.327	0.120	100	8.3	10	6.8	2.7	渥美・湖西
75	山茶椀	0.531	0.040	0.696	0.625	0.233	0.081	7.8	6.8	12	17	16	猿投・知多
76	山茶椀	0.577	0.106	0.769	0.622	0.341	0.201	65	5.4	11	18	9.3	猿投・知多
84	山茶椀	0.590	0.118	0.737	0.679	0.396	0.186	99	4.2	11	12	8.7	猿投・知多
93	山茶椀	0.537	0.090	0.653	0.569	0.353	0.179	100	7.2	10	14	3.8	湖西・猿投
115	山茶椀	0.532	0.122	0.858	0.564	0.372	0.157	117	6.8	8.1	11	5.7	渥美・湖西・猿投・知多
116	山茶椀	0.389	0.047	0.799	0.441	0.250	0.127	61	7.3	11	8.9	8.1	猿投・知多・渥美・湖西
117	山茶椀	0.488	0.082	0.728	0.556	0.387	0.173	161	15	19	4.4	1.7	渥美・湖西
118	山茶椀	0.461	0.117	0.774	0.472	0.461	0.201	330	39	60	8.1	10	渥美・湖西
119	山茶椀	0.477	0.127	0.743	0.477	0.384	0.168	175	13	20	10	7.1	渥美・湖西
120	山茶椀	0.611	0.093	0.701	0.533	0.369	0.120	138	21	33	55	29	不明
121	山茶椀	0.522	0.117	0.740	0.527	0.431	0.194	228	20	30	12	6.9	渥美・湖西
122	山茶椀	0.566	0.110	0.678	0.543	0.422	0.214	205	20	30	24	13	不明
123	山茶椀	0.553	0.150	0.713	0.611	0.458	0.238	212	14	18	6.2	6.4	渥美・湖西
190	山皿	0.523	0.182	0.727	0.640	0.400	0.163	124	8.6	1.6	5.4	35	猿投・知多
191	山茶椀	0.490	0.086	0.717	0.594	0.291	0.123	37	2.2	1.1	5.8	10	猿投・知多
192	山茶椀	0.470	0.055	0.700	0.569	0.256	0.099	26	2.9	1.3	7.1	9.9	猿投・知多
193	山茶椀	0.468	0.058	0.858	0.593	0.273	0.090	32	1.4	0.6	4.7	11	猿投・知多
194	山茶椀	0.466	0.035	0.630	0.573	0.259	0.090	35	3.1	1.6	6.6	11	猿投・知多・渥美
195	山茶椀	0.466	0.113	0.850	0.594	0.338	0.129	76	2.7	0.8	2.1	12	猿投・知多・渥美
207	山茶椀	0.531	0.086	0.865	0.664	0.372	0.168	91	5.1	5.7	5.4	7.6	猿投・知多・渥美・湖西
217	山茶椀	0.405	0.046	0.857	0.491	0.266	0.110	62	5.3	7.6	4.6	7.2	渥美・湖西・猿投・知多
218	山茶椀	0.475	0.095	0.773	0.502	0.409	0.227	220	23	33	7.5	4.6	渥美・湖西
233	山茶椀	0.606	0.235	0.919	0.589	0.513	0.341	315	23	24	18	49	不明
234	山茶椀	0.490	0.044	0.625	0.594	0.244	0.103	17	3.5	3.4	9.8	13	猿投・知多
235	山茶椀	0.448	0.126	0.633	0.464	0.440	0.194	288	29	48	5.9	6.4	渥美・湖西
257	山茶椀	0.609	0.109	0.961	0.589	0.340	0.146	77	13	21	37	17	不明
258	山茶椀	0.554	0.098	0.691	0.660	0.359	0.192	72	2.2	6.0	8.3	7.6	猿投・知多
277	山茶椀	0.588	0.050	0.884	0.677	0.263	0.097	11	7.3	22	24	17	猿投
278	山茶椀	0.517	0.203	0.902	0.533	0.509	0.260	350	27	35	5.3	22	渥美
279	片口鉢	0.607	0.059	1.320	0.701	0.275	0.170	11	7.3	27	26	19	猿投
281	折縁深皿	0.556	0.038	0.524	0.689	0.198	0.027	1.1	14	33	22	34	瀬戸
282	甕	0.557	0.127	1.430	0.714	0.340	0.145	41	2.8	9.2	11	33	猿投・知多
300	片口鉢	0.507	0.125	2.430	0.545	0.319	0.215	70	8.1	3.5	11	13	猿投・知多
301	甕	0.529	0.086	1.350	0.634	0.321	0.181	48	1.4	3.4	7.6	8.4	猿投・知多
323	四耳壺	0.548	0.049	0.528	0.724	0.218	0.017	0.3	10	30	19	43	瀬戸
324	甕	0.364	0.092	1.920	0.417	0.254	0.158	64	10	14	7.7	11	渥美・湖西・猿投・知多
367	山皿	0.481	0.050	0.819	0.563	0.261	0.129	31	3.6	2.0	9.3	8.1	猿投・知多

第10表 試料の分析データ



遺物番号	器種	分 析 値						各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値					推 定 産 地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	渥美群	湖西群	
368	山茶椀	0.590	0.140	0.718	0.634	0.415	0.259	136	7.4	13	14	10	猿投・知多
369	山茶椀	0.551	0.118	0.735	0.663	0.371	0.195	79	2.1	1.0	7.1	11	猿投・知多
370	山茶椀	0.581	0.120	0.843	0.685	0.363	0.206	63	2.2	2.3	12	15	猿投・知多
371	山茶椀	0.476	0.060	0.613	0.531	0.283	0.155	53	4.9	3.2	10	4.9	猿投・知多、渥美・湖西
372	山茶椀	0.575	0.108	0.800	0.658	0.355	0.207	66	2.8	2.6	12	9.5	猿投・知多
373	山茶椀	0.445	0.062	0.909	0.494	0.322	0.158	111	10	7.9	6.9	3.7	渥美・湖西
374	山茶椀	0.557	0.146	0.719	0.654	0.376	0.193	86	4.1	1.3	8.1	19	猿投・知多
375	山茶椀	0.501	0.064	0.855	0.552	0.274	0.169	38	5.3	3.8	14	6.6	猿投・知多
376	山茶椀	0.628	0.174	0.707	0.687	0.410	0.188	116	9.4	18	20	31	猿投
378	三筋壺	0.443	0.085	0.686	0.523	0.332	0.135	102	6.2	8.6	2.2	1.5	渥美・湖西、猿投・知多
379	片口鉢	0.520	0.062	0.920	0.665	0.283	0.113	21	0.8	5.2	8.6	18	猿投・知多
450	山 皿	0.455	0.105	0.639	0.485	0.347	0.140	1288	8.8	13	6.7	2.8	渥美・湖西
451	山 皿	0.534	0.144	0.785	0.629	0.431	0.199	164	9.0	9.0	3.6	7.2	渥美・湖西
452	山茶椀	0.507	0.050	0.814	0.601	0.248	0.099	15	4.4	2.7	12	12	猿投・知多
453	山茶椀	0.487	0.081	0.723	0.531	0.334	0.130	98	6.9	5.1	8.6	2.1	渥美・湖西、猿投・知多
454	山茶椀	0.683	0.107	0.732	0.629	0.359	0.125	88	20	45	64	30	不明
455	山茶椀	0.659	0.082	0.761	0.778	0.337	0.204	26	4.6	10	28	24	猿投
456	山茶椀	0.498	0.176	0.969	0.501	0.438	0.247	239	17	12	7.4	17	渥美
457	山茶椀	0.592	0.177	0.851	0.670	0.451	0.287	166	8.4	11	9.7	21	猿投
458	山茶椀	0.591	0.107	0.753	0.634	0.367	0.233	86	3.7	2.7	10	5.7	渥美・湖西
459	壺	0.392	0.111	1.740	0.423	0.345	0.095	156	13	27	5.2	5.3	渥美・湖西
460	甕	0.518	0.090	0.144	0.688	0.295	0.156	21	1.3	6.5	9.4	28	猿投・知多、渥美
473	山茶椀	0.464	0.087	0.882	0.536	0.356	0.112	125	8.7	12	2.9	0.5	渥美・湖西
474	山茶椀	0.519	0.237	0.731	0.503	0.490	0.176	333	27	25	9.3	48	渥美
475	山茶椀	0.474	0.102	0.925	0.522	0.367	0.113	138	9.2	13	4.8	0.9	渥美・湖西
476	片口鉢	0.458	0.080	1.680	0.526	0.307	0.098	73	4.3	4.2	5.1	2.9	渥美・湖西
477	片口鉢	0.518	0.092	0.905	0.643	0.338	0.160	60	1.2	201	5.2	9.3	猿投・知多
487	山茶椀	0.620	0.065	0.507	0.738	0.349	0.154	49	4.6	22	20	15	猿投
493	山茶椀	0.509	0.116	0.988	0.563	0.378	0.192	127	6.9	8.3	5.7	2.4	渥美・湖西
494	甕	0.491	0.126	1.430	0.649	0.376	0.136	94	3.7	1.4	4.4	17	猿投・知多、渥美
495	甕	0.514	0.140	1.380	0.626	0.383	0.186	105	4.0	1.9	3.4	13	猿投・知多、渥美
496	壺	0.526	0.195	1.860	0.544	0.462	0.394	252	17	18	6.4	23	渥美
497	山茶椀	0.567	0.149	0.771	0.731	0.467	0.238	167	13	11	10	20	渥美
515	山茶椀	0.470	0.049	0.634	0.597	0.260	0.103	25	1.6	1.1	2.0	2.7	猿投・知多
528	山 皿	0.491	0.126	0.792	0.568	0.394	0.192	147	8.1	9.2	2.0	2.7	渥美・湖西
541	山茶椀	0.424	0.136	0.685	0.471	0.479	0.205	368	44	70	3.6	6.6	渥美・湖西
558	山茶椀	0.512	0.080	0.716	0.604	0.316	0.158	54	2.1	2.5	6.9	5.6	猿投・知多
576	山茶椀	0.463	0.054	0.634	0.577	0.259	0.097	27	2.1	0.9	5.6	11	猿投・知多

遺物番号	器種	分 析 値						各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値					推 定 産 地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	渥美群	湖西群	
583	山茶椀	0.570	0.155	0.675	0.591	0.449	0.235	205	13	19	12	11	渥美・湖西(?)
597	片口鉢	0.488	0.078	0.876	0.629	0.279	0.106	24	1.3	2.0	6.0	18	猿投・知多
635	山茶椀	0.425	0.103	0.858	0.498	0.374	0.147	166	13	22	1.1	0.5	渥美・湖西
640	片口鉢	0.504	0.059	1.080	0.631	0.257	0.109	14	2.5	5.0	8.9	17	猿投・知多
660	山茶椀	0.452	0.082	0.561	0.526	0.363	0.130	144	12	17	2.4	0.9	渥美・湖西
661	山茶椀	0.537	0.096	0.697	0.617	0.335	0.160	63	2.6	4.5	9.1	6.1	猿投・知多
666	片口鉢	0.458	0.127	1.200	0.561	0.308	0.134	61	6.3	1.0	3.5	19	渥美
678	山 皿	0.601	0.114	0.796	0.702	0.395	0.261	90	3.7	13	13	11	猿投
679	山 皿	0.509	0.151	0.731	0.533	0.401	0.136	167	10	11	7.3	9.9	渥美・湖西
680	山茶椀	0.514	0.129	0.984	0.514	0.398	0.200	175	13	18	13	7.5	湖西
681	山茶椀	0.496	0.217	0.825	0.600	0.494	0.200	280	21	16	3.6	32	渥美
683	片口鉢	0.493	0.080	0.995	0.633	0.332	0.145	63	1.9	1.5	3.7	9.7	猿投・知多
695	山茶椀	0.472	0.104	0.804	0.480	0.398	0.184	208	19	30	9.7	5.5	渥美・湖西
706	山 皿	0.519	0.086	0.944	0.557	0.311	0.117	62	5.4	5.2	14	5.3	猿投・知多、湖西
707	山茶椀	0.476	0.077	0.830	0.538	0.329	0.146	93	6.0	6.9	5.9	1.7	渥美・湖西
713	山 皿	0.506	0.119	0.774	0.547	0.450	0.186	253	25	33	5.7	3.3	渥美・湖西
714	山茶椀	0.491	0.085	0.923	0.522	0.375	0.134	157	14	19	9.1	3.1	渥美・湖西
718	山 皿	0.478	0.101	0.833	0.678	0.308	0.117	34	1.8	2.8	9.8	36	猿投・知多
769	山茶椀	0.588	0.137	0.931	0.702	0.411	0.260	104	3.7	9.3	10	15	猿投・知多
770	山茶椀	0.529	0.106	0.562	0.555	0.431	0.269	218	21	28	10	4.9	渥美・湖西
771	片口鉢	0.496	0.122	2.090	0.488	0.253	0.076	46	25	10	26	28	知多
772	壺	0.432	0.097	1.710	0.484	0.285	0.124	64	6.6	4.7	6.6	7.2	猿投・知多、渥美・湖西
787	山茶椀	0.508	0.143	0.783	0.667	0.383	0.183	93	3.8	1.0	6.0	25	猿投・知多、渥美
798	山 皿	0.626	0.121	0.676	0.721	0.353	0.211	46	4.6	23	21	22	猿投
801	山茶椀	0.537	0.045	0.793	0.679	0.249	0.071	6.5	3.5	13	13	23	猿投、瀬戸
808	山茶椀	0.503	0.057	0.869	0.618	0.261	0.087	18	2.5	3.9	8.9	14	猿投・知多
819	山 皿	0.512	0.086	0.683	0.550	0.421	0.184	219	25	31	9.1	6.0	渥美・湖西
820	山茶椀	0.521	0.043	0.857	0.698	0.258	0.098	9.5	1.5	10	11	29	猿投・知多
821	山茶椀	0.560	0.060	0.824	0.690	0.304	0.168	28	1.5	10	12	15	猿投・知多
838	山 皿	0.503	0.095	0.727	0.519	0.429	0.196	246	28	38	11	8.0	渥美・湖西
839	山茶椀	0.515	0.3000	0.823	0.576	0.522	0.182	375	39	15	8.2	101	渥美
840	山茶椀	0.474	0.041	0.873	0.548	0.301	0.116	76	7.4	6.7	7.7	6.9	猿投・知多、渥美・湖西
841	山茶椀	0.424	0.065	0.878	0.566	0.309	0.111	74	4.5	5.3	1.8	9.5	渥美・湖西、猿投・知多
842	片口鉢	0.543	0.096	0.943	0.663	0.356	0.178	69	1.8	4.5	6.9	8.7	猿投・知多
843	片口鉢	0.543	0.193	1.940	0.619	0.342	0.124	93	23	10	12	59	知多、渥美(?)
857	山茶椀	0.710	0.123	0.851	0.671	0.354	0.167	73	23	56	67	36	不明
858	山茶椀	0.644	0.124	0.785	0.662	0.384	0.235	93	9.0	26	31	16	猿投
873	山茶椀	0.557	0.062	0.766	0.693	0.261	0.100	6.2	4.4	17	15	24	猿投、瀬戸

遺物番号	器種	分析値						各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値					推定産地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	渥美群	湖西群	
876	山皿	0.499	0.057	0.619	0.540	0.329	0.130	100	9.8	11	12	5.4	湖西
890	片口鉢	0.675	0.117	1.130	0.750	0.387	0.276	67	6.0	35	30	20	猿投
891	片口鉢	0.511	0.095	1.020	0.630	0.315	0.144	44	1.2	1.7	5.8	12	猿投・知多
902	山茶椀	0.549	0.093	0.578	0.639	0.326	0.130	49	2.2	5.9	11	8.8	猿投・知多
903	片口鉢	0.572	0.067	0.861	0.663	0.265	0.125	11	7.0	18	20	17	猿投
916	山茶椀	0.501	0.052	0.852	0.674	0.263	0.126	13	0.9	5.8	8.9	26	猿投・知多
938	山茶椀	0.504	0.055	1.260	0.552	0.300	0.113	64	6.2	6.0	13	5.4	湖西、猿投・知多
953	山茶椀	0.486	0.052	0.881	0.569	0.307	0.109	69	5.2	4.6	6.8	5.2	猿投・知多、渥美・湖西
954	山茶椀	0.487	0.052	0.848	0.564	0.316	0.108	80	6.7	6.4	7.1	4.9	渥美・湖西、猿投・知多
960	灰釉平椀	0.583	0.198	0.535	0.789	0.289	0.042	79	53	66	35	149	不明
1030	山皿	0.494	0.044	0.506	0.625	0.273	0.088	29	1.6	2.3	6.8	14	猿投・知多
1031	山皿	0.521	0.051	0.504	0.641	0.273	0.083	22	1.9	5.3	9.9	14	猿投・知多
1032	山皿	0.526	0.199	0.642	0.639	0.431	0.213	163	11	2.7	5.2	38	猿投・知多
1033	山皿	0.547	0.087	0.835	0.630	0.288	0.107	26	4.9	8.6	14	13	猿投・知多
1034	山皿	0.417	0.097	0.547	0.533	0.295	0.112	61	3.7	3.5	2.0	11	猿投・知多
1035	山茶椀	0.463	0.172	0.740	0.634	0.401	0.158	133	9.9	3.2	7.9	37	知多
1036	山茶椀	0.475	0.056	0.715	0.593	0.263	0.123	26	1.8	1.2	6.0	12	猿投・知多
1037	山茶椀	0.495	0.109	0.819	0.612	0.346	0.174	76	2.1	1.0	3.0	8.8	猿投・知多、渥美
1038	山茶椀	0.413	0.094	0.621	0.473	0.340	0.182	133	9.8	18	2.8	1.5	渥美・湖西
1039	山茶椀	0.494	0.065	0.600	0.571	0.284	0.128	41	3.2	2.3	8.9	6.0	猿投・知多
1040	山茶椀	0.645	0.067	0.660	0.751	0.311	0.121	20	5.9	36	29	21	猿投
1041	山茶椀	0.584	0.176	0.739	0.639	0.413	0.234	134	8.6	8.8	12	26	猿投・知多
1042	山茶椀	0.493	0.045	0.673	0.637	0.246	0.087	12	2.1	4.8	8.4	20	猿投・知多
1043	山茶椀	0.551	0.140	0.699	0.630	0.414	0.234	139	6.4	7.7	6.1	7.8	猿投・知多、渥美
1044	山茶椀	0.470	0.209	0.966	0.555	0.523	0.234	368	34	39	2.7	21	渥美
1045	山茶椀	0.490	0.088	0.945	0.601	0.264	0.130	21	5.2	3.8	7.8	18	猿投・知多
1046	山茶椀	0.433	0.096	0.714	0.444	0.351	0.110	158	13	24	9.2	4.8	渥美・湖西
1047	山茶椀	0.393	0.040	0.736	0.556	0.225	0.074	24	2.9	4.0	5.3	24	猿投・知多
1048	山茶椀	0.498	0.183	0.773	0.612	0.393	0.178	129	9.8	1.4	4.1	35	猿投・知多
1049	片口鉢	0.501	0.092	1.240	0.589	0.297	0.142	41	3.0	1.7	7.2	9.2	猿投・知多
1050	片口鉢	0.478	0.059	0.680	0.588	0.272	0.104	31	1.8	1.0	6.0	9.7	猿投・知多
1051	山茶椀	0.487	0.180	0.729	0.537	0.469	0.240	273	20	25	1.7	12	渥美
1053	片口	0.475	0.078	1.110	0.523	0.323	0.139	91	6.3	7.3	7.8	2.2	渥美・湖西
1069	山茶椀	0.447	0.097	0.806	0.477	0.373	0.166	174	15	25	6.0	2.4	渥美・湖西
1076	山皿	0.500	0.266	0.627	0.489	0.556	0.195	483	41	49	7.2	58	渥美
1083	山茶椀	0.489	0.169	0.886	0.591	0.424	0.234	173	10	7.1	1.5	16	渥美
1092	山茶椀	0.484	0.168	0.956	0.516	0.483	0.228	318	27	40	3.2	9.1	渥美
1118	山茶椀	0.506	0.083	0.864	0.562	0.360	0.122	117	8.5	10	7.5	1.6	渥美・湖西

遺物番号	器種	分析値						各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値					推定産地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	渥美群	湖西群	
1119	山茶椀	0.508	0.105	1.040	0.510	0.370	0.172	144	11	16	14	5.7	湖西
1120	山茶椀	0.487	0.106	0.755	0.552	0.360	0.170	114	6.0	7.0	4.0	1.6	渥美・湖西・猿投・知多
1121	山茶椀	0.419	0.054	0.831	0.464	0.287	0.133	86	8.2	12	8.3	5.6	渥美・湖西
1122	山茶椀	0.484	0.065	0.821	0.468	0.342	0.142	145	17	24	21	13	不明
1123	片口鉢	0.441	0.077	0.928	0.570	0.230	0.058	14	7.2	4.3	6.6	23	猿投・知多、渥美
1124	片口鉢	0.463	0.115	0.846	0.640	0.357	0.180	83	3.8	1.6	5.5	21	猿投・知多、渥美
1131	山茶椀	0.460	0.073	0.898	0.477	0.350	0.130	150	15	22	11	5.9	渥美・湖西
1162	山茶椀	0.522	0.129	0.774	0.590	0.406	0.213	150	8.2	9.6	4.4	3.4	渥美・湖西
1163	山茶椀	0.448	0.058	0.850	0.510	0.295	0.114	75	5.9	6.7	6.7	4.0	渥美・湖西・猿投・知多
1164	山茶椀	0.453	0.114	0.880	0.506	0.374	0.119	154	10	16	2.7	1.2	渥美・湖西
1165	山茶椀	0.453	0.045	0.883	0.486	0.278	0.110	70	8.2	8.3	13	7.6	湖西・猿投・知多
1187	山皿	0.377	0.096	0.920	0.442	0.347	0.115	167	14	31	2.7	2.6	渥美・湖西
1188	山皿	0.382	0.114	0.868	0.482	0.370	0.116	171	14	28	1.2	3.6	渥美・湖西
1189	山皿	0.558	0.138	0.873	0.543	0.374	0.143	127	11	13	22	15	不明
1190	山皿	0.514	0.152	0.897	0.558	0.412	0.195	170	9.6	10	5.0	8.5	渥美・湖西
1191	山茶椀	0.520	0.133	0.792	0.587	0.399	0.221	140	7.0	3.8	4.4	4.8	渥美・湖西・猿投・知多
1192	山茶椀	0.504	0.155	0.761	0.605	0.415	0.221	153	7.8	2.5	1.9	12	渥美、猿投・知多
1193	山茶椀	0.459	0.133	0.929	0.521	0.460	0.177	288	29	20	1.7	2.5	渥美・湖西
1194	山茶椀	0.529	0.136	0.748	0.599	0.430	0.218	179	11	6.6	4.1	3.7	渥美・湖西
1195	山茶椀	0.460	0.084	0.765	0.594	0.365	0.180	118	8.9	4.7	1.3	5.1	渥美・湖西・猿投・知多
1196	山茶椀	0.473	0.130	0.774	0.538	0.473	0.209	304	33	22	2.3	3.0	渥美・湖西
1203	山茶椀	0.448	0.101	1.100	0.493	0.309	0.101	82	6.2	5.6	6.5	4.9	渥美・湖西・猿投・知多
1218	山茶椀	0.581	0.094	0.810	0.674	0.339	0.189	49	2.4	11	14	11	猿投・知多
1219	山茶椀	0.552	0.140	0.994	0.679	0.401	0.226	104	3.5	4.3	6.5	16	猿投・知多
1220	山茶椀	0.435	0.149	1.050	0.442	0.429	0.158	270	23	42	5.7	9.2	渥美・湖西
1221	山茶椀	0.351	0.022	0.614	0.454	0.179	0.053	23	7.7	9.8	8.8	20	猿投・知多、渥美
1226	山茶椀	0.457	0.063	0.758	0.664	0.272	0.097	22	1.0	3.2	9.2	34	猿投・知多
1232	山茶椀	0.441	0.035	0.767	0.622	0.273	0.118	41	2.8	1.9	5.2	23	猿投・知多、渥美
1237	山茶椀	0.521	0.073	0.933	0.595	0.323	0.132	65	3.7	4.8	9.2	4.0	猿投・知多、渥美・湖西
1249	山皿	0.480	0.097	0.853	0.499	0.397	0.186	199	19	28	8.9	4.4	渥美・湖西
1250	山皿	0.539	0.097	0.744	0.580	0.325	0.170	65	5.2	6.3	15	6.4	猿投・知多
1251	山皿	0.503	0.080	0.924	0.556	0.279	0.147	38	5.6	3.5	13	7.6	猿投・知多
1252	山皿	0.579	0.063	0.719	0.652	0.296	0.135	30	5.0	14	20	11	猿投
1253	山茶椀	0.527	0.118	0.796	0.553	0.390	0.193	147	9.5	13	10	4.0	渥美・湖西
1254	天目茶椀	0.595	0.057	0.506	0.751	0.222	0.031	2.1	15	48	26	45	瀬戸
1256	水注	0.346	0.225	1.220	0.391	0.524	0.179	515	57	110	11	33	渥美(?)
1257	三筋壺	0.516	0.127	2.070	0.723	0.313	0.144	30	5.9	11	15	55	猿投・知多
1258	三筋壺	0.516	0.066	1.190	0.689	0.329	0.148	49	1.9	3.4	7.2	18	猿投・知多

## 2. 肉眼観察と胎土分析

### 1. はじめに

本報告書に実測図を掲載した中世陶器208点について、肉眼観察による産地推定を試みた。産地推定にあたっては、常滑市民俗資料館の中野晴久氏、(財)瀬戸市埋蔵文化財センターの藤澤良祐氏から直接多くの助言をいただいた。また、本遺跡出土の中世陶器の中には、三重県埋蔵文化財センターで3年前から活動している山茶椀プロジェクトチームの会議において検討したものもある。しかし、ここで報告する肉眼観察による産地推定結果についての責任は全て前川にある。

肉眼観察による結果と対比するために、蛍光X線による胎土分析を奈良教育大学の三辻利一氏に依頼した。その分析結果についてはV章-1に掲載している。三辻氏に分析試料として提出できたのは208点のうち190点である。

### 2. 肉眼観察

本遺跡出土の中世陶器は、ごく一部を除きほとんどが東海地方で生産されたものであることは異論がない。中世における東海地方の主な窯業地には、岐阜県南部の東濃窯、愛知県西部の瀬戸窯・猿投窯・知多(常滑)窯、愛知県東部の渥美窯がある。蚊山遺跡出土の中世陶器の生産地は、これらの窯業地に静岡県西部の湖西窯を加えた合計6か所の窯業地が想定される。

東海地方の中世陶器の主体を占めるのは無釉の椀と皿、つまり日常雑器として生産された山茶椀・山皿である。山茶椀・山皿は北部系(均質手)と南部系(荒肌手)とに大別される。この両者は形態も胎土も明らかに異なり、肉眼観察でも容易に識別できる。東濃窯では北部系を、瀬戸窯では北部系と南部系を、猿投窯・知多窯・渥美窯・湖西窯は全て南部系を生産している。三重県内では北部系の子茶椀の出土は数点しか確認されておらず、蚊山遺跡左郡地区の調査では全くみられなかった。

南部系の子茶椀・山皿は形態や胎土の特徴から、瀬戸窯・猿投窯・知多窯の3つの窯業地のものと渥

美窯・湖西窯の2つの窯業地のものとに区別することが可能である。瀬戸・猿投・知多のものは類似した時期的な形態変化をたどるが、3つの窯業地の操業期間がずれるため型式の違いである程度生産地が推定できる。つまり、藤澤氏の山茶椀編年という3型式のものは瀬戸産か猿投産、5型式のものは猿投産か知多産、7型式のものは瀬戸産か知多産、8型式以降のものは瀬戸産の可能性が高い。胎土の点では瀬戸産のものと知多産のものとは識別がある程度可能であるが、瀬戸産と猿投産、あるいは猿投産と知多産の識別はかなり困難である。渥美窯・湖西窯は操業期間が短く、その製品には瀬戸窯・猿投窯・知多窯のものとはやや異なった形態変化をたどること、胎土が細砂質であることなどの特徴があるが渥美窯と湖西窯との相互識別は困難である。

施釉陶器は、この時期には瀬戸窯でしか生産していないことがはっきりしている。大型の甕は知多産のものと渥美産のものと考えられるが、形態・施文方法・胎土などの特徴から、破片であっても両者の識別は比較的容易である。

肉眼観察で山茶椀・山皿の産地推定を行うにあたっては、識別が特に困難な渥美産と湖西産については産地の表現を「渥美産」に一括した。また、猿投産と知多産についても識別が困難であるため、あいまいなものは全て「知多産」とした。つまり「渥美産」としたものの中には湖西産のものが、「知多産」としたものの中には猿投産のものが含まれていると理解していただきたい。

実測図を掲載した208点の肉眼観察による推定産地の内訳は、次のようになった。

渥美産=101点(山茶椀70、山皿18、その他13)

知多産=97点(山茶椀65・山皿12、その他20)

猿投産=3点(山茶椀2・その他1)

瀬戸産=5点(施釉陶器5)

その他・不明=2点

推定された産地としては、蚊山遺跡のある南伊勢地方と伊勢湾を挟んで地理的に近い渥美産あるいは知多産のものが圧倒的に多い。一方東濃窯のものは

全くみられず、瀬戸窯のものは施釉陶器に限られている。

### 3. 肉眼観察と胎土分析

蛍光X線での胎土分析を実施した190点の中で、肉眼観察で渥美産、知多産としたものについてその結果を比較した（第11表）。

肉眼観察で渥美産（湖西産）としたものは91点ある。その内渥美産あるいは湖西産という結果が出たものが68%、渥美産あるいは湖西産の可能性が高いとされたものが14%の合計82%あり、渥美産あるいは湖西産の可能性も考えられるもの12%を含むと94%の高率となる。肉眼観察で知多産（猿投産）としたものも、ほぼ同じような結果となっている。このことから、肉眼観察による産地推定もかなり有効であることがわかる。なお、蛍光X線での胎土分析で産地不明となった山茶碗・山皿の中には、肉眼観察でも知多産か渥美産かの判断が特に困難であったものがいくつか含まれている。

### 4. 時期と産地

第12表には肉眼観察と蛍光X線での胎土分析の結果の他に、遺物の型式・時期と出土遺構の時期もあわせて示した。遺物の型式・時期は、藤澤氏と中野氏のご指導をもとに、110頁の註に記載した②、③、④の文献を参考にして前川が判断した。出土遺構の時期は本報告書で示した蚊山遺跡左郡地区のものである。

時期的には、蚊山遺跡左郡地区Ⅰ期の遺構出土のものはほとんど渥美産で、Ⅱ期・Ⅲ期には知多産が急激に増加するという傾向がみられる。このことは、渥美の山茶碗窯が13世紀中頃に消滅し、湖西でも13世紀後半の窯がほとんどみられないこととよく対応している。14世紀になると知多窯でも山茶碗を生産しなくなり、南部系の山茶碗の生産地はほとんど瀬戸窯に限られる。この時点で蚊山遺跡の人々は山茶碗・山皿の使用をやめたようで、Ⅳ期の遺構出土の山茶碗・山皿は混入と思われる小片のみとなる。

（前川）

肉眼観察	胎 土 分 析 ( 三 辻 )					
渥美産 (湖西産)	渥美	12 (13%)	61 (68%)	74 (82%)	85 (94%)	
	渥美・湖西	46 (53%)				
	湖西	3 (3%)				
	渥美、猿投・知多	1 (1%)	13 (14%)			
	渥美・湖西、猿投・知多	9 (10%)				
	湖西、猿投	1 (1%)				
	湖西、猿投・知多	2 (2%)	11 (12%)			11 (12%)
	知多、渥美	1 (1%)				
	猿投・知多、渥美	3 (3%)				
	知多、湖西	1 (1%)	1 (1%)			1 (1%)
	猿投・知多、渥美・湖西	6 (6%)				
	知多	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	6 (6%)	
	不明	5 (5%)	5 (5%)	5 (5%)		
91点 (100%)						

肉眼観察	胎 土 分 析 ( 三 辻 )				
知多産 (猿投産)	知多	1 (1%)	70 (79%)	82 (92%)	85 (95%)
	猿投・知多	58 (65%)			
	猿投	11 (13%)			
	猿投・瀬戸	2 (2%)	12 (13%)		
	猿投・知多、渥美	9 (10%)			
	猿投・知多、渥美・湖西	1 (1%)			
	渥美・湖西、猿投・知多	3 (3%)	3 (3%)	3 (3%)	
	渥美・湖西	3 (3%)	3 (3%)	3 (3%)	
	不明	2 (2%)	2 (2%)	2 (2%)	5 (5%)
90点 (100%)					

第11表 肉眼観察と胎土分析の整合率

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			肉眼観察	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(斎藤)編年	
62	SB 27	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第4型式		I期
63	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀後葉～末葉	
75	SB 76	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4～5型式		II期
76	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		
84	SB 97	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5～6型式		III期
93	SB 125	山茶椀	渥美産	湖西・猿投			13世紀前葉	II期
115	SK 129	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
116	〃	山茶椀	渥美産	猿投・知多、渥美・湖西	第5型式	第4型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
117	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
118	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
119	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
120	〃	山茶椀	渥美産	不明	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
121	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
122	〃	山茶椀	渥美産	不明	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
123	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
143	SB 158	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第4型式?		
190	SK 153	山皿	知多産	猿投・知多		第5～6型式		III期
191	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5～6型式		
192	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5～6型式		
193	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5～6型式		
194	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美		第5～6型式		
195	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美		第5～6型式		
207	SB 159	山茶椀	渥美産	猿投・知多、渥美・湖西		第4～5型式	13世紀前葉	II期
208	SB 164	山茶椀	渥美産	小片のため試料化せず			12世紀末葉～13世紀前葉	I期
216	SE 3	小椀	渥美産	小片のため試料化せず			12世紀中葉	I期
217	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多			12世紀末葉	
218	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀末葉	
233	SE 56	山茶椀	知多産	不明	第6型式	第5型式		I期
234	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多	第5型式	第4型式		
235	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
256	SE 57	山茶椀	渥美産	小片のため試料化せず			13世紀前葉	II期
257	〃	山茶椀	渥美産	不明			13世紀前葉	
258	SE 79	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4型式		IV期
277	SE 90	山茶椀	知多産	猿投		第6型式		III期
278	〃	山茶椀	渥美産	渥美			13世紀前葉	

第12表 中世陶器の推定産地一覧

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期	
			肉眼観察	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(斎藤)編年		
279	SE90	片口鉢	知多産	猿投		第6型式		Ⅲ期	
281	〃	折縁深皿	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸前Ⅱ～Ⅲ期				
282	〃	甕	知多産	猿投・知多		第6型式			
300	SE134	片口鉢	知多産	猿投・知多		第8型式		Ⅳ期	
301	〃	甕	信楽産	猿投・知多					
323	SE157	四耳壺	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸前Ⅱ～Ⅲ期			Ⅳ期	
324	〃	甕	知多産	渥美・湖西・猿投・知多		第6型式			
367	SE172	山皿	知多産	猿投・知多		第5～6型式		Ⅱ期	
368	〃	山皿	知多産	猿投・知多		第5～6型式			
369	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多	第6型式	第5型式			
370	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多	第6型式	第5型式			
371	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美・湖西	第6型式	第5型式			
372	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多	第6型式	第5～6型式			
373	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第6型式		13世紀前葉		
374	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多	第6型式	第5型式			
375	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式			
376	〃	山茶椀	知多産	猿投		第5型式			
377	〃	四耳壺	猿投産	小片のため試料化せず					
378	〃	三筋壺	猿投産	渥美・湖西、猿投・知多					
379	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多		第5～6型式			
449	SE193	片口小皿	渥美産	小片のため試料化せず			12世紀末葉		Ⅱ期
450	〃	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉		
451	〃	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉		
452	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多	第6型式	第4型式			
453	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多	第6型式		13世紀前葉		
454	〃	山茶椀	猿投産	不明	第6型式	第5型式			
455	〃	山茶椀	猿投産	猿投	第7型式	第5～6型式			
456	〃	山茶椀	渥美産	渥美	第6型式		13世紀前葉		
457	〃	山茶椀	知多産	猿投		第4～5型式			
458	〃	山茶椀	知多産	渥美・湖西	第6型式	第5型式	13世紀前葉		
459	〃	壺	渥美産	渥美・湖西			12世紀中葉		
460	〃	甕	渥美産	猿投・知多、渥美			12世紀後葉		
473	SE194	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀後葉～末葉	Ⅱ期	
474	〃	山茶椀	渥美産	渥美			12世紀後葉～末葉		
475	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀後葉～末葉		



遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			肉眼観察	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(斎藤)編年	
476	SE194	片口鉢	渥美産	渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅱ期
477	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多		第4型式		
486	SE207	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第6型式		Ⅲ期かⅣ期
487	〃	山茶椀	知多産	猿投		第6型式		
493	SX 5	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	Ⅲ期
494	SX 28	壺	知多産	猿投・知多、渥美		第6型式		Ⅲ期
495	SX 38	壺	知多産	猿投・知多、渥美		第4型式		Ⅰ期
496	〃	壺	不明	渥美				
497	〃	山茶椀	渥美産	渥美			12世紀後葉～12世紀末葉	
505	SX 40	山皿	知多産	小片のため試料化せず		第4～5型式		Ⅱ期
515	SX 44	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5～6型式		Ⅲ期
528	SX 46	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	Ⅲ期
541	SX 70	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第4型式		12世紀中葉	Ⅰ期
558	SX120	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		Ⅲ期
576	SX149	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4型式		Ⅲ期
583	SX151	山茶椀	渥美産	渥美・湖西(?)			13世紀前葉	Ⅲ期
597	SX165	片口鉢	知多産	猿投・知多		第6型式		Ⅲ期
633	SX168	入子	渥美産	小片のため試料化せず			13世紀前葉?	Ⅱ期
634	〃	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第4型式		
635	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
640	SX170	片口鉢	知多産	猿投・知多		第6型式		Ⅲ期
660	SX224	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	Ⅲ期
661	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第6型式		
666	SX225	片口鉢	渥美産	渥美			12世紀末葉?	Ⅲ期
678	SK 12	山皿	知多産	猿投		第4型式?		Ⅱ期
679	〃	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
680	〃	山茶椀	渥美産	湖西			12世紀後葉～12世紀末葉	
681	〃	山茶椀	渥美産	渥美			12世紀後葉～12世紀末葉	
682	〃	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第4型式?		
683	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多		第4型式?		
695	SK 30	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀後葉～13世紀前葉	Ⅰ期かⅡ期
706	SK 45	山皿	渥美産	猿投・知多、湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅰ期
707	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	
713	SK 48	山皿	渥美産	渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅰ期
714	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			肉眼観察	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(斎藤)編年	
718	SK 65	山皿	知多産	猿投・知多		第4型式		I期
769	SK 103	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4型式		III期
770	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
771	〃	片口鉢	渥美産	知多			13世紀前葉?	
772	〃	壺	渥美産	猿投・知多、渥美・湖西			12世紀	
787	SK 104	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美		第6型式		III期
798	SK 114	山皿	知多産	猿投		第5～6型式		III期
801	SK 115	山茶椀	知多産	猿投、瀬戸		第5型式		III期
808	SK 122	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		III期
809	〃	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第6型式		
819	SK 130	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	II期
820	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		
821	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第6型式		
838	SK 144	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	III期?
839	〃	山茶椀	渥美産	渥美			12世紀末葉～13世紀前葉	
840	〃	山茶椀	渥美産	猿投・知多、渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	
841	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多			12世紀末葉～13世紀前葉	
842	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多		第4型式		
843	〃	片口鉢	渥美産	知多、渥美(?)			12世紀末葉?	
857	SK 154	山茶椀	知多産	不明		第5型式		II期
858	〃	山茶椀	知多産	猿投		第5型式		
873	SK 155	山茶椀	知多産	猿投、瀬戸		第5型式		III期
876	SK 156	山皿	渥美産	湖西			13世紀前葉	III期
885	SK 161	山茶椀	知多産	小片のため試料化せず		第6型式		III期
890	SK 173	片口鉢	知多産	猿投		第5～6型式		III期
891	SK 174	片口鉢	知多産	猿投・知多		第6型式		III期
902	SK 178	山茶椀	知多産	猿投・知多		第6型式		III期
903	〃	片口鉢	知多産	猿投		第5型式		
916	SK 190	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		II期
938	SK 204	山茶椀	渥美産	湖西、猿投・知多			13世紀前葉	IV期
953	SK 214	山茶椀	渥美産	猿投・知多、渥美・湖西			12世紀後葉～末葉	III期
954	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多			12世紀後葉～末葉	
960	SK 219	灰釉平椀	瀬戸産	不明	古瀬戸後I～II期			IV期
1030	SD 8	山皿	知多産	猿投・知多		第4型式		II期
1031	〃	山皿	知多産	猿投・知多		第4～6型式		

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			肉眼観察	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(斎藤)編年	
1032	SD 8	山皿	知多産	猿投・知多		第4～6型式		II期
1033	〃	山皿	知多産	猿投・知多		第4～6型式		
1034	〃	山皿	知多産	猿投・知多		第4～6型式		
1035	〃	山茶椀	知多産	知多		第4～5型式		
1036	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第3～4型式		
1037	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美		第4～5型式		
1038	〃	山茶椀	知多産	渥美・湖西		第4～5型式		
1039	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4型式		
1040	〃	山茶椀	知多産	猿投		第5型式		
1041	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		
1042	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4～5型式		
1043	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美		第4～5型式		
1044	〃	山茶椀	知多産	渥美		第4～5型式		
1045	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		
1046	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
1047	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		
1048	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4～5型式		
1049	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多		第5型式		
1050	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多		第5型式		
1051	〃	山茶椀	渥美産	渥美			12世紀後葉～13世紀前葉	
1052	〃	小杯	渥美産	小片のため試料化せず			12世紀後葉～13世紀前葉	
1053	〃	片口	渥美産	渥美・湖西				
1069	SD10A	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	III期
1076	SD10B	山皿	渥美産	渥美			13世紀前葉	II期
1083	SD 11	山茶椀	渥美産	渥美			13世紀前葉	IV期
1092	SD 17	山茶椀	渥美産	渥美			13世紀前葉	IV期
1117	SD35A	小杯	渥美産	小片のため試料化せず			12世紀後葉～13世紀前葉	I期～II期
1118	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	
1119	〃	山茶椀	渥美産	湖西			13世紀前葉	
1120	〃	山茶椀	知多産	渥美・湖西、猿投・知多		第4型式		
1121	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
1122	〃	山茶椀	渥美産	不明			13世紀前葉	
1123	〃	片口鉢	知多産	猿投・知多、渥美		第3～4型式		
1124	〃	片口鉢	渥美産	猿投・知多、渥美			12世紀後葉～末葉	
1131	SD35B	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	II期～III期

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			肉眼観察	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(斎藤)編年	
1162	SD 39	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1163	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1164	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1165	〃	山茶椀	渥美産	湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1187	SD 43	山皿	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1188	〃	山皿	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1189	〃	山皿	渥美産	不明	第5～6型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1190	〃	山皿	渥美産	渥美・湖西	第5～6型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1191	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1192	〃	山茶椀	渥美産	渥美、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1193	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1194	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1195	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1196	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1203	SD 62	山茶椀	渥美産	渥美・湖西、猿投・知多			13世紀前葉	II期かIII期
1218	SD118	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		II期
1219	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多		第5型式		
1220	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
1221	〃	山茶椀	知多産	猿投・知多、渥美		第5型式		
1226	SD200	山茶椀	知多産	猿投・知多		第4型式		I期
1232	SD218	山茶椀	渥美産	猿投・知多、渥美	第4型式		12世紀中葉	I期
1237	SX132	山茶椀	渥美産	猿投・知多、渥美・湖西			13世紀前葉	II期かIII期
1249	包含層	山皿	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
1250	〃	山皿	知多産	猿投・知多		第4～5型式		
1251	〃	山皿	知多産	猿投・知多		第4～5型式		
1252	〃	山皿	知多産	猿投		第4型式		
1253	〃	山茶椀	渥美産	渥美・湖西			13世紀前葉	
1254	耕作土	天目茶椀	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸後I期			
1255	包含層	天目茶椀	建窯産	分析せず				
1256	〃	水注	渥美産	渥美(?)			12世紀	
1257	〃	三筋壺	知多産	猿投・知多		第6型式?		
1258	L79ピット	三筋壺	知多産	猿投・知多		第6型式?		
1259	包含層	広口壺	知多産	試料化せず				

# Ⅵ. 調査のまとめ

## 1. 蚊山古墳群

### 1. 古墳群の範囲

蚊山遺跡左郡地区とケカノ辻・角垣内地区の調査で合計23基の古墳の痕跡が検出された。

今回の調査以前、度会郡玉城町内には約240基の古墳が存在あるいは存在していたことが知られていたが、蚊山遺跡の所在する岩出集落周辺は古墳分布の空白地域とされていた。戦後しばらくまで「塚」とよばれていた小丘が畑の中に残っていたことを知り、調査区内にある「塚名」という小字名に注目したのは、迂闊にも調査が始まってからのことであった。地元で「塚」とよばれていたのは7号墳の墳丘だったらしい。

蚊山古墳群は開墾により全ての墳丘が削平されて

しまい、地表面の観察のみではその広がりを知ることができない。しかし、左郡地区の南側は小規模な谷川へ向かう急傾斜地であること、西側は地盤が不安定な湿地状の沼田であること、所り垣地区、蚊山地区の調査で古墳が検出されなかったことなどから南側、西側、東側へ広がっていたとは考え難い。北側についてもケカノ辻・角垣内地区の調査結果を参考にする限りでは古墳が広い範囲に分布していたとは思えない。つまり、一連の発掘調査で蚊山古墳群の主要部分が検出されたと考えられる。

### 2. 群構成と変遷

古墳の分布状況を見ると、西、北、東の3つの群

500	600	時期不明
9号墳(SX53)		15号墳(SX95)
11号墳(SX61) …… 7号墳(SX37) …… 12号墳(SX72)		8号墳(SX49)
	14号墳(SX82)	10号墳(SX60)
		13号墳(SX75)
22号墳 …… 23号墳 …… 5号墳(SX32)		6号墳(SX33)
	4号墳(SX15)	21号墳(SX215)
	3号墳(SX14)	2号墳(SX7)
	20号墳(SX196)	18号墳(SX182)
1号墳(SX4)	17号墳(SX180)	
	16号墳(SX113)	
	19号墳(SX186)	

第13表 時期別古墳一覧

に大別することができる。

西の群には7～15号墳の9基が入る。築造時期がある程度推定できる古墳を中心にして見ると、5世紀末葉あるいは6世紀前半頃に11号墳が築かれたのを契機として、次に7号墳、6世紀中頃には12号墳というように木棺直葬の円墳が次々と築かれている。6世紀末葉あるいは7世紀初頭になると横穴式石室を主体部にもつ14号墳が築かれるが、その後古墳の築造は行われなくなったようである。

北の群は5・6・22・23号墳の4基である。6世紀初頭に22号墳が築かれたのを契機として、23号墳、6号墳、5号墳が次々と築かれていったと思われる。6世紀後半に築かれた5号墳は蚊山古墳群中で最も大きい規模をもつ。北の群は、西の群とはほぼ同時に古墳を築き始めるが、終息は一足早い6世紀後半と思われる。しかし、見方を変えれば、西の群も北の

群もほぼ同時に木棺直葬の円墳を築くのの止め、両方の群の代表者が14号墳に葬られたとも考えられる。

東の群には1～4・16～21号墳の10基が入る。6世紀初頭に1号墳が築かれるが、その後続く古墳はみあたらない。ところが7世紀前半には小規模な方墳が突如として多数築かれる。1号墳と他の古墳との直接のつながりはないかもしれない。このように、東の群の様相は、西・北の群と大きく異なっている。

蚊山古墳群は5世紀末葉あるいは6世紀初頭に古墳が築かれ始め7世紀前半まで続く古墳群である。検出された23基の古墳を3つの群に分けて見てきたが、さらに大きな流れの中でとらえると、初現期＝11・22・1号墳、発展期＝西・北の群、終末期＝東の群ということができるかもしれない。

## 2. 中世集落

### 1. 各時期の土器

東海地方の中世土器の中では無釉の陶器碗と皿、つまり山茶碗・山皿の編年が最も進んでいる。南勢地方は山茶碗・山皿の代表的な生産地である知多半島、渥美半島とは伊勢湾を挟んで近距離にあり、蚊山遺跡でも比較的多くの出土をみた。しかし、出土遺物の圧倒的多数を占めるものは「南伊勢系土師器<sup>①</sup>」とよばれる在地産の皿・小皿・鍋である。

南伊勢系土師器の中で鍋については詳細な型式変化の検討が行われており、年代観も示されている<sup>②</sup>。皿・小皿についてはいくつかの試案が発表されているが、まとまった見解には達していない。

蚊山遺跡で検出された遺構の時期を決めるにあたっては、まず、山茶碗・山皿、瀬戸産の施釉陶器、知多産の陶器甕・片口鉢の編年および南伊勢系土師器鍋の型式分類を参考にして代表的な遺構の抽出とその前後関係の検討を行い、次に、最も普遍的に出土する南伊勢系の土師器皿・小皿の時期的な変化をとらえてみた。A・B<sub>1</sub>・B<sub>2</sub>・Cという土師器皿・小皿の細分は、ある程度この時期的変化を念頭においている。ただし、土師器皿A・小皿Aについては異系統あるいは特殊なものと考えられるものを含んで

いる。

### I 期

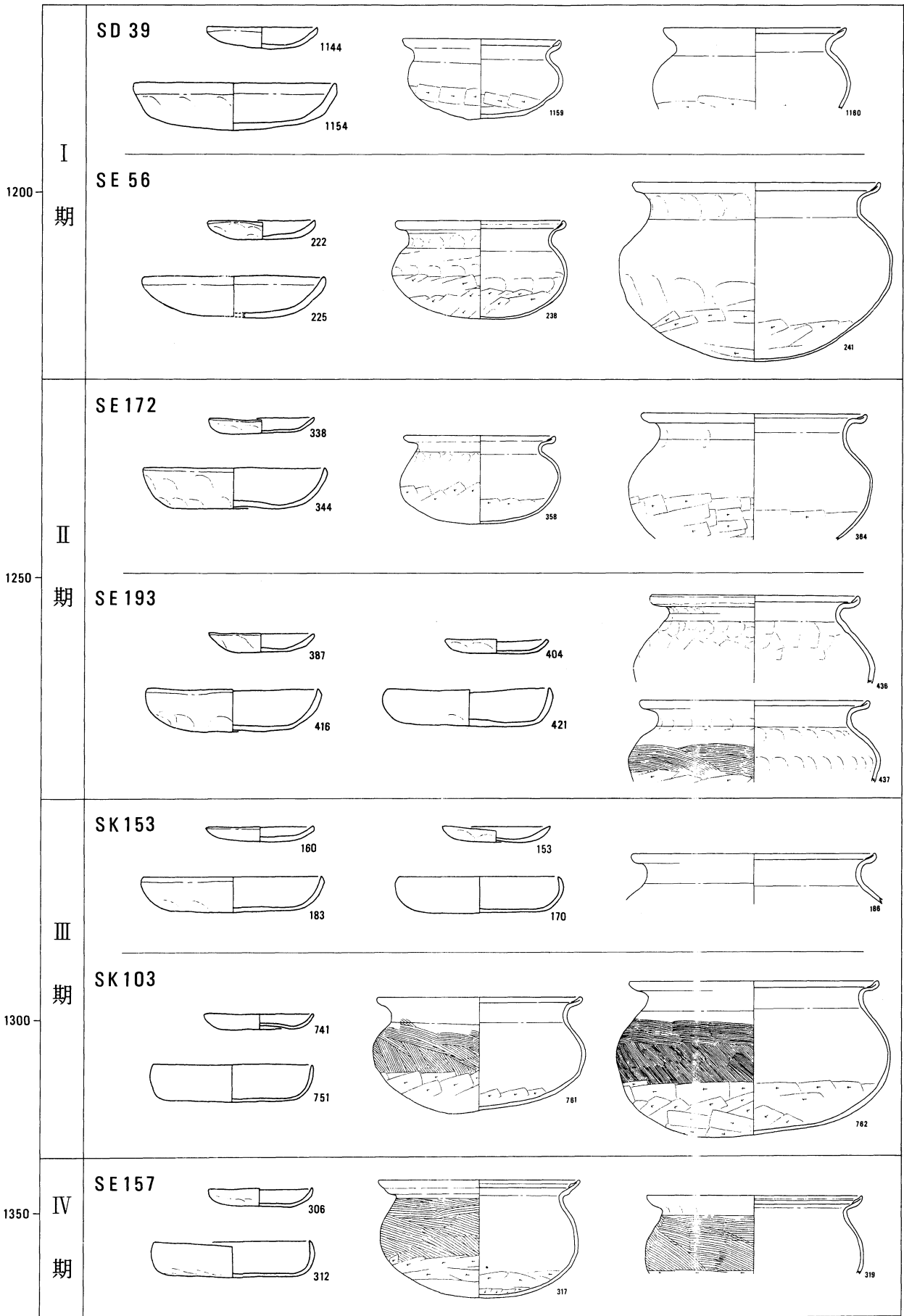
この時期の代表的な遺構としては中世墓S X70・S E56、土坑S K45・S K129、溝S D39・S D43がある。これらの遺構出土の土器は、山茶碗は瀬戸編年の第5型式に相当するもの、土師器鍋は伊藤分類<sup>④</sup>の第1段階a型式、土師器皿・小皿はB<sub>1</sub>が主流である。ただし、S X70は瀬戸編年の第4型式に相当する山茶碗を出土し、土師器皿も比較的古い様相を示している。また、S E56は土師器皿がやや小振りなこと、土師器鍋が伊藤分類第1段階b型式を主流とすることなど新しい要素をもっている。I期は12世紀中葉から13世紀初頭にかけてと考えられる。

### II 期

井戸S E172・S E193、溝S D8を代表的な遺構とするが、S D8の出土遺物にはやや混入がみられる。山茶碗・山皿は瀬戸編年の第6型式に相当するもの、土師器鍋は伊藤分類の第1段階b型式、土師器皿・小皿はB<sub>2</sub>を主流とする。ただし、S E193からは伊藤分類の第2段階a型式・b型式の土師器鍋、土師器皿C・小皿Cがある程度まとまって出土しており、瀬戸編年第7型式に相当する山茶碗もみられ

出土遺構	遺構時期		皿 (cm)				小皿 (cm)				備考
			A	B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	C	A	B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	C	
溝 SD 39	I期	口径 器高 計測数	14.7 2.9 ( 1 )	14.4 2.8 ( 15 )	— —	— —	— —	8.1 1.4 ( 21 )	7.6 1.1 ( 1 )	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
溝 SD 43	I期	口径 器高 計測数	—	14.5 2.7 ( 51 )	— —	— —	— —	8.4 1.4 ( 70 )	—	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 45	I期	口径 器高 計測数	15.0 2.0 ( 1 )	14.0 2.8 ( 8 )	— —	— —	— —	8.1 1.4 ( 11 )	8.0 1.2 ( 3 )	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 172	II期	口径 器高 計測数	—	13.6 2.9 ( 6 )	12.9 2.6 ( 139 )	—	—	8.3 1.3 ( 5 )	7.7 1.2 ( 142 )	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
溝 SD 8	II期	口径 器高 計測数	—	—	12.7 2.7 ( 58 )	12.1 2.8 ( 12 )	9.7 1.6 ( 2 )	10.2 1.4 ( 1 )	8.0 1.2 ( 31 )	7.7 1.2 ( 15 )	完存およびほ ぼ完存のもの のみ計測
井戸SE 193	II期	口径 器高 計測数	—	—	12.6 2.6 ( 34 )	12.0 2.5 ( 19 )	8.8 1.3 ( 2 )	8.0 1.4 ( 1 )	7.5 1.2 ( 53 )	7.5 1.1 ( 23 )	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 153	III期	口径 器高 計測数	—	—	12.7 2.6 ( 18 )	11.4 2.6 ( 66 )	8.0 1.8 ( 1 )	8.0 1.4 ( 1 )	7.9 1.2 ( 37 )	7.6 1.1 ( 166 )	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 90	III期	口径 器高 計測数	—	—	—	11.7 2.4 ( 6 )	—	—	—	7.7 1.1 ( 4 )	口縁部残存度 1/5以上の もののみ計測
土坑SK 103	III期	口径 器高 計測数	—	—	13.0 2.4 ( 1 )	11.6 2.6 ( 26 )	—	—	—	7.6 1.1 ( 13 )	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 161	III期	口径 器高 計測数	—	—	—	11.5 2.5 ( 29 )	—	—	8.3 1.0 ( 2 )	7.5 1.0 ( 40 )	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 104 (中世墓)	III期	口径 器高 計測数	—	—	—	11.4 2.5 ( 14 )	7.5 1.5 ( 1 )	—	7.6 0.9 ( 1 )	7.7 1.0 ( 8 )	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 134	IV期	口径 器高 計測数	—	—	12.8 2.4 ( 1 )	11.6 2.3 ( 3 )	—	—	—	8.0 1.3 ( 4 )	口縁部残存度 1/5以上の もののみ計測
井戸SE 157 (中世墓)	IV期	口径 器高 計測数	—	—	12.0 2.6 ( 1 )	11.3 2.5 ( 15 )	—	—	—	7.6 1.2 ( 15 )	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測

第14表 主な遺構出土の土師器皿・小皿平均計測値一覧



第101図 主な遺構出土の土師器小皿・皿・鍋 (小皿・皿=1:4, 鍋=1:6)



る。Ⅱ期は13世紀前葉から中葉にかけてと考えられる。

### Ⅲ 期

土坑S K153・S K103・井戸S E90を代表的な遺構とする。土師器鍋はⅡ期と同じく伊藤分類の第1段階b型式が主流であるが、器壁が薄くなり、体部外面に細かいハケ目が施されているものが目立つ。伊藤分類の第2段階c型式や第3段階a型式の鍋を出土する遺構もある。土師器皿・小皿にはB<sub>2</sub>あるいはB<sub>2</sub>に近いものもみられるが、口径が11.5cm前後のCが圧倒的に多い。Ⅲ期は13世紀後葉から14世紀前葉にかけてと考えられる。

### Ⅳ 期

井戸S E134、中世墓S E157を代表的な遺構とする。山茶碗は混入と思われる小片以外は出土しない。土師器皿・小皿は混入と思われる小片以外は全てCで、口径はⅢ期のもので変わらないが、器壁がさらに薄くなり、口縁部の内側への反りが強くなる傾向がみられる。土師器鍋は伊藤分類の第3段階b型式が主流である。Ⅳ期は14世紀中葉から15世紀中葉にかけてと考えられる。

## 2. 中世集落の変遷

第102・103図に各時期の遺構の配置を示した。ただし、この図には数多くあるピットや時期不明の遺構は省略してある。おおよそその時期しかわからない遺構を複数の時期の図に書き込んだ場合もあるが、その間継続して存在していたという意味ではないので注意していただきたい。なお、井戸については存続期間が長いと考えて、廃絶時期には実線で、その一時期前の図には点線で示した。

### Ⅰ 期

左郡地区で確認できる最古の建物跡は12世紀末葉のものである。しかし、わずか1基といえども12世紀中葉の中世墓がみられることから、その頃の建物跡が付近に眠っている可能性がある。ケカノ辻・角垣内地区の建物跡の状況は不明な点が多いが、所り垣地区でも左郡地区と同様のことがいえる。これらのことから蚊山遺跡の集落は12世紀中葉に始まったと考えられる。世の中が古代的な社会から中世的な社会へと大きく変貌する激動期に蚊山集落が形成さ

れ始めたのである。

この時期の主要建物としてS B128、S B164、S B27の3棟を挙げることができる。S B128とS B164、S B128とS B27はそれぞれ約30m離れており、S B164とS B27の間には区画溝の機能をもつと考えられるS D118があることから、それぞれ独立した屋敷地を構えていたと想定できる。S D118・S D13・S D200を一体として捉えれば、ここにこれらの溝を側溝としていた道路が存在していた可能性もある。

この時期の建物の多くは中世の一般的な建物と同じく碁盤目状に束柱が並ぶ構造をしているが、柱掘形内に根石がみられないのが特徴である。S B128はこの時期の建物の中では建物面積が最も大きいこと、柱掘形が他の建物よりひとまわり大きいこと、建物内の南東隅に方形土坑をもつことなどから、集落の中でも中核的な建物だったと考えられる。

調査区の東部に屋敷地がみられる一方、中央部には少数の中世墓が、西部には山間の谷水を集めた自然流路S D43がみられる。S D39は自然流路の水を田畑にひくための灌漑用水路として設けられたものと考えられる。集落の始まりと相前後して水田利用には不適だったと思われるこの付近の河岸段丘の開墾が本格化したようである。

### Ⅱ 期

この時期には屋敷地として利用される土地が西側へ広がり、蚊山集落の原型がほぼ完成する。

東部の主要な建物としてS B131、S B159、S B34が挙げられる。S B131はⅠ期中核的な建物であったS B128の南側に新たに屋敷地を確保して建てられたものであろう。S B128の跡地には規模の小さい建物が建てられている。S B159は明らかにⅠ期のS B164に続く建物である。S B34は位置がS B159に近寄りすぎているが、S B27に続くものとしておく。隣接するこの4つの屋敷地を2分するかのようには道路S R87が走っている。

東部の4つの屋敷地から大きく離れた中央部にもS B98とS B51を主要建物とする2つの屋敷地がみられる。S B98の屋敷地の場合、Ⅱ期に入ってから大溝S D35Aの西側に屋敷地を確保した家族がまずS B76を建てたが、途中で「く」の字に曲がって流

れるSD35Aは不都合な点が多かったため流れを改修してSD35Bを作り、新たにSB98を建てたと考えられる。SB98の柱列がSD35Bにかかっているように見えるが、SD35Bの肩の部分が後に崩れたためそう見えるだけであろう。SB51の西約20mにあるSB9は規模が小さいため一つの屋敷地内の主要建物であったのか、それとも住居から離れた位置に作られた作業小屋的なものであったのかは断定し

がたい。

この時期の建物はほとんどが束柱をもち、柱掘形の中に根石がみられる。建物規模はI期より大きいものが増加している(第15表)。中世墓の数は多くないがA型からE型まで全ての型がそろっており、その中でもB型が主流になる傾向が現れてきている(第17表)。

II期の遺構で注目すべきものにSD8とその西側

身舎規模	I期	II期	III期	IIIかIV期	IV期	時期不明
5間×4間	—	—	1	—	—	—
4間×4間	1	—	—	—	—	—
4間×3間	1	4	4	—	—	—
4間×2間	—	—	—	1	—	—
3間×3間	—	2	2	1	—	—
3間×2間	4	3	2	—	1	—
3間×1間	—	—	2	1	—	—
2間×2間	2	1	2	5	—	—
2間×1間	—	—	—	—	—	1
規模不明	1	1	—	2	—	—
合計	9	11	13	10	1	1

建物総面積	I期	II期	III期	IIIかIV期	IV期	時期不明
約32坪～	—	—	1	—	—	—
約28坪～	—	—	—	—	—	—
約24坪～	—	—	—	—	—	—
約20坪～	—	—	—	—	—	—
約16坪～	1	2	1	—	—	—
約12坪～	1	3	3	—	—	—
約8坪～	1	2	1	1	—	—
約4坪～	4	2	6	5	1	—
0坪～	1	1	1	3	—	1
面積不明	1	1	0	1	—	—
合計	9	11	13	10	1	1

第15表 時期別掘立柱建物規模一覧

B型中世墓		底 部 長 辺											
		0.6m～	0.7m～	0.8m～	0.9m～	1.0m～	1.1m～	1.2m～	1.3m～	1.4m～	1.5m～	1.6m～	1.7m～
底	1.1m～						III期=1 不明=1						
	1.0m～					III期=1		III期=1	III期=1				
部	0.9m～							II期=1				II期=1	II期=1
	0.8m～				II期=1 III期=2		III期=2	I期=1	II期か III期=1				
辺	0.7m～		III期=1	III期=2 IV期=1	III期=1								
	0.6m～	不明=1		III期=2									

第16表 B型中世墓の底部規模一覧

時期	I 期	II 期	III 期	IV 期
掘 立 柱 建 物			SB 2 SB 9 ————— (SB 68 · SB 19)	
		SB 51 —————	SB 54 SB 68	
		SB 98 ..... SB 74 ————— SB 76	SB 85 ..... (SB 93) SB 97	
	SB 24		SB 184	
	SB 25		SB 21 (SB 20)	
	SB 23			
	SB 164 —————	SB 159 —————	SB 158 (SB 160 · SB 179)	
	SB 27 —————	SB 34		
	SB 128 —————	SB 112 —————	SB 126 (SB 127)	
	SB 100	SB 12.5		
SB 145	SB 131 ————— SB 137	SB 133 SB 136		
		SB 141 (SB 143)	SB 142	
		SB 205 (SB 191) (SB 199)		
井 戸	SE 3	SE 172 SE 193 SE 194	SE 90	SE 79 SE 134
中 世 墓	A 型	SX 70	SX 88	SX 120 SX 225
	B 型	SX 78	SX 40 (SX 92) SX 63 SX 77 SX 168 SX 171	SX 46 SE 157 SX 59 SX 106 SX 138 SX 140 SX 149 SX 152 SX 162 SX 165 SX 167 SX 170 SX 223 SX 224
	C 型	SE 56	SE 57	SX 44 (SE 207) SK 104
	D 型	SX 38	SK 83	SX 28 (SX 189) SX 166 SX 151 SX 183 SX 175 SX 188 SK 222 (SX 41)
	E 型		SX 67 (SX 96)	SX 5 SX 64
土 坑	SK 129		SK 153 (SK 103)	SK 204

第17表 時期別中世遺構一覽



第102図 I期・II期の遺構配置図 (1:1,200)



第103図 Ⅲ期・Ⅳ期の遺構配置図 (1 : 1,200)

を巡るS D18がある。一般的な集落の有力者よりさらに権力を持った者の屋敷を囲う堀とそれに伴う溝と思われるが、全体像がつかめなため残念ながらそれ以上のことは言えない。

### Ⅲ 期

蚊山遺跡中世集落の最盛期ともいうべき時期で、調査区の西端近くにもS B 2を主要建物とする屋敷地が新たに設けられている。また、調査区の東端近くにも当然屋敷地が設けられていたと思われる。

Ⅱ期から続く屋敷地にも順調に新しい建物が築かれているが、Ⅰ期以来の屋敷地には消長がみられる。Ⅰ期S B 27→Ⅱ期S B 34と続いた屋敷地の建物はⅢ期にはなくなり、Ⅰ期中核的な存在であったS B 128の屋敷地に建てられた建物は住居とは言いがたい規模に縮小してしまっている。一方、Ⅰ期の主要建物の中で最も小さかったS B 164の屋敷地にはⅢ期になると総面積が32坪という大規模な建物のS B 158が建てられ、蚊山集落の中核的な存在に成長している。

建物の増加に伴って中世墓の数もB型を主流として爆発的に増加した。中世墓は各屋敷地の隅、あるいは屋敷地と屋敷地の間にある空地と思われる位置に築かれている。特に、S B 158のすぐ西側は一定の広がりをもつ集団墓地というべき中世墓の密集地となった。集落の規模が大きくなり人口が増えるとともに、特定の墓地が必要となってきたのであろう。この時期最大の建物であるS B 158のすぐ西側に集落の墓地が形成されたことには興味が引かれる。B型の中世墓は平面形が方形で墓壇が深いもので、座棺を使用した土葬墓と考えている。平面の長辺と短辺の長さの関係から、正方形に近いもの、長方形に近いもの、その中間のものというようにさらに3つの型に細分できる(第16表)。時期的な傾向ははっきりしないが、新しくなるほど正方形に近いものが増えるように思える。

### Ⅳ 期

第103図のⅣ期の遺構配置図には数棟の建物跡が

書き込んであるが、明確にⅣ期の建物としたのはS B 142の1棟のみである。たとえ時期が不明確な建物跡をすべてⅣ期のものとしてもその数や建物規模は衰退傾向を示していることには変わりがない。中世墓はD型が主流になるが、建物跡と同様に総数は激減している。

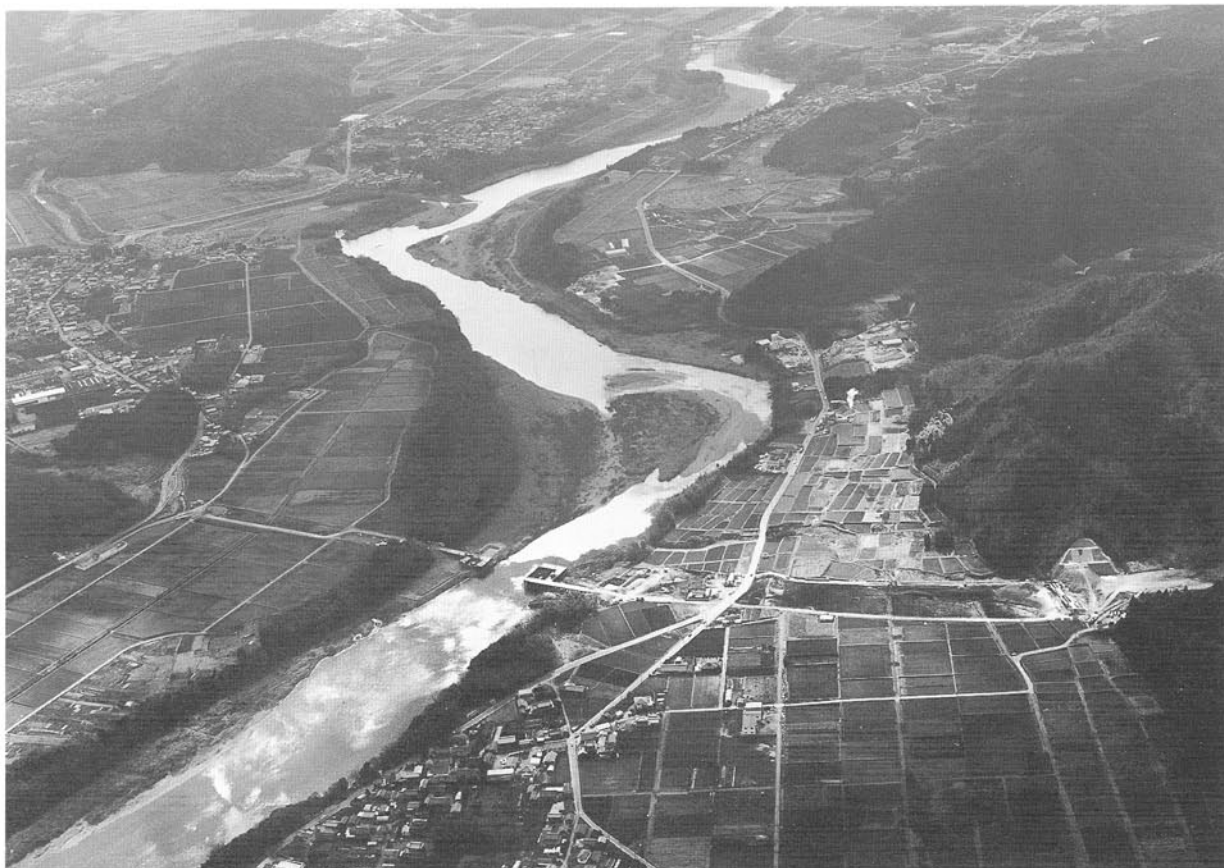
### 3. 中世集落のまとめ

このように、12世紀中葉に集落の萌芽がみられ13世紀後葉から14世紀前葉にかけて最盛期を迎えた蚊山遺跡の集落も、14世紀中葉以降には見る影もないほど閑散とした状態になってしまう。明治28年に神宮司庁が発行した『神都名勝誌』には岩出の地に長保年間(999~1004年)から明德・応永年間(1390~1428年)までの約400年間、神宮祭主の館があったと記されている。それが事実であったとすれば館の近くにはその間、それ相当の規模の集落が存在し続けていたと考えるのが自然である。そういう意味では存続期間がより短い蚊山遺跡の家々は完全に独立した集落を形成していたのではなく、祭主館の定着とともに拡大していった岩出集落の一部あるいは支村だったといえる。南勢地方に大きな爪痕を残した南北朝の争乱により祭主の権威は急速に衰え、それにより岩出集落の規模も縮小を余儀なくされたのであろう。岩出集落の浮沈に強く影響された左郡地区にはやがて人が住まなくなり、そこで多くの人々が生まれ、暮らし、死にそして葬られたことも次第に忘れ去られていったのである。

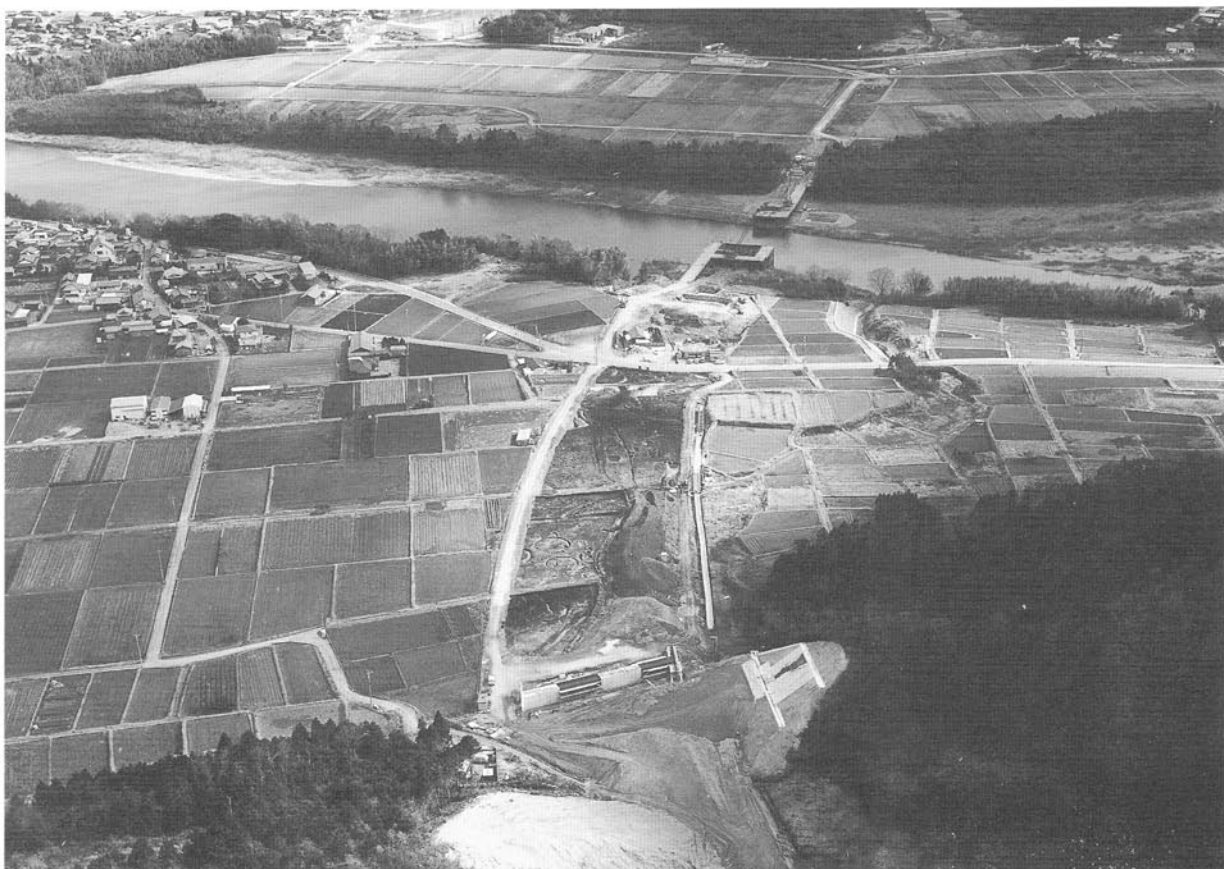
### 【註】

- ① 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」【Mie history】vol. 1 三重歴史文化研究会1990
- ② ①に同じ
- ③ 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」【瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ】1991  
藤澤良祐「山茶碗と中世集落」【尾呂】瀬戸市教育委員会1990
- ④ ①に同じ

P L A T E



調査区遠景（北上空から）



調査区全景（北西上空から）



図版 2



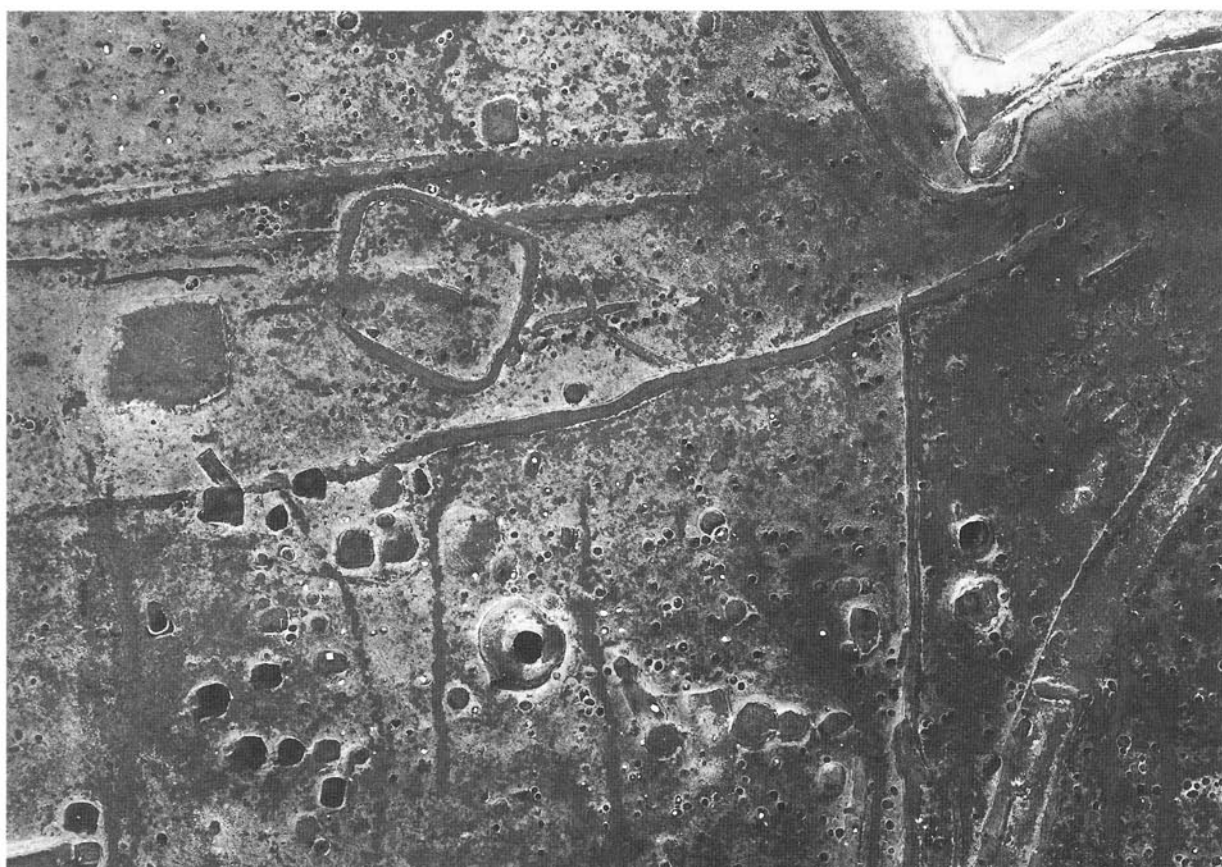
S X 53 (9号墳) 周辺 (上空から・北は左上)



S X 61 (11号墳)、S X 72 (12号墳) 周辺 (上空から・北は左上)



S B 76・85・93・98周辺（上空から・北は左上）



S X 215（21号墳）、S B 158周辺（上空から・北は左上）



図版 4



S X196 (20号墳)、S B128周辺 (上空から・北は左上)



調査区西部 (南東から・調査中)



S D43付近 (南東から)



S B 2 (南西から)



図版 6



S X53 (9号墳) (東から)



S X61 (11号墳) 付近 (北西から)



S B68 (北から)



S X37 (7号墳), S B51・54 (南西から)



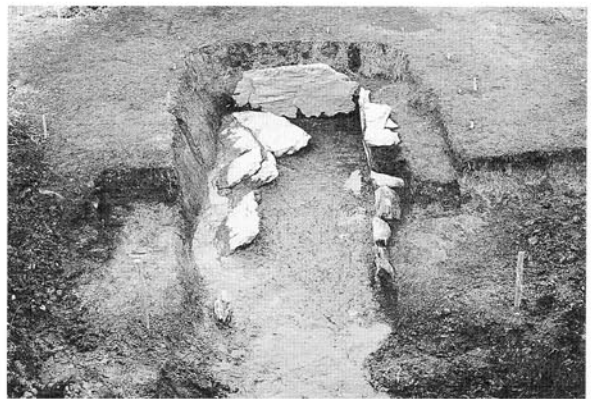
図版 8



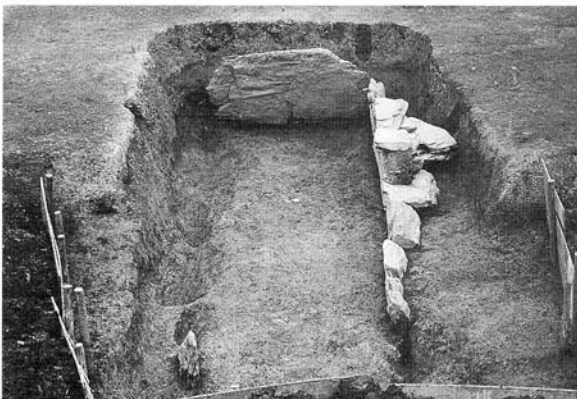
S B74, S X82 (14号墳) (北東から)



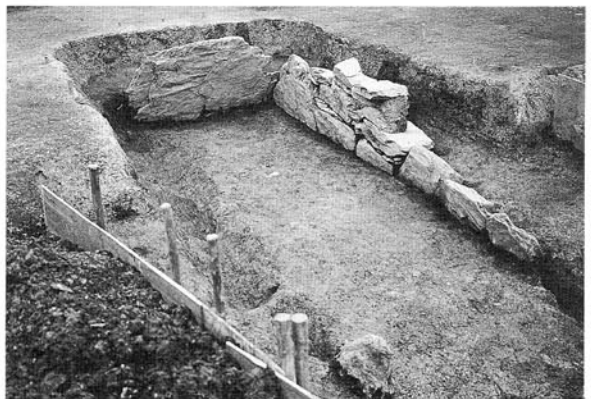
S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (西から)



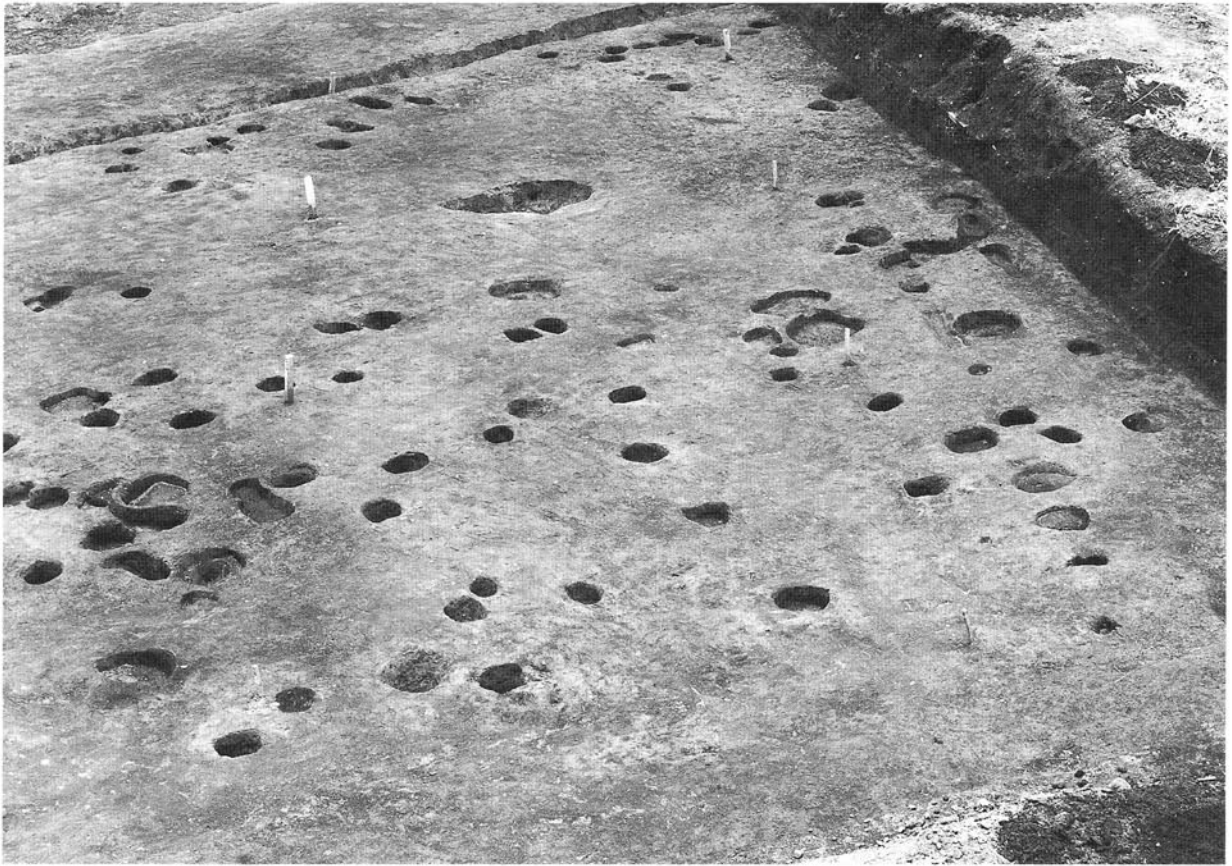
S B76・85・93・98 (北から)



S X215 (21号墳) (北東から)



図版10



S B24 (北西から)



S K153付近 (西から)



S R87, S D118付近 (北東から)



S D 8 付近 (南東から)



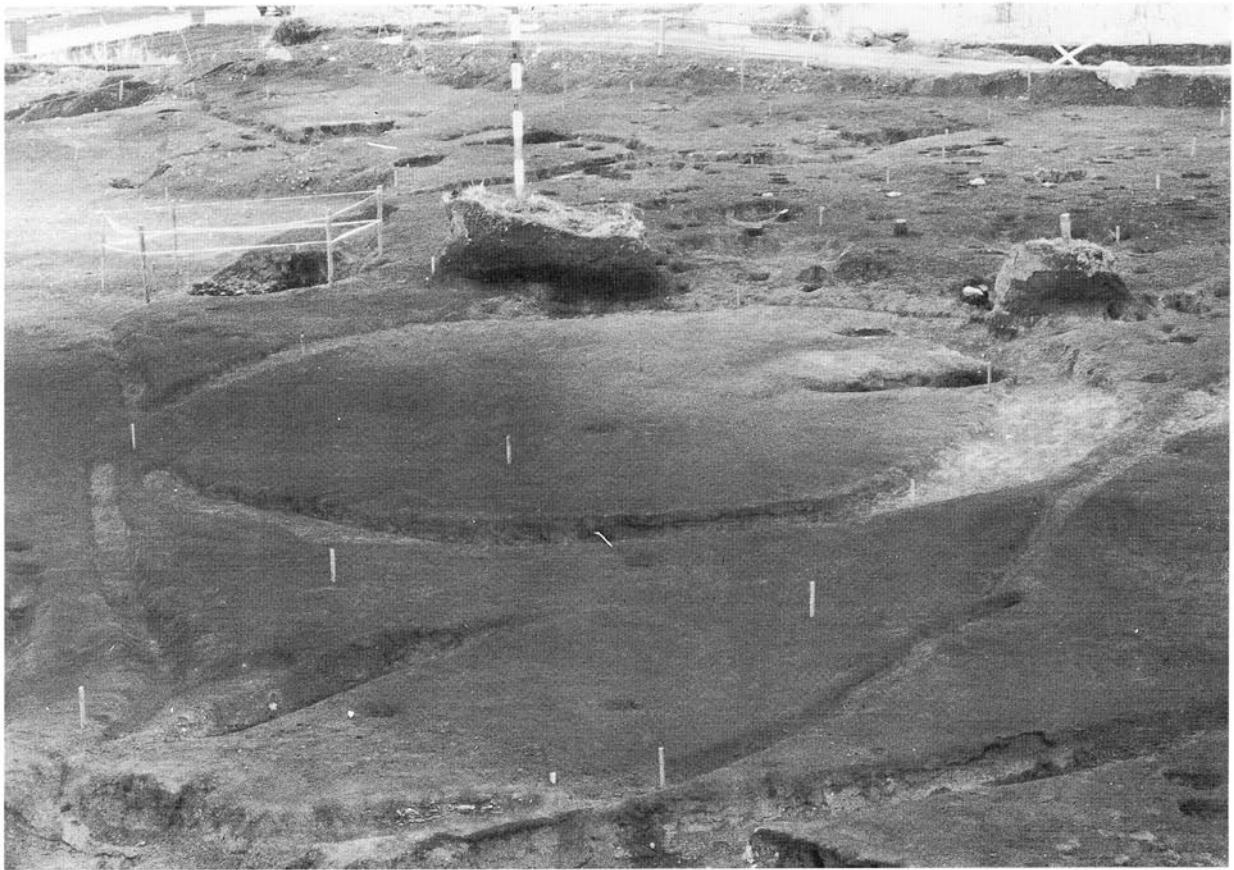
図版12



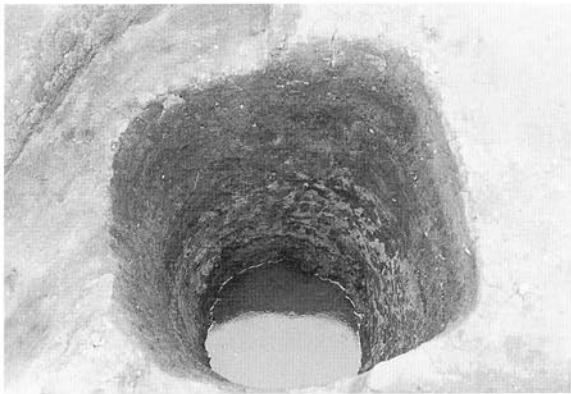
S B 131・133・136・137 (北から)



S B 100・125・126・127・128 (西から)



S X 196 (20号墳) (北から)



S E 3 (南東から)



S E 56 (北から)

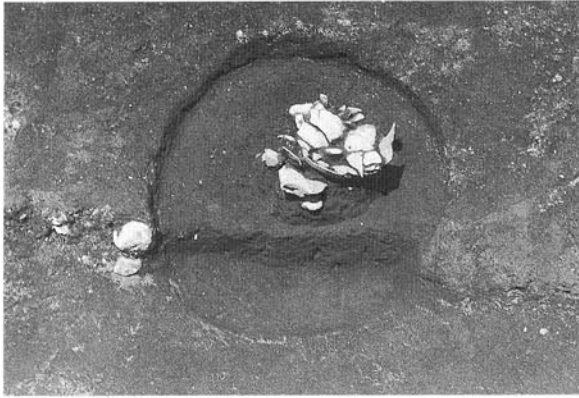


S E 134 (南から)



S E 172 (北から)

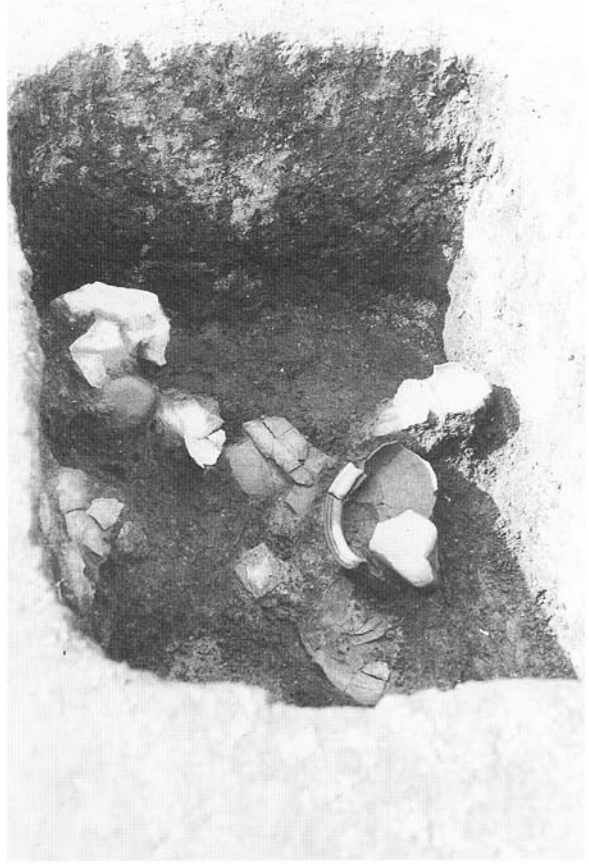
図版14



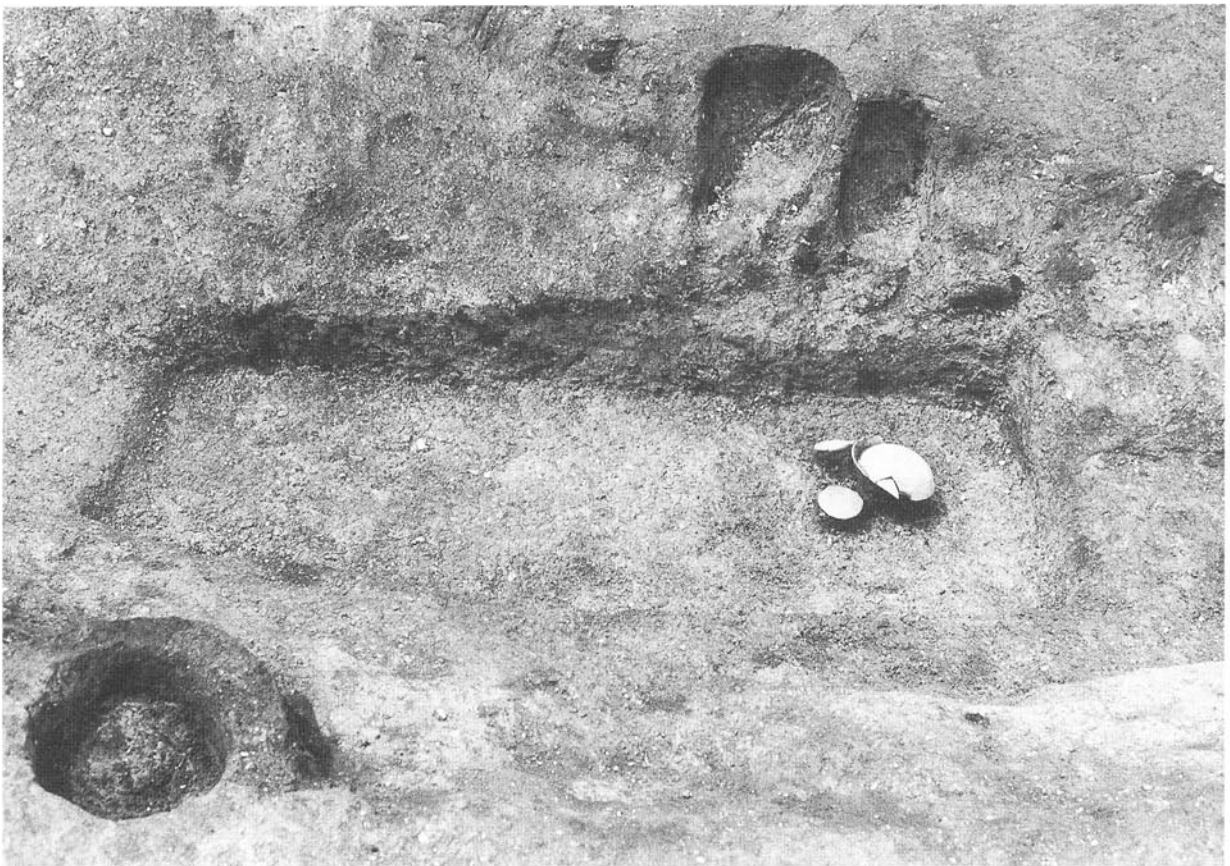
S X 5 (南東から)



S X 38 (東から)



S X 46 (南から)

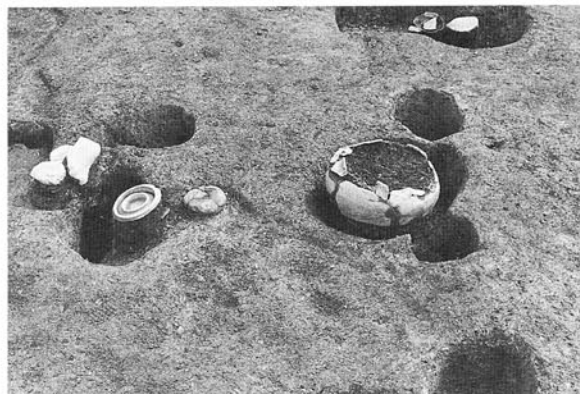


S X 70 (南から)

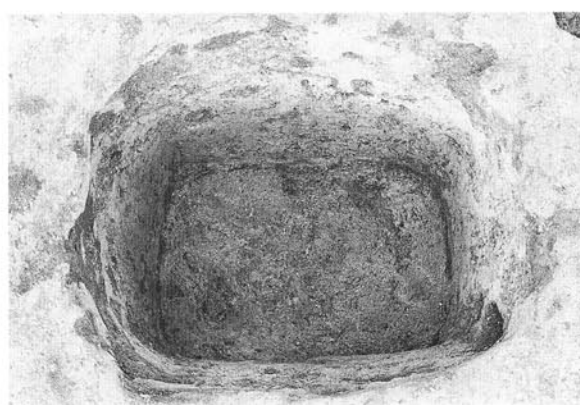




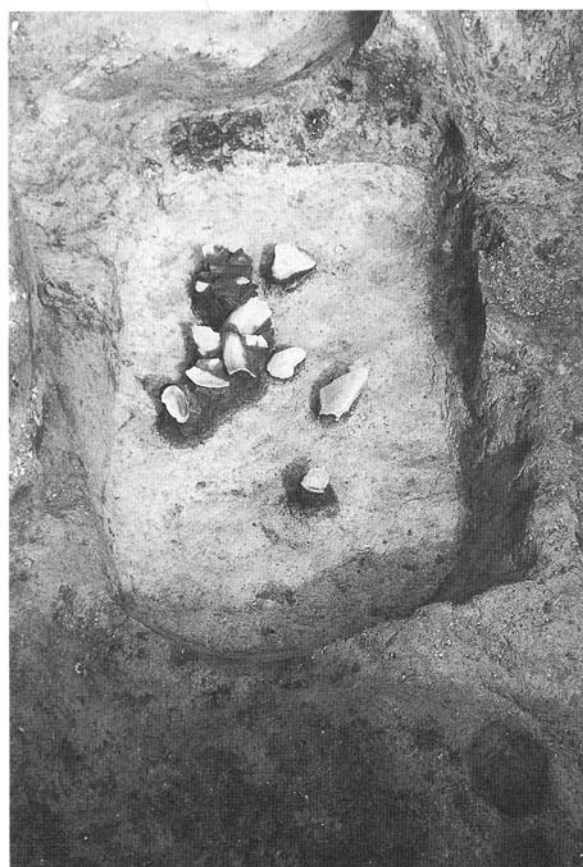
S X 94 (南から)



S X 96付近 (北から)



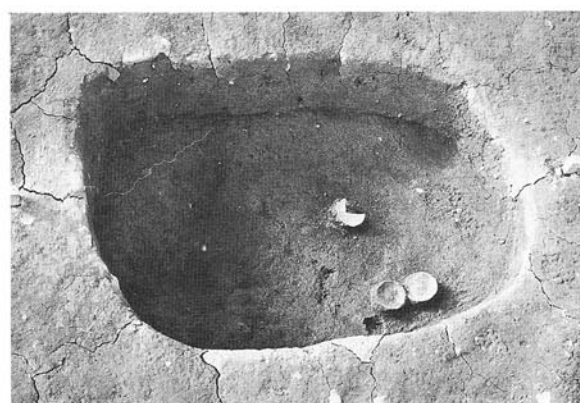
S X 152 (南から)



S X 140 (西から)



S X 167 (北から)



S X 189 (東から)

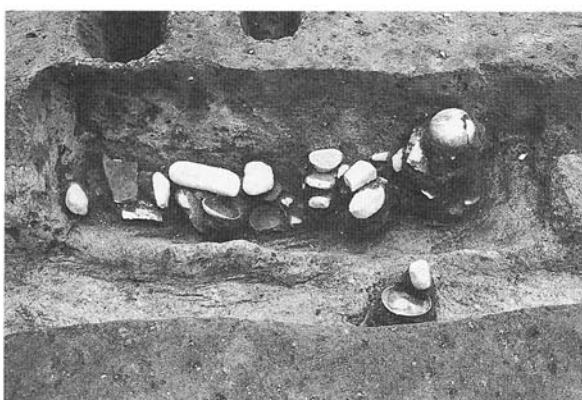
図版16



S X 223 (南東から)



S X 88・224 (南西から)



S X 225 (東から)



S K 26 (西から)



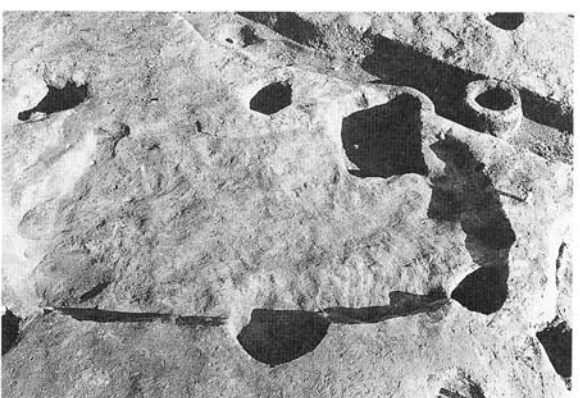
S K 81 (南東から)



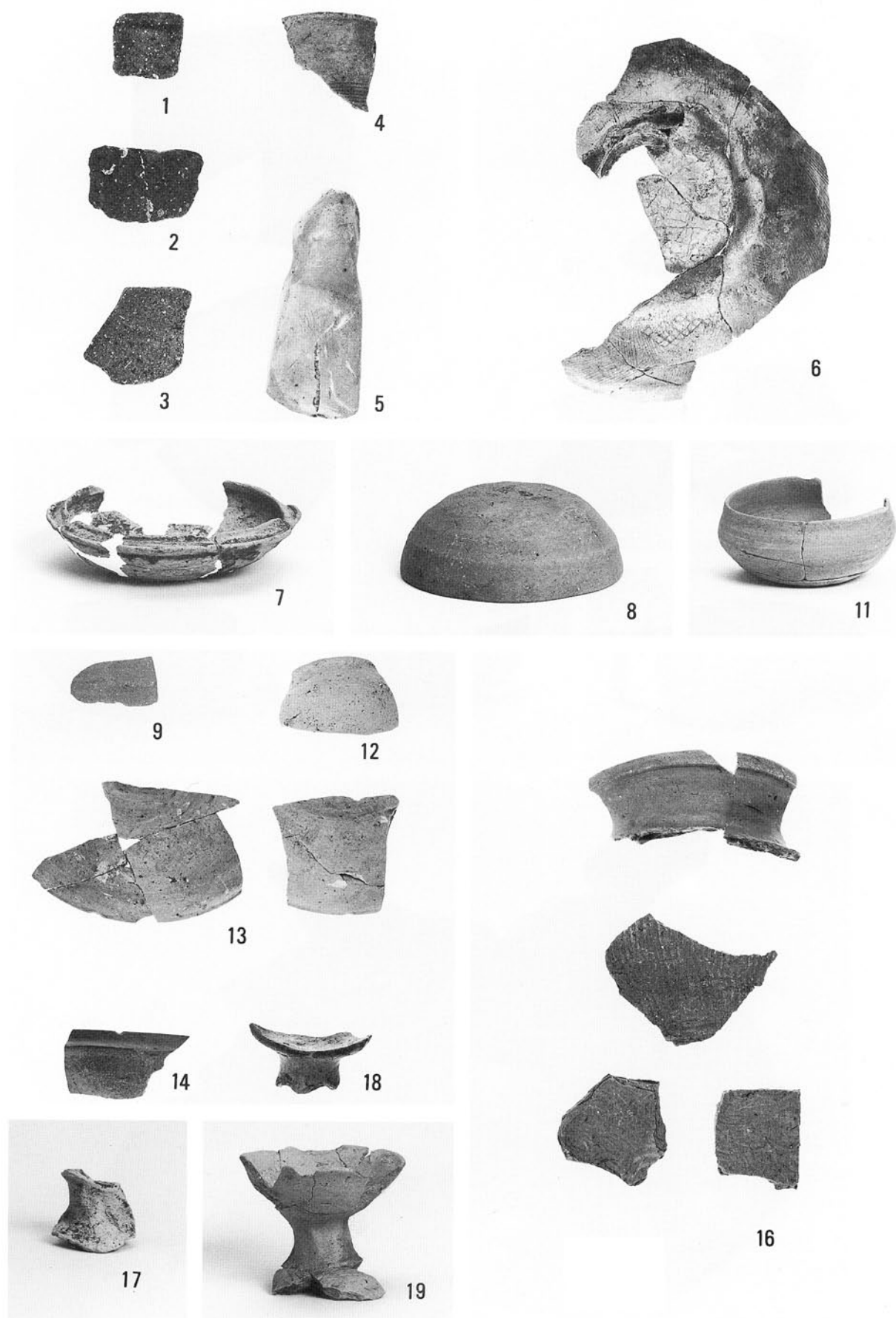
S K 89 (南東から)



S K 129 (南東から)



S K 129 (北西から)



弥生時代以前・古墳時代の遺物





10



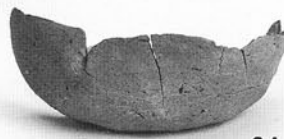
15



22



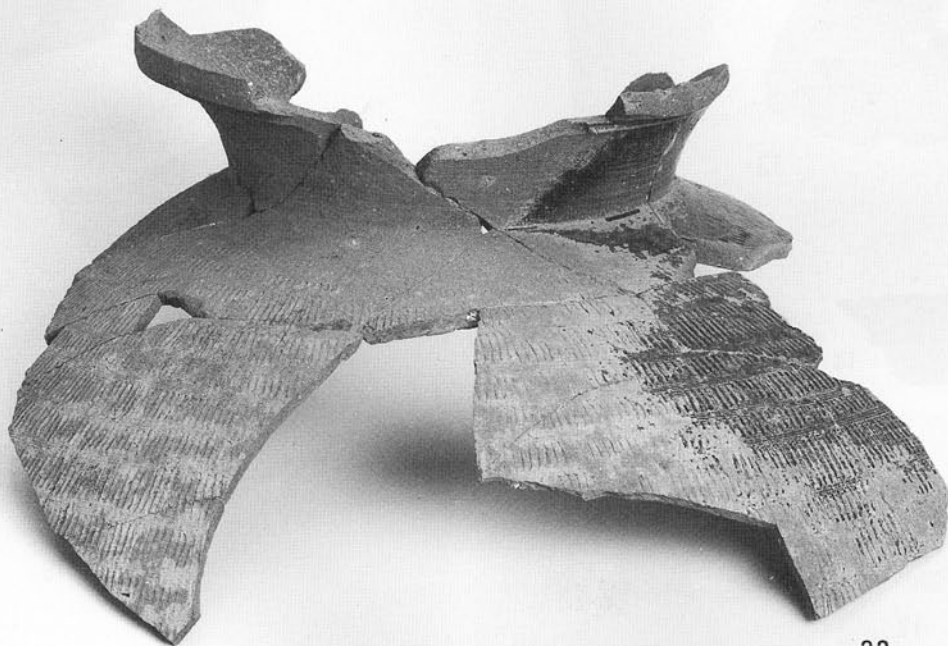
21



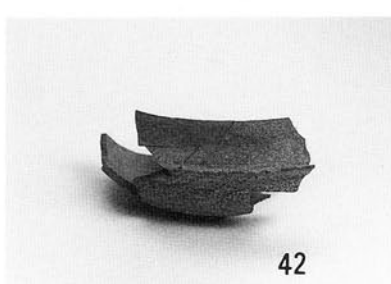
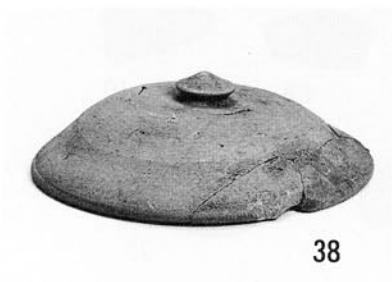
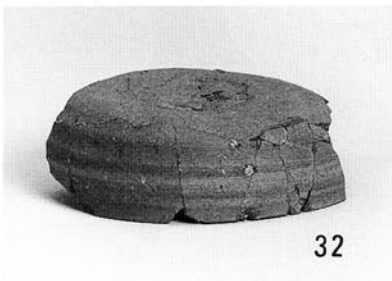
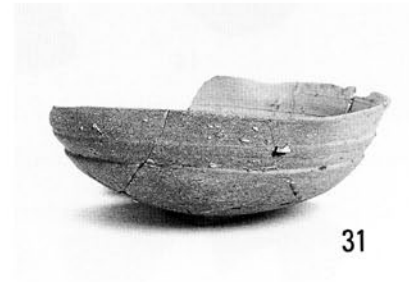
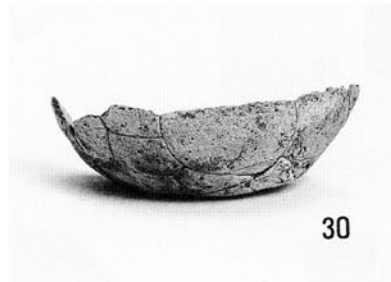
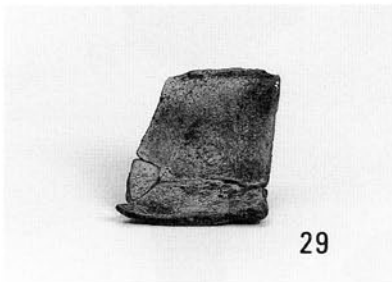
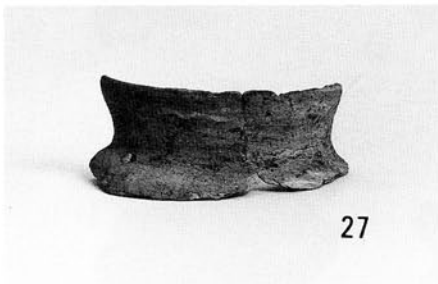
24

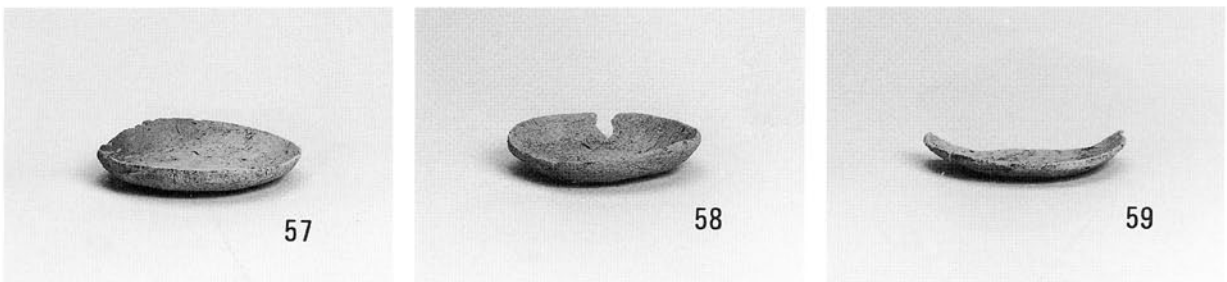
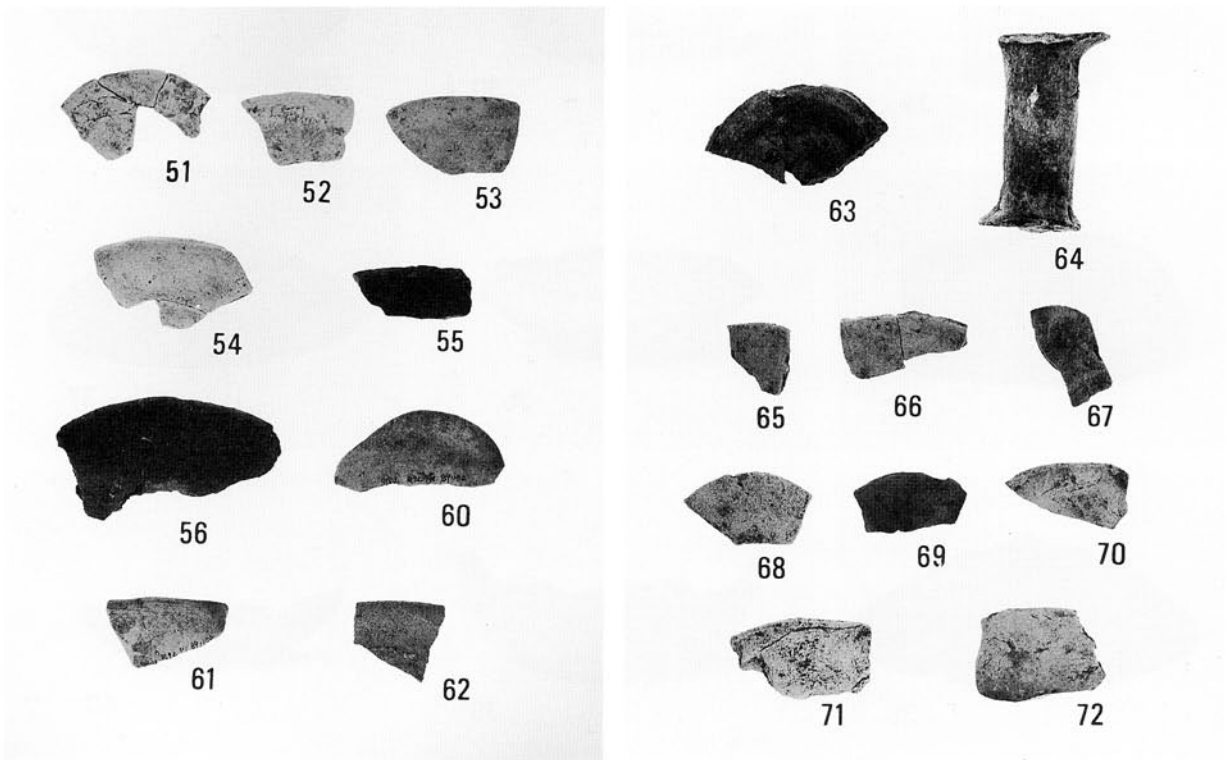
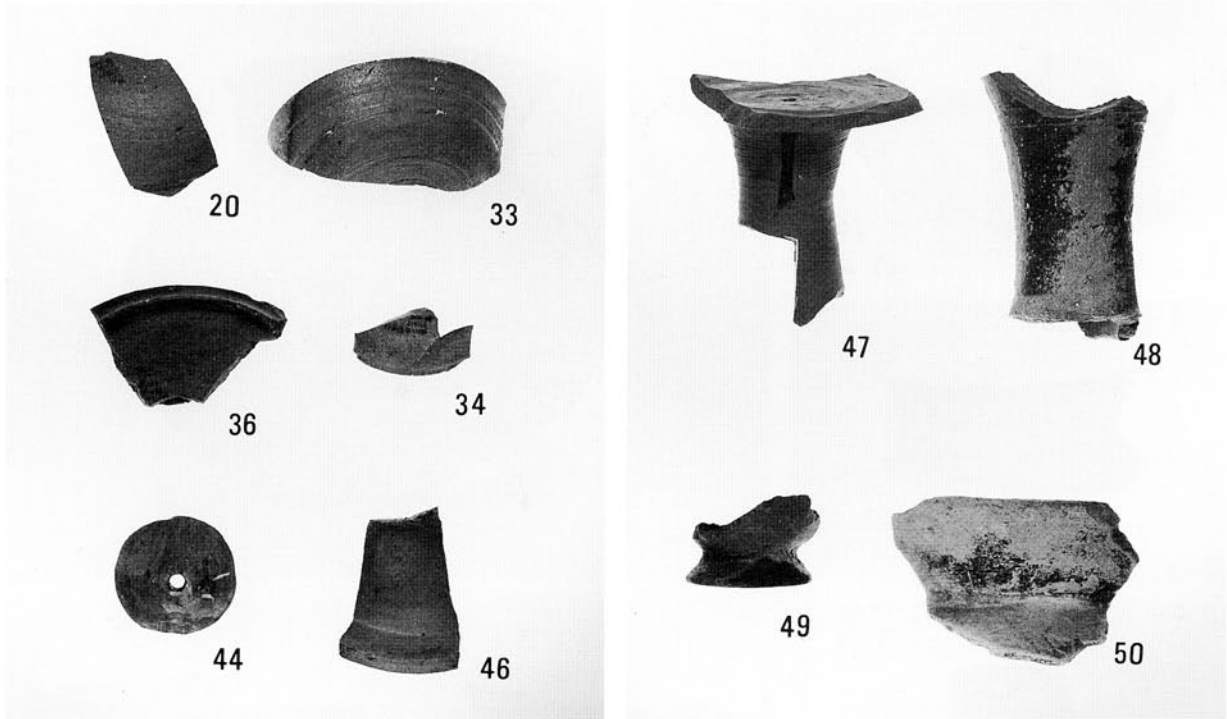


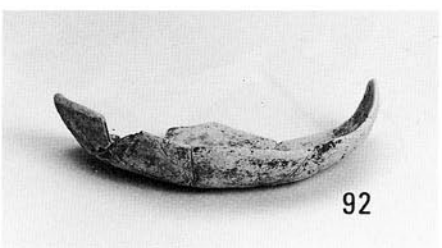
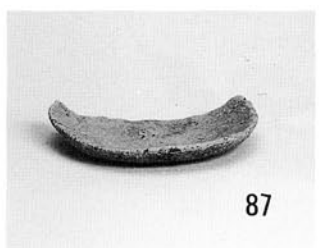
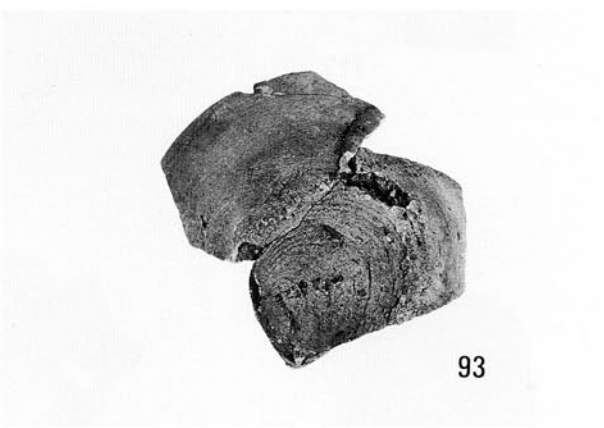
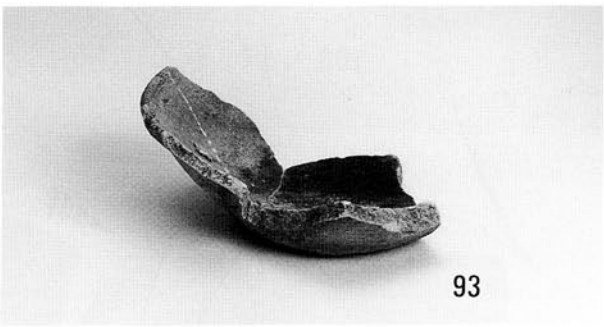
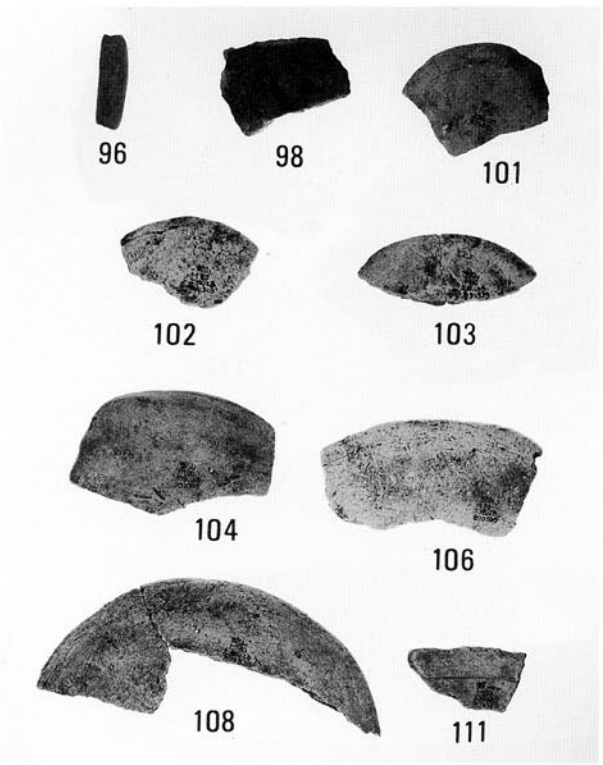
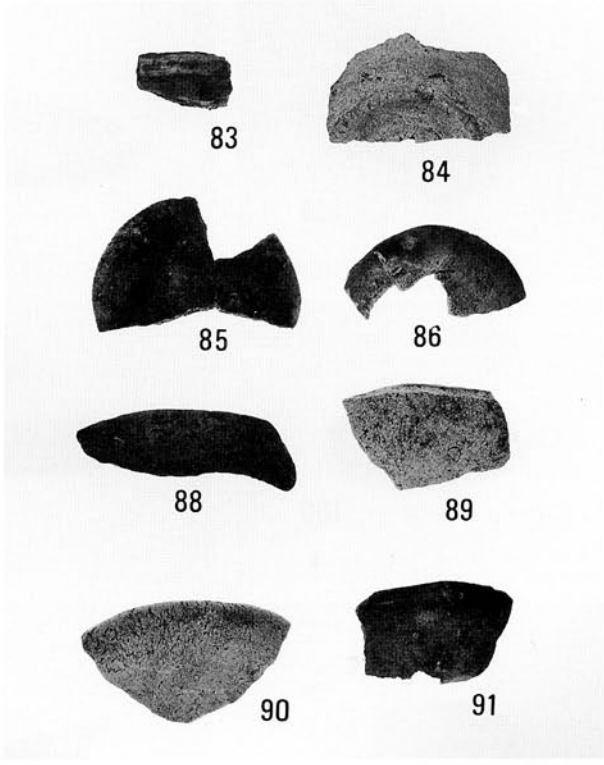
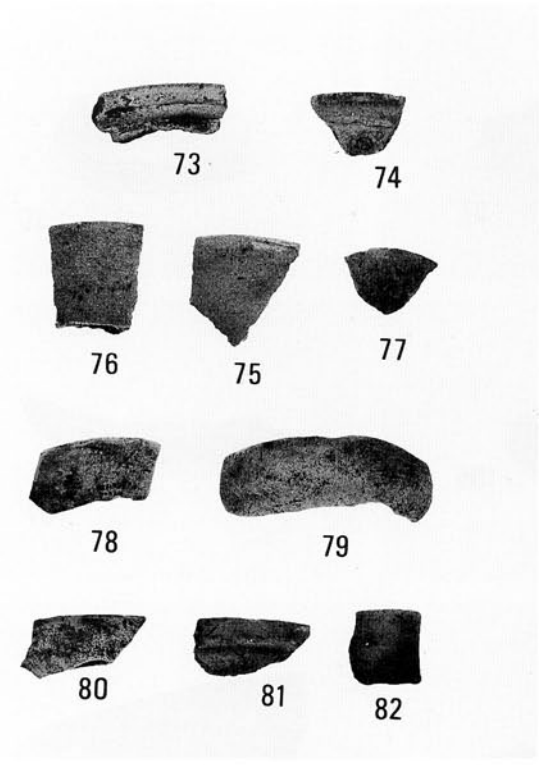
25



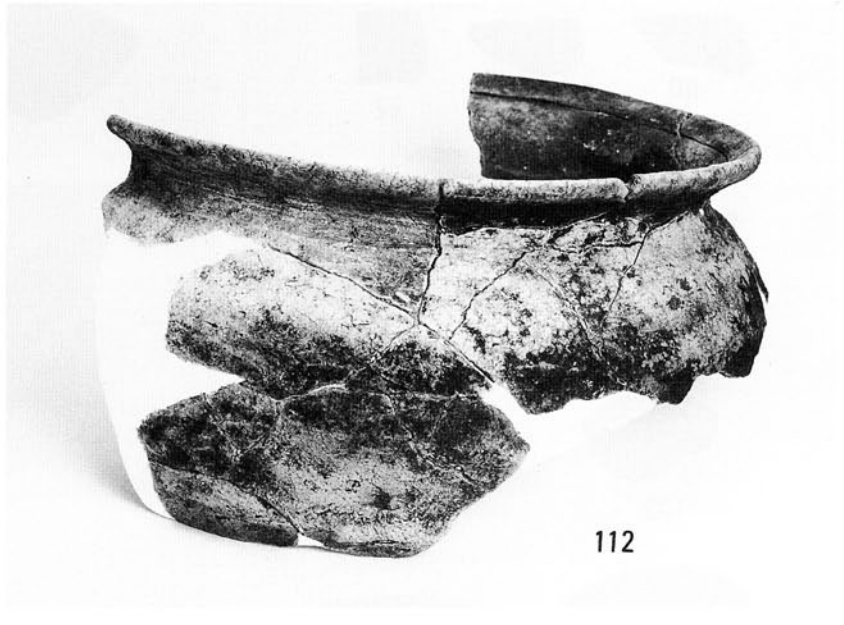
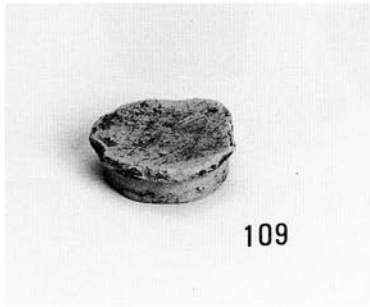
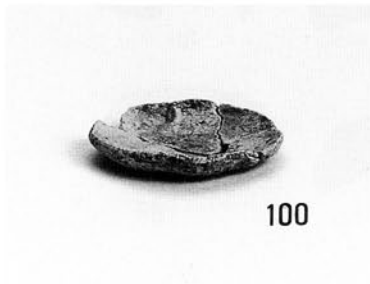
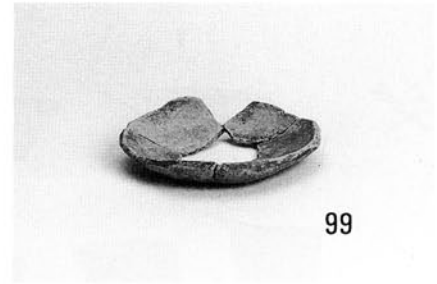
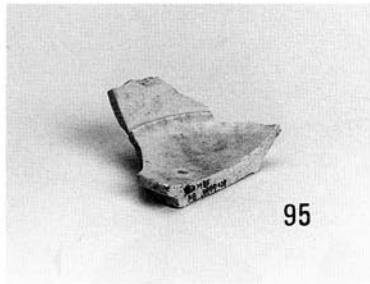
23



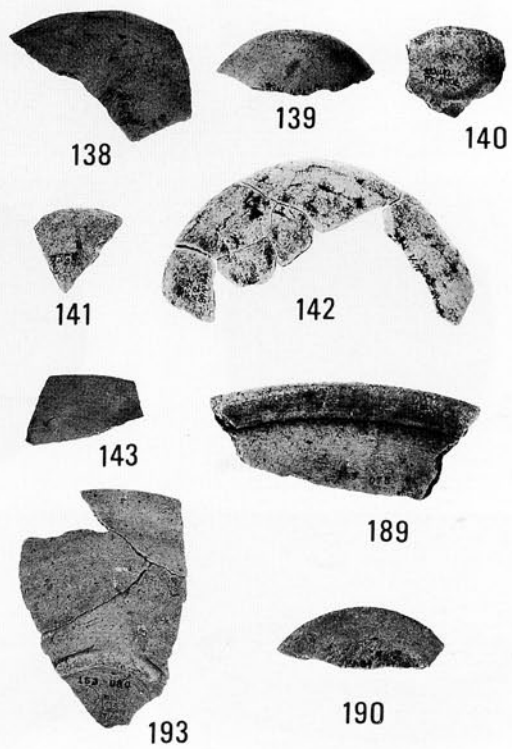
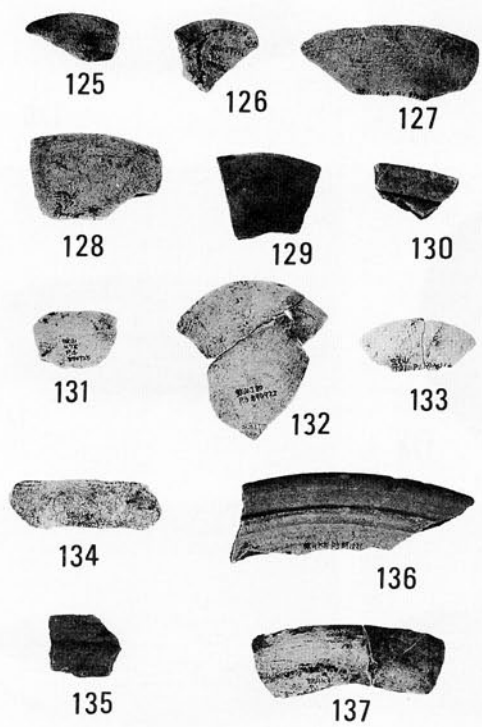
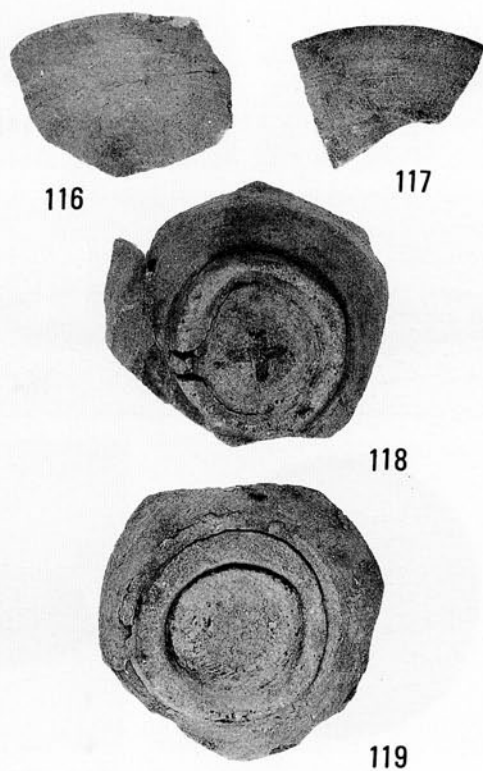
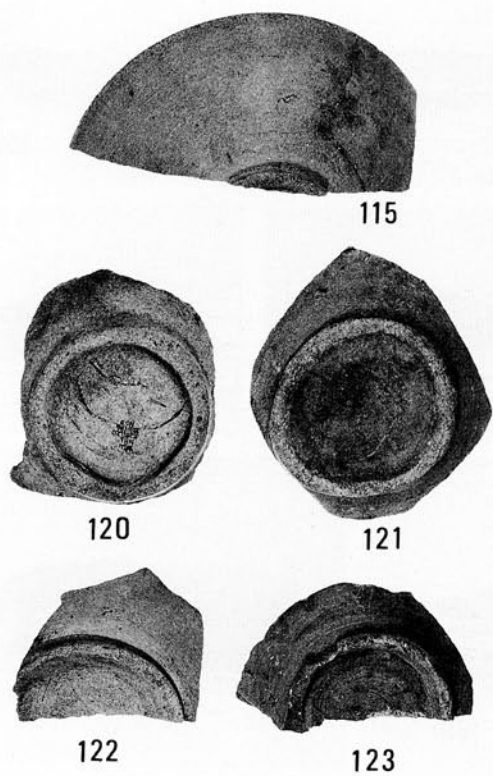




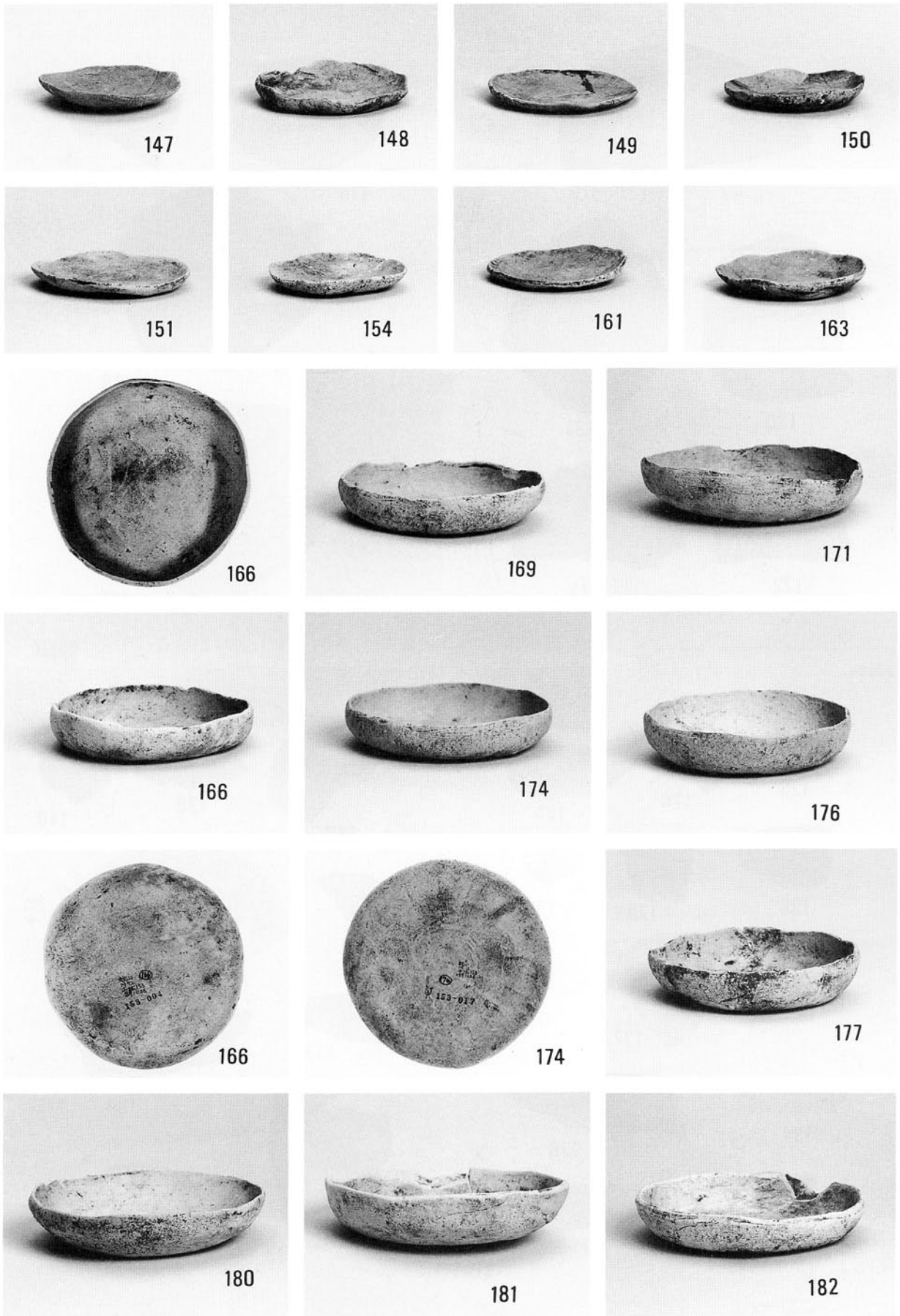
掘立柱建物出土遺物



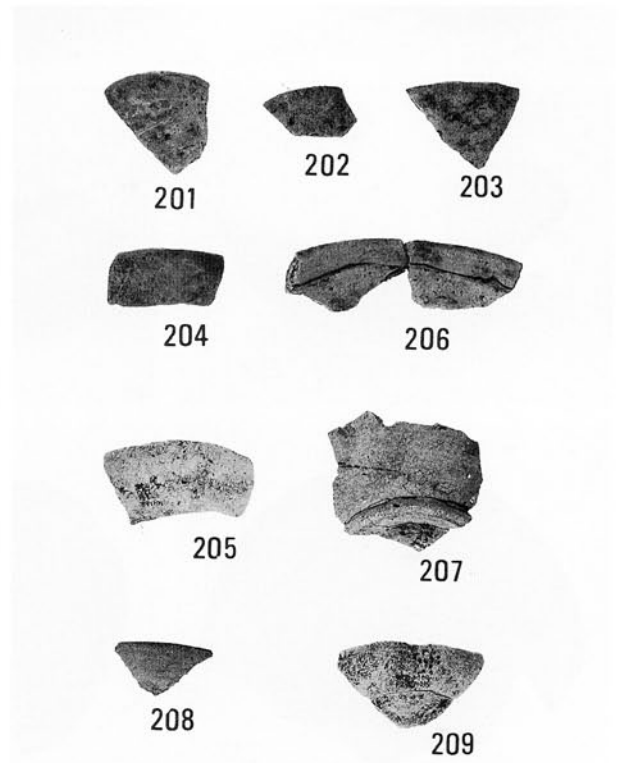
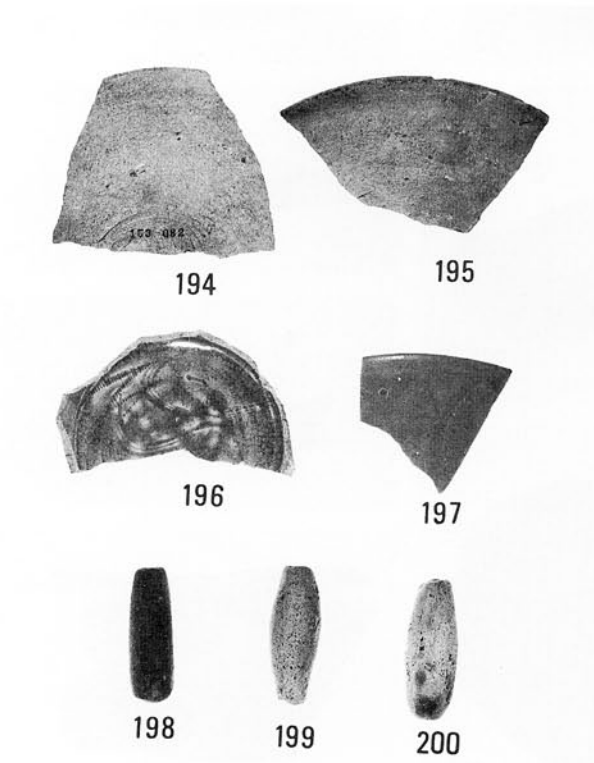
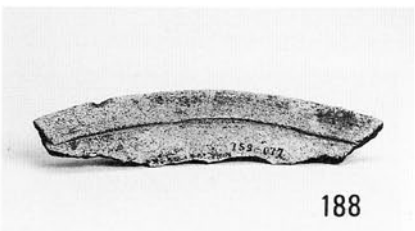
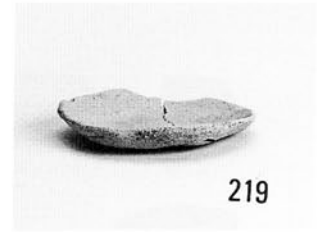
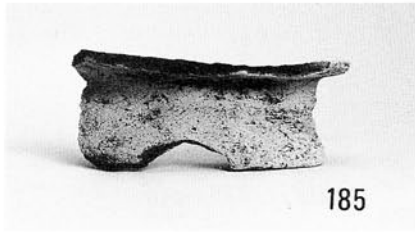




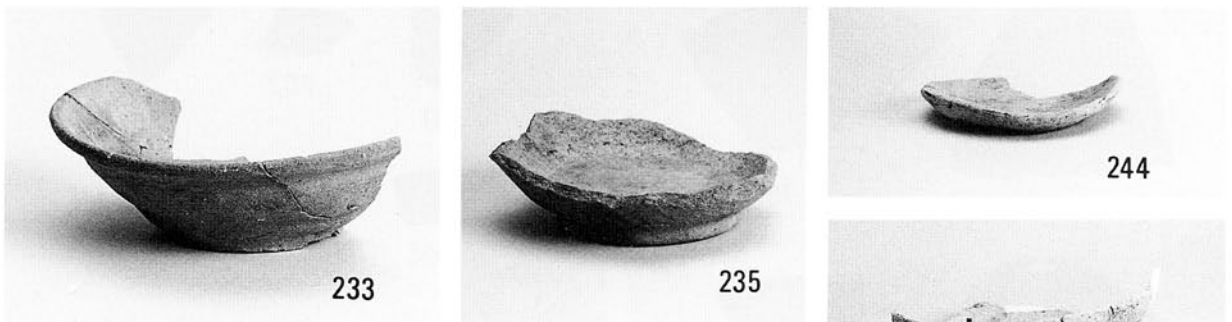
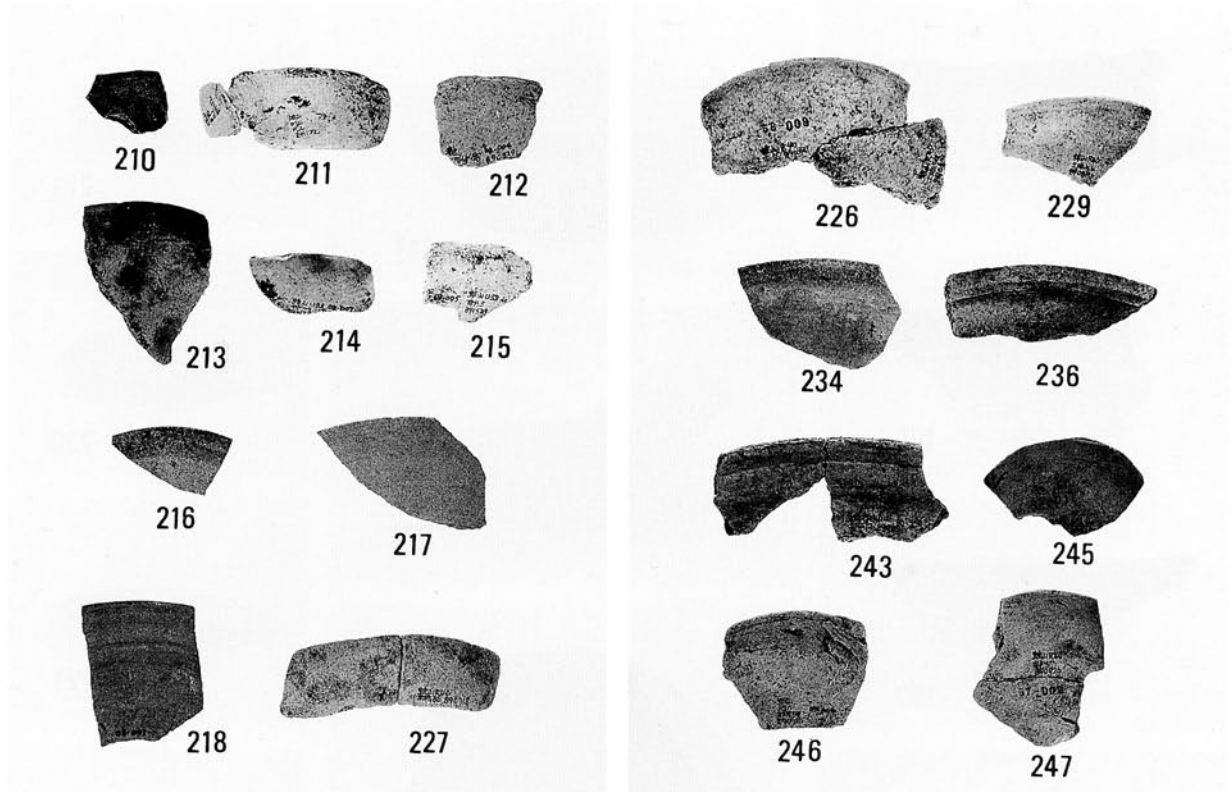
图版24



掘立柱建物出土遺物









238



239



240



260



261



262



263



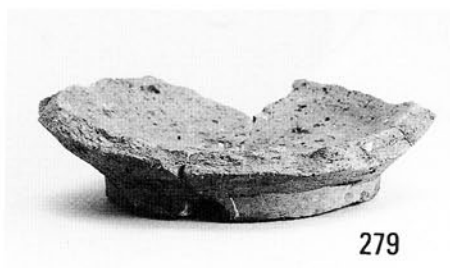
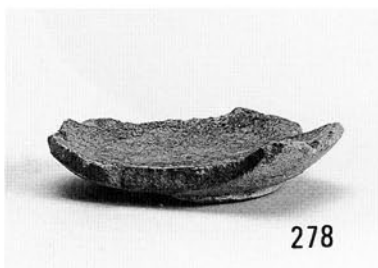
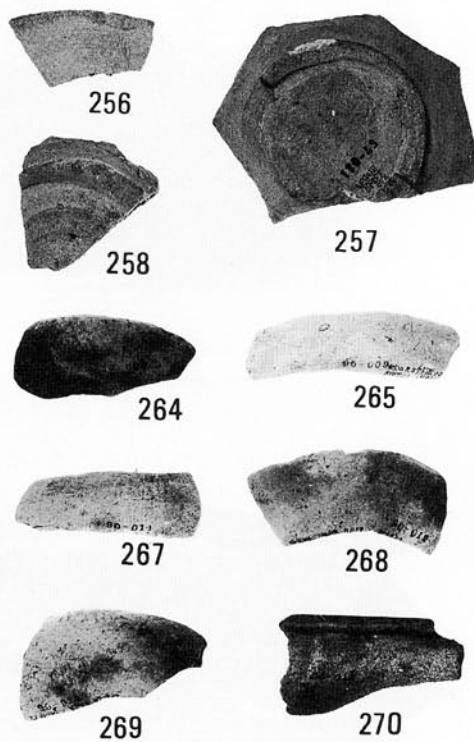
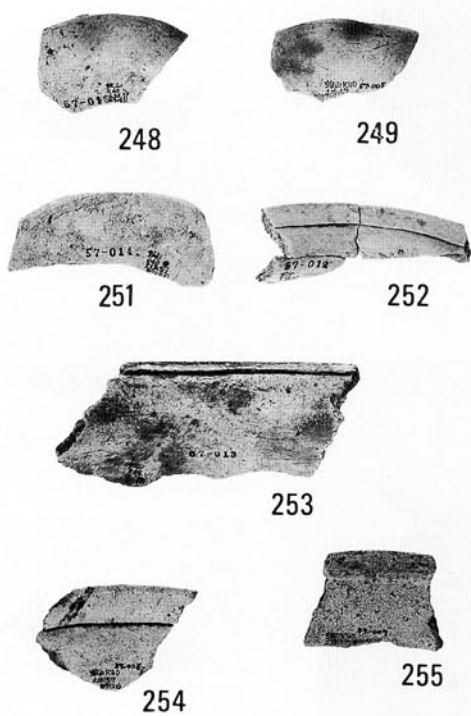
266



241



242





271



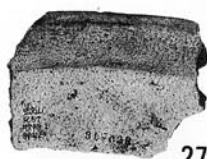
272



273



274



275



276



285



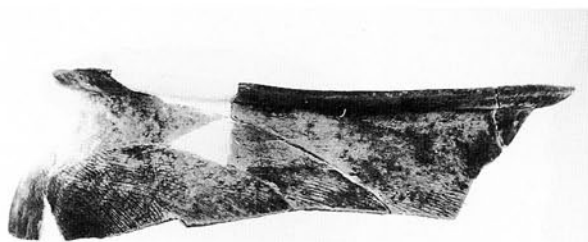
286



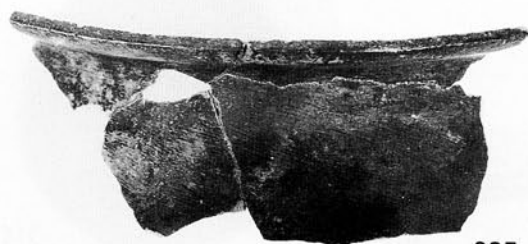
288



290



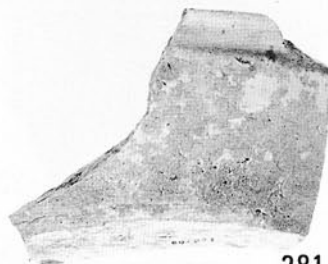
295



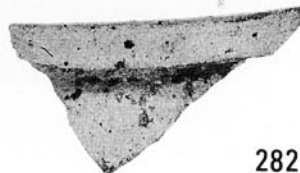
297



280



281



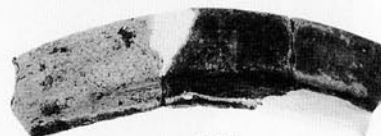
282



283



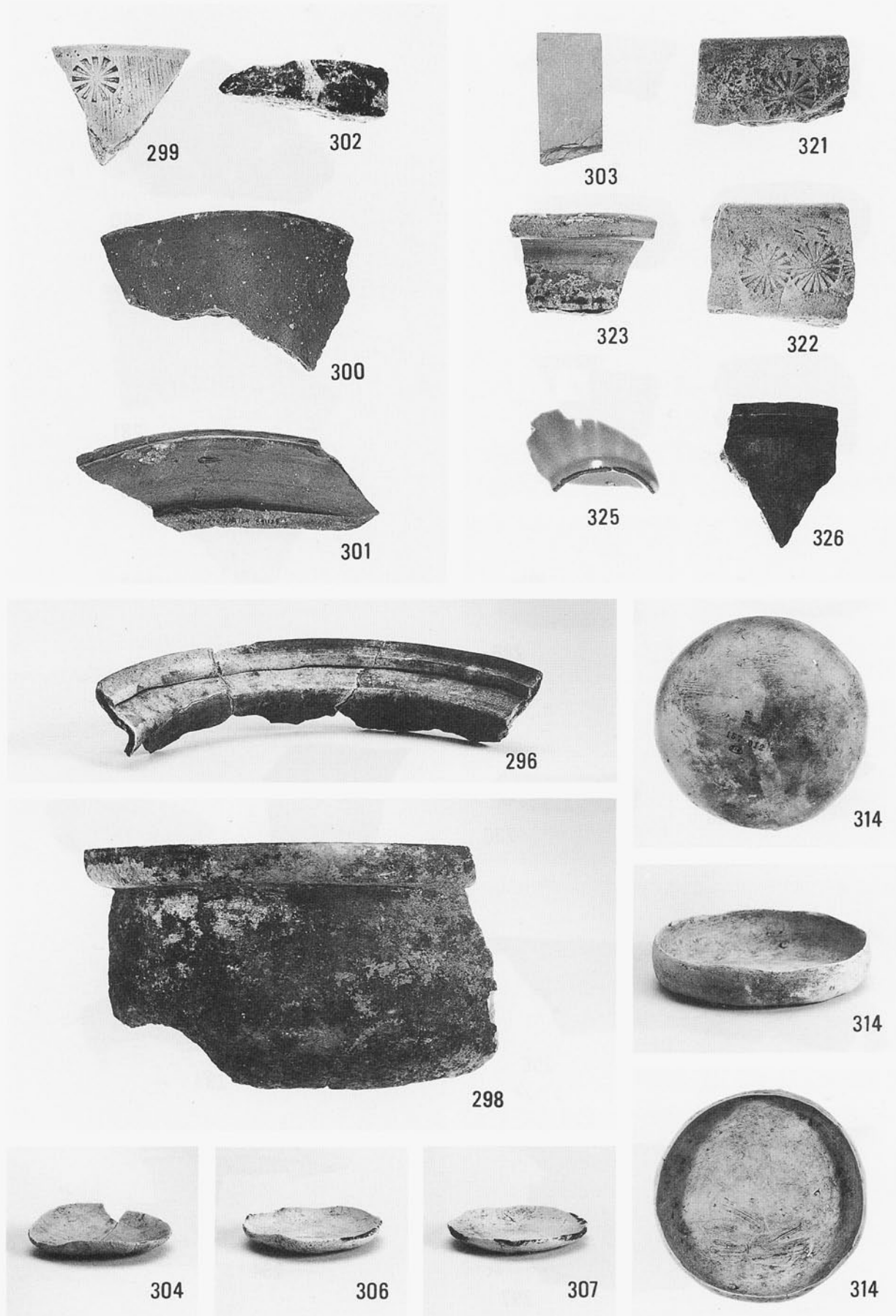
292



293



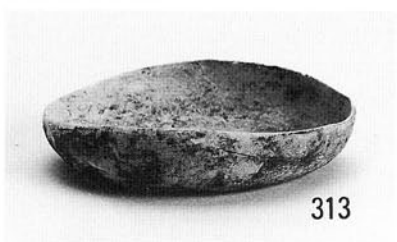
294







311



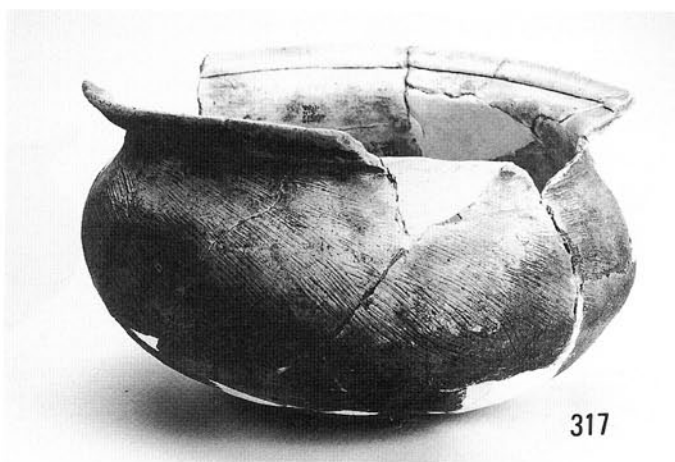
313



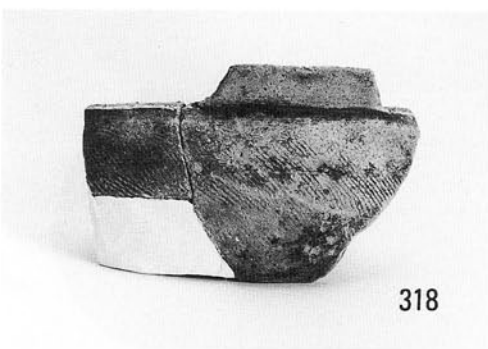
315



316



317



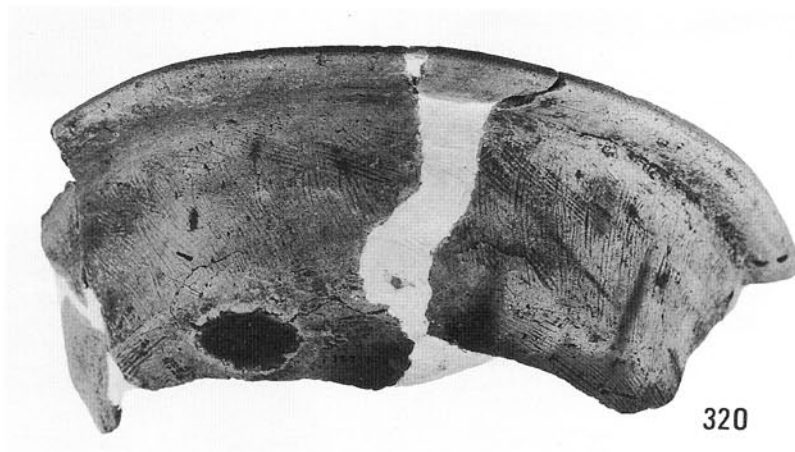
318



319



324



320



328



330



332



333

図版32



344



345



346



348



357



350



361



351



353



363



355



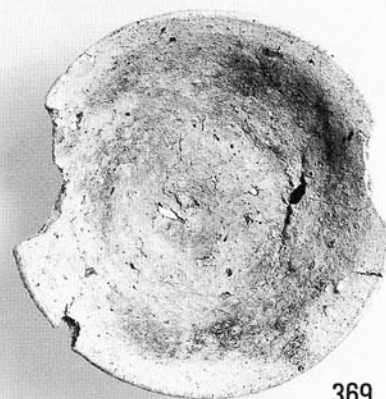
365



367



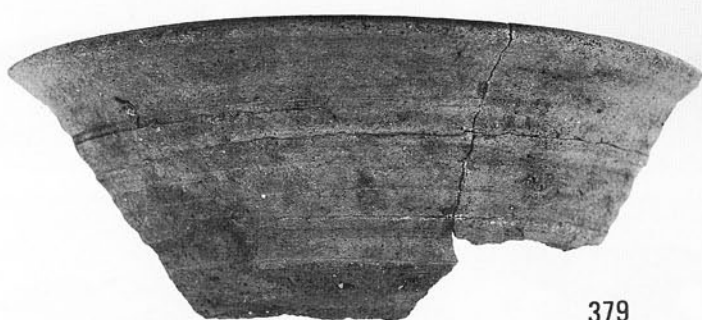
366



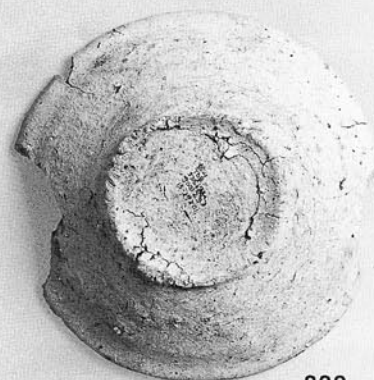
369



369



379



369



372

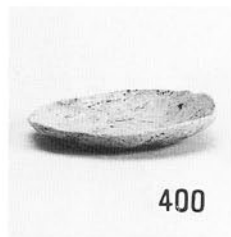
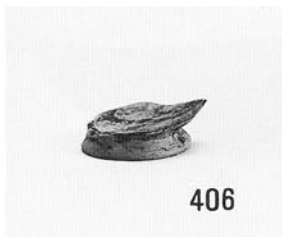
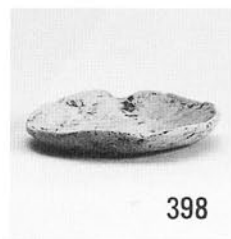
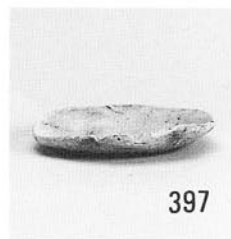
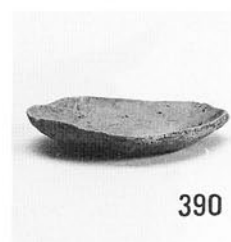
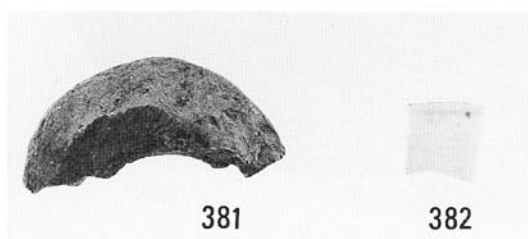
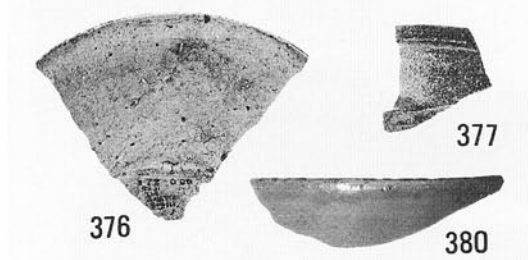
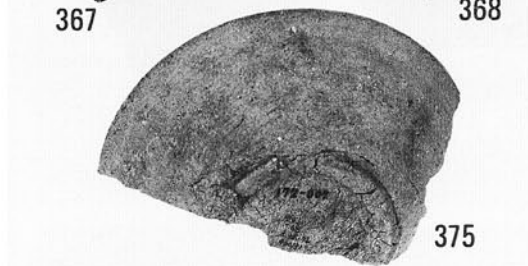
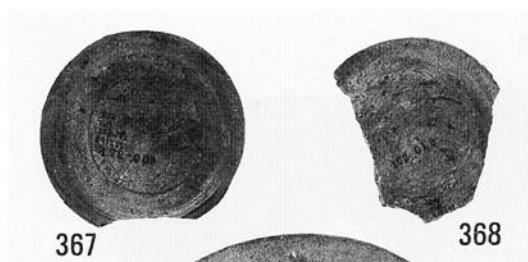
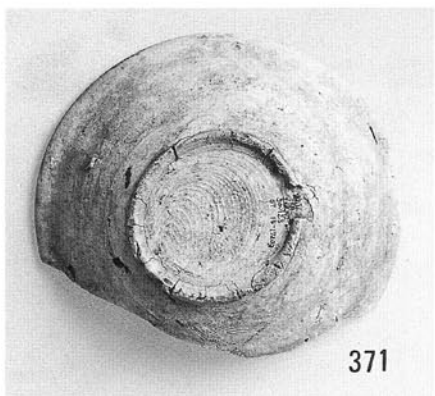
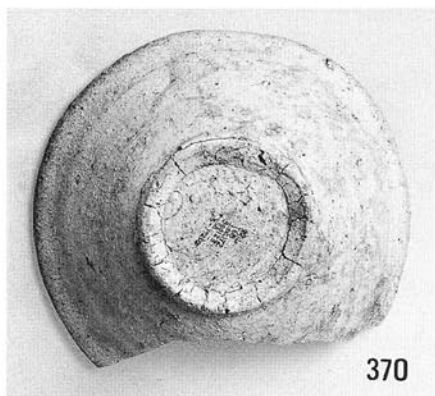
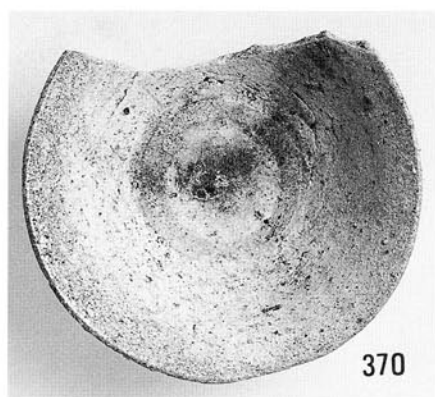


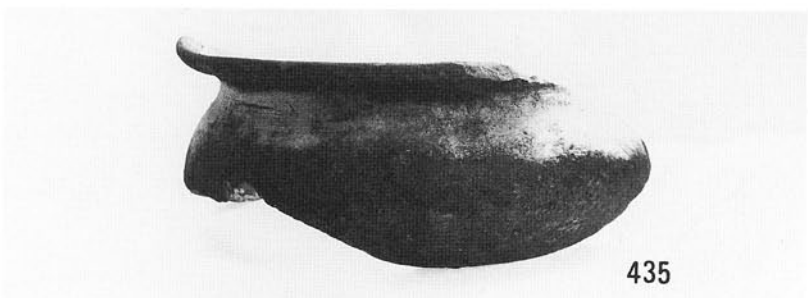
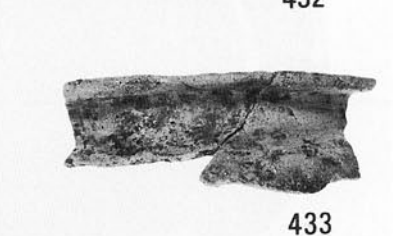
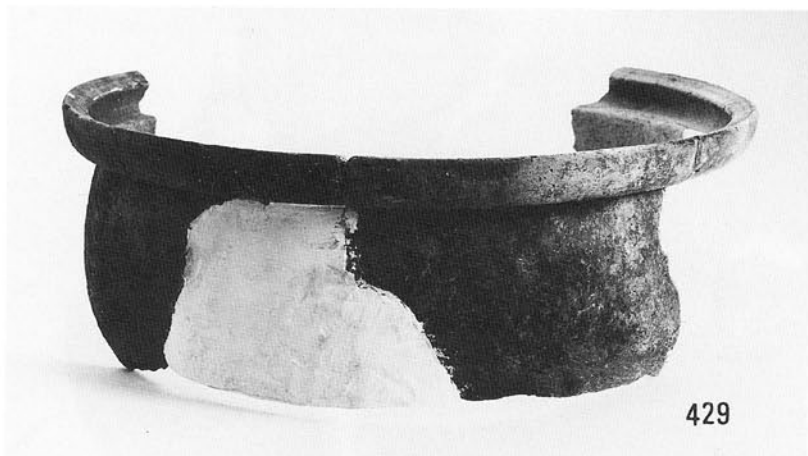
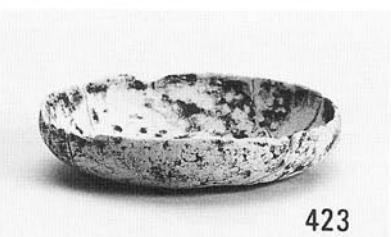
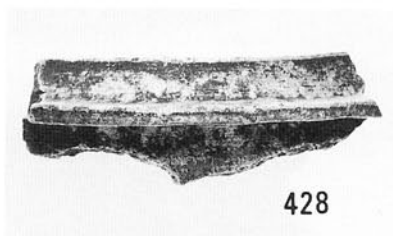
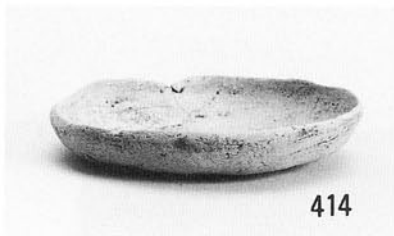
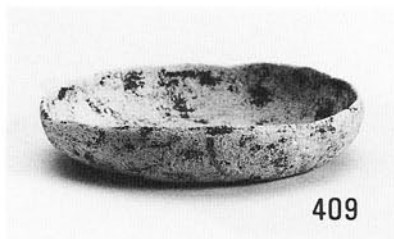
373

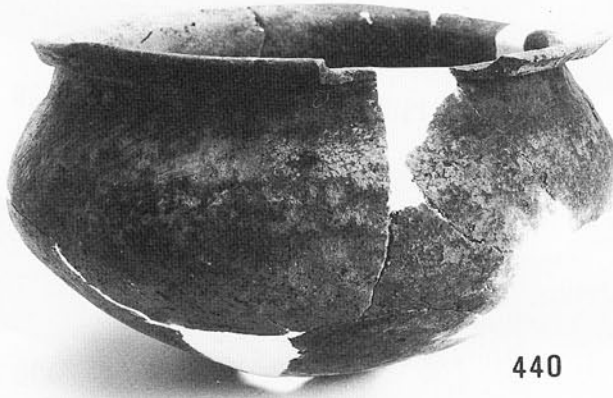
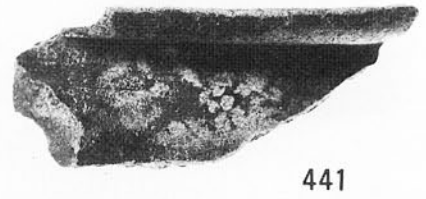
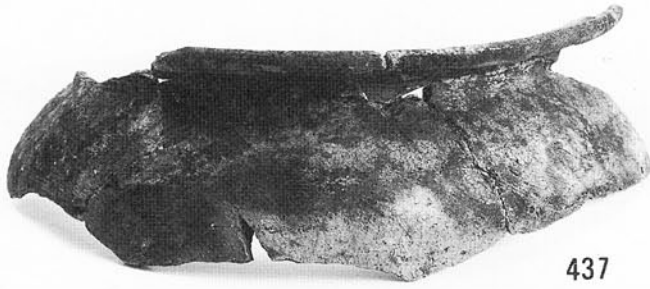


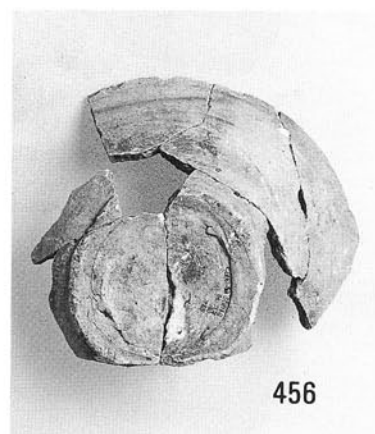
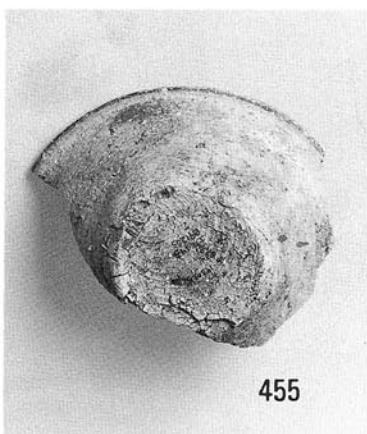
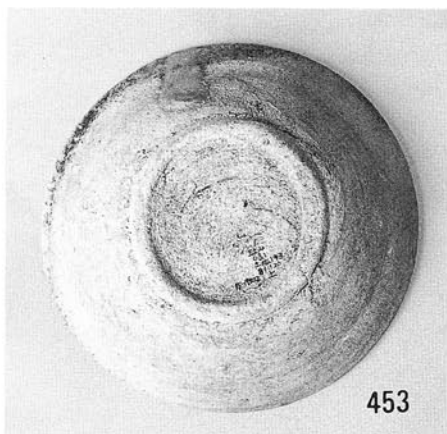
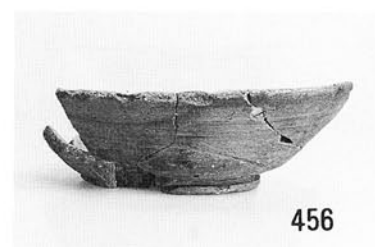
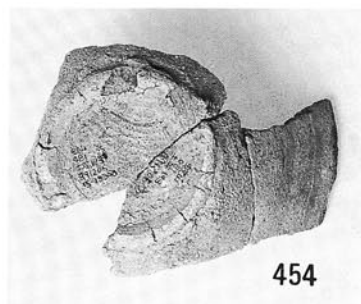
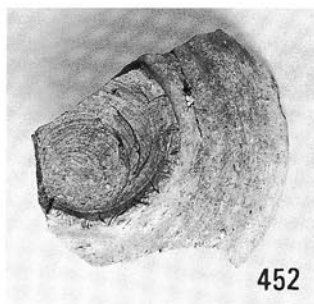
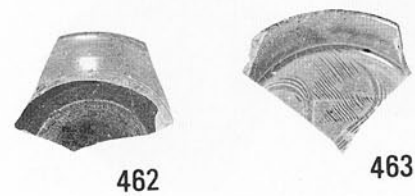
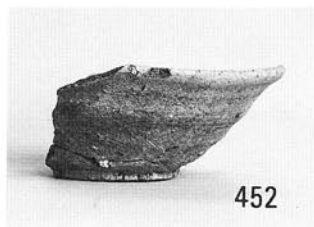
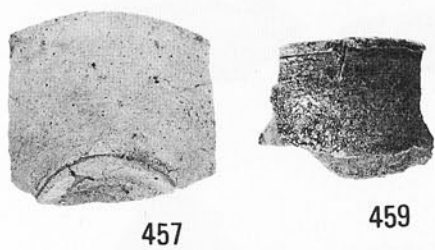
378



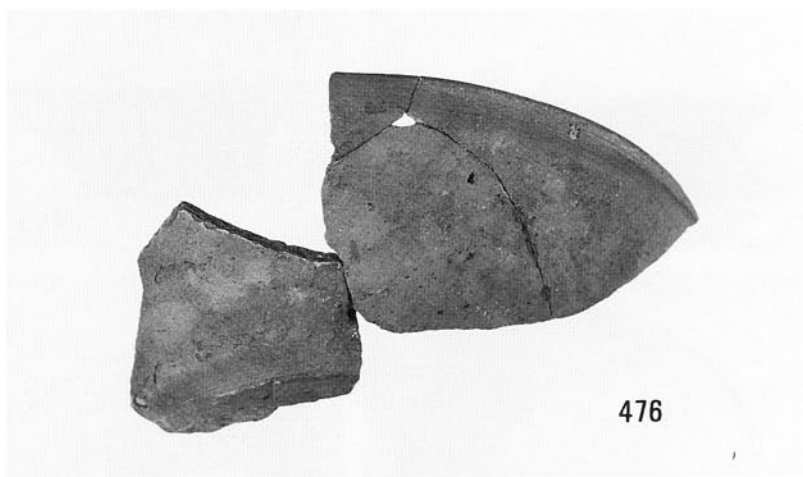
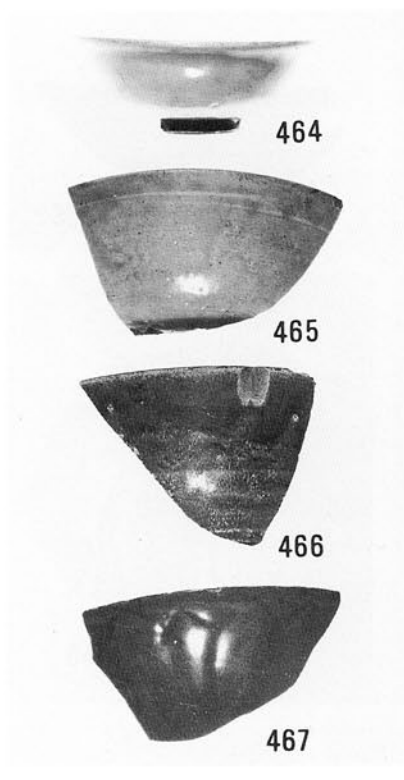
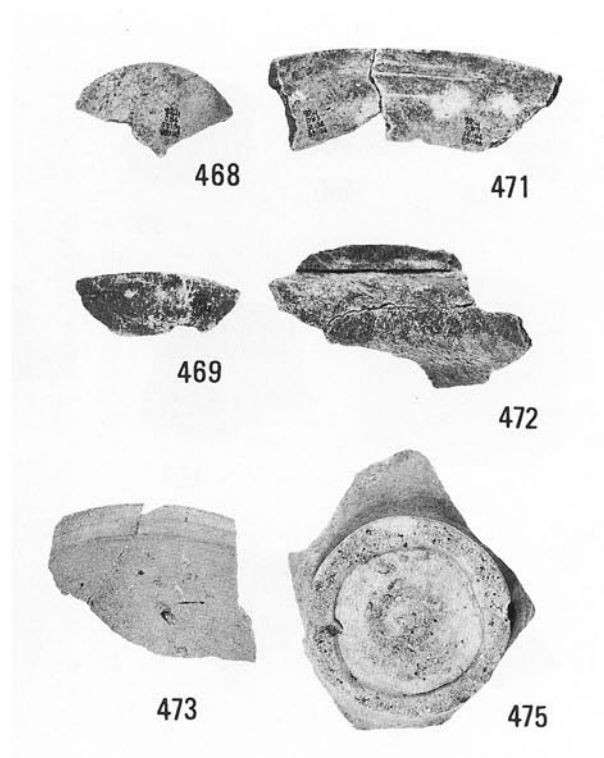


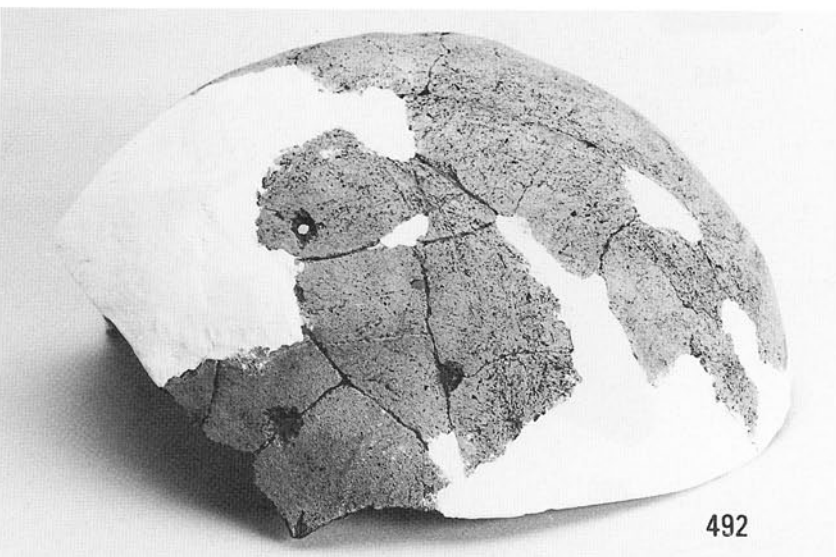
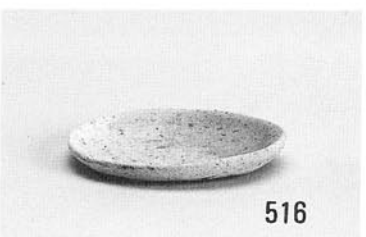
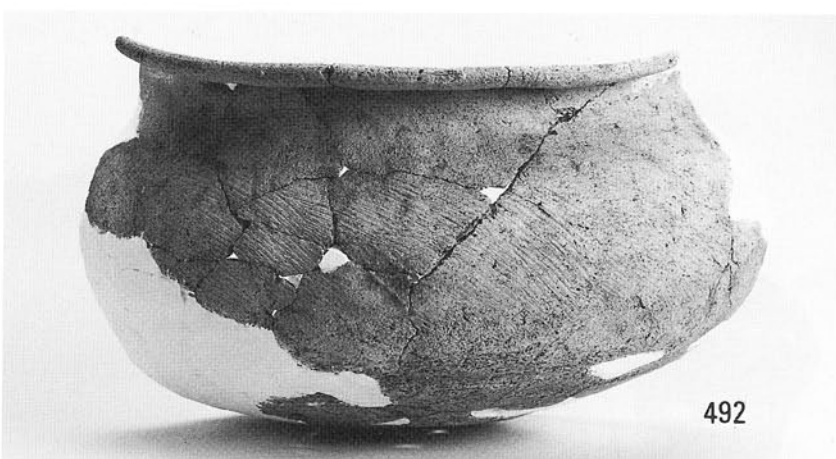
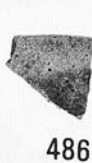
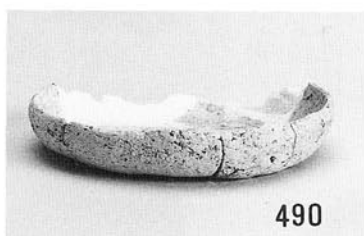
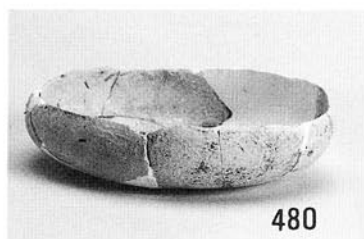






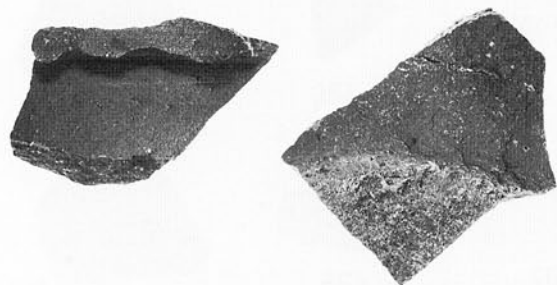








494



499

500

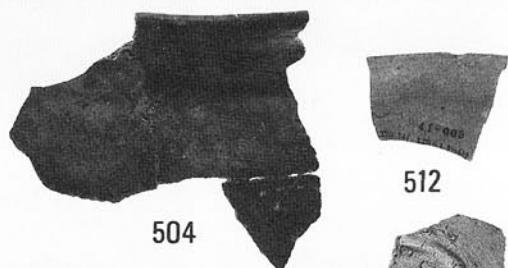
501



502

503

505



504

512



513

515

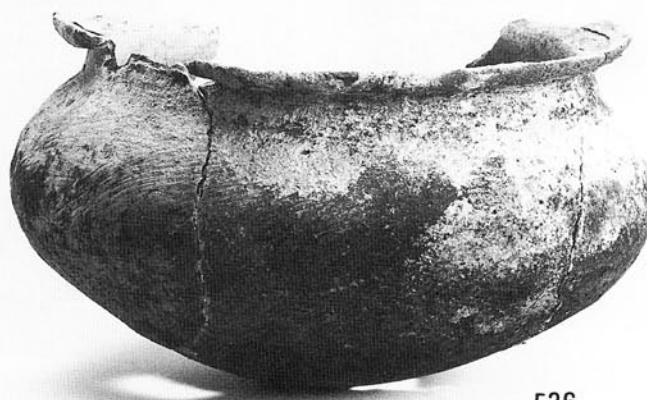


495

497



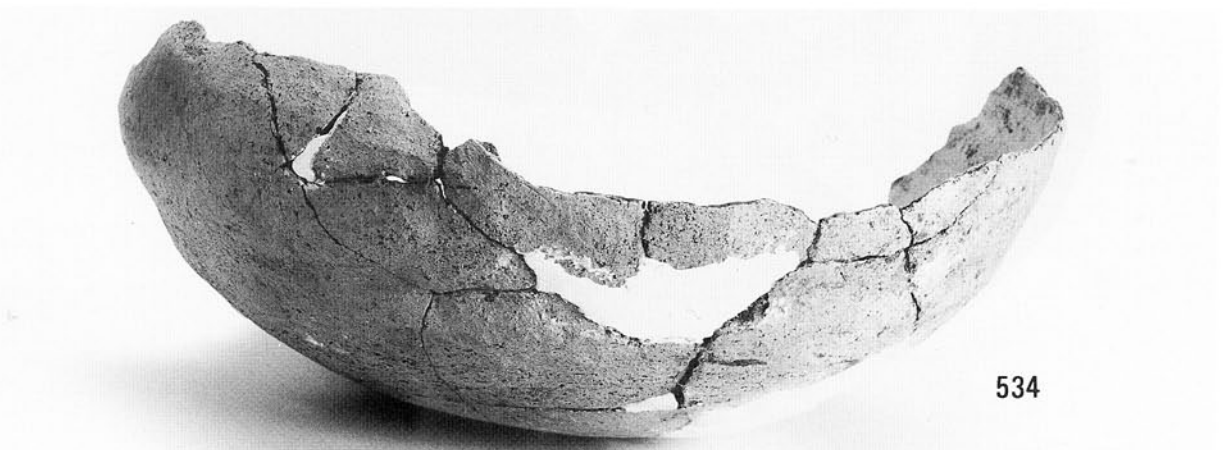
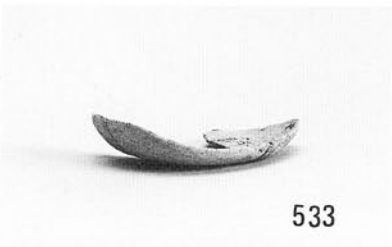
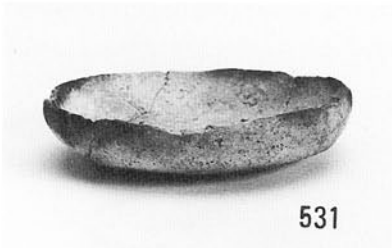
496



526

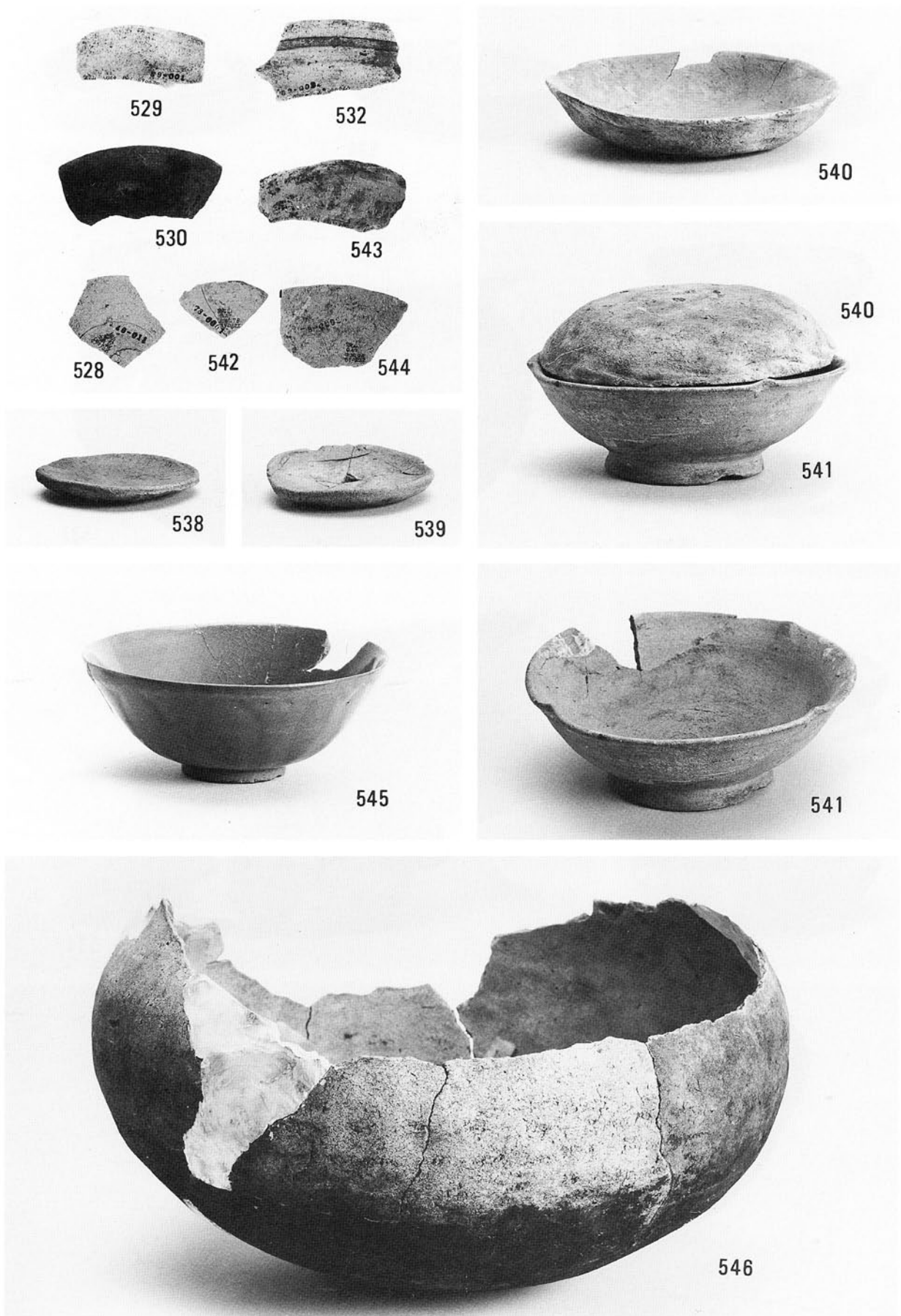


527





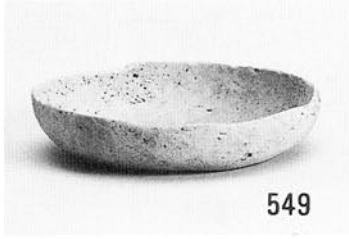
図版42



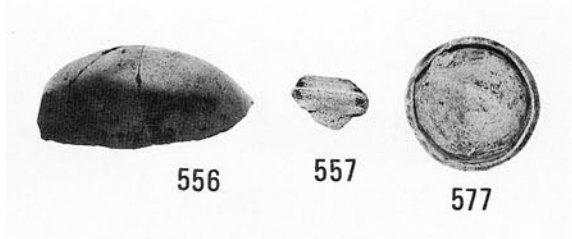
中世墓出土遺物



548



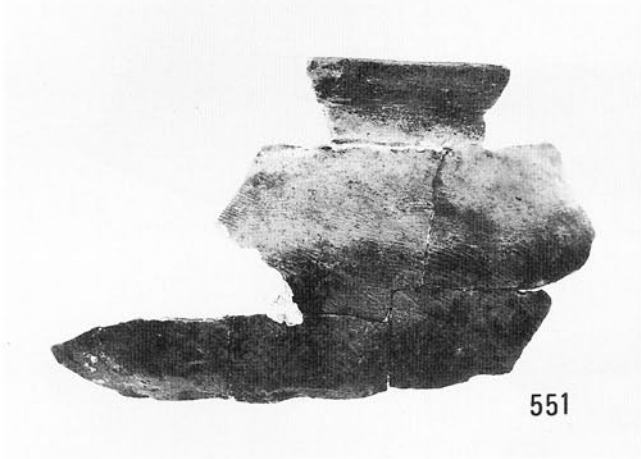
549



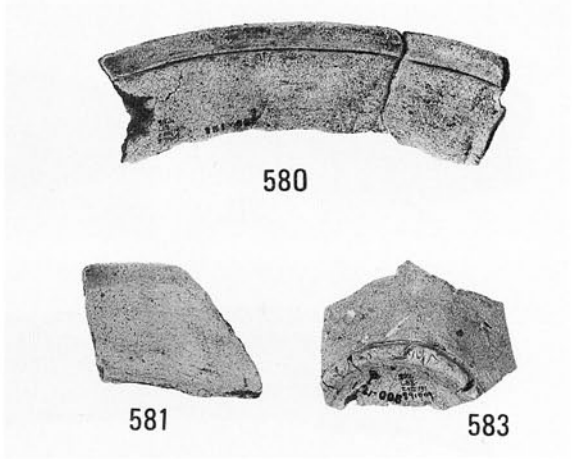
556

557

577



551



580

581

583



552



553



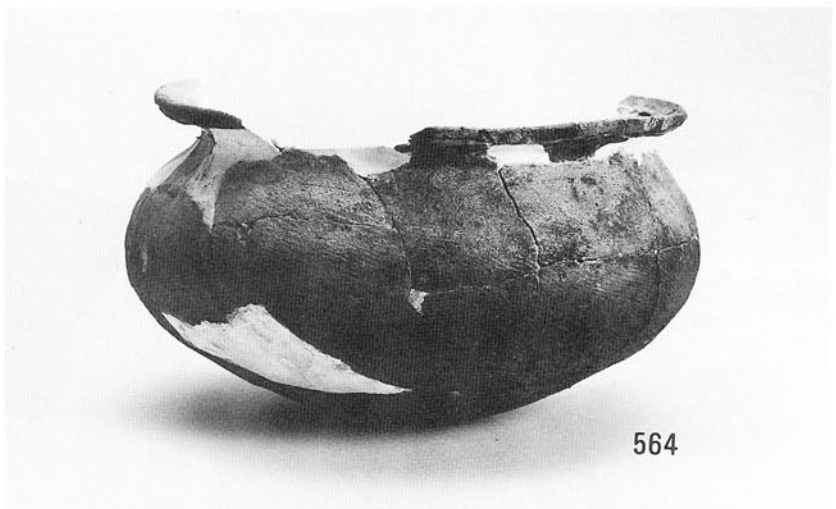
563



555

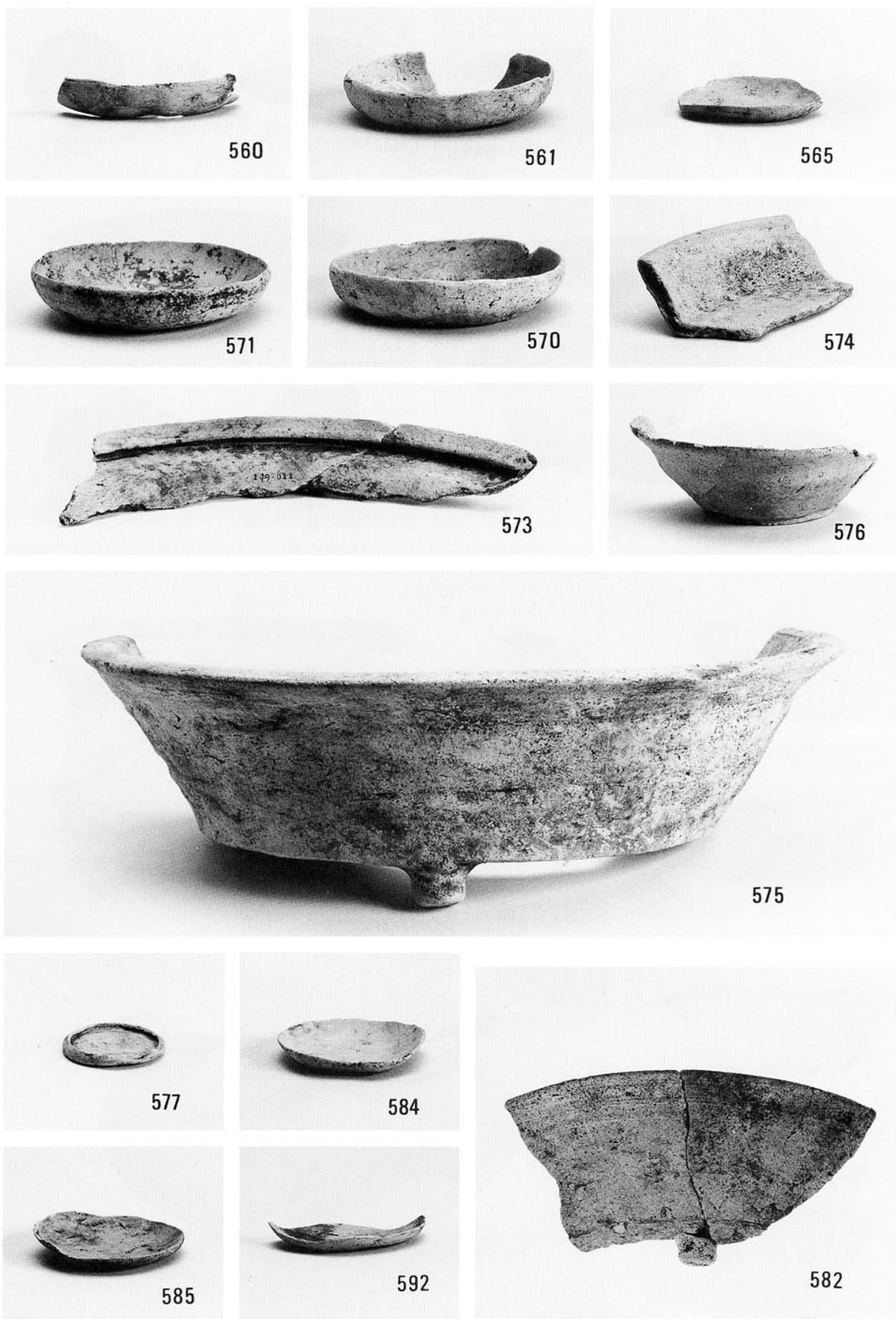


558

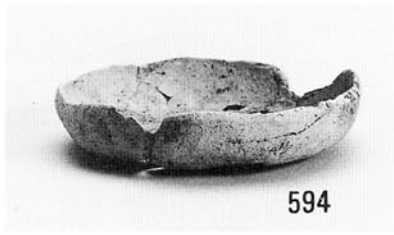


564

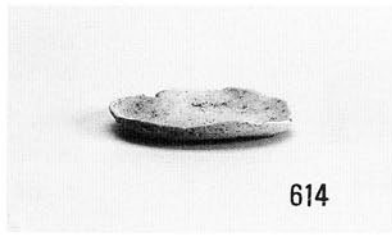
图版44



中世墓出土遺物



594



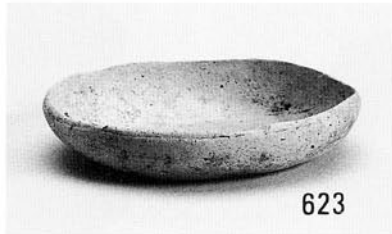
614



615



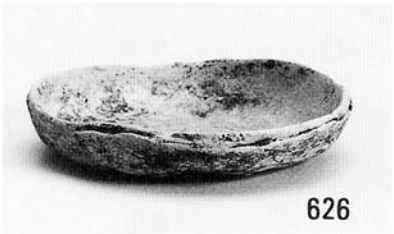
618



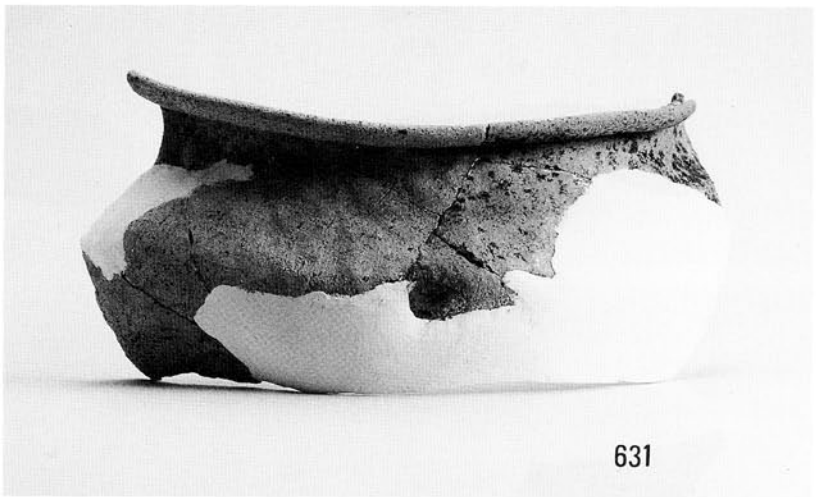
623



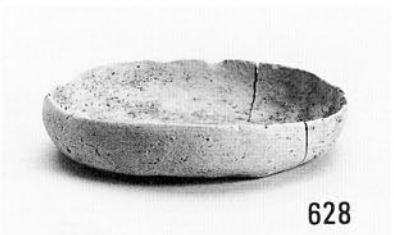
625



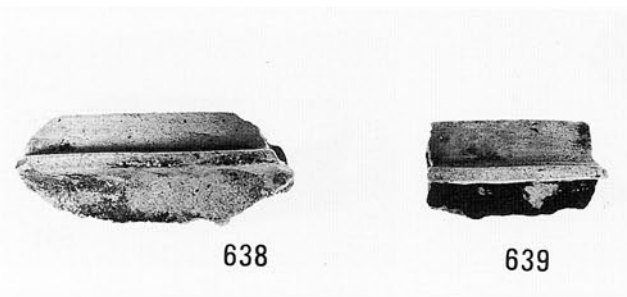
626



631

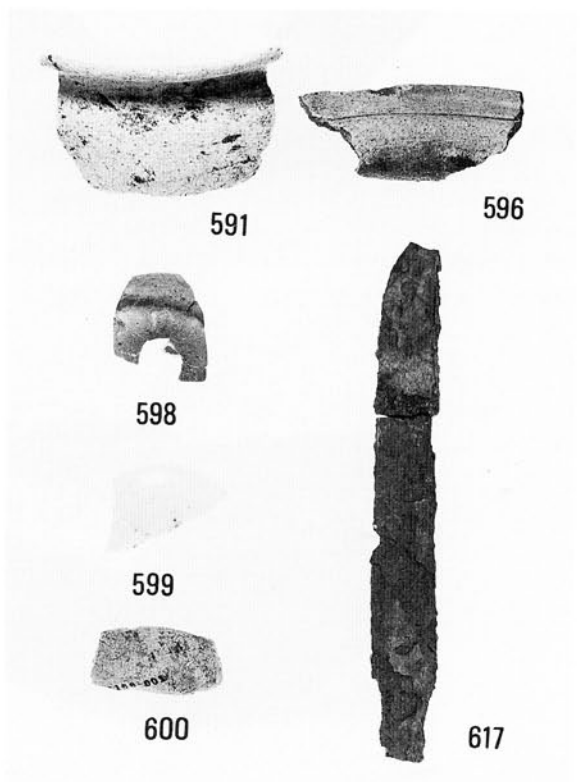


628



638

639



591

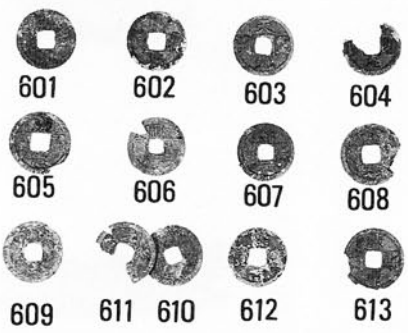
596

598

599

600

617



601

602

603

604

605

606

607

608

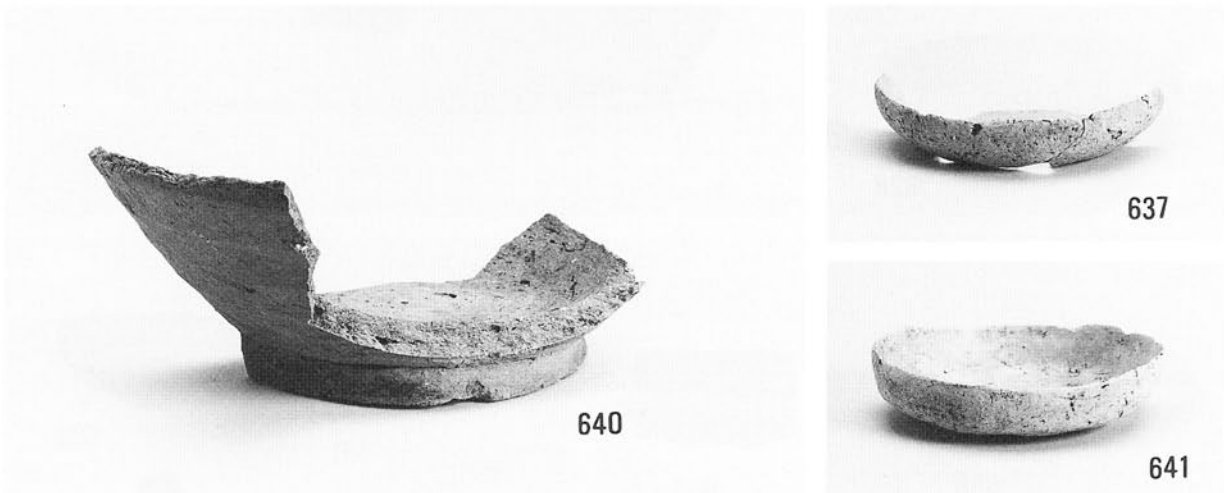
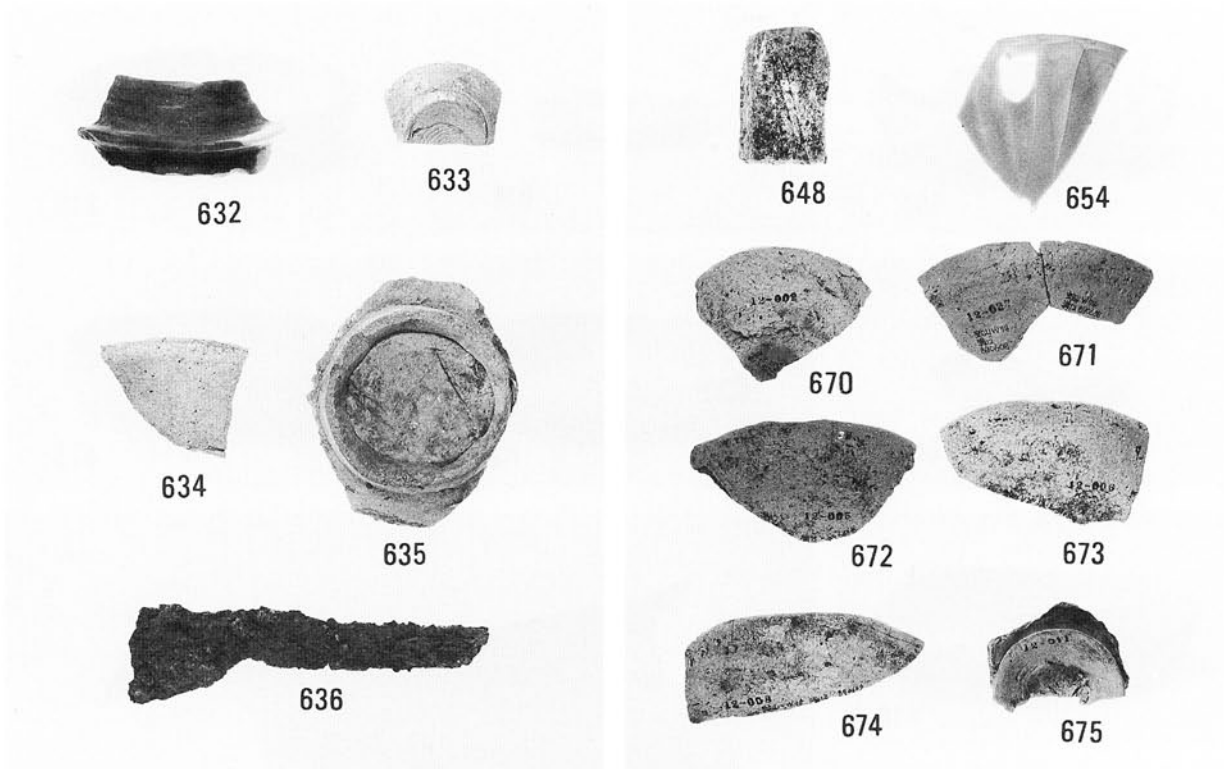
609

611

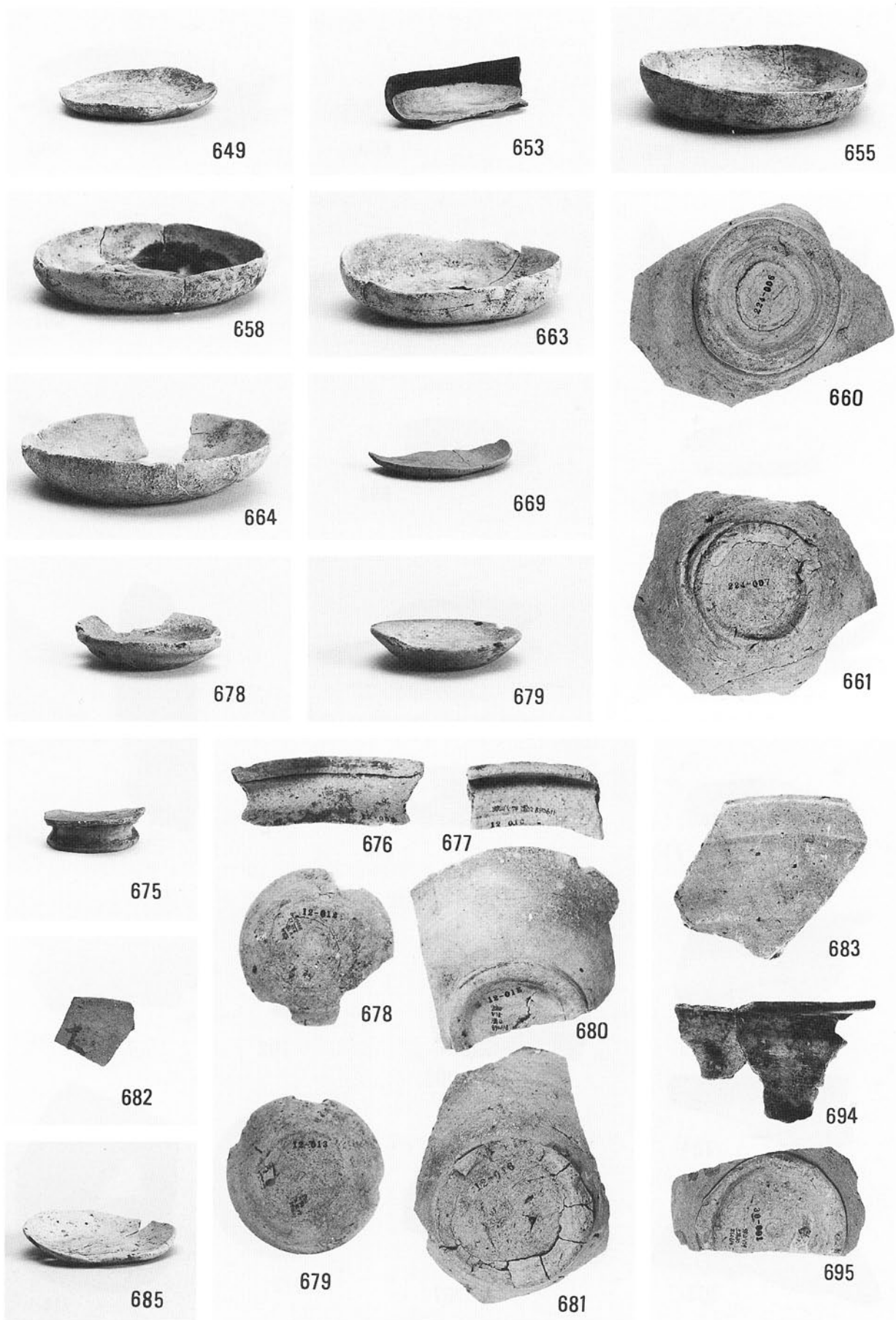
610

612

613

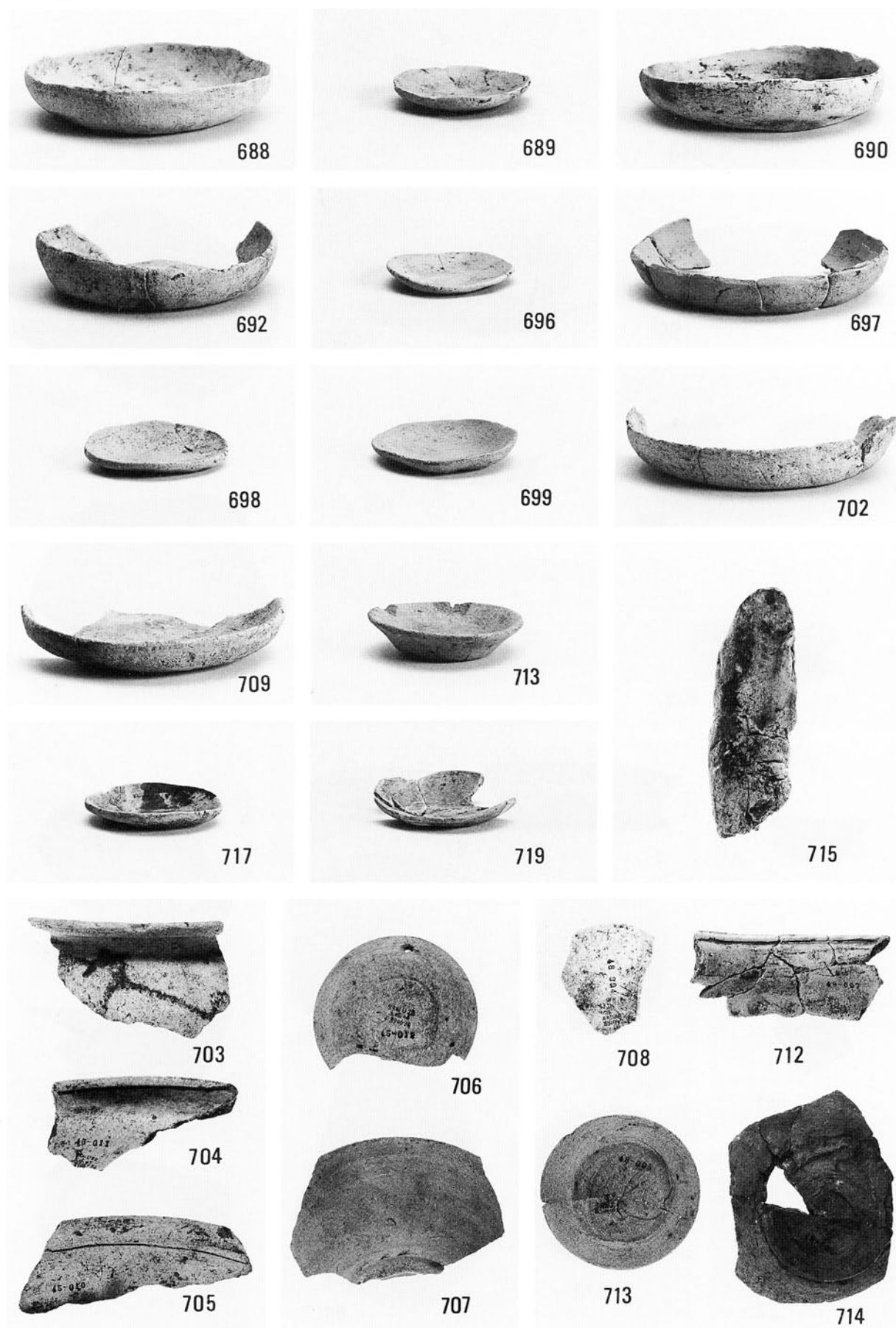




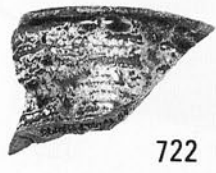


中世墓・土坑出土遺物

图版48



土坑出土遺物



722



773



726



727



778



784



728



735



736



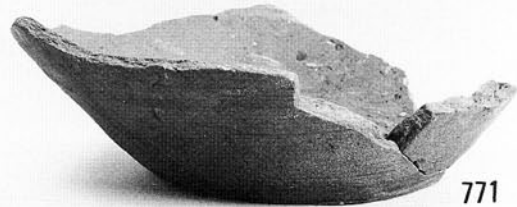
737



785



788



771



721



724



725



730



731



732



733



739



741



742



754

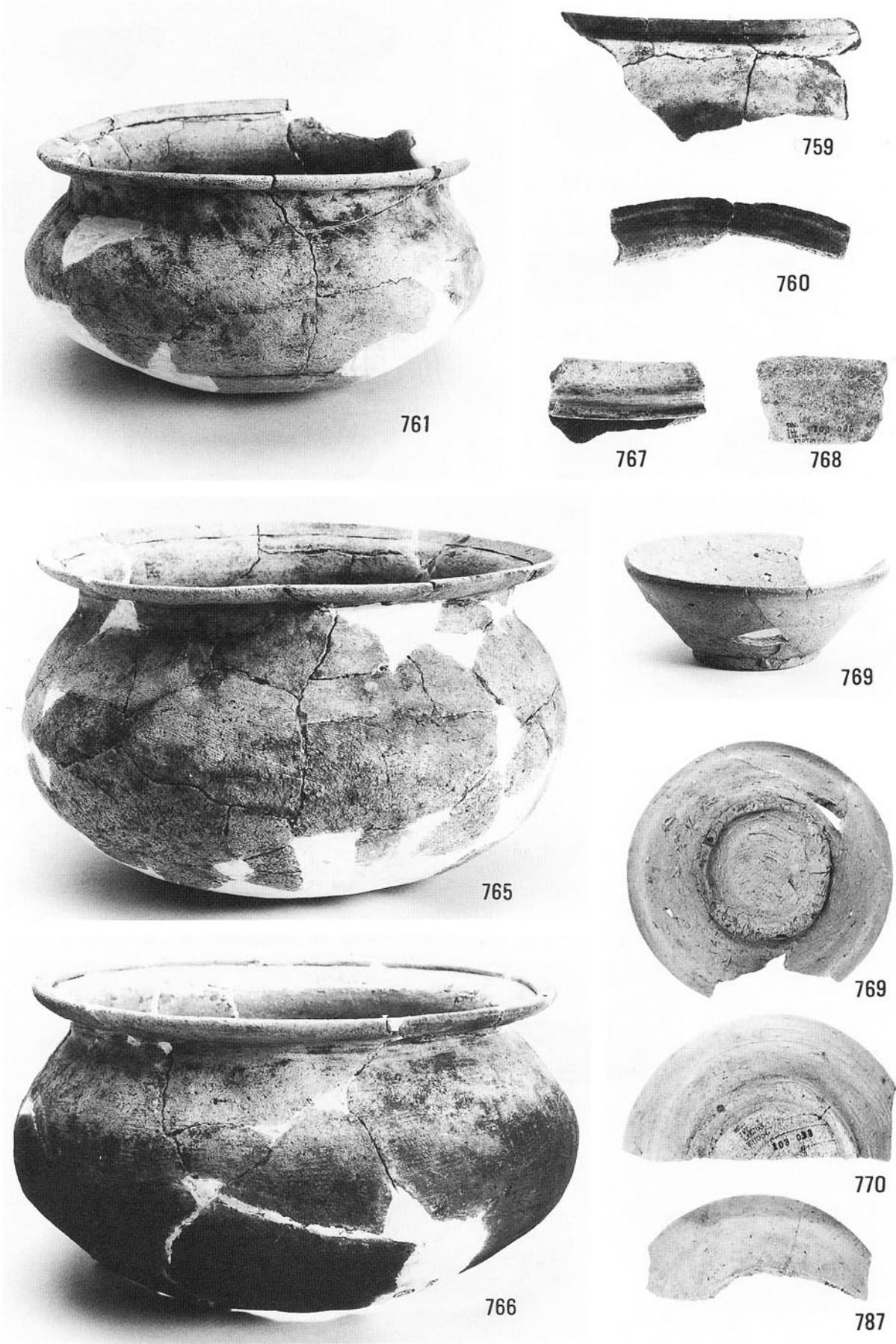


756



758







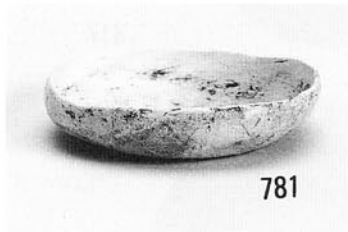
780



774



783



781



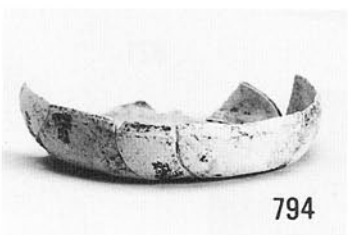
776



790



786



794



795



789



796

797

798

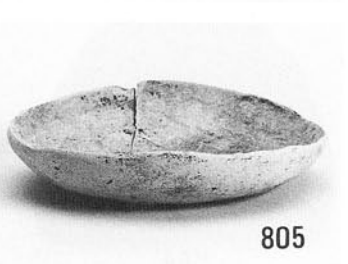


803



799

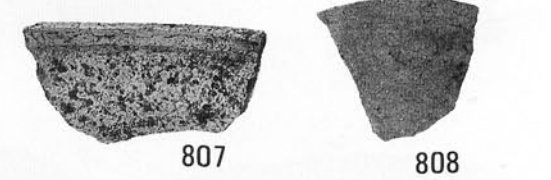
800



805



789



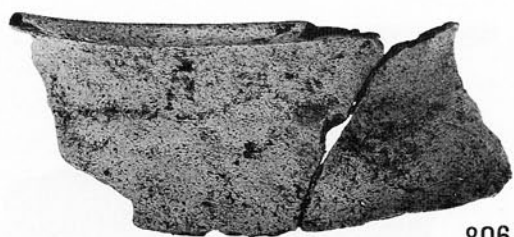
807

808



809

810



806



817



811



812



820



813



819



821



816



822



837



838



841



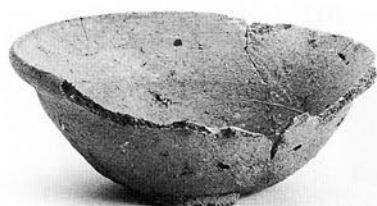
815



818



819



801



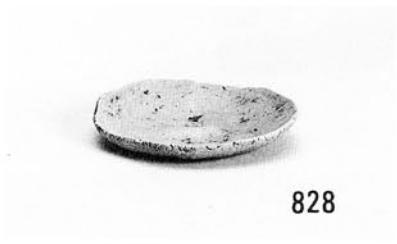
839



844



825



828



832



833



849



859



878



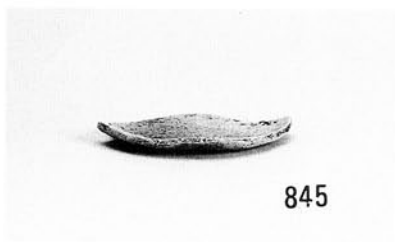
839



840



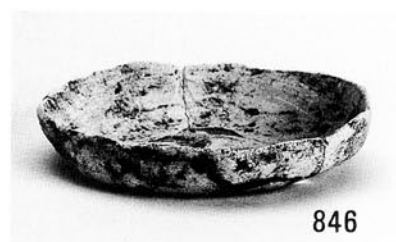
842



845



852



846



855



865



866

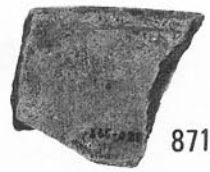
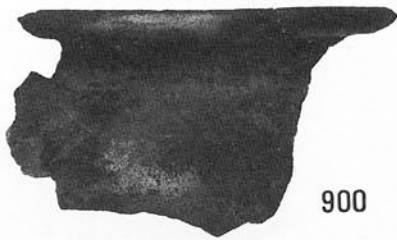
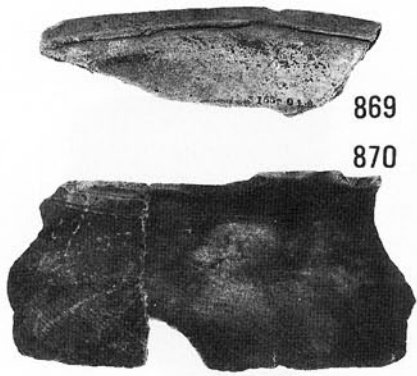


880



881

图版54







884



887



893



895



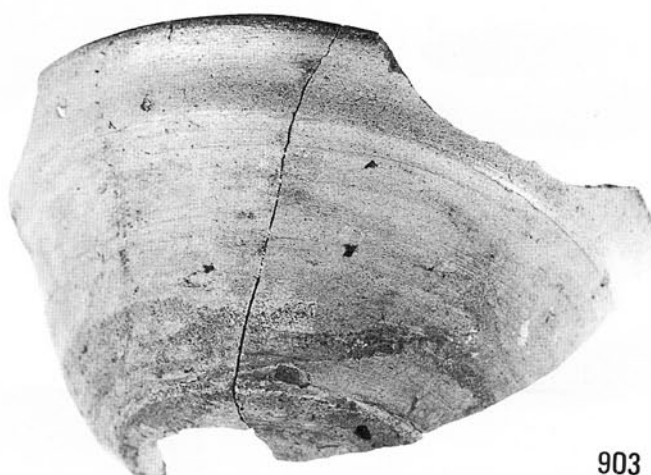
896



897



904



903



905



908



909



929



910



911



914



915



930



919



922



920



921



937



913



917



923



924



931



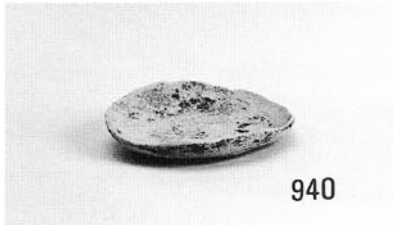
926



939



933



940



941



935



938



916



959



916



969

970

971



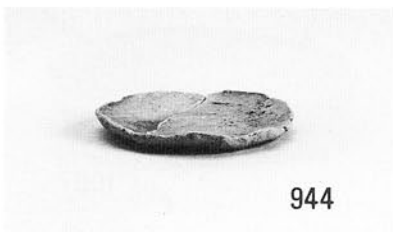
946



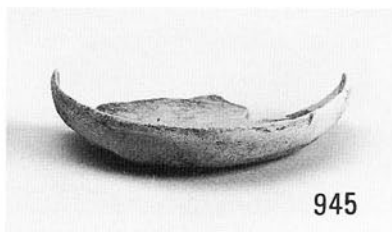
976

977

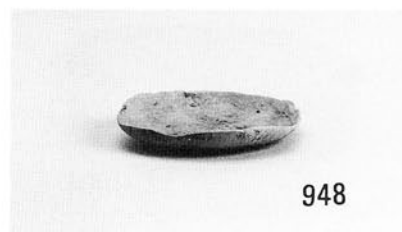
960



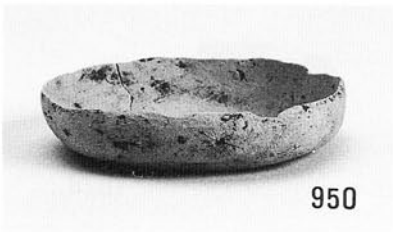
944



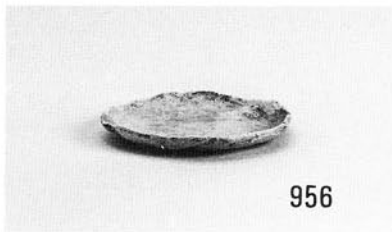
945



948



950



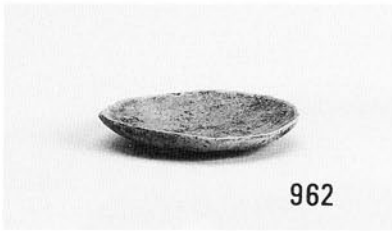
956



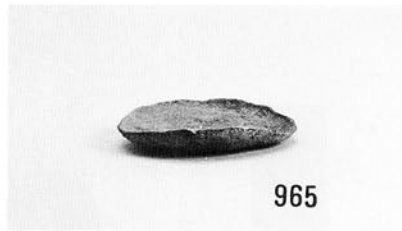
958



961



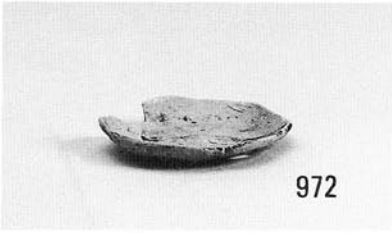
962



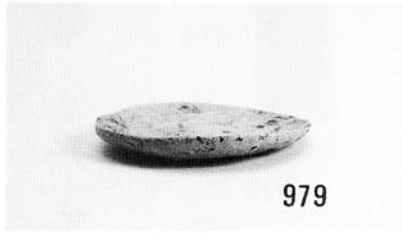
965



967

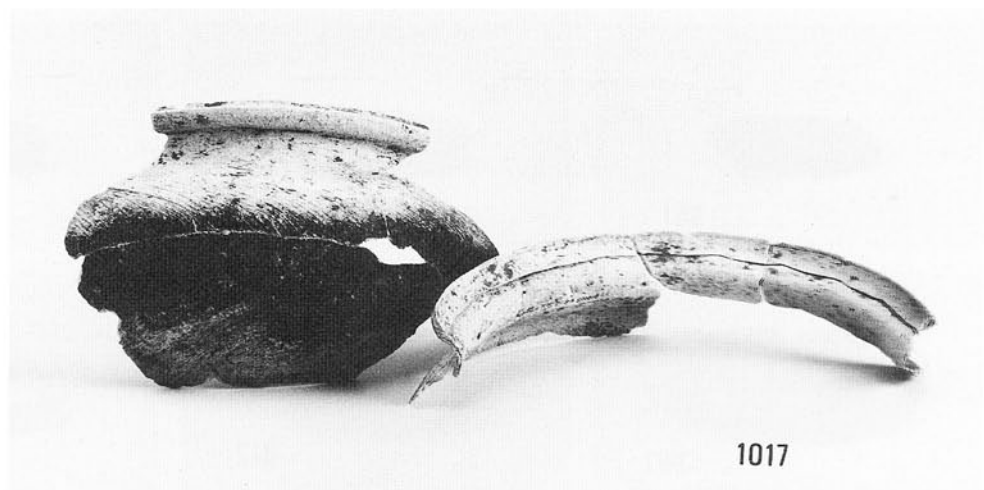
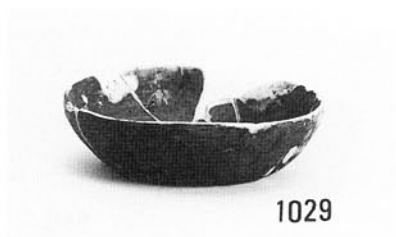
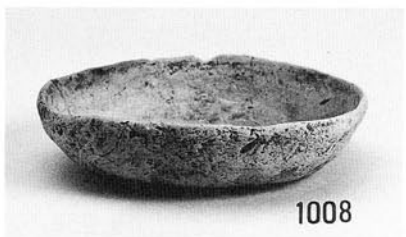
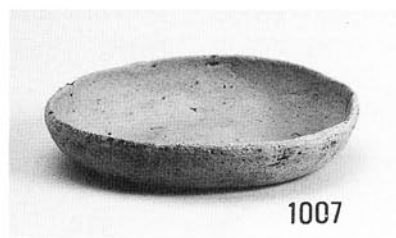
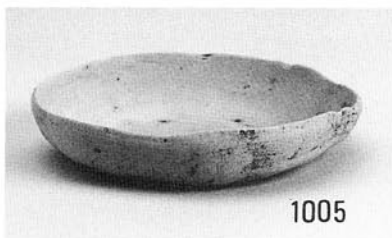
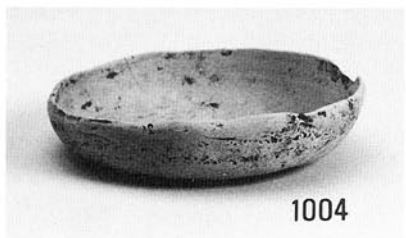
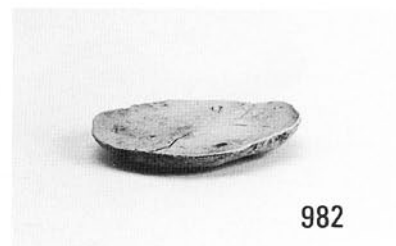


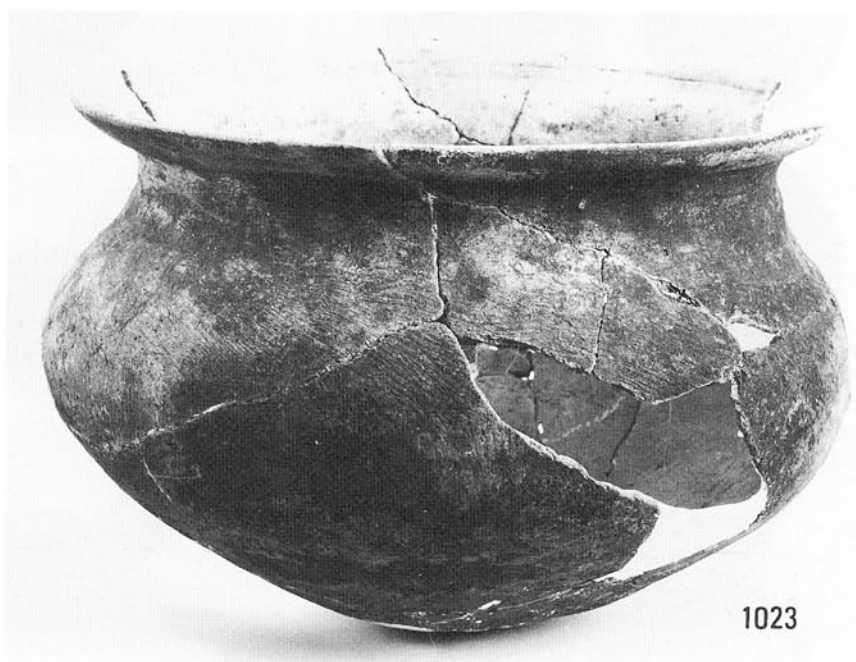
972

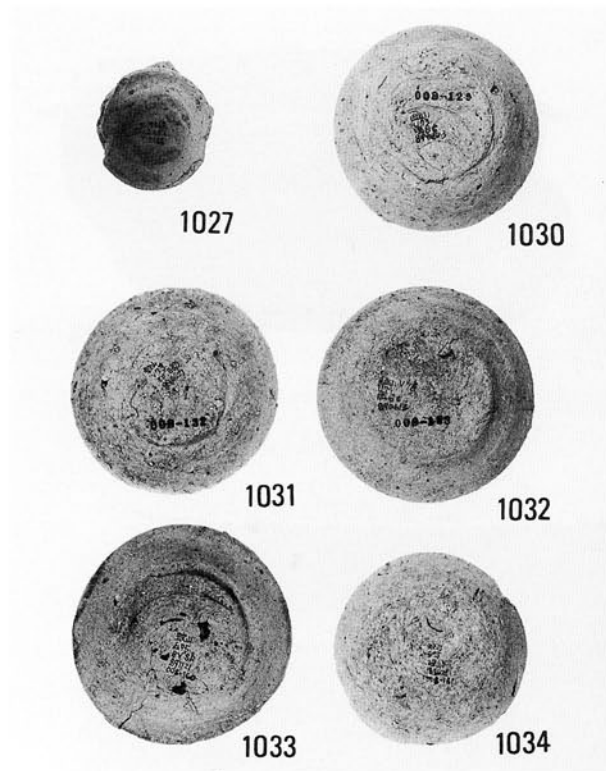


979







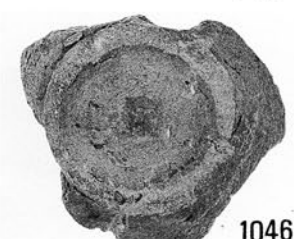




1047



1048



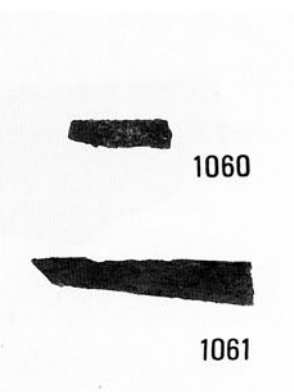
1046



1047



1048



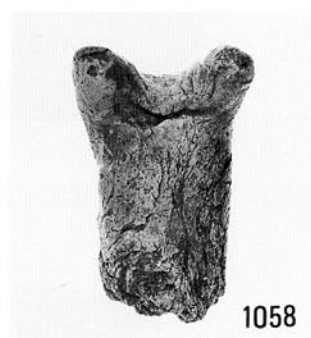
1060

1061



1051

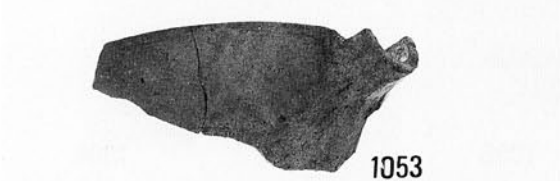
1052



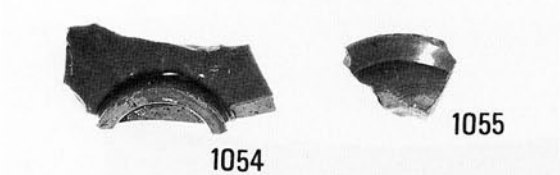
1058



1059



1053

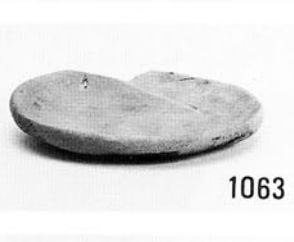


1054

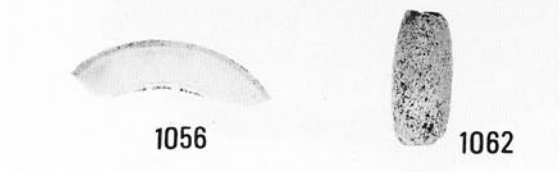
1055



1057

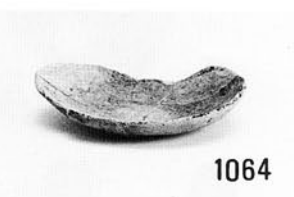


1063



1056

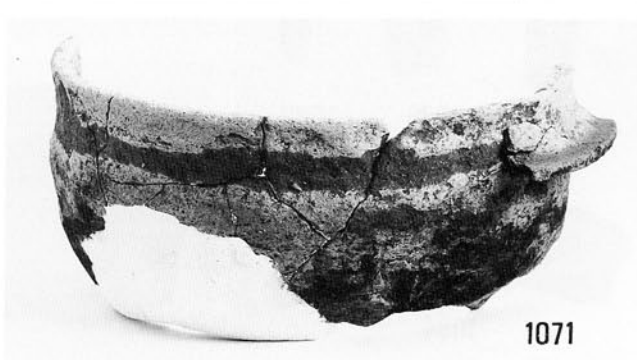
1062



1064



1049

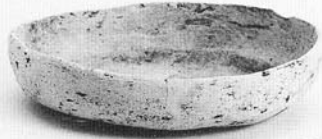


1071

图版62



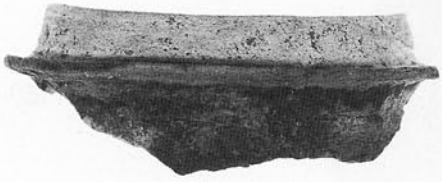
1065



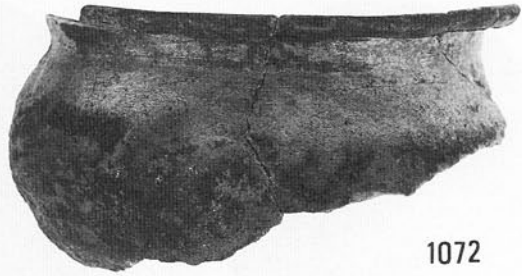
1066



1069



1070



1072



1073



1074



1076



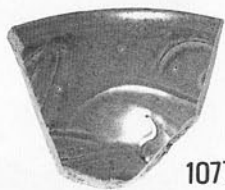
1081



1086



1088



1077



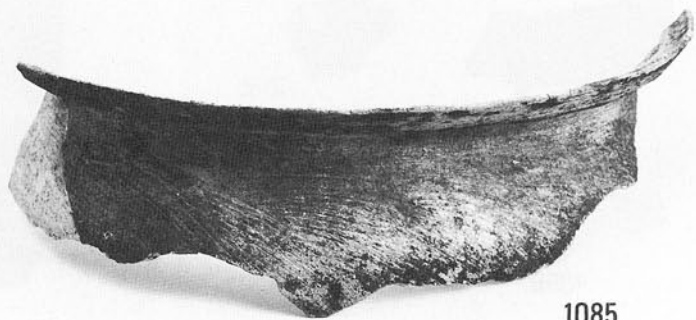
1078



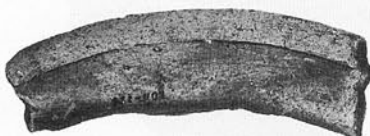
1079



1080



1085



1084



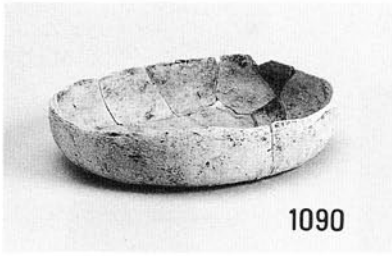
1083



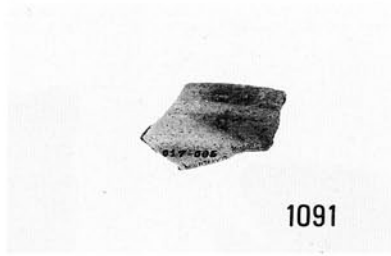
1087

溝出土遺物





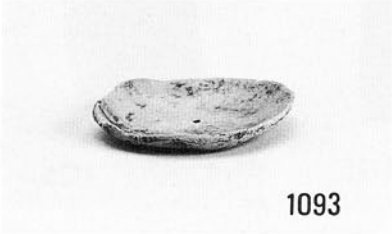
1090



1091



1092



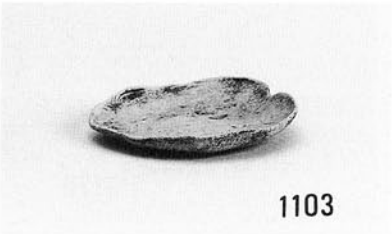
1093



1096



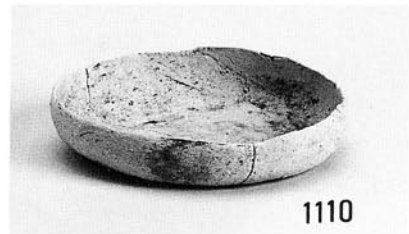
1100



1103



1104



1110



1097

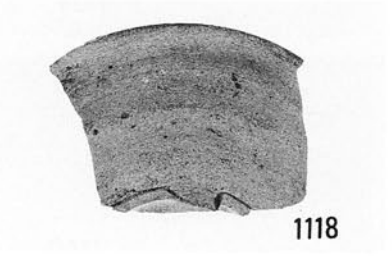


1112

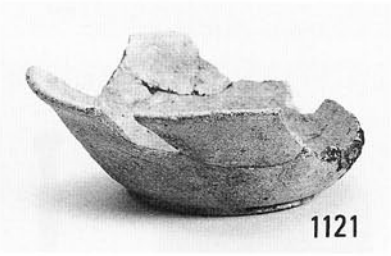


1117

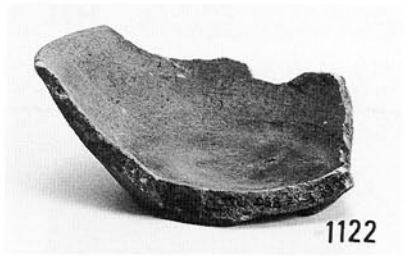
1116



1118



1121



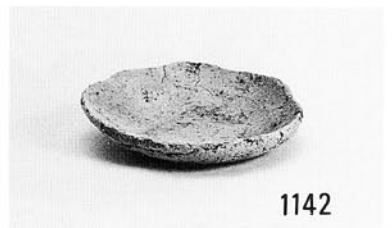
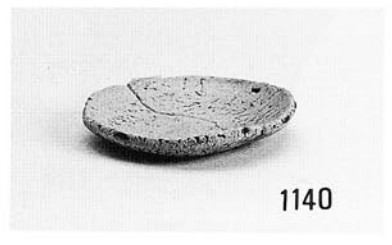
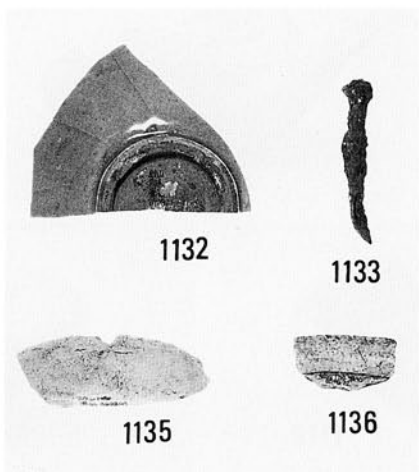
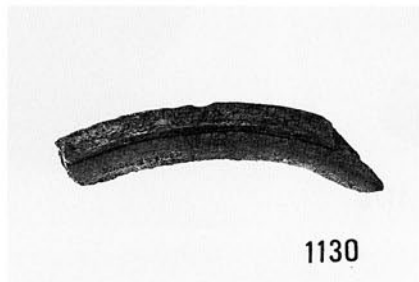
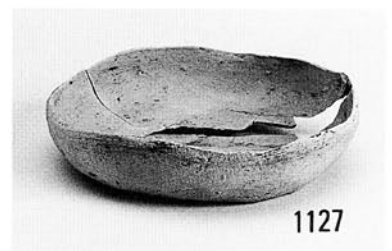
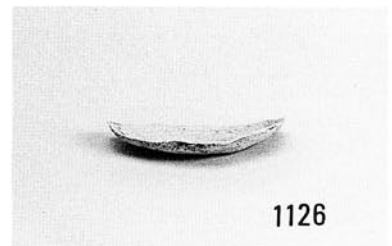
1122

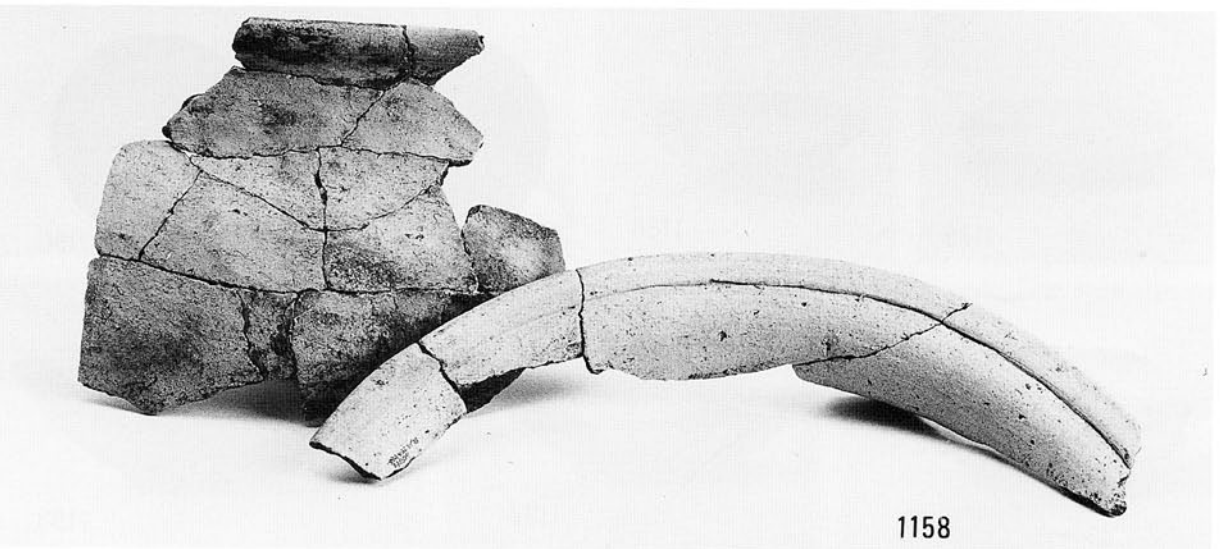
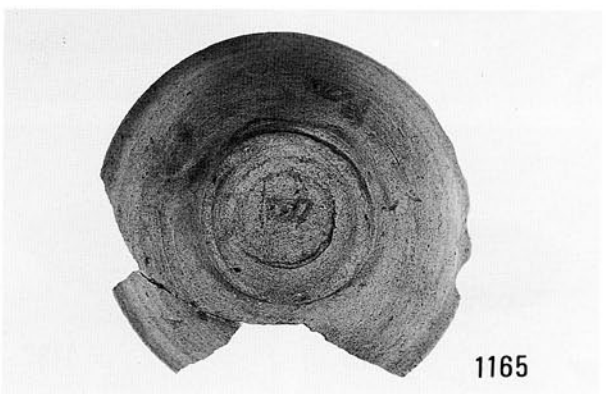
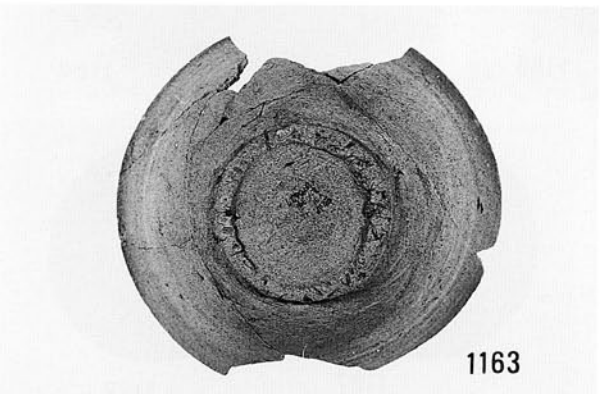
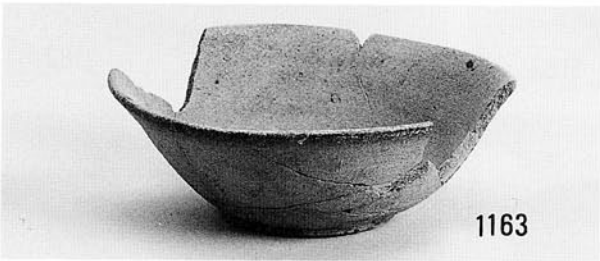
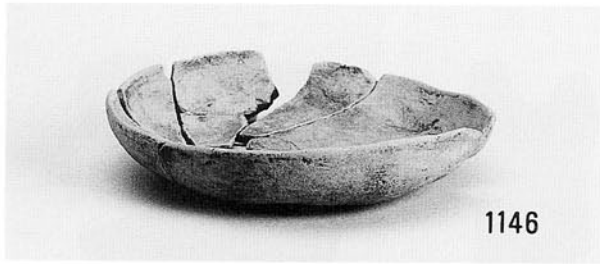


1119

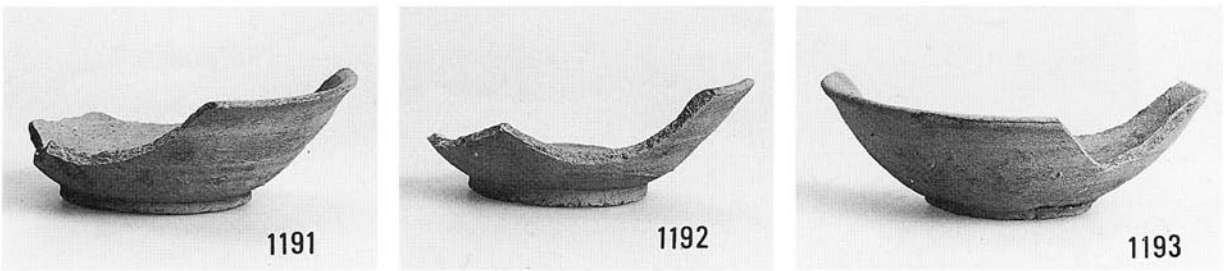
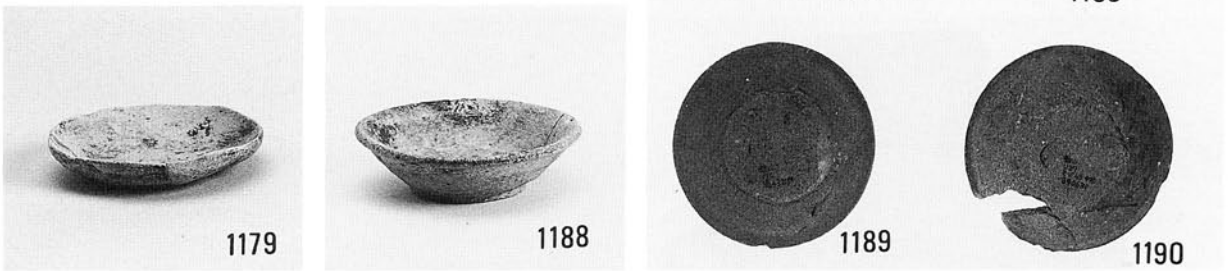
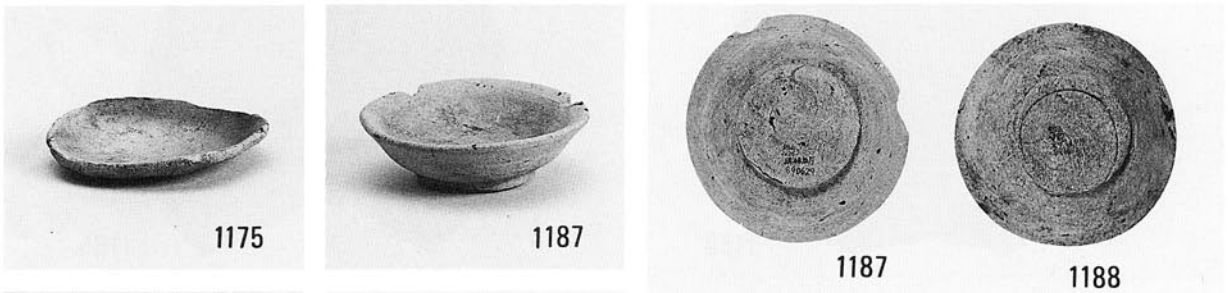
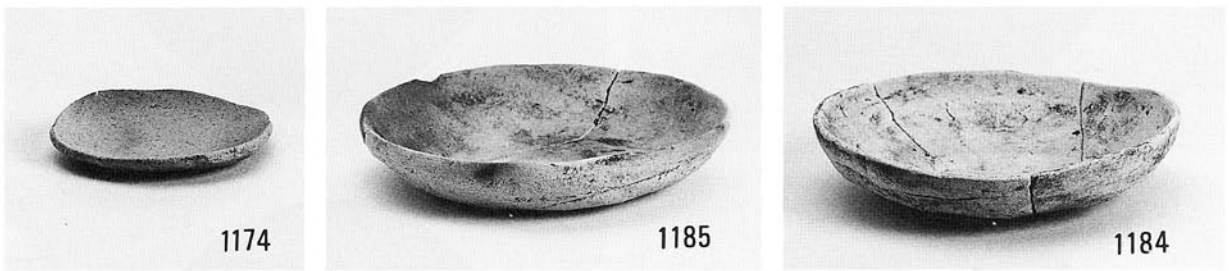
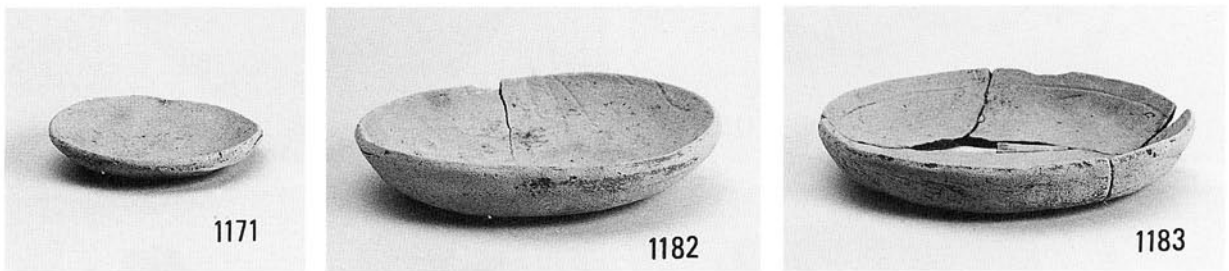
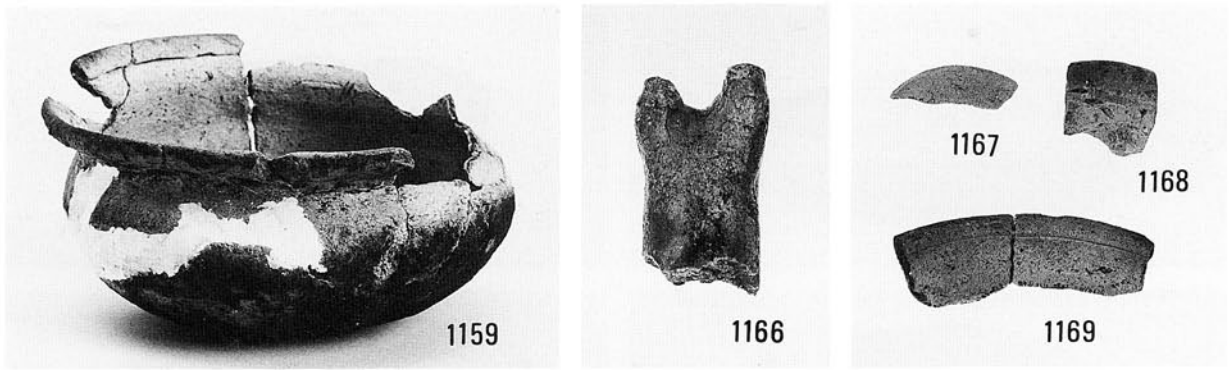


1120







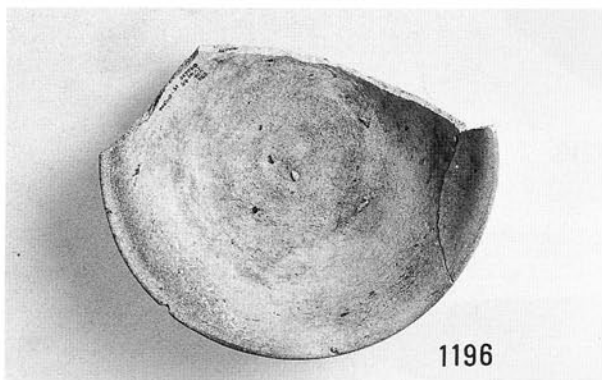




1194



1195



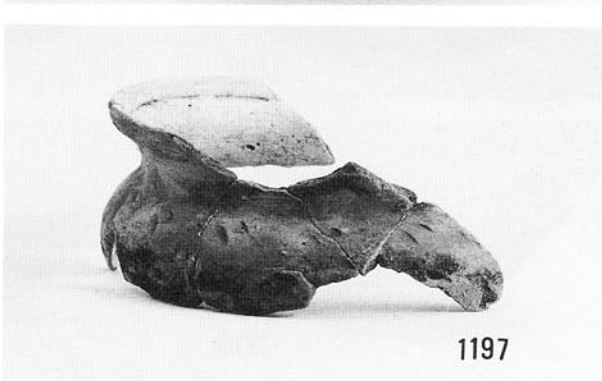
1196



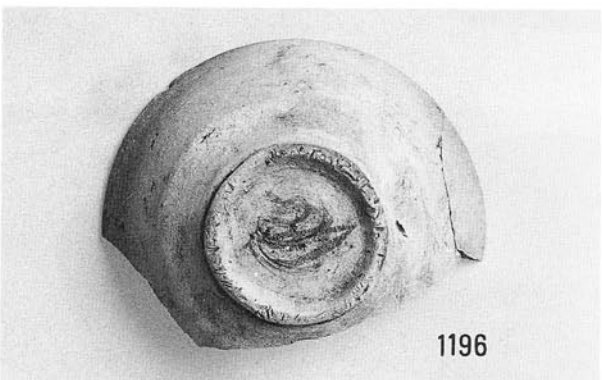
1198



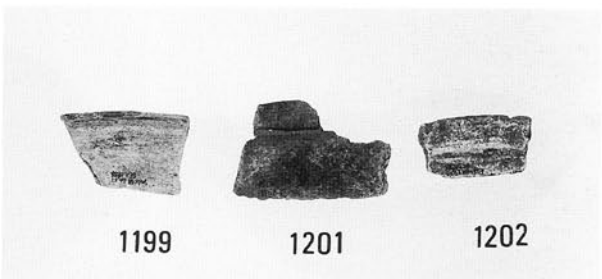
1196



1197



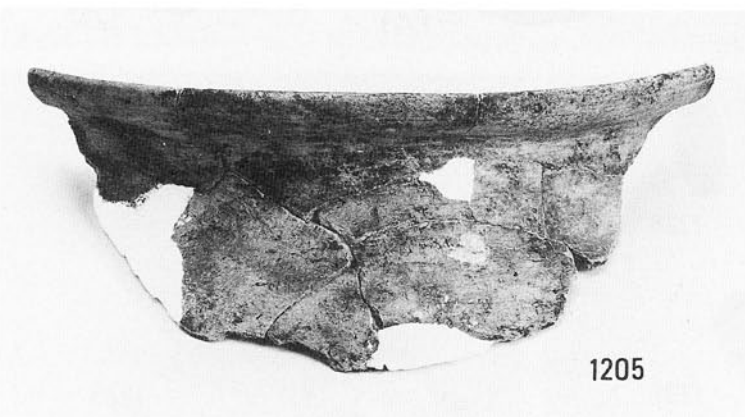
1196



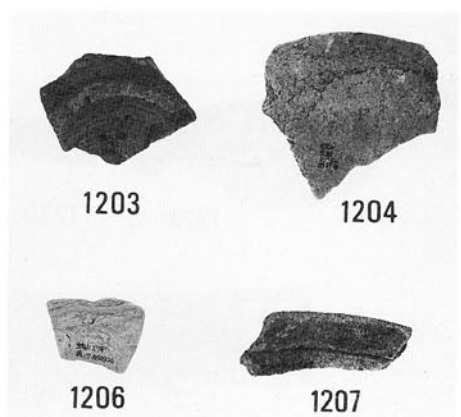
1199

1201

1202



1205

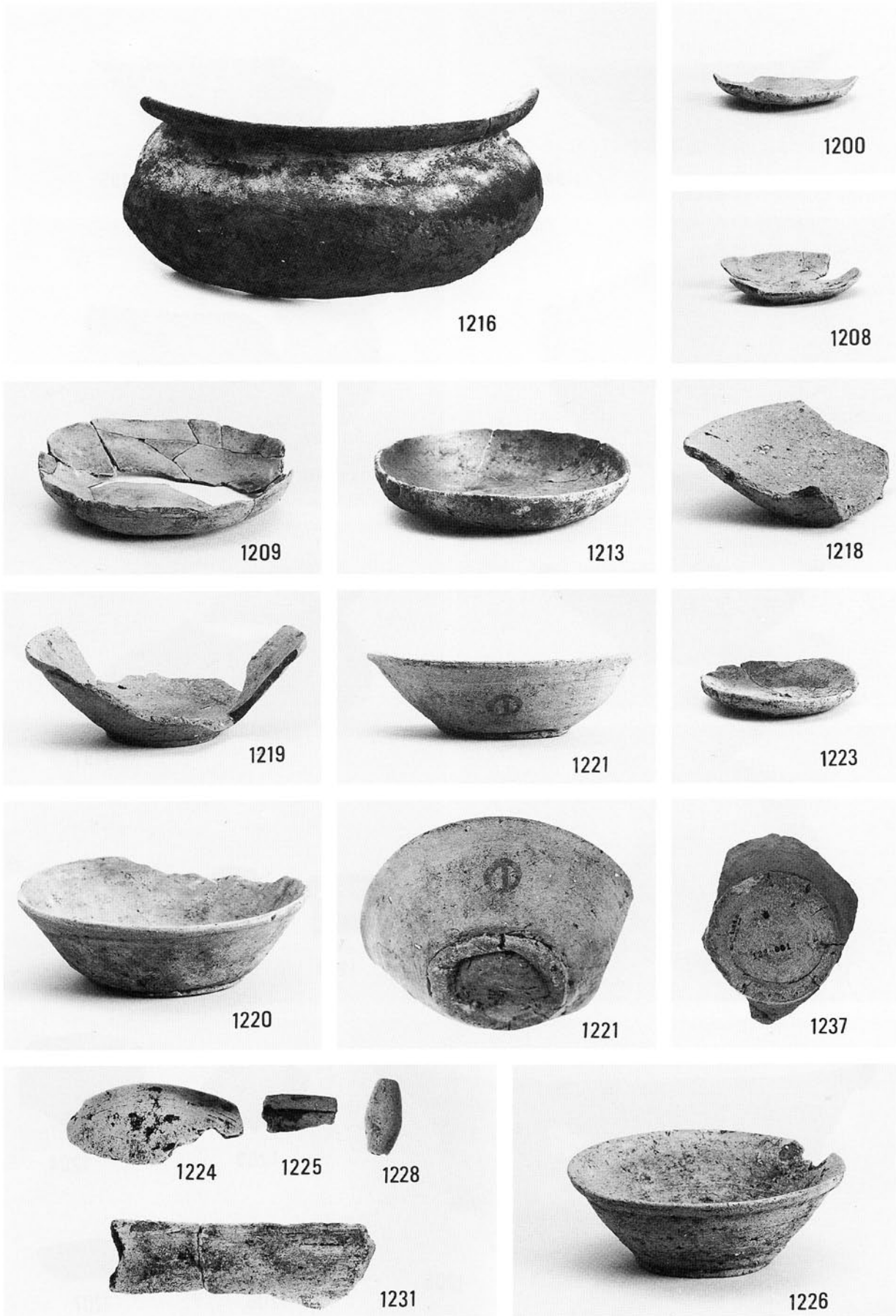


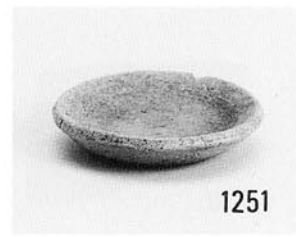
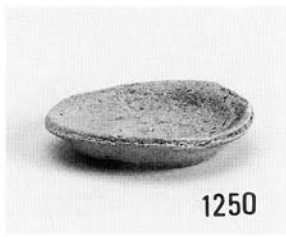
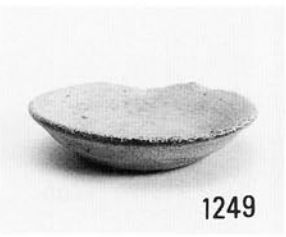
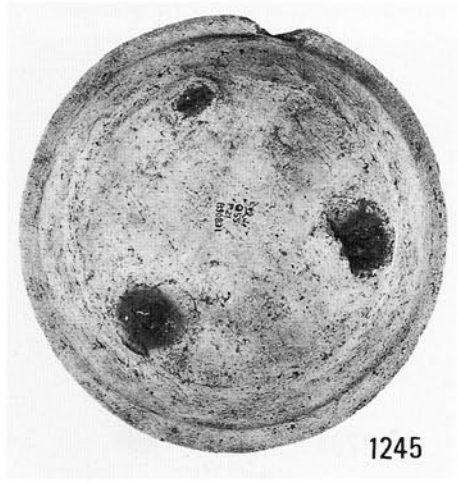
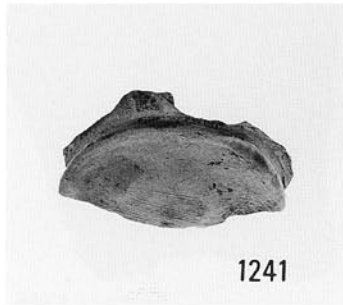
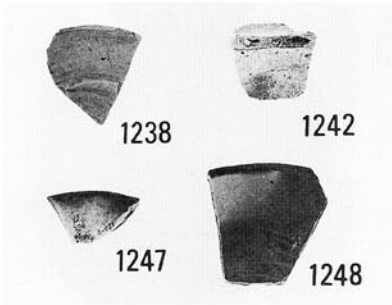
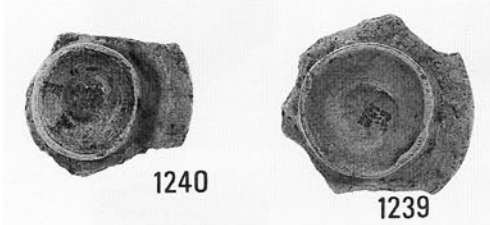
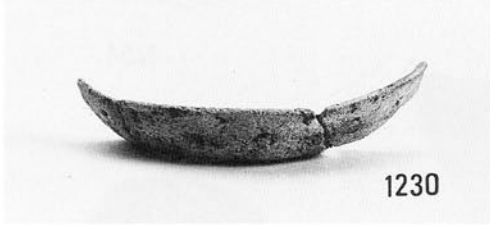
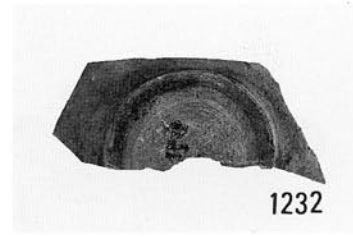
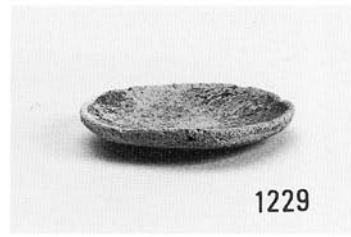
1203

1204

1206

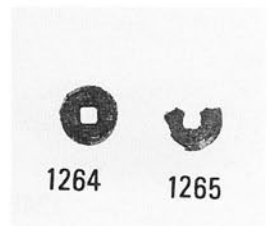
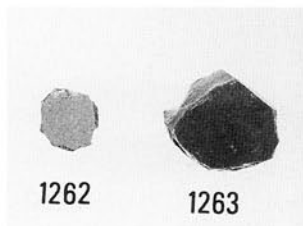
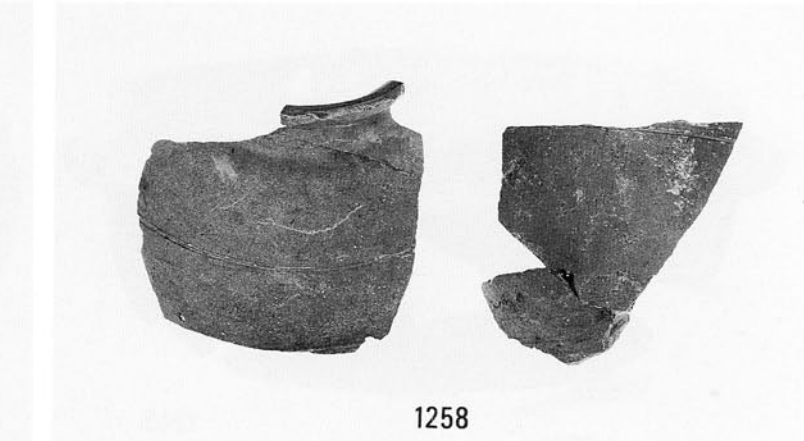
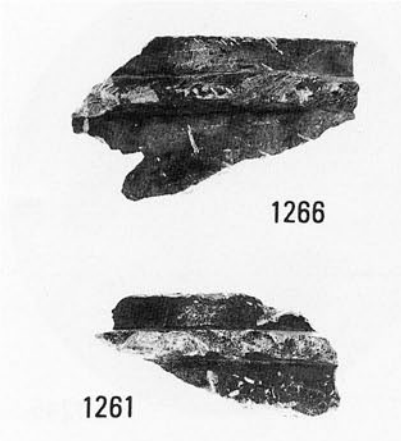
1207







図版70



平成5(1993)年3月に刊行されたものをもとに  
平成19(2007)年1月にデジタル化しました。

---

三重県埋蔵文化財調査報告101-6  
近畿自動車道(勢和～伊勢)  
埋蔵文化財発掘調査報告  
——第6分冊——  
蚊山遺跡左郡地区

1993(平成5)年3月

編集 三重県教育委員会  
発行 三重県埋蔵文化財センター  
印刷 光出版印刷株式会社

---